（様式 2）

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

平成 26 年度～平成 30 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要

1 学校法人名 順天堂 2 大学名 順天堂大学

3 研究組織名 スポートロジーセンター先進的予防医学ユニット

4 プロジェクト所在地 東京都文京区本郷 2－1－1 及び 東京都文京区湯島 2-15-8 順天堂大学湯島別館

5 研究プロジェクト名 骨格筋機能に着目した統合的な介護予防法開発プロジェクト

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
綿田 裕孝	代謝内分泌内科学	教授

8 プロジェクト参加研究者数 136 名

9 該当審査区分 理工・情報 （生物・医歯） 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
綿田 裕孝	大学院医学研究科・代謝内分泌内科学・教授	「骨格筋機能低下」の原因と「臓器障害ネットワーク機構」の統合モデルの作成	研究全体の統括
田村 好史	大学院医学研究科・代謝内分泌内科学・准教授	メタボリックシンドローム・糖尿病・動脈硬化予防における「骨格筋機能低下」の意義と原因の統括	メタボリックシンドローム予防グループの統括
河盛 隆造	大学院医学研究科・代謝内分泌内科学・特任教授	骨格筋の代謝的な機能低下の原因とメカニズムの解明	メタボリックシンドローム・糖尿病予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
代田 浩之	大学院医学研究科・循環器内科学・教授	「骨格筋機能低下」から動脈硬化発症への進展メカニズムの解明	メタボリックシンドローム・動脈硬化症予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
島田 和典	大学院医学研究科・循環器内科学・准教授	「骨格筋機能低下」と心筋細胞内脂質蓄積連関の検討とメカニズムの解明	メタボリックシンドローム・動脈硬化症予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
内藤 久士	大学院・スポーツ健康科学研究科・教授	骨格筋の量的な骨格筋機能低下メカニズムの解明	メタボリックシンドローム・動脈硬化症予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
青木 茂樹	大学院医学研究科・放射線医学・教授	脳の形態・機能障害における「骨格筋機能低下」の意義と原因の統括	脳機能障害グループの統括
服部 信孝	大学院医学研究科・神経学・教授	「骨格筋機能低下」と脳の形態・機能低下連関の検討とメカニズムの解明	認知機能障害・神経疾患予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
本井 ゆみ子	大学院医学研究科・認知症診断・予防・治療学・特任教授	「骨格筋機能低下」と脳の形態・機能低下連関の検討とメカニズムの解明	認知機能障害・神経疾患予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
小西 清貴	大学院医学研究科・神経生理学・教授	「骨格筋機能低下」と脳の形態・機能低下連関の検討とメカニズムの解明	認知機能障害・神経疾患予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

宇賀　貴紀	大学院医学研究科・神経生理学・先任准教授	「骨格筋機能低下」と脳の形態・機能低下連関の検討とメカニズムの解明	認知機能障害・神経疾患予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
金子　和夫	大学院医学研究科・整形外科・運動器医学・教授	骨代謝機能低下における「骨格筋機能低下」の意義と原因の統括	ロコモティブ症候群予防グループの統括
石島　旨章	大学院医学研究科・整形外科・運動器医学・准教授	「骨格筋機能低下」と骨代謝機能低下連関の検討とメカニズムの解明	ロコモティブ症候群・運動器障害予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
上野　隆	大学院医学研究科・研究基盤センター・教授	「骨格筋機能低下」から疾患発症を結ぶバイオマーカーの探索	バイオマーカーグループの統括
三井田　孝	大学院医学研究科・臨床検査医学・教授	「骨格筋機能低下」から疾患発症を結ぶバイオマーカーの探索	「骨格筋機能低下」から「臓器障害ネットワーク機構」まで関わる液性因子の解明
平山　哲	大学院医学研究科・臨床検査医学・准教授	「骨格筋機能低下」から疾患発症を結ぶバイオマーカーの探索	「骨格筋機能低下」から「臓器障害ネットワーク機構」まで関わる液性因子の解明
（共同研究機関等）			
前田　士郎	理化学研究所・ゲノム医科学研究センター・内分泌・代謝疾患研究チーム・チームリーダー	データベースのバイオインフォマティクス解析	「骨格筋機能低下」から「臓器障害ネットワーク機構」のモデル作成
山内　敏正	東京大学大学院医学系研究科 統合的分子代謝疾患科学講座 ・教授	myokine による多臓器連関ネットワークの解明	メタボリックシンドローム・糖尿病予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
北澤　茂	大阪大学大学院・生命機能研究科・教授	「骨格筋機能低下」と脳の形態・機能低下連関の検討とメカニズムの解明	認知機能障害・神経疾患予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
岩坪　威	東京大学大学院医学系研究科 神経病理学分野・教授	「骨格筋機能低下」と脳の形態・機能低下連関の検討とメカニズムの解明	認知機能障害・神経疾患予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明
宇川　義一	福島県立医大　神経内科　教授	「骨格筋機能低下」と脳の形態・機能低下連関の検討とメカニズムの解明	認知機能障害・神経疾患予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明

＜研究者の変更状況（研究代表者を含む）＞

旧

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
データベースのバイオインフォマティクス解析	理化学研究所・ゲノム医科学研究センター・内分泌・代謝疾患研究チーム・チームリーダー	前田　士郎	「骨格筋機能低下」から「臓器障害ネットワーク機構」のモデル作成

（変更の時期：平成 26 年　8 月　1 日）

新

変更前の所属・職名	変更（就任）後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
理化学研究所・ゲノム医科学研究センター・内分泌・代謝疾患研究チーム・チームリーダー	琉球大学　先進ゲノム検査医学講座・教授 理化学研究所・ゲノム医科学研究センター・内分泌・代謝疾患研究チーム・チームリーダー	前田　士郎	「骨格筋機能低下」から「臓器障害ネットワーク機構」のモデル作成

旧

（様式 2）

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

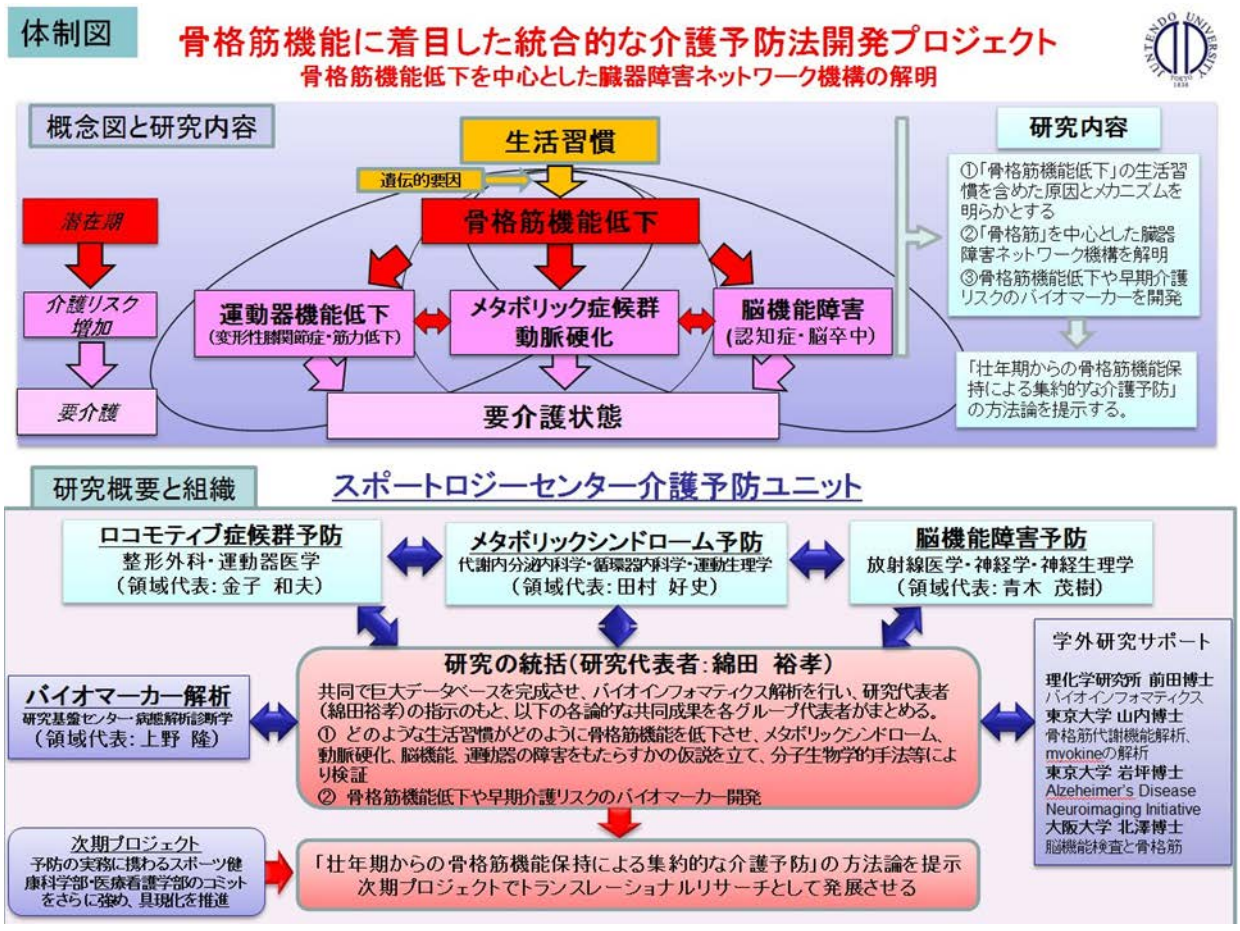
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
「骨格筋機能低下」と脳の形態・機能低下連関の検討とメカニズムの解明	大学院医学研究科 ・神経生理学・先任准教授	宇賀　貴紀	認知機能障害・神経疾患予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明

（変更の時期：平成 28 年　7 月　1 日）

新

変更前の所属・職名	変更（就任）後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
順天堂大学大学院医学研究科 ・神経生理学・先任准教授	山梨大学大学院医学工学総合研究部 医学部 生理学講座統合生理学教室・教授	宇賀　貴紀	認知機能障害・神経疾患予防における「骨格筋機能低下」の意義の解明

体制図



法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

11 研究の概要（※ 項目全体を10枚以内で作成）

（1）研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

日本は今後、今まで経験したことのない超高齢化社会を迎え、2025 年には「要介護者」が 700 万人、介護費用は 21 兆円に達すると見込まれている。これに伴う社会保障費の爆発的な増加と、労働人口の減少は、我が国の経済・社会に危機的影響を与えることが予想され、「要介護者」を減らす取り組みが急務となっている。この問題を打開するには介護対策をリハビリテーションによる三次予防から、一次予防へシフトさせることが重要であるが、介護の原因疾患は運動器機能の低下から脳卒中・認知症などの脳機能障害まで多岐に渡っており、集約した一次予防法は未だ提示されていない。我々は本事業開始前から、ハイテクリサーチセンター整備事業の補助を受け医学とスポーツ・運動の融合研究基盤を形成し、コアスタディーとして健常者からメタボリックシンドロームまで 30～50 歳の 152 名を対象に、大腿四頭筋生検サンプル解析を含め骨格筋機能を「筋力・有酸素代謝能・糖脂質代謝能」に細分化し計測すると伴に、脳 MRI、骨・軟骨機能マーカー、動脈硬化等を測定した。得られたパラメーターからデータベースを構築し解析した。その結果、壮年期の無症状者でも軽度の「骨格筋機能低下」がメタボリックシンドロームの主因となっているだけでなく、介護リスクの初期変化と考えられる「脳白質ネットワーク変性」「膝関節軟骨の摩耗」「動脈硬化進展」と相関する可能性を見出した。このことは、壮年期からの骨格筋機能低下は要介護者を包括的に減らすための治療標的である可能性を示唆した。そこで、本プロジェクトでは上記の探索的研究で得られた研究成果を原資とし、「運動器の一部」としてのみ捉えられがちな「骨格筋機能」低下が、「心血管・脳・関節」機能障害による介護リスクを高める臓器障害ネットワークの中心として捉え、その検証のため基礎・臨床研究を行うことを計画した。これらの研究成果は、「壮年期からの骨格筋機能保持による集約的な介護予防」の方法論確立の基盤となるエビデンスを提示し、日本人の健康寿命の延長に役立つものと考えられる（体制図参照）。

（2）研究組織

本プロジェクトでは集約的な介護予防法を提示するために、骨格筋機能を中心に疾患群を統合的に研究する体制を構築している。具体的にはメタボリックシンドローム（代謝内分泌学、循環器内科学、運動生理学）、脳機能障害（放射線医学・神経学・神経生理学）、ロコモティブシンドローム（整形外科・運動器医学）の各疾患チームと、バイオマーカー(研究基盤センター、病態解析診断学)の研究分担者(16 名)からなる基礎・臨床・専門分野の枠を越えた各研究者間の相互連携を図っている(体制図参照)。疾患別の結果については各領域代表が纏め、最終的に研究代表者（綿田）が全体を統括している。コアスタディーについて専属のコーディネーターを中心に PD・研究支援者が被験者のリクルート、測定、データマネージメントまで一括管理している他、若手研究者の底上げのために、本研究を実質的に進める PD（13 名）、RA(2 名)、研究支援者（2 名）の研究チームに大学院生も加わり研究を推進している。さらに、同様の研究で極めて多くの実績のある理化学研究所、東京大学、大阪大学の研究協力者と連携し研究を推進している。

（3）研究施設・設備等

1. 主な研究施設の面積及び使用者数
順天堂大学大学院医学研究科スポートロジーセンター
研究施設内訳
順天堂大学湯島別館 1 階 ： 面積 140.32m2 ： 使用者数 23 名
順天堂大学湯島別館 2 階 ： 面積 175.56m2 ： 使用者数 17 名
順天堂大学 9 号館 2 階, 5 階, 8 階, 11 階 ： 総面積 379.69m² ： 使用者数 105 名
順天堂大学 B 棟 8 階 ： 面積 479.85m² ： 使用者数 18 名
順天堂大学 1 号館 3 階 ： 面積 9.8m2 ： 使用者数 20 名

2. 研究装置及び利用時間
MRI システム（AIRIS Vento）; 利用時間数 5840 時間
ヒューマンカロリーメーターチャンバーシステム（FHC-20S）; 利用時間数 992 時間

3. 研究設備及び利用時間
頚頭蓋磁気刺激装置（アグスキム200スクエアー）; 利用時間数 775 時間

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

リアルタイム PCR システム（QuantStudio 7）; 利用時間数 672 時間
二重エネルギーX 線吸収測定装置（DiscoveryA 型 X 線骨密度測定装置）; 利用時間数 3016 時間
多用途筋機能評価運動装置（BDX-4）; 利用時間数 3580 時間

（4）研究成果の概要　※下記、13及び14に対応する成果には下線及び＊を付すこと。

＜現在までの進捗状況及び達成度＞（研究全体の統括：綿田）

本プロジェクトの基盤研究の目的は骨格筋機能と要介護疾患との関連性を詳細に解析することである。そのために、未病者を対象にインスリン抵抗性や筋力を精密に評価した既存のデータベースを原資とし、さらにその 3 年後に追跡調査を行い、骨格筋機能の経時的変化を評価しながら、骨格筋機能と「メタボリックシンドローム」「ロコモティブシンドローム」「脳機能障害」との関連に関して検討している。また、すでに疾患として発症した 2 型糖尿病、心血管疾患患者、変形性膝関節症や高齢者を対象とした横断研究、縦断研究を推進した。さらに、関連性が示された因子の因果関係などについては、基礎研究などにより検証を行った。その結果、筋力や骨格筋インスリン抵抗性で評価される骨格筋機能低下が血管・脳・関節不全による介護リスクを高める臓器障害ネットワークの中心である仮説を支持する結果が多数得られた。さらに、これらの壮年期の骨格筋機能低下が高齢者における様々な要介護リスクになりえるかは明らかではないため、3 年目から文京区民を対象とした高齢者コホート研究（文京ヘルススタディー）を開始し、コアスタディーと同様に、筋力・筋量・骨格筋インスリン抵抗性を評価するとともに、脳及び膝関節 MRI、認知機能などの測定を行い、パラメーター間の関連性を調査した。その結果、高齢者コホートにおいても骨格筋機能低下が要介護疾患リスクの増加と関連することが明らかとなってきた。これらの壮年期から高齢者までを合わせた研究結果から、「骨格筋機能の低下は血管・脳・関節不全による介護リスクを高める臓器障害ネットワークの中心である」、という仮説を裏付ける多数の基礎的なエビデンスが得られた。以下、申請書記載の「メタボリックシンドローム予防」「ロコモティブシンドローム予防」「脳機能障害予防」の 3 項目と、それらを包括した高齢者コホート研究である「文京ヘルススタディー」に分けて進捗状況と研究成果を報告する。

① 「メタボリックシンドローム予防 （田村（統括者）、河盛、代田、島田、内藤、上野、三井田、平山）」

骨格筋機能の低下の一つであるインスリン抵抗性は、2 型糖尿病・メタボリックシンドローム・動脈硬化症進展の根本的原因として認識され、要介護疾患発症のリスクとなる。本戦略的研究基盤においては、インスリン抵抗性を精密に評価した既存のコアスタディー・データベースを原資とし、さらに 3 年後の追跡調査や、すでに疾患として発症した 2 型糖尿病、心血管疾患患者や高齢者を対象とした横断研究、縦断研究を進めた。その結果、骨格筋インスリン抵抗性が生じるメカニズムとして、運動不足、高脂肪食といった生活習慣を元にして、リピッドスピルオーバー、インスリンクリアランスの低下、異所性脂肪の蓄積が生じ、これらがお互いに連関して骨格筋インスリン抵抗性を複合的に増悪させる可能性が示された。また、骨格筋量が少ないことが血糖上昇と関連していることも明らかとなった（下記 A）。さらに、ヒトや動物、細胞モデルを用いた介入研究を含むメカニズム解析を行い、種々の因果関係に関する多くの成果を得た（下記 B）。これらのことにより、骨格筋インスリン抵抗性や骨格筋量の減少は将来要介護のリスクを増加さるメタボリックシンドロームや糖尿病の病態の中心となっていることがより明確となり、運動などによりそれらを改善する必要性が示唆された。

A. コアスタディー・データベースを中心とした解析

1) BMI が 23~25kg/m^{2}でメタボリックシンドローム構成因子を 1 つでも持っていると骨格筋のインスリン抵抗性を認め、そのレベルは肥満メタボリックシンドロームと同等であった。骨格筋のインスリン抵抗性は内臓脂肪が多いこと、血中アディポネクチン濃度が低いことに加えて、体力が低い、生

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

活活動量が低い、脂肪摂取量が多いなどの生活習慣に関連した因子が挙げられた(*15)。また、骨格筋生検サンプルや血清を用いた含有脂質や代謝産物の網羅的な解析から、幾つかの脂質やその構成要素でもある中性脂肪の分解産物である遊離 glycerol が骨格筋インスリン抵抗性や動脈硬化症、内臓脂肪蓄積と関連することを解明した（論文投稿準備中）。

2) 以前より内臓脂肪が骨格筋インスリン抵抗性の良いマーカーであることが示唆されて来たが、非肥満 2 型糖尿病において脂肪肝や肝機能の上昇が骨格筋の良いマーカーであること(*27)、またコアスタディーの解析から、脂肪肝が内臓脂肪よりも骨格筋インスリン抵抗性を予測する良いマーカーであることが明らかとなった (*53)。さらに肝インスリン抵抗性は飲酒が惹起することを見出した(*16)。その一方で、体力の指標である最大酸素摂取量は内臓脂肪量と負の相関を示し(*28)、25 項目の質問票である基本チェックリストは、心血管疾患患者においてフレイルやプレフレイルの診断に有用であるだけでなく、そのスコアは、心肺運動負荷試験により得られる運動耐容能を予測する因子であることが明らかとなった (*36)。

3) 肥満が骨格筋や肝臓のインスリン抵抗性を惹起するメカニズムとして、肥満により脂質が脂肪組織より遊離脂肪酸として漏れ出し（リピッドスピルオーバー）、異所性脂肪が蓄積（脂肪肝・脂肪筋）することが示されて来た。この点に関して、コアスタディーに登録された正常体重で健常の男性の解析により、そのような者でもリピッドスピルオーバーを来している者がおり、軽度の骨格筋インスリン抵抗性や肝脂肪蓄積の原因となっている可能性を明らかとした(*33)。

4) 肥満者ではインスリン抵抗性が生じると、その代償機構としてインスリンクリアランスの低下が生じ、末梢の高インスリン血症が生じることが明らかとされてきた。コアスタディーに登録された正常体重で健常の男性の解析により、そのような者でもインスリンクリアランス低下を来している者がおり、軽度の骨格筋インスリン抵抗性を完全に代償していることが明らかとなった (*23)。

5) コアスタディーの 3 年後フォローアップの結果から、骨格筋インスリン抵抗性や、インスリンクリアランス低下が、将来的な耐糖能や動脈硬化を増悪させる可能性、中性脂肪値が将来的な脂肪肝の発症予知因子である可能性を見出した（論文執筆中）。

6) 我が国では痩せた女性が増えているが、そのような女性では転倒・骨折だけでなく糖尿病のリスクが高いことが知られている。痩せた女性で糖負荷後高血糖をきたし易い人ほど、骨格筋細胞内脂質の蓄積と骨格筋量低下が認められ、それが痩せた女性で糖尿病を発症しやすい原因である可能性が示唆された(*30)

7) 高感度 CRP の上昇で評価される軽度の炎症反応は、骨格筋インスリン抵抗性と関連するとともに(*15, *27)、経皮的冠動脈形成術後の長期予後の規定因子であることを明らかとした(*10)。さらに、急性冠症候群患者において、TNF-α, IL-6, IL-10 といったよく知られた炎症性サイトカインのみならず(*8)、IL-23, IL-27, IL-33, IL-37 等の新規サイトカインの血中濃度が増加していること(*7)。さらに極長鎖飽和脂肪酸であるヘキサコサノン酸が冠動脈疾患と関連すること(*3)、抗炎症作用を有する ω3 系脂肪酸が腹部大動脈瘤の最大径や増大に対して抑制的に作用する可能性を見出した(*19)。

8) 急性冠症候群患者において、冠動脈プラーク容積や脂質コア容積の変化量は、日常の身体活動量と負の相関を有した。すなわち、積極的な身体活動は、冠動脈プラークを退縮および安定化させる可能性を示した(*35)。

9) ヒトにおける MRS 法による心筋細胞内脂質の非侵襲的測定系を国内で初めて樹立し、心筋内中性脂肪値が体力レベル、心機能と良く相関するマーカーとなりうること、高血圧性心疾患では肥大型心筋症の 2 倍脂質が蓄積し、心肥大を来す両疾患では大きく異なることを見出した(*11)。

B. コアスタディー・データベースで明らかとなった関連性などに関するメカニズム解析

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

1) 横断研究から高脂肪食や身体活動量がインスリン抵抗性と関連していたが、非肥満健常者に 3 日間高脂肪食を摂取させると、骨格筋細胞内脂質が蓄積し、インスリン感受性が低下すること(*5)、骨格筋生検サンプルの解析から、脂質蓄積の変化と脂質燃焼系遺伝子発現の変化が関連すること(*5)、動物モデルでの検討から不活動が酸化ストレスを起点とした細胞内脂質の組成変化とインスリン抵抗性の発生に関与する可能性を見出した(*38, *39, *45)。
2) 横断的検討から骨格筋細胞内脂質が蓄積していても、最大酸素摂取量とインスリン感受性が高い者がおり（アスリートパラドックス）、骨格筋生検サンプルの解析から脂肪酸輸送担体である FABPpm が鍵分子の一つである可能性が明らかとした(*1)。また、低強度及び高強度の有酸素運動によるランダム化比較試験からも、運動強度差が骨格筋細胞内脂質に異なった影響を及ぼすことを見出した(*37)。
3) 骨格筋量や筋力の維持は、ADL の維持のみならず、動脈硬化予防にも重要である可能性が示唆されたが、それらの維持機構について以下のことを見出した。骨格筋では絶食によるオートファジー誘導により蛋白分解が亢進するが、それが運動により抑制される(*6)。骨格筋におけるアンジオテンシン II による酸化ストレスは骨格筋萎縮をもたらすことが知られているが、そのメカニズムに NAD(P)H オキシダーセ 4 とユビキチンプロテアソーム系の亢進が関与する(*31, *46, *47)。Heat shock protein 72 は運動や骨格筋の加温により発現が増加するが、その下流で骨格筋のインスリン感受性や蛋白分解調節に寄与している(*17)。糖尿病モデルマウスや高脂肪食負荷で筋力低下や持久的能力の低下を認め、そのメカニズムとして骨格筋線維組成変化や骨格筋細胞におけるカルシウムフラックスの変化が関与するが、運動がそれらを改善する(*18, *32, *43, *44)。
4) 横断研究から炎症と骨格筋インスリン抵抗性や血管疾患の関連性を見出しているがが、炎症が促進される IκBNS ノックアウトマウスと LDL 受容体ノックアウトマウスを交配すると IL-6 産生が亢進し、動脈硬化促進的に作用することを見出した(*12)。一方で IL-6 は骨格筋から分泌されるマイオカインとしても知られており、IL-6 を中和抗体によりブロックすると運動によるインスリン感受性亢進が抑制されることも見出した(*20)。また、ヒトにおいて、ω3 系脂肪酸が腹部大動脈瘤の増大に抑制的に働くことが明らかとなったが、動物モデルにおいても EPA の投与がマクロファージを介した炎症の抑制により、腹部大動脈瘤の増大に対して抑制的に作用することを見出した(*21)。さらに、炎症時に古典的栄養マーカー（急性相反応蛋白）は負誤差を生じるが、血清アポ蛋白は炎症の影響を受けない新規の栄養評価マーカーであることを報告した(*29)。

②「ロコモティブシンドローム予防」（金子（統括者）、石島）

超高齢社会を迎えた本邦では、高齢者の運動器疾患は、介護を要する原因の約 1/4 を占め、脳血管疾患を越え最も高い割合を占め、影響の大きい疾患の一つとなっている。この超高齢化社会における運動器疾患は、立位や歩行といった移動機能を障害するため、高齢者の活動性を低下させ、うつ状態や引きこもりを通じて、寝たきりの誘因となる。この高齢者の運動器疾患の特徴と問題点には、大きくは 3 点ある。その一つは、近年の疫学研究の成果により、数多く存在する運動器疾患の中でも、骨粗鬆症性脆弱性骨折、脊柱管狭窄症そして膝関節をはじめとした荷重関節の変形性関節症（以下、膝 OA）の 3 つの疾患が高齢者の移動機能を障害する代表的疾患であることが明らかとなったことである。そして二つ目はこれら運動器疾患の高い有病率にある。膝 OA の有病率は、80 歳以上高齢者の場合、女性の約 80%、男性の約 50%にも及び(J Bone Miner Metab, 2009)、その影響力が極めて大きいということである。三つ目は、循環器疾患や呼吸器系疾患、そして消化器系疾患と比較すると、臓器の機能障害程度が早期から症状を有する(発症)ことである。その最も重要な臨床症状は動作時の疼痛であり、これは移動能力障害を招き介護リスクを高める。本邦の高齢化は今後も進むことが予測されており、膝 OA をはじめとした運動器疾患に伴う歩行速度低下及び移動機能障害の改善

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

(治療)、進行リスク因子の解明、そして発症機序の解明は、寝たきり防止対策には重要なこととなる。このような観点から、本プロジェクトでは、膝 OA 発症前の段階である「早期膝 OA」の病態解析(下記 A)、及び膝 OA の疼痛及び臨床症状の病態解明(下記 B)に取り組み、膝 OA について多くの新たな知見が明らかになってきた。具体的には、[1] 関節軟骨の変性と摩耗が、従来の想定より早期に壮年期から認められること、[2] 膝 OA の早期の病態として、関節軟骨の摩耗が軟骨下骨や半月板損傷を招くのではなく、軟骨以外の病変が先行して発生することで関節軟骨が摩耗することが明らかになったこと、[3] 50 歳を契機に発症頻度が急激に高まること、そして[4] 膝 OA の発症には骨格筋、特に膝周囲筋の筋力低下が関連することなどが明らかとなってきた。

以下に挙げる研究成果と後述の文京ヘルススタディーの結果から、今後も進むと予測されている本邦の高齢化に伴う寝たきり防止の実現に向け、本プロジェクトの膝 OA 発症前の段階である「早期膝 OA」の病態解析(A)及び膝 OA の疼痛及び臨床症状の病態解明(B)の成果は、近年急速に進化を遂げた膝 OA の病態解析の成果とともに、超高齢社会の寝たきり防止の実現という目標に向けた膝 OA 対策には、従来の摩耗した関節軟骨の再生という概念では不十分であり、それを招く病態である半月板位置異常や骨棘の病態に則した予防や治療法確立が、より効率的かつ効果的である可能性や、その予防として膝周囲筋の筋力を高めることの重要性が、強く示唆された。

A. 早期膝 OA の病態

1) スポートロジーセンターコアスタディー1 に参加した膝 OA のない 40 歳代前半の男性の 3 年間にわたる観察研究において、関節軟骨の摩耗を示唆する単純 X 線の膝関節裂隙狭小化と軟骨代謝及び骨代謝の関連を検討した。対象者を膝関節裂隙狭小化の有無で 2 群に分けると、30%が狭小化群に該当した。軟骨分解(尿中 C2C)と合成(血清 PIICP)のバイオマーカーを用いて、無症候性に進む 3 年後の膝関節裂隙狭小化のリスクを検討すると、単に試験開始時の軟骨分解のみではなく、合成と分解のバランスによってそのリスクが示されることを明らかにした。つまり、試験開始時の C2C/PIICP 上位 1/3 に対して下位 1/3 が 3 年後に関節裂隙狭小化するリスクが有意に高かった(調整後オッズ比 9.8 [95%信頼区間 1.4-67.4], p=0.020)（論文執筆中）。また、試験開始時の骨吸収マーカーの TRACP-5b 上位 3 分位では、そのリスクが有意に高かった（調整後オッズ比 10.5 [95%信頼区間 1.1-97.0], p=0.039）（論文執筆中）。以上より、壮年期の無症候性の関節裂隙狭小化には、軟骨代謝の観点からは軟骨分解亢進ではなく分解と合成のバランスの乱れが関連し、骨代謝の観点からは骨吸収亢進が関連することを示した。
2) 早期及び初期膝 OA 患者を対象に、関節軟骨の変性と摩耗について膝関節内の部位別差異について検討した。そして関節軟骨の変性を示す MRI T2 マッピング法を用いて、膝 OA の初期病変としての軟骨変性と摩耗は、大腿骨遠位側の軟骨が、相対する脛骨側の軟骨より先に進行していることを明らかにした (*4)。
3) 近年、単純 X 線では評価できないが MRI では評価可能な、半月板位置異常（逸脱）が、膝 OA の発症と進行に密接に関連する病態であることが明らかとなってきた。しかし、半月板位置異常発生機序は不明であった 。われわれは、半月板位置異常が半月板断裂を認めないにも関わらず早期から初期膝 OA 患者でほぼ全例に発生していることを明らかにした(*24)。そして、従来半月板は骨棘を加味しても脛骨と大腿骨の辺縁よりも逸脱しているように認められるため、骨棘は半月板位置異常の結果として代償性変化であると考えられてきた。しかし、病理学的に、骨棘は内軟骨性骨化の過程を経て形成されること、そして半月板は冠状靭帯で脛骨遠位と大腿骨近位辺縁に付着することに着目し、ヒトの骨棘でもその先端に軟骨成分が存在することを初めて示し、この軟骨成分まで加味して骨棘を評価すると、半月板位置異常の程度は脛骨の骨棘幅と一致することを明らかにした (*24)。本研究成果は、本疾患概念が制定された 1950 年代後半以降長く推定さ

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

れてきた膝 OA の発症過程について一石を投じる可能性を秘めており、更なる解析を積み重ね、骨棘と半月板位置異常の因果関係を明らかにすることが求められる。そして従来重要と考えられてこなかった骨棘の形成過程についての解析が重要であることを示唆することができた。

4) マウスを用いた膝 OA の骨棘の病態について、我々は関節軟骨辺縁に存在する滑膜間葉系細胞が軟骨に分化し骨棘を形成する過程において、ヘパラン硫酸プロテオグリカンのパールカンが必須の機能を有することを示した(PLoS One 2012; Matrix Biology 2013)。さらに、パールカンが、マウスの膝関節の滑膜からの初代滑膜培養細胞を in vitro にて軟骨分化誘導した場合、軟骨分化のマスター遺伝子である Sox9 と 2 型コラーゲンの発現に必須の役割を担うことも明らかにした(*13)。

B. 膝 OA の疼痛及び臨床症状の病態

1) 膝 OA の疼痛と関連する病態ついての解析を進め、初期から進行期そして末期のいずれも疼痛は滑膜炎と関連することを明らかにしてきてきた(Clin Rheum 2009; Int Orthop 2010; Arthritis Res Ther 2011)。そして末期において滑膜炎と関連する MRI により評価した病態を検討し、滑膜炎は関節軟骨でなく軟骨下骨病変と関連することを明らかにした (*9)。

2) 現在の膝 OA の治療は、保存的療法も外科的治療法も疼痛を主とした症状改善型の治療法であり、疾患修飾型治療法は存在しない。運動機能は一度低下すると回復させることは困難であり、実臨床においては、適切な外科的治療のタイミングも重要である。末期膝 OA において、単純 X 線所見及び患者立脚型機能評価尺度を用いて手術の予測因子を検討したところ、単純 X 線所見による膝 OA の病態は予測因子となるものは存在せず、臨床症状では疼痛以上に ADL 低下が予測因子となることを明らかにした (*22)。さらに、同様の解析を、単純X線に加え MRI を用いて膝 OA の病態を解析すると、ADL 低下とともに MRI にて評価した軟骨摩耗や骨髄病変は予測因子とはならず、骨棘が予測因子となることを明らかにした (*25)。

3) さらに、初期膝 OA の ADL 低下と関連する MRI にて検出される病態を検討した。そして疼痛の程度は MRI にて検出できる軟骨摩耗程度と関連したが、ADL 低下程度は初期膝 OA でも軟骨下骨病変と関連することを明らかにした (*26)。

4) 膝 OA 患者に対して、単純X線に加え MRI を用いた膝関節の病態解析を加えた縦断的観察研究を行い、膝 OA 患者の歩行速度は、MRI で検出できる病変の中で軟骨損傷程度や軟骨下骨病変そして半月板損傷程度ではなく、半月板位置異常(逸脱)と関連することを明らかにした(論文投稿中)。既知の事実と本結果の結果を加味すると、膝 OA 患者では、歩行時には痛みを生じないように、関節局所への力学的負荷集中化を招く半月板逸脱の程度に応じて歩行速度を低下させることが示唆された。これは結果的に下肢筋力低下も招くため、膝 OA では歩行速度低下とともに筋力も低下することにもなる。

③「脳機能障害予防」（青木（統括者）、服部、本井、小西、宇賀）

骨格筋機能低下による脳機能障害を多角的に検討するために、構造 MRI（VBM; Voxel Based Morphometry）、白質走行を描出する拡散テンソル像に加え、本邦ではほとんど撮像例がない diffusional kurtosis imaging（DKI)法による撮像、経頭蓋磁気刺激法による大脳可塑性の変化（rTMS）の計測、視床下部の高解像度機能的 MRI による代謝調節機構のイメージング、脳波による大脳半球間伝導時間（IHTT）の測定法の開発及び解析を行った。その結果、骨格筋機能低下が、中年であっても大脳白質変性に関連することが明らかとなった。また、タウトランスジェニックマウスを用いた運動介入による認知機能改善を担う分子機構解析を行った他、小規模の運動を含めた介入研究が行われ、認知機能の改善とともに部分的な脳容積の増大も観察されたことから、骨格筋機能を

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

高める運動が脳機能を改善する可能性やその分子生物学的な機序が示された。

1) コアスタディー・データベースを中心とした解析により、メタボリックシンドローム日本人中年男性では拡散テンソル像で白質の変性を疑う所見が得られたが(Diabetes Care 2013)、骨格筋インスリン抵抗性が強い人ほど変性の程度が強いことが明らかとなってきた（論文執筆中）。また、拡散MRIによるin vivoの脳の微細構造変化の解析方法の開発と検討を進め、血圧の増加(*2)や、筋力や体力レベル（最大酸素摂取量）の低下が大脳白質変性と関連する可能性が明らかとなってきた。さらに、メタボリック症候群日本人中年男性の認知機能検査を行ったところ、メタボリックシンドロームでは空間認知機能、記憶障害が正常群より低下していることを見出した。
2) 自宅での二重課題を含む運動療法を 3 か月間、約 20 例の軽度認知機能障害患者に行ったところ、数唱で評価される遂行機能の改善が認められ、脳容積では、前頭葉眼窩面で増大が認められた。
3) 骨格筋機能低下と脳萎縮の関連を調査するために、高齢者コホート研究で撮影した0.3Tの3DT1強調像強調 MRI による脳の局所の体積変化の定量化を行い、画像を数値化することにより、多変量解析が可能なデータベースの構築を行っている。また、0.3Tと3T MRIの比較により、0.3Tの膨大なデータを日常臨床で使われている3TMRと対応可能として、0.3Tの知見をより一般的な知見とすることの検討を進めた（*48, *56, *57）。
4) 高解像度機能的MRI計測では、ヒトの視床下部を高解像度のfMRIで撮像し、領域を区分けする手法を開発し、食後のインスリン分泌と関連する部位を特定した (*34, *40, *41, *42)。特に、外側核と腹内側核は血糖値の変化に従って拮抗的に神経活動が変化し、また弓状核は食後早期のインスリン分泌に関与することが示唆された(*34)。
5) rTMS による大脳可塑性計測では、肥満のある被験者のコントロールとしての正常被験者について、可塑性変化の計測および刺激効果の空間的広がりの画像的評価を行った。その結果、BMIが大きい被験者ほど可塑性変化の度合いが小さい傾向があることが示唆された。
6) 運動介入による認知機能改善分子機構解析では、運動が脳に及ぼす影響を調べるために 6 ヶ月間の自発的ホイール運動と強制的トレッドミル運動をタウトランスジェニックマウスに負荷した。ホイール運動群では学習機能が運動無し群より改善したが、トレッドミル群では変化なかった。炎症性サイトカインやタウ蛋白リン酸化はホイール群で低く、トレッドミル群では増加していた。以上の結果から、自発的ホイール運動が脳機能保護効果を示すことがわかった。
7) 4 週間の短期間の強制的トレッドミル運動をタウトランスジェニックマウスに負荷すると脳内ではかえって、酸化的ストレス、タウ蛋白不溶性、炎症性サイトカインが増加し悪影響を及ぼすことがわかった(*14)。
8) 脳波によるIHTT測定（宇賀、北澤グループ）では、視覚（顔）刺激による脳波のN170成分を用いることにより、ノイズの影響を受けにくいIHTT測定手法の開発を行った。
9) 高齢者では転倒・骨折が要介護に繋がることが多いが、筋力低下がリスクとなることが知られている他に、身体機能（運動機能やバランス能力）の低下がリスクとなることが示されて来た。後者は脳機能の低下でも生じうると考えられているが、それらの身体機能が高度に発達している体操競技選手の脳を高精細構造MRIにより評価した所、体操競技経験のないコントロール群と比較して、一次運動野や一次体性感覚野を含む体操競技に深く関連する領域で有意に脳体積が有意に大きかった。また、体操競技選手間でも各体操競技種目Dスコアと体積が正相関する領域に違いがあり、これらの脳領域体積が体操競技選手の能力を表す代替マーカーとなる可能性を示した(*54)。同様に、拡散 MRI を用いた脳の構造的接続性においては、体操競技選手群では辺縁系領域・側頭・頭頂・後頭連合野における構造的接続性が有意に強く、体操競技選手の高い視空間

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

認識能力および運動能力との関連が示唆された。構造的接続性を重み付けとしたグラフ理論解析では体操競技選手のより強固な構造的接続性に加え、高い並列処理能力を示唆する結果を示した。また、構造的接続性についても脳体積と同様に体操競技に深く関わる領域で D スコアとの正の相関が見られ、本解析手法の体操競技選手の脳ネットワーク評価に対する有用性を示した(*55)。

④「文京ヘルススタディー」（各領域の全研究者）

高齢者においても骨格筋機能低下が要介護リスクになりえるかを明らかとするために、文京区民を対象とした高齢者コホート研究（文京ヘルススタディー）を開始し、コアスタディーと同様に、筋力・筋量・骨格筋インスリン抵抗性を評価するとともに、脳及び膝関節 MRI、認知機能などの測定を行った。具体的には、文京区在住の 65 歳から 84 歳の高齢者のうち、無作為に住民台帳より抽出された地域住民 1,629 名を対象に骨格筋量（DXA インピーダンス法）、筋力（膝関節伸展筋力、握力）、筋インスリン感受性（75g 経口糖負荷試験による評価）を詳細に評価するのみならず、全例に対して、脳小血管病変や全脳体積（頭部 MRI 検査）、腰椎・大腿骨頸部の骨密度（DXA 検査による骨量測定）、認知機能（MMSE、MoCA-J などの質問紙調査）、動脈硬化（CAVI 検査）、運動能力（歩行テスト、開眼片足立ちテスト、ロコモ度チェック等）、内臓脂肪量（腹部 MRI 検査）、変形性膝関節症（膝関節 MRI 検査、レントゲン検査）などの評価を行うとともに、身体活動量（IPAQ）、食事摂取量（BDHQ）、睡眠（PSQI-J）といった生活習慣の評価を行った。今後、10 年以上前向きに観察する予定であるが、横断的な予備解析を進め、以下のように筋力や骨格筋インスリン抵抗性が脳細動脈病変と関連していること、OA と筋力・認知機能低下の関連が明らかとなってきた。

1) 要支援・要介護の原因疾患の一つである脳血管疾患に着目し予備的な解析を行った。具体的には、脳血管疾患のうち、頭部 MRI 画像により診断した脳小血管病変（ラクナ梗塞、微小出血、白質病変）の有無と関連する特徴を探索的に解析した。その結果、対象者の約 25%程度に脳小血管病変が確認されたが、そのリスク因子として年齢が高い、BMI が高い、高血圧症患者が多いだけではなく、筋力が低い、骨格筋インスリン感受性が低いことが抽出された。
2) 高齢者の膝 OA 変化と痛みと歩行速度をはじめとした運動機能との関連について検証し、65 歳以上高齢者では、既知の報告通り、約 60%が初期膝 OA を呈していた。一方で、このコホートにおいて初期膝 OA を呈する高齢者の多くは、歩行時の膝の痛みは強くない（疼痛 VAS10/100 程度）と回答した。この集団の膝 OA の評価を単純 X 線と MRI にて行い、初期膝 OA 群と進行期膝 OA 群の 2 群にわけ、骨密度や骨・軟骨代謝関連因子、ロコモ度テストや運動機能検査データ、メタボ関連因子や認知機能との関連の有無を検討した。その結果、高齢者では、疼痛が強くなくても進行期膝 OA 群では初期膝 OA 群と比較して、運動機能や認知機能が低下しており、メタボ関連因子が増悪していることを明らかとした(*49, *50, *51, *52)。さらに、MRI を用いた膝 OA の病態と運動機能との関連を検討し、一般住民高齢者の単純 X 線では同程度の初期膝 OA でも、筋力低下と身体活動能力低下は関連すること、そして半月板位置異常(逸脱)の程度が ADL や運動機能そして筋力低下と関連することも明らかにした(*51, *52)。また、半月板逸脱距離と半月板損傷発生区画の関係についても検討し、その成果を発表予定である(国際関節症学会(OARSI)2019)。

＜優れた成果が上がった点＞

1) 非肥満者ではインスリン抵抗性はあまり認めないと考えられてきたが、BMI が 23~25kg/m2 でメタボリックシンドロームの構成因子を 1 つでも有していると骨格筋のインスリン抵抗性を認め、そのレベルは肥満メタボリックシンドロームと同等であることや、それに影響を与える生活習慣や血

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

清、骨格筋の代謝産物などが明らかとしてきた。本研究成果はメディア(新聞掲載*4～*23)でも多く取り上げられた。

2) 高齢者コホート研究（文京ヘルススタディー）を開始し、骨格筋機能と要介護となる疾患の関連性をさらに明確にする体制を確立した。横断研究により壮年のデータベースと同様に骨格筋機能低下が脳細動脈病変や OA の初期病変と関連することが明らかとなってきた。
3) 拡散 MRI による in vivo の脳の微細構造変化の解析方法の開発と検討を進め、骨格筋インスリン抵抗性、筋力の低下、最大酸素摂取量の低下、血圧の増加が大脳白質変性と関連することを明らかとしてきた。また、運動介入により、脳機能の向上と一部の脳容積の増大が生じることが明らかとなってきた。
4) 高解像度機能的 MRI 計測により、ヒトの視床下部を 1.25 mm の高解像度 fMRI で撮像し、領域を区分けする手法を開発し、個々の視床下部神経核の位置を同定し、糖負荷後の反応部位についても同定した。
5) 関節軟骨の変性と摩耗が膝 OA の病態の主座だが、従来関節軟骨の評価は困難であった。本研究では、MRI T2 マッピング法を用いて軟骨変性には空間的差異があることを示した。
6) ヒトの骨棘においても軟骨成分が存在することを初めて示し、この軟骨成分まで加味して骨棘を評価すると、半月板位置異常の程度は脛骨の骨棘幅と一致することを明らかにした。
7) マウスの膝関節滑膜から得た初代滑膜培養細胞を in vitro にて軟骨分化誘導を行った際に、軟骨分化のマスター遺伝子である Sox9 と 2 型コラーゲンの発現制御に、ヘパラン硫酸・パールカンが必須の役割を担うことを示した。
8) 末期膝 OA では、滑膜炎は MRI により評価した関節軟骨の欠損程度でなく、軟骨下骨病変と関連することを明らかにした。

＜課題となった点＞

1) コアスタディーは壮年期の文京ヘルススタディーでは高齢者の介護リスクを捉えることを主に目的とし、「骨格筋機能の低下は血管・脳・関節不全による介護リスクを高める臓器障害ネットワークの中心である」、という仮説を裏付ける多数の基礎的なエビデンスが得られた。しかしながら、一部介入研究を実施中であるが、横断的な調査が中心であり、今後は縦断研究や介入研究を行うことによりこれらの因果関係について検証が必要である。
2) 超高齢社会を迎えた本邦では、80 歳以上の女性の 8 割近くが初期膝 OA を呈するため、早期の病態解明と同時に、初期膝 OA からの進行抑制と、初期膝 OA の中でも高齢者の ADL 低下に影響を与える病態解明も重要である。そのため、早期膝 OA の病態解析とともに、高齢者のコホートやコアスタディー・データベースを用いてこの現実的な課題克服も進める。

＜自己評価の実施結果と対応状況＞

綿田研究代表の統括のもとで運営委員 16 名（外部運営委員 2 名を含む）の体制で研究の進捗状況を常に検討している。本プロジェクトに参加する研究者すべてに、毎年の研究成果発表会、成果報告書の提出を義務づけており、プロジェクトに参加していない研究者を含む複数の評価者が申請書と報告書をもとに実績を評価し、予算配分額などに反映させている。さらに、プロジェクトとしての相乗効果を生み出し、かつ、高い費用対効果を得られるように、プロジェクト間、プロジェクト内で共同して行うコアスタディーを設定し、予算を多く充てるなど配分を適切に設定した。研究発表の場では、他の研究者から客観的な評価を受け、新たな共同研究を開始するなどしてプロジェクトの修正に役立てている。また、国際スポートロジー学会ではすべての研究者が発表し、内部評価とともに、外部の学会員からの意見も頂き、プロジェクトに反映させている。

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

＜外部（第三者）評価の実施結果と対応状況＞

外部評価は阿部修（東京大学）、中田研（大阪大学）、藤井宣晴（首都大学東京）の 3 名に委嘱し最終評価を頂いた。その結果、本事業は多くの研究者と研究グループが機能的に連関して進められており、骨格筋機能低下が、「心血管・脳・関節」機能障害による介護リスクを高める臓器障害ネットワークの中心である、という仮説を裏付ける多数の基礎的なエビデンスが得られ、研究当初の目標を達成している、というような良好な評価を得た。また、今後については、さらに発展する研究プロジェクトである一方で、どのようにして「統合的な介護予防法開発」に至るかが課題として提示されており、これらの頂いた評価を参考にして研究プロジェクトのさらなる推進に取り組むこととした。

＜研究期間終了後の展望＞

高齢者コホート（文京ヘルススタディー）は、要介護疾患リスクを多面的に捉え、骨格筋機能との関連を検証する研究であり、今後 10 年以上の観察を行う予定となっている。これだけ詳細にデータを蓄積した研究は、現在まで類が無く、今後は本研究を継続し、「骨格筋機能の低下は血管・脳・関節不全による介護リスクを高める臓器障害ネットワークの中心である」、という仮説を裏付けるエビデンスをさらに構築する。また、壮年期のコホートで得られたリスク因子を文京ヘルススタディーで確認するなどスタディー間の連関を深めると共に、得られた関連性の因果関係を明確にするために、介入研究の実施を推進する。

＜研究成果の副次的効果＞

1) 血清のリピドーム・メタボローム解析により、様々な代謝産物が骨格筋代謝や動脈硬化などと関連することが明らかとなってきたが、本研究成果を発展させ、骨格筋代謝や動脈硬化症を予測するバイオマーカー開発や、因果関係を in vitro, in vivo 実験により検証することにより新たな治療標的の確立に結び付くことが期待される。
2) コアスタディー・データベースを中心とした解析による初期膝 OA の病態及び初期から末期に至る膝 OA 疼痛と病態の関連についての研究を進めてきたことで、現在世界的に関心が高まっている発症前の膝 OA、いわゆる「早期膝 OA の病態」について、国内のみならず世界的にも最新の知見を発信できた。
3) rTMS による大脳可塑性計測では、可塑性の変化を計測する技術を標準化すれば、骨格筋機能低下や肥満被験者のみならず、認知症（予備軍）などの脳疾患への応用ができる可能性がある。高解像度機能的 MRI 計測では、糖尿病のみならず視床下部が関連する肥満や代謝内分泌疾患の研究に応用可能である。

12　キーワード（当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。）

（1）インスリン抵抗性　（2）筋力　（3）運動
（4）メタボリックシンドローム　（5）ロコモティブシンドローム　（6）認知機能障害
（7）動脈硬化症　（8）臓器障害ネットワーク

13　研究発表の状況（研究論文等公表状況。印刷中も含む。）

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには＊を付すこと。

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

11（4）で引用された業績を抜粋

(英文原著)

1. ***Kawaguchi M, Tamura Y, Kakehi S, Takeno K, Sakurai Y, Watanabe T, Funayama T, Sato F, Ikeda S, Ogura Y, Saga N, Naito H, Fujitani Y, Kanazawa A, Kawamori R, Watada H**
   Association between expression of FABPpm in skeletal muscle and insulin sensitivity in intramyocellular-lipid-accumulated non-obese men
   J Clin Endocrinol Metab. 99(9): 3343-52. 2014.

2. ***Shimoji K, Uka T, Tamura Y, Yoshida M, Kamagata K, Hori M, Motoi Y, Watada H, Kawamori R, Aoki S**
   Diffusional kurtosis imaging analysis in patients with hypertension
   Jpn J Radiol, 32: 98-104, 2014

3. ***Miyazaki T, Shimada K, Hki M, Kume A, Kitamura Y, Oshida K, Yanagisawa N, Kiyanagi T, Matsumori R, Daida H.**
   High hexacosanoic acid levels are associated with coronary artery disease.
   Atherosclerosis. 223:429-433;2014.

4. ***Hada S, Kaneko H, Sadatsuki R, Liu L, Futami I, Kinoshita M, Yusu A, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Kazuo K, Ishijima M.**
   The degeneration and destruction of femoral articular cartilage shows a greater degree of deterioration than that of the tibial and patellar articular cartilage in early stage knee osteoarthritis: A cross-sectional study
   Osteoarthritis Cartilage, 22, 1583-9, 2014

5. ***S. Kakehi, Y. Tamura, K. Takeno, Y. Sakurai, M. Kawaguchi, T. Watanabe, T. Funayama, F. Sato, S. Ikeda, A. Kanazawa,Y. Fujitani, R. Kawamori, H. Watada.**
   Increased intramyocellular lipid/impaired insulin sensitivity is associated with altered lipid metabolic genes in muscle of high responders to a high fat diet.
   Am J Physiol Endocrinol Metab, 2015; 310 (1): E32-40

6. ***Zheng DM, Bian Z, Furuya N, Oliva Trejo JA, Takeda-Ezaki M, Takahashi K, Hiraoka Y, Mineki R, Taka H, Ikeda S, Komatsu M, Fujimura T, Ueno T, Ezaki J**
   A treadmill exercise reactivates the signaling of the mammalian target of rapamycin (mTor) in the skeletal muscles of starved mice.
   Biochem Biophys Res Commun, 2015 Jan 2;456(1):519-26.

7. ***Nishitani-Yokoyama M, Miyauchi K, Shimada K, Miyazaki T, Ogita M, Okazaki S, Shioya M, Koba S, Tsujita H, Kobayashi Y, Daida H.**
   Effects of phase II comprehensive cardiac rehabilitation on coronary plaque volume after acute coronary syndrome.
   Int Heart J. 56:597-604.2015

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

8. ***Alshahi H, Shimada K, Miyauchi K, Yoshihara T, Sai E, Shiozawa T, Naito R, Aikawa T, Ouchi S, Kadoguchi T, Miyazaki T, Daida H.**
   Elevated Circulating Levels of Inflammatory Markers in Patients with Acute Coronary Syndrome.
   International Journal of Vascular Medicine, Volume 2015 (2015), Article ID 805375, 8 pages

9. ***Yusup A, Kaneko H, Liu L, Ning L, Sadatsuki R, Hada S, Kamagata K, Kinoshita M, Futami I, Shimura Y, Tsuchiya M, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Aoki S, Kaneko K, Ishijima M.**
   Bone marrow lesions, subchondral bone cysts and subchondral bone attrition are associated with histological synovitis in patients with end-stage knee osteoarthritis: a cross-sectional study.
   Osteoarthritis Cartilage. 2015 Nov;23(11):1858-64.

10. ***Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Hassan A, Okazaki S, Isoda K, Shimada K, Suwa S, Daida H.**
    Preprocedural High-Sensitivity C-Reactive Protein Predicts Long-Term Outcome of Percutaneous Coronary Intervention.
    Circ J. 90-95:81;2017.

11. ***Sai E, Shimada K, Yokoyama T, Hiki M, Sato S, Hamasaki N, Maruyama M, Morimoto R, Miyazaki T, Fujimoto S, Tamura Y, Aoki S, Watada H, Kawamori R, Daida H.**
    Myocardial Triglyceride Content in Patients with Left Ventricular Hypertrophy: Comparison between Hypertensive Heart Disease and Hypertrophic Cardiomyopathy.
    Heart Vessels. 2017 Feb;32(2):166-174.

12. ***Akita K, Isoda K, Okabayasi Y, Shimada K, Daida H**
    Lack of IkBNS accelarates atherosclerosis in LDL receptor-deficinet mice via increased interleukin-6 production
    Int J Cardiol, 2016; 211:61-63

13. ***Sadatsuki R, Kaneko H, Futami I, Kinoshita M, Nonaka R, Culley KL, Otero M, Hada S, Goldring MB, Yamada Y, Kaneko K, Arikawa-Hirasawa E, Ishijima M**
    Perlecan is required for the chondrogenic differentiation of synovial mesenchymal cells through regulation of Sox9 gene expression
    J Orthop Res, 2017 Apr;35(4):837-846

14. ***Elahi M, Motoi Y, Matsumoto S, Hasan Z, Ishiguro K, Hattori N**
    Short-term treadmill exercise increased tau insolubility and neuroinflammation in tauopathy model mice
    Neurosci. Lett. 610 (2016)207-212

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

15. ***Takeno K, Tamura Y, Kawaguchi M, Kakehi S, Watanabe T, Funayama T, Furukawa Y, Kaga H, Yamamoto R, Kim M, Nishitani-Yokoyama M, Shimada K, Daida H, Aoki S, Taka H, Fujimura T, Sawada S, Giacca A, Kanazawa A, Fujitani Y, Kawamori R, Watada H.**
Relation between insulin sensitivity and metabolic abnormalities in Japanese men with BMI of 23–25 kg/m2.
J Clin Endocrinol Metab, 2016; 101(10): 3676-3684

16. ***Funayama T, Tamura Y, Takeno K, Kawaguchi M, Kakehi S, Watanabe T, Furukawa Y, Kaga H, Yamamoto R, Kanazawa A, Fujitani Y, Kawamori R, Watada H.**
Effects of alcohol abstinence on glucose metabolism in Japanese men with elevated fasting glucose: A pilot study.
Sci Rep, 2017; 7: 40277

17. ***Tsuzuki T, Kobayashi H, Yoshihara T, Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Naito H.**
Attenuation of exercise-induced heat shock protein 72 expression blunts improvements in whole-body insulin resistance in rats with type 2 diabetes.
Cell Stress Chaperones. 2017 Mar;22(2):263-269

18. ***Eshima H., Tamura Y., Kakehi S., Kurebayashi N., Murayama T., Nakamura K., Kakigi R., Okada T., Sakurai T., Kawamori R. and Watada H. Long-term, but not short-term high-fat diet induces fiber composition changes and impaired contractile force in mouse fast-twitch skeletal muscle.**
Physiol Rep. 2017;5(7).e13250

19. ***Aikawa T, Miyazaki T, Shimada K, Sugita Y, Shimizu M, Ouchi S, Kadoguchi T, Yokoyama Y, Shiozawa T, Hiki M, Takahashi S, Al Shahi H, Dohi S, Amano A, Daida H.**
Low Serum Levels of EPA are Associated with the Size and Growth Rate of Abdominal Aortic Aneurysm.
J Atheroscler Thromb. 2017, 24(9):912-920

20. ***Ikeda S, Tamura Y, Kakehi S, Sanada H, Kawamori R, Watada H.**
Exercise-induced increase in IL-6 level enhances GLUT4 expression and insulin sensitivity in mouse skeletal muscle.
Biochem Biophys Res Commun, 2016; 473(4): 947-52

21. ***Yoshihara T, Shimada K, Fukao K, Sai E, Sato-Okabayashi Y, Matsumori R, Shiozawa T, Alshahi H, Miyazaki T, Tada N, Daida H.**
Omega 3 polyunsaturated fatty acids suppress the development of aortic aneurysms through the inhibition of macrophage-mediated inflammation.
Circ J. 79:1470-1478;2015

22. ***Liu L, Ishijima M, Kaneko H, Futami I, Kurosawa H, Kawasaki T, Kubota M, Yusup A, Sadatsuki R, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K: Disability for daily living is a**

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

predictor for joint replacement in patients with end-stage knee osteoarthritis
J Bone Miner Metab, 32, 192-99, 2014

23. ***Kaga H, Tamura Y, Takeno K, Kakehi S, Funayama T, Furukawa Y, Nishitani-Yokoyama M, Shimada K, Daida H, Aoki S, Giacca A, Kanazawa A, Kawamori R, Watada H.**
Correlates of insulin clearance in apparently healthy non-obese Japanese men.
Sci Rep. 2017 May 3; 7(1):1462

24. ***Hada S, Ishijima M, Kaneko H, Kinoshita M, Liu L, Sadatsuki R, Futami I, Yusup A, Takamura T, Arita H, Shiozawa J, Takazawa Y, Ikeda H, Aoki S, Kurosawa H, Okada Y, Kaneko K: Association of medial meniscal extrusion with medial tibial osteophyte distance detected by T2 mapping MRI in the patients with early-stage knee osteoarthritis.**
Arthritis Res Ther, 19, 201, 2017.

25. ***Liu L, Ishijima M, Kaneko H, Sadatsuki R, Hada S, Kinoshita M, Aoki T, Futami I, Yusup A, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K: The MRI-detected osteophyte score is a predictor for undergoing joint replacement in patients with end-stage knee osteoarthritis.**
Mod Rheumatol, 27, 332-38, 2017.

26. ***Sadatsuki R, Ishijima M, Kaneko H, Liu L, Shinnosuke H, Futami I, Kinoshita M, Kubota M, Aoki T, Takazawa Y, Ikeda H, Okada Y, Kaneko K: Bone marrow lesion is associated with disability for activities of daily living in patients with early stage knee osteoarthritis.**
J Bone Miner Metab, 2018 Sep 5. DOI: 10.1007/s00774-018-0950-z.

27. ***Furukawa Y, Tamura Y, Takeno K, Funayama T, Kaga H, Suzuki R, Watanabe T, Kakehi S, Kanazawa A, Kawamori R, Watada H.**
Impaired peripheral insulin sensitivity in non-obese Japanese patients with type 2 diabetes mellitus and fatty liver.
J Diabetes Investig. 2018 May; 9(3): 529–535

28. ***Shioya-Yamada M, Shimada K, Nishitani-Yokoyama M, Sai E, Takeno K, Tamura Y, Watada H, Kawamori R, Daida H, Kawai S.**
Association Between Visceral Fat Accumulation and Exercise Tolerance in Non-Obese Subjects Without Diabetes.
J Clin Med Res. 2018 Aug;10(8):630-635

29. ***Isshiki M, Hirayama S, Ueno T, Ito M, Furuta A, Yano K, Yamatani K, Sugihara M, Idei M, Miida T.**
Apolipoproteins C-II and C-III as nutritional markers unaffected by inflammation.
Clin Chim Acta. 2018 Jun;481: 225-230

30. ***Someya Y, Tamura Y, Suzuki R, Kaga H, Kadowaki S, Sugimoto D, Kakehi S, Funayama T, Furukawa Y, Takeno K, Sato J, Kanazawa A, Kawamori R, Watada H.**

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Characteristics of Glucose Metabolism in Underweight Japanese Women.
J Endocr Soc. 2018 Mar 1; 2(3): 279–289

31. ***Kadoguchi T, Shimada K, Koide H, Miyazaki T, Shiozawa T, Takahashi S, Aikawa T, Ouchi S, Kitamura K, Sugita Y, Hamad AS, Kunimoto M, Sato-Okabayashi Y, Akita K, Isoda K, Daida H.**
Possible Role of NADPH Oxidase 4 in Angiotensin II-Induced Muscle Wasting in Mice.
Front Physiol. 2018 Apr 5;9: 340

32. ***Eshima H, Tamura Y, Kakehi S, Nakamura K, Kurebayashi N, Murayama T, Kakigi R, Sakurai T, Kawamori R, Watada H.**
Dysfunction of muscle contraction with impaired intracellular Ca(2+) handling in skeletal muscle and the effect of exercise training in male db/db mice.
J Appl Physiol (1985). 2019 Jan 1;126(1):170-182

33. ***Sugimoto D, Tamura Y, Takeno K, Kaga H, Someya Y, Kakehi S, Funayama T, Furukawa Y, Suzuki R, Kadowaki S, Nishitani-Yokoyama M, Shimada K, Daida H, Aoki S, Kanazawa A, Kawamori R, Watada H.**
Clinical Features of Non-obese Apparently Healthy Japanese Men with Reduced Adipose Tissue Insulin Sensitivity.
J Clin Endocrinol Metab. 2019 Jan 23 [Epub ahead of print]

34. ***Osada T, Suzuki R, Ogawa A, Tanaka M, Hori M, Aoki S, Tamura Y, Watada H, Kawamori R, and Konishi S**
Functional subdivisions of the hypothalamus using areal parcellation and their signal changes related to glucose metabolism.
Neuroimage. 2017 Nov 15;162:1-12

35. ***Nishitani-Yokoyama M, Miyauchi K, Shimada K, Yokoyama T, Ouchi S, Aikawa T, Kunimoto M, Yamada M, Honzawa A, Okazaki S, Daida H.**
Impact of physical activity on coronary plaque volume and components in patients with acute coronary syndrome after early-phase II cardiac rehabilitation.
Circ J. 2018 Dec 25;83(1):101-109

36. ***Kunimoto M, Shimada K, Yokoyama M, Matsubara T, Aikawa T, Ouchi S, Shimizu M, Fukao K, Miyazaki T, Kadoguchi T, Fujiwara K, Honzawa A, Yamada M, Shimada A, Yamamoto T, Amano A, Daida H.**
Relationship between the Kihon Checklist and the clinical parameters in patients who participated in cardiac rehabilitation.
Geriatr Gerontol Int. 2019 Feb 22 [Epub ahead of print]

学会発表 (国際)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

37. ***T. Funayama, Y. Tamura, K. Takeno, M. Kawaguchi, T. Watanabe, H. Kaga, Y. Furukawa, R. Suzuki, R. Yamamoto, S. Kakehi, Y. Fujitani, R. Kawamori, H. Watada.**
Role of exercise intensity on intramyocelluar lipid level after exercise in subjects with moderate insulin resistance.
American Diabetes Association 75th scientific sessions(ADA), Boston(USA), 2015.6.5-9(2015.6.8)

38. ***Kakehi S, Tamura Y, Ikeda S, Kawamori R, Watada H.**
Mechanisms of insulin resistance after 24hours physical inactivity in murine soleus muscle
62nd Annual Meeting of American College of Sports Medicine. 26-30 May 2015, San Diego USA.

39. ***Kakehi S, Tamura Y, Kawamori R, Watada H.**
Physical inactivity and high fat diet synergistically enhance the accumulation of intramyocellular diacylglycerol and induce insulin resistance in murine soleus muscle
Cell Symposia: Exercise Metabolism. 12-14 July 2015, Amsterdam, Netherlands.

40. ***Osada T., Hirose S., Ogawa A., Wada H., Yoshizawa Y., Imai Y., Machida T., Akahane M., Shirouzu I., Konishi S.**
Neuroanatomical basis of orbitofrontal-hypothalamic interaction revealed by areal parcellation
Human Brain Mapping Conference, Geneva, Switzerland, June 30, 2016

41. ***Osada T., Hirose S., Ogawa A., Wada H., Yoshizawa Y., Imai Y., Machida T., Akahane M., Shirouzu I., Konishi S.**
Heterogeneity of orbitofrontal cortex with reference to hypothalamus
Resting-State Functional Connectivity Conference, Vienna, Austria, Sep 21, 2016

42. ***Osada T., Ogawa A., Tanaka M., Hori M., Aoki S., Konishi S.**
Parcellation of human hypothalamus using high-resolution resting-state fMRI
Society for Nueoriscience Meeting, San Diego, USA, Nov 13, 2016

43. ***Eshima H, Tamura Y, Kakehi S, Kawamori R, Watada H. Maintenance of contractile force and increased fatigue resistance in slow-twitch skeletal muscle of long-term high-fat-fed mice.**
Experimental biology, W245, Chicago, April 2017. (Poster presentations)

44. ***Eshima H, Tamura Y, Kakehi S, Kawamori R, Watada H. A long-term high fat diet causes muscle dysfunction in mouse fast-twitch skeletal muscle.**
APS; Intersociety meeting, The integrative biology of exercise VII, 18.1-89, Phoenix, November 2016. (Poster presentations)

45. ***Kakehi S, Tamura Y, Kaga H, Kawamori R, Watada H.**
Physical Inactivity and High-Fat Diet Additively Induce Diacylglycerol Accumulation and

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Insulin Resistance in Muscle.
The American Diabetes Association's 76th Scientific Sessions, New Orleans(USA), 2016.6.10-14

46. ***Kadoguchi T, Shimada K, Shiozawa T, Takahashi S, Hamad Al Shahi, Aikawa T, Ouchi S, Sugita Y, Miyazaki T, Akita K, Isoda K, Daida H**
Inhibition of NAD(P)H Oxidase 4 Ameliorates Angiotensin II-Induced Protein Degradation via Improving Mitochondrial Dysfunction in Skeletal Myocytes.
Circulation. 2016;134:A15468

47. ***Kadoguchi T, Shimada K, Shiozawa T, Takahashi S, Al Shahi H, Miyazaki T, Akita K, Isoda K, H. Daida H.**
NAD(P)H oxidase 4 plays a key role in angiotensin II-induced protein degradation in skeletal muscle cells.
European Heart Journal 2016, 37 (Abstract Supplement), 1104

48. ***Syo Murata, Hideyoshi Kaga, Yuki Someya, Ryusuke Irie, Koji Kamagata, Masaaki Hori, Keigo Shimoji, Christina Andica, Akihiko Wada, Masami Goto, Kiyotaka Nemoto, Yujiro Otsuka, Saori Uchioke, Yoshifumi Tamura, Shigeki Aoki.**
The accuracy of low magnetic field MRI in brain volume measurement; atlas-based analysis.
The 3rd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Oct 14, 2017

49. ***L Liu, M Ishijima, H Kaneko, R Sadatsuki, S Hada, A Yusup, M Kinoshita, H Arita, J Shiozawa, T Aoki, M Nagao, Y Takazawa, H Ikeda, K Kaneko.**
The lower ratio of the cartilage destruction and synthesis biomarkers is a risk for the radiographic medial knee joint space narrowing in men in early forties without knee osteoarthritis -A three years prospective observational study "Sportology Core Study 1".
OARSI 2017, Las Vegas, USA, Apr 27-30 ,2017

50. ***T Aoki, L Liu, M Ishijima, Y Someya, H Kaneko, R Sadatsuki, S Hada, A Yusup, M Kinoshita, H Arita, J Shiozawa, Y Tamura, M Nagao, Y Takazawa, H Ikeda, H Watada, R Kawamori, K Kaneko.**
Medial meniscus extrusion was associated with the clinical manifestation of the elderlies aged 70's without knee pain with Kellgren-Lawrence grade 2 of knee osteoarthritis (OA).
OARSI 2017・Las Vegas, USA, Apr 27-30 ,2017

51. ***Liu L, Ishijima M, Kaneko H, Hada S, Arita H, Aoki T, Negishi Y, Momoeda M, Someya Y, Tamura Y, Watada H, Kawamori R, Kaneko K.**
Mobility and muscular power of lower limbs in elderlies without knee pain with Kellgren-Lawrence (K/L) grade 3 of knee osteoarthritis (OA) were inferior to those in elderlies without knee pain with K/L grade 2 of knee OA -A population-based cohort study Sportology Core Study 2.
Osteoarthritis Reaseach Society International (OARSI) 2018, Liverpool, UK, 2018.4.26-29

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

52. ***Negishi N, Ishijima M, Kaneko H, Aoki T, Liu L, Arita H, Momoeda M, Hada S, Tamura Y, Watada Y, Kawamori R, Kaneko K.**
Component ratio of cartilage and bone parts of osteopyte in early-stage knee OA -A Sportology Core Study.
Osteoarthritis Reaseach Society International (OARSI) 2018, Liverpool, UK, 2018.4.26-29

53. ***Kadowaki S, Tamura Y, Someya Y, Takeno K, Funayama T, Furukawa Y, Kakehi S, Kaga H, Suzuki R, Sugimoto D, Kawamori R, Watada H.**
Fatty Liver Is a Better Marker of Muscle Insulin Resistance than Visceral Fat Accumulation in Nonobese Japanese Men.
78th American Diabetes Association Scientific Sessions, Orlando (USA), 2018.6.22-26

学会発表 (国内)

54. ***Mana Kuramochi, Koji Kamagata, Christina Andica, Hiroyuki Tomita, Hidefumi Waki, Wataru Uchida, Yuki Takenaka, Akifumi Hagiwara, Makoto Fukuo, Mutsumi Harada, Masami Goto, Shigeki Aoki, Hisashi Naito. Gray matter volume changes induced by long-term training of world class gymnasts: comparison with healthy controls**
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会、2018 年 9 月 7 日(金)～2018 年 9 月 9 日(日)

55. ***Wataru Uchida, Koji Kamagata, Andica Christina, Hiroyuki Tomita, Hidefumi Waki, Mana Kuramochi, Yuki Takenaka, Akifumi Hagiwara, Makoto Fukuo, Mutsumi Harada, Shigeki Aoki, Hisashi Naito. Brain Structural Networks in World-class Gymnasts: Evaluation Using Multi-shell, Multi-tissue, Constrained Spherical Deconvolution**
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会、2018 年 9 月 7 日(金)～2018 年 9 月 9 日(日)

56. ***Murata S, Kaga H, Someya Y, Irie R, Kamagata K, Hori M, Shimoji K, Nemoto K, Tamura Y, Aoki S. 低磁場 MRI における Atlas-based brain volumetry の精度検討**
第 41 回 日本脳神経 CI 学会総会, 新潟, 2018 年 3 月 2 日-3 日

57. ***Murata S, Hagiwara A, Kaga H, Someya Y, Irie R, Kamagata K, Hori M, Wada A, Shimoji K, Kiyotaka N, Tamura Y, Aoki S**
The accuracy of low magnetic field MRI in brain volume measurement: atlas-based analysis comparing between 0.3T and 3T.
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018 年 9 月 8 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

（以下、抜粋された以外の業績）

＜雑誌論文＞

【英文原著 2014 年】

1. Katakami N, Kaneto H, Matsuoka TA, Takahara M, Osonoi T, Saitou M, Kawai K, Ishibashi F, Kashiwagi A, Kawamori R, Shimomura I, Yamasaki Y
   Accumulation of oxidative stress-related gene polymorphisms and the risk of coronary heart disease events in patients with type 2 diabetes - An 8-year prospective study
   Atherosclerosis, 235: 408-414, 2014

2. Yamamoto E, Uchida T, Abe H, Taka H, Fujimura T, Komiya K, Hara A, Ogihara T, Fujitani Y, Ueno T, Takeda S, Watada H
   Increased expression of ERp57/GRP58 is protective against pancreatic beta cell death caused by autophagic failure
   Biochem Biophys Res Commun, 453: 19-24, 2014

3. Inagaki N, Ueki K, Tanizawa Y, Watada H, Nakamura J, Yamada Y, Shimomura I, Nishimura R, Yamazaki T, Kadowaki T
   Protocol for a large-scale prospective observational study with alogliptin in patients with type 2 diabetes: J-BRAND Registry
   BMJ Open, 4: e004760, 2014

4. Kaku K, Watada H, Iwamoto Y, Utsunomiya K, Terauchi Y, Tobe K, Tanizawa Y, Araki E, Ueda M, Suganami H, Watanabe D
   Efficacy and safety of monotherapy with the novel sodium/glucose cotransporter-2 inhibitor tofogliflozin in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: a combined Phase 2 and 3 randomized, placebo-controlled, double-blind, parallel-group comparative study
   Cardiovasc Diabetol, 13: 65, 2014

5. Sawada N, Jiang A, Takizawa F, Safdar A, Manika A, Tesmenitsky Y, Kang KT, Bischoff J, Kalwa H, Sartoretto JL, Kamei Y, Benjamin LE, Watada H, Ogawa Y, Higashikuni Y, Kessinger CW, Jaffer FA, Michel T, Sata M, Croce K, Tanaka R, Arany Z
   Endothelial PGC-1alpha mediates vascular dysfunction in diabetes
   Cell Metab, 19: 246-258, 2014

6. Osonoi Y, Mita T, Osonoi T, Saito M, Tamasawa A, Nakayama S, Someya Y, Ishida H, Kanazawa A, Gosho M, Fujitani Y, Watada H
   Morningness-eveningness questionnaire score and metabolic parameters in patients with type 2 diabetes mellitus
   Chronobiol Int, 31: 1017-1023, 2014

7. Ogawa H, Matsui K, Saito Y, Sugiyama S, Jinnouchi H, Sugawara M, Masuda I, Mori H, Waki M, Yoshiyama M, Watada H
   Differences between rosuvastatin and atorvastatin in lipid-lowering action and effect on glucose

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

metabolism in Japanese hypercholesterolemic patients with concurrent diabetes
Circ J, 78: 2512-2515, 2014

8. Miyatsuka T, Matsuoka TA, Sasaki S, Kubo F, Shimomura I, Watada H, German MS,Hara M
Chronological analysis with Fluorescent Timer reveals unique features of newly generated beta cells
Diabetes, 63: 3388-3393, 2014

9. Sato J, Kanazawa A, Ikeda F, Yoshihara T, Goto H, Abe H, Komiya K, Kawaguchi M, Shimizu T, Ogihara T, Tamura Y, Sakurai Y, Yamamoto R, Mita T, Fujitani Y, Fukuda H, Nomoto K, Takahashi T, Asahara T, Hirose T, Nagata S, Yamashiro Y, Watada H
Gut dysbiosis and detection of "live gut bacteria" in blood of Japanese patients with type 2 diabetes
Diabetes Care, 37: 2343-2350, 2014

10. Weng J, Soegondo S, Schnell O, Sheu WH, Grzeszczak W, Watada H, Yamamoto N, Kalra S
Efficacy of acarbose in different geographical regions of the world: analysis of a real-life database
Diabetes Metab Res Rev, 31: 155-167, 2014

11. Sanke H, Mita T, Yoshii H, Yokota A, Yamashiro K, Ingaki N, Onuma T, Someya Y, Komiya K, Tamura Y, Shimizu T, Ohmura C, Kanazawa A, Fujitani Y, Watada H
Relationship between olfactory dysfunction and cognitive impairment in elderly patients with type 2 diabetes mellitus
Diabetes Res Clin Pract, 106: 465-473, 2014

12. Sato F, Mita T, Yamamoto R, Hirose T, Ito C, Tamura Y, Yokota A, Someya Y, Uchida T, Uchino H, Kawamori R, Gosho M, Kanazawa A, Watada H
Reliability and validity of the Japanese version of the Diabetes Quality-Of-Life questionnaire for Japanese patients with type 2 diabetes mellitus
Diabetol Int, 5: 21-29, 2014

13. Shigihara N, Uchida T, Yorifuji T, Toyofuku Y, Tamaki M, Fujitani Y, Watada H
Olmesartan and telmisartan comparably preserve pancreatic beta-cell mass with reduction of oxidative stress in db/db mice
Diabetol Int, 5: 62-68, 2014

14. Mita T, Katakami N, Shiraiwa T, Yoshii H, Onuma T, Kuribayashi N, Osonoi T, Kaneto H, Kosugi K, Umayahara Y, Yamamoto T, Matsumoto K, Yokoyama H, Tsugawa M, Gosho M, Shimomura I, Watada H
Rationale, design, and baseline characteristics of a clinical trial for prevention of atherosclerosis in patients with insulin-treated type 2 diabetes mellitus using DPP-4 inhibitor: the Sitagliptin Preventive study of Intima-media thickness Evaluation (SPIKE)
Diabetol Metab Syndr, 6: 35, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

15. Uchida T, Goto H, Kasai T, Komiya K, Takeno K, Abe H, Shigihara N, Sato J, Honda A, Mita T, Kanazawa A, Fujitani Y, Watada H
Therapeutic effectiveness of potassium iodine in drug-naive patients with Graves' disease: a single-center experience
Endocrine, 47: 506-511, 2014

16. Yasunari E, Mita T, Osonoi Y, Azuma K, Goto H, Ohmura C, Kanazawa A, Kawamori R, Fujitani Y, Watada H
Repetitive hypoglycemia increases circulating adrenaline level with resultant worsening of intimal thickening after vascular injury in male Goto-Kakizaki rat carotid artery
Endocrinology, 155: 2244-2253, 2014

17. Tanizawa Y, Kaku K, Araki E, Tobe K, Terauchi Y, Utsunomiya K, Iwamoto Y, Watada H, Ohtsuka W, Watanabe D, Suganami H
Long-term safety and efficacy of tofogliflozin, a selective inhibitor of sodium-glucose cotransporter 2, as monotherapy or in combination with other oral antidiabetic agents in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: multicenter, open-label, randomized controlled trials
Expert Opin Pharmacother, 15: 749-766, 2014

18. Hara K, Fujita H, Johnson TA, Yamauchi T, Yasuda K, Horikoshi M, Peng C, Hu C, Ma RC, Imamura M, Iwata M, Tsunoda T, Morizono T, Shojima N, So WY, Leung TF, Kwan P, Zhang R, Wang J, Yu W, Maegawa H, Hirose H, Kaku K, Ito C, Watada H, Tanaka Y, Tobe K, Kashiwagi A, Kawamori R, Jia W, Chan JC, Teo YY, Shyong TE, Kamatani N, Kubo M, Maeda S,Kadowaki T
Genome-wide association study identifies three novel loci for type 2 diabetes
Hum Mol Genet, 23: 239-246, 2014

19. Yokoi H, Nohara R, Daida H, Hata M, Kaku K, Kawamori R, Kishimoto J, Kurabayashi M, Masuda I, Sakuma I, Yamazaki T, Yoshida M
Change in carotid intima-media thickness in a high-risk group of patients by intensive lipid-lowering therapy with rosuvastatin
Int Heart J, 55: 146-152, 2014

20. Uchida T, Kasai T, Takagi A, Sekita G, Komiya K, Takeno K, Shigihara N, Shimada K, Miyauchi K, Fujitani Y, Daida H, Watada H
Prevalence of amiodarone-induced thyrotoxicosis and associated risk factors in Japanese patients
Int J Endocrinol, 2014: 534904, 2014

21. Inami Y, Hamada C, Seto T, Hotta Y, Aruga S, Inuma J, Azuma K, Io H, Kaneko K, Watada H, Tomino Y
Effect of AST-120 on Endothelial Dysfunction in Adenine-Induced Uremic Rats
Int J Nephrol, 2014: 164125, 2014

22. Daida H, Nohara R, Hata M, Kaku K, Kawamori R, Kishimoto J, Kurabayashi M, Masuda I,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Sakuma I, Yamazaki T, Yokoi H, Yoshida M
Can intensive lipid-lowering therapy improve the carotid intima-media thickness in Japanese subjects under primary prevention for cardiovascular disease?: The JART and JART extension subanalysis
J Atheroscler Thromb, 21: 739-754, 2014

23. Teramoto T, Kawamori R, Miyazaki S, Teramukai S, Sato Y, Okuda Y, Shirayama M
Lipid and blood pressure control for the prevention of cardiovascular disease in hypertensive patients: A subanalysis of the OMEGA study
J Atheroscler Thromb, 22: 62-75, 2014

24. Yoshii H, Onuma T, Yamazaki T, Watada H, Matsuhisa M, Matsumoto M, Kitagawa K, Kitakaze M, Yamasaki Y, Kawamori R
Effects of pioglitazone on macrovascular events in patients with type 2 diabetes mellitus at high risk of stroke: The PROFIT-J Study
J Atheroscler Thromb, 21: 563-573, 2014

25. Shigihara N, Fukunaka A, Hara A, Komiya K, Honda A, Uchida T, Abe H, Toyofuku Y, Tamaki M, Ogihara T, Miyatsuka T, Hiddinga HJ, Sakagashira S, Koike M, Uchiyama Y, Yoshimori T, Eberhardt NL, Fujitani Y, Watada H
Human IAPP-induced pancreatic beta cell toxicity and its regulation by autophagy
J Clin Invest, 124: 3634-3644, 2014

26. Uchida T, Shigihara N, Takeno K, Komiya K, Goto H, Abe H, Sato J, Honda A, Fujitani Y, Watada H
Characteristics of patients with graves disease and intrathyroid hypovascularity compared to painless thyroiditis
J Ultrasound Med, 33: 1791-1796, 2014

27. Kawamori R, Kaku K, Hanafusa T, Oikawa T, Kageyama S, Hotta N
Effect of combination therapy with repaglinide and metformin hydrochloride on glycemic control in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus
Journal of Diabetes Investigation, 5: 72-79, 2014

28. Kudo-Fujimaki K, Hirose T, Yoshihara T, Sato F, Someya Y, Ohmura C, Kanazawa A, Fujitani Y, Watada H
Efficacy and safety of nateglinide plus vildagliptin combination therapy compared with switching to vildagliptin in type 2 diabetes patients inadequately controlled with nateglinide
Journal of Diabetes Investigation, 5: 400-409, 2014

29. Furuya N, Ikeda S, Sato S, Soma S, Ezaki J, Oliva Trejo JA, Takeda-Ezaki M, 1 Fujimura T, Arikawa-Hirasawa E, Tada N, Komatsu M, Tanaka K, Kominami E, Hattori N, Ueno T
PARKIN-mediated mitochondrial clearance contributes to the proteasome activation during

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

slow-twitch muscle atrophy via NFE2L1 nuclear translocation.
Autophagy 10: 631-641, 2014

30. Maruyama Y, Sou YS, Kageyama S, Takahashi T, Ueno T, Tanaka K, Komatsu M, Ichimura Y
LC3B is indispensable for selective autophagy of p62 but not basal autophagy.
Biochem Biophys Res Commun. 2014 Mar 28;446(1):309-15.

31. Yoshihara N, Takagi A, Ueno T, Ikeda S
Inverse correlation between LC3 and p62 expression in the progression of cutaneous squamous cell carcinoma.
J Dermatol. 2014 Apr;41(4):311-5.

32. Oliva Trejo JA, Asanuma K, Kim EH, Takagi-Akiba M, Nonaka K, Hidaka T, Komatsu M, Tada N, Ueno T, Tomino Y
Transient increase in proteinuria, poly-ubiquitylated proteins and ER stress markers in podocyte-specific autophagy-deficient mice following unilateral nephrectomy.
Biochem Biophys Res Commun. 446: 1190-1196, 2014

33. Akiyama T, Niyonsaba F, Kiatsurayanon C, Nguyen TT, Ushio H, Fujimura T, Ueno T, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S
The human cathelicidin LL-37 host defense peptide upregulates tight junction-related proteins and increases human epidermal keratinocyte barrier function.
J Innate Immun. 6: 739-53, 2014.

34. Tanida I, Ueno T, Uchiyama Y:
A super-ecliptic, pHluorin-mKate2, tandem fluorescent protein-tagged human LC3 for the monitoring of mammalian autophagy.
PLoS One. 9:e110600, 2014.

35. Watanabe T, Hanajima R, Shirota Y, Ohminami S, Tsutsumi R, Terao Y, Ugawa Y, Hirose S, Miyashita Y, Konishi S, Kunimatsu A, Ohtomo K.
Bidirectional effects on inter-hemispheric resting-state functional connectivity induced by excitatory and inhibitory repetitive transcranial magnetic stimulation.
Human Brain Mapping, 35, 1896-1905, 2014

36. Watanabe T, Kan S, Koike T, Misaki M, Konishi S, Miyauchi S, Miyashita Y, Masuda N.
Network-dependent modulation of brain activity during sleep.
Neuroimage, 98, 1-10, 2014

37. Hirose S, Jimura K, Kunimatsu A, Abe O, Ohtomo K, Miyashita Y, Konishi S.
Changes in cerebro-cerebellar interaction during response inhibition after performance improvement.
Neuroimage, 99, 142-148, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

38. Jimura K, Hirose S, Kunimatsu A, Ohtomo K, Koike Y, Konishi S.
Late development of brain-behavior correlations during response inhibition.
Neuroscience, 274, 383-392, 2014

39. Katsura M, Hirose S, Sasaki H, Mori H, Kunimatsu A, Ohtomo K, Jimura K. Konishi S.
Decreased fronto-temporal interaction during fixation after memory retrieval.
PLoS ONE, 9, e110798, 2014

40. Kumano H, Uka T.
Visual impairment by surrounding noise is due to interactions among stimuli in the higher-order visual cortex.
J Neurophysiol 112: 620-630, 2014.

41. Nakahara K, Ueda M, Yamada K, Koide T, Yoshimochi G, Funayama M, Kim JH, Yamakawa S, Mori A, Misumi Y, Uyama E, Hattori N, Ando Y.
Juvenile-onset parkinsonism with digenic parkin and PINK1 mutations treated with subthalamic nucleus stimulation at 45 years after disease onset.
J Neurol Sci. 345:276-7. 2014

42. Maraschi A, Ciammola A, Folci A, Sassone F, Ronzitti G, Cappelletti G, Silani V, Sato S, Hattori N, Mazzanti M, Chieregatti E, Mulle C, Passafaro M, Sassone J.
Parkin regulates kainate receptors by interacting with the GluK2 subunit.
Nat Commun. 5:5182. 2014

43. Shimada Y, Tanaka R, Shimura H, Yamashiro K, Urabe T, Hattori N.
Phosphorylation enhances recombinant HSP27 neuroprotection against focal cerebral ischemia in mice.
Neuroscience. 278:113-21. 2014

44. Shiba-Fukushima K, Inoshita T, Hattori N, Imai Y.
PINK1-mediated phosphorylation of Parkin boosts Parkin activity in Drosophila.
PLoS Genet. 10:e1004391. 2014

45. Shiba-Fukushima K, Arano T, Matsumoto G, Inoshita T, Yoshida S, Ishihama Y, Ryu KY, Nukina N, Hattori N, Imai Y.
Phosphorylation of mitochondrial polyubiquitin by PINK1 promotes Parkin mitochondrial tethering.
PLoS Genet. 10:e1004861. 2014

46. Mizuno Y, Nomoto M, Hasegawa K, Hattori N, Kondo T, Murata M, Takeuchi M, Takahashi M, Tomida T; Rotigotine Trial Group.
Rotigotine vs ropinirole in advanced stage Parkinson's disease: A double-blind study.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

"Parkinsonism Relat Disord. 2014 Oct 12;20(12):1388-1393.

47. Miyazaki H, Oyama F, Inoue R, Aosaki T, Abe T, Kiyonari H, Kino Y, Kurosawa M, Shimizu J, Ogiwara I, Yamakawa K, Koshimizu Y, Fujiyama F, Kaneko T, Shimizu H, Nagatomo K, Yamada K, Shimogori T, Hattori N, Miura M, Nukina N.
Singular localization of sodium channel β4 subunit in unmyelinated fibres and its role in the striatum.
Nat Commun. 2014 Nov 21;5:5525.

48. Shiba-Fukushima K, Inoshita T, Hattori N, Imai Y.
Lysine 63-linked Polyubiquitination Is Dispensable for Parkin-mediated Mitophagy.
J Biol Chem. 2014 Nov 28;289(48):33131-6.

49. Kashihara K, Kondo T, Mizuno Y, Kikuchi S, Kuno S, Hasegawa K, Hattori N, Mochizuki H, Mori H, Murata M, Nomoto M, Takahashi R, Takeda A, Tsuboi Y, Ugawa Y, Yamanmoto M, Yokochi F, Yoshii F, Stebbins GT, Tilley BC, Luo S, Wang L, LaPelle NR, Goetz CG; MDS-UPDRS Japanese Validation Study Group.
Official Japanese Version of the Movement Disorder Society-Unified Parkinson's Disease Rating Scale: validation against the original English version.
Mov Disord Clin Pract (Hoboken). 2014 Sep 1;1(3):200-212.

50. Kurita N, Ueno Y, Watanabe M, Miyamoto N, Shimura H, Nonaka S, Tsutsumi S, Yasumoto Y, Hattori N, Urabe T.
Three cases of cervicocephalic artery dissection in an amusement park.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2014 Nov-Dec;23(10):e467-71.

51. Kuroki T, Yamashiro K, Tanaka R, Hirano K, Shimada Y, Hattori N.
Vertebral artery dissection in patients with autosomal dominant polycystic kidney disease.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2014 Nov-Dec;23(10):e441-3.

52. Amo T, Saiki S, Sawayama T, Sato S, Hattori N.
Detailed analysis of mitochondrial respiratory chain defects caused by loss of PINK1.
Neurosci Lett.2014 Sep 19;580:37-40.

53. Mitome-Mishima Y, Miyamoto N, Tanaka R, Shimosawa T, Oishi H, Arai H, Hattori N, Urabe T.
Adrenomedullin deficiency and aging exacerbate ischemic white matter injury after prolonged cerebral hypoperfusion in mice.
Biomed Res Int. 2014;2014:861632.

54. Fukae J, Fukaya C, Oshima H, Ishii K, Tsuboi Y, Katayama Y, Hattori N.
Successful treatment with bilateral deep brain stimulation of the subthalamic nucleus for benign tremulous parkinsonism.
Rinsho Shinkeigaku. 2014;54(6):511-4.Japanese.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

55. Hatano T, Funayama M, Kubo S, Mata IF, Oji Y, Mori A, Zabetian CP, Waldherr SM, Yoshino H, Oyama G, Shimo Y, Fujimoto K, Oshima H, Kunii Y, Yabe H, Mizuno Y, Hattori N.
Identification of a Japanese family with LRRK2 p.R1441G-related Parkinson's disease.
Neurobiol Aging. 2014 Nov;35(11):2656.e17-23.

56. Fujimaki T, Saiki S, Tashiro E, Yamada D, Kitagawa M, Hattori N, Imoto M.
Identification of licopyranocoumarin and glycyrurol from herbal medicines as neuroprotective compounds for Parkinson's disease.
PLoS One. 2014 Jun 24;9(6):e100395.

57. Ueno Y, Okuzumi A, Watanabe M, Tanaka Y, Shimada Y, Yamashiro K, Tanaka R, Hattori N, Urabe T.
Cerebral small artery diseases may be associated with aortic arch calcification in stroke patients.
J Atheroscler Thromb. 2014;21(10):1011-21.

58. Hattori N, Saiki S, Imai Y.
Regulation by mitophagy.
Int J Biochem Cell Biol.2014 Aug;53:147-50.

59. Hattori N.
REST as a new therapeutic target for neurodegenerative disorders.
Mov Disord. 2014 Jun;29(7):869.

60. Nishioka K, Tanaka R, Tsutsumi S, Yamashiro K, Nakahara M, Shimura H, Hattori N, Urabe T.
Cerebral dural sinus thrombosis associated with adenomyosis: a case report.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2014 Aug;23(7):1985-7.

61. Hattori N, Nomoto M; 6500-004 Study Group.
Sustained efficacy of apomorphine in Japanese patients with advanced Parkinson's disease.
Parkinsonism Relat Disord. 2014 Aug;20(8):819-23.

62. Fukae J, Ishikawa K, Hatano T, Yoritaka A, Takanashi M, Shimo Y, Tsugawa J, Tsuboi Y, Hattori N.
Serum uric acid concentration is linked to wearing-off fluctuation in Japanese Parkinson's disease patients.
J Parkinsons Dis. 2014;4(3):499-505.

63. Okuzumi A, Hatano T, Nakahara T, Yokoyama K, Hattori N.
Ophthalmic nerve hypertrophy in chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy.
Neurology. 2014 Apr 29;82(17):1566-7.

64. Nishioka K, Tanaka R, Shimura H, Hirano K, Hatano T, Miyakawa K, Arai H, Hattori N, Urabe T.
Quantitative evaluation of electroconvulsive therapy for Parkinson's disease with refractory

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

psychiatric symptoms.
J Neural Transm. 2014 Nov;121(11):1405-10.

65. Noda K, Hattori N, Okuma Y.
Primary central nervous system lymphoma presenting as choreoathetosis.
BMJ Case Rep. 2014 Apr 16;2014. pii: bcr2013203353.

66. Motoi Y, Shimada K, Ishiguro K, Hattori N.
Lithium and Autophagy.
ACS Chem Neurosci. 2014 Jun 18;5(6):434-42.

67. Hori M, Yoshida M, Yokoyama K, Kamagata K, Kumagai F, Fukunaga I, Kamiya K, Suzuki M, Masutani Y, Hamasaki N, Suzuki Y, Kyogoku S, Hattori N, Aoki S.
Multiple sclerosis: Benefits of q-space imaging in evaluation of normal-appearing and periplaque white matter.
Magn Reson Imaging. 2014 Jul;32(6):625-9.

68. Ishikawa K, Saiki S, Furuya N, Yamada D, Imamichi Y, Li Y, Kawajiri S, Sasaki H, Koike M, Tsuboi Y, Hattori N.
P150glued-associated disorders are caused by activation of intrinsic apoptotic pathway.
PLoS One. 2014 Apr 10;9(4):e94645.

69. Yamanaka T, Wong HK, Tosaki A, Bauer PO, Wada K, Kurosawa M, Shimogori T, Hattori N, Nukina N.
Large-scale RNA interference screening in mammalian cells identifies novel regulators of mutant huntingtin aggregation.
PLoS One. 2014 Apr 4;9(4):e93891.

70. Nishioka K, Funayama M, Vilariño-Güell C, Ogaki K, Li Y, Sasaki R, Kokubo Y, Kuzuhara S, Kachergus JM, Cobb SA, Takahashi H, Mizuno Y, Farrer MJ, Ross OA, Hattori N.
EIF4G1 gene mutations are not a common cause of Parkinson's disease in the Japanese population.
Parkinsonism Relat Disord. 2014 Jun;20(6):659-61.

71. Ishikawa K, Motoi Y, Mizuno Y, Kubo S, Hattori N.
Effects of donepezil dose escalation in Parkinson's patients with dementia receiving long-term donepezil treatment: an exploratory study.
Psychogeriatrics. 2014 Jun;14(2):93-100.

72. Yamanaka T, Tosaki A, Kurosawa M, Matsumoto G, Koike M, Uchiyama Y, Maity SN, Shimogori T, Hattori N, Nukina N.
NF-Y inactivation causes atypical neurodegeneration characterized by ubiquitin and p62 accumulation and endoplasmic reticulum disorganization.
Nat Commun. 2014 Feb 25;5:3354.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

73. Yamashita C, Tomiyama H, Funayama M, Inamizu S, Ando M, Li Y, Yoshino H, Araki T, Ichikawa T, Ehara Y, Ishikawa K, Mizusawa H, Hattori N.
Evaluation of polyglutamine repeats in autosomal dominant Parkinson's disease.
Neurobiol Aging. 2014 Jul;35(7):1779.e17-21.

74. Oyama G, Umemura A, Shimo Y, Nishikawa N, Nakajima A, Jo T, Nakajima M, Ishii H, Yamada D, Takanashi M, Arai H, Nanba E, Hattori N.
Posterior Subthalamic Area Deep Brain Stimulation for Fragile X-Associated Tremor/Ataxia Syndrome.
Neuromodulation. 2014 Dec;17(8):721-3.

75. Yamashiro K, Tanaka R, Tanaka Y, Miyamoto N, Shimada Y, Ueno Y, Urabe T, Hattori N.
Visceral fat accumulation is associated with cerebral small vessel disease.
Eur J Neurol. 2014 Apr;21(4):667-73.

76. Kamagata K, Tomiyama H, Hatano T, Motoi Y, Abe O, Shimoji K, Kamiya K, Suzuki M, Hori M, Yoshida M, Hattori N, Aoki S.
A preliminary diffusional kurtosis imaging study of Parkinson disease: comparison with conventional diffusion tensor imaging.
Neuroradiology. 2014 Mar;56(3):251-8.

77. Furuya N, Ikeda S, Sato S, Soma S, Ezaki J, Oliva Trejo JA, Takeda-Ezaki M, Fujimura T, Arikawa-Hirasawa E, Tada N, Komatsu M, Tanaka K, Kominami E, Hattori N, Ueno T.
PARK2/Parkin-mediated mitochondrial clearance contributes to proteasome activation during slow-twitch muscle atrophy via NFE2L1 nuclear translocation.
Autophagy. 2014 Apr;10(4):631-41.

78. Kerever A, Mercier F, Nonaka R, de Vega S, Oda Y, Zalc B, Okada Y, Hattori N, Yamada Y, Arikawa-Hirasawa E.
Perlecan is required for FGF-2 signaling in the neural stem cell niche.
Stem Cell Res. 2014 Mar;12(2):492-505.

79. Hattori N.
Cerebral organoids model human brain development and microcephaly.
Mov Disord. 2014 Feb;29(2):185.

80. Mori A, Ueno Y, Kuroki T, Hoshino Y, Shimura H, Sekiguchi Y, Noguchi M, Hamada Y, Kusunoki S, Hattori N, Urabe T.
Motor-dominant polyneuropathy due to IgM monoclonal antibody against disialosyl gangliosides in a patient with mantle cell lymphoma.
J Neurol Sci. 2014 Feb 15;337(1-2):215-8.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

81. Shen Q, Yamano K, Head BP, Kawajiri S, Cheung JT, Wang C, Cho JH, Hattori N, Youle RJ, van der Bliek AM.
Mutations in Fis1 disrupt orderly disposal of defective mitochondria.
Mol Biol Cell. 2014 Jan;25(1):145-59.

82. Hatano T, Hattori N, Kawanabe T, Terayama Y, Suzuki N, Iwasaki Y, Fujioka T; Yokukansan Parkinson's Disease Study Group.
An exploratory study of the efficacy and safety of yokukansan for neuropsychiatric symptoms in patients with Parkinson's disease.
J Neural Transm. 2014;121(3):275-81.

83. Li Y, Sekine T, Funayama M, Li L, Yoshino H, Nishioka K, Tomiyama H, Hattori N.
Clinicogenetic study of GBA mutations in patients with familial Parkinson's disease.
Neurobiol Aging. 2014 Apr;35(4):935.e3-8.

84. Ueno Y, Yamashiro K, Tanaka Y, Watanabe M, Shimada Y, Kuroki T, Miyamoto N, Daimon M, Tanaka R, Miyauchi K, Daida H, Hattori N, Urabe T.
Rationale and design of the EPISTEME trial: efficacy of post-stroke intensive rosuvastatin treatment for aortogenic embolic stroke.
Cardiovasc Drugs Ther. 2014 Feb;28(1):79-85.

85. Funabe S, Tanaka R, Hayashi A, Yamashiro K, Shimura H, Hattori N.
Reversible dropped head syndrome after hemispheric striatal infarction.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2014 Apr;23(4):785-7.

86. Tomizawa Y, Tanaka R, Sekiguchi K, Oji Y, Tanaka Y, Yamashiro K, Hattori N.
Cerebral infarction in a case of Parry-Romberg syndrome.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2014 Feb;23(2):393-4.

87. Shimo Y, Natori S, Oyama G, Nakajima M, Ishii H, Arai H, Hattori N.
Subthalamic deep brain stimulation for a Parkinson's disease patient with duplication of SNCA.
Neuromodulation. 2014 Jan;17(1):102-3.

88. Hongo H, Tanaka Y, Shimada Y, Tanaka R, Hattori N, Urabe T.
Dermatomal sensory manifestations in lateral medullary infarction.
J Stroke Cerebrovasc Dis.2014 Jan;23(1):182-3.

89. Ogita M, Miyauchi K, Jiang M, Kasai T, Tsuboi S, Naito R, Konishi H, Dohi T, Yokoyama T, Okazaki S, Shimada K, Bujo H, Daida H.
Circulating soluble LR11, a novel marker of smooth muscle cell proliferation, is enhanced after coronary stenting in response to vascular injury.
Atherosclerosis. 237:374-378;2014.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

90. Isoda K, Akita K, Isobe S, Niida T, Adachi T, Iwakura Y, Daida H.
Interleukin-1 receptor antagonist originating from bone marrowderived cells and non-bone marrow-derived cells helps to suppress arterial inflammation and reduce neointimal formation after injury.
J Atheroscler Thromb. 2014;21(11):1208-18.

91. Naito R, Miyazaki T, Kajino K, Daida H.
Fulminant pneumococcal infection.
BMJ Case Rep. 2014 Aug 22;2014. pii: bcr2014205907.

92. Dai Y, Konishi H, Takagi A, Miyauchi K, Daida H.
Red cell distribution width predicts short- and long-term outcomes of acute congestive heart failure more effectively than hemoglobin.
Exp Ther Med. 2014 Aug;8(2):600-606.

93. Odagiri F, Inoue H, Sugihara M, Suzuki T, Murayama T, Shioya T, Konishi M, Nakazato Y, Daida H, Sakurai T, Morimoto S, Kurebayashi N.
Effects of candesartan on electrical remodeling in the hearts of inherited dilated cardiomyopathy model mice.
PLoS One. 2014 Jul 7;9(7):e101838.

94. Sekimoto Y, Nishizaki Y, Sesoko M, Sai E, Yamashita H, Yamagami S, Daida H.
Syncope due to paroxysmal complete atrioventricular block in a patient with aortic valve stenosis.
Intern Med. 2014;53(12):1347-9.

95. Fujimoto S, Kondo T, Kodama T, Fujisawa Y, Groarke J, Kumamaru KK, Takamura K, Matsunaga E, Miyauchi K, Daida H, Rybicki FJ.
A novel method for non-invasive plaque morphology analysis by coronary computed tomography angiography.
Int J Cardiovasc Imaging. 2014 Oct;30(7):1373-82.

96. Someya Y, Kawai S, Kohmura Y, Aoki K, Daida H.
Cardiorespiratory fitness and the incidence of type 2 diabetes: a cohort study of Japanese male athletes.
BMC Public Health. 2014 May 23;14:493.

97. Saito M, Ueshima K, Saito M, Iwasaka T, Daida H, Kohzuki M, Makita S, Adachi H, Yokoi H, Omiya K, Mikouchi H, Yokoyama H, Goto Y; Japanese Cardiac Rehabilitation Survey Investigators.
Safety of exercise-based cardiac rehabilitation and exercise testing for cardiac patients in Japan: a nationwide survey.
Circ J. 2014;78(7):1646-53.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

98. Nishizaki Y, Daida H.
The relationship between high red blood cell distribution width and low coronary flow reserve in patients with idiopathic dilated cardiomyopathy.
Anadolu Kardiyol Derg. 2014 Jun;14(4):349-50.

99. Sasaki S, Daimon M, Kawata T, Miyazaki S, Ichikawa R, Maruyama M, Chiang SJ, Mahara K, Watanabe H, Sumiyoshi T, Tomoike H, Daida H.
Factors responsible for elevated plasma B-type natriuretic peptide levels in severe aortic stenosis: comparison between elderly and younger patients.
J Cardiol. 2014 Dec;64(6):476-81.

100. Teramoto T, Sasaki J, Ishibashi S, Birou S, Daida H, Dohi S, Egusa G, Hiro T, Hirobe K, Iida M, Kihara S, Kinoshita M, Maruyama C, Ohta T, Okamura T, Yamashita S, Yokode M, Yokote K; Japan Atherosclerosis Society Committee for Epidemiology and Clinical Management of Atherosclerosis.
Statements. J Atheroscler Thromb. 2014;21(4):299-303.

101. Maruyama M, Daimon M, Kawata T, Kasai T, Ichikawa R, Miyazaki S, Ohmura H, Yamamoto T, Amano A, Daida H.
Early hemodynamic performance of the trifecta bioprosthetic valve in patients with aortic valve disease.
Circ J. 2014;78(6):1372-8

102. Masuda H, Miyazaki T, Shimada K, Tamura N, Matsudaira R, Yoshihara T, Ohsaka H, Sai E, Matsumori R, Fukao K, Hiki M, Kume A, Kiyanagi T, Takasaki Y, Daida H.
Disease duration and severity impacts on long-term cardiovascular events in Japanese patients with rheumatoid arthritis.
J Cardiol. 64:366-370;2014.

103. Konishi H, Miyauchi K, Kasai T, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Katoh Y, Okai I, Tamura H, Okazaki S, Daida H.
Long-term prognosis and clinical characteristics of young adults (≤40 years old) who underwent percutaneous coronary intervention.
J Cardiol. 2014 Sep;64(3):171-4.

104. Miyazaki T, Hiki M, Shimada K, Kume A, Kiyanagi T, Sumiyoshi K, Daida H.
The high molecular weight adiponectin level is associated with the atherogenic lipoprotein profiles in healthy Japanese males.
J Atheroscler Thromb. 21:672-9;2014.

105. Ito T, Sato K, Maekawa H, Sakurada M, Orita H, Shimada K, Daida H, Wada R, Abe M, Hino O, Kajiyama Y.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Elevated levels of serum fatty acid synthase in patients with gastric carcinoma.
Oncol Lett. 7:616-620;2014.

106. Daida H, Teramoto T, Kitagawa Y, Matsushita Y, Sugihara M.
The relationship between low-density lipoprotein cholesterol levels and the incidence of cardiovascular disease in high-risk patients treated with pravastatin: main results of the APPROACH-J study.
Int Heart J. 2014;55(1):39-47.

107. Teramoto T, Sasaki J, Ishibashi S, Birou S, Daida H, Dohi S, Egusa G, Hiro T, Hirobe K, Iida M, Kihara S, Kinoshita M, Maruyama C, Ohta T, Okamura T, Yamashita S, Yokode M, Yokote K.Japan Atherosclerosis Society Committee for Epidemiology and Clinical Management of Atherosclerosis.
Diagnosis of atherosclerosis. Executive Summary of the Japan Atherosclerosis Society (JAS) Guidelines for the Diagnosis and Prevention of Atherosclerotic Cardiovascular Diseases in Japan―2012 Version.
J Atheroscler Thromb. 2014;21(4):296-8.

108. Teramoto T, Sasaki J, Ishibashi S, Birou S, Daida H, Dohi S, Egusa G, Hiro T, Hirobe K, Iida M, Kihara S, Kinoshita M, Maruyama C, Ohta T, Okamura T, Yamashita S, Yokode M, Yokote K; Japan Atherosclerosis Society Committee for Epidemiology and Clinical Management of Atherosclerosis.
Women. Executive Summary of the Japan Atherosclerosis Society (JAS) Guidelines for the Diagnosis and Prevention of Atherosclerotic Cardiovascular Diseases in Japan―2012 Version.
J Atheroscler Thromb. 2014;21(4):291-5.

109. Nishizaki Y, Shimada K, Tani S, Ogawa T, Ando J, Takahashi M, Yamamoto M, Shinozaki T, Miyauchi K, Nagao K, Hirayama A, Yoshimura M, Komuro I, Nagai R, Daida H.
Significance of Imbalance in the Ratio of Serum n-3 to n-6 Polyunsaturated Fatty Acids in Patients with Acute Coronary Syndrome
Am J Cardiol. 113:441-445;2014.

110. Shinji Yokoyama, Hirotsugu Ueshima, Takashi Miida, Masakazu Nakamura, Koki Takata, Tatsuyuki Fukukawa, Takaaki Goto, Mariko Harada-Shiba, Michitaka Sano, Kiminori Kato, Kazuhiro Matsuda
High-density lipoprotein levels have markedly increased over the past twenty years in Japan
J Atheroscler Thromb Vol. 21 No. 2: 151-160, 2014

111. Y Tabe, L Jin, M Konopleva, M Shikami, S Kimura, M Andreeff, M Raffeld, T Miida
IA PI3K inhibition inhibits cell growth and proliferation in mantle cell lymphoma.
Acta Haematol Vol. 131 No. 1: 59-69, 2014

112. Takashi Miida, Kunihiro Nishimura, Tomonori Okamura, Satoshi Hirayama, Hirotoshi Ohmura, Hiroshi Yoshida, Yoh Miyashita, Masumi Ai, Akira Tanaka, Hiroyuki Sumino, Masami Murakami,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Ikuo Inoue, Yuzo Kayamori, Masakazu Nakamura, Tsutomu Nobori, Yukihisa Miyazawa, Tamio Teramoto, Shinji Yokoyama
Validation of homogeneous assays for HDL-cholesterol using fresh samples from healthy and diseased subjects.
Atherosclerosis Vol. 233 No. 1: 253-259, 2014

113. Satoshi Yamaguchi, Bo Zhang, Takeshi Tomonaga, Utako Seino, Akiko Kanagawa, Hironori Nagasaka, Akira Suzuki, Takashi Miida
Sohsuke Yamada, Yasuyuki Sasaguri, Takefumi Doi, Keijiro Saku, Mitsuyo Okazaki, Yoshihiro Tochino, Ken-ichi Hirano
Selective evaluation of high density lipoprotein from mouse small intestines by an in situ perfusion technique.
J Lipid Res Vol. 55 No. 5: 905–918, 2014

114. Hiromichi Shoji, Yayoi Murano, Mari Mori, Nobuaki Matsunaga, Natsuki Ohkawa, Hiroki Suganuma, Mitsuru Ikeno, Ken Hisata, Satoshi Hirayama, Tsuyoshi Ueno, Takashi Miida, Toshiaki Shimizu
Lipid profile and atherogenic indices soon after birth in Japanese preterm infants.
Acta Paediatr Vol. 103 No. 1, 22-26, 2014

115. Idei Mayumi, Hirayama Satoshi, Miyake Noriko, Kon Mika, Horiuchi Yuki, Ueno Tsuyoshi, Miyake Kazunori, Satoh Naotake, Yoshii Hidenori, Yamashiro Keiko, Onuma Tomio, Miida Takashi
Mean postprandial triglyceride concentration is an independent risk factor for carotid atherosclerosis in patients with type 2 diabetes.
Clin Chim Acta 430: 134-139, 2014

116. Nagasaka Hironori, Tsukahara Hirokazu, Okano Yoshiyuki, Hirano Ken-ichi, Sakurai Toshiro, Hui Shu-Ping, Ohura Toshiro, Usui Hiromi, Yorifuji Tohru, Hirayama Satoshi, Ohtake Akira, Miida Takashi
Changes of lipoproteins in phenylalanine hydroxylase-deficient children during the first year of life.
Clin Chim Acta 433: 1-4, 2014

117. Nishioka Emiko, Yokoyama Kazuhito, Matsukawa Takehisa, Vigeh Mohsen, Hirayama Satoshi, Ueno Tsuyoshi, Miida Takashi, Makino Shintaro, Takeda Satoru
Evidence that birth weight is decreased by maternal lead levels below 5μg/dl in male newborns
Reprod Toxicol 47: 21-26, 2014

118. Naho Ikeda, Hiromichi Shoji, Yayoi Murano, Mari Mori, Nobuaki Matsunaga, Hiroki Suganuma, Mitsuru Ikeno, Ken Hisata, Satoshi Hirayama, Tsuyoshi Ueno, Takashi Miida, Toshiaki Shimizu
Effects of breastfeeding on the risk factors for metabolic syndrome in preterm infants
J Dev Orig Health Dis Vol. 5 No. 6: 459-464, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

119. Nobumasa Ohara, Osamu Hanyu, Satoshi Hirayama, Osamu Nakagawa, Yoshifusa Aizawa, Seiki Ito, Hirosato Sone
Hypertension increases urinary excretion of immunoglobulin G, ceruloplasmin and transferrin in normoalbuminuric patients with type 2 diabetes mellitus
Journal of Hypertension, 2014; 32: 432-438

120. Ishijima M, Nakamura T, Shimizu K, Hayashi K, Kikuchi H, Soen S, Omori G, Yamashita T, Uchio Y, Chiba J, Ideno Y, Kubota M, Kurosawa H, Kaneko K, for the Research Group of Cartilage Metabolism
Intra-articular hyaluronic acid injection versus oral non-steroidal anti-inflammatory drug for the treatment of knee osteoarthritis: -a multicenter, randomized, open-label, non-inferiority trial
Arthritis Res Ther, 16, R18, 2014

121. Saita Y, Ishijima, M, Mogami A, Baba T, Nagao M, Sakai K, Homma Y, Kato R, Miyagawa K, Nagura N, Wada T, Liu L, Obayashi O, Gen H, Kajihara H, Nozawa M, Shitoto K, Kaneko K.
The incidence of and risk factors for developing atypical femoral fractures in Japan
J Bone Miner Metab, Epub 2014 May 23

122. Saita Y, Ishijima, M, Mogami A, Baba T, Nagao M, Sakai K, Homma Y, Kato R, Miyagawa K, Nagura N, Wada T, Liu L, Obayashi O, Gen H, Kajihara H, Nozawa M, Shitoto K, Kaneko K
The fracture sites of atypical femoral fractures are associated with the weight-bearing lower limb alignment
Bone, 66, 105-110, 2014

123. Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, Kakigi R, Sugiura T, Powers SK, Naito H.
Heat stress protects against mechanical ventilation-induced diaphragmatic atrophy.
J Appl Physiol. 117(5): 518-24, 2014.

124. Ichinoseki-Sekine N, Kakigi R, Miura S, Naito H.
Whey peptide ingestion suppresses body fat accumulation in senescence-accelerated mouse prone 6 (SAMP6).
Eur J Nutr. 2014. [Epub ahead of print]

125. Kakigi R, Yoshihara T, Ozaki H, Ogura Y, Ichinoseki-Sekine N, Kobayashi H, Naito H
Whey protein intake after resistance exercise activates mTOR signaling in a dose-dependent manner in human skeletal muscle.
European Journal of Applied Physiolgy. 114(4): 735-42, 2014

126. Ozaki H, Kakigi R, Kobayashi H, Loenneke JP, Abe T, Naito H.
Effects of walking combined with restricted leg blood flow on mTOR and MAPK signalling in young men.
Acta Physiologica. 211(1): 97-106, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

127. Sakamoto A, Naito H, Chow CM.
Hyperventilation as a strategy for improved repeated sprint performance.
J Strength Cond Res. 28 (4): 1119-26 (2014).

128. Akaike K, Kurisaki-Arakawa A, Hara K, Suehara Y, Takagi T, Mitani K, Kaneko K, Yao T, Saito T.
Distinct clinicopathological features of NAB2-STAT6 fusion gene variants in solitary fibrous tumor with emphasis on the acquisition of highly malignant potential.
Hum Pathol, Epub 2014 Dec 10.

129. Akaike K, Suehara Y, Takagi T, Kaneko K, Saito T
An eggshell-like mineralized recurrent lesion in the popliteal region after treatment of giant cell tumor of the bone with denosumab.
Skeletal Radiology, 2014; 43: 1767-1772

130. Asahina M, Saito T, Arakawa A, Suehara Y, Takagi T, Hisasue S, Kaneko K, Horie S, Yao T.
A case of primary spindle cell variant of embryonal rhabdomyosarcoma of the prostate. International journal of clinical and experimental pathology
Int J Clin Exp Pathol, 2014; 7(8): 5181-5

131. Baba T, Futamura K, Aoki K, Homma Y, Shitoto K, Kaneko K
Combination of multi- osteosynthesis devices for femoral trochanteric fracture of giantism
Eur Orthop Trauma, 2014; 5: 367-369

132. Baba T, Homma Y, Takazawa N, Kobayashi H, Matsumoto M, Aritomi K, Yuasa T, Kaneko K
Is urinary incontinence the hidden secret complications after total hip arthroplasty?
Eur J Orthop Surg Trauma, 2014; 24: 1455-60

133. Futamura K, Baba T, Kudo T, Homma Y, Yuichiro M, Shitoto K, Kaneko K.
Fixation for the open proximal tibia fracture approached by posteromedian for gastrocnemius flap combined with anterolateral approach.
Eur Orthop Traumatol., 2014 (Epub ahead of print)

134. Homma Y, Kaneko K, Hernigou P
Supercharging allografts with mesenchymal stem cells inoperating room during hip revision.
Int orthop, 2014; 38: 2033-44

135. Igeta Y, Naito K, Sugiyama Y, Kaneko K, Obayashi O
Pulmonary thromboembolism after operation for bilateral open distal radius fractures: a case report.
BMC Research Notes, 2014; 7: 36

136. Kawasaki T, Maki N, Shimizu K, Ota C, Urayama S, Moriya S, Kaketa T, Kobayashi H, Kaneko K.
Do stingers affect scapular kinematics in rugby players?
J Shoulder Elbow Surg, 2014; 23: e293-e299

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

137. Kawasaki T, Ota C, Urayama S, Maki N, Nagayama M, Kaketa T, Takazawa Y, Kaneko K.
Incidence of and risk factors for traumatic anterior shoulder dislocation. An epidemiologic study in high school rugby players.
J Shoulder Elbow Surg, 2014; 23: 1624-1630

138. Kubota M, Ikeda H, Takazawa Y, Ishijima M, Saita Y, Kaneko H, Kim SG, Kurosawa H, Kaneko K
Preoperative assessments completed for anterior cruciate ligament reconstructions with remnant preservation.
J Orthopaedics 2014

139. Kubota M, Ryuichi Ohno, Ishijima M, Hanyu R, Sakai K, Sugawara Y, Ochi H, Mukasa F, Kaneko K
Minimally invasive endoscopic decompression of the intermetatarsal nerve for Morton's neuroma.
J Orthopaedics, 2014; 64: 1-4

140. Kurisaki-Arakawa A, Akaike K, Tomomasa R, Arakawa A, Suehara Y, Takagi T, Kaneko K, Yao T, Saito T.
A case of low-grade fibromyxoid sarcoma with unusual central necrosis in a 77-year-old man confirmed by FUS-CREB3L2 gene fusion.
International Journal of Surgery Case Reports, 2014; 5(12): 1123-1127

141. Kurisaki-Arakawa A, Suehara Y, Arakawa A, Takagi T, Takahashi M, Mitani K, Kaneko K, Yao T, Saito T.
Deeply located low-grade fibromyxoid sarcoma with FUS-CREB3L2 gene fusion in a 5-year-old boy with review of literature
Diagn Pathol, 2014; 9(1): 163

142. Maezawa K, Nozawa M, Yuasa T, Aritomi K, Ogawa S, Maruyama Y, Kaneko K.
Mid-term clinical results of total hip arthroplasty using a Wagner standard cup for dysplastic hip.
Journal of Orthopaedics, 2014; 11: 170-173

143. Maruyama Y, Osawa A, Mamiya Y, Kaneko K
Marked varus deformity due to insufficiency fracture of the proximal tibia treated by open-wedge high tibial osteotomy: A case report
Eur Orthop Traumatol, 2014 (Epub ahead of print)

144. Matsuo T, Watari T, Naito K, Mogami A, Kaneko K, Obayashi O
Percutaneous cerclage wiring for the surgical treatment of displaced patella fractures.
Strat Traum Limb Recon, 2014; 9: 19-23

145. Morikawa D, Itoigawa Y, Nojiri H, Sano H, Itoi E, Saijo Y, Kaneko K, Shimizu T.
Contribution of oxidative stress to the degeneration of rotator cuff entheses.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

J Shoulder Elbow Surg, 2014; 23(5): 628-35

146. Mukaihara K, Kubota D, Yoshida A, Asano, Suehara Y, Kaneko K, Kawai A, Kondo T.
Proteomic Profile of Epithelioid Sarcoma.
J Proteomics Bioinform, 2014; 7(7): 158-165

147. Naito K, Sugiyama Y, Igeta Y, Kaneko K, Obayashi O.
Irreducible dislocation of the thumb interphalangeal joint due to displaced flexor pollicis longus tendon: case report and new reduction technique.
Arch Orthop Traum Surg, 2014; 134: 1175-1178

148. Ochi H, Ohno R, Kubota M, Hanyu R, Sakai K, Sugawara Y, Mukasa F, Kaneko K:
Case report: The operation for the lumbar disk herniation just after cesarean delivery in the third trimester of pregnancy.
Int J Surg Case Rep, 2014; 5: 1178–1182

149. Okubo T, Saito T, Takagi T, Suehara Y, Kaneko K
Desmoplastic fibroma of the rib with cystic change: a case report and literature review
Skeletal Radiol, 2014; 43: 703-8

150. Okubo T, Suehara Y, Kawasaki T, Akaike K, Toda M, Okubo N, Kubota D, Mukaihara K, Kim Y, Kaketa T, Homma Y, Shimanouchi N, Saito T, Takagi T and Kaneko K.
An Outpatient-based Survey about the Recognition of Locomotive Syndrome and the Results of the Loco-check at a University Hospital in Tokyo
British Journal of Medicine & Medical Research, 2014; 4: 3255-3268

151. Sugiyama Y, Naito K, Igeta Y, Kaneko K, Obayashi O.
Ulnar para-metacarpal flap for recurrence of the Dupuytren's disease with skin ulcer: A case report.
J Orthop Cas Rep, 2014; 4: 60-63

152. Sugiyama Y, Naito K, Igeta Y, Obata H, Kaneko K, Obayashi O.
Treatment strategy for distal radius fractures with ipsilateral arteriovenous shunts.
J Hand Surg Am, 2014; 39: 2265-2268

153. Toda M, Suehara Y, Akaike K, Okubo T, Kubota D, Mukaihara K, Kaneko K, Yao T, Takagi T, Saito T.
Giant-cell tumor of bone arising in the anterior rib with a positive expression of GPX-1: a case report and review of the literature.
Int Canc Conf J, 2014; 3: 178–182

154. Yuasa T, Yamakawa J, Maezawa K, Kaneko K.
Prospective study on antimicrobial prophylaxis in total hip arthroplasty
Eur J Orthop Surg Traumatol, Sep 21, 2014.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

【英文原著 2015 年】

1. Emiko Nishioka, Satoshi Hirayama, Tsuyoshi Ueno, Takehisa Matsukawa, Mohsen Vigeh, Kazuhito Yokoyama, Shintaro Makino, Satoru Takeda, Takashi Miida
   Relationship between maternal thyroid-stimulating hormone (TSH) elevation during pregnancy and low birth weight: a longitudinal study of apparently healthy urban Japanese women at very low risk
   Early Human Development, 2015 Mar;91(3):181-5.

2. Nagasaka H, Hirayama S, Takuwa M, Nakacho M, Yorifuji T, Kondou H, Miida T.
   ApoE4 determines the reduction in LDL-C after GH replacement therapy in children with an idiopathic GH deficiency.
   J Clin Endocrinol Metab, 2015 Sep;100(9):3494-501.

3. Nishioka E, Hirayama S, Ueno T, Matsukawa T, Vigeh M, Makino S, Takeda S, Yokoyama K, Miida T.
   High maternal TSH concentration in late pregnancy is an independent predictor of a low birth weight infant.
   Early Hum Dev, 2015; 91(3): 181-185

4. Ashihara E, Munaka T, Kimura S, Nakagawa S, Nakagawa Y, Kanai M, Hirai H, Abe H, Miida T, Yamato S, Shoji S, Maekawa T.
   Isopentenyl pyrophosphate secreted from zoledronate-stimulated myeloma cells, activates the chemotaxis of γδT cells.
   Biochem Biophys Res Commun, 2015 Aug 7;463(4):650-5.

5. Tabe Y, Yamamoto T, Maenou I, Nakai R, Idei M, Horii T, Miida T, Ohsaka A.
   Performance evaluation of the digital cell imaging analyzer DI-60 integrated into the fully automated Sysmex XN hematology analyser system.
   Clin Chem Lab Med, 2015 Feb;53(2):281-9.

6. Tabe Y, Kojima K, Yamamoto S, Sekihara K, Matsushita H, Davis RE, Wang Z, Ma W, Ishizawa J, Kazuno S, Kauffman M, Shacham S, Fujimura T, Ueno T, Miida T, Andreeff M.
   Ribosomal biogenesis and translational flux inhibition by the selective inhibitor of nuclear export (SINE) XPO1 antagonist KPT-185.
   PLoS One, 2015； 10(9): e0137210

7. Mukaida H, Matsushita S, Inotani T, Futaki S, Takano A, Watanabe M, Morita T, Miida T, Amano A.
   Peripheral circulation evaluation with Near-Infrared Spectroscopy in skeletal muscle during cardiopulmonary bypass.
   Perfusion, 2015 Nov;30(8):653-9.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

8. E. Sai, K. Shimada, T. Yokoyama, S. Sato, Y. Nishizaki, T. Miyazaki, M. Hiki, Y. Tamura, S. Aoki, H. Watada, R. Kawamori, H. Daida.
   Evaluation of myocardial triglyceride accumulation assessed on 1H-magnetic resonance spectroscopy in apparently healthy Japanese subjects.
   Intern Med, 2015; 54 (4): 367-373

9. T. Watanabe, Y. Tamura, S. Kakehi, T. Funayama, K. Takeno, M. Kawaguchi, L. Yamamoto, F. Sato, S. Ikeda, H. Taka, T. Fujimura, Y. Fujitani, R. Kawamori, H. Watada.
   Effects of sitagliptin on ectopic fat contents and glucose metabolism in type 2 diabetic patients with fatty liver: A pilot study.
   Journal of Diabetes Investigation, 2015; 6 (2): 164-172

10. R. Matsuba, K. Sakai, M. Imamura, Y. Tanaka, M. Iwata, H. Hirose, K. Kaku, H. Maegawa, H. Watada, K. Tobe, A. Kashiwagi, R. Kawamori, S. Maeda.
    Replication Study in a Japanese Population to Evaluate the Association between 10 SNP Loci, Identified in European Genome-Wide Association Studies, and Type 2 Diabetes.
    PLoS One, 2015 May 7;10(5):e0126363.

11. S. Arakawa, T. Watanabe, H. Sone, Y. Tamura, M. Kobayashi, R. Kawamori, Y. Atsumi, Y. Oshida, S. Tanaka, S. Suzuki, S. Makita, I. Ohsawa, Y. Sato.
    The factors that affect exercise therapy for patients with type 2 diabetes in Japan: a nationwide survey.
    Diabetol Int, 2015; 6 (1): 19-25

12. Y. Tosaka, A. Kanazawa, F. Ikeda, M. Iida, J. Sato, K. Matsumoto, T. Uchida, Y. Tamura, T. Ogihara, T. Mita, T. Shimizu, H. Goto, C. Ohmura, Y. Fujitani, H. Watada.
    Switching from Twice-Daily Basal Insulin Injections to Once-Daily Insulin Degludec Injection for Basal-Bolus Insulin Regimen in Japanese Patients with Type 1 Diabetes: A Pilot Study.
    Int J Endocrinol, 2015; 2015: 176261

13. P. D. Home, M. P. Dain, N. Freemantle, R. Kawamori, M. Pfohl, S. Brette, V. Pilorget, W. A. Scherbaum, G. Vespasiani, M. Vincent, B. Balkau
    Four-year evolution of insulin regimens, glycaemic control, hypoglycaemia and body weight after starting insulin therapy in type 2 diabetes across three continents.
    Diabetes Res Clin Pract, 2015 May;108(2):350-9.

14. S. Teramukai, Y. Okuda, S. Miyazaki, R. Kawamori, M. Shirayama, T. Teramoto.
    Dynamic prediction model and risk assessment chart for cardiovascular disease based on on-treatment blood pressure and baseline risk factors.
    Hypertens Res, 2016 Feb;39(2):113-8.

15. H. Iida, T. Ogihara, M. Min, A. Hara, Y. Kim, K. Fujimaki, M. Tamaki, Y. Fujitani, H. Kim, H. Watada.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Expression mechanism of tryptophan hydroxylase 1 in mouse islets during pregnancy.
Journal of molecular endocrinology,2015 Aug;55(1):41-53.

16. H. Ohmura, T. Mita, Y. Taneda, M. Sugawara, H. Funayama, J. Matsuoka, H. Watada, H. Daida.
Efficacy and Safety of Sitagliptin in Japanese Patients With Type 2 Diabetes.
J Clin Med Res, 2015 Apr; 7(4): 211–219.

17. M. Tanimoto, A. Kanazawa, T. Hirose, T. Yoshihara, S. Kobayashi-Kimura, R. Nakanishi, Y. Tosaka, R. Sasaki-Omote, K. Kudo-Fujimaki, K. Komiya, F. Ikeda, Y. Someya, T. Mita, Y. Fujitani, H. Watada.
Comparison of sitagliptin with nateglinide on postprandial glucose and related hormones in drug-naive Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: A pilot study.
J Diabetes Investig, 2015 Sep; 6(5): 560–566

18. S. Sasaki, T. Miyatsuka, T. Matsuoka, M. Takahara, Y. Yamamoto, T. Yasuda, H. Kaneto, Y. Fujitani, M. German, H. Akiyama, H. Watada, I. Shimomura.
Activation of GLP-1 and gastrin signalling induces in vivo reprogramming of pancreatic exocrine cells into beta cells in mice.
Diabetologia,2015 Nov;58(11):2582-91.

19. Y. Osonoi, T. Mita, T. Osonoi, M. Saito, A. Tamasawa, S. Nakayama, Y. Someya, H. Ishida, A. Kanazawa, M. Gosho, Y. Fujitani, H. Watada.
Poor sleep quality is associated with increased arterial stiffness in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus.
BMC Endocr Disord, 2015 Jun 18;15:29.

20. K. Nakajima, T. Mita, Y. Osonoi, K. Azuma, T. Takasu, Y. Fujitani, H. Watada.
Effect of Repetitive Glucose Spike and Hypoglycaemia on Atherosclerosis and Death Rate in Apo E-Deficient Mice.
Int J Endocrinol, 2015; 2015, 406394

21. T. Kawata, M. Daimon, S. Miyazaki, R. Ichikawa, M. Maruyama, S. Chiang, C. Ito, F. Sato, H. Watada, H. Daida.
Coronary microvascular function is independently associated with left ventricular filling pressure in patients with type 2 diabetes mellitus.
Cardiovasc Diabetol, 2015 Aug 5;14:98.

22. K. Fujimaki, T. Ogihara, D. Morris, H. Oda, H. Iida, Y. Fujitani, R. Mirmira, C. Evans-Molina, H. Watada.
SET7/9 Enzyme Regulates Cytokine-induced Expression of Inducible Nitric-oxide Synthase through Methylation of Lysine 4 at Histone 3 in the Islet β Cell.
J Biol Chem, 2015 Jul 3; 290(27): 16607–16618.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

23. M. Enomoto, H. Yoshii, T. Mita, H. Sanke, A. Yokota, K. Yamashiro, N. Inagaki, M. Gosho, C. Ohmura, K. Kudo, H. Watada, T. Onuma.
Relationship between dietary pattern and cognitive function in elderly patients with type 2 diabetes mellitus.
J Int Med Res, 2015 Aug;43(4):506-17.

24. J. Weng, S. Soegondo, O. Schnell, W. Sheu, W. Grzeszczak, H. Watada, N. Yamamoto, S. Kalra.
Efficacy of acarbose in different geographical regions of the world: analysis of a real-life database.
Diabetes Metab Res Rev, 2015 Feb;31(2):155-67.

25. Yoshihara N, Ueno T, Takagi A, Trejo JA, Haruna K, Suga Y, Komatsu M, Tanaka K, Ikeda S
The significant role of autophagy in the granular layer in normal skin differentiation and hair growth.
Arch Dermatol Res, 2015 Mar;307(2):159-69.

26. Ylä-Anttila P, Mikkonen E, Happonen KE, Holland P, Ueno T, Simonsen A, Eskelinen EL
RAB24 facilitates clearance of autophagic compartments during basal conditions.
Autophagy, 2015;11(10):1833-48.

27. Takagi M, Uno H, Nishi R, Sugimoto M, Hasegawa S, Piao J, Ihara N, Kanai S, Kakehi S, Tamura Y, Suganami T, Kamei Y, Shimizu T, Yasuda A, Ogawa Y, Mizutani S.
ATM Regulates Adipocyte Differentiation and Contributes to Glucose Homeostasis.
Cell Rep. 2015 Feb 11. pii: S2211-1247(15)00052-2.

28. Kamagata K, Shimoji K, Hori M, Nishikori A, Tsuruta K, Yoshida M, Kamiya K, Irie R, Suzuki M, Kyogoku S, Suzuki Y, Sato N, Aoki S
Intersite Reliability of Diffusion Tensor Imaging on Two 3T Scanners.
Magn Reson Med Sci, 2015;14(3):227-33.

29. Irie R, Suzuki M, Yamamoto M, Takano N, Suga Y, Hori M, Kamagata K, Takayama M, Yoshida M, Sato S, Hamasaki N, Oishi H, Aoki S
Assessing Blood Flow in an Intracranial Stent: A Feasibility Study of MR Angiography Using a Silent Scan after Stent-Assisted Coil Embolization for Anterior Circulation Aneurysms.
AJNR Am J Neuroradiol. 2015 May;36(5):967-70.

30. Goto M, Abe O, Aoki S, Hayashi N, Miyati T, Takao H, Matsuda H, Yamashita F, Iwatsubo T, Mori H, Kunimatsu A, Ino K, Yano K, Ohtomo K
Influence of Parameter Settings in Voxel-based Morphometry 8. Using DARTEL and Region-of-interest on Reproducibility in Gray Matter Volumetry.
Methods Inf Med. 2015;54(2):171-8.

31. Goto M, Abe O, Aoki S, Hayashi N, Ohtsu H, Takao H, Miyati T, Matsuda H, Yamashita F, Iwatsubo T, Mori H, Kunimatsu A, Ino K, Yano K, Ohtomo K.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Longitudinal gray-matter volume change in the default-mode network: utility of volume standardized with global gray-matter volume for Alzheimer's disease: a preliminary study.
Radiol Phys Technol. 2015 Jan;8(1):64-72.

32. Katagiri N, Pantelis C, Nemoto T, Zalesky A, Hori M, Shimoji K, Saito J, Ito S, Dwyer DB, Fukunaga I, Morita K, Tsujino N, Yamaguchi T, Shiraga N, Aoki S, Mizuno M
A longitudinal study investigating sub-threshold symptoms and white matter changes in individuals with an 'at risk mental state' (ARMS).
Schizophr Res. 2015 Mar;162(1-3):7-13.

33. Kerever A, Kamagata K, Yokosawa S, Otake Y, Ochi H, Yamada T, Hori M, Kamiya K, Nishikori A, Aoki S, Arikawa-Hirasawa E
See-through Brains and Diffusion Tensor MRI Clarified Fiber Connections: A Preliminary Microstructural Study in a Mouse with Callosal Agenesis.
Magn Reson Med Sci. 2015;14(2):159-62.

34. Runge VM, Aoki S, Bradley WG, Jr., Chang KH, Essig M, Ma L, Ross JS, Valavanis A
Magnetic Resonance Imaging and Computed Tomography of the Brain-50 Years of Innovation, With a Focus on the Future.
Invest Radiol. 2015 Sep;50(9):551-6.

35. Tachibana Y, Obata T, Yoshida M, Hori M, Kamagata K, Suzuki M, Fukunaga I, Kamiya K, Yokoyama K, Hattori N, Inoue T, Aoki S
Analysis of normal-appearing white matter of multiple sclerosis by tensor-based two-compartment model of water diffusion.
Eur Radiol. 2015 Jun;25(6):1701-7.

36. Fusegi K, Yoritaka A, Hattori N, Mori H.
Automatic behavior in Parkinson's disease.
Parkinsonism Relat Disord. 2015 Jan;21(1):84-5.

37. Ueno S, Miyamoto N, Shimura H, Ueno Y, Watanabe M, Hayashi A, Hattori N, Urabe T.
Successful immune moderation treatment for progressive encephalomyelitis with rigidity and myoclonus.
Intern Med. 2015;54(2):219-21.

38. Shimo Y, Nishina K, Hatano T, Hattori N.
Sensory tricks for isolated speech-induced lingual dystonia.
BMJ Case Rep. 2015 Mar 5;2015. pii:bcr2014208272.

39. Nishikawa N, Shimo Y, Wada M, Hattori N, Kitazawa S.
Effects of aging and idiopathic Parkinson's disease on tactile temporal order judgment.
PLoS One. 2015 Mar 11;10(3):e0118331.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

40. Noda K, Hattori N, Okuma Y.
Hemiballism with leg predominance caused by contralateral subthalamic haemorrhage.
BMJ Case Rep. 2015 Apr 9;2015. pii:bcr2014208525.

41. Kawajiri S, Noda K, Ikeda A, Koinuma T, Tomizawa Y, Hattori N, Okuma Y.
Low dose of clonazepam is effective in the treatment of painless legs and moving toes syndrome: a case report.
Case Rep Neurol. 2015 Mar 21;7(1):59-62.

42. Kino Y, Washizu C, Kurosawa M, Yamada M, Miyazaki H, Akagi T, Hashikawa T, Doi H, Takumi T, Hicks GG, Hattori N, Shimogori T, Nukina N.
FUS/TLS deficiency causes behavioral and pathological abnormalities distinct from amyotrophic lateral sclerosis.
Acta Neuropathol Commun. 2015 Apr 25;3:24.

43. Ueno S, Sekimoto-Tsuboi S, Ishiguro Y, Koinuma T, Eguchi H, Machida Y, Hattori N, Miwa H.
Good's syndrome with opportunistic infection of the central nervous system: a case report.
BMC Neurol. 2015 Aug 25;15:150.

44. Tomizawa Y, Okuzumi A, Shiotsuki H, Noda K, Hattori N, Okuma Y.
A Patient with the GLA p.E66Q Mutation Exhibiting Vascular Parkinsonism and Bilateral Pulvinar Lesions.
Intern Med. 2015;54(19):2503-6.

45. Ueno S, Tsuboi S, Fujimaki M, Eguchi H, Machida Y, Hattori N, Miwa H.
Acute psychosis as an initial manifestation of hypothyroidism: a case report.
J Med Case Rep. 2015 Nov 17;9:264.

46. Tomizawa Y, Hoshino Y, Sasaki F, Kurita N, Kawajiri S, Noda K, Hattori N, Amemura-Maekawa J, Kura F, Okuma Y.
Diagnostic Utility of Splenial Lesions in a Case of Legionnaires' Disease due to Legionella pneumophila Serogroup 2.
Intern Med. 2015;54(23):3079-82.

47. Tanaka R, Yamashiro K, Okuma Y, Shimura H, Nakamura S, Ueno Y, Tanaka Y, Miyamoto N, Tomizawa Y, Nakahara T, Furukawa Y, Watada H, Kawamori R, Hattori N, Urabe T.
Effects of Pioglitazone for Secondary Stroke Prevention in Patients with Impaired Glucose Tolerance and Newly Diagnosed Diabetes: The J-SPIRIT Study.
J Atheroscler Thromb. 2015 Dec 1;22(12):1305-16.

48. Kino Y, Washizu C, Kurosawa M, Oma Y, Hattori N, Ishiura S, Nukina N.
Nuclear localization of MBNL1: splicing-mediated autoregulation and repression of repeat-derived

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

aberrant proteins.
Hum Mol Genet. 2015 Feb 1;24(3):740-56.

49. Tanaka Y, Ueno Y, Shimada Y, Yamashiro K, Tanaka R, Urabe T, Hattori N.
Paradoxical brain embolism associated with Kimura disease mimics watershed infarction.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2015 Feb;24(2):e55-7

50. Kurosawa M, Matsumoto G, Kino Y, Okuno M, Kurosawa-Yamada M, Washizu C, Taniguchi H, Nakaso K, Yanagawa T, Warabi E, Shimogori T, Sakurai T, Hattori N, Nukina N.
Depletion of p62 reduces nuclear inclusions and paradoxically ameliorates disease phenotypes in Huntington's model mice.
Hum Mol Genet. 2015 Feb 15;24(4):1092-105

51. Yamashiro K, Funabe S, Tanaka R, Fukumura Y, Takanashi M, Yao T, Hattori N.
Primary aortic sarcoma: a rare but critical cause of stroke. Neurology. 2015 Feb 17;84(7):755-6.

52. Asano T, Koike M, Sakata S, Takeda Y, Nakagawa T, Hatano T, Ohashi S, Funayama M, Yoshimi K, Asanuma M, Toyokuni S, Mochizuki H, Uchiyama Y, Hattori N, Iwai K.
Possible involvement of iron-induced oxidative insults in neurodegeneration.
Neurosci Lett. 2015 Feb 19;588:29-35.

53. Funayama M, Ohe K, Amo T, Furuya N, Yamaguchi J, Saiki S, Li Y, Ogaki K, Ando M, Yoshino H, Tomiyama H, Nishioka K, Hasegawa K, Saiki H, Satake W, Mogushi K, Sasaki R, Kokubo Y, Kuzuhara S, Toda T, Mizuno Y, Uchiyama Y, Ohno K, Hattori N.
CHCHD2 mutations in autosomal dominant late-onset Parkinson's disease: a genome-wide linkage and sequencing study.
Lancet Neurol. 2015 Mar;14(3):274-82.

54. Ueno Y, Koike M, Shimada Y, Shimura H, Hira K, Tanaka R, Uchiyama Y, Hattori N, Urabe T.
L-carnitine enhances axonal plasticity and improves white-matter lesions after chronic hypoperfusion in rat brain.
J Cereb Blood Flow Metab. 2015 Mar;35(3):382-91.

55. Matsuo H, Tomiyama H, Satake W, Chiba T, Onoue H, Kawamura Y, Nakayama A, Shimizu S, Sakiyama M, Funayama M, Nishioka K, Shimizu T, Kaida K, Kamakura K, Toda T, Hattori N, Shinomiya N.
ABCG2 variant has opposing effects on onset ages of Parkinson's disease and gout.
Ann Clin Transl Neurol. 2015 Mar;2(3):302-6.

56. Yatomi Y, Tanaka R, Shimada Y, Yamashiro K, Liu M, Mitome-Mishima Y, Miyamoto N, Ueno Y, Urabe T, Hattori N.
Type 2 diabetes reduces the proliferation and survival of oligodendrocyte progenitor cells in ishchemic white matter lesions.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Neuroscience. 2015 Mar 19;289:214-23.

57. Ueno Y, Yamashiro K, Tanaka Y, Watanabe M, Miyamoto N, Shimada Y, Kuroki T, Tanaka R, Miyauchi K, Daida H, Hattori N, Urabe T.
Rosuvastatin may stabilize atherosclerotic aortic plaque: transesophageal echocardiographic study in the EPISTEME trial.
Atherosclerosis. 2015 Apr;239(2):476-82.

58. Urabe T, Mitome-Mishima Y, Miyamoto N, Tanaka R, Shimosawa T, Oishi H, Arai H, Hattori N.
Adrenomedullin provide protective effects against aging and ischemic white matter injury in mice brain
Int J Stroke 2015, 10:199

59. Mitsui J, Matsukawa T, Sasaki H, Yabe I, Matsushima M, Dürr A, Brice A, Takashima H, Kikuchi A, Aoki M, Ishiura H, Yasuda T, Date H, Ahsan B, Iwata A, Goto J, Ichikawa Y, Nakahara Y, Momose Y, Takahashi Y, Hara K, Kakita A, Yamada M, Takahashi H, Onodera O, Nishizawa M, Watanabe H, Ito M, Sobue G, Ishikawa K, Mizusawa H, Kanai K, Hattori T, Kuwabara S, Arai K, Koyano S, Kuroiwa Y, Hasegawa K, Yuasa T, Yasui K, Nakashima K, Ito H, Izumi Y, Kaji R, Kato T, Kusunoki S, Osaki Y, Horiuchi M, Kondo T, Murayama S, Hattori N, Yamamoto M, Murata M, Satake W, Toda T, Filla A, Klockgether T, Wüllner U, Nicholson G, Gilman S, Tanner CM, Kukull WA, Stern MB, Lee VM, Trojanowski JQ, Masliah E, Low PA, Sandroni P, Ozelius LJ, Foroud T, Tsuji S.
Variants associated with Gaucher disease in multiple system atrophy.
Ann Clin Transl Neurol. 2015 Apr;2(4):417-26.

60. Nishioka K, Oyama G, Yoshino H, Li Y, Matsushima T, Takeuchi C, Mochizuki Y, Mori-Yoshimura M, Murata M, Yamasita C, Nakamura N, Konishi Y, Ohi K, Ichikawa K, Terada T, Obi T, Funayama M, Saiki S, Hattori N.
High frequency of beta-propeller protein-associated neurodegeneration (BPAN) among patients with intellectual disability and young-onset parkinsonism.
Neurobiol Aging. 2015 May;36(5):2004.e9-2004.e15.

61. Kobayashi M, Tanaka R, Yamashiro K, Ueno Y, Kato E, Miura S, Daida H, Hattori N.
Pre-existing Mobile Cardiac Thrombus and the Risk of Early Recurrent Embolism after Intravenous Thrombolysis: A Case Report.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2015 Jun;24(6):e161-3.

62. Shimo Y, Nakajima A, Hattori N.
Dopamine agonist withdrawal syndrome in a patient with restless legs syndrome without impulse control disorder or drug abuse.
Neurol Sci. 2015 Jun;36(6):1021-3.

63. Fuse A, Furuya N, Kakuta S, Inose A, Sato M, Koike M, Saiki S, Hattori N.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

VPS29-VPS35 intermediate of retromer is stable and may be involved in the retromer complex assembly process.
FEBS Lett. 2015 Jun 4;589(13):1430-6.

64. Funayama M, Hattori N.
CHCHD2 and Parkinson's disease--authors' reply.
Lancet Neurol. 2015 Jul;14(7):682-3.

65. Fujimaki M, Kawajiri S, Ichikawa K, Tomizawa Y, Nakazato T, Noda K, Hattori N, Koike M, Okuma Y.
Lymphomatoid Granulomatosis with Central Nervous System Involvement Successfully Treated with Cyclophosphamide, High-dose Cytarabine, Dexamethasone, Etoposide, and Rituximab (CHASER therapy) Followed by Brain Irradiation: A Case Study.
CNS Neurosci Ther. 2015 Jul;21(7):610-2.

66. Vaikath NN, Majbour NK, Paleologou KE, Ardah MT, van Dam E, van de Berg WD, Forrest SL, Parkkinen L, Gai WP, Hattori N, Takanashi M, Lee SJ, Mann DM, Imai Y, Halliday GM, Li JY, El-Agnaf OM.
Generation and characterization of novel conformation-specific monoclonal antibodies for α-synuclein pathology.
Neurobiol Dis. 2015 Jul;79:81-99.

67. Takahashi M, Ikeda J, Tomida T, Hirata K, Hattori N, Inoue Y.
Daytime symptoms of restless legs syndrome--clinical characteristics and rotigotine effectiveness.
Sleep Med. 2015 Jul;16(7):871-6.

68. Fukae J, Higuchi MA, Yanamoto S, Fukuhara K, Tsugawa J, Ouma S, Hatano T, Yoritaka A, Okuma Y, Kashihara K, Hattori N, Tsuboi Y.
Utility of the Japanese version of the 9-item Wearing-off Questionnaire.
Clin Neurol Neurosurg. 2015 Jul;134:110-5.

69. Matsumoto G, Shimogori T, Hattori N, Nukina N.
TBK1 controls autophagosomal engulfment of polyubiquitinated mitochondria through p62/SQSTM1 phosphorylation
Hum Mol Genet. 2015 Aug 1;24(15):4429-42.

70. Yoritaka A, Kawajiri S, Yamamoto Y, Nakahara T, Ando M, Hashimoto K, Nagase M, Saito Y, Hattori N.
Randomized, double-blind, placebo-controlled pilot trial of reduced coenzyme Q10 for Parkinson's disease.
Parkinsonism Relat Disord. 2015 Aug;21(8):911-6.

71. Yamashiro K, Tanaka R, Hoshino Y, Hatano T, Nishioka K, Hattori N.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

The prevalence and risk factors of cerebral microbleeds in patients with Parkinson's disease.
Parkinsonism Relat Disord. 2015 Sep;21(9):1076-81.

72. Noda K, Kawajiri S, Tomizawa Y, Hattori N, Okuma Y.
Pisa syndrome in progressive supranuclear palsy: A case report.
Parkinsonism Relat Disord. 2015 Sep;21(9):1115-6.

73. Imai Y, Kobayashi Y, Inoshita T, Meng H, Arano T, Uemura K, Asano T, Yoshimi K, Zhang CL, Matsumoto G, Ohtsuka T, Kageyama R, Kiyonari H, Shioi G, Nukina N, Hattori N, Takahashi R.
The Parkinson's Disease-Associated Protein Kinase LRRK2 Modulates Notch Signaling through the Endosomal Pathway.
PLoS Genet. 2015 Sep 10;11(9):e1005503.

74. Bhidayasiri R, Jitkritsadakul O, Boonrod N, Sringean J, Calne SM, Hattori N, Hayashi A.
What is the evidence to support home environmental adaptation in Parkinson's disease? A call for multidisciplinary interventions.
Parkinsonism Relat Disord. 2015 Oct;21(10):1127-32.

75. Noda K, Nakajima S, Sasaki F, Ito Y, Kawajiri S, Tomizawa Y, Hattori N, Yamamoto T, Okuma Y.
Middle Cerebral Artery Occlusion Presenting as Upper Limb Monochorea.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2015 Oct;24(10):e291-3.

76. Wang, Lisa; Aasly, Jan O.; Annesi, Grazia; Bardien, Soraya; Bozi, Maria; Brice, Alexis; Carr, Jonathan; Chung, Sun J.; Clarke, Carl; Crosiers, David; Deutschlaender, Angela; Eckstein, Gertrud; Farrer, Matthew J.; Goldwurm, Stefano; Garraux, Gaetan; Hadjigeorgiou, Georgios M.; Hicks, Andrew A.; Hattori, Nobutaka; Klein, Christine; Jeon, Beom; Kim, Yun J.; Lesage, Suzanne; Lin, Juei-Jueng; Lynch, Timothy; Lichtner, Peter; Lang, Anthony E.; Mok, Vincent; Jasinska-Myga, Barbara; Mellick, George D.; Morrison, Karen E.; Opala, Grzegorz; Pihlstrom, Lasse; Pramstaller, Peter P.; Park, Sung S.; Quattrone, Aldo; Rogaeva, Ekaterina; Ross, Owen A.; Stefanis, Leonidas; Stockton, Joanne D.; Silburn, Peter A.; Theuns, Jessie; Tan, Eng K.; Tomiyama, Hiroyuki; Toft, Mathias; Van Broeckhoven, Christine; Uitti, Ryan J.; Wirdefeldt, Karin; Wszolek, Zbigniew; Xiromerisiou, Georgia; Yueh, Kuo-Chu; Zhao, Yi; Gasser, Thomas; Maraganore, Demetrius M.; Krueger, Rejko; Sharma, Manu
Large-scale assessment of polyglutamine repeat expansions in Parkinson disease.
Neurology. 2015 Oct 13;85(15):1283-92.

77. Nomoto M, Kubo S, Nagai M, Yamada T, Tamaoka A, Tsuboi Y, Hattori N; PD Study Group.
A Randomized Controlled Trial of Subcutaneous Apomorphine for Parkinson Disease: A Repeat Dose and Pharmacokinetic Study.
Clin Neuropharmacol. 2015 Nov-Dec;38(6):241-7.

78. Bhidayasiri R, Hattori N, Jeon B, Chen RS, Lee MK, Bajwa JA, Mok VC, Zhang B, Syamsudin T, Tan LC, Jamora RD, Pisarnpong A, Poewe W.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Asian perspectives on the recognition and management of levodopa 'wearing-off' in Parkinson's disease.
Expert Rev Neurother. 2015;15(11):1285-97.

79. Matsumoto SE, Motoi Y, Ishiguro K, Tabira T, Kametani F, Hasegawa M, Hattori N.
The twenty-four KDa C-terminal tau fragment increases with aging in tauopathy mice: implications of prion-like properties.
Hum Mol Genet. 2015 Nov 15;24(22):6403-16.

80. Noda K, Tosaka Y, Ishiguro Y, Kawajiri S, Tomizawa Y, Hattori N, Okuma Y.
Delayed chorea after recovery from severe akinetic-rigid parkinsonism caused by extrapontine myelinolysis
J Neurol Sci. 2015 Nov 15;358(1-2):498-500.

81. Ogaki K, Koga S, Heckman MG, Fiesel FC, Ando M, Labbé C, Lorenzo-Betancor O, Moussaud-Lamodière EL, Soto-Ortolaza AI, Walton RL, Strongosky AJ, Uitti RJ, McCarthy A, Lynch T, Siuda J, Opala G, Rudzinska M, Krygowska-Wajs A, Barcikowska M, Czyzewski K, Puschmann A, Nishioka K, Funayama M, Hattori N, Parisi JE, Petersen RC, Graff-Radford NR, Boeve BF, Springer W, Wszolek ZK, Dickson DW, Ross OA.
Mitochondrial targeting sequence variants of the CHCHD2 gene are a risk for Lewy body disorders.
Neurology. 2015 Dec 8;85(23):2016-25.

82. Hatano T, Kurita N, Kobayashi M, Hattori N.
Teaching Video NeuroImages: Re-emergent jaw tremor in Parkinson disease.
Neurology. 2015 Dec 8;85(23):e181.

83. Ueno Y, Tanaka R, Yamashiro K, Shimada Y, Kuroki T, Hira K, Urabe T, Hattori N.
Impact of BNP on cryptogenic stroke without potential embolic sources on transesophageal echocardiography.
J Neurol Sci. 2015 Dec 15;359(1-2):287-92.

84. Sai E, Shimada K, Yokoyama T, Sato S, Nishizaki Y, Miyazaki T, Hiki M, Tamura Y, Aoki S, Watada H, Kawamori R, Daida H.
Evaluation of myocardial triglyceride accumulation assessed by 1H-magnetic resonance spectroscopy in apparently healthy Japanese subjects.
Intern Med. 54:367-373;2015

85. Akita K, Isoda K, Shimada K, Daida H.
Dipeptidyl-peptidase-4 inhibitor, alogliptin, attenuates arterial inammation and neointimal formation after injury in low-density lipoprotein (LDL) receptor-deficient mice.
J Am Heart Assoc. 4:e001469;2015.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

86. Sakamoto A, Naito H, Chow CM.
Hyperventilation-induced respiratory alkalosis falls short of countering fatigue during repeated maximal isokinetic contractions.
Eur J of Appl Physiol., 2015; 115 (7), 1453-1465

87. Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Kakigi R, Tsuzuki T, Sugiura T, Powers SK, Naito H.
Repeated exposure to heat stress results in a diaphragm phenotype that resists ventilator-induced dia-phragm dysfunction.
J Appl Physiol (1985)., 2015; 119(9):1023-1031

88. Yoshihara T, Sugiura T, Yamamoto Y, Shibaguchi T, Kakigi R, Naito H.
The response of apoptotic and proteolytic systems to repeated heat stress in atrophied rat skeletal muscle.
Physiol Rep., 2015; 3(10): e12597

89. Kitada T, Machida S, Naito H.
Influence of muscle fibre composition on muscle oxygenation during maximal running.
BMJ Open Sport Exerc Med., 2015; 1: e000062

90. Ishihara Y, Naito H, Ozaki H, Yoshimura M.
Aerobic Fitness Relation to Match Performance of Japanese Soccer Referees.
Football Science, 2015; 12: 91-97

91. Natsume T, Ozaki H, Saito AI, Abe T, Naito H.
Effects of Electrostimulation with Blood Flow Restriction on Muscle Size and Strength.
Med Sci Sports Exerc., 2015; 47(12): 2621-7

92. Fuku N, He ZH, Sanchis-Gomar F, Pareja-Galeano H, Tian Y, Arai Y, Abe Y, Murakami H, Miyachi M, Zempo H, Naito H, Yvert T, Verde Z, Venturini L, Fiuza-Luces C, Santos-Lozano A, Rodriguez-Romo G, Ricevuti G, Hirose N, Emanuele E, Garatachea N, Lucia A.
Exceptional longevity and muscle and fitness related genotypes: a functional in vitro analysis and case-control association replication study with SNPs THRH rs7832552, IL6 rs1800795, and ACSL1 rs6552828.
Front Aging Neurosci., 2015; 4(7): 59

93. Abulaiti A. Kamagata K, Motoi Y, Hori M, Hattori N, Aoki S.
Nigrostriatal degeneration in Parkinson Disease: Evaluation by diffusion tensor tract-specific analysis
Open Journal of Radiology, 2015,5,199

94. Akita K, Isoda K, Shimada K, Daida H
Dipeptidyl-peptidase-4 inhibitor, alogliptin, attenuates arterial inflammation and neointimal formation after injury in low-density lipoprotein (LDL) receptor-deficient mice.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

J Am Heart Assoc, 2015; 4: e001469

95. Naito R, Miyauchi K, Ogita M, Tsuboi S, Konishi H, Dohi T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H
Clinical outcomes following percutaneous coronary intervention before and after introduction of drug-eluting stent
Cardiovasc Interv Ther, 2015; 30: 338-46

96. Konishi H, Miyauchi K, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H
Impact of the HAS-BLED Score on Long-Term Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention
Am J Cardiol, 2015; 116: 527-531

97. Konishi H, Miyauchi K, Kasai T, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Sai E, Fukushima Y, Katoh Y, Okai I, Tamura H, Okazaki S, Daida H.
Impact of lipoprotein(a) as residual risk on long-term outcomes in patients after percutaneous coronary intervention.
Am J Cardiol. 2015; 115: 157-160.

98. Ogita M, Miyauchi K, Kasai T, Doi S, Wada H, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Dohi T, Tamura H, Okazaki S, Daida H.
Impact of preprocedual high-sensitive C-reactive protein levels on long-term clinical outcomes of patients with stable coronary artery disease and chronic kidney disease who were treated with drug-eluting stents.
J Cardiol. 2015; 66: 15-21.

99. Ogita M, Miyauchi K, Tsuboi S, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Naito R, Konishi H, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Suwa S, Daida H.
Impact of combined C-reactive protein and high-density lipoprotein cholesterol levels on long-term outcomes in patients with coronary artery disease after a first percutaneous coronary intervention
Am J Cardiol. 2015; 116: 999-1002.

100. Naito R, Miyauchi K, Ogita M, Tsuboi S, Konishi H, Okai I, Tamura H, Kasai T, Okazaki S, Daida H.
Comparison of long-term clinical outcomes between sirolimus- and paclitaxel-eluting stents in real-world clinical practice.
Heart Vessels. 2015; 30: 746-751.

101. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Temporal trends in the Clinical Outcomes after Percutaneous Coronary Intervention from 1984 to

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

2010 -Report from the Juntendo PCI Registry-
Circ J. 2015; 80: 93-100.

102. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Gender difference in long-term clinical outcomes following percutaneous coronary intervention during 1984 – 2008.
Atherosclerosis. 2015; 247: 105-110.

103. Fujimoto S, Kondo T, Takamura K, Kawaguchi Y, Matsumori R, Hiki M, Miyauchi K, Daida H.
Plaque Characteristics of Consecutive 31 Cases Which Cause Acute Myocardial Infarction on Coronary Computed Tomography Angiography.
J Jpn Coron Assoc 2015; 21: 287- 295

104. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Okazaki S, Daida H.
Early Definite Stent Thrombosis with Everolimus-eluting Stents.
Clinical Case Reports 2015; 3: 854

105. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Gender difference in long-term clinical outcomes following percutaneous coronary intervention during 1984 - 2008
Atherosclerosis, 2015; 247: 105

106. Mizuno A, Miyauchi K, Nishizaki Y, Yamazoe M, Komatsu I, Asano T, Mitsuhashi H, Nishi Y, Niwa K, Daida H
Impact of the augmentation time ratio on direct measurement of central aortic pressure in the presence of coronary artery disease
Hypertens Res, 2015; 38: 684-9

107. Dai Y, Takagi A, Konishi H, Miyazaki T, Masuda H, Shimada K, Miyauchi K, Daida H.
Long-term outcomes of rotational atherectomy in coronary bifurcation lesions.
Exp Ther Med. 2015 Dec;10(6):2375-2383. Epub 2015 Oct 19.

108. Kobayashi K, Nojiri H, Saita Y, Morikawa D, Ozawa Y, Watanabe K, Koike M, Asou Y, Shirasawa T, Yokote K, Kaneko K, Shimizu T
Mitochondrial superoxide in osteocytes perturbs canalicular networks in the setting of age-related osteoporosis.
Sci Rep. 2015 Mar 16;5:9148.

109. Maruyama Y, Osawa A, Mamiya Y, Kaneko K
Marked varus deformity due to insufficiency fracture of the proximal tibia treated by open-wedge high tibial osteotomy: A case report.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Eur Orthop Traumatol, 6:281-285, 2015

110. Maezawa K, Nozawa M, Yuasa T, Maruyama Y, Kaneko K.
Liner dissociation due to locking mechanism failure in metal-on-metal total hip arthroplasty using an APR cup.
Minerva Orthopedica e traumatologica 66: 151-152, 2015

111. Yuasa T, Yamakawa J, Maezawa K, Kaneko K.
Prospective study on antimaicrobial prophylaxis in total hip arthroplasty.
Eur J Orthop Surg Traumatol 25: 1057-60, 2015

112. Baba T, Homma Y, Momomura R, Kobayashi H, Matsumoto M, Futamura K, Mogami A, Kanda A, Morohashi I, Kaneko K.
New classification focusing on implant designs useful for setting therapeutic strategy for periprosthetic femoral fracture
Int Ortopaedics 2015; 39: 1-5

113. Baba T, Homma Y, Ochi H, Kobayashi H, Matsumoto M, Sakamoto Y, Kuwahara H, Maeda K, Kaneko K.
Higher reliability and validity of Baba classification with CT imaging and implant information for the periprosthetic femoral fractures
Int Ortopaedics 2015;39(9):1695-1699

114. Baba T, Homma Y, Morohashi I, Maruyama Y, Shitoto K, Kaneko K
Is internal fixation using a reversed condylar locking plate useful for treating Vancouver type B1 periprosthetic femoral fractures?
Eur Orthop Traumatol 2015; 6(3), 137-143

115. Homma Y, Baba T, Ishii S, Matsumoto M, Kaneko K.
Avulsion fracture of the lesser trochanter in a skeletally immature freestyle footballer
J Pediatric Orthop B 2015;24(4):304-307

116. Homma Y, Baba T, Goto K, Maruyama Y, Kaneko K
Epidermolysis bullosa acquisita of MRSA skin carrier: A case of successful total hip arthroplasty
Hip International 2015: 25(3):282-285

117. Matsumoto M, Baba T, Homma Y, Kobayashi H, Ochi H, Yuasa T, Kaneko K.
Validation study of the Forgotten Joint Score-12 as a universal patient-reported outcome measure.
Euro J Orthop Surg Trauma 2015;25(7):1141-1145

118. Akaike K, Suehara Y, Takagi T, Kaneko K, Yamashita A, Yao T, Saito T.
Case Report Spindle cell lipoma of the wrist, occurring in a distinctly rare location: a case report with review of literature

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

International Journal of Clinical and Experimental Pathology, 2015, 8(3), 3299

119. Akaike K, Kurisaki-Arakawa A, Hara K, Suehara Y, Takagi T, Mitani K, Kaneko K, Yao T, Saito T
Distinct clinicopathological features of NAB2-STAT6 fusion gene variants in solitary fibrous tumor with emphasis on the acquisition of highly malignant potential
Human pathology, 2015, 46(3), 347-356

120. Akaike K, Toda-Ishii M, Suehara Y, Mukaihara K, Kubota D, Mitani K, Takagi T, Kaneko K, Yao T, Saito T.
TERT promoter mutations are a rare event in gastrointestinal stromal tumors
SpringerPlus, 2015, 4(1), 1-8

121. Keisuke Akaike · Yoshiyuki Suehara · Tatsuya Takagi · Kazuo Kaneko · Atsushi Yamashita · Takashi Yao · Tsuyoshi Saito
Spindle cell lipoma of the wrist, occurring in a distinctly rare location: A case report with review of literature
International journal of clinical and experimental pathology 03/2015; 8(3):3299-3303

122. Naito K, Furuya H, Han C, Orita H, Sato K, Kaneko K, Obayashi O.
Gastric cancer with metastases to the scaphoid: a case report.
J Orthop Sci. 20: 213-216. 2015.

123. Midori Ishii, Yongji Kim, Yoshiyuki Suehara, Takayuki Kawasaki, Joe Matsuoka, Keisuke Akaike, Kenta Mukaihara, Daisuke Kubota, Taketo Okubo, Tsuyoshi Saito, Tatsuya Takagi and Kazuo Kaneko
The Recognition of Locomotive Syndrome in 2014: A Cross-Sectional Study in the Orthopeadic Outpatients in Tokyo
British Journal of Medicine and Medical Research, 2015: 6(6): 606-616.

124. Midori Toda-Ishii, Keisuke Akaike, Aiko Kurisaki-Arakawa, Atsushi Arakawa, Kenta Mukaihara, Yoshiyuki Suehara, Tatsuya Takagi, Kazuo Kaneko, Takashi Yao, Tsuyoshi Saito
Sarcomatous transformation of EGFR and TP53 mutation-positive metastatic adenocarcinoma of the lungs, masquerading as a primary pleomorphic sarcoma of the proximal femur
Int J Clin Exp Pathol. 2015; 8(3): 3270–3278.

125. Takagi T, Katagiri H, Kim Y, Suehara Y, Kubota D, Akaike K, Ishii M, Mukaihara K, Okubo T, Murata H, Takahashi M, Kaneko K, Saito T
Skeletal Metastasis of Unknown Primary Origin at the Initial Visit: A Retrospective Analysis of 286 Cases.
PLoS One. 2015 Jun 26;10(6):e0129428. eCollection 2015.

126. Yukiko Homma, Yusuke Hirasawa ,Satoko Ishii ,Shigaku Ikeda ,Keisuke Akaike ,Yoshiyuki Suehara , Tatsuya Takagi ,Kazuo Kaneko ,Atsushi Arakawa , Tsuyoshi Saito

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

A case of myxoid liposarcoma
01/2015; 29(3):285-288. DOI:10.5227/skincancer.29.285

127. Takazawa Y, Ikeda H, Saita Y, Ishijima M, Nagayama M, Kaneko H, Kobayashi Y, Hada S, Sadatsuki R, Kaneko K.
Case series: Revision anterior cruciate ligament reconstructions using patellar tendon autografts.
Knee. 2015 Dec;22(6):569-73.

128. Saita Y, Ishijima M, Mogami A, Kubota M, Baba T, Kaketa T, Nagao M, Sakamoto Y, Sakai K, Homma Y, Kato R, Nagura N, Miyagawa K, Wada T, Liu L, Matsuoka J, Obayashi O, Shitoto K, Nozawa M, Kajihara H, Gen H, Kaneko K.
The incidence of and risk factors for developing atypical femoral fractures in Japan.
J Bone Miner Metab. 2015 May;33(3):311-8.

129. Koike M, Nojiri H, Ozawa Y, Watanabe K, Muramatsu Y, Kaneko H, Morikawa D, Kobayashi K, Saita Y, Sasho T, Shirasawa T, Yokote K, Kaneko K, Shimizu T.
Mechanical overloading causes mitochondrial superoxide and SOD2 imbalance in chondrocytes resulting in cartilage degeneration.
Sci Rep. 2015 Jun 25;5:11722.

130. Yuasa T, Maezawa K, Taniguchi Y, Aritomi K, Kaneko K.
Atypical subtrochanteric femoral fracture below an arthritic hip: A case report
JBJS case connect 2015;5 e1.

131. Yuasa T, Maezawa K, Nozawa M, Kaneko K.
Total hip arthroplasty after previous rotational acetabular osteotomy.
Eur J Orthop Surg Traumatol. 25;1057-1060,2015.

132. Yuasa T, Maeda K, Kaneko K, Yoshikata K.
Total hip arthroplasty after treatment of an atypical subtrocahnteric femoral fracture ina patient with pycnodysostosis.
Case Report Orthopaedics. Vol 2015;731910, 2015.

133. Itoigawa Y, Suzuki O, Sano H, Anada T, Handa T, Hatta T, Kuwahara Y, Takahashi A, Ezoe Y, Kaneko K, Itoi E.
The role of an octacalcium phosphate in the re-formation of infraspinatus tendon insertion.
J Shoulder Elbow Surg. 2015 Jul;24(7):175-84.

134. Ichihara S, Facca S, Liverneaux P, Inada Y, Takigawa T, Kaneko K, Nakamura T.
Mechanical properties of a bioabsorbable nerve guide tube for long nerve defects.
Chir Main. 2015 Sep;34(4):186-92.

135. Yasuhiro Homma · Tomonori Baba · Hideo Kobayashi · Colin G Murphy · Kazuo Kaneko

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

The importance of the soft tissue stabilizers of the hip: Three cases of rapid onset osteoarthritis following hip arthroscopy
J Orthop Sci. 2015 Dec 20.

136. Watanabe T, Hanajima R, Shirota Y, Tsutsumi R, Shimizu T, Hayashi T, Terao Y, Ugawa Y, Katsura M, Kunimatsu A, Ohtomo K, Hirose S, Miyashita Y, Konishi S.
Effects of rTMS over presupplementary motor area on fronto-basal-ganglia network activity during stop-signal task
Journal of Neuroscience, 35, 4813-4823, 2015

【英文原著 2016 年】

1. Konishi H, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H.
Impact of Lipoprotein(a) on Long-term Outcomes in Patients With Diabetes Mellitus Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention
Am J Cardiol, 2016; 118(12): 1781-85

2. Jiang L, Konishi H, Nurwidya F, Satoh K, Takahashi F, Ebinuma H, Fujimura K, Takasu K, Jiang M, Shimokawa H, Bujo H, Daida H.
Deletion of LR11 Attenuates Hypoxia-Induced Pulmonary Arterial Smooth Muscle Cell Proliferation With Medial Thickening in Mice.
Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2016 Sep;36(9):1972-9.

3. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H
Gender difference in long-term clinical outcomes following percutaneous coronary intervension during 1984-2008
Atherosclerosis, 2016; 247:105-110

4. Ogita M, Miyauchi K, Kasai T, Tsuboi S, Wada H, Naito R, Konishi H, Dohi T, Tamura H, Okazaki S, Yanagisawa N, Shimada K, Suwa S, Jiang M, Bujo H, Daida H.
Prognostic impact of circulating soluble LR11 on long-term clinical outcomes in patients with coronary artery disease.
Atherosclerosis. 2016; 244: 216-221.

5. Nishizaki Y, Shimada K, Tani S, Ogawa T, Ando J, Takahashi M, Yamamoto M, Shinozaki T, Miyazaki T, Miyauchi K, Nagao K, Hirayama A, Yoshimura M, Komuro I, Nagai R, Daida H.
Association between the docosahexaenoic acid to arachidonic acid ratio and acute coronary syndrome: a multicenter observational study.
BMC Cardiovasc Disord. 16:143;2016.

6. Takahashi S, Shimada K, Miyauchi K, Miyazaki T, Sai E, Ogita M, Tsuboi S, Tamura H, Okazaki S, Shiozawa T, Ouchi S, Aikawa T, Kadoguchi T, Al Shahi H, Yoshihara T, Hiki M, Isoda K, Daida

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

H.
Low and exacerbated levels of 1,5-anhydroglucitol are associated with cardiovascular events in patients after first-time elective percutaneous coronary intervention.
Cardiovasc Diabetol. 15:145;2016.

7. Konishi H, Miyauchi K, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Impact of stent length on clinical outcomes of first-generation and new-generation drug-eluting stents.
Cardiovasc Interv Ther. 2016; 31: 114-121.

8. Yatsu S, Kasai T, Suda S, Matsumoto H, Shiroshita N, Kato M, Kawana F, Murata A, Kato T, Hiki M, Daida H.
Impact of periodic leg movements during sleep in hospitalized patients following acute decompensated heart failure on clinical outcomes.
Circ J. 2016 In press

9. Noguchi K, Sakakibara M, Asakawa N, Tokuda Y, Kamiya K, Yoshitani T, Oba K, Miyauchi K, Nishizaki Y, Ogawa H, Yokoi H, Matsumoto M, Kitakaze M, Kimura T, Matsubara T, Ikari Y, Kimura K, Origasa H, Isshiki T, Morino Y, Daida H, Tsutsui H; PACIFIC investigators..
Higher Hemoglobin A1c After Discharge Is an Independent Predictor of Adverse Outcomes in Patients With Acute Coronary Syndrome - Findings From the PACIFIC Registry.
Circ J. 2016 Jun 24;80(7):1607-14

10. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Temporal Trends in Clinical Outcome After Percutaneous Coronary Intervention 1984-2010 - Report From the Juntendo PCI Registry.
Circ J. 2016;80(1):93-100.

11. Shibayama K, Daimon M, Watanabe H, Kawata T, Miyazaki S, Morimoto-Ichikawa R, Maruyama M, Chiang SJ, Miyauchi K, Daida H
Significance of Coronary Artery Disease and Left Ventricular Afterload in Unoperated Asymptomatic Aortic Stenosis.
Circ J. 2016;80(2):519-25

12. Tadaki S, Sakata Y, Miura Y, Miyata S, Asakura M, Shimada K, Yamamoto T, Fukumoto Y, Kadokami T, Yasuda S, Miura T, Ando S, Yano M, Kitakaze M, Daida H, Shimokawa H.
Prognostic Impacts of Metabolic Syndrome in Patients with Chronic Heart Failure -A Multicenter Prospective Cohort Study-.
Circ J. 80:677-688;2016

13. Uchida T, Suzuki R, Kasai T, Onose H, Komiya K, Goto H, Takeno K, Ishii S, Sato J, Honda A,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Kawano Y, Himuro M, Yamada E, Yamada T, Watada H.
Cutoff value of thyroid uptake of 99mTc-pertechnetate to discriminate between Graves' disease and painless thyroiditis: a single center retrospective study.
Endocr J. 2016; 63: 143-149.

14. Takamura K, Kondo T, Fujimoto S, Hiki M, Matsumori R, Kawaguchi Y, Amanuma M, Takase S, Daida H
Incremental predictive value for obstructive coronary artery disease by combination of Duke Clinical Score and Agatston score. Eur Heart J Cardiovasc Imaging.
Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2016;17:550-6

15. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kajimoto K, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Yamamoto T, Amano A, Daida H.
Comparing mortality between coronary artery bypass grafting and percutaneous coronary intervention with drug-eluting stents in elderly with diabetes and multivessel coronary disease.
Heart Vessels. 2016; 31: 1424-1429.

16. Konishi H, Miyauchi K, Kasai T, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Nishizaki Y, Okai I, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Long-term effect of β-blocker in ST-segment elevation myocardial infarction in patients with preserved left ventricular systolic function: a propensity analysis.
Heart Vessels. 2016; 31: 441-448.

17. Sai E, Shimada K, Miyauchi K, Masaki Y, Kojima T, Miyazaki T, Kurata T, Ogita M, Tsuboi S, Yoshihara T, Miyazaki T, Ohsaka A, Daida H.
Increased cystatin-C levels as a risk factor of cardiovascular events in patients with preserved estimated glomerular filtration rate after elective percutaneous coronary intervention with drug-eluting stents.
Heart Vessels. 31: 694-701;2016.

18. Tamura H, Miyauchi K, Dohi T, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okai I, Katoh Y, Miyazaki T, Naito R, Konishi H, Yokoyama K, Okazaki S, Isoda K, Kurata T, Daida H.
Comparison of Clinical and Angiographic Outcomes After Bare Metal Stents and Drug-Eluting Stents Following Rotational Atherectomy.
Int Heart J. 2016; 57: 150-157.

19. Wada H, Ogita M, Miyauchi K, Suwa S, Yamano M, Daida H.
Case report: Fulminant myocarditis associated with overwhelming pneumococcal infection.
Int J Cardiol. 2016 Nov 15;223:706-707

20. Konishi H, Miyauchi K, Tsuboi S, Naito R, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Plasma lipoprotein(a) predicts major cardiovascular events in patients with chronic kidney disease

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

who undergo percutaneous coronary intervention.
Int J Cardiol. 2016; 205: 50-53.

21. Onda T, Inoue K, Suwa S, Nishizaki Y, Kasai T, Kimura Y, Fukuda K, Okai I, Fujiwara Y, Matsuoka J, Sumiyoshi M, Daida H.
Reevaluation of cardiac risk scores and multiple biomarkers for the prediction of first major cardiovascular events and death in the drug-eluting stent era.
Int J Cardiol. 2016; 219: 180-185.

22. Naito R, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Combined Effect of Body mass index and Renal Function on Long-term Clinical Outcomes in the Elderly following Percutaneous Coronary Intervention.
J Am Geriatr Soc. 2016; 64: e39-41.

23. Naito R, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H
Temporal Trends in Clinical Outcome Following Percutaneous Coronary Intervension in Patients with Renal Insufficiency
J Atheroscler Thromb, 2016; 23(9):1080-88

24. Naito R, Miyauchi K, Daida H, Morimoto T, Hiro T, Kimura T, Nakagawa Y, Yamagishi M, Ozaki Y, Matsuzaki M; JAPAN-ACS Investigators
Impact of Total Risk Management on Coronary Plaque Regression in Diabetic Patients with Acute Coronary Syndrome.
J Atheroscler Thromb. 2016 Aug 1;23(8):922-31

25. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Appropriate level of low density lipoprotein cholesterol for secondary prevention of coronary artery disease.
J Atheroscler Thromb. 2016; 23: 413-421.

26. Kattel S, Kasai T, Matsumoto H, Yatsu S, Murata A, Kato T, Suda S, Hiki M, Takagi A, Daida H.
Association between elevated blood glucose level on admission and long-term mortality in patients with acute decompensated heart failure.
J Cardiol. 2016 Aug 20.

27. Konishi H, Miyauchi K, Kasai T, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Dohi T, Tamura H, Okazaki S, Daida H.
Adequate time in therapeutic INR range using triple antithrombotic therapy is not associated with long-term cardiovascular events and major bleeding complications after drug-eluting stent implantation

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

J Cardiol. 2016 Mar 25. pii: S0914-5087

28. Chiang SJ, Daimon M, Miyazaki S, Kawata T, Morimoto-Ichikawa R, Maruyama M, Ohmura H, Miyauchi K, Lee SL, Daida H
When and how aortic stenosis is first diagnosed: A single-center observational study.
J Cardiol. 2016 Oct;68(4):324-8.

29. Fujimoto S, Kondo T, Takamura K, Baber U, Shinozaki T, Nishizaki Y, Kawaguchi Y, Matsumori R, Hiki M, Miyauchi K, Daida H, Hecht H, Stone GW, Narula J
Incremental prognostic value of coronary computed tomographic angiography high-risk plaque characteristics in newly symptomatic patients.
J Cardiol. 2016;67:538-44

30. Sukmawati D, Tanaka R, Ito-Hirano R, Fujimura S, Hayashi A, Itoh S, Mizuno H, Daida H.
The role of Notch signaling in diabetic endothelial progenitor cells dysfunction.
J Diabetes Complications. 2016;30(1):12-20.

31. Shiozawa T, Shimada K, Sekita G, Hayashi H, Tabuchi H, Komatsu S, Miyazaki T, Miyauchi K, Shitara J, Yoshihara T, Sai E, Shiozaki M, Fukao K, Fukushima Y, Yamagami S, Suwa S, Katoh Y, Fujiwara Y, Ikeda H, Sumiyoshi M, Nakazato Y, Daida H.
Watching National team matches in World Cup Soccer 2014 on television was associated with increasing frequency of premature ventricular contractions.
J Heart Cardiol. 2:1- 5;2016.

32. Takahashi S, Katada J, Daida H, Kitamura F, Yokoyama K.
Effects of mineralocorticoid receptor antagonists in patients with hypertension and diabetes mellitus: a systematic review and meta-analysis.
J Hum Hypertens. 2016 Sep;30(9):534-42.

33. Ogita M, Miyauchi K, Onishi A, Tsuboi S, Wada H, Konishi H, Naito R, Dohi T, Kasai T, Kojima Y, Schwartz RS, Daida H.
Development of Accelerated Coronary Atherosclerosis Model Using Low Density Lipoprotein Receptor Knock-Out Swine with Balloon Injury.
PLoS One. 2016 Sep 15;11(9):e0163055

34. Ogita M, Miyauchi K, Onishi A, Tsuboi S, Wada H, Konishi H, Naito R, Dohi T, Kasai T, Kojima Y, Schwartz R, Daida H.
Accelerated coronary atherosclerotic model in a novel low density lipoprotein receptor knock-out swine.
PLoS One. 2016; 11: e0163055.

35. Ueno T, Hirayama S, Sugihara M, Miida T
The bromocresol green assay, but not the modified bromocresol purple assay, overestimates the

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

serum albumin concentration in nephrotic syndrome through reaction with α2-macroglobulin.
Ann Clin Biochem, 2016; 53: 97-105

36. Tabe Y, Hatanaka Y, Nakashiro M, Sekihara K, Yamamoto S, Matsushita H, Kazuno S, Fujimura T, Ikegami T, Nakanaga K, Matsumoto H, Ueno T, Aoki J, Yokomizo T, Konopleva M, Andreeff M, Miida T, Iwabuchi K, Sasai K.
Integrative genomic and proteomic analyses identifies glycerol-3-phosphate acyltransferase as a target of low-dose ionizing radiation in EBV infected-B cells.
Int J Radiat Biol. 2016;92(1):24-34.

37. Horiuchi Y, Tabe Y, Kasuga K, Maenou I, Idei M, Horii T, Miida T, Ohsaka A.
The efficacy of an internet-based e-learning system using the CellaVision competency software for continuing professional development.
Clin Chem Lab Med. 2016 Apr;54(4):e127-31.

38. Hayashi K, Tabe Y, Miida T.
Impact of clotting condition on the measurement of circulating microRNAs in serum.
Clin Lab. 2016;62(3):471-5.

39. Idei M, Tabe Y, Hamada C, Miyake K, Takemura H, Io H, Wakita M, Horii T, Tomino Y, Ohsaka A, Miida T.
Pancreatic lipase activity in overnight effluent predicts high transport status in peritoneal dialysis patients.
Clin Chim Acta. 2016 Nov 1;462:65-70.

40. Nakadera E, Yamashina S, Izumi K, Inami Y, Sato T, Fukushima H, Kon K, Ikejima K, Ueno T, Watanabe S
Inhibition of mTOR improves the impairment of acidification in autophagic vesicles caused by hepatic steatosis.
Biochem Biophys Res Commun. 2016; 469: 1104-1110

41. Yamamoto-Nonaka K, Koike M, Asanuma K, Takagi M, Oliva Trejo JA, Seki T, Hidaka T, Ichimura K, Sakai T, Tada N, Ueno T, Uchiyama Y, Tomino Y.
Cathepsin D in Podocytes Is Important in the Pathogenesis of Proteinuria and CKD.
J Am Soc Nephrol. 2016; 27: 2685-2700

42. Yamada D, Saiki S, Furuya N, Ishikawa K, Imamichi Y, Kambe T, Fujimura T, Ueno T, Koike M, Sumiyoshi K, Hattori N.
Ethambutol neutralizes lysosomes and causes lysosomal zinc accumulation.
Biochem Biophys Res Commun. 2016; 471: 109-116

43. Kazuno S, Furukawa J, Shinohara Y, Murayama K, Fujime M, Ueno T, Fujimura T.
Glycosylation status of serum immunoglobulin G in patients with prostate diseases.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Cancer Med. 2016; 5: 1137-1146

44. Saito T, Ichimura Y, Taguchi K, Suzuki T, Mizushima T, Takagi K, Hirose Y, Nagahashi M, Iso T, Fukutomi T, Ohishi M, Endo K, Uemura T, Nishito Y, Okuda S, Obata M, Kouno T, Imamura R, Tada Y, Obata R, Yasuda D, Takahashi K, Fujimura T, Pi J, Lee MS, Ueno T, Ohe T, Mashino T, Wakai T, Kojima H, Okabe T, Nagano T, Motohashi H, Waguri S, Soga T, Yamamoto M, Tanaka K, Komatsu M.
p62/Sqstm1 promotes malignancy of HCV-positive hepatocellular carcinoma through Nrf2-dependent metabolic reprogramming.
Nat Commun. 2016; 7: 12030

45. Sato S, Koike M, Funayama M, Ezaki J, Fukuda T, Ueno T, Uchiyama Y, Hattori N.
Lysosomal Storage of Subunit c of Mitochondrial ATP Synthase in Brain-Specific Atp13a2-Deficient Mice.
Am J Pathol. 2016; 186: 3074-3082

46. Hirose S., Osada T., Ogawa A., Tanaka M., Wada H., Yoshizawa Y., Imai Y., Machida T., Akahane M., Shirouzu I., and Konishi S.
Lateral-medial dissociation in orbitofrontal cortex-hypothalamus connectivity
Frontiers in Human Neuroscience, 10, 244, 2016

47. Jimura K., Hirose S., Wada H., Yoshizawa Y., Imai Y., Akahane M., Machida T., Shirouzu I., Koike Y., Miyashita Y., Konishi S.
Relatedness-dependent rapid development of brain activity in anterior temporal cortex during pair-association retrieval
Neuroscience Letters, 627, 24-29, 2016.

48. Takazawa Y, Nagayama M, Ikeda H, Kawasaki T, Ishijima M, Saita Y, Kaneko H, Kobayashi Y, Hada S, Kaneko K
Anterior cruciate ligament injuries in elite and high school rugby players: a 11-year review
Phys Sportsmed, 44, 53-8, 2016

49. Nishioka K, Hayashi T, Suzuki M, Li Y, Nakayama S, Matsushima T, Usui T, Sshibata N, Motoi Y, Tanaka R, Nishioka K, Hattori
Fibromyalgia syndrome and cognitive dysfunction in elderly: a case series
International J of Rhermatic Disease 2016 Jan;19(1):21-9

50. Elahi M, Hasan Z, Motoi Y, Matsumoto S, Ishiguro K, Hattori N.
Region-specific vulnerability to oxidative stress, Neuroinflammation, and Tau hyperphosphorylation in experimental diabetes Mellitis mice.
J Alz Dis. 2016 Feb 25;51(4):1209-1224

51. Takeshita Y, Shibata N, Kasanuki K, Nagata T, Shinagaa S, Kobayashi N, Ohnuma T, Suzuki A,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Kawai E, Takayama T, Nishioka K, Motoi Y, Hattori N, Nakayama K, Yamada H, Arai H.
Genetic association between RAGE polymorphisms and Alzheimer's disease and Lewy body dementias in a Japanese cohort: a case-control study.
Int J Geriatr Psychiatry 2016 Oct 4. doi: 10.1002/gps.4600

52. Suzuki A1, Shibata N1, Kasanuki K1, Nagata T2, Shinagawa S3, Kobayashi N3, Ohnuma T1, Takeshita Y1, Kawai E1, Takayama T1, Nishioka K4, Motoi Y4, Hattori N4, Nakayama K3, Yamada H5, Arai H1.
Genetic association between presenilin 2 polymorphisms and Alzheimer's diseaseand dementia of Lewy body type in a Japanese population.
Dement Geriatr Cogn Dis Extra. 2016 Mar 16;6(1):90-7

53. Kuroki T, Tanaka R, Shimada Y, Yamashiro K, Ueno Y,
Shimura H, Urabe T, Hattori N.
Exendin-4 Inhibits Matrix Metalloproteinase-9 Activation and Reduces Infarct Growth After Focal Cerebral Ischemia in Hyperglycemic Mice
Stroke, 2016;47(5):1328-35

54. Takeshige H, Ueno Y, Sasaki F, Namera A, Matsukawa T, Yokoyama K, Hattori N.
Acute hippocampal and chronic diffuse white matter involvement in severe methanol intoxication.
Neurology. 2016;87(22):2382-2383.

55. Daida K, Ishiguro Y, Eguchi H, Machida Y, Hattori N, Miwa H.
Cytomegalovirus-associated encephalomyelitis in an immunocompetent adult: a two-stage attack of direct viral and delayed immune-mediated invasions. case report.
BMC Neurol. 2016; 16(1):223.

56. Hattori N, Kikuchi M, Adachi N, Hewitt D, Huyck S, Saito T.
Adjunctive preladenant: A placebo-controlled, dose-finding study in Japanese patients with Parkinson's disease.
Parkinsonism Relat Disord. 2016; 32:73-79.

57. Ueno Y, Yamashiro K, Tanaka R, Kuroki T, Hira K, Kurita N, Urabe T, HattoriN.
Emerging Risk Factors for Recurrent Vascular Events in Patients With Embolic Stroke of Undetermined Source.
Stroke. 2016;47(11):2714-2721.

58. Sato S, Koike M, Funayama M, Ezaki J, Fukuda T, Ueno T, Uchiyama Y, HattoriN.
Lysosomal Storage of Subunit c of Mitochondrial ATP Synthase in Brain-Specific Atp13a2-Deficient Mice.
Am J Pathol. 2016;186(12):3074-3082.

59. Yamanaka T, Tosaki A, Miyazaki H, Kurosawa M, Koike M, Uchiyama Y, Maity SN, Misawa H,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Takahashi R, Shimogori T, Hattori N, Nukina N.
Differential roles of NF-Y transcription factor in ER chaperone expression and neuronal maintenance in the CNS.
Sci Rep. 2016 Sep 30;6:34575.

60. Kawajiri S, Hoshino Y, Nakamura R, Noda K, Tomizawa Y, Hattori N, Okuma Y.
A Case of Painless Legs and Moving Toes Syndrome in Parkinson's Disease Responsive to Dopaminergic Therapy.
Case Rep Neurol Med. 2016;2016:6829410.

61. Takeshige H, Ueno Y, Kamagata K, Sasaki F, Yamashiro K, Tanaka R, Aoki S, Hattori N.
Pathways Linked to Internuclear Ophthalmoplegia on Diffusion-Tensor Imaging in a Case with Midbrain Infarction.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2016;25(11):2575-2579.

62. Sasaki F, Kawajiri S, Nakajima S, Yamaguchi A, Tomizawa Y, Noda K, Hattori N, Okuma Y.
Occipital lobe seizures and subcortical T2 and T2* hypointensity associated with nonketotic hyperglycemia: a case report.
J Med Case Rep. 2016;10(1):228.

63. Noda K, Hattori N, Okuma Y.
Re-emergent tremor in a patient with Parkinson's disease.
BMJ Case Rep. 2016 Aug 5;2016. pii: bcr2016216436.

64. Hoshino Y, Nishioka K, Kanai K, Tanaka R, Nagaoka M, Kuwabara S, Hattori N.
Utility of ultrasonography in evaluating muscle contractions in stiff-person syndrome.
J Neurol Sci. 2016;367:361-2.

65. Cossu D, Yokoyama K, Sechi LA, Otsubo S, Tomizawa Y, Momotani E, Hattori N.
Humoral response against host-mimetic homologous epitopes of Mycobacterium avium subsp. paratuberculosis in Japanese multiple sclerosis patients.
Sci Rep. 2016 Jun 30;6:29227.

66. Yoritaka A, Mori H, Hattori N.
Treatment of Mild Camptocormia with Selegiline in Patients with Parkinson's Disease. Eur Neurol. 2016;76(1-2):35-9.

67. Fujimaki M, Takanashi M, Kobayashi M, Wada K, Machida Y, Kondo A, Hattori N, Miwa H.
Cerebrospinal fluid dissemination of anaplastic intraventricular meningioma: report of a case presenting with progressive brainstem dysfunction and multiple cranial nerve palsies.
BMC Neurol. 2016;16:82.

68. Ueno Y, Nakamura R, Hattori N.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Reply to CLIPPERS features before, during and after lymphoma.
J Neurol Sci. 2016;366:253-4.

69. Yoritaka A, Abe T, Ohtsuka C, Maeda T, Hirayama M, Watanabe H, Saiki H, Oyama G, Fukae J, Shimo Y, Hatano T, Kawajiri S, Okuma Y, Machida Y, Miwa H, Suzuki C, Kazama A, Tomiyama M, Kihara T, Hirasawa M, Shimura H, Hattori N.
A randomized double-blind multi-center trial of hydrogen water for Parkinson's disease: protocol and baseline characteristics.
BMC Neurol. 2016 May 12;16:66.

70. Takanashi M, Li Y, Hattori N.
Absence of Lewy pathology associated with PINK1 homozygous mutation.
Neurology. 2016 Jun 7;86(23):2212-3.

71. Nakamura R, Ueno Y, Ando J, Matsuda H, Masuda A, Iiduka K, Shingai N, Takanashi M, Yokoyama K, Komatsu N, Hattori N.
Clinical and radiological CLIPPERS features after complete remission of peripheral T-cell lymphoma, not otherwise specified.
J Neurol Sci. 2016;364:6-8.

72. Ochiishi T, Doi M, Yamasaki K, Hirose K, Kitamura A, Urabe T, Hattori N, Kinjo M, Ebihara T, Shimura H.
Development of new fusion proteins for visualizing amyloid-β oligomers in vivo.
Sci Rep. 2016 Mar 16;6:22712.

73. Elahi M, Hasan Z, Motoi Y, Matsumoto SE, Ishiguro K, Hattori N.
Region-Specific Vulnerability to Oxidative Stress, Neuroinflammation, and Tau Hyperphosphorylation in Experimental Diabetes Mellitus Mice.
J Alzheimers Dis. 2016;51(4):1209-24.

74. Conedera S, Apaydin H, Li Y, Yoshino H, Ikeda A, Matsushima T, Funayama M, Nishioka K, Hattori N.
FBXO7 mutations in Parkinson's disease and multiple system atrophy.
Neurobiol Aging. 2016 Apr;40:192.e1-5.

75. Takamura S, Ikeda A, Nishioka K, Furuya H, Tashiro M, Matsushima T, Li Y, Yoshino H, Funayama M, Morinobu S, Hattori N.
Schizophrenia as a prodromal symptom in a patient harboring SNCA duplication.
Parkinsonism Relat Disord. 2016 Apr;25:108-9.

76. Yamada D, Saiki S, Furuya N, Ishikawa K, Imamichi Y, Kambe T, Fujimura T, Ueno T, Koike M, Sumiyoshi K, Hattori N.
Ethambutol neutralizes lysosomes and causes lysosomal zinc accumulation.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Biochem Biophys Res Commun. 2016;471(1):109-16.

77. Tomizawa Y, Nakamura R, Hoshino Y, Sasaki F, Nakajima S, Kawajiri S, Noda K, Takanashi M, Fujita N, Yokoyama K, Hattori N, Takahashi T, Okuma Y.
Tumefactive demyelinating brain lesions with multiple closed-ring enhancement in the course of neuromyelitis optica.
J Neurol Sci. 2016;361:49-51.

78. Yoritaka A, Fukae J, Hatano T, Oda E, Hattori N.
The Direct Cost of Parkinson Disease at Juntendo Medical University Hospital, Japan. Intern Med. 2016;55(2):113-9.
Intern Med. 2016;55(2):113-9.

79. Matsushima T, Nishioka K, Tanaka R, Yokoyama K, Hattori N.
Anterior opercularsyndrome induced by Epstein-Barr virus encephalitis.
Neurocase. 2016;22(1):103-8.

80. Hatano T, Saiki S, Okuzumi A, Mohney RP, Hattori N.
Identification of novel biomarkers for Parkinson's disease by metabolomic technologies.
J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2016;87(3):295-301.

81. Sekimoto S, Oyama G, Izawa N, Ueno S, Jo T, Shimo Y, Nakajima A, Nakajim M, Umemura A, Ara H. Hattori N
Effect of zonisamide on post-traumatic Holmes' tremor
NEUROLOGY AND CLINICAL NEUROSCIENCE, 2016; 4(5):184-185

82. Yasuda H, Hotta N, Kasuga M, Kashiwagi A, Kawamori R, Yamada T, Baba Y, Alev L, Nakajo K.
Efficacy and safety of 40 mg or 60 mg duloxetine in Japanese adults with diabetic neuropathic pain: Results from a randomized, 52-week, open-label study.
J Diabetes Investig, 2016; 7(4): 100-108, 2016.1

83. Foley JE, Bhosekar V, Kawamori R.
Does the treatment of type 2 diabetes mellitus with the DPP -4 inhibitor vildagliptin reduce HbA1c to a greater extent in Japanese patients than in Caucasian patients?
dovepress, 2016; 12: 9-12: 2016.1.21

84. Imamura M, Takahashi A, Yamauchi T, Hara K, Yasuda K, Grarup N, Zhao W, Wang X, Huerta-Chagoya A, Hu C, Moon S, Long J, Kwak S H, Rasheed A, Saxena R, Ma R.C, Okada Y, Iwata M., Hosoe J, Shojima N, Iwasaki M, Fujita H, Suzuki K, Danesh J, Jorgensen T, Jorgensen M E, Witte D R, Brandslund I, Christensen C, Hansen T, Mercader JM, Flannick J, Moreno-Macias H, Burtt NP, Zhang R, Kim YJ, Zheng W, Singh J R, Tam C H, Hirose H, Maegawa H, Ito C, Kaku K, Watada H,Tanaka Y, Tobe K, Kawamori R, Kubo M, Cho Y S, Chan J C, Sanghera D, Frossard P, Park K S, Shu X O, Kim B J, Florez J C, Tusie-Luna T, Jia W, Tai E S, Pedersen O,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Saleheen D, Maeda S, Kadowaki T.
Genome-wide association studies in the Japanese population identify seven novel loci for type 2 diabetes.
Nat Commun, 2016; 7: 10531, 2016.1.28

85. Sato J , Kanazawa A, Ikeda F, Shigihara N, Kawaguchi M, Komiya K, Uchida T, Ogihara T,Mita T, Shimizu T, Fujitani Y, Watada H.
Effect of treatment guidance using a retrospective continuous glucose monitoring system on glycaemic control in outpatients with type 2 diabetes mellitus: A randomized controlled trial.
J Int Med Res, 2016; 44(1): 109-121, 2016.2

86. Schnell O, Weng J, Sheu W H, Watada H, Kalra S, Soegondo S, Yamamoto N, Rathod R, Zhang C, Grzeszczak W.
Acarbose reduces body weight irrespective of glycemic control in patients with diabetes: results of a worldwide, non-interventional, observational study data pool.
J Diabetes Complications, 2016; 30(4): 628-37, 2016.2.2

87. Osonoi Y, Mita T, Osonoi T, Saito M, Tamasawa A, Nakayama S., Someya Y, Ishida H, Kanazawa A, Gosho M, Fujitani Y, Watada H.
Relationship between dietary patterns and risk factors for cardiovascular disease in patients with type 2 diabetes mellitus: a cross-sectional study.
Nutr J, 2016; 15: 15, 2016.2.4

88. Kubo F, Miyatsuka T, Sasaki S, Takahara M, Yamamoto Y, Shimo N, Watada H, Kaneto H, Gannon M, Matsuoka T A, Shimomura I.
Sustained expression of GLP-1 receptor differentially modulates β-cell functions in diabetic and nondiabetic mice.
Biochem Biophys Res Commun, 2016; 471(1): 68-74, 2016.2.4

89. Uchida T, Suzuki R, Kasai T, Onose H, Komiya K, Goto H, Takeno K, Ishii S, Sato J, Honda A, Kawano Y, Himuro M, Yamada E, Yamada T, Watada H.
Cutoff value of thyroid uptake of (99m)Tc-pertechnetate to discriminate between Graves' disease and painless thyroiditis: a single center retrospective study.
Endocr J, 2016; 63(2): 143-149, 2016.2.29

90. Mita T, Katakami N, Shiraiwa T, Yoshii H, Onuma T, Kuribayashi N, Osonoi T, Kaneto H, Kosugi K, Umayahara Y, Yamamoto T, Matsumoto K, Yokoyama H, Tsugawa M, Gosho M, Shimomura I, Watada H, Collaborators on the Sitagliptin Preventive Study of Intima-Media Thickness Evaluation, T.
Sitagliptin Attenuates the Progression of Carotid Intima-Media Thickening in Insulin-Treated Patients With Type 2 Diabetes: The Sitagliptin Preventive Study of Intima-Media Thickness Evaluation (SPIKE): A Randomized Controlled Trial.
Diabetes Care, 2016; 39(3): 455-64, 2016.3

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

91. Uchida T, Himuro M, Komiya K, Goto H, Takeno K, Honda A, Sato J, Kawano Y, Suzuki R, Watada H.
Prevalence of fine-needle aspiration biopsy-related complications in Japanese patients and an unfamiliar hyperechoic lesion.
Journal of Ultrasound in Medicine, 2016; 35(3): 599-604,

92. Uchida T, Himuro M, Komiya K, Goto H, Takeno K, Honda A, Sato J, Kawano Y, Suzuki R, Watada H.
Evanescent Hyperechoic Changes After Fine-Needle Aspiration Biopsy of the Thyroid in a Series With a Low Overall Prevalence of Complications.
Journal of Ultrasound in Medicine, 2016; 35(3): 599-604,

93. Ueyama M, Nishida N, Korenaga M, Korenaga K, Kumagai E, Yanai H, Adachi H, Katsuyama H, Moriyama S, Hamasaki H, Sako A, Sugiyama M, Aoki Y, Imamura M, Murata K., Masaki N, Kawaguchi T, Torimura T, Hyogo H, Aikata H, Ito K, Sumida Y, Kanazawa A, Watada H, Okamoto K, Honda K, Kon K, Kanto T, Mizokami M, Watanabe S.
The impact of PNPLA3 and JAZF1 on hepatocellular carcinoma in non-viral hepatitis patients with type 2 diabetes mellitus.
J Gastroenterol, 2016; 51(4): 370-379, 2016.4

94. Tanaka A., Inoue T, Kitakaze M, Oyama J, Sata M, Taguchi I, Shimizu W, Watada H, Tomiyama H, Ako J, Sakata Y, Anzai T, Uematsu M, Suzuki M, Eguchi K, Yamashina A, Saito Y, Sato Y, Ueda S, Murohara T, Node K.
Rationale and design of a randomized trial to test the safety and non-inferiority of canagliflozin in patients with diabetes with chronic heart failure: the CANDLE trial.
Cardiovasc Diabetol, 2016; 15(1): 57, 2016.4.4

95. Matsuba R, Imamura M, Tanaka Y, Iwata M, Hirose H, Kaku K, Maegawa H, Watada H, Tobe K, Kashiwagi A, Kawamori R, Maeda S.
Replication Study in a Japanese Population of Six Susceptibility Loci for Type 2 Diabetes Originally Identified by a Transethnic Meta- Analysis of Genome-Wide Association Studies.
PLoS One, 2016; 11(4): e0154093, 2016.4.26

96. Mita T, Katakami N, Shimomura I, Watada H.
Response to Comment on Mita et al. Sitagliptin Attenuates the Progression of Carotid Intima-Media Thickening in Insulin-Treated Patients With Type 2 Diabetes: The Sitagliptin Preventive Study of Intima-Media Thickness Evaluation (SPIKE): A Randomized Controlled Trial. Diabetes Care 2016;39:455-464
Diabetes Care, 2016; 39(7): e104-5, 2016.7

97. Fujitani Y, Fujimoto S, Takahashi K, Satoh H, Hirose T, Hiyoshi T, Ai M, Okada Y, Gosho M, Mita T, Watada H.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Effects of linagliptin monotherapy compared with voglibose on postprandial blood glucose responses in Japanese patients with type 2 diabetes: Linagliptin Study of Effects on Postprandial blood glucose (L-STEP).
Diabetes Res Clin Pract, 2016; 121: 146-156, 2016.11

98. Kamagata K, Hatano T, Aoki S.
What is NODDI and what is its role in Parkinson's assessment?
Expert Rev Neurother. 2016;16(3):241-3.

99. Hagiwara A, Hori M, Suzuki M, Andica C, Nakazawa M, Tsuruta K, Takano N, Sato S, Hamasaki N, Yoshida M, Kumamaru KK, Ohtomo K, Aoki S.
Contrast-enhanced synthetic MRI for the detection of brain metastases.
Acta Radiol Open. 2016: 5(2):2058460115626757

100. Hagiwara A, Nakazawa M, Andica C, Tsuruta K, Takano N, Hori M, Suzuki H, Sugano H, Arai H, Aoki S.
Dural Enhancement in a Patient with Sturge-Weber Syndrome Revealed by Double Inversion Recovery Contrast Using Synthetic MRI.
Magn Reson Med Sci. 2016 Apr 11;15(2):151-2.

101. Kumamaru KK, Kogure Y, Suzuki M, Hori M, Nakanishi A, Kamagata K, Hagiwara A, Andica C, Ri K, Houshido N, Aoki S.
A strategy to optimize radiation exposure for non-contrast head CT: comparison with the Japanese diagnostic reference levels.
Jpn J Radiol. 2016 Jun;34(6):451-7.

102. Kamiya K, Amemiya S, Suzuki Y, Kunii N, Kawai K, Mori H, Kunimatsu A, Saito N, Aoki S, Ohtomo K.
Machine Learning of DTI Structural Brain Connectomes for Lateralization of Temporal Lobe Epilepsy.
Magn Reson Med Sci. 2016;15(1):121-9

103. Kamiya K, Kamagata K, Miyajima M, Nakajima M, Hori M, Tsuruta K, Mori H, Kunimatsu A, Arai H, Aoki S, Ohtomo K.
Diffusional Kurtosis Imaging in Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus: Correlation with Severity of Cognitive Impairment.
Magn Reson Med Sci. 2016 Jul 11;15(3):316-23.

104. Taoka T, Fujioka M, Kashiwagi Y, Obata A, Rokugawa T, Hori M, Masutani Y, Aoki S, Naganawa S, Abe K.
Time Course of Diffusion Kurtosis in Cerebral Infarctions of Transient Middle Cerebral Artery Occlusion Rat Model.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2016;25(3):610-7.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

105. Suzuki Y, Hori M, Kamiya K, Fukunaga I, Aoki S, VAN Cauteren M.
Estimation of the Mean Axon Diameter and Intra-axonal Space Volume Fraction of the Human Corpus Callosum: Diffusion q-space Imaging with Low q-values.
Magn Reson Med Sci. 2016;15(1):83-93.

106. Kamagata K, Hatano T, Okuzumi A, Motoi Y, Abe O, Shimoji K, Kamiya K, Suzuki M, Hori M, Kumamaru KK, Hattori N, Aoki S.
1. Neurite orientation dispersion and density imaging in the substantia nigra in idiopathic Parkinson disease.
Eur Radiol. 2016 Aug;26(8):2567-77.

107. Tachibana Y, Obata T, Tsuchiya H, Omatsu T, Kishimoto R, Kawaguchi H, Nishikori A, Kamagata K, Hori M, Aoki S, Tsuji H, Inoue T.
Diffusion-tensor-based method for robust and practical estimation of axial and radial diffusional kurtosis.
Eur Radiol. 2016 Aug;26(8):2559-66.

108. Hori M, Kamiya K, Nakanishi A, Fukunaga I, Miyajima M, Nakajima M, Suzuki M, Suzuki Y, Irie R, Kamagata K, Arai H, Aoki S.
Prospective estimation of mean axon diameter and extra-axonal space of the posterior limb of the internal capsule in patients with idiopathic normal pressure hydrocephalus before and after a lumboperitoneal shunt by using q-space diffusion MRI.
Eur Radiol. 2016 Sep;26(9):2992-8.

109. Kamagata K, Kerever A, Yokosawa S, Otake Y, Ochi H, Hori M, Kamiya K, Tsuruta K, Tagawa K, Okazawa H, Aoki S, Arikawa-Hirasawa E.
Quantitative Histological Validation of Diffusion Tensor MRI with Two-Photon Microscopy of Cleared Mouse Brain.
Magn Reson Med Sci. 2016 Oct 11;15(4):416-421.

110. Andica C, Hagiwara A, Nakazawa M, Tsuruta K, Takano N, Hori M, Suzuki H, Sugano H, Arai H, Aoki S.
The Advantage of Synthetic MRI for the Visualization of Early White Matter Change in an Infant with Sturge-Weber Syndrome.
Magn Reson Med Sci 2016;15(4):347-348.

111. Goto M, Suzuki M, Mizukami S, Abe O, Aoki S, Miyati T, Fukuda M, Gomi T, Takeda T.
Repeatability of Brain Volume Measurements Made with the Atlas-based Method from T1-weighted Images Acquired Using a 0.4 Tesla Low Field MR Scanner.
Magn Reson Med Sci. 2016 Oct 11;15(4):365-370.

112. Tsutsumi S, Hori M, Ono H, Tabuchi T, Aoki S, Yasumoto Y.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

The Infundibular
Recess Passes through the Entire Pituitary Stalk.
Clin Neuroradiol. 2016 Dec;26(4):465-469.

113. Deng PY, Ichinoseki-Sekine N, Zhou, LF, Naito H.
Changes in physical activity and weight status of Chinese children: A retrospective longitudinal study.
J Phys Fitness Sports Med, 2016 May; 5 (3): 247-256.

114. Ozaki H, Kitada T, Nakagata T, Naito H.
Combination of body mass-based resistance training and high-intensity walking can improve both muscle size and V˙O2 peak in untrained older women.
Geriatr Gerontol Int. 2016 May [Epub ahead of print]

115. Yoshihara T, Machida S, Kurosaka Y, Kakigi R, Sugiura T, Naito H.
Immobilization induces nuclear accumulation of HDAC4 in rat skeletal muscle.
J Physiol Sci. 2016 Jul; 66(4): 337-43.

116. Shibaguchi T, Sugiura T, Fujitsu T, Nomura T, Yoshihara T, Naito H, Yoshioka T, Ogura A, Ohira Y.
Effects of icing or heat stress on the induction of fibrosis and/or regeneration of injured rat soleus muscle.
J Physiol Sci. 2016 Jul; 66(4): 345-57.

117. Shibaguchi T, Yamaguchi Y, Miyaji N, Yoshihara T, Naito H, Goto K, Ohmori D, Yoshioka T, Sugiura T.
Astaxanthin intake attenuates muscle atrophy caused by immobilization in rats.
Physiol Rep. 2016 Aug; 4(15). pii: e12885.

118. Kikuchi N, Miyamoto-Mikami E, Murakami H, Nakamura T, Min SK, Mizuno M, Naito H, Miyachi M, Nakazato K, Fuku N.
ACTN3 R577X genotype and athletic performance in a large cohort of Japanese athletes.
Eur J Sport Sci. 2016 Sep; 16(6): 694-701.

119. Fuku N, Diaz-Pena R, Arai Y, Abe Y, Pareja-Galeano H, Sanchis-Gomar F, Santos-Lozano A, Zempo H, Naito H, Murakami H, Miyachi M, Venturini L, Ricevuti G, Hirose N, Emanuele E, Lucia A.
rs2802292 polymorphism in the FOXO3A gene and exceptional longevity in two ethnically distinct cohorts.
Maturitas. 2016 Oct; 92:110-4.

120. Yoshihara T, Kobayashi H, Kakigi R, Sugiura T, Naito H.
Heat stress-induced phosphorylation of FoxO3a signalling in rat skeletal muscle.
Acta Physiol (Oxf). 2016 Nov; 218(3): 178-187.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

121. Fuku N, Alis R, Yvert T, Zempo H, Naito H, Abe Y, Arai Y, Murakami H, Miyachi M, Pareja-Galeano H, Emanuele E, Hirose N, Lucia A.
Muscle-related polymorphisms MSTN rs1805086 and ACTN3 rs1815739 are not associated with exceptional longevity in Japanese centenarians.
PLoS One. 2016 Nov; 11(11): e0166605

122. Kusube F, Tominaga M, Kawasaki H, Yamakura F, Naito H, Ogawa H, Tomooka Y, Takamori K.
Electrophysiological properties of brain-natriuretic peptide-and gastrin-releasing peptide-responsive dorsal horn neurons in spinal itch transmission.
Neurosci lett. 2016; 627: 51-60.

123. Nakagata T, Naito H, Katamoto S, Kobayashi H, Sawada SS.
Effects of nicotine patches on energy expenditure measured with a human calorimeter.
Juntendo Medical Journal. 2016; 62(3): 232-239.

【英文原著 2017 年】

1. Yamamoto Y, Miyatsuka T, Sasaki S, Miyashita K, Kubo F, Shimo N, Takebe S, Watada H, Kaneto H, Matsuoka T, Shimomura I.
Preserving expression of Pdx1 improves β-cell failure in diabetic mice.
Biochem Biophys Res Commun. 2017 Jan 29;483(1):418-424.

2. Watada H, Su Q, Li P, Iwamoto N, Qian L, Yang W.
Comparison of insulin lispro mix 25 with insulin lispro mix 50 as an insulin starter in Asian patients with type 2 diabetes: a phase 4, open-label, randomized trial (CLASSIFY study).
Diabetes Metab Res Rev. 2017 Jan;33(1)

3. Uchida T, Nishimoto K, Fukumura Y, Asahina M, Goto H, Kawano Y, Shimizu F, Tsujimura A, Seki T, Mukai K, Kabe Y, Suematsu M, Sanchez G. C, Yao T, Horie S, Watada H.
Disorganized Steroidogenesis in Adrenocortical Carcinoma, a Case Study.
Endocr Pathol. 2017 Mar;28(1):27-35

4. Suzuki L, Hirayama S, Fukui M, Sasaki M, Hiroi S, Ayaori M, Terai S, Tozuka M, Watada H, Miida T.
Lipoprotein-X in cholestatic patients causes xanthomas and promotes foam cell formation in human macrophages.
J Clin Lipidol. 2017 Jan - Feb;11(1):110-118

5. Sato J, Uchida T, Komiya K, Goto H, Takeno K, Suzuki R, Honda A, Himuro M, Watada H.
Comparison of the therapeutic effects of prednisolone and nonsteroidal anti-inflammatory drugs in patients with subacute thyroiditis.
Endocrine. 2017 Jan;55(1):209-214

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

6. Saito D, Kanazawa A, Shigihara N, Sato F, Uchida T, Sato J, Goto H, Miyatsuka T, Ikeda F, Ogihara T, Ohmura C, Watada H.
   Efficacy and Safety of Vildagliptin as an Add-On Therapy in Inadequately Controlled Type 2 Diabetes Patients Treated With Basal Insulin.
   J Clin Med Res. 2017 Mar;9(3):193-199

7. Onose H, Uchida T, Sato J, Ishii S, Yamada E, Yamada T, Watada H.
   Monocyte and Basophil Counts as Predictors of Neutrophil Count Recovery in Patients with Thiamazole-induced Agranulocytosis.
   Exp Clin Endocrinol Diabetes. 2017 Jan;125(1):49-52

8. Ogihara T, Mita T, Osonoi Y, Osonoi T, Saito M, Tamasawa A, Nakayama S, Someya Y, Ishida H, Gosho M, Kanazawa A, Watada H.
   Relationships between lifestyle patterns and cardio-renal-metabolic parameters in patients with type 2 diabetes mellitus: A cross-sectional study.
   PLoS One. 2017 Mar 8;12(3):e0173540

9. Odawara M, Kawamori R, Tajima N, Iwamoto Y, Kageyama S, Yodo Y, Ueki F, Hotta N.
   Long-term treatment study of global standard dose metformin in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus.
   Diabetol Int. 2017 Feb 24;8(3):286-295

10. Mita T, Katakami N, Shiraiwa T, Yoshii H, Kuribayashi N, Osonoi T, Kaneto H, Kosugi K, Umayahara Y, Gosho M, Shimomura I, Watada H.
    Relationship between frequency of hypoglycemic episodes and changes in carotid atherosclerosis in insulin-treated patients with type 2 diabetes mellitus.
    Sci Rep. 2017 Jan 9;7:39965

11. Mita T, Katakami N, Shiraiwa T, Yoshii H, Gosho M, Shimomura I, Watada H, Sitagliptin Preventive Study of Intima-media Thickness Evaluation T.
    Changes in carotid intima-media thickening in patients with type 2 diabetes mellitus: Subanalysis of the Sitagliptin Preventive Study of Intima-Media Thickness Evaluation.
    J Diabetes Investig. 2017 Mar;8(2):254-255

12. Mita T, Katakami N, Shiraiwa T, Yoshii H, Gosho M, Shimomura I, Watada H.
    The Effect of Sitagliptin on the Regression of Carotid Intima-Media Thickening in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus: A Post Hoc Analysis of the Sitagliptin Preventive Study of Intima-Media Thickness Evaluation.
    Int J Endocrinol. 2017; 2017: 1925305.Epub 2017 Jan 17

13. Kuramitsu S, Miyauchi K, Yokoi H, Suwa S, Nishizaki Y, Yokoyama T, Nojiri S, Iwabuchi M, Shirai S, Ando K, Okazaki S, Tamura H, Watada H, Daida H.
    Effect of sitagliptin on plaque changes in coronary artery following acute coronary syndrome in

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

diabetic patients: The ESPECIAL-ACS study.
J Cardiol. 2017 Jan;69(1):369-376

14. Koga M, Inada S, Nakao T, Kawamori R, Kasayama S.
The Glycated Albumin (GA) to HbA1c Ratio Reflects Shorter-Term Glycemic Control than GA: Analysis of Patients with Fulminant Type 1 Diabetes.
J Clin Lab Anal. 2017 Jan;31(1)

15. Ishii H, Niiya T, Ono Y, Inaba N, Jinnouchi H, Watada H.
Improvement of quality of life through glycemic control by liraglutide, a GLP-1 analog, in insulin-naive patients with type 2 diabetes mellitus: the PAGE1 study.
Diabetol Metab Syndr. 2017 Jan 7;9:3

16. Chen W, Qian L, Watada H, Li P, Iwamoto N, Imori M, Yang W.
Impact of diet on the efficacy of insulin lispro mix 25 and insulin lispro mix 50 as starter insulin in East Asian patients with type 2 diabetes: Subgroup analysis of the Comparison Between Low Mixed Insulin and Mid Mixed Insulin as Starter Insulin For Patients with Type 2 Diabetes Mellitus (CLASSIFY Study) randomized trial.
J Diabetes Investig. 2017 Jan;8(1):75-83

17. Matsushima T, Conedera S, Tanaka R, Li Y, Yoshino H, Funayama M, Ikeda A, Hosaka Y, Okuzumi A, Shimada Y, Yamashiro K, Motoi Y, Nishioka K, Hattori N.
Genotype-phenotype correlations of cysteine replacement in CADASIL. Neurobiol Aging.
Neurobiol Aging. 2017 Feb; 50:169. e7-169.e14

18. Nagasaka H, Komatsu H, Inui A, Nakacho M, Morioka I, Tsukahara H, Kaji S, Hirayama S, Miida T, Kondou H, Ihara K, Yagi M, Kizaki Z, Bessho K, Kodama T, Iijima K, Saheki T, Yorifuji T, Honda A.
Circulating tricarboxylic acid cycle metabolite levels in citrin-deficient children with metabolic adaptation, with and without sodium pyruvate treatment.
Mol Genet Metab. 2017 Mar;120(3):207-212

19. Nagao Y, Hirayama S, Kon M, Sasamoto K, Sugihara M, Hirayama A, Isshiki M, Seino U, Miyazaki O, Miida T.
Current smokers with hyperlipidemia lack elevated preβ1-HDL concentrations.
J Clin Lipidol. 2017 Jan - Feb;11(1):242-249

20. Tabe Y, Yamamoto S, Saitoh K, Sekihara K, Monma N, Ikeo K, Mogushi K, Shikami M, Ruvolo VR, Ishizawa J, Hail N Jr, Kazuno S, Igarashi M, Matsushita H, Yamanaka Y, Arai H, Nagaoka I, Miida T, Hayashizaki Y, Konopleva M, Andreeff M.
Bone marrow adipocytes facilitate fatty acid oxidation activating AMPK and a transcriptional network supporting survival of acute monocytic leukemia cells.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Cancer Res. 2017 Mar 15;77(6):1453-1464

21. Sasaki Y, Hidaka T, Ueno T, Akiba-Takagi M, Trejo JA, Seki T, Nagai-Hosoe Y, Tanaka E, Horikoshi S, Tomino Y, Suzuki Y, Asanuma K.
Sorting Nexin 9 facilitates podocin endocytosis in the injured podocyte.
Sci Rep. 2017 Mar 7;7:43921

22. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Clinical Outcomes in Diabetic Patients Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention during the Plain Old Balloon Angioplasty (POBA)-, Bare Metal Stents (BMS)- and Drug-eluting Stents (DES)-eras from 1984 to 2010.
Intern Med. 2017;56(1):1-9 Epub 2017 Jan 1

23. Kurano M, Kano K, Dohi T, Matsumoto H, Igarashi K, Nishikawa M, Ohkawa R, Ikeda H, Miyauchi K, Daida H, Aoki J, Yatomi Y.
Different origins of lysophospholipid mediators between coronary and peripheral arteries in acute coronary syndrome.
J Lipid Res. 2017 Feb;58(2):433-442

24. Takagi H, Morio Y, Ishiwata T, Shimada K, Kume A, Miura K, Kuwasaki E, Kato M, Seyama K, Takahashi K.
Effect of telling patients their “spirometric-lung-age” on smoking cessation in Japanese smokers.
J Thorac Dis. 2017 Dec;9(12):5052-5060

25. Hirotoshi Ohmura, Yoshifumi Fukushima, Atsushi Mizuno,
Koichiro Niwa, Yohei Kobayashi, Toshiaki Ebina, Kazuo Kimura, Shun Ishibashi, Hiroyuki Daida, on behalf of the Research Committee on Primary Hyperlipidemia of the Ministry of Health and Welfare of Japan.
Estimated Prevalence of Heterozygous Familial Hypercholesterolemia in Patients With Acute Coronary Syndrome: Multicenter Registration Study in Japan.
Int Heart J. 2017 Feb 7;58(1):88-94

26. Hirose K, Daimon M, Miyazaki S, Chiang SJ, Morimoto-Ichikawa R, Maruyama M, Kawata T, Ohmura H, Daida H.
Estrogen variation during the menstrual cycle does not influence left ventricular diastolic function and untwisting rate in premenopausal women.
Journal of Cardiology 2017 Jan;69(1):389-393

27. Wada H, Ogita M, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H.
Impact of gender difference on long-term outcomes of percutaneous coronary intervention for coronary artery disease in patients under statin treatment.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Heart Vessels. 2017 Jan;32(1):16-21

28. Yatsu S, Kasai T, Suda S, Matsumoto H, Shiroshita N, Kato M, Kawana F, Murata A, Kato T, Hiki M, Daida H.
Impact on Clinical Outcomes of Periodic Leg Movements During Sleep in Hospitalized Patients Following Acute Decompensated Heart Failure.
Circ J. 2017 Mar 24;81(4):495-500

29. Takano A, Sekita G, Watanabe M, Mukaida H, Komatsu S, Tabuchi H, Hayashi H, Tokano T, Sumiyoshi M, Nakazato K, Daida H.
Long-term reliability of sweet-tip type screw-in leads.
J Arrhythm. 2017 Feb;33(1):12-16

30. Hata J, Nagai A, Hirata M, Kamatani Y, Tamakoshi A, Yamagata Z, Muto K, Matsuda K, Kubo M, Nakamura Y; Biobank Japan Cooperative Hospital Group.
Risk prediction models for mortality in patients with cardiovascular disease: The BioBank Japan project.
J Epidemiol. 2017 Mar;27(3S):S71-S76

31. Takahashi M, Ando J, Shimada K, Nishizaki Y, Tani S, Ogawa T, Yamamoto M, Nagao K, Hirayama A, Yoshimura M, Daida H, Nagai R, Komuro I.
The ratio of serum n-3 to n-6 polyunsaturated fatty acids is associated with diabetes mellitus in patients with prior myocardial infarction: a multicenter cross-sectional study.
BMC Cardiovasc Disord. 2017 Jan 26;17(1):41

32. Shiomi H, Morimoto T, Kitaguchi S, Nakagawa Y, Ishii K, Haruna Y, Takamisawa I, Motooka M, Nakao K, Matsuda S, Mimoto S, Aoyama Y, Takeda T, Murata K, Akao M, Inada T, Eizawa H, Hyakuna E, Awano K, Shirotani M, Furukawa Y, Kadota K, Miyauchi K, Tanaka M, Noguchi Y, Nakamura S, Yasuda S, Miyazaki S, Daida H, Kimura K, Ikari Y, Hirayama H, Sumiyoshi T, Kimura T; ReACT Investigators.
The ReACT Trial: Randomized Evaluation of Routine Follow-up Coronary Angiography After Percutaneous Coronary Intervention Trial.
JACC Cardiovasc Interv. 2017 Jan 23;10(2):109-117

33. Yoshihara T, Yamamoto Y, Shibaguchi T, Miyaji N, Kakigi R, Naito H, Goto K, Ohmori D, Yoshioka T, Sugiura T.
Dietary astaxanthin supplementation attenuates disuse-induced muscle atrophy and myonuclear apoptosis in the rat soleus muscle.
J Physiol Sci. 2017 Jan;67(1):181-190

34. Kamagata K, Nakatsuka T, Sakakibara R, Tsuyusaki Y, Takamura T, Sato K, Suzuki M, Hori M, Kumamaru KK, Inaoka T, Aoki S, Terada H.
Diagnostic imaging of dementia with Lewy bodies by susceptibility-weighted imaging of

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

nigrosomes versus striatal dopamine transporter single-photon emission computed tomography: a retrospective observational study.
Neuroradiology. 2017 Jan;59(1):89-98

35. Irie R, Tsuruta K, Hori M, Suzuki M, Kamagata K, Nakanishi A, Kamiya K, Nakajima M, Miyajima M, Arai H, Aoki S.
Neurite orientation dispersion and density imaging for evaluation of corticospinal tract in idiopathic normal pressure hydrocephalus.
Jpn J Radiol. 2017 Jan;35(1):25-30

36. Hagiwara A, Hori M, Yokoyama K, Takemura MY, Andica C, Tabata T, Kamagata K, Suzuki M, Kumamaru KK, Nakazawa M, Takano N, Kawasaki H, Hamasaki N, Kunimatsu A, Aoki S.
Synthetic MRI in the detection of multiple sclerosis plaques.
AJNR Am J Neuroradiol. 2017 Feb;38(2):257-263

37. Hagiwara A, Hori M, Yokoyama K, Takemura MY, Andica C, Kumamaru KK, Nakazawa M, Takano N, Kawasaki H, Sato S, Hamasaki N, Kunimatsu A, Aoki S.
Utility of a multi-parametric quantitative MRI model that assesses myelin and edema for evaluating plaques, periplaque white matter, and normal-appearing white matter in patients with multiple sclerosis: a feasibility study.
AJNR Am J Neuroradiol. 2017 Feb;38(2):237-242

38. Takano N, Suzuki M, Irie R, Yamamoto M, Hamasaki N, Kamagata K, Kumamaru KK, Hori M, Oishi H, Aoki S.
Usefulness of Non-Contrast-Enhanced MR Angiography Using a Silent Scan for Follow-Up after Y-Configuration Stent-Assisted Coil Embolization for Basilar Tip Aneurysms.
AJNR Am J Neuroradiol. 2017 Mar;38(3):577-581

39. Kamiya K, Hori M, Irie R, Miyajima M, Nakajima M, Kamagata K, Tsuruta K, Saito A, Nakazawa M, Suzuki Y, Mori H, Kunimatsu A, Arai H, Aoki S, Abe O.
Diffusion imaging of reversible and irreversible microstructural changes within the corticospinal tract in idiopathic normal pressure hydrocephalus.
Neuroimage Clinical. 2017 Mar 11;14:663-671

40. Sugawara Y, Ishijima M, Kurosawa H, Shimura Y, Kaneko H, Liu L, Futami I, Iwase Y, Kaneko K.
Preoperative timed single leg standing time is associated with the postoperative activity of daily living in aged disabled patients with end-stage knee osteoarthritis at six-months after undergoing total knee arthroplasty.
Mod Rheumatol. 2017 Mar;27(2):326-331

41. Nishioka K, Fujimaki M, Kanai K, Ishiguro Y, Nakazato T, Tanaka R, YokoyamaK, Hattori N.
Demyelinating Peripheral Neuropathy Due to Renal Cell Carcinoma.
Intern Med. 2017 Jan 1;56(1):101-104.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

42. Tsukada R, Oyama G, Shimo Y, Sekimoto S, Jo T, Nakajima A. Umemura, A, Arai H, Hattori N.
Interleaving stimulation with a combination of bipolar and monopolar configurations for secondary failure of bilateral subthalamic stimulation in Parkinson's disease.
NEUROLOGY AND CLINICAL NEUROSCIENCE, January 2017 Jan; 5(1):32-33

43. Jurjević I, Miyajima M, Ogino I, Akiba C, Nakajima M, Kondo A, Kikkawa M, Kanai M, Hattori N, Arai H.
Decreased Expression of hsa-miR-4274 in Cerebrospinal Fluid of Normal Pressure Hydrocephalus Mimics with Parkinsonian Syndromes.
J Alzheimers Dis. 2017 Jan;56(1):317-325

44. Wang L, Heckman MG, Aasly JO, Annesi G, Bozi M, Chung SJ, Clarke C, Crosiers D, Eckstein G, Garraux G, Hadjigeorgiou GM, Hattori N, Jeon B, Kim YJ, Kubo M, Lesage S, Lin JJ, Lynch T, Lichtner P, Mellick GD, Mok V, Morrison KE, Quattrone A, Satake W, Silburn PA, Stefanis L, Stockton JD, Tan EK, Toda T, Brice A, Van Broeckhoven C, Uitti RJ, Wirdefeldt K, Wszolek Z, Xiromerisiou G, Maraganore DM, Gasser T, Krüger R, Farrer MJ, Ross OA, Sharma M; GEOPD Consortium.
Evaluation of the interaction between LRRK2 and PARK16 loci in determining risk of Parkinson's disease: analysis of a large multicenter study.
Neurobiol Aging. 2017 Jan;49:217.e1-217.e4

45. Suzuki S, Akamatsu W, Kisa F, Sone T, Ishikawa KI, Kuzumaki N, Katayama H, Miyawaki A, Hattori N, Okano H.
Efficient induction of dopaminergic neuron differentiation from induced pluripotent stem cells reveals impaired mitophagy in PARK2 neurons.
Biochem Biophys Res Commun. 2017 Jan 29;483(1):88-93

46. Yoritaka A, Abe T, Ohtsuka C, Maeda T, Hirayama M, Watanabe H, Saiki H, Oyama G, Fukae J, Shimo Y, Hatano T, Kawajiri S, Okuma Y, Machida Y, Miwa H, Suzuki C, Kazama A, Tomiyama M, Kihara T, Hirasawa M, Shimura H, Hattori N.
Erratum to: A randomized double-blind multi-center trial of hydrogen water for Parkinson's disease: protocol and baseline characteristics.
BMC Neurol. 2017 Feb 20;17(1):35

47. Kasemsuk C, Oyama G, Hattori N.
Management of impulse control disorders with deep brain stimulation: A double-edged sword.
J Neurol Sci. 2017 Mar 15;374:63-68

48. Homma Y, Baba T, Ozaki Y, Watari T, Kobayashi H, Ochi H, Matsumoto M, Kaneko K.
In total hip arthroplasty via the direct anterior approach, dual-mobility cup prevents dislocation as effectively in hip fracture as in osteoarthritis.
Int Orthop., 2017 Mar; 41(3): 491-497

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

49. Kanazawa H, Maruyama Y, Shitoto K, Yokoyama M, Kaneko K:
Survival and clinical results of a modified“crosse de hockey”procedure for chronic isolated patellofemoral joint osteoarthritis: mid-term follow-up.
J Orthopaed Traumatol 2017 Mar; 18(1): 23–30

50. Ochi H, Homma Y, Baba T, Ozaki Y, Watari T, Kobayashi H, Matsumoto M, Kaneko K.
Sagittal spinopelvic alignment predicts hip function after total hip arthroplasty.
Gait Posture. 2017 Feb;52:293-300

51. Ozaki Y, Homma Y, Baba T, Sano K, Desroches A, Kaneko K.
Spontaneous healing of lateral femoral cutaneous nerve injury and improved quality of life after total hip arthroplasty via a direct anterior approach: survey at average 12.8 and 26.2 months follow-up.
J Orthop Surg., 2017Jan; 25(1): 1-7

52. Takazawa Y, Ikeda H, Saita Y, Kawasaki T, Ishijima M, Nagayama M, Kaneko H, Kaneko K.
Return to Play of Rugby Players After Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Using Hamstring Autograft: Return to Sports and Graft Failure According to Age.
Arthroscopy, 2017Jan;33:181-189

53. Sato T, Yonezawa I, Todo M, Takano H, Kaneko K.
Use of Nonlinear Finite Element Analysis of Bone Density to Investigate the Biomechanical Effect in the Bone around Intervertebral Cages in Posterior Lumbar Interbody Fusion.
Journal of Biomedical Science and Engineering, 2017 Jan; 10(10):445-455

54. Yoshida K, Itoigawa Y, Maruyama Y, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K, Sakai T, Okuwaki T.
Application of Shear Wave Elastography for the Gastrocnemius Medial Head to Tenis Leg.
Clin Anat. 2017 Jan;30(1):114-119

55. Ikeda A, Matsushima T, Daida K, Nakajima S, Conedera S, Li Y, Yoshino H, Oyama G, Funayama M, Nishioka K, Hattori N.
A novel mutation of CHCHD2 p.R8H in a sporadic case of Parkinson's disease.
Parkinsonism Relat Disord. 2017 Jan ; 34:66-68

56. Matsumoto M, Baba T, Ochi H, Ozaki Y, Watari T, Homma Y, Kaneko K.
Kerboull-type plate in a direct anterior approach for severe bone defects at primary total hip arthroplasty: technical note.
SICOT-J.2017,3:21

57. Morohashi I, Iwase H, Kanda A, Sato T, Homma Y, Obayashi O, Kaneko K.
Acoustic pattern evaluation during cementless hip arthroplasty surgery may be a new method for

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

predicting complications.
SICOTJ.2017,3;13

58. Kanazawa H, Maruyama Y, Takamiya S, Kaneko K.
Bilateral symptomatic lateral patellar synovial plica of the knee in adolescent athlete: A case report.
Open Journal of Orthopedics, 2017 Feb;7:2, 63-71

59. Sugawara Y, , Ishijima M, Kurosawa H, Shimura Y, Kaneko H, Liu L, Futami I, Iwase Y, Kaneko K
Pre-operative timed single leg standing time is associated with the post-operative activity of daily living after receiving total knee arthroplasty in aged disabled patients with end-stage knee osteoarthritis
Mod Rheumatol, 27, 326-31, 2017

60. Liu L, Ishijima M, Kaneko H, Sadatsuki R, Hada S, Kinoshita M, Futami I, Yusup A, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K
MRI-evaluated osteophyte size is a risk factor for receiving the total knee arthroplasty in patients with end-stage knee osteoarthritis
Mod Rheumatol, 27, 332-38, 2017

61. Shimoda M, Yoshida H, Mizuno S, Hirozane H, Horiuchi K, Yoshino Y, Hara H, Kanai Y, Inoue S, Ishijima M and Okada Y.
HYBID (hyaluronan binding protein involved in hyaluronan depolymerization, KIAA1199) controls endochondral ossification through hyaluronan metabolism.
Am J Pathol. 2017 May;187(5):1162-1176

62. Nakayama S, Suda A, Nakanishi A, Motoi Y, Hattori N
Galantamine Response Associates with Agitation and the Prefrontal Cortex in Patients with Alzheimer's Disease
J Alzheimers Dis. 2017;57(1):267-273

63. Hara Y, Motoi Y, Hikishima K, Mizum H, Onoe H, Matsumoto SE, Elahi M, Okano H, Aoki S, Hattori N
Involvement of the septo-hippocampal cholinergic pathway in association with septal acetylcholinesterase upregulation in a mouse model of tauopathy.
Curr Alzheimer Res. 2017;14(1):94-103

64. Takano N, Suzuki M, Irie R, Yamamoto M, Teranishi K, Yatomi K, Hamasaki N, Kumamaru KK, Hori M, Oishi H, Aoki S.
Noncontrast-enhanced Silent Scan Magnetic Resonance Angiography of Intracranial Anterior Circulation Aneurysms Treated using a Low-profile Visualized Intraluminal Support Device.
AJNR Am J Neuroradiol. Aug;38(8):1610-1616

65. Takano N, Suzuki M, Irie R, Yamamoto M, Hamasaki N, Kamagata K, Kumamaru KK, Hori M,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Oishi H, Aoki S.
Usefulness of Non-contrast Enhanced Magnetic Resonance Angiography using a Silent Scan for Follow-up after Y-Configuration Stent-Assisted Coil Embolization for Basilar Tip Aneurysms.
AJNR Am J Neuroradiol. 2017 Mar;38(3):577-581.

66. Chang S-w, Yoshihara T, Machida S, Naito H.
Circadian rhythm of intracellular protein synthesis signaling in rat cardiac and skeletal muscles.
BB Reports. 2017; 9, 153-8.

67. Watada H, Imori M, Li P, Iwamoto N.
Insulin lispro 25/75 and insulin lispro 50/50 as starter insulin in Japanese patients with type 2 diabetes: subanalysis of the CLASSIFY randomized trial.
Endocr J. 2017 Jul 28; 64(7):705-717

68. Suzuki L, Kanazawa A, Uzawa H, Osonoi Y, Masuyama A, Azuma K, Takeno K, Takayanagi N, Sato J, Someya Y, Komiya K, Goto H, Mita T, Ikeda F, Ogihara T, Shimizu T, Ohmura C, Saito M, Osonoi T, Watada H.
Safety and efficacy of metformin up-titration in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus treated with vildagliptin and low-dose metformin.
Expert Opin Pharmacother. 2017 Dec; 18(18):1921-1928

69. Shigiyama F, Kumashiro N, Furukawa Y, Funayama T, Takeno K, Wakui N, Ikehara T, Nagai H, Taka H, Fujimura T, Uchino H, Tamura Y, Watada H, Nemoto T, Shiraga N, Sumino Y, Hirose T.
Characteristics of hepatic insulin-sensitive nonalcoholic fatty liver disease.
Hepatol Commun. 2017 Jul 29; 1(7):634-647

70. Satoh H, Ohira T, Moriya C, Inoue I, Kuribayashi S, Seino H, Hirai H, Hiyoshi T, Watada H, L-CGM Study Group.
Effects of linagliptin vs. voglibose on daily glucose excursions during continuous glucose monitoring of Japanese type 2 diabetes patients (L-CGM): A randomized, open-label, two-arm, parallel comparative trial.
Diabetes Metab. 2017 Dec; 43(6):550-553

71. Sato J, Kanazawa A, Makita S, Hatae C, Komiya K, Shimizu T, Ikeda F, Tamura Y, Ogihara T, Mita T, Goto H, Uchida T, Miyatsuka T, Takeno K, Shimada S, Ohmura C, Watanabe T, Kobayashi K, Miura Y, Iwaoka M, Hirashima N, Fujitani Y, Watada H.
A randomized controlled trial of 130 g/day low-carbohydrate diet in type 2 diabetes with poor glycemic control.
Clin Nutr. 2017 Aug; 36(4):992-1000

72. Sato J, Kanazawa A, Hatae C, Makita S, Komiya K, Shimizu T, Ikeda F, Tamura Y, Ogihara T, Mita T, Goto H, Uchida T, Miyatsuka T, Ohmura C, Watanabe T, Kobayashi K, Miura Y, Iwaoka M,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Hirashima N, Watada H.
One year follow-up after a randomized controlled trial of a 130 g/day low-carbohydrate diet in patients with type 2 diabetes mellitus and poor glycemic control.
PLoS One. 2017 Dec 4; 12(12): e0188892

73. Sato J, Kanazawa A, Azuma K, Ikeda F, Goto H, Komiya K, Kanno R, Tamura Y, Asahara T, Takahashi T, Nomoto K, Yamashiro Y, Watada H.
Probiotic reduces bacterial translocation in type 2 diabetes mellitus: A randomised controlled study.
Sci Rep. 2017 Sep 21; 7(1):12115

74. Ohkuma T, Tomiyama H, Ninomiya T, Kario K, Hoshide S, Kita Y, Inoguchi T, Maeda Y, Kohara K, Tabara Y, Nakamura M, Ohkubo T, Watada H, Munakata M, Ohishi M, Ito N, Nakamura M, Shoji T, Vlachopoulos C, Yamashina A.
Proposed Cutoff Value of Brachial-Ankle Pulse Wave Velocity for the Management of Hypertension.
Circ J. 2017 Sep 25; 81(10):1540-1542

75. Ohkuma T, Ninomiya T, Tomiyama H, Kario K, Hoshide S, Kita Y, Inoguchi T, Maeda Y, Kohara K, Tabara Y, Nakamura M, Ohkubo T, Watada H, Munakata M, Ohishi M, Ito N, Nakamura M, Shoji T, Vlachopoulos C, Yamashina A, Collaborative Group for, J. Bavel.
Brachial-Ankle Pulse Wave Velocity and the Risk Prediction of Cardiovascular Disease: An Individual Participant Data Meta-Analysis.
Hypertension. 2017 Jun; 69(6):1045-1052

76. Mita T, Katakami N, Shiraiwa T, Yoshii H, Gosho M, Shimomura I, Watada H.
Dose-Dependent Effect of Sitagliptin on Carotid Atherosclerosis in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus Receiving Insulin Treatment: A Post Hoc Analysis.
Diabetes Ther. 2017 Oct; 8(5):1135-1146

77. Mita T, Katakami N, Shiraiwa T, Yoshii H, Gosho M, Ishii H, Shimomura I, Watada H, Spike Trial Site Investigators.
The Influence of Sitagliptin on Treatment-Related Quality of Life in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus Receiving Insulin Treatment: A Prespecified Sub-Analysis.
Diabetes Ther. 2017 Jun; 8(3):693-704

78. Katakami N, Mita T, Yoshii H, Shiraiwa T, Yasuda T, Okada Y, Umayahara Y, Kaneto H, Osonoi T, Yamamoto T, Kuribayashi N, Maeda K, Yokoyama H, Kosugi K, Ohtoshi K, Hayashi I, Sumitani S, Tsugawa M, Ohashi M, Taki H, Nakamura T, Kawashima S, Sato Y, Watada H, Shimomura I, UTOPIA study investigators.
Rationale, Design, and Baseline Characteristics of the Utopia Trial for Preventing Diabetic Atherosclerosis Using an SGLT2 Inhibitor: A Prospective, Randomized, Open-Label, Parallel-Group Comparative Study.
Diabetes Ther. 2017 Oct; 8(5):999-1013

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

79. Ji L, Bonnet F, Charbonnel B, Gomes M. B, Kosiborod M, Khunti K, Nicolucci A, Pocock S, Rathmann W, Shestakova M. V, Shimomura I, Watada H, Fenici P, Hammar N, Hashigami K, Macaraeg G, Surmont F, Medina J.
Towards an improved global understanding of treatment and outcomes in people with type 2 diabetes: Rationale and methods of the DISCOVER observational study program.
J Diabetes Complications. 2017 Jul; 31(7)

80. Honda A, Uchida T, Komiya K, Goto H, Takeno K, Sato J, Suzuki R, Himuro M, Watada H.
RELATIONSHIP BETWEEN THE EFFECTIVENESS OF INORGANIC IODINE AND THE SEVERITY OF GRAVES' THYROTOXICOSIS: A RETROSPECTIVE STUDY.
Endocr Pract. 2017 Dec; 23(12):1408-1413

81. Hamamura M, Mita T, Osonoi Y, Osonoi T, Saito M, Tamasawa A, Nakayama S, Someya Y, Ishida H, Gosho M, Kanazawa A, Watada H.
Relationships Among Conventional Cardiovascular Risk Factors and Lifestyle Habits With Arterial Stiffness in Type 2 Diabetic Patients.
J Clin Med Res. 2017 Apr; 9(4):297-302

82. Fukunaka A, Fukada T, Bhin J, Suzuki L, Tsuzuki T, Takamine Y, Bin B. H, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Naito H, Miyatsuka T, Takamiya S, Sasaki T, Inagaki T, Kitamura T, Kajimura S, Watada H, Fujitani Y.
Zinc transporter ZIP13 suppresses beige adipocyte biogenesis and energy expenditure by regulating C/EBP-β expression.
PLoS Genet. 2017 Aug 30; 13(8): e1006950

83. Yamamoto H, Arimura S, Nakanishi A, Shimo Y, Motoi Y, Ishiguro K, Murakami K, Hattori N, Aoki S.
Age-related effects and gender differences in Japanese healthy controls for [I-123] FP-CIT SPECT.
Ann Nucl Med. 2017 Jun; 31(5):407-412

84. Nakagawa T, Hirayama S, Watanabe T, Yokomura M, Kohno M, Sato T, Bujo H, Sato A, Murata M, Miida T for JSCC Kanto Study Group.
Triglyceride concentrations should be measured after elimination of free glycerol to exclude interindividual variations due to adiposity and fasting status.
Clin Chem Lab Med. 2017 Aug 28;55(9): e191-e194

85. Shoji H, Ikeda N, Kojima C, Kitamura T, Suganuma H, Hisata K, Hirayama S, Ueno T, Miida T, Shimizu T.
Relationship between copper and lipids and atherogenic indices soon after birth in Japanese preterm infants of 32–35 weeks.
J Dev Orig Health Dis. 2017 Apr;8(2):256-260

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

86. Miida T, Nishimura K, Hirayama S, Miyamoto Y, Nakamura M, Masuda D, Yamashita S, Ushiyama M, Komori T, Fujita N, Yokoyama S, Teramoto T.
Homogeneous assays for LDL-C and HDL-C are reliable in both the postprandial and fasting state.
J Atheroscler Thromb. 2017 Jun 1;24(6):583-599

87. Sekihara K, Saitoh K, Yamamoto S, Kikkawa M, Kazuno S, Taka H, Kaga N, Arai H, Miida T, Andreeff M, Konopleva M, Tabe Y.
Targeting mantle cell lymphoma metabolism and survival through simultaneous blockade of mTOR and nuclear transporter exportin-1.
Oncotarget. 2017 May 23;8(21):34552-34564

88. Sasamoto K, Hirayama S, Kon M, Seino U, Ueno T, Nagao Y, Hirayama A, Isshiki M, Idei M, Yano K, Miida T.
Changes in apolipoprotein E-containing high-density lipoprotein (HDL) have little impact on HDL-cholesterol measurements using homogeneous assays in normolipidemic and dyslipidemic subjects.
Clin Chim Acta. 2017 Jul;470: 56-63

89. Hirayama S, Nagasaka H, Nakagawa S, Takuwa M, Nakacho M, Yorifuji T, Kondou H, Tsukahara H, Morioka I, Ishida A, Yamato S, Miida T.
Growth hormone activates hepatic and cerebral cholesterol metabolism in small-for-gestational age children without catch-up growth.
J Clin Lipidol. 2017 Jul - Aug;11(4):1032-1042

90. Ai T, Yuri M, Tabe Y, Kakimoto A, Morishita S, Tsuchiya K, Takamochi K, Kodama Y, Takahashi F, Shigeki M, Horii T, Suzuki K, Takahashi K, Miida T, Ohsaka A.
Comparison of the analytical performance between cobas EGFR assay and PCR-clamp method in the detection of EGFR mutations in Japanese non-small cell lung cancer patients.
Clin Lab. 2017 May 1;63(5):1021-1026

91. Pang J, Hu M, Lin J, Miida T, Nawawi HM, Park JE, Wu X, Ramli AS, Kim NT, Kwok S, Gonzalez-Santos LE, Su TC, Truong TH, Soran H, Yamashita S, Tomlinson B, Watts GF.
An enquiry based on a standardised questionnaire into knowledge, awareness and preferences concerning the care of familial hypercholesterolaemia among primary care physicians in the Asia-Pacific region: the "Ten Countries Study."
BMJ Open. 2017 Oct 25;7(10): e017817

92. Hosoe-Nagai Y, Hidaka T, Sonoda A, Sasaki Y, Yamamoto-Nonaka K, Seki T, Asao R, Tanaka E, Trejo JAO, Kodama F, Takagi M, Tada N, Ueno T, Nishinakamura R, Tomino Y, Asanuma K.
Re-expression of Sall1 in podocytes protects against adriamycin-induced nephrosis.
Lab Invest. 2017 Nov;97(11):1306-1320

93. Komatsu S, Sumiyoshi M, Miura S, Kimura Y, Shiozawa T, Hirano K, Odagiri F, Tabuchi H,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Hayashi H, Sekita G, Tokano T, Nakazato K, Daida H.
A proposal of clinical ECG index “vagal score” for determining the mechanism of paroxysmal atrioventricular block.
J Arrhythm. 2017 Jun;33(3):208-213

94. Kato T, Kasai T, Yatsu S, Murata A, Matsumoto H, Suda S, Hiki M, Shiroshita N, Kato M, Kawana F, Miyazaki S, Daida H.
Acute effects of positive airway pressure on functional mitral regurgitation in patients with systolic heart failure.
Front Physiol. 2017 Nov;23(8):921

95. Kattel S, Kasai T, Matsumoto H, Yatsu S, Murata A, Kato T, Suda S, Hiki M, Takagi A, Daida H.
Association between elevated blood glucose level on admission and long-term mortality in patients with acute decompensated heart failure.
J Cardiol. 2017 Apr;69(4):619-624

96. Wada H, Ogita M, Miyauchi K, Tsuboi S, Konishi H, Shitara J, Kunimoto M, Sonoda T, Iso T, Ebina H, Aoki E, Kitamura K, Tamura H, Suwa S, Daida H.
Contemporary sex differences among patients with acute coronary syndrome treated by emergency percutaneous coronary intervention.
Cardiovasc Interv Ther. 2017 Oct;32(4):333-340

97. Shohei Ouchi, Tetsuro Miyazaki, Kazunori Shimada, Yurina Sugita, Megumi Shimizu, Azusa Murata, Takao Kato, Tatsuro Aikawa, Shoko Suda, Tomoyuki Shiozawa, Masaru Hiki, Shuhei Takahashi, Takatoshi Kasai, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida.
Decreased Circulating Dihomo-gamma-linolenic Acid Levels are Associated with Total Mortality in Patients with Acute Cardiovascular Disease and Acute Decompensated Heart Failure.
Lipids Health Dis. 2017 Aug 14;16(1):150

98. Suwa S, Ogita M, Miyauchi K, Sonoda T, Konishi H, Tsuboi S, Wada H, Naito R, Dohi T, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Impact of Lipoprotein (a) on Long-Term Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease Treated with Statin After a First Percutaneous Coronary Intervention.
J Atheroscler Thromb. 2017 Nov 1;24(11):1125-1131

99. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Shimada K, Suwa S, Daida H.
Impact of serum albumin levels on long-term outcomes in patients undergoing percutaneous coronary intervention.
Heart Vessels. 2017 Sep;32(9):1085-1092

100. Takamura K, Fujimoto S, Kondo T, Hiki M, Kawaguchi Y, Kato E, Daida H.
Incremental Prognostic Value of Coronary Computed Tomography Angiography: High-Risk Plaque

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Characteristics in Asymptomatic Patients.
J Atheroscler Thromb. 2017 Nov 1;24(11):1174-1185

101. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H.
Independent and Combined Effects of Serum Albumin and C-Reactive Protein on Long-Term Outcomes of Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention.
Circ J. 2017 Aug 25;81(9):1293-1300

102. Dai Y, Yang J, Takagi A, Konishi H, Miyazaki T, Masuda H, Shimada K, Miyauchi K, Daida H.
In-hospital and long-term outcomes of congestive heart failure: Predictive value of B-type and amino-terminal pro-B-type natriuretic peptides and their ratio.
Exp Ther Med. 2017 Aug;14(2):1715-1721

103. Arao K, Yasu T, Endo Y, Funazaki T, Ota Y, Shimada K, Tokutake E, Naito N, Takase B, Wake M, Ikeda N, Horie Y, Sugimura H, Momomura S, Kawakami M; Investigators of the Anti-Arteriosclerosis and Lipid Lowering with Pitavastatin Evaluation Study in Nippon (ALPEN).
Effects of pitavastatin on walking capacity and CD34+/133+ cell number in patients with peripheral artery disease.
Heart Vessels. 2017 Oct;32(10):1186-1194

104. Shiozawa T, Shimada K, Sekita G, Hayashi H, Tabuchi H, Miura S, Fujimoto S, Kadoguchi T, Ouchi S, Aikawa T, Shahi HA, Takahashi S, Miyazaki T, Sumiyoshi M, Nakazato K, Daida H.
Left Atrial Appendage Volume and Plasma Docosahexaenoic Acid Levels Are Associated With Atrial Fibrillation Recurrence After Catheter Ablation.
Cardiol Res. 2017 Jun; 8(3): 96–104

105. Ouchi S, Shimada K, Miyazaki T, Takahashi S, Sugita Y, Shimizu M, Murata A, Kadoguchi T, Kato T, Aikawa T, Suda S, Sai E, Hiki M, Iwata H, Kasai T, Miyauchi K, Daida H.
Low 1,5-anhydroglucitol levels are associated with long-term cardiac mortality in acute coronary syndrome patients with hemoglobin A1c levels less than 7.0.
Cardiovasc Diabetol. 2017 Nov 21;16(1):151

106. Shimizu M, Miyazaki T, Takagi A, Sugita Y, Yatsu S, Murata A, Kato T, Suda S, Ouchi S, Aikawa T, Hiki M, Takahashi S, Hiki M, Hayashi H, Kasai T, Shimada K, Miyauchi K, Daida H.
Low circulating coenzyme Q10 during acute phase is associated with inflammation, malnutrition, and in-hospital mortality in patients admitted to the coronary care unit.
Heart Vessels. 2017 Jun;32(6):668-673

107. Ouchi S, Miyazaki T, Shimada K, Sugita Y, Shimizu M, Murata A, Kato T, Aikawa T, Suda S, Shiozawa T, Hiki M, Takahashi S, Iwata H, Kasai T, Miyauchi K, Daida H.
Low docosahexaenoic acid, dihomo-gamma-linolenic acid, and arachidonic acid levels associated with long-term mortality in patients with acute decompensated heart failure in different nutritional

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

statuses.
Nutrients. 2017 Sep; 9(9): 956

108. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Konishi H, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Hassan A, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H.
Pre-procedural neutrophil-to-lymphocyte ratio and long-term cardiac outcomes after percutaneous coronary intervention for stable coronary artery disease.
Atherosclerosis. 2017 Oct; 265:35-40

109. Hassan A, Dohi T, Miyauchi K, Ogita M, Kurano M, Ohkawa R, Nakamura K, Tamura H, Isoda K, Okazaki S, Yatomi Y, Daida H.
Prognostic impact of homocysteine levels and homocysteine thiolactonase activity on long-term clinical outcomes in patients undergoing percutaneous coronary intervention.
J Cardiol. 2017 Jun;69(6):830-835

110. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Doi S, Konishi H, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H.
Prognostic impact of nutritional status assessed by the Controlling Nutritional Status score in patients with stable coronary artery disease undergoing percutaneous coronary intervention.
Clin Res Cardiol. 2017 Nov;106(11):875-883

111. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Hassan A, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H.
Prognostic Impact of the Geriatric Nutritional Risk Index on Long-Term Outcomes in Patients Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention.
Am J Cardiol. 2017 Jun 1;119(11):1740-1745

112. Okai I, Iwata H, Osborn EA, Fukuda K, Shiozaki M, Kimura Y, Chikata Y, Inoue K, Fujiwara Y, Jaffer FA, Daida H, Sumiyoshi M.
Sequential Acute Coronary Syndrome 4 Days Apart: A Missed Opportunity?
Circ J. 2017 Jul 25;81(8):1231-1233

113. Masaru Hiki, Tetsuro Miyazaki, Kazunori Shimada, Yurina Sugita, Megumi Shimizu, Tatsuro Aikawa, Shohei Ouchi, Tomoyuki Shiozawa, Kiyoshi Takasu, Shuhei Takahashi, Atsutoshi Takagi, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida.
Significance of Serum Polyunsaturated Fatty Acid Level Imbalance in Patients with Acute Venous Thromboembolism.
J Atheroscler Thromb. 2017 Oct 1;24(10):1016-1022

114. Takasu K, Miyazaki T, Negoro K, Yatsu S, Shimizu M, Murata A, Kato T, Suda S, Hiki M, Kasai T, Miyauchi K, Daida H.
Successful Treatment of Congestive Heart Failure Due to Severe Aortic Valve Stenosis With Low Dose Tolvaptan in Elderly Patients.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Int Heart J. 2017 May 31;58(3):378-384

115. Takahashi N, Isoda K, Hiki M, Fujimoto S, Daida H.
Thrombolytic Therapy and Aspiration of Clots were Effective in the Removal of a Transient Inferior Vena Cava (IVC) Filter that Captured a Large Thrombus.
Intern Med. 2017;56(11):1369-1373.Epub 2017 Jun 1

116. Shiozaki M, Inoue K, Suwa S, Chien-Chang Lee, Chikata Y, Ishiura J, Kimura Y, Fukuda K, Tamura H, Fujiwara Y, Sumiyoshi M, Daida H.
Utility of the 0-hour/1-hour high-sensitivity cardiac troponin T algorithm in Asian patients with suspected non-ST elevation myocardial infarction.
Int J Cardiol. 2017 Dec 15;249: 32-35

117. Akita K, Isoda K, Sato-Okabayashi Y, Kadoguchi T, Kitamura K, Ohtomo F, Shimada K, Daida H.
An interleukin-6 receptor antibody suppresses atherosclerosis in atherogenic mice.
Front Cardiovasc Med. 2017 Dec 22; 4:84

118. Fuku N, Díaz-Peña R, Arai Y, Abe Y, Zempo H, Naito H, Murakami H, Miyachi M, Spuch C, Serra-Rexach JA, Emanuele E, Nobuyoshi H, Lucia A.
Epistasis, physical capacity-related genes and exceptional longevity: FNDC5 gene interactions with candidate genes FOXOA3 and APOE.
BMC Genomics. 2017 Nov 14;18(Suppl 8):803

119. Koltai E, Bori Z, Chabert C, Dubouchaud H, Naito H, Machida S, Davies KJ, Murlasits Z, Fry AC, Boldogh I, Radak Z.
SIRT1 may play a crucial role in overload-induced hypertrophy of skeletal muscle.
J Physiol. 2017 Jun 1;595(11):3361-3376

120. Ozaki H, Kitada T, Nakagata T, Naito H.
Combination of body mass-based resistance training and high-intensity walking can improve both muscle size and VO2 peak in untrained older women.
Geriatr Gerontol Int. 2017 May 17(5): 779-784

121. Akin S, Naito H, Ogura Y, Ichinoseki-Sekine N, Kurosaka M, Kakigi R, Demirel HA.
Short-term treadmill exercise in a cold environment does not induce adrenal Hsp72 and Hsp25 expression.
J Physiol Sci. 2017 May;67(3):407-413

122. Sato K, Kerever A, Kamagata K, Tsuruta K, Irie R, Tagawa K, Okazawa H, Arikawa-Hirasawa E, Nitta N, Aoki I, Aoki S.
Understanding microstructure of the brain by comparison of neurite orientation dispersion and density imaging (NODDI) with transparent mouse brain.
Acta Radiol Open. 2017 Apr 17;6(4):2058460117703816

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

123. Takano N, Suzuki M, Irie R, Yamamoto M, Teranishi K, Yatomi K, Hamasaki N, Kumamaru KK, Hori M, Oishi H, Aoki S.
Non-Contrast-Enhanced Silent Scan MR Angiography of Intracranial Anterior Circulation Aneurysms Treated with a Low-Profile Visualized Intraluminal Support Device.
AJNR Am J Neuroradiol. 2017 Aug;38(8):1610-1616

124. Hagiwara A, Warntjes M, Hori M, Andica C, Nakazawa M, Kumamaru KK, Abe O, Aoki S.
SyMRI of the Brain: Rapid Quantification of Relaxation Rates and Proton Density, with Synthetic MRI, Automatic Brain Segmentation, and Myelin Measurement.
Invest Radiol. 2017 Oct;52(10):647-657

125. Hatano T, Okuzumi A, Kamagata K, Daida K, Taniguchi D, Hori M, Yoshino H, Aoki S, Hattori N.
Neuromelanin MRI is useful for monitoring motor complications in Parkinson's and PARK2 disease.
J Neural Transm (Vienna). 2017 Apr;124(4):407-415

126. Hori M, Irie R, Suzuki M, Aoki S.
Teaching Neuroimages: Obscured cerebral infarction on MRI.
Clin Neuroradiol. 2017 Dec;27(4):519-520

127. Saito J, Hori M, Nemoto T, Katagiri N, Shimoji K, Ito S, Tsujino N, Yamaguchi T, Shiraga N, Aoki S, Mizuno M.
Longitudinal study examining abnormal white matter integrity using a tract-specific analysis in individuals with a high risk for psychosis.
Psychiatry Clin Neurosci. 2017 Aug;71(8):530-541

128. Hagiwara A, Hori M, Yokoyama K, Nakazawa M, Ueda R, Horita M, Andica C, Abe O, Aoki S.
Analysis of White Matter Damage in Patients with Multiple Sclerosis via a Novel In Vivo Magnetic Resonance Method for Measuring Myelin, Axons, and G-ratio.
AJNR Am J Neuroradiol. 2017 Oct;38(10):1934-1940

129. Hagiwara A, Andica C, Hori M, Aoki S.
SyMRI showed increased myelin partial volume in the white matter of a patient with Sturge-Weber syndrome.
Neuroradiology. 2017 Nov;59(11):1065-1066

130. Kumamaru KK, Murayama S, Yamashita Y, Nojo T, Watanabe Y, Goto M, Maeda, M, Echigo J, Soga S, Fujii S, Tanami Y, Okabe T, Okada M, Munechika J, Ota H, Miyake M, Honda H, Aoki S.
Appropriate Imaging Utilization in Japan: A Survey of Accredited Radiology Training Hospitals.
Jpn J Radiol 2017 Nov;35(11):648-654

131. Kamagata K, Zalesky A, Hatano T, Di Biase MA, El Samad O, Saiki S, Shimoji K, Kumamaru KK,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Kamiya K, Hori M, Hattori N, Aoki S, Pantelis C.
Connectome analysis with diffusion MRI in idiopathic Parkinson's disease: Evaluation using multi-shell, multi-tissue, constrained spherical deconvolution.
Neuroimage Clin. 2017 Nov 10; 17:518-529

132. Goto M, Abe O, Miyati T, Aoki S, Gomi T, Takeda T.
Mis-segmentation in voxel-based morphometry due to a signal intensity change in the putamen.
Radiol Phys Technol. 2017 Dec;10(4):515-524

133. Kamagata K, Zalesky A, Hatano T, Ueda R, Di Biase MA, Okuzumi A, Shimoji K, Hori M, Caeyenberghs K, Pantelis C, Hattori N, Aoki S.
Gray Matter Abnormalities in Idiopathic Parkinson's Disease: Evaluation by Diffusional Kurtosis Imaging and Neurite Orientation Dispersion and Density Imaging.
Hum Brain Mapp. 2017 May 4. [Epub ahead of print]

134. Shimura Y, Kurosawa H, Tsuchiya M, Sawa M, Kaneko H, Liu L, Makino Y, Nojiri H, Iwase Y, Kaneko K, Ishijima M.
Serum interleukin 6 levels are associated with depressive state of the patients with knee osteoarthritis irrespective of disease severity.
Clin Rheumatol. 2017 Dec;36(12):2781-2787

135. Ouma Shinji, Fukae Jiro, Fujioka Shinsuke, Yamamoto Shosaburo, Hatano Taku Yoritaka, Asako Okuma, Yasuyuki Kashihara, Ken-ichi, Hattori Nobutaka, Tsuboi Yoshio.
The Risk Factors for the Wearing-off Phenomenon in Parkinson's Disease in Japan: A Cross-sectional, Multicenter Study.
Intern Med. 2017;56(15):1961-1966.Epub 2017 Aug 1

136. Daida Kensuke, Nishioka Kenya, Li Yuanzhe, Nakajima Sho, Tanaka Ryota, Hattori Nobutaka.
CSF1R Mutation p. G589R and the Distribution Pattern of Brain Calcification
Intern Med. 2017 Sep 15;56(18):2507-2512

137. Yamashiro K, Tanaka R, Urabe T, Ueno Y, Yamashiro Y, Nomoto K, Takahashi T, Tsuji H, Asahara T, Hattori N.
Gut dysbiosis is associated with metabolism and systemic inflammation in patients with ischemic stroke.
PLoS One. 2017 Apr 13;12(4): e0176062

138. Yamashita C, Funayama M, Li Y, Yoshino H, Yamada H, Seino Y, Tomiyama H, Hattori N.
Mutation screening of PLA2G6 in Japanese patients with early onset dystonia-parkinsonism.
J Neural Transm (Vienna). 2017 Apr;124(4):431-435

139. Maeda Tetsuya, Shimo Yasushi, Chiu Shih-Wei, Yamaguchi Takuhiro, Kashihara Kenichi, Tsuboi Yoshio, Nomoto Masahiro, Hattori Nobutaka, Watanabe Hirohisa, Saiki Hidemoto, J-FIRST Grp.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Clinical manifestations of nonmotor symptoms in 1021 Japanese Parkinson's disease patients from 35 medical centers.
Parkinsonism Relat Disord. 2017 May; 38:54-60

140. Miki Y, Yoshizawa T, Morohashi S, Seino Y, Kijima H, Shoji M, Mori A, Yamashita C, Hatano T, Hattori N, Wakabayashi K.
Neuropathology of PARK14 Is Identical to Idiopathic Parkinson's Disease.
Mov Disord. 2017 May;32(5):799-800

141. Naito H, Takahashi T, Kamada M, Morino H, Yoshino H, Hattori N, Maruyama H, Kawakami H, Matsumoto M.
First report of a Japanese family with spinocerebellar ataxia type 10: The second report from Asia after a report from China.
PLoS One. 2017 May 19;12(5): e0177955

142. Takemura MY, Hori M, Yokoyama K, Hamasaki N, Suzuki M, Kamagata K, Kamiya K, Suzuki Y, Kyogoku S, Masutani Y, Hattori N, Aoki S.
Alterations of the optic pathway between unilateral and bilateral optic nerve damage in multiple sclerosis as revealed by the combined use of advanced diffusion kurtosis imaging and visual evoked potentials.
Magn Reson Imaging. 2017 Jun; 39:24-30

143. Nishioka K, Uchida T, Usui C, Tanaka R, Matsushima T, Matsumoto Y, Nakamura I, Nishioka K, Hattori N.
High prevalence of anti-TSH receptor antibody in fibromyalgia syndrome.
Int J Rheum Dis. 2017 Jun;20(6):685-690

144. Fukuda R, Miyamoto N, Hayashida A, Ueno Y, Yamashiro K, Tanaka R, Hattori N.
Acute Hearing Loss Caused by Decreasing Anterior Inferior Cerebellar Arterial Perfusion in a Patient with Vertebral Artery Stenosis.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2017 Jun;26(6): e119-e121

145. Meng H, Yamashita C, Shiba-Fukushima K, Inoshita T, Funayama M, Sato S, Hatta T, Natsume T, Umitsu M, Takagi J, Imai Y, Hattori N.
Loss of Parkinson's disease-associated protein CHCHD2 affects mitochondrial crista structure and destabilizes cytochrome c.
Nat Commun. 2017 Jun 7; 8:15500

146. Cossu D, Yokoyama K, Tomizawa Y, Momotani E, Hattori N.
Altered humoral immunity to mycobacterial antigens in Japanese patients affected by inflammatory demyelinating diseases of the central nervous system.
Sci Rep. 2017 Jun 9;7(1):3179

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

147. Fukae J, Fujioka S, Yanamoto S, Mori A, Nomi T, Hatano T, Fukuhara K, Ouma S, Hattori N, Tsuboi Y.
Serum uric acid level is linked to the disease progression rate in male patients with multiple system atrophy.
Clin Neurol Neurosurg. 2017 Jul; 158:15-19

148. Hattori N, Hasegawa K, Sato K, Mitsuyama E, Numachi Y.
Clinical evaluation of ropinirole controlled-release formulation at 18-24 mg/day in Japanese patients with Parkinson's disease.
Parkinsonism Relat Disord. 2017 Jul; 40:33-39

149. Hatano T, Daida K, Hoshino Y, Li Y, Saitsu H, Matsumoto N, Hattori N.
Dystonia due to bilateral caudate hemorrhage associated with a COL4A1 mutation.
Parkinsonism Relat Disord. 2017 Jul; 40:80-82

150. Nakajima A, Oyama G, Jo T, Shimo Y, Umemura A, Nakajima M, Ishii H, Arai H, Hattori N.
Rescue pallidal stimulation for diphasic and stimulation-induced dyskinesia after successful subthalamic stimulation for Parkinson's disease.
NEUROLOGY AND CLINICAL NEUROSCIENCE, 2017 Jul; 5(4):127-128

151. Sekimoto S, Oyama G, Jo T, Nakajima A, Shimo Y, Nakajima M, Umemura A, Ito M, Arai H, Hattori N.
Two odd targets strategy in deep brain stimulation for Parkinson's disease with unilateral levodopa-induced dystonia.
NEUROLOGY AND CLINICAL NEUROSCIENCE, 2017 July; 5(4):129-130

152. Hosaka Y, Inoshita T, Shiba-Fukushima K, Cui C, Arano T, Imai Y, Hattori N.
Reduced TDP-43 Expression Improves Neuronal Activities in a Drosophila Model of Perry Syndrome.
EBioMedicine. 2017 Jul; 21:218-227

153. Inoshita T, Arano T, Hosaka Y, Meng H, Umezaki Y, Kosugi S, Morimoto T, Koike M, Chang HY, Imai Y, Hattori N.
Vps35 in cooperation with LRRK2 regulates synaptic vesicle endocytosis through the endosomal pathway in Drosophila.
Hum Mol Genet. 2017 Aug 1;26(15):2933-2948

154. Nishioka K, Kanai K, Hattori N.
Paraneoplastic neuromyotonia due to lung carcinoma and invisible muscle cramps evaluated using ultrasonography.
J Neurooncol. 2017 Aug;134(1):243-244

155. Saiki S, Hatano T, Fujimaki M, Ishikawa KI, Mori A, Oji Y, Okuzumi A, Fukuhara T, Koinuma T,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Imamichi Y, Nagumo M, Furuya N, Nojiri S, Amo T, Yamashiro K, Hattori N.
Decreased long-chain acylcarnitines from insufficient beta-oxidation as potential early diagnostic markers for Parkinson's disease.
Sci Rep. 2017 Aug 4;7(1):7328

156. Shiba-Fukushima K, Ishikawa KI, Inoshita T, Izawa N, Takanashi M, Sato S, Onodera O, Akamatsu W, Okano H, Imai Y, Hattori N.
Evidence that phosphorylated ubiquitin signaling is involved in the etiology of Parkinson's disease.
Hum Mol Genet. 2017 Aug 15;26(16):3172-3185

157. Uchihara Y, Kataoka H, Yoshino H, Syobatake R, Hattori N, Ueno S.
Parkin mutation may be associated with serious akinesia in a patient with Parkinson's disease.
J Neurol Sci. 2017 Aug 15; 379:119-121

158. Kamakura CK, Ueno Y, Sakai Y, Yoshida H, Aiba S, Hayashi A, Shimura H, Takeda K, Kamakura K, Hattori N, Urabe T.
White matter lesions and cognitive impairment may be related to recovery from unilateral spatial neglect after stroke.
J Neurol Sci. 2017 Aug 15; 379:241-246

159. Yoshino H, Hirano M, Stoessl AJ, Imamichi Y, Ikeda A, Li Y, Funayama M, Yamada I, Nakamura Y, Sossi V, Farrer MJ, Nishioka K, Hattori N.
Homozygous alpha-synuclein p.A53V in familial Parkinson's disease.
Neurobiol Aging. 2017 Sep; 57: 248.e7-248.e12.

160. Suzuki K, Okuma Y, Uchiyama T, Miyamoto M, Sakakibara R, Shimo Y, Hattori N, Kuwabara S, Yamamoto T, Hirata K, Kanto NMPD Investigators.
Headache and migraine in Parkinson's disease: a multicenter cross-sectional study.
CEPHALALGIA 2017 Sep; 37:228-229

161. Mizuno Y, Hattori N, Kondo T, Nomoto M, Origasa H, Takahashi R, Yamamoto M, Yanagisawa N.
A Randomized Double-Blind Placebo-Controlled Phase III Trial of Selegiline Monotherapy for Early Parkinson Disease.
Clin Neuropharmacol. 2017 Sep/Oct;40(5):201-207

162. Straniero L, Guella I, Cilia R, Parkkinen L, Rimoldi V, Young A, Asselta R, Soldà G, Sossi V, Stoessl AJ, Priori A, Nishioka K, Hattori N, Follett J, Rajput A, Blau N, Pezzoli G, Farrer MJ, Goldwurm S, Rajput AH, Duga S.
DNAJC12 and dopa-responsive nonprogressive parkinsonism.
Ann Neurol. 2017 Oct;82(4):640-646

163. Jo T, Yoshimi K, Takahashi T, Oyama G, Hattori N.
Dual use of rectangular and triangular waveforms in voltammetry using a carbon fiber

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

microelectrode to differentiate norepinephrine from dopamine.
Journal of Electroanalytical Chemistry,2017Oct; Vol.802, 1-7

164. Kitamura N, Seyama K, Inoue Y, Nagai K, Suzuki M, Moriyama H, Takada T, Tazawa R, Hirai T, Mishima M, Hayashida M, Hirose M, Arai T, Sugimoto C, Hattori N, Watanabe K, Tamada T, Akazawa K, Tanaka T, Nakata K.
Risk factors for stomatitis in patients with lymphangioleiomyomatosis during treatment with sirolimus: A multicenter investigator-initiated prospective study.
Pharmacoepidemiol Drug Saf. 2017 Oct;26(10):1182-1189

165. Taniguchi D, Oji Y, Ueno Y, Hirayama S, Fukui M, Miyamoto N, Yamashiro K, Tanaka R, Suzuki K, Hattori N.
Limb-Shaking Transient Ischemic Attack Induced by Middle Cerebral Artery Dissection after Lung Surgery.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2017 Oct;26(10): e197-e198

166. Yokoyama K, Cossu D, Hattori N.
Comparison of humoral immunity against acid-fast bacilli lipophilic antigens in patients with Japanese MS and NMOSD.
MULTIPLE SCLEROSIS JOURNAL 2017; 23:212-212

167. Fukuhara T, Kim J, Hokaiwado S, Nawa M, Okamoto H, Kogiso T, Watabe T, Hattori N.
A novel immunotoxin reveals a new role for CD321 in endothelial cells.
PLoS One. 2017 Oct 13;12(10): e0181502

168. Sato S, Li Y, Hattori N.
Lysosomal defects in ATP13A2 and GBA associated familial Parkinson's disease.
J Neural Transm (Vienna). 2017 Nov;124(11):1395-1400

169. Suzuki K, Okuma Y, Uchiyama T, Miyamoto M, Sakakibara R, Shimo Y, Hattori N, Kuwabara S, Yamamoto T, Kaji Y, Hirano S, Kadowaki T, Hirata K; Kanto NMPD investigators.
Impact of sleep-related symptoms on clinical motor subtypes and disability in Parkinson's disease: a multicentre cross-sectional study.
J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2017 Nov;88(11):953-959

170. Kanai T, Uzawa A, Sato Y, Suzuki S, Kawaguchi N, Himuro K, Oda F, Ozawa Y, Nakahara J, Suzuki N, Takahashi YK, Ishibashi S, Yokota T, Ogawa T, Yokoyama K, Hattori N, Izaki S, Oji S, Nomura K, Kaneko J, Nishiyama K, Yoshino I, Kuwabara S.
A clinical predictive score for postoperative myasthenic crisis.
Ann Neurol. 2017 Nov;82(5):841-849

171. Suzuki K, Okuma Y, Uchiyama T, Miyamoto M, Sakakibara R, Shimo Y, Hattori N, Kuwabara S, Yamamoto T, Kaji Y, Hirano S, Numao A, Hirata K; Kanto NMPD investigators.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Characterizing restless legs syndrome and leg motor restlessness in patients with Parkinson's disease: A multicenter case-controlled study.
Parkinsonism Relat Disord. 2017 Nov; 44:18-22

172. Fujimori K, Matsumoto T, Kisa F, Hattori N, Okano H, Akamatsu W.
Escape from Pluripotency via Inhibition of TGF-beta/BMP and Activation of Wnt Signaling Accelerates Differentiation and Aging in hPSC Progeny Cells.
Stem Cell Reports. 2017 Nov 14;9(5):1675-1691

173. Shimura H, Tanaka R, Shimada Y, Yamashiro K, Hattori N, Urabe T.
Glycyl-alanyl-histidine protects PC12 cells against hydrogen peroxide toxicity.
BMC Biochem. 2017 Nov 22;18(1):14

174. Nakajima A, Shimo Y, Uka T, Hattori N.
Subthalamic nucleus and globus pallidus interna influence firing of tonically active neurons in the primate striatum through different mechanisms.
Eur J Neurosci. 2017 Dec;46(11):2662-2673

175. Miyamoto N, Tanaka R, Ueno Y, Watanabe M, Kurita N, Hira K, Shimada Y, Kuroki T, Yamashiro K, Urabe T, Hattori N.
Analysis of the Usefulness of the WORSEN Score for Predicting the Deterioration of Acute Ischemic Stroke.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2017 Dec;26(12):2834-2839

176. Kobayashi M, Nishioka K, Takanashi M, Hattori A, Shojima Y, Hayashida A, Sumii A, Ota T, Terao Y, Yokoyama K, Hattori N.
Anti-NMDA receptor encephalitis due to large-cell neuroendocrine carcinoma of the uterus.
J Neurol Sci. 2017 Dec 15; 383:72-74

177. Mukaihara K, Tanabe Y, Kubota D, Akaike K, Hayashi T, Mogushi K, Hosoya M, Sato S, Kobayashi E, Okubo T, Kim Y, Kohsaka S, Saito T, Kaneko K, Suehara Y.
Cabozantinib and dastinib exert anti-tumor activity in alveolar soft part sarcoma.
PLoS One. 2017 Sep 25;12(9): e0185321

178. Baba T, Nozawa M, Kaneko K, Homma Y, Ochi H, Ozaki Y, Watari T, Matsumoto M.
Long-term results of rotational acetabular osteotomy for osteonecrosis with collapse of the femoral head in young patients.
Arch Orthop Trauma Surg. 2017 Jul; 137(7): 925-931

179. Dilokhuttakarn T, Naito K, Kinoshita M, Sugiyama Y, Goto K, Iwase Y, Kaneko K.
Evaluation of thenar muscles by MRI in carpal tunnel syndrome.
Exp Ther Med, 2017 Sep;14(3):2025-2030

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

180. Futamura K, Baba T, Mogami A, Morohashi I, Kanda A, Obayashi O, Sato K, Ueda Y, Kurata Y, Tsuji H, Kaneko K.
Malreduction of syndesmosis injury associated withm malleolar ankle fracture can be avoided using Weber's three indexes in the mortise view.
Injury.2017Apr;48(4):954-959

181. Futamura K, Baba T, Mogami A, MorohashiI, Kanda A, Obayashi O, Sato K, Ueda Y, Kurata Y, Tsuji H, Kaneko K.
Malreduction of syndesmosis injury associated with malleolar ankle fracture can be avoided using Weber's three indexes in the mortise view.
Injury, 2017 Apr; 48(4): 954-959

182. Hiromitsu Takano, Ikuho Yonezawa, Mitsugu Todo, Muhammad Hazli Mazlan, Tatsuya Sato, Kazuo Kaneko.
Biomechanical study of vertebral compression fracture using finite element analysis.
Journal of Applied Mathematics and Physics, 2017Apr; 5, 953-965

183. Maeda M, Iwase H, Kannda A, Morohashi I, Kaneko K, Maeda M, Kakinuma Y, Takei Y, Amemiya S, Mitui K.
A study of the blood fiow restriction pressure of a tourniquet system to facilitate development of a system that can prevent musculoskeltal complications.
Am J Disaster Med.2017 Summmer;12(3):139-145

184. Maki N, Kawasaki T, Mochizuki T, Ota C, Yoneda T, Furudate M, Urayama S, Kaketa T, Gonda Y, Kaneko K.
Video analysis of primary shoulder dislocation due to rugby tackling.
Orthop J Sports Med. 2017 Jun 29;5(6):2325967117712951

185. Matsumoto M, Baba T, Ochi H, Ozaki Y, Watari T, Homma Y, Kaneko K.
Influence of the contralateral hip state after total hip arthroplasty on patient-reported outcomes measured with the Forgotten Joint Score-12.
Eur J Orthop Surg Traumatol. 2017 Oct;27(7):929-936

186. Naito K, Sugiyama Y, Dilokhuttakarn T, Kinoshita M, Goto K, Aritomi K, Iwase Y, Kaneko K.
A survey of extensor pollicis longus tendon injury at the time of distal radius fractures.
Injury. 2017 Apr;48(4):925-929

187. Shiota Y, Yamamoto N, Kawakami J, Nagamoto H, Muraki T, Kaneko K, Itoi E.
Contact pressure of the coracoacromial arch in shoulders with joint contracture: A cadaveric study.
J Orthop Sci. 2017 Nov;22(6):1031-1041

188. Sobue S, Kawasaki T, Hasegawa Y, Shiota Y, Ota C, Yoneda T, Tahara S, Maki N, Matsuura T, Sekiguchi M, Itoigawa Y, Tateishi T, Kaneko K.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Tackler's head position relative to the ball carrier is highly correlated with head and neck injuries in rugby.
Br J Sports Med. 2017 Nov 21

189. Yuasa T, Maezawa K, Kaneko K, Nozawa M.
Rotational acetabular osteotomy for acetabular dysplasia and osteoarthritis: a mean follow-up of 20 years.
Arch Orthop Trauma Surg. 2017 Apr;137(4):465-469

【英文原著 2018 年】

1. Tanabe Y, Suehara Y, Kohsaka S, Hayashi T, Akaike K, Mukaihara K, Kurihara T, Kim Y, Okubo T, Ishii M, Kazuno S, Kaneko K, Saito T.
IRE1α-XBP1 inhibitors exerted anti-tumor activities in Ewing's sarcomas.
Oncotarget. 2018 Feb 12;9(18):14428-14443

2. Nagasaka H, Morioka I, Takuwa M, Nakacho M, Yoshida M, Ishida A, Hirayama S, Miida T, Tsukahara H, Yorifuji T, Iijima K.
Blood asymmetric dimethylarginine and nitrite/nitrate concentrations in short-stature children born small for gestational age with and without growth hormone therapy.
J Int Med Res. 2018 Feb;46(2):761-772

3. Fujimaki M, Saiki S, Li Y, Kaga N, Taka H, Hatano T, Ishikawa KI, Oji Y, Mori A, Okuzumi A, Koinuma T, Ueno SI, Imamichi Y, Ueno T, Miura Y, Funayama M, Hattori N.
Serum caffeine and metabolites are reliable biomarkers of early Parkinson disease. Neurology. 2018 Jan 30;90(5): e404-e411

4. Asao R, Seki T, Takagi M, Yamada H, Kodama F, Hosoe-Nagai Y, Tanaka E, Trejo JAO, Yamamoto-Nonaka K, Sasaki Y, Hidaka T, Ueno T, Yanagita M, Suzuki Y, Tomino Y, Asanuma K.
Rac1 in podocytes promotes glomerular repair and limits the formation of sclerosis.
Sci Rep. 2018 Mar 22;8(1):5061

5. Yamada Y, Terauchi Y, Watada H, Nakatsuka Y, Shiosakai K, Washio T, Taguchi T. Efficacy and Safety of GPR119 Agonist DS-8500a in Japanese Patients with Type 2 Diabetes: a Randomized Double-Blind Placebo-Controlled 12-Week Study.
Adv Ther. 2018 Mar;35(3):367-381

6. Kamitani M, Miyatsuka T, Miura M, Azuma K, Suzuki L, Himuro M, Katahira T, Nishida Y, Fujitani Y, Watada H.
Heterogeneity of autophagic status in pancreatic β cells under metabolic stress.
Biochem Biophys Res Commun. 2018 Feb 5;496(2):328-334

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

7. Katakami N, Mita T, Irie Y, Takahara M, Matsuoka T, A, Gosho M, Watada H, Shimomura I, Sitagliptin Preventive study of Intima-media thickness Evaluation C.
Effect of sitagliptin on tissue characteristics of the carotid wall in patients with type 2 diabetes: a post hoc sub-analysis of the sitagliptin preventive study of intima-media thickness evaluation (SPIKE).
Cardiovasc Diabetol. 2018 Feb 5;17(1):24

8. Araki E, Yamashita S, Arai H, Yokote K, Satoh J, Inoguchi T, Nakamura J, Maegawa H, Yoshioka N, Tanizawa Y, Watada H, Suganami H, Ishibashi S.
Effects of Pemafibrate a Novel Selective PPARα Modulator on Lipid and Glucose Metabolism in Patients With Type 2 Diabetes and Hypertriglyceridemia: A Randomized Double-Blind Placebo-Controlled Phase 3 Trial.
Diabetes Care. 2018 Mar;41(3):538-546

9. Irie Y, Katakami N, Mita T, Takahara M, Matsuoka T, A, Gosho M, Watada H, Shimomura I.
Study of Preventive Effects of Alogliptin on Diabetic Atherosclerosis C.Evaluation of the Effect of Alogliptin on Tissue Characteristics of the Carotid Wall: Subanalysis of the SPEAD-A Trial.
Diabetes Ther. 2018 Feb;9(1):317-329

10. Honda A, Komiya K, Hara A, Fukunaka A, Suzuki L, Miyatsuka T, Ogihara T, Fujitani Y, Watada H.
Normal pancreatic β-cell function in mice with Rip-Cre-mediated inactivation of p62/SQSTM1.
Endocr J. 2018 Jan 30;65(1):83-89

11. Uesato T, Ogihara T, Hara A, Iida H, Miyatsuka T, Fujitani Y, Takeda S, Watada H. Enhanced Expression of the Key Mitosis Regulator Cyclin B1 Is Mediated by PDZ-Binding Kinase in Islets of Pregnant Mice.
J Endocr Soc. 2018 Mar 1; 2(3): 207–219.

12. Horikawa Y, Enya M, Mabe H, Fukushima K, Takubo N, Ohashi M, Ikeda F, Hashimoto K, I, Watada H, Takeda J.
NEUROD1-deficient diabetes (MODY6): Identification of the first cases in Japanese and the clinical features.
Pediatr Diabetes. 2018 Mar;19(2):236-242.

13. Kubota M, Ishijima M, Ikeda H, Takazawa Y, Saita Y, Kaneko H, Kurosawa H, Kaneko K.
Mid and longterm outcomes after fixation of osteochondritis dissecans.
J Orthop. 2018 Jan 9;15(2):536-539.

14. Nishizaki Y, Shimada K, Tani S, Ogawa T, Ando J, Takahashi M, Yamamoto M, Shinozaki T, Miyazaki M, Miyauchi K, Nagao K, Hirayama A, Yoshimura M, Komuro I, Nagai R, Daida H.
Impact of smoking history on the association between Eicosapentaenoic acid to arachidonic acid ratio and acute coronary syndrome: A multicenter cross-sectional study

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Tob. Induc. Dis. 2018;16(Mar):8

15. Kawaguchi Y, Fujimoto S, Takamura K, Kato E, Suda S, Matsumori R, Hiki M, Kumamaru KK, Daida H.
Submillisievert imaging protocol using full reconstruction and advanced patient motion correction in 320-row area detector coronary CT angiography.
Int J Cardiovasc Imaging. 2018 Mar;34(3):465-474

16. Ohkawa R, Kurano M, Sakai N, Kishimoto T, Nojiri T, Igarashi K, Hosogaya S, Ozaki Y, Dohi T, Miyauchi K, Daida H, Aoki J, Okubo S, Ikeda H, Tozuka M, Yatomi Y.
Measurement of plasma choline in acute coronary syndrome: importance of suitable sampling conditions for this assay.
Sci Rep. 2018 Mar 16;8(1):4725

17. Miyauchi K, Kimura T, Shimokawa H, Daida H, Iimuro S, Iwata H, Ozaki Y, Sakuma I, Nakagawa Y, Hibi K, Hiro T, Fukumoto Y, Hokimoto S, Ohashi Y, Ohtsu H, Saito Y, Matsuzaki M, Nagai R; REAL-CAD Trial Investigaters.
Rationale and Design of Randomized Evaluation of Aggressive or Moderate Lipid Lowering Therapy with Pitavastatin in Coronary Artery Disease (REAL-CAD) Trial.
Int Heart J. 2018 Mar 30;59(2):315-320

18. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Konishi H, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Hassan A, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H.
Long-term clinical impact of serum albumin in coronary artery disease patients with preserved renal function.
Nutr Metab Cardiovasc Dis. 2018 Mar;28(3):285-290

19. Okai I, Dohi T, Okazaki S, Jujo K, Nakashima M, Otsuki H, Tanaka K, Arashi H, Okabe R, Nagura F, Nara Y, Tamura H, Kurata T, Kawashima H, Kyono H, Yamaguchi J, Miyauchi K, Kozuma K, Hagiwara N, Daida H.
Clinical Characteristics and Long-Term Outcomes of Rotational Atherectomy - J2T Multicenter Registry.
Circ J. 2018 Jan 25;82(2):369-375

20. Ri K, Kumamaru KK, Fujimoto S, Kawaguchi Y, Dohi T, Yamada S, Takamura K, Kogure Y, Yamada N, Kato E, Irie R, Takamura T, Suzuki M, Hori M, Aoki S, Daida H.
Noninvasive Computed Tomography-Derived Fractional Flow Reserve Based on Structural and Fluid Analysis: Reproducibility of On-site Determination by Unexperienced Observers.
J Comput Assist Tomogr. 2018 Mar/Apr;42(2):256-262

21. Cartelli D, Amadeo A, Calogero AM, Casagrande FVM, De Gregorio C, Gioria M, Kuzumaki N, Costa I, Sassone J, Ciammola A, Hattori N, Okano H, Goldwurm S, Roybon L, Pezzoli G, Cappelletti G.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Parkin absence accelerates microtubule aging in dopaminergic neurons.
Neurobiol Aging. 2018 Jan;61: 66-74

22. Conedera SA, Li Y, Funayama M, Yoshino H, Nishioka K, Hattori N.
Genetic analysis of TMEM230 in Japanese patients with familial Parkinson's disease. Parkinsonism Relat Disord. 2018 Mar;48: 107-108

23. Goto M, Kamagata K, Hatano T, Hattori N, Abe O, Aoki S, Hori M, Gomi T.
Depressive symptoms in Parkinson's disease are related to decreased left hippocampal volume: correlation with the 15-item shortened version of the Geriatric Depression Scale. Acta Radiol. 2018 Mar;59(3):341-345

24. Nakajima A, Shimo Y, Sekimoto S, Kamagata K, Jo T, Oyama G, Umemura A, Hattori N.
Dopamine transporter imaging predicts motor responsiveness to levodopa challenge in patients with Parkinson's disease: A pilot study of DATSCAN for subthalamic deep brain stimulation.
J Neurol Sci. 2018 Feb 15;385:134-139

25. Nuermaimaiti M, Oyama G, Kasemsuk C, Hattori N.
Istradefylline for Restless Legs Syndrome Associated with Parkinson's Disease.
Tremor Other Hyperkinet Mov (NY). 2018 Jan 8;8: 521

26. Riederer P, Takahashi R, Hattori N.
Toshiharu (Toshi) Nagatsu: an appreciation.
J Neural Transm (Vienna). 2018 Jan;125(1):1-2

27. Sato S, Uchihara T, Fukuda T, Noda S, Kondo H, Saiki S, Komatsu M, Uchiyama Y, Tanaka K, Hattori N.
Loss of autophagy in dopaminergic neurons causes Lewy pathology and motor dysfunction in aged mice.
Sci Rep. 2018 Feb 12;8(1):2813

28. Suda Y, Kuzumaki N, Sone T, Narita M, Tanaka K, Hamada Y, Iwasawa C, Shibasaki M, Maekawa A, Matsuo M, Akamatsu W, Hattori N, Okano H, Narita M.
Down-regulation of ghrelin receptors on dopaminergic neurons in the substantia nigra contributes to Parkinson's disease-like motor dysfunction.
Mol Brain. 2018 Feb 20;11(1):6

29. Tanaka R, Shimo Y, Yamashiro K, Ogawa T, Nishioka K, Oyama G, Umemura A, Hattori N.
Association between abnormal nocturnal blood pressure profile and dementia in Parkinson's disease.
Parkinsonism Relat Disord. 2018 Jan;46: 24-29

30. Takamura T, Hori M, Kamagata K, Kumamaru KK, Irie R, Hagiwara A, Hamasaki N, Aoki S.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Slice-accelerated gradient-echo echo planar imaging dynamic susceptibility contrast-enhanced MRI with blipped CAIPI: effect of increasing temporal resolution.
Jpn J Radiol. 2018 Jan;36(1):40-50

31. Goto M, Yamashita F, Kawaguchi A, Abe O, Aoki S, Miyati T, Gomi T, Takeda T; Japanese Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative.
The effect of single-scan and scan-pair intensity inhomogeneity correction methods on repeatability of voxel-based morphometry with multiple MR scanners.
J Comput Assist Tomogr. 2018 Jan/Feb;42(1):111-116

32. Hori M, Hagiwara A, Fukunaga I, Ueda R, Kamiya K, Suzuki Y, Liu W, Murata K, Takamura T, Hamasaki N, Irie R, Kamagata K, Kumamaru KK, Suzuki M, Aoki S. Application of Quantitative Microstructural MR Imaging with Atlas-based Analysis for
the Spinal Cord in Cervical Spondylotic Myelopathy.
Sci Rep. 2018 Mar 26;8(1):5213

33. Takamine Y, Ichinoseki-Sekine N, Tsuzuki T, Yoshihara T, Naito H.
Effects of voluntary running exercise on bone histology in type 2 diabetic rats.
PLoS One. 2018 Feb 15;13(2):e0193068

34. Ogita M, Suwa S, Sonoda T, Tsuboi S, Miyauchi K, Daida H.
Successful Rotational Atherectomy for an Angulated Calcified Lesion in an Anomalous Right Coronary Artery Using the "Mother-and-Child" Technique.
Case Rep Cardiol. 2018 Jan 14;2018: 5927161.

35. Hiki M, Iwata H, Kawaguchi Y, Takamura K, Hiki M, Miyazaki T, Fujimoto S, Amano A, Daida H.
Chest X-Ray Revealed a Slowly Progressive Giant Right Coronary Artery Aneurysm in an Asymptomatic Patient.
Cardiology. 2018 Mar 15;139(4):231-233

36. Someya Y, Tamura Y, Kohmura Y, Aoki K, Kawai S, Daida H.
Slightly increased BMI at young age is a risk factor for future hypertension in Japanese men.
PLoS One. 2018 Jan 11;13(1): e0191170

37. Yamasaki T, Ogawa A, Osada T, Jimura K, Konishi S.
Within-subject correlation analysis to detect functional areas associated with response inhibition.
Front Hum Neurosci. 2018 May 22;12: 208

38. Ogawa A, Osada T, Tanaka M, Hori M, Aoki S, Nikolaidis A, Milham M, Konishi S.
Striatal subdivisions that coherently interact with multiple cerebrocortical networks.
Hum Brain Mapp. 2018 Nov;39(11):4349-4359

39. Tabe Y, Saitoh K, Yang H, Sekihara K, Yamatani K, Ruvolo V, Taka H, Kaga N, Kikkawa M, Arai

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

H, Miida T, Andreeff M, Spagnuolo PA, Konopleva M.
Inhibition of FAO in AML co-cultured with BM adipocytes: mechanisms of survival and chemosensitization to cytarabine.
Sci Rep. 2018 Nov 15;8(1):16837

40. Sekihara K, Saitoh K, Yang H, Kawashima H, Kazuno S, Kikkawa M, Arai H, Miida T, Hayashi N, Sasai K, Tabe Y.
Low-dose ionizing radiation exposure represses the cell cycle and protein synthesis pathways in in vitro human primary keratinocytes and U937 cell lines.
PLoS One. 2018 Jun 18;13(6):e0199117

41. Yamashita Y, Nakada S, Yoshihara T, Nara T, Furuya N, Miida T, Hattori N, Arikawa-Hirasawa E.
Perlecan, a heparan sulfate proteoglycan, regulates systemic metabolism with dynamic changes in adipose tissue and skeletal muscle.
Sci Rep. 2018 May 17;8(1):7766

42. Hirayama S, Nagasaka H, Honda A, Komatsu H, Kodama T, Inui A, Morioka I, Kaji S, Ueno T, Ihara K, Yagi M, Kizaki Z, Bessho K, Kondou H, Yorifuji T, Tsukahara H, Iijima K, Miida T.
Cholesterol metabolism is enhanced in the liver and brain of children with citrin deficiency.
J Clin Endocrinol Metab. 2018 Jul 1;103(7):2488-2497

43. Tamura M, Hirose N, Miida T, Hirayama S, Ueno T, Tsuzuki T, Yano K, Kanemochi T.
Biochemical indicators and systemic reaction times in male judo competitors during regular and pre-competition conditioning periods.
Arch Budo. 2018;14: 205-212. Prepublished online:29 Jun 2018

44. Nagasaka H, Hirano KI, Yorifuji T, Komatsu H, Takatani T, Morioka I, Hirayama S, Miida T.
Treatment with medium chain fatty acids milk of CD36-deficient preschool children. Nutrition. 2018 Jun;50: 45-48

45. Chinzei K, Shimizu A, Mori K, Harada K, Takeda H, Hashizume M, Ishizuka M, Kato N, Kawamori R, Kyo S, Nagata K, Yamane T, Sakuma I, Ohe K, Mitsuishi M.
Regulatory Science on AI-based Medical Devices and Systems.
Advanced Biomedical Engineering. 2018 May 24; 7: 118-123

46. Osonoi Y, Mita T, Azuma K, Nakajima K, Masuyama A, Goto H, Nishida Y, Miyatsuka T, Fujitani Y, Koike M, Mitsumata M, Watada H.
Defective autophagy in vascular smooth muscle cells enhances cell death and atherosclerosis.
Autophagy. 2018;14(11):1991-2006. Published online: 10 Aug 2018

47. Masuyama A, Mita T, Azuma K, Osonoi Y, Nakajima K, Goto H, Nishida Y, Miyatsuka T, Mitsumata M, Watada H.
Defective autophagy in vascular smooth muscle cells enhances atherosclerotic plaque instability.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Biochem Biophys Res Commun. 2018 Nov 10;505(4):1141-1147

48. Kaku K, Yamada Y, Watada H, Abiko A, Nishida T, Zacho J, Kiyosue A.
Safety and efficacy of once-weekly semaglutide vs additional oral antidiabetic drugs in Japanese people with inadequately controlled type 2 diabetes: A randomized trial.
Diabetes Obes Metab. 2018 May;20(5):1202-1212

49. Kawamori R, Haneda M, Suzaki K, Cheng G, Shiki K, Miyamoto Y, Solimando F, Lee C, Lee J, George J.
Empagliflozin as add-on to linagliptin in a fixed-dose combination in Japanese patients with type 2 diabetes: Glycaemic efficacy and safety profile in a 52-week randomized placebo-controlled trial.
Diabetes Obes Metab. 2018 Sep;20(9):2200-2209

50. Mita T, Hiyoshi T, Yoshii H, Chimori H, Ikeda K, Sato J, Watada H.
Study Protocol for the Initial Choice of DPP-4 Inhibitor in Japanese Patients with Type 2 diabetes Mellitus: Effect of Linagliptin on QOL (INTEL-QOL) Trial.
Diabetes Ther. 2018 Jun;9(3):1403-1412

51. Miura M, Miyatsuka T, Katahira T, Sasaki S, Suzuki L, Himuro M, Nishida Y, Fujitani Y, Matsuoka TA, Watada H.
Suppression of STAT3 signaling promotes cellular reprogramming into insulin-producing cells induced by defined transcription factors.
EBioMedicine. 2018 Oct;36: 358-366

52. Goto H, Mita T, Fujitani Y, Fujimoto S, Takahashi K, Satoh H, Hirose T, Hiyoshi T, Ai M, Okada Y, Nishimura H, Kuroda H, Matsubara T, Gosho M, Ishii H, Watada H.
Effects of linagliptin versus voglibose on treatment-related quality of life in patients with type 2 diabetes: sub-analysis of the L-STEP study.
Endocr J. 2018 Jun 27;65(6):657-668

53. Kurozumi A, Okada Y, Satoh H, Inoue I, Chimori H, Akita E, Shiraiwa T, Fujitani Y, Mita T, Gosho M, Watada H.
Effects of linagliptin monotherapy compared with voglibose on postprandial lipid profiles in Japanese patients with type 2 diabetes: linagliptin study of effects on postprandial blood glucose (L-STEP) sub-study 1.
Endocr J. 2018 Apr 26;65(4):415-425

54. Tomiyama H, Ohkuma T, Ninomiya T, Mastumoto C, Kario K, Hoshide S, Kita Y, Inoguchi T, Maeda Y, Kohara K, Tabara Y, Nakamura M, Ohkubo T, Watada H, Munakata M, Ohishi M, Ito N, Nakamura M, Shoji T, Vlachopoulos C, Yamashina A, collaborative group for J-BAVEL-IAD.
Simultaneously Measured Interarm Blood Pressure Difference and Stroke: An Individual Participants Data Meta-Analysis.
Hypertension. 2018 Jun;71(6):1030-1038

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

55. Katakami N, Mita T, Gosho M, Takahara M, Irie Y, Yasuda T, Matsuoka TA, Osonoi T, Watada H, Shimomura I.
Clinical Utility of Carotid Ultrasonography in The Prediction of Cardiovascular Events in Patients with Diabetes: A Combined Analysis of Data Obtained in Five Longitudinal Studies.
J Atheroscler Thromb. 2018 Oct 1;25(10):1053-1066

56. Sawada S, Gando Y, Kawakami R, Blair S, N, Lee I, M, Tamura Y, Tsuda H, Saito H, Miyachi M.
Combined aerobic and resistance training and incidence of diabetes: A retrospective cohort study in Japanese older women.
J Diabetes Investig. 2018 Dec 18. [Epub ahead of print]

57. Terauchi Y, Yamada Y, Watada H, Nakatsuka Y, Shiosakai K, Washio T, Taguchi T.
Efficacy and safety of the G protein-coupled receptor 119 agonist DS-8500a in Japanese type 2 diabetes mellitus patients with inadequate glycemic control on sitagliptin: A phase 2 randomized placebo-controlled study.
J Diabetes Investig. 2018 Nov;9(6):1333-1341

58. Sagesaka H, Sato Y, Someya Y, Tamura Y, Shimodaira M, Miyakoshi T, Hirabayashi K, Koike H, Yamashita K, Watada H, Aizawa T.
Type 2 Diabetes: When Does It Start?
J Endocr Soc. 2018 May 1; 2(5): 476–484

59. Suzuki L, Miyatsuka T, Himuro M, Nishio R, Goto H, Uchida T, Nishida Y, Kanazawa A, Watada H.
Everolimus Directly Suppresses Insulin Secretion Independently of Cell Growth Inhibition.
J Endocr Soc. 2018 Jul 1; 2(7): 589–596

60. Tanaka R, Masuda H, Fujimura S, Ito-Hirano R, Arita K, Kakinuma Y, Hagiwara H, Kado M, Hayashi A, Mita T, Ogawa T, Watada H, Mizuno H, Sawada N, Asahara T.
Quality-Quantity Control Culture Enhances Vasculogenesis and Wound Healing Efficacy of Human Diabetic Peripheral Blood CD34+ Cells.
Stem Cells Transl Med. 2018 May;7(5):428-438.

61. Fink J, Matsumoto M, Tamura Y.
Potential application of testosterone replacement therapy as treatment for obesity and type 2 diabetes in men.
Steroids. 2018 Oct;138: 161-166.

62. Sakamoto Y, Ishijima M, Suzuki M, Kim SG, Kamata K, Hayashi K, Kuwahara H, Sakuramoto H, Morikawa D, Tokita A, Kaneko H, Shimizu T, Nozawa M, Kaneko K.
Association between leg bowing and serum alkaline phosphatase level regardless of the presence of a radiographic growth plate abnormality in pediatric patients with genu varum.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

J Bone Miner Metab. 2018 Jul;36(4):447-453.

63. Nakano S, Suauki M, Minowa K, Hirai S, Takubo N, Sakamoto Y, Ishijima M, Tokita A, Shimizu T.
Current vitamin D status in healthy Japanese infants and young children.
J Nutr Sci Vitaminol. 2018;64(2):99-105

64. Shimizu H, Shimoda M, Mochizuki S, Miyamae Y, Abe H, Chijiiwa M, Yoshida H, Shiozawa J, Ishijima M, Kaneko K, Kanaji A, Nakamura M, Toyama Y, Okada Y.
Hyaluronan-binding protein involved in hyaluronan depolymerization is up-regulated and involved in hyaluronan degradation in human osteoarthritic cartilage.
Am J Pathol. 2018 Sep;188(9):2109-2119.

65. Yoshihara T, Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Kitada T, Ishihara Y, Deng P, Osawa T, Ishibashi M, Ishijima M, Kobayashi H, Machida S, Naito H.
Effects of progressive walking program on the improvement of locomotive syndrome in elderly Japanese people.
J Phys Ther Sci. 2018 Sep;30(9):1180-1186.

66. Kubota M, Ohno R, Sato T, Yamaguchi J, Kaneko H, Kaneko K, Ishijima M.
The medial proximal tibial angle accurately corrects the limb alignment in open-wedge high tibial osteotomy.
Knee Surgery, Sports Traumatology, Arthroscopy (KSSTA). 2018 Oct 25. [Epub ahead of print]

67. Chiba Y, He B, Yoshizaki K, Ishijima M, K.E. Bleck K, Stempinski E, Chu E, Nakamura T, Iwamoto T, de Vega S, Saito K, Fukumoto S, Yamada Y.
The transcription factor AmeloD regulates epithelial cell motility essential for tooth morphology.
J Biol Chem. 2018 Nov 30. pii: jbc.RA118.005298. [Epub ahead of print]

68. Takeshige H, Nakayama S, Nishioka K, Yuanzhe Li, Motoi Y, Hattori N.
Marked Reduction in the Striatal Dopamine Transporter Uptake During the Early Stage of Motor Symptoms in Patients with the MAPT N279K Mutation.
Intern Med. 2018 Oct 15;57(20):3015-3019.

69. Akiba C, Nakajima M, Miyajima M, Ogino I, Motoi Y, Kawamura K, Adachi S, Kondo A, Sugano H, Tokuda T, Irie K, Arai H.
Change of Amyloid-β 1-42 Toxic Conformer Ratio After Cerebrospinal Fluid Diversion Predicts Long-Term Cognitive Outcome in Patients with Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus.
J Alzheimers Dis. 2018;63(3):989-1002.Prepublished online 2018 Apr 25.

70. Andica C, Kamagata K, Hatano T, Okuzumi A, Saito A, Nakazawa M, Ueda R, Motoi Y, Kamiya K, Suzuki M, Hori M, Kumamaru KK, Hattori N, Aoki S.
Neurite orientation dispersion and density imaging of the nigrostriatal pathway in Parkinson's disease: Retrograde degeneration observed by tract-profile analysis. Parkinsonism Relat Disord.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

2018 Jun;51: 55-60.

71. Sugita Y, Miyazaki T, Shimada K, Shimizu M, Kunimoto M, Ouchi S, Aikawa T, Kadoguchi T, Kawaguchi Y, Shiozawa T, Takasu K, Hiki M, Takahashi S, Sumiyoshi K, Iwata H, Daida H.
Correlation of Nutritional Indices on Admission to the Coronary Intensive Care Unit with the Development of Delirium.
Nutrients. 2018 Nov 8;10(11). 1712

72. Isoda K, Akita K, Kitamura K, Sato-Okabayashi Y, Kadoguchi T, Isobe S, Ohtomo F, Sano M, Shimada K, Iwakura Y, Daida H.
Inhibition of interleukin-1 suppresses angiotensin II-induced aortic inflammation and aneurysm formation.
Int J Cardiol. 2018 Nov 1;270: 221-227

73. Komano Y, Shimada K, Naito H, Fukao K, Ishihara Y, Fujii T, Daida H.
Efficacy of heat-killed Lactococcus lactis JCM 5805 on immunity and fatigue during consecutive high intensity exercise in male athletes: a randomized, placebo-controlled, double-blinded trial.
J Int Soc Sports Nutr. 2018 Aug 2;15(1):39

74. Miyauchi H, Hashimoto C, Ikeda Y, Li M, Nakano Y, Kozawa J, Sai E, Nagasawa Y, Kinugawa S, Kawaguchi K, Shimada K, Ide T, Amano T, Higashi M, Inaba T, Nakamura H, Kobayashi K, Hirano K.
Diagnostic Criteria and Severity Score for Triglyceride Deposit Cardiomyovasculopathy.
Ann Nucl Cardiol. 2018; 4(1): 94-100

75. Gando Y, Sawada S, Kawakami R, Momma H, Shimada K, Fukunaka Y, Okamoto T, Tsukamoto K, Miyachi M, Lee IM, Blair SN.
Combined association of cardiorespiratory fitness and family history of hypertension on the incidence of hypertension: A long-term cohort study of Japanese males.
Hypertens Res. 2018 Dec;41(12):1063-1069

76. Watanabe N, S Sawada S, Shimada K, Lee IM, Gando Y, Momma H, Kawakami R, Miyachi M, Hagi Y, Kinugawa C, Okamoto T, Tsukamoto K, N Blair S.
Relationship between Cardiorespiratory Fitness and Non-High-Density Lipoprotein Cholesterol: A Cohort Study.
J Atheroscler Thromb. 2018 Dec 1;25(12):1196-1205

77. Kato E, Fujimoto S, Takamura K, Kawaguchi Y, Aoshima C, Hiki M, Kumamaru KK, Daida H.
Clinical significance of transluminal attenuation gradient in 320-row area detector coronary CT angiography.
Heart Vessels. 2018 May;33(5):462-469

78. Itoh H, Komuro I, Takeuchi M, Akasaka T, Daida H, Egashira Y, Fujita H, Higaki J, Hirata KI,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Ishibashi S, Isshiki T, Ito S, Kashiwagi A, Kato S, Kitagawa K, Kitakaze M, Kitazono T, Kurabayashi M, Miyauchi K, Murakami T, Murohara T, Node K, Ogawa S, Saito Y, Seino Y, Shigeeda T, Shindo S, Sugawara M, Sugiyama S, Terauchi Y, Tsutsui H, Ueshima K, Utsunomiya K, Yamagishi M, Yamazaki T, Yo S, Yokote K, Yoshida K, Yoshimura M, Yoshimura N, Nakao K, Nagai R; EMPATHY Investigators.
Achieving LDL cholesterol target levels <1.81 mmol/L may provide extra cardiovascular protection in patients at high risk: Exploratory analysis of the Standard Versus Intensive Statin Therapy for Patients with Hypercholesterolaemia and Diabetic Retinopathy study.
Diabetes Obes Metab. 2018 Nov 4 [Epub ahead of print]

79. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Tsuboi S, Ogita M, Iwata H, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H.
Mean platelet volume and long-term cardiovascular outcomes in patients with stable coronary artery disease.
Atherosclerosis. 2018 Oct;277: 108-112

80. Fukamachi D, Hirayama A, Miyauchi K, Yasuda S, Ogawa H, Ito H, Daida H.
Corrigendum to "Antithrombotic therapy trends in non-valvular atrial fibrillation patients undergoing percutaneous coronary stent implantation: Results from a survey among fellows at the Japanese College of Cardiology"[J. Cardiol. 72 (2) (2018) 113-119].
J Cardiol. 2018 Nov;72(5):444

81. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Endo H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H.
Combined effect of nutritional status on long-term outcomes in patients with coronary artery disease undergoing percutaneous coronary intervention.
Heart Vessels. 2018 Dec;33(12):1445-1452

82. Naito R, Miyauchi K, Nojiri S, Suzuki N, Daida H; PACIFIC Investigators and the EVEREST Investigators.
Differences in Clinical Features in Patients with Acute Coronary Syndrome and Stroke: Japanese Multicenter Registry Results.
Intern Med. 2018 Nov 15;57(22):3233-3240

83. Taguchi I, Iimuro S, Iwata H, Takashima H, Abe M, Amiya E, Ogawa T, Ozaki Y, Sakuma I, Nakagawa Y, Hibi K, Hiro T, Fukumoto Y, Hokimoto S, Miyauchi K, Yamazaki T, Ito H, Otsuji Y, Kimura K, Takahashi J, Hirayama A, Yokoi H, Kitagawa K, Urabe T, Okada Y, Terayama Y, Toyoda K, Nagao T, Matsumoto M, Ohashi Y, Kaneko T, Fujita R, Ohtsu H, Ogawa H, Daida H, Shimokawa H, Saito Y, Kimura T, Inoue T, Matsuzaki M, Nagai R.
High-Dose Versus Low-Dose Pitavastatin in Japanese Patients With Stable Coronary Artery Disease (REAL-CAD): A Randomized Superiority Trial.
Circulation. 2018 May 8;137(19):1997-2009

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

84. Doi S, Iwata H, Wada H, Funamizu T, Shitara J, Endo H, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Miyauchi K, Daida H.
A novel and simply calculated nutritional index serves as a useful prognostic indicator in patients with coronary artery disease.
Int J Cardiol. 2018 Jul 1;262: 92-98

85. Itoh H, Komuro I, Takeuchi M, Akasaka T, Daida H, Egashira Y, Fujita H, Higaki J, Hirata KI, Ishibashi S, Isshiki T, Ito S, Kashiwagi A, Kato S, Kitagawa K, Kitakaze M, Kitazono T, Kurabayashi M, Miyauchi K, Murakami T, Murohara T, Node K, Ogawa S, Saito Y, Seino Y, Shigeeda T, Shindo S, Sugawara M, Sugiyama S, Terauchi Y, Tsutsui H, Ueshima K, Utsunomiya K, Yamagishi M, Yamazaki T, Yo S, Yokote K, Yoshida K, Yoshimura M, Yoshimura N, Nakao K, Nagai R; EMPATHY Investigators.
Intensive Treat-to-Target Statin Therapy in High-Risk Japanese Patients With Hypercholesterolemia and Diabetic Retinopathy: Report of a Randomized Study.
Diabetes Care. 2018 Jun;41(6):1275-1284

86. Yatsu S, Naito R, Kasai T, Matsumoto H, Shitara J, Shimizu M, Murata A, Kato T, Suda S, Hiki M, Sai E, Miyauchi K, Daida H.
Influence of sleep-disordered breathing assessed by pulse oximetry on long-term clinical outcomes in patients who underwent percutaneous coronary intervention.
Clin Res Cardiol. 2018 Aug;107(8):711-718

87. Fujimoto S, Giannopoulos AA, Kumamaru KK, Matsumori R, Tang A, Kato E, Kawaguchi Y, Takamura K, Miyauchi K, Daida H, Rybicki FJ, Mitsouras D.
The transluminal attenuation gradient in coronary CT angiography for the detection of hemodynamically significant disease: can all arteries be treated equally?
Br J Radiol. 2018 Jul;91(1087):20180043

88. Endo H, Dohi T, Shitara J, Wada H, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Miyauchi K, Daida H.
Impact of body mass index on long-term outcomes in Japanese patients following percutaneous coronary intervention: The Juntendo PCI Registry.
J Cardiol. 2018 Sep;72(3):208-214

89. Miyazaki S, Miyauchi K, Hayashi H, Tanaka R, Nojiri S, Miyazaki T, Sumiyoshi M, Suwa S, Nakazato Y, Urabe T, Hattori N, Daida H.
Registry of Japanese patients with atrial fibrillation focused on anticoagulant therapy in the new era: The RAFFINE registry study design and baseline characteristics.
J Cardiol. 2018 Jun;71(6):590-596

90. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Jun S, Endo H, Doi S, Konishi H, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H.
Relationship between the prognostic nutritional index and long-term clinical outcomes in patients

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

with stable coronary artery disease.
J Cardiol. 2018 Aug;72(2):155-161

91. Yamamoto H, Kihara Y, Kitagawa T, Ohashi N, Kunita E, Iwanaga Y, Kobuke K, Miyazaki S, Kawasaki T, Fujimoto S, Daida H, Fujii T, Sato A, Okimoto T, Kuribayashi S; PREDICT Investigators.
Coronary plaque characteristics in computed tomography and 2-year outcomes: The PREDICT study.
J Cardiovasc Comput Tomogr. 2018 Sep - Oct;12(5):436-443

92. Sato H, Fujimoto S, Kogure Y, Daida H.
Feasibility of Macrophage Plaque Imaging Using Novel Ultrasmall Superparamagnetic Iron Oxide in Dual Energy CT.
Eur J Radiol Open. 2018 May 15;5: 87-91

93. Wada H, Dohi T, Kasai T, Yatsu S, Naito R, Kato Y, Okai I, Iwata H, Isoda K, Okazaki S, Miyauchi K, Daida H.
Culprit Plaque Characteristics in Patients With Sleep-Disordered Breathing Undergoing Percutaneous Coronary Intervention: An Intravascular Ultrasound Study.
J Am Heart Assoc. 2018 Oct 2;7(19): e009826

94. Murata A, Kasai T, Matsue Y, Matsumoto H, Yatsu S, Kato T, Suda S, Hiki M, Takagi A, Daida H.
Relationship between blood urea nitrogen-to-creatinine ratio at hospital admission and long-term mortality in patients with acute decompensated heart failure.
Heart Vessels. 2018 Aug;33(8):877-885

95. Suda S, Kasai T, Matsumoto H, Shiroshita N, Kato M, Kawana F, Yatsu S, Murata A, Kato T, Hiki M, Chiang SJ, Miyazaki S, Daida H.
Prevalence and Clinical Correlates of Sleep-Disordered Breathing in Patients Hospitalized With Acute Decompensated Heart Failure.
Can J Cardiol. 2018 Jun;34(6):784-790

96. Hiki M, Kasai T, Yatsu S, Murata A, Matsumoto H, Kato T, Suda S, Miyazaki T, Takagi A, Daida H.
Relationship Between Serum Sodium Level Within the Low-Normal Range on Admission and Long-Term Clinical Outcomes in Patients with Acute Decompensated Heart Failure. Int Heart J. 2018 Sep 26;59(5):1052-1058

97. Matsumoto H, Kasai T, Suda S, Yatsu S, Shitara J, Murata A, Kato T, Hiki M, Yanagisawa N, Fujibayashi K, Nojiri S, Nishizaki Y, Shinohara M, Daida H.
Randomized controlled trial of an oral appliance (SomnoDent) for sleep-disordered breathing and cardiac function in patients with heart failure.
Clin Cardiol. 2018 Aug;41(8):1009-1012

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

98. Hira K, Ueno Y, Tanaka R, Miyamoto N, Yamashiro K, Inaba T, Urabe T, Okano H, Hattori N.
Astrocyte-Derived Exosomes Treated With a Semaphorin 3A Inhibitor Enhance Stroke Recovery via Prostaglandin D2 Synthase.
Stroke. 2018 Oct;49(10):2483-2494

99. Yamashiro K, Kurita N, Tanaka R, Ueno Y, Miyamoto N, Hira K, Nakajima S, Urabe T, Hattori N.
Adequate Adherence to Direct Oral Anticoagulant is Associated with Reduced Ischemic Stroke Severity in Patients with Atrial Fibrillation.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2018 Oct 11. pii: S1052-3057(18)30522-6

100. Kamo H, Miyamoto N, Otani H, Kurita N, Nakajima S, Ueno Y, Yamashiro K, Tanaka R, Hattori N.
The Importance of Combined Antithrombotic Treatment for Capsular Warning Syndrome.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2018 Nov;27(11):3095-3099

101. Ueno Y, Tanaka R, Yamashiro K, Miyamoto N, Hira K, Kurita N, Sakurai M, Urabe T, Shimada K, Miyazaki T, Daida H and Hattori N.
Age Stratification and Impact of Eicosapentaenoic Acid and Docosahexaenoic Acid to Arachidonic Acid Ratios in Ischemic Stroke Patients.
J Atheroscler Thromb. 2018 Jul 1;25(7):593-605

102. Bhidayasiri R, Jitkritsadakul O, Sringean J, Jantanapornchai T, Kantachadvanich N, Phumphid S, Boonpang K, Pensook S, Aungkab N, Hattori N, Chaudhuri KR.
Exploring Bedroom Usability and Accessibility in Parkinson's Disease (PD): The Utility of a PD Home Safety Questionnaire and Implications for Adaptations.
Front Neurol. 2018 May 17;9: 360

103. Daida K, Miyamoto N, Takagi H, Ueno Y, Yamashiro K, Tanaka R, Hattori N.
Bilateral Caudate Nucleus Infarctions Following Upper Gastrointestinal Bleeding.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2018 Sep;27(9): e219-e220

104. Daida K, Tanaka R, Yamashiro K, Ogawa T, Oyama G, Nishioka K, Shimo Y, Umemura A, Hattori N.
The presence of cerebral microbleeds is associated with cognitive impairment in Parkinson's disease.
J Neurol Sci. 2018 Oct 15;393: 39-44

105. Hatano T, Takanashi M, Tsuchihashi H, Ueno SI, Hayashida A, Tsukune Y, Kanai K, Shimo Y, Hattori N.
Myalgia caused by chronic myositis associated with plasmacytosis: a case report.
BMC Neurol. 2018 Aug 14;18(1):112

106. Hattori N, Takeda A, Takeda S, Nishimura A, Kato M, Mochizuki H, Nagai M, Takahashi R.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Efficacy and safety of adjunctive rasagiline in Japanese Parkinson's disease patients with wearing-off phenomena: A phase 2/3, randomized, double-blind, placebo-controlled, multicenter study.
Parkinsonism Relat Disord. 2018 Aug;53: 21-27

107. Ishikawa KI, Saiki S, Furuya N, Imamichi Y, Tsuboi Y, Hattori N.
p150^{glued} deficiency impairs effective fusion between autophagosomes and lysosomes due to their redistribution to the cell periphery.
Neurosci Lett. 2018 Oct 23;690: 181-187

108. Kono Y, Nishioka K, Li Y, Komatuzaki Y, Ito Y, Yoshino H, Tanaka R, Iguchi Y, Hattori N.
Heterozygous HTRA1 mutations with mimicking symptoms of CARASIL in two families. Clin Neurol Neurosurg. 2018 Sep;172: 174-176

109. Mikasa M, Kanai K, Li Y, Yoshino H, Mogushi K, Hayashida A, Ikeda A, Kawajiri S, Okuma Y, Kashihara K, Sato T, Kondo H, Funayama M, Nishioka K, Hattori N.
COQ2 variants in Parkinson's disease and multiple system atrophy.
J Neural Transm (Vienna). 2018 Jun;125(6):937-944

110. Mishima T, Fujioka S, Tomiyama H, Yabe I, Kurisaki R, Fujii N, Neshige R, Ross OA, Farrer MJ, Dickson DW, Wszolek ZK, Hattori N, Tsuboi Y.
Establishing diagnostic criteria for Perry syndrome.
J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2018 May;89(5):482-487

111. Nakano F, Ueno Y, Suda A, Takanashi M, Yamashita A, Abe Y, Kon T, Miyamoto N, Yamashiro K, Tanaka R, Naito T, Yao T, Tamura N, Hattori N.
Fatal ischemic stroke caused by cerebral small arteritis in a patient with giant cell arteritis.
J Neurol Sci. 2018 Aug 15;391: 22-24

112. Nakazato T, Tsuji Y, Kanai K, Noto YI, Hoshino Y, Yamashiro K, Yokoyama K, Nishioka K, Shimo Y, Watanabe O, Mizuno T, Hattori N.
Isaacs syndrome: A slow potassium channelopathy caused by autoantibodies?
Clin Neurophysiol. 2018 May;129(5):956-958

113. Nishioka K, Suzuki M, Satoh K, Hattori N.
Crossed cerebellar diaschisis in Creutzfeldt-Jakob disease evaluated through single photon emission computed tomography.
J Neurol Sci. 2018 Dec 15;395: 88-90

114. Ogawa T, Ueno Y, Kamo H, Miyamoto N, Yamashiro K, Tanaka R, Shimo Y, Hattori N. Conjugate Eye Deviation Caused by Upper Medial Medullary Infarction: A Case Report.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2018 Sep;27(9): e221-e223

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

115. Okuzumi A, Kurosawa M, Hatano T, Takanashi M, Nojiri S, Fukuhara T, Yamanaka T, Miyazaki H, Yoshinaga S, Furukawa Y, Shimogori T, Hattori N, Nukina N.
Rapid dissemination of alpha-synuclein seeds through neural circuits in an in-vivo prion-like seeding experiment.
Acta Neuropathol Commun. 2018 Sep 19;6(1):96

116. Ren Q, Ma M, Yang J, Nonaka R, Yamaguchi A, Ishikawa KI, Kobayashi K, Murayama S, Hwang SH, Saiki S, Akamatsu W, Hattori N, Hammock BD, Hashimoto K.
Soluble epoxide hydrolase plays a key role in the pathogenesis of Parkinson's disease.
Proc Natl Acad Sci U S A. 2018 Jun 19;115(25): E5815-E5823

117. Sato S, Hattori N.
Dopaminergic Neuron-Specific Autophagy-Deficient Mice.
Methods Mol Biol. 2018;1759: 173-175.

118. Shimada Y, Shimura H, Tanaka R, Yamashiro K, Koike M, Uchiyama Y, Urabe T, Hattori N.
Phosphorylated recombinant HSP27 protects the brain and attenuates blood-brain barrier disruption following stroke in mice receiving intravenous tissue-plasminogen activator.
PLoS One. 2018 May 24;13(5): e0198039

119. Sugo M, Kimura H, Arasaki K, Amemiya T, Hirota N, Dohmae N, Imai Y, Inoshita T, Shiba-Fukushima K, Hattori N, Cheng J, Fujimoto T, Wakana Y, Inoue H, Tagaya M. Syntaxin 17 regulates the localization and function of PGAM5 in mitochondrial division and mitophagy.
EMBO J. 2018 Nov 2;37(21). pii: e98899

120. Suzuki K, Okuma Y, Uchiyama T, Miyamoto M, Sakakibara R, Shimo Y, Hattori N, Kuwabara S, Yamamoto T, Kaji Y, Hirano S, Suzuki S, Haruyama Y, Kobashi G, Hirata K; Kanto NMPD investigators.
The prevalence, course and clinical correlates of migraine in Parkinson's disease: A multicentre case-controlled study.
Cephalalgia. 2018 Aug;38(9):1535-1544

121. Tabata Y, Imaizumi Y, Sugawara M, Andoh-Noda T, Banno S, Chai M, Sone T, Yamazaki K, Ito M, Tsukahara K, Saya H, Hattori N, Kohyama J, Okano H.
T-type Calcium Channels Determine the Vulnerability of Dopaminergic Neurons to Mitochondrial Stress in Familial Parkinson Disease.
Stem Cell Reports. 2018 Nov 13;11(5):1171-1184

122. Takanashi M, Funayama M, Matsuura E, Yoshino H, Li Y, Tsuyama S, Takashima H, Nishioka K, Hattori N.
Isolated nigral degeneration without pathological protein aggregation in autopsied brains with LRRK2 p.R1441H homozygous and heterozygous mutations.
Acta Neuropathol Commun. 2018 Oct 17;6(1):105

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

123. Taniguchi D, Hatano T, Kamagata K, Okuzumi A, Oji Y, Mori A, Hori M, Aoki S, Hattori N.
Neuromelanin imaging and midbrain volumetry in progressive supranuclear palsy and Parkinson's disease.
Mov Disord. 2018 Sep;33(9):1488-1492

124. Tohnai G, Nakamura R, Sone J, Nakatochi M, Yokoi D, Katsuno M, Watanabe H, Watanabe H, Ito M, Li Y, Izumi Y, Morita M, Taniguchi A, Kano O, Oda M, Kuwabara S, Abe K, Aiba I, Okamoto K, Mizoguchi K, Hasegawa K, Aoki M, Hattori N, Onodera O, Naruse H, Mitsui J, Takahashi Y, Goto J, Ishiura H, Morishita S, Yoshimura J, Doi K, Tsuji S, Nakashima K, Kaji R, Atsuta N, Sobue G; Japanese Consortium for Amyotrophic Lateral Sclerosis Research (JaCALS).
Frequency and characteristics of the TBK1 gene variants in Japanese patients with sporadic amyotrophic lateralsclerosis.
Neurobiol Aging. 2018 Apr;64: 158.e15-158.e19

125. Tokushige SI, Matsuda SI, Oyama G, Shimo Y, Umemura A, Sasaki T, Inomata-Terada S, Yugeta A, Hamada M, Ugawa Y, Tsuji S, Hattori N, Terao Y.
Effect of subthalamic nucleus deep brain stimulation on visual scanning.
Clin Neurophysiol. 2018 Nov;129(11):2421-2432

126. Yoritaka A, Ohtsuka C, Maeda T, Hirayama M, Abe T, Watanabe H, Saiki H, Oyama G, Fukae J, Shimo Y, Hatano T, Kawajiri S, Okuma Y, Machida Y, Miwa H, Suzuki C, Kazama A, Tomiyama M, Kihara T, Hirasawa M, Shimura H, Oda E, Ito M, Ohno K, Hattori N. Randomized, double-blind, multicenter trial of hydrogen water for Parkinson's disease. Mov Disord. 2018 Sep;33(9):1505-1507

127. Yoshino H, Nishioka K, Li Y, Oji Y, Oyama G, Hatano T, Machida Y, Shimo Y, Hayashida A, Ikeda A, Mogushi K, Shibagaki Y, Hosaka A, Iwanaga H, Fujitake J, Ohi T, Miyazaki D, Sekijima Y, Oki M, Kusaka H, Fujimoto KI, Ugawa Y, Funayama M, Hattori N.
GCH1 mutations in dopa-responsive dystonia and Parkinson's disease.
J Neurol. 2018 Aug;265(8):1860-1870

128. Ueno SI, Saiki S, Fujimaki M, Takeshige-Amano H, Hatano T, Oyama G, Ishikawa KI, Yamaguchi A, Nojiri S, Akamatsu W, Hattori N.
Zonisamide Administration Improves Fatty Acid β-Oxidation in Parkinson's Disease.
Cells. 2018 Dec 29;8(1). pii: E14

129. Kumamaru KK, Sano Y, Kumamaru H, Hori M, Takamura T, Irie R, Suzuki M, Hagiwara A, Kamagata K, Nakanishi A, Aoki S.
Radiologist involvement is associated with reduced use of MRI in the acute period of low back pain in a non-elderly population.
Eur Radiol. 2018 Apr;28(4):1600-1608

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

130. Irie R, Kamagata K, Kerever A, Ueda R, Yokosawa S, Otake Y, Ochi H, Yoshizawa H, Hayashi A, Tagawa K, Okazawa H, Takahashi K, Sato K, Hori M, Arikawa-Hirasawa E, Aoki S.
The Relationship between Neurite Density Measured with Confocal Microscopy in a Cleared Mouse Brain and Metrics Obtained from Diffusion Tensor and Diffusion Kurtosis Imaging.
Magn Reson Med Sci. 2018 Apr 10;17(2):138-144

131. Chougar L, Hagiwara A, Andica C, Hori M, Aoki S.
Synthetic MRI of the knee: new perspectives in musculoskeletal imaging and possible applications for the assessment of bone marrow disorders.
Br J Radiol. 2018 May;91(1085):20170886

132. Kumamaru KK, Machitori A, Koba R, Ijichi S, Nakajima Y, Aoki S.
Global and Japanese regional variations in radiologist potential workload for computed tomography and magnetic resonance imaging examinations.
Jpn J Radiol. 2018 Apr;36(4):273-281

133. Andica C, Hagiwara A, Hori M, Nakazawa M, Goto M, Koshino S, Kamagata K, Kumamaru KK, Aoki S.
Automated brain tissue and myelin volumetry based on quantitative MR imaging with various in-plane resolutions.
J Neuroradiol. 2018 May;45(3):164-168

134. Kirino E, Tanaka S, Fukuta M, Inami R, Inoue R, Aoki S.
Functional Connectivity of the Caudate in Schizophrenia Evaluated with Simultaneous Resting-State Functional MRI and Electroencephalography Recordings. Neuropsychobiology 2018/2019; 77:165–175

135. Hagiwara A, Hori M, Kamagata K, Warntjes M, Matsuyoshi D, Nakazawa M, Ueda R, Andica C, Koshino S, Maekawa T, Irie R, Takamura T, Kumamaru KK, Abe O, Aoki S. Myelin Measurement: Comparison Between Simultaneous Tissue Relaxometry, Magnetization Transfer Saturation Index, and T1w/T2w Ratio Methods.
Sci Rep. 2018 Jul 12;8(1):10554

136. Chougar L, Hagiwara A, Maekawa T, Hori M, Andica C, Iimura Y, Sugano H, Aoki S. Limitation of neurite orientation dispersion and density imaging for the detection of focal cortical dysplasia with a "transmantle sign".
Phys Med. 2018 Aug;52: 183-184

137. Kamiya K, Okada N, Sawada K, Watanabe Y, Irie R, Hanaoka S, Suzuki Y, Koike S, Mori H, Kunimatsu A, Hori M, Aoki S, Kasai K, Abe O.
Diffusional kurtosis imaging and white matter microstructure modeling in a clinical study of major depressive disorder.
NMR Biomed. 2018 Jul;31(7): e3938

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

138. Maekawa T, Hori M, Murata K, Feiweier T, Fukunaga I, Andica C, Hagiwara A, Kamagata K, Koshino S, Abe O, Aoki S.
Changes in the ADC of diffusion-weighted MRI with the oscillating gradient spin-echo (OGSE) sequence due to differences in substrate viscosities.
Jpn J Radiol. 2018 Jul;36(7):415-420

139. Andica C, Hori M, Kamiya K, Koshino S, Hagiwara A, Kamagata K, Fukunaga I, Hamasaki N, Suzuki M, Feiweier T, Murata K, Arakawa A, Kondo A, Akiyama O, Aoki S. Spatial Restriction within Intracranial Epidermoid Cysts Observed Using Short Diffusion-time Diffusion-weighted Imaging.
Magn Reson Med Sci. 2018 Jul 10;17(3):269-272

140. Boonrod A, Hagiwara A, Hori M, Fukunaga I, Andica C, Maekawa T, Aoki S.
Reduced visualization of cerebral infarction on diffusion-weighted images with short diffusion times.
Neuroradiology. 2018 Sep;60(9):979-982

141. Tanaka H, Kondo K, Chen X, Homma H, Tagawa K, Kerever A, Aoki S, Saito T, Saido T, Muramatsu SI, Fujita K, Okazawa H.
The intellectual disability gene PQBP1 rescues Alzheimer's disease pathology.
Mol Psychiatry. 2018 Oct;23(10):2090-2110

142. Hara S, Hori M, Murata S, Ueda R, Tanaka Y, Inaji M, Maehara T, Aoki S, Nariai T. Microstructural Damage in Normal-Appearing Brain Parenchyma and Neurocognitive Dysfunction in Adult Moyamoya Disease.
Stroke. 2018 Oct;49(10):2504-2507

143. Wallaert L, Hagiwara A, Andica C, Hori M, Yamashiro K, Koshino S, Maekawa T, Kamagata K, Aoki S.
The Advantage of Synthetic MRI for the Visualization of Anterior Temporal Pole Lesions on Double Inversion Recovery (DIR), Phase-sensitive Inversion Recovery (PSIR), and Myelin Images in a Patient with CADASIL.
Magn Reson Med Sci. 2018 Oct 10;17(4):275-276

144. Goto M, Abe O, Aoki S, Kamagata K, Hori M, Miyati T, Gomi T, Takeda T.
Combining Segmented Grey and White Matter Images Improves Voxel-based Morphometry for the Case of Dilated Lateral Ventricles.
Magn Reson Med Sci. 2018 Oct 10;17(4):293-300

145. Tomizawa N, Chou S, Fujino Y, Kamitani M, Yamamoto K, Inoh S, Nojo T, Kumamaru KK, Aoki S, Nakamura S.
Data for comparison of computed tomography angiography and dynamic myocardial perfusion to

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

detect significant stenosis by coronary angiography.
Data Brief. 2018 Dec; 21: 953–955

146. Hara S, Hori M, Inaji M, Maehara T, Aoki S, Nariai T.
Regression of White Matter Hyperintensity after Indirect Bypass Surgery in a Patient with Moyamoya Disease.
Magn Reson Med Sci. 2018 Dec 6 [Epub ahead of print]

147. Haneda J, Hagiwara A, Hori M, Wada A, Fukunaga I, Murata K, Kamagata K, Fujita S, Maekawa T, Irie R, Takamura T, Suzuki M, Kunishima Kumamaru K, Aoki S.
A Comparison of Techniques for Correcting Eddy-current and Motion-induced Distortions in Diffusion-weighted Echo-planar Images.
Magn Reson Med Sci. 2018 Dec 3 [Epub ahead of print]

148. Wada A, Tsuruta K, Irie R, Kamagata K, Maekawa T, Fujita S, Koshino S, Kumamaru K, Suzuki M, Nakanishi A, Hori M, Aoki S.
Differentiating Alzheimer's Disease from Dementia with Lewy Bodies Using a Deep Learning Technique Based on Structural Brain Connectivity.
Magn Reson Med Sci. 2018 Dec 3 [Epub ahead of print]

149. Kumagai H, Tobina T, Ichinoseki-Sekine N, Kakigi R, Tsuzuki T, Zempo H, Shiose K, Yoshimura E, Kumahara H, Ayabe M, Higaki Y, Yamada R, Kobayashi H, Kiyonaga A, Naito H, Tanaka H, Fuku N.
Role of selected polymorphisms in determining muscle fiber composition in Japanese men and women.
J Appl Physiol (1985). 2018 May 1;124(5):1377-1384

150. Natsume T, Ozaki H, Saito AI, Naito H.
Neuromuscular electrical stimulation with blood flow restriction increases serum growth hormone concentration.
Gazzetta Medica Italiana Archivio per le Scienze Mediche. 2018 November;177(11):599-605

151. Niimi Y, Ito S, Mizutani Y, Murate K, Shima S, Ueda A, Satake W, Hattori N, Toda T, Mutoh T.
Altered regulation of serum lysosomal acid hydrolase activities in Parkinson's disease: A potential peripheral biomarker?
Parkinsonism Relat Disord. 2018 Nov 2. pii: S1353-8020(18)30468-1 [Epub ahead of print]

152. Taira M, Imamura M, Takahashi A, Kamatani Y, Yamauchi T, Araki S, Tanaka N, van Zuydam N, Ahlqvist E, Toyoda M, Umezono T, Kawai K, Imanishi M, Watada H, Suzuki D, Maegawa H, Babazono T, Kaku K, Kawamori R, Consortium S, LC G, McCarthy M, Kadowaki T, Maeda S.
A variant within the FTO confers susceptibility to diabetic nephropathy in Japanese patients with type 2 diabetes.
PLoS One, 2018. Dec 19; 13(12):e0208654

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

【英文原著 2019 年】

1. Maekawa T, Hori M, Murata K, Feiweier T, Andica C, Fukunaga I, Koshino S, Hagiwara A, Kamiya K, Kamagata K, Wada A, Abe O, Aoki S.
   Choroid plexus cysts analyzed using diffusion-weighted imaging with short diffusion-time. Magn Reson Imaging. 2019 Apr; 57:323-327

2. Watada H, Shiramoto M, Irie S, Terauchi Y, Yamada Y, Shiosakai K, Myobatake Y, Taguchi T.
   G protein-coupled receptor 119 agonist DS-8500a effects on pancreatic beta-cells in Japanese type 2 diabetes mellitus patients.
   J Diabetes Investig. 2019 Jan;10(1):84-93

3. Yano K, Hirayama S, Misawa N, Furuta A, Ueno T, Motoi Y, Seino U, Ebinuma H, Ikeuchi T, Shneider WJ, Bujo H, Miida T.
   Soluble LR11 competes with amyloid β binding to cerebrospinal fluid-high-density lipoprotein.
   Clin Chim Acta. 2019 Feb;489: 29-34

4. Takamura K, Fujimoto S, Kawaguchi Y, Kato E, Aoshima C, Hiki M, Kumamaru KK, Daida H.
   The usefulness of low radiation dose subtraction coronary computed tomography angiography for patients with calcification using 320-row area detector CT.
   J Cardiol. 2019 Jan;73(1):58-64

5. Dohi T, Kasai T, Endo H, Wada H, Yanagisawa N, Nojiri S, Funamizu T, Shitara J, Doi S, Kato Y, Okai I, Iwata H, Isoda K, Okazaki S, Miyauchi K, Daida H.
   CPAP effects on atherosclerotic plaques in patients with sleep-disordered breathing and coronary artery disease: The ENTERPRISE trial.
   J Cardiol. 2019 Jan;73(1):89-93

6. Shitara J, Ogita M, Wada H, Tsuboi S, Endo H, Doi S, Konishi H, Naito R, Dohi T, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Miyauchi K, Daida H.
   Clinical impact of high-sensitivity C-reactive protein during follow-up on long-term adverse clinical outcomes in patients with coronary artery disease treated with percutaneous coronary intervention.
   J Cardiol. 2019 Jan;73(1):45-50

7. Fujimoto S, Kawasaki T, Kumamaru KK, Kawaguchi Y, Dohi T, Okonogi T, Ri K, Yamada S, Takamura K, Kato E, Kato Y, Hiki M, Okazaki S, Aoki S, Mitsouras D, Rybicki FJ, Daida H.
   Diagnostic performance of on-site computed CT-fractional flow reserve based on fluid structure interactions: comparison with invasive fractional flow reserve and instantaneous wave-free ratio.
   Eur Heart J Cardiovasc Imaging.2019 Mar 1;20(3):343-352

8. Nagayama H, Kano O, Murakami H, Ono K, Hamada M, Toda T, Sengoku R, Shimo Y, Hattori N.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Effect of istradefylline on mood disorders in Parkinson's disease.
J Neurol Sci. 2019 Jan 15;396: 78-83

9. Kamo H, Ueno Y, Sugiyama M, Miyamoto N, Yamashiro K, Tanaka R, Hattori N. Temporal Profile of CT and T2*-Weighted Gradient-Echo MRI in a Patient with Unilateral Thalamostriate Vein Thrombosis.
J Stroke Cerebrovasc Dis. 2019 Feb;28(2):389-391

10. Tomizawa N, Chou S, Fujino Y, Kamitani M, Yamamoto K, Inoh S, Nojo T, Kumamaru KK, Aoki S, Nakamura S.
Feasibility of dynamic myocardial CT perfusion using single-source 64-row CT.
J Cardiovasc Comput Tomogr. 2019 Jan - Feb;13(1):55-61

11. Maekawa T, Hagiwara A, Hori M, Andica C, Haruyama T, Kuramochi M, Nakazawa M, Koshino S, Irie R, Kamagata K, Wada A, Abe O, Aoki S.
Effect of Gadolinium on the Estimation of Myelin and Brain Tissue Volumes Based on Quantitative Synthetic MRI.
AJNR Am J Neuroradiol. 2019 Feb;40(2):231-237

12. He B, Chiba Y, Li H, de Vega S, Tanaka K, Yoshizaki K, Ishijima M, Yuasa K, Ishikawa M, Rhodes C, Sakai K, Zhang P, Fukumoto S, Zhou X, Yamada Y.
Identification of the novel dental epithelium-specific transcription factor AmeloD.
J Dent Res. 2019 Feb;98(2):234-241

13. Kinoshita M, Ishijima M, Kaneko K, Liu L, SadatsukR, Hada S, Arita H, Shiozawa J, Aoki T, Yamanaka M, Nojiri H, Sakamoto Y, Tokita A, Kaneko K.
The increase in bone mineral density by bisphosphonate is associated with the serum calcium level within the reference interval in osteoporotic women.
Mod Rheumatol. 2019 Jan;29(1):157-64

14. de Vega S, Kondo A, Suzuki M, Arai H, Jiapaer S, Sabit H, Nakada M, Ikeuchi T, Ishijima M, Arikawa-Hirasawa E, Yamada Y, Okada Y.
Fibulin-7 is over-expressed in glioblastomas and modulates glioblastoma neovascularization through interaction with angiopoietin-1.
Int J Cancer. 2019 Mar 28 [Epub ahead of print]

15. Miyamori T, Nagao M, Sawa R, Tumilty S, Yoshimura M, Saita Y, Ikeda H, Kaneko K.
Playing football on artificial turf as a risk factor for fifth metatarsal stress fracture: a retrospective cohort study.
BMJ Open. 2019 Feb 20;9(2): e022864

16. Goto K, Naito K, Sugiyama Y, Nagura N, Kaneko A, Iwase Y, Kaneko K.
Sliding Position of the Flexor Tendons Relative to the Hook of Hamate in CT Scans.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

J Hand Surg Asian Pac. Vol, 2019 Mar;24(1):72-75

17. Maezawa K, Nozawa M, Yuasa T, Gomi M, Sato H, Sugimoto M, Kaneko K.
Influence of hip joint dysfunction on motor disorders in Japanese patients with osteoarthritis of the hip: Assessment of the JHEQ and GLFS-25 scores and hip muscle strength.
Arch Gerontol Geriatr. 2019 Jan;82:45-49

18. Shimura A, Maezawa K, Gomi M, Kudo T, Yuasa T, Maruyama Y, Nozawa M, Kaneko K.
Femoral nerve injury due to technical errors during acetabular reconstruction surgery with the kerboull-type acetabular reinforcement device: Case report.
J Orthop Sci. 2019 Jan; pii: S0949-2658(18)30392-0 2018.12.021[Epub ahead of print]

19. Hara A, Kudo T, Ichihara S, Iwase H, Nagao M, Maruyama Y, Kaneko K.
Biomechanical evaluation of a transcondylar screw from the dorsolateral plate support on the stabilization of orthogonal plate configuration in distal humeral fracture.
Injury. 2019 Feb; 50(2):256-262

20. Saita Y, Schoenhuber H, Thiébat G, Ravasio G, Pozzoni R, Panzeri A, Galli M, Nagao M, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K.
Knee hyperextension and a small lateral condyle are associated with greater quantified antero-lateral rotatory instability in the patients with a complete anterior cruciate ligament (ACL) rupture.
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2019 Mar; 27(3):868-874

21. Tanabe Y, Kawasaki T, Tanaka H, Murakami K, Nobuhara K, Okuwaki T, Kaneko K.
The kinematics of 1-on-1 rugby tackling: a study using 3-dimensional motion analysis.
J Shoulder Elbow Surg. 2019 Jan; 28(1):149-157

22. Komatsu J, Mogami A, Iwase H, Obayashi O, Kaneko K.
A complete posterior tibial stress fracture that occurred during a middle-distance running race: a case report.
Arch Orthop Trauma Surg, 2019 Jan; 139(1):25-33

23. Osada T, Ohta S, Ogawa A, Tanaka M, Suda A, Kamagata K, Hori M, Aoki S, Shimo Y, Hattori N, Shimizu T, Enomoto H, Hanajima R, Ugawa Y, Konishi S.
An essential role of the intraparietal sulcus in response inhibition predicted by parcellation-based network.
Journal of Neuroscience. 27 March 2019, 39(13)2509-2521

24. Yano K, Hirayama S, Misawa N, Furuta A, Ueno T, Motoi Y, Seino U, Ebinuma H, Ikeuchi T, Schneider WJ, Bujo H, Miida T.
Soluble LR11 competes with amyloid β in binding to cerebrospinal fluid-high-density lipoprotein.
Clin Chim Acta. 2019 Feb; 489:29-34

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

25. Miyazaki T, Nagasaka H, Komatsu H, Inui A, Morioka I, Tsukahara H, Kaji S, Hirayama S, Miida T, Kondou H, Ihara K, Yagi M, Kizaki Z, Bessho K, Kodama T, Iijima K, Yorifuji T, Matsuzaki Y, Honda A.
Serum Amino Acid Profiling in Citrin-Deficient Children Exhibiting Normal Liver Function During the Apparently Healthy Period.
JIMD Rep. 2019; 43:53-61, Epub 2018 Apr 14

26. Nitta A, Hori K, Tanida I, Igarashi A, Deyama Y, Ueno T, Kominami E, Sugai M, Aoki K.
Blocking LC3 lipidation and ATG12 conjugation reactions by ATG7 mutant protein containing C572S.
Biochem Biophys Res Commun. 2019 Jan 8;508(2):521-526

27. Sato T, Yamashina S, Izumi K, Ueno T, Koike M, Ikejima K, Peters C, Watanabe S.
Cathepsin L-deficiency enhances liver regeneration after partial hepatectomy.
Life Sci. 2019 Mar 15; 221:293-300

28. Mita T, Hiyoshi T, Yoshii H, Chimori H, Ikeda K, Shimizu M, Kojima Y, Yamamto H, Yasuda D, Sato J, Watada H.
The Effect of Linagliptin versus Metformin Treatment-Related Quality of Life in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus.
Diabetes Ther. 2019 Feb;10(1):119-134

29. Araki E, Yamashita S, Arai H, Yokote K, Satoh J, Inoguchi T, Nakamura J, Maegawa H, Yoshioka N, Tanizawa Y, Watada H, Suganami H, Ishibashi S.
The Efficacy and Safety of Pemafibrate in Patients with Type 2 Diabetes and Elevated Triglyceride levels: 52-Week Data From The PROVIDE Study.
Diabetes Obes Metab. 2019 Mar 4 [Epub ahead of print]

30. Hara A, Nakagawa Y, Nakao K, Tamaki M, Ikemoto T, Shimada M, Matsuhisa M, Mizukami H, Maruyama N, Watada H, Fujitani Y.
Development of monoclonal mouse antibodies that specifically recognize pancreatic polypeptide.
Endocr J. 2019 Mar 6 [Epub ahead of print]

31. Tomiyama H, Ohkuma T, Ninomiya T, Mastumoto C, Kario K, Hoshide S, Kita Y, Inoguchi T, Maeda Y, Kohara K, Tabara Y, Nakamura M, Ohkubo T, Watada H, Munakata M, Ohishi M, Ito N, Nakamura M, Shoji T, Vlachopoulos C, Aboyans V, Yamashina A.
Collaborative Group for J-B, Steno-Stiffness Approach for Cardiovascular Disease Risk Assessment in Primary Prevention.
Hypertension. 2019 Mar;73(3):508-513

32. Suzuki R, Tamura Y, Takeno K, Kakehi S, Funayama T, Furukawa Y, Kaga H, Sugimoto D, Kadowaki S, Someya Y, Kanazawa A, Kawamori R, Watada H.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Three days of a eucaloric low-carbohydrate/high-fat diet increases insulin clearance in healthy non-obese Japanese men.
Sci Rep. 2019 Mar 7;9(1):3857

33. Shitara J, Kasai T, Konishi H, Endo H, Wada H, Doi S, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Okazaki S, Miyauchi K, Daida H.
Impact of Lipoprotein (a) Levels on Long-Term Outcomes in Patients With Coronary Artery Disease and Left Ventricular Systolic Dysfunction.
Circ J. 2019 Mar 26 [Epub ahead of print]

34. Jujo K, Otsuki H, Tanaka K, Fukushima N, Okai I, Nakashima M, Dohi T, Okazaki S, Okabe R, Nagura F, Nara Y, Kawashima H, Kyono H, Arashi H, Yamaguchi J, Tamura H, Kurata T, Miyauchi K, Kozuma K, Daida H, Hagiwara N.
Long-term cardiovascular prognosis after rotational atherectomy in hemodialysis patients: Data from the J2T multicenter registry.
Int J Cardiol. Epub 2019 Mar 14. pii: S0167-5273(18)35810-8

35. Yatsu S, Kasai T, Suda S, Matsumoto H, Ishiwata S, Shiroshita N, Kato M, Kawana F, Murata A, Shimizu M, Shitara J, Kato T, Hiki M, Sai E, Miyauchi K, Daida H.
Prevalence and Significance of Restless Legs Syndrome in Patients With Coronary Artery Disease.
Am J Cardiol. 2019 Feb 23. pii: S0002-9149(19)30222-X [Epub ahead of print]

36. Endo H, Dohi T, Miyauchi K, Kuramitsu S, Kato Y, Okai I, Yokoyama M, Yokoyama T, Ando K, Okazaki S, Shimada K, Suwa S, Daida H.
Clinical significance of non-culprit plaque regression following acute coronary syndrome: A serial intravascular ultrasound study.
J Cardiol. 2019 Feb 5. pii: S0914-5087(19)30011-5 [Epub ahead of print]

37. Endo H, Dohi T, Funamizu T, Shitara J, Wada H, Doi S, Naito R, Konishi H, Ogita M, Iwata H, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Shimada K, Miyauchi K, Daida H.
Long-Term Predictive Value of High-Sensitivity C-Reactive Protein for Cancer Mortality in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention.
Circ J. 2019 Feb 25;83(3):630-636

38. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Daida H.
Reply to: "Comment on "Mean platelet volume and long-term cardiovascular outcomes in patients with stable coronary artery disease" ".
Atherosclerosis. 2019 Jan; 280:195-196

39. Yatsu S, Kasai T, Matsumoto H, Shitara J, Shimizu M, Murata A, Kato T, Suda S, Hiki M, Takagi A, Daida H.
Relationship between Hypoalbuminemia on Admission and Long-term Mortality in Patients with Acute Decompensated Heart Failure.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Intern Med. 2019 Feb 25. 1716-18

40. Valentine MNZ, Hashimoto K, Fukuhara T, Saiki S, Ishikawa KI, Hattori N, Carninci P. Multi-year whole-blood transcriptome data for the study of onset and progression of Parkinson's Disease.
Sci Data. 2019 Apr 5;6(1):20

41. Ueno Y, Tateishi Y, Doijiri R, Kuriki A, Shimizu T, Kikuno M, Shimada Y, Takekawa H, Yamaguchi E, Koga M, Kamiya Y, Ihara M, Tsujino A, Hirata K, Toyoda K, Hasegawa Y, Hattori N, Urabe T.
Large aortic arch plaques correlate with CHADS(2) and CHA(2)DS(2)-VASc scores in cryptogenic stroke.
Atherosclerosis. 2019 Mar 20; 284:181-186

42. Magami S, Miyamoto N, Ueno Y, Hira K, Tanaka R, Yamashiro K, Oishi H, Arai H, Urabe T, Hattori N.
The Effects of Astrocyte and Oligodendrocyte Lineage Cell Interaction on White Matter Injury under Chronic Cerebral Hypoperfusion.
Neuroscience. 2019 Mar 10; 406:167-175

43. Andica C, Hagiwara A, Hori M, Kamagata K, Koshino S, Maekawa T, Suzuki M, Fujiwara H, Ikeno M, Shimizu T, Suzuki H, Sugano H, Arai H, Aoki S.
Review of synthetic MRI in pediatric brains: Basic principle of MR quantification, its features, clinical applications, and limitations.
J Neuroradiol. 2019 Mar 7. pii: S0150-9861(17)30488-1. 2019.02.005. [Epub ahead of print]
Review.

44. Kumamaru KK, Kumamaru H, Yasunaga H, Matsui H, Omiya T, Hori M, Suzuki M, Wada A, Kamagata K, Takamura T, Irie R, Nakanishi A, Aoki S.
Large hospital variation in the utilization of Post-procedural CT to detect pulmonary embolism/Deep Vein Thrombosis in Patients Undergoing Total Knee or Hip Replacement Surgery: Japanese Nationwide Diagnosis Procedure Combination Database Study.
Br J Radiol. 2019 Mar 15:20180825[Epub ahead of print]

45. Hagiwara A, Otsuka Y, Hori M, Tachibana Y, Yokoyama K, Fujita S, Andica C, Kamagata K, Irie R, Koshino S, Maekawa T, Chougar L, Wada A, Takemura MY, Hattori N, Aoki S.
Improving the Quality of Synthetic FLAIR Images with Deep Learning Using a Conditional Generative Adversarial Network for Pixel-by-Pixel Image Translation.
AJNR Am J Neuroradiol. 2019 Feb;40(2):224-230.

【和文原著 2014 年】

1. 田村好史，竹野景海，筧佐織, 河盛隆造 ,綿田裕孝
非肥満者における病態の解明「細胞内肥満仮説」の検証とその臨床応用
医科学応用研究財団研究報告, 31: 333-335, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

2. 宇都宮一典, 川浪大治, 加来浩平, 寺内康夫, 戸邉一之, 谷澤幸生, 荒木栄一, 綿田裕孝, 岩本安彦, 菅波秀規,渡邊大丞
選択的 SGLT2 阻害薬トホグリフロジンの腎機能別に見る有効性と安全性の検討～国内治験の併合データを用いたサブグループ解析～
医薬ジャーナル, 50: 36-45, 2014

3. 加来浩平, 谷澤幸生, 荒木栄一, 綿田裕孝, 岩本安彦, 宇都宮一典, 寺内康夫, 戸邉一之, 池田勧夫, 菅波秀規, 渡邊大丞,前田肇
選択的 SGLT2 阻害薬トホグリフロジンの臨床第III相 4 試験を用いた安全性の検討～国内治験の併合データを用いた部分集団解析～
医薬ジャーナル, 50: 6-13, 2014

4. 岩本安彦, 加来浩平, 宇都宮一典, 寺内康夫, 戸邉一之, 谷澤幸生, 荒木栄一, 綿田裕孝, 渡邊大丞,菅波秀規
選択的 SGLT2 阻害薬トホグリフロジンの年齢別に見る有効性と安全性の検討～国内治験の併合データを用いた部分集団解析～
医薬ジャーナル, 50: 14-24, 2014

5. 戸邉一之, 加来浩平, 谷澤幸生, 荒木栄一, 綿田裕孝, 岩本安彦, 宇都宮一典, 寺内康夫, 渡邊大丞,菅波秀規
選択的 SGLT2 阻害薬トホグリフロジンの肥満度別に見る有効性と安全性の検討～国内治験の併合データを用いた部分集団解析～
医薬ジャーナル, 50: 25-35, 2014

6. 頼高 朝子, 高梨 雅史, 平山 正昭, 中原 登志樹, 太田 成男, 服部 信孝.
パーキンソン病患者における水素水の無作為化二重盲検試験,
運動障害 24:19-24, 2014

7. 羽田晋之介, 高澤祐治, 斎田良知, 石島旨章, 池田浩, 金子和夫
脛骨粗面剥離骨折に膝蓋腱断裂を合併し膝蓋骨高位を呈した 1 例
日本整形外科スポーツ医学会雑誌, 34, 215-19, 2014

8. 佐藤博伸, 石島旨章, 黒澤尚
壮年期に発見された内側円板状半月の 1 例
関東整形災害外科学会雑誌, 45, 230-33, 2014

9. 乾哲也, 馬場智規, 小林英生, 本間康弘, 金子和夫, 諸橋達
新体操選手に比較的軽微な外傷で発症した大腿骨頸基部骨折の 1 例.
骨折, 2014, 36:104-106

10. 内野小百合, 馬場智規, 本間康弘, 松本幹生, 坂本優子, 野沢雅彦, 金子和夫
末端肥大症に伴う変形性股関節症に対する人工股関節全置換術.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

別冊整形外科, 2014, 65: 230-233

11. 大沢 亜紀, 吉田 圭一, 五味 基央, 青木 浩平, 金澤 博明, 丸山 祐一郎, 金子 和夫
周術期の痛みの管理 人工膝関節置換術における関節周囲多剤カクテル療法の術後疼痛と理学療法に対する有用性
日本人工関節学会誌 44,183-184,2014

12. 金澤博明, 丸山祐一郎, 大沢亜紀, 吉田圭一, 金子和夫
NexGen LPS-Flex 人工膝関節全置換術後の中期成績—客観的＆患者立脚型評価での検討
日本人工関節学会誌 44:369-370, 2014

13. 金栄智, 馬場智規, 金子和夫
チタン製髄内釘の屈曲変形を生じた大腿骨骨幹部骨折後再骨折.
東日本整形災害外科, 2014;26:118-121

14. 久保田光昭 大野隆一 羽生亮 酒井健介 菅原悠 越智宏徳 向笠文博 金子和夫
モートン病に対する鏡視下手術の検討
日本最小侵襲整形外科学会誌,2014;14: 35-42

15. 久保田光昭 池田浩 高澤祐治 石島旨章 斎田良知 金子晴香 小林洋平 定月亮羽田晋之介 金子和夫
Double osteotomy around the knee
日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会雑誌, 2014; 39: 414-415

16. 久保田光昭 池田浩 高澤祐治 石島旨章 斎田良知 金子晴香 小林洋平 定月亮羽田晋之介 金子和夫
膝前十字靭帯損傷後変形性膝関節症に対する Open wedge HTO のコツとピットフォール
日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会雑誌,2014;39: 168-169

17. 栗原大聖、馬場智規、本間康弘、松本幹生, 湯浅崇仁, 小川晴規、金子和夫
Dual Mobility Cup と Direct anterior Approach による THA 脱臼予防
人工関節学会誌, 2014, 44 61-62

18. 古賀有希久, 馬場智規, 本間康弘, 小林英生, 湯浅崇仁, 金子和夫
前方進入法を用いて行った dual mobility 人工股関節全置換術の 1 例
整形外科, 2014, 65:42-45

19. 小林 英生, 馬場智規, 本間 康弘, 松本 幹生, 湯浅 崇仁, 金子 和夫
楔状テーパーステムを用いた前方アプローチと後方アプローチで X 線学的な差が臨床成績に影響を及ぼすか?
Hip Joint, 2014, 40:556-558

20. 小林英生、馬場智規、本間康弘、松本幹生, 湯浅崇仁、金子和夫

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

THA における後方アプローチから前方アプローチに切り替えた後のインプラント設置の検討
人工関節学会誌, 2014, 44 149-150

21. 小林望、藤原三郎、千野孔三、岩瀬弘明、金子和夫
大腿骨頸部骨折に対する骨接合例の術後成績
骨折 36 巻 2 号 P889-891 2014

22. 小松 淳, 牟田 智也, 名倉 奈々, 小畑 宏介, 杉山 陽一, 勝部 定信, 金子 和夫
腰部脊柱管狭窄症に対する内視鏡下片側進入両側除圧術と内視鏡下筋肉温存型腰椎椎弓間除圧術との比較・検討 L4/L5 単椎間による比較
整形外科 65, 1117-1121. 2014

23. 五味基央, 最上敦彦, 市原理司, 大林治, 岩瀬秀明, 金子和夫
脛骨遠位端骨折に対する BIOMET 社製 PHOENIX tibial nail の特性と有用性
骨折 36, 1025-1029, 2014

24. 田中将, 奥田貴俊, 馬場智規, 金子和夫
両側大腿骨骨幹部骨折術後に両側骨癒合が遷延した HIV 陽性患者の 1 例.
骨折, 2014, 36:762-764

25. 羽田晋之介 高澤祐治 斉田良知 石島旨章 池田浩 金子和夫
脛骨粗面剝離骨折に膝蓋腱断裂を合併し, 膝蓋骨高位を呈した 1 例
日本整形外科スポーツ医学会誌, 2014;.34(2):215

26. 馬場智規, 金子和夫, 本間康弘, 小林英生, 一青勝雄
人工股関節置換術後の臼蓋コンポーネント周囲骨折
骨折, 2014, 36: 882-885,

27. 馬場智規, 野沢雅彦, 前澤克彦, 一青勝雄, 金子和夫
強直性脊椎炎に対する人工股関節全置換術と再置換術.
別冊整形外科, 2014, 65: 234-237

28. 馬場智規、本間康弘、松本幹生、小林英生、湯浅崇仁、金子和夫
人工股関節全置換術に対する術中の臼蓋コンポーネント周辺骨折
人工関節学会誌, 2014, 44; 441-442

29. 本間康弘, 馬場智規, 小林英生, 松本幹夫, 末原義之, 湯浅崇仁, 金子和夫, フィリップ エルニグ
人工股関節全置換術後脱臼ハイリスク患者に対する人工関節機種の選択—デュアルモビリティカップの有用性
別冊整形外科, 2014, 65, 261-266

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

30. 松本 幹生, 馬場智規, 本間 康弘, 小林 英生, 湯浅 崇仁, 小川 晴規, 金子 和夫 , 前澤 克彦
人工股関節全置換術後に臼蓋コンポーネントが骨盤内に migration し外腸骨動脈仮性動脈瘤より大量出血を認めた 1 例
Hip Joint, 2014, 40:1046-1048

31. 松本幹生, 馬場智規, 本間康弘, 小林英生, 金子和夫
Forgotten Joint Score-12(FJS-12)の有用性の検討
整形外科, 2014, 65:957-960

32. 百村 励, 米澤 郁穂, 奥田 貴俊, 嶋村 之利, 峰松 和夫, 金子 和夫
思春期特発性側彎症に対する装具治療の成績 胸椎カーブと腰椎カーブの比較
整形外科, 2014, 65,917-921

33. 諸橋 達, 大林 治, 最上 敦彦, 神田 章男, 岩瀬 秀明, 金子 和夫 , 馬場智規
後側方侵入法による THA 術後に発症した尿失禁が側方侵入法による反対側 THA 術後に改善した一例
Hip Joint, 2014, 40:1077-1080

34. 諸橋達、最上敦彦、神田章男、内藤聖人、大林治、金子和夫 .
大腿骨近位部骨折患者の術前における肺血栓塞栓症・深部静脈血栓塞栓症のスクリーニング（造影 CT と D-dimer 値の比較）.
骨折, 2014; 36: 418-421

35. 湯浅崇仁 前澤克彦 有冨健太郎 野沢雅彦 金子和夫
80 歳以上の高齢者に対するセメントレス人工股関節全置換術の臨床成績
日本人工関節学会誌 44 493-494,2014.

【和文原著 2015 年】

1. 石井 清、田部陽子、佐野麻衣、岩崎陽介、清水長子、常名正弘、堀井 隆、佐藤尚武、三井田孝 、大坂顯通.
血液検査効率化に資する血液像目視再検基準の設定と評価. －自動血球分析装置 XE-5000 を用いた場合－.
日本臨床検査血液学会雑誌, 2015; 16(1): 20-27

2. 佐藤祐造, 曽根博仁, 小林正, 河盛隆造 , 渥美義仁, 押田芳治,田中史朗, 鈴木進, 牧田茂, 大澤功, 田村好史 , 渡邉智之
わが国における糖尿病運動療法の実施状況（第 1 報）－医師側への質問紙全国調査成績－
糖尿病, 2015; 58(8): 568-575

3. 佐藤祐造, 曽根博仁, 小林正, 河盛隆造 , 渥美義仁, 押田芳治, 田中史朗, 鈴木進, 牧田茂, 大澤功, 田村好史 , 渡邉智之
わが国における糖尿病運動療法の実施状況(第 2 報) —患者側への質問紙全国調査成績—

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

糖尿病, 2015; 58 (11): 850-859

4. 荒川聡美, 渡邉智之, 曽根博仁, 小林正, 河盛隆造 , 渥美義仁,押田芳治, 田中史朗, 鈴木進, 牧田茂, 大澤功, 田村好史 ,佐藤祐造
糖尿病診療における食事療法・運動療法の現状—糖尿病患者の全国調査集計成績—
糖尿病, 2015; 58 (4): 265-278

5. 寺本民生, 河盛隆造 , 宮崎滋, 手良向聡, 白山雅之, 奥田恭行
オルメサルタンメドキソミル服用高齢者高血圧患者における有効性・安全性の検討(OMEGA study 年齢サブ解析)
臨床医薬,2015; 31 (4): 401-410

6. 海野良一, 林靖久, 高木龍一郎, 高野和彦, 河盛隆造
耐糖能障害者における高アミロース米品種「雪の穂」米飯の長期摂取による血糖プロファイルの改善効果
日本病態栄養学会誌, 2015; 18 (3): 375-385

7. 筧 佐織、田村 好史
TBC1D4/AS160 の SNP は骨格筋インスリン抵抗性、2 型糖尿病を規定する
内分泌・糖尿病・代謝内科, 41(1):59-62, 2015

8. 濱崎望、堀正明、鈴木由里子、芳士戸治義、青木茂樹
臨床応用のための Q-Space Imaging MPG 印加軸数の設定
日本診療放射線技師会誌：Vol.62 No.6：537-541：2015

9. 横山 和正, 荻野 美恵子, 石垣 泰則, 服部 信孝
【神経難病の終末期医療】神経難病終末期緩和ケアと在宅医療
BRAIN and NERVE: 神経研究の進歩、2015, 67(8) :1015-1024

10. 鈴木悠太, 橋詰みどり, 石原美彦, 辻川比呂斗, 内藤久士 , 杉山康司.
アルペンスキー技能の違いが GPS 測位軌跡と心拍数応答に及ぼす影響.
スキー研究, 2015; 12(1): 25-33

11. 松本幹生, 馬場智規, 本間康弘, 小林英生, 金子和夫 , 中原大志, 山田光高.
大腿骨ステム周囲骨折における遠位固定型ロングステムの位置付け
骨折 2015; 37：767-770

12. 淺亮輔, 馬場智規, 本間康弘, 松本幹生, 小林英生, 金子和夫 .
不安定型大腿骨頚部骨折に対する仰臥位前方進入法により dual mobility cup を用いた人工股関節全置換術の短期成績
骨折 2015; 37：693-695

13. 坂本一晃, 斎田良知, 馬場智規, 最上敦彦, 本間康弘, 金子和夫

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

非定型大腿骨骨折術後の歩行機能は骨癒合期間や薬物治療に影響されるか？－術後 3 年以上経過例の検討—
骨折 2015; 37:496-499

14. 越智宏徳, 馬場智規, 本間康弘, 松本幹生, 小林英生, 金子和夫.
大腿骨頚部骨折に対して前方アプローチによる人工股関節全置換術と人工骨頭置換術の比較
Hip Joint2015; 41:294-297

15. 越智 宏徳, 馬場 智規, 本間 康弘, 松本 幹生, 小林 英生, 湯浅 崇仁, 金子 和夫
Bikini incision を用いた前方アプローチによる人工股関節全置換術の検討
日本人工関節学会誌 2015;45,91-92

16. 本間康弘, 馬場智規, 松本幹生, 小林英生, 湯浅崇仁, 金子和夫.
Dual mobility cup と direct anterior approach による THA 脱臼予防:術後6か月での臨床成績比較
Hip Joint 2015; 41:559-562

17. 佐野圭, 本間康弘, 松本幹生, 小林英生, 馬場智規, 湯浅崇仁, 金子和夫, 内田宗志.
股関節鏡後に急速に変形性股関節症が進行した人工股関節全置換術の1例
Hip Joint 2015; 41:886-889

18. 有田均, 本間康弘, 越智宏徳, 松本幹生, 小林英生, 馬場智規, 湯浅崇仁, 金子和夫
矢状面アライメント変化が変形性股関節症急速進行に関与したと思われる2例の検討
Hip Joint2015; 41:981-986

19. 石井聖也, 本間康弘, 越智宏徳, 松本幹生, 小林英生, 馬場智規, 湯浅崇仁, 金子和夫.
フリースタイルフットボール競技中に大腿骨小転子裂離骨折をきたした 1 例
Hip Joint 2015; 41:964-967

20. 馬場 智規, 一青 勝雄, 越智 宏徳, 本間 康弘, 松本 幹生, 小林 英生, 湯浅 崇仁, 金子 和夫
急速破壊型股関節症に対する人工股関節全置換術の臨床成績 KT plate と uncemented cup の比較
日本人工関節学会誌 2015; 45:785-786

21. 湯浅 崇仁, 前澤 克彦, 馬場 智規, 松本 幹生, 本間 康弘, 野沢 雅彦, 金子 和夫
大腿骨骨切り術後に行ったセメントレス人工股関節全置換術の治療成績
日本人工関節学会誌 2015; 45, 779-780

22. 吉川 慶,鳥越 知明,大久保 武人,髙木 辰哉,金子 和夫
血液腫瘍と鑑別を要した原発性副甲状腺機能亢進症に伴う臼蓋褐色細胞腫の 1 例
関東整形災害外科学会雑誌,2015;46:4:182-186

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

23. 吉川　慶,米澤　郁穂,嶋村　之利,高野　弘充,佐藤　達哉,奥田　貴俊,金子　和夫
二分脊髄を合併した成人脊柱変形の 1 例
関東整形災害外科学会雑誌,2015;46:4:161-164

24. 齋田　良知, 小林　洋平, 長尾　雅史, 高澤　祐治, 池田　浩, 金子　和夫
ゲルセパレーターを用いて精製した多血小板血漿中の細胞種および成長因子濃度の検討
日本整形外科スポーツ医学会雑誌(1340-8577)35 巻 1 号　Page32-37(2015.03)

25. 清村幸雄, 石島旨章 , 金子晴香, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子, 劉立足, アニュアルジャン・ユスプ, 二見一平, 土屋勝, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 黒澤尚, 金子和夫
変形性膝関節症の重症化に伴う疼痛影響因子の変化
別冊整形外科　変形性膝関節症の診断と治療, 67, 30-33, 2015

26. 前澤克彦、成嶋靖博、一青勝雄、野沢雅彦、金子和夫
人工股関節全置換術術後の満足度と股関節周囲筋力との関連性.
Hip Joint 41: 503-507, 2015

27. 前澤克彦、成嶋靖博、丸山祐一郎、一青勝雄、金子和夫
人工股関節全置換術術後の活動能力と股関節周囲筋力との関連性.
人工関節学会誌 45：395-396, 2015

28. 金澤博明, 丸山祐一郎, 大沢亜紀,糸魚川善昭, 金子和夫
PFC-Sigma 人工膝関節全置換術後の客観的,立脚的評価の検討— CR, Fixed-PS, Mobile-PS 型での比較 —
日本人工関節学会誌 2015, Vol.45：805-806

29. 金澤博明, 丸山祐一郎, 大沢亜紀, 吉田圭一, 金子和夫
慢性膝蓋大腿関節症（PF-OA）に対する Crosse-de-Hockey 法の治療経験
日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会雑誌 2015,Vol.40：422-423

30. 湯浅崇仁　有冨健太郎　金子和夫　前澤克彦　野沢雅彦
寛骨臼回転骨切り術後に行った人工股関節全置換術の治療成績
Hip Joint 41；469-471,2015.

31. 湯浅崇仁　前澤克彦　馬場智規　松本幹生　本間康弘　野沢雅彦　金子和夫
大腿骨骨切り術後に行った人工股関節全置換術の治療成績
日本人工関節学会誌 45 779-780,2015

32. 越智 宏徳, 馬場 智規, 本間 康弘, 松本 幹生, 小林 英生, 金子 和夫
大腿骨頸部骨折に対して前方アプローチによる人工股関節全置換術と人工骨頭置換術の比較
Hip Joint,41:294-297,2015

33. 有田均、本間康弘、越智宏徳、松本幹生、小林英生、馬場智規、湯浅崇仁、金子和夫

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

矢状面アライメント変化が変形性股関節症の急速進行に関与したと思われる 2 例の検討
Hip Joint,2015 ;41 巻 :981-986

34. 定月亮, 石島旨章 , 久保田光昭, 金子晴香, 羽田晋之介, 木下真由子, 劉立足, アニュアルジャン・ユスプ, 二見一平, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 黒澤尚, 金子和夫
変形性膝関節症の疼痛と進行における MRI の骨髄異常陰影の関連
別冊整形外科 変形性膝関節症の診断と治療, 67, 18-22, 2015

35. 羽田晋之介, 石島旨章, 金子晴香, 劉立足, 定月亮, 木下真由子, アニュアルジャン・ユスプ,二見一平, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
初期変形性膝関節症の病変進行の部位別差異
別冊整形外科 変形性膝関節症の診断と治療, 67, 8-12, 2015

36. 金子 晴香, 石島 旨章 , 二見 一平, 劉 立足, 定月 亮, Yusup Anwarjan, 羽田 晋之介, 金子和夫
変形性膝関節症のバイオマーカー 血清ヒアルロン酸の臨床応用に向けたエビデンス
別冊整形外科 変形性膝関節症の診断と治療, 67,57-60, 2015

37. 本間 由希子, 平澤 祐輔, 石井 智子, 池田 志孝, 赤池 慶裕, 末原 義之, 高木 辰哉, 金子和夫 , 荒川 敦, 斉藤 剛
粘液型脂肪肉腫の 1 例
Skin Cancer 29 巻 3 号 Page285-288(2015.02)

【和文原著 2017 年】

1. 原章, 市原理司, 工藤俊哉, 鈴木崇根, 楠瀬浩一, 金子和夫
手根管症候群における手根管開放と同時に行う小指球脂肪弁の安全性
日手会誌, 2017.01; 33(4):1-3

2. 高澤祐治, 永山正隆, 金子和夫
【整形外科外来における他科疾患を見逃さないコツ】スポーツ整形外来を訪れる他科疾患
Orthopaedics, 2017.03 ;30(3): 31-37

3. 田村好史 , 加藤晴香, 廣居伸蔵, 黄章徳, 木佐貫幸一, 土屋志織, 寺島玄, 嶋﨑幸生
日本人の 2 型糖尿病患者におけるメトホルミンと DPP-4 阻害薬の処方実態-医約情報データベースを用いた検討-
THERAPEUTIC RESEARCH, 2017.12;429:1231-1237

4. Andica C, Saito A, Murata S, Hattori A, Ikenouchi Y, Hori M, Aoki S.
Diffusion Magnetic Resonance Imaging: From Isotropic Diffusion-Weighted Imaging to Diffusion Tensor Imaging and Beyond.
Juntendo Medical Journal ,2017.08;63(4):285-292

5. 青木浩平, 工藤俊哉, 丸山祐一郎, 原章, 金子和夫 , 馬場智規

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

当院における下腿開放骨折 Gustilo type IIIb の治療成績
骨折,2017.06;39:726-729

6. 乾哲也, 大沢亜紀, 糸魚川善昭, 金澤博明, 丸山祐一郎, 金子和夫
Navigation 人工膝関節置換術における術中と術後の alignment の比較について
日本人工関節学会誌 47, 2017.12:329-330

7. 大沢亜紀, 乾哲也, 武田純, 吉田圭一, 糸魚川善昭, 金澤博明, 丸山祐一郎, 金子和夫
人工膝関節置換術後加速度トレーニングと従来法による理学療法の比較
日本人工関節学会誌 47, 2017.12:29-30

8. 大沢亜紀, 吉田圭一, 丸山祐一郎, 金子和夫
体育系大学のアスリートの競技別 Female Athlete Triad 疲労骨折の実態について
JOSKAS ,2017.04; 42(2):410-411

9. 金澤博明, 丸山祐一郎, 大沢亜紀, 糸魚川善昭, 金子和夫
人工膝関節全置換術(TKA)における 3 術式（Navigation TKA, conventional TKA<髄内または髄外 rod>）間での D-dimer, SF 値の検討
日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会誌 42, 2017.04:260-261

10. 金澤博明, 丸山祐一郎, 大沢亜紀, 糸魚川善昭, 金子和夫
Attune 人工膝関節の短期臨床成績 —従来機種（PFC-Sigma）との比較
日本人工関節学会誌 47, 2017.12:409-410

11. 佐藤達哉, 米澤郁穂, 東藤貢, 高野弘充, 金子和夫
Posterior Lumbar Interbody Fusion (PLIF) におけるインプラント材質の生体力学的影響—骨密度を考慮した有限要素解析による PEEK ケージとチタンケージの比較—
臨床バイオメカニクス, 2017.10;38:13-21

12. 佐藤達哉, 米澤郁穂, 遠田慎吾, 吉川慶, 高野弘充, 嶋村之利, 奥田貴俊, 金子和夫
20 歳以下の初回側弯症手術合併症報告−合併症発生症例から学ぶ−
Journal of Spine Research, 2017.05; 8(5): 1012-1017

13. 佐藤伸博, 前澤克彦, 湯浅崇仁, 酒井健介, 金子和夫
人工股関節全置換術術後 3 年以上経過例での JHEQ の変化
Hip Joint ,2017.08; 43:187-190

14. 馬場智規, 越智宏徳, 本間康弘, 渡泰士, 松本幹生, 金子和夫
大腿骨ステム周囲骨折の治療に有効な分類法
整形・災害外科 60, 2017.05; 739-744

15. 眞鍋亘, 雅樂十一, 平田一博, 谷口有, 武内紗矢佳, 金子和夫
当院における脆弱性骨盤骨折の診断評価と治療の検討

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

骨折、2017.10; 39 巻 4 号:846-850

16. 前澤克彦，湯浅崇仁，酒井健介，佐藤伸博，野沢雅彦，金子和夫
股関節周囲筋力の変化と JHEQ スコアとの関連性
Hip Joint, 2017.08; 43: 182-186

17. 前澤克彦，湯浅崇仁，酒井健介，佐藤伸博，野沢雅彦，金子和夫
術前自己血貯血期間中のレボカルニチン塩化物投与は有効か
Hip Joint 2017.08; 43: 392-396

18. 前澤克彦，湯浅崇仁，佐藤博伸，丸山祐一郎，野沢雅彦，金子和夫
ロコモ 25 と筋力により評価した人工股関節全置換術の早期臨床成績
日本人工関節学会誌 2017.12; 47: 715-716

19. 山本康弘，梶原一，二見一平，原章，市原理司，金子和夫
PIP 関節脱臼骨折に対する DDA2の治療成績
骨折,2017. 06; 39(2): 207-211

20. 湯浅崇仁，前澤克彦，佐藤博伸，丸山祐一郎，金子和夫
Lima modulus stem を使用した初回人工股関節全置換術の治療成績
日本人工関節学会誌,2017.12; 47: 669-670

21. 吉田圭一，青木浩平，西嶋智子，工藤俊哉，丸山祐一郎，金子和夫
人工膝関節周囲大腿骨遠位部骨折における治療成績の検討
骨折，2017.06; 39(2): 393-395

【和文原著 2018 年】

1. 田村好史，加藤晴香，黄章徳，木佐貫幸一，土屋志織，寺島玄，嶋﨑幸生
日本の 2 型糖尿病患者におけるメトホルミンと DPP-4 阻害薬の処方実態-医療情報データベースを用いた年次推移の検討-
THERAPEUTIC RESEARCH LIFE SCIENCE PUBLISHING, 2018.01.20; 39(1): 67-75,

2. 大村寛敏,代田浩之
特集 動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2017：8.薬物療法の適応・各種薬剤の特徴と選択基準
The Lipid. 2018.01; 29(1): 69-75

3. 神谷昂平，入江隆介，堀正明，青木茂樹，阿部修
拡散 MRI の白質モデル解析：NODDI って何？から今後の展望まで
日本磁気共鳴医学会雑誌, 2018.05.15; 38(2): 30-9

【和文原著 2019 年】

1. 佐藤淳子,綿田裕孝
炭水化物摂取と死亡率の関係，前向きコホート研究とメタアナリシス

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

DIABETES UPDATE, 2019.02; 8(1):22-24

2. 野尻英俊, 石島旨章, 長尾雅史, 奥田貴俊, 金子和夫
骨粗鬆症がもたらす脊椎関連の痛み
ペインクリニック, 2019.02; 40: 239-244

【英文総説 2014 年】

1. Tanida I, Ueno T, Kominami E
In vitro assays of lipidation of Mammalian atg8 homologs.
Curr Protoc Cell Biol. 64:11.20.1-11.20.13, 2014

2. Takashi Miida
Update on diagnostic medical imaging
Juntendo Med J Vol. 60 No. 2: 88, 2014

3. Ishijima M, Kaneko H, Kaneko K
The evolving role of biomarkers for osteoarthritis
Ther Adv Musculoskel Dis, 6, 144-53, 2014

4. Ishijima M, Kaneko H, Kubota M, Liu L, Sadatsuki R, Hada S, Kinoshita M, Yusup A, Futami I, Sakamoto Y, Shimura Y, Naito K, Watari T, Saita Y, Takazawa Y, Kim SG, Ikeda H, Nagaoka I, Arikawa-Hirasawa E, Kurosawa H, Kaneko K,
Osteoarthritis of the knee as one of the major musculoskeletal diseases responsible for locomotive syndrome
The role of synovitis in pain
Juntendo Medical Journal, 60, 300-11, 2014

【英文総説 2015 年】

1. H. Watada, Y. Fujitani.
Minireview: Autophagy in pancreatic β-cells and its implication in diabetes.
Mol Endocrinol. 2015; 29(3): 338-348

2. Kubo S, Hatano T, Hattori N.
Lipid rafts involvement in the pathogenesis of Parkinson's disease.
Front Biosci (Landmark Ed). 2015 Jan 1;20:263-79. Review.

3. Shimada K, Miyauchi K, Daida H.
Azelnidipine and glucose tolerance: possible indications and treatment selection for hypertensive patients with metabolic disorders.
Expert Rev Cardiovasc Ther. 13:23-31;2015

4. Shimada K.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Sudden cardiovascular events and comprehensive cardiac rehabilitation: come back from a bolt out of the blue.
J Cardiol Cases. 11:164-165;2015

5. Ozaki H, Abe T, Mikesky AE, Sakamoto A, Machida S, Naito H.
Physiological stimuli necessary for muscle hypertrophy. The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine.
J Phys Fit Sports Med., 2015; 4(1): 43-51

6. Tomita Y, Kasai T, Kisaka T, Rossiter HB, Kihara Y, Wasserman K, Daida H.
Altered breathing syndrome in heart failure: newer insights and treatment options.
Curr Heart Fail Rep. 2015; 12: 158-165.

7. Naito K, Liverneaux P, Kaneko K.
Telemicrosurgery in brachial plexus: the feasibility of robot-assisted microsurgery.
Juntendo Medical Journal. 61: 15-20, 2015.

8. Saita Y, Ishijima M, Kaneko K
Atypical femoral fractures and bisphosphonate use: Current evidence and clinical implications
Therapeutic Advances in Chronic Disease, 6, 185-193, 2015

9. Itoigawa Y, Kaneko K, An KN.
Biomechanical study using the fresh frozen cadaveric shoulders at Mayo clinic.
Juntendo Med journal. 2015 Oct;61(5):479-83.

【英文総説 2016 年】

1. Okazaki S, Daida H.
Current Catheter Intervention for Various Cardiovascular Disease
Juntendo Medical Journal 2016 62(3) ,197-208

2. Hassan A, Dohi T, Daida H.
Current Use of Intravascular Ultrasound in Coronary Artery Disease
Clinical Medicine Insights: Therapeutics 2016:8 45–51

3. Koh KK, Sakuma I, Shimada K, Hayashi T, Quon MJ.
Combining potent statin therapy with other drugs to optimize simultaneous cardiovascular and metabolic benefits while minimizing adverse events.
Korean Circ J. 2016 in press

4. Nishizaki Y, Shimada K, Daida H.
The Balance of Omega-3 Polyunsaturated Fatty Acids for Reducing Residual Risks in Patients with Coronary Artery Disease.
Acta Cardiologica. 2016 in press

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

5. Shimada K, Daida H.
Are there any “ultimate” practices for preventing atherosclerotic diseases?
Juntendo Medical Journal. 62:217-223;2016

6. Daida H, Nishitani-Yokoyama M, Shimada K.
Current Status and Future Directions for Cardiac Rehabilitation in Japan.
Juntendo Medical Journal. 62 (Supple 1):29-37;201

7. Fujimoto S, Daida H
Development in coronary CT angiography
Juntendo Medical Journal. 2016;62:190-196

8. Gerald F Watts, Phillip YA Ding, Peter George, Martin S Hagger, Miao Hu, Jie Lin, Khoo Kah Lin, A David Marais, Takashi Miida, Hapizah M Nawawi, Jing Pang, Jeong Euy Park, Lourdes E Gonzalez-Santos, Ta-Chen Su, Thanh Huong Truong, Raul D Santos, Handrean Soran, Shizuya Yamashita, Brian Tomlinson
Translational research for improving the care of familial hypercholesterolaemia: The “Ten Countries Study” and beyond.
J Atheroscler Thromb. 2016 Aug 1;23(8):891-900.

9. Kaneko.k
Nobuo Murakami, executive chef of the lmperial Hotel and Ambroise pare, surgeon in ordinary to the kings of France
J Orthop Sci, 2016; 21: 255-257

10. Ishijima M, Kaneko H, Hada S, Kinoshita M, Ishibashi M, Sadatsuki R, Liu L, Arita H, Shiozawa J, Yusup A, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Arikawa-Hirasawa E, Okada Y, Kaneko K
Sportology to prevent locomoticve syndrome
Juntendo Med J, 62, Supple 1, 44-49, 2016

11. Watada H.
Etiology of Resistance in Asian Non-Obese Subjects -Juntendo Sportology Center Core Study-.
Juntendo Medical Journal, 2016; 62(1): 38-41, 2016.3

12. Hattori N.
Movement disorders: advances in 2015
Lancet Neurol. 2016;15(1):8-9.

13. Ozaki H, Abe T, Machida S, Naito H.
Progressive training model for muscle hypertrophy and strength gain.
Adv Exer and Sports Physiol. 2016 (in press)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

14. Sakamoto A, Sinclair PJ, Naito H.
Strategies for maximizing power and strength gains in isoinertial resistance training: Implications for competitive athletes.
J Phys Fitness Sports Med. 2016; 5(2): 153-166.

15. Yoshihara T, Machida S, Naito H.
Disuse-induced nuclear accumulation of histone deacetylase 4 in rat skeletal muscle.
Musculoskeletal Regeneration. 2016; 2: e1368.

16. Yoshihara T, Machida S, Naito H.
Disuse-induced nuclear accumulation of histone deacetylase 4 in rat skeletal muscle.
Musculoskeletal Regeneration. 2016; 2: e1368.

17. Yoshihara T, Sugiura T, Naito H.
Heat stress-induced protection against skeletal muscle atrophy via suppression of the apoptotic and proteolytic systems.
Musculoskeletal Regeneration. 2016; 2: e1255.

18. Yoshihara T, Sugiura T, Naito H.
Astaxanthin supplementation attenuates disuse muscle atrophy and myonuclear apoptosis in rat skeletal muscle.
Musculoskeletal Regeneration. 2016; 2: e1431.

【英文総説 2017 年】

1. Yoshihara T, Kakigi R, Naito H.
Heat stress induces FoxO3a phosphorylation in rat skeletal muscle.
Musculoskelet Regen, 2017.03; 3: e1514

2. Ueno T, Komatsu M.
Autophagy in the liver: functions in health and disease.
Nat Rev Gastroenterol Hepatol. 2017 Mar; 14:170-184

3. Naito R, Miyauchi K, Daida H.
Racial Differences in the Cholesterol-Lowering Effect of Statin.
J Atheroscler Thromb. 2017 Jan 1;24(1):19-25

4. Watada H, Tamura Y.
Impaired insulin clearance as a cause rather than a consequence of insulin resistance.
J Diabetes Investig, 2017 Nov; 8(6): 723-725

5. Sato J, Kanazawa A, Watada H.
Type 2 Diabetes and Bacteremia.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Ann Nutr Metab, 2017; 71 Suppl 1: 17-22

6. Tanida I, Ueno T, Uchiyama Y.
   Use of pHlurorin-mKate2-human LC3 to Monitor Autophagic Responses.
   Methods Enzymol, 2017; 587: 87-96

7. Nishizaki Y, Shimada K, Daida H.
   The Balance of Omega-3 Polyunsaturated Fatty Acids for Reducing Residual Risks in Patients with Coronary Artery Disease.
   Acta Cardiologica, 2017 Jun; 72:240-248

8. Koh KK, Sakuma I, Shimada K, Hayashi T, Quon MJ.
   Combining potent statin therapy with other drugs to optimize simultaneous cardiovascular and metabolic benefits while minimizing adverse events.
   Korean Circ J, 2017 Jul; 47:432-439

9. Cossu D, Yokoyama K, Hattori N.
   Conflicting Role of Mycobacterium Species in Multiple Sclerosis
   Front Neurol, 2017 May 19; 8:216

10. Hattori N, Mizuno Y.
    Twenty years since the discovery of the parkin gene. Review.
    J Neural Transm (Vienna), 2017 Sep; 124(9):1037-1054

11. Ozaki H, Abe T, Machida S, Naito H.
    Progressive training model for muscle hypertrophy and strength gain.
    Adv Exerc Sports Physiol, 2017 Jun; 23(1): 1-7

【英文総説 2018 年】

1. Ogawa T, Shojima Y, Kuroki T, Eguchi H, Hattori N, Miwa H.
   Cervico-shoulder dystonia following lateral medullary infarction: a case report and review of the literature.
   J Med Case Rep. 2018 Feb 10;12(1):34. Review.

2. Cho KI, Sakuma I, Sohn, IS, Hayashi T, Shimada K, Koh KK.
   Best treatment strategies with statins to maximize the cardiometabolic benefits.
   Circ J. 82:937-943;2018

3. Inoshita T, Cui C, Hattori N, Imai Y.
   Regulation of membrane dynamics by Parkinson's disease-associated genes.
   J Genet. 2018 Jul;97(3):715-725. Review.

【英文総説 2019 年】

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

1. Tamura, Y.
   Ectopic fat, insulin resistance and metabolic disease in non-obese Asians: investigating metabolic gradation.
   Endocr J. 2019 Jan 28;66(1):1-9.

2. Ueno T, Komatsu M.
   Measuring Nonselective and Selective Autophagy in the Liver.
   Methods Mol Biol, 2019 Jan; 1880: 535-540

3. Watada H.
   Unappreciated role of low-density lipoprotein receptor-related protein 1 in pancreatic β cells: Multiple roles of low-density lipoprotein receptor-related protein 1 in glucose and lipid metabolism.
   J Diabetes Investig, 2019 Mar;10(2):216-218

4. Wada H, Miyauchi K, Daida H.
   Gender differences in the clinical features and outcomes of patients with coronary artery disease.
   Expert Rev Cardiovasc Ther, 2019 Feb;17(2):127-133

【和文総説 2014 年】

1. 後藤広昌,綿田裕孝
   末梢動脈疾患のコントロールと RAS 阻害の意義
   Angiotensin Research, 11: 40-43, 2014

2. 藤谷与士夫,綿田裕孝
   膵 β 細胞の視点から～インクレチンの可能性～
   Bio Clin, 29: 18-22, 2014

3. 宮塚健,綿田裕孝
   Betatrophin
   Diabetes Journal: 糖尿病と代謝, 42: 35-36, 2014

4. 綿田裕孝
   Lecture note 低血糖の適切な対処
   DxM: Diet Exercise Medicine, 3: 2-5, 2014

5. 三田智也,綿田裕孝
   食後高血糖や血糖変動はどのように心血管疾患に影響するか？
   Heart View, 18: 40-46, 2014

6. 河盛隆造
   “糖のながれ”からみる食後高血糖の病態
   Life Style Medicine, 8: 2-7, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

7. 綿田裕孝
食後高血糖と血管合併症の関連を大規模スタディから読み解く
Life Style Medicine, 8: 8-13, 2014

8. 田村好史
糖尿病の運動療法
Medicina, 51: 1393-1399, 2014

9. 綿田裕孝
上市予定の薬剤の臨床治験データ 5)カナグリフロジン
Prog Med, 34: 723-726, 2014

10. 遅野井雄介,綿田裕孝
糖尿病患者における心血管病の 1 次予防における科学的提言：米国心臓協会（AHA)/米国糖尿病学会（ADA）
血栓と循環, 22: 194-197, 2014

11. 河盛隆造
肝臓を標的臓器とした糖尿病治療
月刊糖尿病, 6: 18-24, 2014

12. 三田智也,綿田裕孝
DPP-4 阻害薬の抗動脈硬化作用—現状と展望—
最新医学, 69: 1724-1730, 2014

13. 遅野井雄介,綿田裕孝
インスリン治療
最新医学, 69: 105-116, 2014

14. 三田智也,綿田裕孝
インクレチン関連薬の多彩な抗糖尿病作用
細胞, 46: 5-9, 2014

15. 谷本眞澄,綿田裕孝
【糖尿病治療薬 Q&A—最新の SGLT-2 阻害薬を含め賢く使い分ける—】グリニド薬はどのような患者に適していますか?
治療, 96: 950-952, 2014

16. 綿田裕孝
膵 β 細胞の生物学
成人病と生活習慣病, 44: 549-555, 2014

17. 田村好史

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

運動療法を成功させる知識とコツ
東京都医師会雑誌, 67: 54-59, 2014

18. 小宮幸次,綿田裕孝
欧米のアルゴリズムにおけるビグアナイドの位置づけ
糖尿病の最新治療, 5: 66-71, 2014

19. 遅野井雄介, 三田智也,綿田裕孝
【各薬剤の現状と前向き大規模臨床試験】シタグリプチン—TECOS
糖尿病の最新治療, 6: 16-20, 2014

20. 綿田裕孝
エンパグリフロジン
糖尿病の最新治療, 5: 156-157, 2014

21. 加賀英義,綿田裕孝
新しい糖尿病経口薬（インスリンを含む）を肥満解消面から科学する
糖尿病診療マスター, 12: 65-71, 2014

22. 綿田裕孝
糖尿病合併高血圧
内科, 114: 425-431, 2014

23. 田蒔基行, 綿田裕孝 ,藤谷与士夫
SLC30A8/ZnT8 の新たな役割
内分泌・糖尿病・代謝内科, 38: 436-444, 2014

24. 藤谷与士夫,綿田裕孝
【2 型糖尿病における膵 β 細胞機能不全のメカニズム】膵 β 細胞機能不全とオートファジー
内分泌・糖尿病・代謝内科, 38: 320-326, 2014

25. 藤谷与士夫,綿田裕孝
Zn2+はインスリン分泌に関与するか？—Lessons from SLC30A8/ZnT8 KO mice
内分泌・糖尿病・代謝内科, 39: 114-121, 2014

26. 福中彩子, 宮塚健,綿田裕孝
【グルカゴンの分泌調節と作用】膵 α 細胞の発生・分化と可塑性
内分泌・糖尿病・代謝内科, 38: 389-392, 2014

27. 綿田裕孝
血糖降下薬新薬評価のための臨床研究の進めかた
内分泌・糖尿病・代謝内科, 39: 225-230, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

28. 綿田裕孝
膵 β 細胞の脱分化
内分泌・糖尿病・代謝内科, 39: 181-184, 2014

29. 田村好史，竹野景海,筧佐織
糖尿病の治療における脂肪筋と運動の効果～フットケアを含めて～
日本フットケア学会雑誌, 12: 57-60, 2014

30. 田村好史，竹野景海,筧佐織
運動療法の進歩
日本医師会雑誌, 143: 1679-1682, 2014

31. 三田智也,綿田裕孝
V.危険因子　糖尿病　関連分子　GLP-1
日本臨牀　増刊号 5—最新臨床脳卒中学（上）—, 72: 231-235, 2014

32. 小宮幸次,綿田裕孝
2 型糖尿病における膵 β 細胞死とオートファジー
別冊・医学のあゆみ　細胞死 Update—基礎から臨床までを俯瞰して: 93-96, 2014

33. 加賀英義,田村好史
重症感染症
別冊プラクティス　糖尿病コンサルテーションブック: 101-107, 2014

34. 田村好史
肥満症の治療の実際—運動療法
臨牀と研究, 91: 31-36, 2014

35. 上野　隆
哺乳類マクロオートファジーの基礎と病態.
化学と生物　52: 321-327, 2014

36. .島田和典 .
急性冠症候群のリスク因子と EPA/AA 比.
循環 PLUS　平成 26 年　Vol 14, No12 7-9.

37. 島田和典 .
Bedside Teaching　エイコサペンタエン酸/アラキドン酸(EPA/AA)比.
呼吸と循環. 62:583-591;2014.

38. 三井田孝
脂質検査の読み方．パターンで把握する脂質異常症治療－押さえておきたい処方のバリエーション（Jmedmook 31)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

寺本民生編，日本医事新報社，東京, 1-6, 2014

39. 三井田孝
non HDL-C
Current Therapy Vol. 32 No. 9: 225-231, 2014

40. 三井田孝
バイオマーカーとしての脂質・リポ蛋白関連検査
Lab Clin Pract Vol. 32 No. 2: 43-47, 2014

41. 三井田孝
採血管を二度遠心してはいけないのはなぜですか？
Medical Technology Vol. 42 No. 12: 1256-1257, 2014

42. 吉田　博、三井田孝
動脈硬化性疾患の予防および診療における脂質検査の現状と将来
病理 Vol. 62 No. 9: 876-877, 2014

43. 平山哲, 三井田孝
【動脈硬化の未解決の課題を探る～脂質異常症を中心として】動脈硬化の新たなバイオマーカーを探る
Vascular Medicine 10 巻 1 号, 10-15, 2014

44. 三井田孝, 平山哲
HDL 機能と病態・創薬】HDL 機能　亜分画からみた HDL 機能
The Lipid 25 巻 3 号, 225-231, 2014

45. 金井　数明, 服部　信孝.
病気について知りたい!臨床講座　パーキンソン病,
PharmaTribune 6:23-33, 2014

46. 服部　信孝.
パーキンソン病の動物モデルは有用か?
MDSJ Letters 7:1-3, 2014

47. 西岡　健弥, 服部　信孝.
【パーキンソン病の病態と治療】遺伝性パーキンソン病の臨床症状の特徴
Medical Science Digest 40:8-11, 2014

48. 服部　信孝.
【パーキンソン病の病態と治療】総論　パーキンソン病研究の現状と未来
Medical Science Digest 40:2-3, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

49. 西岡 健弥, 服部 信孝 .
中枢性疼痛 パーキンソン病と慢性疼痛
Practice of Pain Management 5:82-86, 2014

50. 波田野 琢, 服部 信孝 .
【進化するパーキンソン病診療】進化するパーキンソン病病因解明研究
Progress in Medicine 34:223-229, 2014

51. Eldad Melamed(語り手)、服部信孝（聞き手）.
[対談]パーキンソン病治療薬の神経保護効果をめぐって ～Trial design と PROUD Study が示した知見を中心に～
Froniers in Parkinson Disease 7(3):129-135, 2014

52. 服部 信孝 .
【パーキンソン病-非運動症状に対する漢方治療-】パーキンソン病の精神症状に対する新しい選択肢
漢方医学 38:93-96, 2014

53. 波田野琢、服部信孝.
Continuous dopaminergic stimulation (CDS)実現による運動症状への対応、シンポジウム I:進化する Parkinson 病の治療:症状とその対応－、新たなステージへ－1
神経治療学 31:162-165, 2014

54. 服部 信孝.
パーキンソン病の病態とその治療
日本内科学会雑誌 103:637-644, 2014

55. 斉木 臣二, 服部 信孝 .
【炎症と神経変性】Parkinson 病と炎症
医学のあゆみ 248:897-900, 2014

56. 久保 紳一郎, 波田野 琢, 服部 信孝 .
【内科疾患 最新の治療 明日への指針】(第 7 章)神経・筋 早期 Parkinson 病,
内科 113:1391-1394, 2014

57. 金子晴香, 石島旨章 , 金子和夫
軟骨合成マーカー CP-II
Keynote R・A, 2, 89-93, 2014

58. 石島旨章 , 池田浩, 金子和夫
歩行補助具
変形性膝関節症の運動療法ガイド-保存的治療から術後リハまで, 152-54, 2014, 日本医事新報社, 東京

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

59. 石島旨章
順天堂大学医学部同窓会学術奨励賞を受賞して
茶崖, 155 号, 28-39, 平成 26 年 7 月号

60. 石島旨章 , 金子和夫
変形性膝関節症に対するヒアルロン酸関節内注入の有効性と安全性
リウマチ科, 52, 515-522, 2014

61. 亀田壮, 熊井司, 田中康仁, 金子和夫
腱の overuse 障害 −アキレス腱症−
臨床スポーツ医学, 2014; 31: 608-613

62. 高澤祐治、永山正隆、金子和夫
競技特性から見た前十字靭帯損傷-競技復帰に向けたアプローチ-ラグビー選手の ACL 再建術後リハビリテーションと競技復帰.
臨床スポーツ医学 31: 1078-1081, 2014

63. 高澤祐治、池田浩、金子和夫
インピンジメント症候群～病態と治療～,膝関節インピンジメント
Orthopaedics 27:25-31, 2014

64. 羽田晋之介、高澤祐治、斎田良知、石島旨章 、池田浩、金子和夫
脛骨粗面剥離骨折に膝蓋腱断裂を合併し、膝蓋骨高位を呈した 1 例
日本整形外科スポーツ医学会誌 34, 215-219, 2014

65. 馬場智規, 金子和夫
大腿骨ステム周辺骨折の治療戦略 —locking plate の適応と治療を中心に—
MB Orthopaedics2014, 27: 17-25

【和文総説 2015 年】

1. 平山哲 , 三井田孝
【これだけは知っておきたい検査のポイント 第9集】血液性化学検査など 脂質・リポ蛋白 総コレステロール, LDL コレステロール, HDL コレステロール
Medicina 増刊巻 4 月号, 262-264, 2015

2. 三井田孝 、上野 剛.
「アミラーゼ」と「ストレス」の深い関係.
Medical Technology, 2015; 43(2): 186 -192

3. 中川央充、三井田孝 .
トリグリセライド もと暗し.
Medical Technology, 2015; 43(4): 390 -397

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

4. 上野　剛、三井田孝 .
トランスアミナーゼとビタミンパワー.
Medical Technology, 2015; 43（6): 627 -635

5. 三井田孝 、上野　剛.
悪玉が悪玉にだまされる：LDL-C.
Medical Technology, 2015; 43（8): 878 -885

6. 中川央充、三井田孝 .
ビリルビンは縁の下の力持ち！
Medical Technology, 2015; 43（10): 1101-1109

7. 上野　剛、平山安希子、三井田孝 .
ケトン体の 2 つの顔.
Medical Technology, 2015; 43（12): 1323 -1331

8. 平山　哲 、三井田孝 .
総コレステロール、LDL コレステロール、HDL コレステロール.
Medicina, 2015; 52(4); 262-264

9. 三井田孝 .
TG（トリグリセライド）
Medicina, 2015; 52(4); 265-267

10. 三井田孝 .
脂質異常症治療薬.
医薬ジャーナル増刊号（新薬展望 2015）, 2015； 51(S-1): 256-261

11. 三井田孝 .
HDL-C 増加薬の現状.
血管医学, 2015; 16(1): 29-35

12. 三井田孝 、平山安希子.
今日の新しい臨床検査—選び方・使い方—「脂質異常症」.
日本医事新報, 2015; 4772: 38-43

13. 加賀英義, 田村好史 , 綿田裕孝
ヒトのインスリン抵抗性を規定している因子
Diabetes Frontier, 2015; 26(3); 302-306

14. 田蒔基行, 藤谷与士夫, 原朱美, 福中彩子, 荻原健, 宮塚健,黒田暁生, 松本俊夫, 河盛隆造 ,
松久宗英, 綿田裕孝

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

糖尿病発症・進展にかかわる新規メカニズムの解明
日本内分泌学会雑誌, 2015; 91(1): 188

15. 船山崇, 田村好史, 竹野景海, 川口美奈子, 渡邉隆宏, 加賀英義, 古川康彦, 鈴木瑠璃子, 山本理紗子, 筧佐織, 藤谷与士夫, 河盛隆造, 綿田裕孝
同一消費熱量運動実施下における運動強度差がインスリン抵抗性と異所性脂肪に及ぼす影響について
糖尿病, 2015; 58(Suppl.1): S-390

16. 古川康彦, 田村好史, 竹野景海, 鈴木瑠璃子, 加賀英義, 船山崇, 渡邉隆宏, 山本理紗子, 藤谷与士夫, 河盛隆造, 綿田裕孝
糖尿病と肝臓の Interaction 非肥満 2 型糖尿病患者における肝内脂肪蓄積及び肝逸脱酵素と臓器特異的インスリン感受性の関連性
糖尿病, 2015; 58(Suppl.1): S-123

17. 河盛隆造
【特集にあたって】糖尿病治療の経口薬 up to date
月刊糖尿病, 2015; 7(2): 5

18. 河盛隆造
特集：スポートロジーの目指すこと。「“スポートロジー”とは」
保健の科学, 2015; 57(1): 4-9

19. 松葉怜, 今村美菜子, 岩田実, 広瀬寛, 綿田裕孝, 前川聡, 戸辺一之, 柏木厚典, 加来浩平, 河盛隆造, 田中逸, 前田士郎
多人種ゲノムワイド関連解析の大規模メタ解析により同定された新規 2 型糖尿病感受性領域 6 領域の日本人集団での検証
糖尿病, 2015; 58(Suppl.1): S-366

20. 高久史麿, 河盛隆造, 門脇孝
わが国の糖尿病医療の現状と今後の展望
Bios, 2015; 2015 年 1 月 20 日号: 2-13

21. 河盛隆造
特集：スポートロジー
Medical View Point, 2015; 2015 年 2 月 10 日号

22. 河盛隆造
【糖尿病治療薬 update-適正な血糖管理を目指して-】2 型糖尿病の自然史は?
日本臨床, 2015; 73 (3): 363-72

23. 河盛隆造
日本人の体質に合った 2 型糖尿病、高血圧、高脂血症治療のあり方に関する、基礎的、臨床的

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

研究
日本体質医学会雑誌, 2015; 77(1): 28

24. 河盛隆造
【2 型糖尿病における multimorbidity】2 型糖尿病×高血圧×大血管障害
薬局, 2015; 66(7): 2157-62

25. 河盛隆造
【超高齢社会における糖尿病診療】高齢者糖尿病治療への"スポートロジー"導入
Diabetes Frontier, 2015; 26(5): 569-72

26. 河盛隆造
【薬物療法の動向 2015】2 型糖尿病
Medicament News, 2015; 2182: 9-10

27. 後藤広昌, 綿田裕孝
SGLT2 阻害薬の有効性と使用注意点
CLINIC magazine, 2015; 42 (3): 16-20

28. 飯田雅, 荻原健, 綿田裕孝
糖尿病合併高血圧管理と脳卒中予防
分子脳血管病, 2015; 14 (1): 22-25

29. 福中彩子, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
基礎①ヒト IAPP が誘導する膵 β 細胞傷害とオートファジーによる制御
DIABETES UPDATE, 2015; 4 (1): 12-13

30. 遅野井雄介, 三田智也, 綿田裕孝
高血糖と血管障害
尿酸と血糖, 2015; 1 (3): 6-10

31. 荻原健, 綿田裕孝
長期（たとえば 20 年以上）血糖コントロール良好例の特徴は何か
糖尿病診療マスター, 2015; 13 (10): 797-801

32. 荻原健, 綿田裕孝
アルコールと糖代謝
医学のあゆみ, 2015; 254 (10): 929-933

33. 古川康彦, 綿田裕孝
SGLT2 阻害薬の作用機序と動脈硬化進展抑制への期待
分子脳血管病, 2015; 14 (2): 36-40

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

34. 藤谷与士夫, 綿田裕孝
膵 β 細胞におけるオートファジー　1）IAPP とオートファジー
内分泌・糖尿病・代謝内科, 2015; 40 (6): 427-433

35. 佐藤淳子, 綿田裕孝
日本人 2 型糖尿病患者の腸内細菌叢異常と糖ホメオスターシス
糖尿病診療マスター, 2015; 13 (5): 400-406

36. 三浦正樹, 宮塚健, 綿田裕孝
SGLT2阻害薬のクラスエフェクト
薬局, 2015; 66 (7): 19-22

37. 宮塚健, 綿田裕孝
膵内分泌細胞の可塑性
グルカゴン革命　糖尿病の真の分子病態を追え！, 2015;　33(6): 887-891

38. 池田富貴, 綿田裕孝
SGLT2 阻害薬：基礎と臨床
最新医学, 2015; 70 (892): 192-199

39. 池田富貴, 綿田裕孝
【臨床効果から見る SGLT2 阻害薬の光と陰：わが国における実地使用を受けて】血糖低下効果：有効性への期待 VS 低血糖への注意
Mebio, 2015; 32 (3): 16-21

40. 竹野景海, 綿田裕孝
【注目の新薬】イプラグリフロジン（スーグラ）
診断と治療, 2015; 103 (3): 419-422

41. 福中彩子, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
ヒト IAPP が誘導する膵 β 細胞傷害とオートファジーによる制御
Diabetes Strategy, 2015; 5 (1): 28-29

42. 綿田裕孝
最新の糖尿病の実地日常診療
Medical Practice, 2015; 32 (1): 7

43. 荻原健, 綿田裕孝
膵島の容量調節機構とその破綻
医学のあゆみ, 2015; 252 (5): 383-388

44. 田村好史
運動療法の通説とこれから

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

内科, 2015; 115 (4): 571-575

45. 田村好史
レジスタンス運動の必要性
プラクティス, 2015; 32(2): 145-147

46. 田村好史
最新の知見をふまえた運動療法の治療戦略を探る
Life Style Medicine, 2015; 9(2): 18-21

47. 田村好史
内臓脂肪と異所性脂肪“脂肪筋”から考える運動の役割
オレオサイエンス, 2015; 15(8): 13-18

48. 田村好史
インスリン抵抗性をどう評価し、どう活かすか？－中枢神経から標的臓器まで－
プラクティス, 2015; 32(4): 399

49. 田村好史
臓器別のインスリン抵抗性の発生メカニズムと臨床的意義
プラクティス, 2015; 32(4): 401-409

50. 田村好史
糖尿病の運動療法
糖尿病と腎疾患, 2015; 78 (増刊号): 185-188

51. 田村好史
II肥満 2 型糖尿病の分子メカニズム　3.骨格筋
The Lipid, 2015; 26(2): 32-38

52. 田村好史
運動療法はどのように指導するのがよいか？
プラクティス, 2015; 32(1): 26-28

53. 田村好史
生活習慣病における骨格筋とスポーツの役割
保健の科学, 2015; 57(1): 10-14

54. 田村好史
2 型糖尿病の運動療法
医学のあゆみ, 2015; 252 (5): 567-572

55. 青木茂樹、神谷昂平、入江隆介、鈴木通真、髙野直、鎌形康司、隈丸加奈子、堀正明

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

MRI 2015
Rad Fan vol.13 No.4 2015

56. 鎌形康司、青木茂樹
4.疾患別 Q16.パーキンソニズムを呈する疾患を教えて下さい。
画像診断 Vol.35 No.10 2015

57. 鎌形康司、錦織瞭、堀正明、青木茂樹
【脳の見える化-構造編】伝導路を見る DTI をはじめとした拡散 MRI による拡散解析とそれを用いた伝導路解析の原理
Clinical Neuroscience Vol.33 No.6 2015

58. 濱崎望、鶴田航平、青木茂樹 、中澤美咲
【MRI-新しい活用の潮流とその実力】MRI の立脚点と将来像を示す 最近の MRI の動向と今後の将来展望
新医療 Vol.42 No.6 2015

59. 高橋(安達)木綿子、青木茂樹
2.解剖・正常変異 Q4.おさえておくべき正常変異、don't touch lesion を教えて下さい
画像診断 Vol.35 No.10 2015

60. 高橋(安達)木綿子、青木茂樹
4.疾患別 Q13.抗体陽性脳炎など、脳炎や傍腫瘍症候群がたくさんありますが、診断のポイントを教えて下さい。
画像診断 Vol.35 No.10 2015

61. 鶴田航平、堀正明、青木茂樹
拡散強調像とその応用的技術のグリオーマ診断への応用
臨床画像 Vol.31 No.10 2015

62. 中澤美咲、椛沢宏之、青木茂樹
【Step up MRI 2015-臨床応用のための MRI 技術の現在と未来-】臨床応用のための撮像技術の現状と課題 Synthetic MRI と MR fingerprinting
INNERVISION Vol.30 No.9 2015

63. 中西淳、玉本文彦、鈴木通真、朝日公一、松波環、小川正一、鈴木賢、桑鶴良平、青木茂樹
【脳神経・頭頸部の診断と治療 update】外耳道疾患の画像診断
臨床放射線 Vol.60 No.5 2015

64. 舩山 学、服部信孝 .
遺伝性パーキンソン病 研究の現状と展望、
Bio Clinica 30:752-756,2015

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

65. 森　聡生、波田野琢、服部信孝 .
パーキンソン病の病因遺伝子、特集　パーキンソン病診療 update、
Pharma　Medica、33：15-23, 2015

66. 木村 一雄, 浅井 徹, 小川 久雄, 奥村 謙, 木村 剛, 後藤 葉一, 住吉 徹哉, 代田 浩之 , 田中 啓治, 長尾 建, 平山 篤志, 水野 杏一, 宮崎 俊一, 山科 章, 横山 斉, 吉野 秀朗, 生田 新一郎, 石井 秀樹, 石原 正治, 石綿 清雄, 大村 寛敏, 木下 武, 小菅 雅美, 坂田 泰彦, 佐藤 俊明, 塩見 紘樹, 島田 和典 , 鈴木 誠, 高木 厚, 高瀬 信弥, 高山 忠輝, 高山 守正, 立花 栄三, 寺岡 邦彦, 中尾 浩一, 中川 義久, 樋熊 拓未, 掃本 誠治, 安武 正弘, 安田 聡, 山本 剛, 赤阪 隆史, 安達 秀雄, 一色 高明, 藤原 久義, 堀 正二, 日本循環器学会, 日本冠疾患学会, 日本救急医学会, 日本胸部外科学会, 日本集中治療医学会, 日本心血管インターベンション治療学会, 日本心臓血管外科学会, 日本心臓病学会, 日本心臓リハビリテーション学会, 日本心電学会, 日本動脈硬化学会.
循環器病の診断と治療に関するガイドライン(2012 年度合同研究班報告)【ダイジェスト版】 ST 上昇型急性心筋梗塞の診療に関するガイドライン(2013 年改訂版).
日本心臓血管外科学会雑誌 44:1-36;2015

67. 島田和典 , Al Shahi H, 塩澤知之.
動脈硬化の免疫学的機序.
J-ISCP 会誌心血管薬物療法. 3:17-26;2015

68. 島田和典 , 門口智泰, Al Shahi, 塩澤知之.
炎症を標的とした介入のあり方.
呼吸と循環. 63:833-839;2015

69. 島田和典 , 高橋秀平, 横山美帆.
糖尿病を合併した心臓外科術後患者のリハビリテーション.
Journal of Clinical Rehabilitation. 24:1130-1137;2015

70. 大村寛敏, 代田浩之
【ACC/AHA ガイドラインを読み解く】冠動脈疾患の脂質管理
動脈硬化予防, 2015; 13: 23-29

71. 内藤　亮、代田　浩之
EBM Hot Flash 「IMPROVE-IT」
CARDIAC PRACTICE, 2015; 26: 224-225

72. 内藤　亮、代田　浩之
糖尿病に伴う冠動脈疾患の早期診断と進展予防
日本糖尿病学会誌, 2015

73. 宮内克己　代田浩之
冠危険因子の管理(Optimal Medical Therapy) が PCI と CABG の選択に与えた影響

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

循環器専門医　日本循環器学会専門医誌, 2015; 22: 23-30

74. 木村 友厚, 加藤 義治, 遠藤 直人, 大鳥 精司, 大西 五三男, 斎藤 充, 須藤 啓広, 高田 潤一, 原田 敦, 楊 鴻生, 萩野 浩, 馬場 智規, 最上 敦彦, 斎田 良知, 野々宮 廣章, 生田 拓也, 正田 悦朗, 白濱 正博, 金子 和夫, 澤口 毅
非定型大腿骨骨折診療マニュアル
日本整形外科学会誌　2015;89:959-973

75. 石島旨章, 内藤聖人, 渡泰士, 金子晴香, 劉立足, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子, アニュアルジャン・ユスプ, 二見一平, 清村幸雄, 土屋勝, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 長岡功, 黒澤尚, 金子和夫
初期変形性膝関節症におけるバイオマーカーを用いた疼痛と軟骨代謝の連関
別冊整形外科　変形性膝関節症の診断と治療, 67, 51-56, 2015

76. 金子 晴香, 石島 旨章, 二見 一平, 定月 亮, 平澤 恵理, 金子 和夫
【変形性膝関節症の診断と治療】今後期待される新しい治療　細胞療法　変形性膝関節症の骨棘形成　パールカンの滑膜間葉系細胞制御による治療介入の可能性
別冊整形外科、67、218−222、2015

77. 金子晴香, 石島旨章, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
変形性膝関節症に対する鏡視下半月板部分切除術への警鐘
別冊整形外科　変形性膝関節症の診断と治療, 67, 126-129, 2015

78. 金子 晴香, 石島 旨章, 金子 和夫
【実地内科医を訪れる他科の疾患の日常診療と対処法-その 1(小児科・精神科・皮膚科・整形外科) して良いことと、してはいけないこと】実地内科医の診療と専門医との連携の実際と留意点　整形外科疾患　変形性膝関節症
Medical Practice、32 巻8号、1359−1363、2015

79. 金子 晴香, 石島 旨章, 金子 和夫
【ロコモティブシンドロームをめぐる最新の動向】診断と予防・治療　ロコトレ　ロコモーショントレーニング
臨床スポーツ医学、32 巻 3 号、251−256、2015

80. 金子晴香, 石島旨章, 金子和夫
ロコトレ
臨床スポーツ医学「ロコモティブシンドロームをめぐる最新の動向」, 32, 3, 256-261, 2015

81. 羽田晋之介, 石島旨章, 金子晴香, 劉立足, 定月亮, 木下真由子, アニュアルジャン・ユスプ,二見一平, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
初期変形性膝関節症の病変進行の部位別差異
別冊整形外科　変形性膝関節症の診断と治療, 67, 8-12, 2015

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

82. 定月亮, 石島旨章 , 久保田光昭, 金子晴香, 羽田晋之介, 木下真由子, 劉立足, アニュアルジャン・ユスプ, 二見一平, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 黒澤尚, 金子和夫
変形性膝関節症の疼痛と進行における MRI の骨髄異常陰影の関連
別冊整形外科　変形性膝関節症の診断と治療, 67, 18-22, 2015

83. 劉立足, 石島旨章 , 寧亮, 金子晴香, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子, アニュアルジャン・ユスプ, 二見一平, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 黒澤尚, 金子和夫
末期変形性膝関節症における疼痛と滑膜炎そして炎症性サイトカインの発現パターンの連関性
別冊整形外科　変形性膝関節症の診断と治療, 67, 23-29, 2015

84. 清村幸雄, 石島旨章 , 金子晴香, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子, 劉立足, アニュアルジャン・ユスプ, 二見一平, 土屋勝, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 黒澤尚, 金子和夫
変形性膝関節症の重症化に伴う疼痛影響因子の変化
別冊整形外科　変形性膝関節症の診断と治療, 67, 30-33, 2015

85. 金子晴香, 石島旨章 , 劉立足, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子, アニュアルジャン・ユスプ, 二見一平, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 黒澤尚, 金子和夫
変形性膝関節症のバイオマーカー: 血清ヒアルロン酸の臨床応用に向けたエビデンス
別冊整形外科　変形性膝関節症の診断と治療, 67, 57-60, 2015

86. 石島旨章 , 中村利孝, 清水克時, 林邦彦, 菊池啓, 宗圓聰, 大森豪, 山下敏彦, 内尾祐司, 千葉純司, 黒澤尚, 金子和夫
変形性膝関節症に対するヒアルロン酸関節内注射の有効性と安全性
別冊整形外科　変形性膝関節症の診断と治療, 67, 92-97, 2015

87. 石島旨章 , 黒澤尚, 池田浩, 劉立足, 金子晴香, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子, アニュワル・ユスプ, 斎田良知, 高澤祐治, 金子和夫
変形性膝関節症における運動療法の有効性と限界
別冊整形外科　変形性膝関節症の診断と治療, 67, 108-114, 2015

88. 金子晴香, 二見一平, 定月亮, 平澤恵理, 山田吉彦, 金子和夫 , 石島旨章
変形性膝関節症の骨棘形成: パールカンの滑膜間葉系細胞制御による治療介入の可能性
別冊整形外科　変形性膝関節症の診断と治療, 67, 218-222, 2015

89. 中潟崇, 町田修一, 内藤久士 , 金子和夫 , 石島旨章
ロコモーショントレーニング
LocoCure, 1, 42-47, 2015

90. 定月亮, 石島旨章 , 金子和夫
こむらがえり
整形外科漢方処方マニュアル, MB Orthop, 28, 83-90, 2015

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

91. 石島旨章
ロコモ対策＜その他の運動①膝痛体操＞
安全と健康, 66, 690-91, 2015

92. 金子晴香, 石島旨章 , 金子和夫
変形性膝関節症
実地内科医を訪れる他科の疾患の日常診療と対処法-その 1
Medical Practice, 32, 1359-63, 2015

93. 石島旨章 , 金子和夫
変形性膝関節症の臨床症状と滑膜炎の連関
クリニシアン, 644, 1217-25, 2015

【和文総説 2016 年】

1. 三井田孝
脂質異常症と動脈硬化.
臨牀と研究 2016;93(1): 31-36

2. 三井田孝
TG の測定について.
メディカルビューポイント, 2016; 37: 5

3. 三井田孝
食事時間と検査値について.
ラボ, 2016; 444: 14

4. 三井田孝
脂質検査.
レジデント, 2016; 9: 54-61

5. 三井田孝
アポリポ蛋白 E の検査の仕組みは？[phenotype と genotype の違い].
日本医事新報, 2016; 4807: 61

6. 平山安希子、三井田孝
検査 Q&A「高 HDL-C 血症は、どのように考えれば良いでしょうか？」
臨床検査, 2016; 60: 1600-1604

7. 三井田孝
non HDL-C/レムナント.
動脈硬化予防 15(3): 92-93, 2016.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

8. 三井田孝
食後トリグリセリド値の診断基準は存在するか？
日本医事新報 (4832): 61-62, 2016.

9. 三井田孝 .
LDL-C と non-HDL-C の利点と限界.
医学のあゆみ, 2016; 260: 991-992

10. 平山安希子、平山哲
LDL コレステロール測定法の現状と課題
臨床検査, 2016; 60: 1460-1466

11. 木下真由子, 石島旨章 , 金子晴香, 羽田晋之介, 塩澤淳, 有田均, 金子和夫
ロコモティブシンドロームと骨折予防
Loco Cure, 2, 30-37, 2016

12. 石島旨章
変形性膝関節症
Osteoporosis Japan プラス, 1, 18-19, 2016

13. 金子晴香, 石島旨章 , 金子和夫
変形性膝関節症の運動療法
膝の痛み -訴えにどう対応するか-, MB Orthop, 29, 70-78, 2016

14. 石島旨章 , 池田浩, 金勝乾, 高澤祐治, 黒澤尚, 金子和夫
必履修分野の研修方法・スポーツ
新専門医制度に備えた必履修分野の教え方・学び方, 関節外科, 35, 158-164, 2016

15. 石島旨章
臨床研究のすすめ
JJOS (The Journal of Japan Osteoporosis Society), 2, 174-6 2016

16. 石島旨章 , 羽田晋之介, 金子晴香, 劉立足, 木下真由子, 有田均, 塩澤淳, アニユワルジャン・ユスプ 青木孝子, 高澤祐治, 池田浩, 岡田, 金子和夫
Kellgren-Lawrence 分類からみた早期変形性膝関節症研究への期待と課題
Bone Jopint Nerve (BMJ), 6, 533-41, 2016

17. 羽田晋之介, 石島旨章 , 金子晴香, 劉立足, 木下真由子, 有田均, 塩澤淳, アニユワルジャン・ユスプ, 青木孝子, 高澤祐治, 池田浩, 岡田保典, 金子和夫
MRI を用いた早期変形性膝関節症の病態解析
Bone Jopint Nerve (BMJ), 6, 549-55, 2016

18. 石島旨章 , 金子晴香, 高澤祐治, 池田浩, 岡田保典, 金子和夫

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

ロコモの原因としての変形性膝関節症の病態と対策
ロコモティブシンドローム-長寿時代の各科に必要な運動器の最新知識-, カレントテラピー, 34, 957-962, 2016

19. 石島旨章
巻頭言：特集にあたって
The Bone, 30, 117-119, 2016

20. 金子晴香, 石島旨章, 金子和夫
変形性膝関節症の疼痛：病態
The Bone, 30, 253-261, 2016

21. 金子晴香, 石島旨章, 木下真由子, 金子和夫
疲労骨折にかかわる骨構造と骨代謝
疲労骨折の病態と治療, 整形・災害外科, 59, 1387-94, 2016

22. 石島旨章, 吉村祐輔, 金子和夫
医学研究アプリ「ロコモニター」
トピックス, クリニシアン 653 号, 1133-37, 2016 年 11・12 月

23. 石島旨章, 金子晴香, 羽田晋之介, 劉立足, アヌワル・ジャン・ユユプ, 清村幸雄, 木下真由子, 有田均, 塩澤淳, 青木孝子, 長尾雅史, 高澤祐治, 池田浩, 岡田保典,金子和夫
変形性膝関節症の疼痛と関連する病態
リウマチ科, 56, 632-640, 2016

24. 石島旨章
専門医試験をめざす症例問題トレーニング：非定型大腿骨骨折
整形外科, 67, 999-1008, 2016

25. 長尾雅史, 石島旨章, 金子晴香, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
変形性膝関節症に対する運動・スポーツの意義
Clinical Calcium, 2016.12；27(1):25-30

26. 岸本通彦, 河盛隆造, 三輪真也
明日からの実践に役立つ糖尿病治療(1)発見直後からの的確な治療介入～選択肢が増えた糖尿病治療～
Clinic Magazine, 2016; 43(1): 8-14, 2016.1

27. 河盛隆造
総論：新しい学問、Sportology の目指すこと
MSD（Medical Science Digest）, 2016; 42(1): 21-24, 2016.1.25

28. 田村好史

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

運動と骨格筋細胞内脂質
MSD（Medical Science Digest）、2016；42（1）: 21-24, 2016.1.25

29. 田村好史
運動療法の効果的な実践法と注意点
DIABETES UPDATE, 2016; 5(1): 26-30, 2016.1.30

30. 河盛隆造
12. 多剤併用の根拠とその実際
レジデント, 2016; 9(2): 94-402, 2016.2.1

31. 田村好史, 竹野景海, 加賀英義
運動療法概論
新時代の臨床糖尿病学（上）～より良い血糖管理をめざして～, 2016; 74(1093): 484-489, 2016.2.20

32. 河盛隆造
2 型糖尿病治療法概論
新時代の臨床糖尿病学（上）～より良い血糖管理をめざして～, 2016; 74(1093): 318-328, 2016.2.20

33. 田村好史
運動療法の基礎-基本的な考え方と注意点
糖尿病治療の現在と未来, 2016; 104(増刊号): 262-266, 2016.3.25

34. 綿田裕孝
2 型糖尿病の病態 Update
セラピューティック・リサーチ, 2016; 37(4): 331-333, 2016.4.20

35. 後藤広昌, 綿田裕孝
インスリン療法 Brush UP－患者への正しい主義指導などを含めて－
DIABETES UPDATE, 2016; 5(2): 26-30, 2016.4.30

36. 綿田裕孝(司会), 神谷英紀, 出口尚寿, 日吉徹
座談会　糖尿病患者の神経障害をどう管理するか
Diabetes Strategy, 2016; 6(2): 5-18, 2016.5.10

37. 福中彩子, 綿田裕孝
膵β細胞は空腹時に初期分泌顆粒の分解とそれに伴うオートファジー抑制によりインスリン分泌を抑制する
Diabetes Strategy, 2016; 6(2): 30-33, 2016.5.10

38. 金澤昭雄, 綿田裕孝

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

腸内細菌と各種疾患－糖尿病・肥満
日本医事新報, 2016; (4807): 32-38, 2016.6.11

39. 内田豊義, 綿田裕孝
自己免疫性甲状腺疾患における自己抗体～バセドウ病を中心に～
日本体質医学会雑誌, 2016; 78(2): 87-93, 2016.6.30

40. 田村好史, 竹野景海, 筧佐織
骨格筋における脂肪毒性
The Lipid, 2016; 27(3): 73-78, 2016.8.5

41. 荻原健, 綿田裕孝
アルコールと糖代謝
アルコール医学・医療の最前線 UPDATE, 2016; 75-79, 2016.8.25

42. 鈴木瑠璃子, 田村好史, 綿田裕孝
消化管吸収と血糖
尿酸と血糖, 2016; 2(4): 6-10, 2016.10.1

43. 本田彬, 綿田裕孝
薬物療法アップデート 1.インスリン分泌促進系 スルホニル尿素薬・速効型インスリン分泌促進薬
診断と治療の ABC 糖尿病, 2016; 最新醫學別冊: 108-115, 2016.10.25

44. 田村好史, 加賀英義, 染谷由希
運動療法の基本と最新の話題
診断と治療の ABC 糖尿病,最新醫學別冊: 2016; 100-107, 2016.10.25

45. 小宮幸次, 綿田裕孝
高齢者糖尿病の血糖コントロール目標
DIABETES UPDATE, 2016; 5(4): 22-27, 2016.10.30,

46. 遅野井雄介, 三田智也, 綿田裕孝
2 型糖尿病患者における食事パターンと心血管イベントに関連するパラメーター
DIABETES UPDATE, 2016; 5(4): 18-20, 2016.10.30

47. 小宮幸次, 綿田裕孝
高齢者における糖尿病薬物療法の今後の展望
プラクティス, 2016; 33(6): 681-4, 2016.11.15,

48. 小宮幸次, 綿田裕孝
『重症低血糖』を起こしやすい薬剤がある
エキスパートナース, 2016; 32(15): 21-25, 2016.11.20

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

49. Dohi T, Daida H.
JAPAN-ACS (Japan Assessment of Pitavastatin and Atorvastatin in Acute Coronary Syndrome).
Nihon Rinsho. 2016 Jun 20;74 Suppl 4 Pt 1:697-702.

50. 島田和典, 喜多村健一, 代田浩之.
PCSK9 阻害薬の臨床効果.
Progress in Medicine. 36:631-637;2016.

51. 福田健太郎、岩田　洋、代田浩之
急性冠症候群の検査・診断
日本臨床　74 巻増刊号 6(通巻 1104 号)　(2016) pp207

52. 島田和典
禁煙外来で調べる一酸化炭素濃度
きょうの健康　2016 年 5 月号　130-131.

53. 島田和典.
脂と油. 飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸.
保健ニュース 健康. 80:4-5;2016.

54. 内藤　亮、代田　浩之
疾病の回復を促進する薬　循環器系に作用する薬(1)
放送大学

55. 島田和典, 西﨑祐史, 吉原琢磨, 相川達郎, 大内翔平, 塩澤知之, 門口智泰, 高橋秀平, 住吉克彦, 宮崎哲朗,代田浩之.
心血管疾患予防における多価不飽和脂肪酸の臨床的有用性.
成人病と生活習慣病. 45:539-544;2016.

56. 荻田学　代田浩之
糖尿病合併症の病態・診断・治療 冠動脈疾患
雑誌[日本臨床] 2016 年 4 月増刊号

57. 荻田学　代田浩之
糖尿病治療薬の心血管アウトカム抑制効果が求められるようになった背景
雑誌[ホルモンと臨床]
2016 Vol.62 p771-774

荻田学　代田浩之
58. 糖尿病患者の冠動脈疾患に対する血行再建の考え方
月刊新聞[Medical View Point]
Vol37, No5 (2016 年 4 月 20 日発行)

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

59. 荻田学 代田浩之
EMPA-REG アウトカム試験を受けての期待
「月刊糖尿病」 2016 年 10 月号 Vol.8 No.10

60. 入江隆介, 鎌形康司, 堀正明, 國松聡, 青木茂樹.
精神科臨床における MRI;拡散 MRI を中心に.
総合病院精神医学 28(3): 219-225, 2016

61. 入江隆介, 鎌形康司, 鶴田航平, 青木茂樹.
解剖学的結合から見た認知症.
BIO Clinica 31(4): 339-343, 2016

62. 入江隆介, 萩原彰文, 神谷昂平, 安達木綿子, 堀正明, 森墾, 青木茂樹, 國松聡.
その他の星細胞系腫瘍, 神経細胞および混合神経細胞・膠細胞系腫瘍.
画像診断 36(13): 1258-1269, 2016

63. 堀 正明, 鈴木 通真, 入江 隆介, 隈丸 加奈子, 中西 淳, 青木 茂樹.
【症例から学ぶ MRI の基礎-臨床に直結する知識-】脳血管障害.
画像診断 37(1): 10-19, 2016

64. 高橋 木綿子, 堀 正明, 青木 茂樹.
症例から学ぶ 画像診断トレーニング(第 36 回) 症例:30 歳代,男性.
脊椎脊髄ジャーナル 29(5): 585-588, 2016

65. 高橋 木綿子, 堀 正明, 青木 茂樹.
症例から学ぶ 画像診断トレーニング(第 37 回) 症例:2 歳 2 ヵ月,女児.
脊椎脊髄ジャーナル 29(6): 665-667, 2016

66. 鈴木 通真, 入江 隆介, 堀 正明, 鎌形 康司, 隈丸 加奈子, 青木 茂樹.
Ultrashort TE を用いた MRA.
臨床画像 32(4): 423-428, 2016

67. 萩原彰文, 堀正明, 中澤美咲, Christina Andica, 青木茂樹.
Synthetic MRI の臨床応用の実際と今後の展望
INNERVISION 31(9): 13-15, 2016

68. 鎌形 康司, 波田野 琢, 上田 亮, 青木 茂樹.
パーキンソン病とパーキンソン症候群の鑑別のための検査 パーキンソン病およびパーキンソン症候群の MRI(解説/特集).
臨床雑誌内科 118(2): 239-244, 2016

69. 鎌形 康司, 波田野 琢, 青木 茂樹.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

各種疾患 変性疾患 パーキンソン病と MRI(解説).
Annual Review 神経 2016: 180-188, 2016

70. 中澤美咲, 萩原彰文, Andica Christina, 堀正明, 青木茂樹.
Synthetic MRI の臨床と研究
映像情報 Medical 増刊号「ROUTINE CLINICAL MRI 2017 BOOK」48(14): 60-67, 2016

【和文総説 2017 年】

1. 鈴木瑠璃子, 田村好史
食後過血糖を防ぐ筋の役割:その重要性
PM (PROGRESS IN MEDICENE), 2017.03; 37(3): 55-58

2. 門脇聡, 田村好史, 綿田裕孝
栄養としてのケトン投与は基質の燃焼比率を変化させ、アスリートの持久的運動能力を向上させる
DIABETES UPDATE, 2017.01; 6(1): 20-22

3. 綿田裕孝
健康寿命延伸のための課題－糖尿病に関して－
日本臨床内科医会会誌, 2017.03; 31(5): 706-708

4. 登坂祐佳, 綿田裕孝
高齢者糖尿病のインスリン療法
最新醫學, 2017.01; 72(1): 67-72

5. 河盛隆造
10.食後過血糖をどう治療する？ 3)食後過血糖の薬物療法
PM(PROGRESS IN MEDICENE), 2017.03; 37(3): 69-73

6. 河盛隆造
食後過血糖はなぜ起こる？
PM(PROGRESS IN MEDICENE), 2017.03; 37(3): 9-13

7. 河盛隆造
特集に寄せて
PM(PROGRESS IN MEDICENE), 2017.03; 37(3): 7

8. 加賀英義, 田村好史
10.食後過血糖をどう治療する？ 2)運動療法
PM(PROGRESS IN MEDICENE), 2017.03; 37(3): 63-67

9. 石島旨章
編集企画にあたって

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Monthly Book Orthopaedics「病態・経過でみる変形性関節症 -どこで手術に踏み切るか-」, 30（2）, 前付 1, 2017.02, 全日本病院出版社

10. 石島旨章, 吉村祐輔, 金子和夫
ロコモニターの開発：ICT を用いたロコモ評価
糖尿病診療における ICT 革命, 月刊糖尿病, 9, 91-101, 2017 年 1 月号

11. 土井信一郎, 代田浩之
弁膜症治療の現在と展望
Medical Science Digest, 2017.02; 43(2): 13-14

12. 島田和典, 西﨑祐史, 吉原琢磨, 塩澤知之, 相川達郎, 大内翔平, 門口智泰, Hamad Al Shahi, 喜多村健一, 高橋秀平, 宮崎哲朗, 代田浩之
心血管疾患における DHA・EPA の臨床的有用性
食品と開発. 2017.02:52:33-35

13. 鎌形康司, 上田亮, 堀正明, 青木茂樹
新たな拡散 MRI 解析 DKI, NODDI, MR g-ratio, コネクトーム
Annual Review 神経 54-61, 2017.01

14. 西岡健弥, 池田彩, 服部信孝
【PSP と CBD-その共通点と相違点】発症機序　第 17 番染色体に連鎖するパーキンソニズムを伴う前頭側頭型認知症(FTDP-17)
Clinical Neuroscience, 35(3):332-334, 2017.03

15. 櫻井圭太, 徳丸阿耶, 下地啓五, 青木茂樹
【PSP と CBD-その共通点と相違点】進行性核上性麻痺(PSP)
Clinical Neuroscience 35(3): 277-280, 2017.03

16. 田村好史, 筧佐織, 加賀英義, 竹野景海
骨格筋細胞内脂質の蓄積と体質
日本体質医学会雑誌, 2017; 79(1): 20-24, 2017.2.28

17. 鈴木路可, 綿田裕孝
オートファジー/マイトファジーと膵 β 細胞不全
Diabetes Frontier, 2017.06; 28(3): 333-337

18. 鈴木路可, 綿田裕孝
糖尿病とオートファジー
Mebio, 2017.05; 34(5): 4-10

19. 綿田裕孝, 羽田勝計
高齢者糖尿病診療ガイドライン 2017

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

DIABETES JOURNAL 糖尿病と代謝, 2017.09; 45(3): 8-12

20. 綿田裕孝
GLP-1 受容体作動薬の心血管イベントへの影響
糖尿病, 2017.09; 60(9): 573-575

21. 綿田裕孝
高齢者糖尿病の血糖コントロール～目標設定の背景と現状
Calm, 2017.07; 4(2): 2-6

22. 綿田裕孝
インクレチン関連薬による心血管疾患抑制メカニズム
内分泌・糖尿病・代謝内科, 2017.06; 44(6): 476-480

23. 綿田裕孝
心血管イベントを防ぎ健康長寿を実現するために策定された「熊本宣言」,「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標」を活用した糖尿病診療-大規模臨床試験の結果を踏まえて-
Medical Practice, 2017.09; 34(9): 1420-1429

24. 綿田裕孝
新規糖尿病治療薬と心血管イベント
DIABETES JOURNAL, 2017.09; 45(2): 7-13

25. 綿田裕孝
特集にあたって
Pharma Medica, 2017.04; 35(4): 7

26. 登坂祐佳, 綿田裕孝
高齢者糖尿病の動脈硬化性疾患－病態と栄養指導の要点、留意点
臨床栄養, 2017.06; 130(7): 1068-1072

27. 田村好史, 染谷由希
有酸素運動とレジスタンス運動の併用によるサルコペニア肥満の予防・解消
Medical Practice, 2017.09; 34(9): 1507-1510

28. 田村好史, 加賀英義, 染谷由希, 筧佐織
2 型糖尿病の予防と異所性脂肪
糖尿病ケア, 2017.09; 14(9): 66-69

29. 田村好史, 加賀英義, 染谷由希, 筧佐織
糖尿病における運動療法
内分泌・糖尿病・代謝内科, 2017.06; 44(6): 501-504

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

30. 田村好史, 加賀英義, 染谷由希
III各論　運動療法の基本と最近の進歩
糖尿病診療マスター, 2017.05; 15(5): 408-412

31. 遅野井雄介, 綿田裕孝
DPP4 阻害薬と循環器疾患
Heart View, 2017.08; 21(8): 76-82

32. 佐藤博亮, 綿田裕孝
血糖による炎症と臓器障害
尿酸と血糖, 2017.07; 3(3): 31-34

33. 佐藤博亮, 綿田裕孝
高齢者糖尿病のメトホルミンと SGLT2 阻害薬の使い方
Geriatric Medicine, 2017.08; 55(8): 895-900

34. 後藤広昌, 綿田裕孝
乳酸アシドーシスの病態・診断・治療-ビグアナイド薬による乳酸アシドーシス発症予防のために-
糖尿病合併症 最新医学別冊 診断と治療の ABC124, 2017.07; 30-35

35. 金澤昭雄, 綿田裕孝
II各論 トピック 3　2 型糖尿病における腸内フローラの乱れとインスリン抵抗性
糖尿病診療マスター, 2017.05; 15(6): 475-479

36. 宮塚健, 綿田裕孝
インスリン療法の留意点
日本臨牀, 2017.11; 75(11): 1700-1703

37. 河盛隆造
多彩な糖尿病治療薬をどのように使い分ける？
CURRENT THERAPY, 2017.11; 35(11): 7

38. 河盛隆造
食後高血糖制御をめざすαグルコシダーゼ阻害薬
週刊医学のあゆみ 心血管疾患発症予防からみた糖尿病治療, 2017.04; 261(4): 297-301

39. 加賀英義, 田村好史
食事・運動療法のエビデンス
週刊医学のあゆみ 心血管疾患発症予防からみた糖尿病治療, 2017.04; 261(4): 281-285

40. 綿田裕孝
インクレチン関連薬の心血管作用における最新の知見
日本体質医学会雑誌, 日本体質医学会, 2017.08; 79(3): 171

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

41. 三井田孝
LDL-C と non-HDL-C の利点と限界
医学のあゆみ, 2017.04; 260(11): 991-992

42. 上野剛, 平山哲, 三井田孝
BCG 法は、α2-マクログロブリンとの反応により、ネフローゼ症候群における血清アルブミン濃度を過大評価するが、BCP 改良法ではその影響を受けない
臨床化学, 2017.11; 46(4): 335-336

43. 渡部俊之、平山 哲、三井田孝、根間敏郎、武城英明
トリグリセライド(TG)の代謝と測定法の問題点
臨床化学, 2017.05; 46(2): 127-132

44. 平山 哲
【脂質異常症:実地診療におけるピットフォールから未来の治療まで】 実地医家のための血清脂質検査 脂質異常症のスクリーニングと診断の進め方
日本内科学会誌; 2017.04; 106 (4): 682-689

45. 石島旨章, 木下真由子, 長尾雅史, 金子和夫
骨粗鬆症治療薬と服薬継続率
THE BONE, 骨粗鬆症リエゾンサービス, 2017.04; 31: 23-30

46. 久保田光昭, 石島旨章, 金子晴香, 金子和夫
高位脛骨骨切り術
最新医学別冊 診断と治療の ABC122 変形性関節症, 2017.05; 183-191, 最新医学社

47. 有田均, 石島旨章, 金子晴香, 金子和夫
腰痛および関節痛患者に対する処方に関して
臨床麻酔, 2017.09; 41(9): 1238-45

48. 石島旨章
変形性膝関節症の痛みの病態に則した治療
日経メディカル 2017 年 12 月号特別編集版 ロコモティブシンドローム特集, 2017; 29-34

49. 内藤亮, 代田浩之
心臓病学研究の進歩
日本循環器学会専門医誌, 2017; 25: 219-222

50. 坪井秀太, 代田浩之
虚血性心疾患の診断・治療
最新医学 別冊 糖尿病合併症, 2017.07; 131-138

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

51. 島田和典, 國本充洋
スタチンによる脂質低下とその歴史
循環器内科, 2017.09; 82(3):219-224

52. 石島旨章, 木下真由子, 長尾雅史, 金子和夫
リエゾンサービスはなぜ必要か? 骨粗鬆症治療薬と服薬継続率
THE BONE（0914-7047）2017.04; 31 (1):23-30

53. 米澤郁穂, 佐藤達哉, 高野弘充, 吉川慶, 金子和夫, 井上久, 多田久里守, 林絵利, 田村 直人, 小林茂人, 高崎芳成
脊椎関節炎の適切な診療のために 脊椎関節炎における脊椎病変の手術治療
臨床リウマチ, 2017.09; 29(3): 211-215

54. 入江隆介, 青木茂樹
下垂体炎の画像診断
Clinical Neuroscience, 2017.04; 35(4): 412-413

55. 青木茂樹, 萩原彰文
QIBA：画像の定量化と標準化のシステム作り
インナービジョン, 2017.08; 32(9):33-34

56. 堀田萌子, 萩原彰文, 堀正明, 青木茂樹
SyMRI の定量性について
インナービジョン, 2017.08; 32(9):5-7

57. 萩原彰文, 青木茂樹
NMO と MS の画像
脊椎脊髄ジャーナル, 2017.08;30(8):749-754

58. 萩原彰文, 堀正明, 青木茂樹
SyMRI の理論と脳への臨床応用
臨床画像, 2017.06;33(6):632-639

59. 中澤美咲, アンディカ クリスティナ, 萩原彰文, 青木茂樹
小児における Synthetic MRI の使用経験
日本小児放射線学会雑誌, J Jpn Soc Pediatr Radiol ,2017.04;33(2)

60. 中澤美咲, 青木茂樹
頭部 CT 総論-撮影法, 被ばく, 主な所見とその病態-
画像診断, 2017.10; 37(13):1284-1286

61. 前川朋子, 萩原彰文, 青木茂樹
てんかんの画像診断

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Clinical Neuroscience, 2017.07; 35(7): 840-843

62. 齊藤麻美, 入江隆介, 青木茂樹
認知症の拡散 MRI-拡散テンソルおよび次世代拡散 MRI の最新知見-
神経内科, 2017.04; 86(4):405-412

63. 齊藤麻美, 青木茂樹, 佐藤香菜子
小脳の構造画像
運動失調のみかた, 考え方, 2017.09; 183-189

64. 佐藤栄人, 服部信孝
【パーキンソン病の新展開-発症の分子機構と新規治療】 分子機構解明の新しい展開
PARK9(ATP13A2)モデル動物の解析と病態
医学のあゆみ, 2017.08; 262(6):609-612

65. 池田彩, 服部信孝
【パーキンソン病の新展開-発症の分子機構と新規治療】 分子機構解明の新しい展開
CHCHD2 とパーキンソン病のかかわり
医学のあゆみ, 2017.08; 262(6):627-630

66. 佐藤元律, 田村好史
筋肉の代謝
食と医療, 2017.10; 38-43

【和文総説 2018 年】

1. 常見亜佐子, 金澤昭雄, 綿田裕孝
インスリン療法
臨牀と研究, 2018.01; 95(1): 53-59

2. 長尾雅史, 内藤聖人, 石島旨章, 金子和夫
骨粗鬆症の外科療法
日本医師会雑誌, 2018.01; 146(10): 2039-41

3. 石島旨章, 金子和夫
骨粗鬆症の治療戦略
クリニシアン, 2018.01; 662(65): 102-08

4. 舩山学, 服部信孝
家族性・小発性パーキンソン病
CLINICAL NEUROSCIENCE , 2018.02;36(2):216-218

5. 前川朋子, 青木茂樹
頭部の鑑別診断のポイント、急性期・亜急性期の拡散強調像高信号

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

画像診断, 2018.03; 38(4): 16-21

6. 氷室美和, 綿田裕孝
長期間の GABA 投与によって膵 α 細胞から β 細胞様細胞新生が生じる
DIABETES UPDATE, 2018.02; 7(1): 16-17

7. 加賀英義, 田村好史
運動療法
Medical Practice, 2018; 35(2): 281-285

8. 田村好史, 加賀英義, 染谷由希, 筧佐織
治療 2.糖尿病・内分泌内科における運動療法
最新醫學, 2018; 73(1): 65-70

9. 三井田孝
血清アルブミンが低いと言われました.
ラボ, 2018.04;471: 8

10. 三井田孝, 上野剛
尿の生化学項目では、検査前に遠心の操作が必要ですか？
Medical Technology, 2018.08;46(8): 816-817

11. 三井田孝
LDL コレステロール(直接法)と non-HDL コレステロール
臨床病理, 2018.08;66(10): 1102-1109

12. 三井田孝
採血スピッツと検査結果
ドクターサロン, 2018;62(9): 654-657

13. 三井田孝
LDL-C 値の測定法 には計算式と直接法がありますが、使い分けや注意点はありますか？
検査と技術, 2018.07;46(7): 794-798

14. 平山哲
「検査値異常を指摘された際に考えること」 尿蛋白が陽性と言われました.
日衛協協会誌「ラボ」, 2018.11;11 月号: 12

15. 平山哲, 長坂博範, 中川沙織, 大和進, 三井田孝
第 64 回学術集会 シンポジウム 4:脂質関連マーカーの Update(3) 中枢神経系の代謝マーカーとしての血清オキシステロール.
臨床病理, 2018.04;66 (4): 429-434

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

16. 三井田孝
LDL コレステロール直接法の実際.
日医雑誌, 2018.08;147(5): 980

17. 鈴木路可, 綿田裕孝
アルテムエーテルは膵 α 細胞を β 細胞に分化転換させない
DIABETES UPDATE, 2018.11; 7(4): 14-16

18. 綿田裕孝
糖尿病感受性遺伝子の病態形成のメカニズムの解明-ZnT8 を例として-
MSD, 2018.06, 44(6): 24-26

19. 常見亜佐子, 綿田裕孝
メトホルミン
Pharma Medica, 2018.06, 36(6): 21-25

20. 田村好史, 加賀英義, 筧佐織
ヒトにおける異所性脂肪蓄積の制御,脂肪の量と質を制御する～脂肪毒性の新たなメカニズムを理解してメタボ克服に挑む
実験医学 ,2018.10;36(16): 2716 -2721

21. 西尾理恵, 綿田裕孝
DPP-4 阻害薬の大規模臨床研究
週刊 医学のあゆみ, 2018.10; 267(2): 131-136

22. 田村好史, 加賀英義
骨格筋細胞内脂質蓄積とインスリン抵抗性
週間 医学のあゆみ, 2018.09; 266(10): 769-771

23. 内田豊義, 綿田裕孝
日常診療で遭遇する前に知っておきたい甲状腺疾患
診断と治療, 2018.09; 106(9): 1063-1071

24. 河盛隆造
糖尿病と睡眠障害
睡眠医療, 2018.03; 12(1): 7-8

25. 佐藤元律, 田村好史
運動をすると、どのようにエネルギーが消費されるの?
糖尿病ケア, 2018.09; 15(9):

26. 加賀英義, 田村好史

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

肥満症の運動療法
内分泌・糖尿病・代謝内科, 2018.10; 47(4): 335-340

27. 佐藤元律, 田村好史, 加賀英義
ヒト骨格筋のミトコンドリア機能とインスリン感受性
内分泌・糖尿病・代謝内科, 2018.11; 47(5): 355-359

28. 内田豊義, 綿田裕孝
バセドウ病の薬物治療-副作用の側面から-
内分泌・糖尿病・代謝内科, 2018.08; 47(2): 72-75

29. 綿田裕孝
特集にあたって
内分泌・糖尿病・代謝内科, 2018; 46(4): 217-218

30. 綿田裕孝, 内田豊義
特集にあたって
内分泌・糖尿病・代謝内科; 2018.04, 47(2): 65-766

31. 石島旨章, 羽田晋之介, 金子晴香, 劉立足, 青木孝子, 根岸義文, 百枝雅裕, 久保田光昭, 長尾雅史, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 岡田保典, 金子和夫
早期膝 OA の臨床病態 -軟骨成分を加味した骨棘と半月板逸脱の関連-
The BONE, 2018.05; 32(1):45-53

32. 石島旨章, 金子晴香, 岡田保典, 金子和夫
変形性膝関節症の診断・治療の現状と今後の展望
Clinical Calcium, 2018.05; 28(6):749-759

33. 羽田晋之介, 石島旨章, 金子晴香, 岡田保典, 金子和夫
初期変形性膝関節症における内側半月板逸脱と脛骨内側骨棘幅との関連 -T2 マッピング MRI を用いた解析
運動器リハビリテーション, 2018.05; 29:2-10

34. 石島旨章、金子晴香、劉立足、有田均、青木孝子、西尾啓史、塩澤淳、根岸義文、百枝雅裕、長尾雅史、永山正隆、斎田良知、高澤祐治、池田浩、岡田保典、黒澤尚、金子和夫
変形性膝関節症の運動療法 -その意義と実際-
ペインクリニック, 2018.09; 39:1215-1228

35. 福島理文, 島田和典
サッカーと心臓
臨床スポーツ医学, 2018.06; 35: 634-639

36. 高橋哲也, 藤原俊之, 横山美帆, 島田和典, 代田浩之

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

「心不全の心臓リハビリテーション標準プログラム」に準じたリハビリテーションプログラム
Journal of Clinical Rehabilitation. 2018.07; 27: 765-772

37. 島田和典, 西崎祐史, 吉原琢磨, 塩澤知之, 相川達郎, 大内翔平, 國本充洋, 杉田有里那, 門口智泰, 林地のぞみ, 藤原圭, 喜多村健一, 蔡栄龍, 比企誠, 横山美帆, 宮崎哲朗, 代田浩之
心血管イベント発症予防のための Next Step 油と脂と脂肪酸を再考する
高崎医学, 2018.07; 68: 38-42

38. 島田和典
誌上ディベート“DHA? EPA?”
アンチエイジング医学—日本抗加齢医学会雑誌, 2018.10; 14: 93-99

39. 島田和典, 藤原圭
タバコと脳・循環器疾患
医学と薬学. 2018.11; 75: 1559-1564

40. 服部信孝
総論 ミトコンドリア異常と疾患、特集 ミトコンドリアの基礎と臨床
Medical Science Digest, 2018.09;44(10):552-554,

41. 堀正明, 萩原彰文, 神谷昂平, 鶴島康晃, 福永一星, 鶴田昂平, 青木茂樹
脊髄
脊椎脊髄ジャーナル,2018.09 ; 31(9): 811-7

42. 隈丸加奈子, 青木茂樹
画像検査適正化の現況
画像診断 2018.11;38(14): 1346-52

43. 藤田翔平, 堀正明, 萩原彰文, 前川朋子, アンディカ クリスティナ, 入江隆介, 鎌形 康司, 神谷昂平, 横山和正, 青木茂樹
頭部領域における MRI の新技術と臨床応用：OGSE-DWI と synthetic MRI を中心に(株)インナービジョン,2018.10; 33(9): 45-8

【和文総説 2019 年】

1. 田村好史
運動で血糖値が下がるしくみ
細井雅之 糖尿病ケア 2019 年春季増刊 病気のしくみ・合併症・治療による変化がわかる 糖尿病の病態生理イラスト図鑑 株式会社メディカ出版, 2019.3.10; 188-191

2. 石島旨章, 羽田晋之介, 金子晴香, 青木孝子, 金子和夫
変形性膝関節症の画像診断(MRI)の最新のトレンド -骨棘と半月板位置異常（半月板逸脱)-, 特集「変形性膝関節症診断はこうなる？」
RadFan, 2019 年 2 月号, 68-73

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

3. 石島旨章，羽田晋之介，金子晴香，青木孝子，金子和夫
特集「変形性膝関節症診断はこうなる？」
RadFan, 2019 年 2 月号, 68-73

4. 西田友哉，綿田裕孝
GLP-1 受容体作動薬と循環器疾患－その大きな期待
循環器内科, 2019.03; 85(3):355-360

5. 小川渉，西村理明，池上博司，綿田裕孝，鈴木亮，浦上達彦，渥美義仁
糖尿病管理における Ambulatory Glucose Profile の臨床活用のためのアルゴリズム
糖尿病の最新治療, 2019.02; 10(2):102-113

6. 古川康彦，田村好史
ビグアナイド(metformin)
内科, 2019.03; 123(3):395-398

7. 金澤昭雄，綿田裕孝
糖尿病性腎臓病(DKD)の管理・治療戦略—糖尿病専門医の立場から
日本医事新報, 2019.01.26; 4944:44-48

8. 金澤昭雄，綿田裕孝
2 型糖尿病における腸内細菌叢とメトホルミンの関連
日本体質医学会雑誌, 2019.02; 81(1):18-24

9. 藤原圭，島田和典
Overuse/Underuse を見逃さないプロのみかたと対処法！
スタチン，薬局, 2019; 0270: 39-44

10. 三井田孝
脂質検査の選択とその読みかた
Medical Practice, 2019;36 34-38.

＜図書＞

【英文著書 2014 年】
1. Fujitani Y, Tamaki M, Fukunaka A,Watada H ;
Zinc and its role in the pathogenesis of type 2 diabetes
Zinc Signals in Cellular Functions and Disorders, Fukada T, Kambe T,Springer, Tokyo(Japan), 2014;269-283

【英文著書 2015】
1. Goto S, Kawakami K, Naito H, Katamoto S, Radak Z
Epigenetic Modulation of Gene Expression by Exercise.
Nutrition, Exercise and Epigenetics, Ageing Interventions Healthy Ageing and Longevity, Springer, 2015; 2: pp 85-100

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

【英文著書 2016】

1. Ishijima M, Saita Y, Kaneko H, Kinoshita M, Kaneko K
   The geometry of lower extremity and atypical femoral fractures
   Osteoporosis in Orthopaedics-Assessments and therapeutic options, Shimada, Yoichi, Miyakoshi, Naohisa (Eds.), Springer 2016;103-134

【英文著書 2017 年】

1. Inoshita T, Shiba-Fukushima K, Meng H, Hattori N, Imai Y.
   Monitoring Mitochondrial Changes by Alteration of the PINK1-Parkin Signaling in Drosophila.
   Methods Mol Biol, 2017 Mar 22; pp 1-11,

【英文著書 2018 年】

1. Hattori N, Saiki S.
   Editors, Mitophagy, Methods and Protocols, Methods in Molecular Biology 1759, John M. Walker, Series Editor, Humana Press, 2018

【和文著書 2014】

1. 宮塚健,綿田裕孝
   SGLT2 阻害薬による膵 β 細胞機能保護への期待を探る
   SGLT2 阻害薬のすべて，稲垣暢也,先端医学社，東京都(日本), 75-77, 2014

2. 田村好史
   肥満患者：肥満例でもインスリン療法を導入する場合
   インスリン療法最前線【第 3 版】2 型糖尿病へのアプローチ，河盛隆造，綿田裕孝，大村千恵,日本医事新報社，東京都(日本), 160-164, 2014

3. 田村好史
   運動処方のつくり方
   ヴィジュアル糖尿病臨床のすべて 糖尿病患者の食事と運動—考え方と進め方—，荒木栄一,山田祐一郎,中山書店，東京都(日本), 204-210, 2014

4. 綿田裕孝,高橋徳江
   だれでも無理なく続けられる糖尿病の満足ごはん
   女子栄養大学出版部，東京都(日本), 2014

5. 田村好史
   骨格筋からみた異所性脂肪と糖尿病
   異所性脂肪 メタボリックシンドロームの新常識【第 2 版】，小川佳宏,日本医事新報社，東京都, 45-66, 2014

6. 綿田裕孝,荻原健
   第 3 章血糖測定と低血糖発作へのブドウ糖投与 1.糖尿病,低血糖の病態と治療 B.糖尿病の病態と治療
   救急救命士標準テキスト【追補版】ショックへの輸液・ブドウ糖投与，救急救命士標準テキスト追補版編集員会,へるす出版，東京都(日本), 43-48, 2014

7. 河盛隆造(監修)
   【健康図解シリーズ】今すぐできる！血糖値を下げる 40 のルール，古川英二,学研パブリッシング，東京都(日本), 2014

8. 筒井恵美子，大村千恵,綿田裕孝
   糖尿病と高血圧の関係について教えてください。病態生理や臓器合併症への影響はどのように関連しているでしょうか？
   高血圧診療 Q&A155 エキスパートからの回答，北風政史,中外医学社，東京都(日本), 252-254, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

9. 岡山かへで, 大村千恵,綿田裕孝
インスリン製剤
重要薬マニュアル—この薬が選ばれる理由, 伊藤裕,医学書院, 東京都(日本), 120-121, 2014

10. 玉城晶子, 大村千恵,綿田裕孝
インスリンアスパルト（遺伝子組換え）
重要薬マニュアル—この薬が選ばれる理由, 伊藤裕,医学書院, 東京都(日本), 122-123, 2014

11. 玉城晶子, 大村千恵,綿田裕孝
インスリングラルギン（遺伝子組換え）
重要薬マニュアル—この薬が選ばれる理由, 伊藤裕,医学書院, 東京都(日本), 124-125, 2014

12. 本田彬, 大村千恵,綿田裕孝
グリメピリド
重要薬マニュアル—この薬が選ばれる理由, 伊藤裕,医学書院, 東京都(日本), 126-127, 2014

13. 登坂祐佳, 大村千恵,綿田裕孝
メトホルミン塩酸塩
重要薬マニュアル—この薬が選ばれる理由, 伊藤裕,医学書院, 東京都(日本), 128-129, 2014

14. 登坂祐佳, 大村千恵,綿田裕孝
ピオグリタゾン塩酸塩
重要薬マニュアル—この薬が選ばれる理由, 伊藤裕,医学書院, 東京都(日本), 130-131, 2014

15. 河合文香, 大村千恵,綿田裕孝
ボグリボース
重要薬マニュアル—この薬が選ばれる理由, 伊藤裕,医学書院, 東京都(日本), 132-133, 2014

16. 本田彬, 大村千恵,綿田裕孝
ナテグリナド
重要薬マニュアル—この薬が選ばれる理由, 伊藤裕,医学書院, 東京都(日本), 134-135, 2014

17. 筒井恵美子, 大村千恵,綿田裕孝
シタグリプチンリン酸塩水和物
重要薬マニュアル—この薬が選ばれる理由, 伊藤裕,医学書院, 東京都(日本), 136-137, 2014

18. 筒井恵美子, 大村千恵,綿田裕孝
ビルダグリプチン
重要薬マニュアル—この薬が選ばれる理由, 伊藤裕,医学書院, 東京都(日本), 138-139, 2014

19. 宮塚健,綿田裕孝
SGLT2 阻害薬の構造と機能
糖尿病の新たな治療選択 SGLT2 阻害薬の適正使用を目指して, 柏木厚典,フジメディカル出版, 東京都(日本), 28-32, 2014

20. 野見山崇,河盛隆造
第 2 章糖尿病とは A.糖尿病の疾患概念と病態 4.梅毒症
糖尿病研修ノート【改訂第 2 版】, 門脇孝, 加来浩平, 花房俊昭, 羽田勝計, 稲垣暢也, 出雲博子, 谷澤幸生,診断と治療社, 東京都(日本), 89-92, 2014

21. 佐藤文彦, 田村好史,河盛隆造
第 4 章治療 C.運動療法 1.運動の理論
糖尿病研修ノート【改訂第 2 版】, 門脇孝, 加来浩平, 花房俊昭, 羽田勝計, 稲垣暢也, 出雲博子, 谷澤幸生,診断と治療社, 東京都(日本), 286-288, 2014

22. 佐藤文彦, 田村好史,河盛隆造
第 4 章治療 C.運動療法 2.運動療法の指導法
糖尿病研修ノート【改訂第 2 版】, 門脇孝, 加来浩平, 花房俊昭, 羽田勝計, 稲垣暢也, 出雲博

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

子，谷澤幸生,診断と治療社，東京都(日本), 289-291, 2014

23. 渡邉隆宏,綿田裕孝
第 4 章治療 F.インスリンによる治療 5.入院中のインスリン療法
糖尿病研修ノート【改訂第 2 版】，門脇孝，加来浩平，花房俊昭，羽田勝計，稲垣暢也，出雲博子，谷澤幸生,診断と治療社，東京都(日本), 348-353, 2014

24. 大村千恵,綿田裕孝
糖尿病治療目標と治療総論
糖尿病治療のニューパラダイム【第 1 巻 ライフスタイルの改善～食事療法、運動療法 j を中心に～】，加来浩平，綿田裕孝，松田昌文，池上博司，宇都宮一典,医薬ジャーナル社，東京都(日本), 111-120, 2014

25. 田村好史
有酸素運動の目標値と実際
糖尿病治療のニューパラダイム【第 1 巻 ライフスタイルの改善～食事療法、運動療法 j を中心に～】，加来浩平，綿田裕孝，松田昌文，池上博司，宇都宮一典,医薬ジャーナル社，東京都(日本), 200-205, 2014

26. 河盛隆造
血糖降下薬による一次予防の治療戦略
糖尿病治療のニューパラダイム【第 2 巻】薬物療法の実践～血糖降下薬を中心に～，加来浩平，松田昌文，綿田裕孝，池上博司，宇都宮一典,医薬ジャーナル社，東京都(日本), 103-112, 2014

27. 弘世貴久,河盛隆造
糖代謝総論
病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第 4 版】，医療情報科学研究所,MEDIC MEDIA,東京都(日本), 4-11, 2014

28. 弘世貴久,河盛隆造
糖尿病
病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第 4 版】，医療情報科学研究所,MEDIC MEDIA,東京都(日本), 12-17, 2014

29. 弘世貴久,河盛隆造
2 型糖尿病
病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第 4 版】，医療情報科学研究所,MEDIC MEDIA,東京都(日本), 22-29, 2014

30. 弘世貴久,河盛隆造
糖尿病の診断
病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第 4 版】，医療情報科学研究所,MEDIC MEDIA,東京都(日本), 30-34, 2014

31. 弘世貴久,河盛隆造
糖尿病のコントロールと治療
病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第 4 版】，医療情報科学研究所,MEDIC MEDIA,東京都(日本), 35-42, 2014

32. 弘世貴久,河盛隆造
経口血糖降下薬
病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第 4 版】，医療情報科学研究所,MEDIC MEDIA,東京都(日本), 43-47, 2014

33. 弘世貴久,河盛隆造
インスリン療法
病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第 4 版】，医療情報科学研究所,MEDIC MEDIA,東京都(日本), 53-59, 2014

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

34. 弘世貴久,河盛隆造
糖尿病急性合併症
病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第 4 版】, 医療情報科学研究所,MEDIC MEDIA, 東京都(日本), 60-61, 2014

35. 弘世貴久,河盛隆造
糖尿病昏睡
病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第 4 版】, 医療情報科学研究所,MEDIC MEDIA, 東京都(日本), 62-65, 2014

36. 弘世貴久,河盛隆造
低血糖症
病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第 4 版】, 医療情報科学研究所,MEDIC MEDIA, 東京都(日本), 66-67, 2014

37. 弘世貴久,河盛隆造
糖尿病慢性合併症
病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌【第 4 版】, 医療情報科学研究所,MEDIC MEDIA, 東京都(日本), 68-69, 2014

38. 服部信孝.
抗パーキンソン病薬、治療薬ハンドブック 2014 薬剤選択と処方のポイント（監修：高久史麿、編集：堀正二、他）
75-79、2014 年 1 月 15 日発行、株式会社 じほう、東京

39. 波田野琢、服部信孝、有村芳子.
嚥下障害、第4章 有病者の栄養管理、スマート栄養学管理術 123 -栄養とスポーツの管理が重要であるこれだけの理由-
富野康日己 編、医歯薬出版株式会社、222-228、2014 年 1 月 25 日、東京

40. 富山弘幸、服部信孝
12 番染色体に連鎖する遺伝性パーキンソン病（PARK8）、III変性疾患、錐体外路系疾患・パーキンソニズムを主とする疾患、家族性パーキンソン病 優性遺伝性パーキンソン症候群、
別冊 日本臨床 新領域別症候群シリーズ No.27、神経症候群（第 2 版）（II） －その他の神経疾患を含めて－、77-81、2014 年 3 月 20 日、日本臨床社、大阪

41. 西岡健弥、服部信孝
6 番染色体に連鎖する遺伝性パーキンソン病（PARK2）、III変性疾患、錐体外路系疾患・パーキンソニズムを主とする疾患、家族性パーキンソン病 優性遺伝性パーキンソン症候群
別冊 日本臨床 新領域別症候群シリーズ No.27、神経症候群（第 2 版）（II） －その他の神経疾患を含めて－、88-92、2014 年 3 月 20 日、日本臨床社、大阪

42. 波田野琢、服部信孝
1 番染色体に連鎖する遺伝性パーキンソン病（PARK6, PARK7, PARK9(Kufor-Rakeb 症候群), PARK10, PARK16）、III変性疾患、錐体外路系疾患・パーキンソニズムを主とする疾患、家族性パーキンソン病 優性遺伝性パーキンソン症候群
別冊 日本臨床 新領域別症候群シリーズ No.27、神経症候群（第 2 版）（II） －その他の神経疾患を含めて－、93-98、2014 年 3 月 21 日、日本臨床社、大阪

43. 舩山 学、安藤真矢、服部信孝.
16 番染色体に連鎖する遺伝性パーキンソン病（PARK17）、III変性疾患、錐体外路系疾患・パーキンソニズムを主とする疾患、家族性パーキンソン病 優性遺伝性パーキンソン症候群
別冊 日本臨床 新領域別症候群シリーズ No.27、神経症候群（第 2 版）（II） －その他の神経疾患を含めて－、82-85、2014 年 3 月 20 日、日本臨床社、大阪

44. 内藤久士, 町田修一, 吉原利典
Section 5 運動と筋－4 骨格筋の肥大と萎縮
ニュー運動生理学(I). p224-33, 宮村実晴編, 真興交易株式会社医書出版部, 東京, 2014.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

【和文著書 2015】

1. 平山哲
   第 109 回医師国家試験　問題解説書
   第 109 回医師国家試験　問題解説書　第1版，医学評論社，東京，p74, 75, 91, 92, 369, 370；2015

2. 三井田孝.
   LDL-C 測定法の現状と将来の課題.
   高 LDL-C 血症　低 HDL-C 血症（最新医学別冊　診断と治療の ABC 101），倉林正彦(企画)，大坂，最新医学社, 2015; 119-125

3. 三井田孝.
   総コレステロール (TC)・LDL-コレステロール (LDL-C).
   日常診療のための検査値のみかた，野村文夫、村上正巳、和田隆志、末岡榮三郎(編)，東京，中外医学社, 2015; 193-195

4. 三井田孝.
   HDL-コレステロール.
   日常診療のための検査値のみかた，野村文夫、村上正巳、和田隆志、末岡榮三郎(編)，東京，中外医学社, 2015; 198-199

5. 宮塚健，綿田裕孝，河盛隆造　（編集）門脇孝，荒木栄一，稲垣暢也，植木浩二郎，羽田勝計，綿田裕孝
   糖代謝
   糖尿病学, 2015; 2-7

6. 河盛隆造（編集）荒木栄一，稲垣暢也
   α-グルコシダーゼ阻害薬（α-GI）と大血管障害に関するエビデンス
   糖尿病治療薬の最前線, 2015; 改訂第 2 版: 66-72

7. 佐藤淳子，綿田裕孝（編集）寺内康夫
   ピオグリタゾンと骨折との関連性について教えてください
   いま知っておきたい　経口糖尿病治療薬の疑問 76, 2015; 210-215

8. 佐藤淳子，綿田裕孝（編集）寺内康夫
   チアゾリジン薬の注意すべき副作用とその対策は？
   いま知っておきたい　経口糖尿病治療薬の疑問 76, 2015; 207-209

9. 荻原健，綿田裕孝　（編集）桂田菊嗣，山本保博，杉本壽，堤晴彦，森村尚登，　山口芳裕，大橋教良，尾形純一，輿水健治，櫻井淳，瀧野昌也,玉川進，中田康城，畑中哲生，平出敦，菩提寺浩，宮野收
   糖尿病とその合併症
   救急救命士標準テキスト　下巻, 2015; 改訂第 9 版: 800-807

10. 荻原健，綿田裕孝（編集）荒木栄一，稲垣暢也
    α-グルコシダーゼ阻害薬（α-GI）
    糖尿病治療薬の最前線, 2015; 改訂第 2 版: 60-65

11. 加賀英義，田村好史，綿田裕孝　編集）加来浩平，綿田裕孝，松田昌文，池上博司，宇都宮一典
    SGLT2 阻害薬の作用・作用機序と適応・禁忌
    SGLT2 阻害薬の使用指針～市販後の実臨床から適性使用を考える～, 2015; 糖尿病治療のニューパラダイム別巻: 8-18

12. 藤谷与士夫，綿田裕孝（編集）門脇孝
    IAPP による膵 β 細胞障害
    糖尿病学 2015,2015; 10-16

13. 金澤昭雄，綿田裕孝（編集）門脇孝

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

2 型糖尿病における腸内フローラの意義－その臓器としての役割
糖尿病学 2015,2015; 100-109

14. 金澤昭雄, 綿田裕孝（編集）門脇孝, 荒木栄一, 稲垣暢也, 植木浩二郎, 羽田勝計,綿田裕孝
インスリン
糖尿病学, 2015; 373-384

15. 本田彬, 三田智也, 綿田裕孝（編集）西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫, 益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎, 二木芳人
【7.代謝性疾患】⑪高尿酸血症
内科外来処方 navi, 2015; 145

16. 船山崇, 三田智也, 綿田裕孝（編集）西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫, 益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎, 二木芳人
【7.代謝性疾患】⑩高中性脂肪血症薬
内科外来処方 navi, 2015; 144

17. 飯田雅, 三田智也, 綿田裕孝（編集）西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫, 益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎,二木芳人
【7.代謝性疾患】⑨家族性高コレステロール血症
内科外来処方 navi, 2015; 143

18. 遅野井雄介, 三田智也, 綿田裕孝（編集）西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫,益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎, 二木芳人
【7.代謝性疾患】⑧高 LDL 血症
内科外来処方 navi, 2015; 141-142

19. 中島健一, 三田智也, 綿田裕孝 （編集）西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫, 益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎, 二木芳人
【7.代謝性疾患】⑦胃切除後糖尿病
内科外来処方 navi, 2015; 140

20. 加賀英義, 三田智也, 綿田裕孝（編集）西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫, 益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎, 二木芳人
【7.代謝性疾患】⑥ステロイド糖尿病
内科外来処方 navi, 2015; 139

21. 古川康彦, 三田智也, 綿田裕孝（編集）西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫, 益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎, 二木芳人
【7.代謝性疾患】⑤肝疾患合併糖尿病
内科外来処方 navi, 2015; 138

22. 本田彬, 三田智也, 綿田裕孝（編集）西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫, 益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎, 二木芳人
【7.代謝性疾患】④膵性糖尿病
内科外来処方 navi, 2015; 137

23. 船山崇, 三田智也, 綿田裕孝（編集）西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫, 益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎,二木芳人
【7.代謝性疾患】③やせ型の 2 型糖尿病
内科外来処方 navi, 2015; 136

24. 飯田雅, 三田智也, 綿田裕孝 （編集）西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫,益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎,二木芳人
【7.代謝性疾患】②肥満合併 2 型糖尿病
内科外来処方 navi, 2015; 135

25. 三浦正樹, 三田智也, 綿田裕孝 （編集）西村正治, 長谷部直幸, 田尻久雄, 渡辺純夫, 小松則夫, 益崎裕章, 綿田裕孝, 高木誠, 富野康日己, 今井裕一, 水谷太郎, 二木芳人

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

【7.代謝性疾患】①1 型糖尿病
内科外来処方 navi, 2015; 134

26. 宮塚健, 綿田裕孝（編集）井村裕夫, 清野進, 石井秀始
膵臓 β 細胞再生研究の現状
膵島の再生医療—膵 β 細胞の発生と再生をめぐる新展開—, 2015；108-112

27. 田村好史（編集）田城孝雄, 内藤久士
5.運動とメタボリックシンドローム
健康長寿のためのスポートロジー, 2015; 70-79

28. 田村好史 （編集）田城孝雄, 内藤久士
6.運動と糖尿病
健康長寿のためのスポートロジー, 2015; 80-92

29. 加賀英義, 田村好史（編集）門脇孝, 荒木栄一, 稲垣暢也, 植木浩二郎, 羽田勝計,綿田裕孝
運動療法
糖尿病学, 2015; 339-348

30. 加賀英義, 鈴木瑠璃子, 田村好史（編集）清野裕, 門脇孝, 南条輝志男, 大平雅美, 石黒友康, 野村卓生
血糖降下のメカニズムとエビデンス
糖尿病の理学療法, 2015; 82-91

31. 鈴木瑠璃子, 田村好史（編）齋藤英胤, 木下茂, 斎藤一郎, 堀江重郎, 南野徹, 山田秀和, 米井嘉一, 葦沢龍人, 新村健
筋・骨格のアンチエイジングと運動の生理学・生化学
アンチエイジング医学の基礎と臨床, 2015

32. 頼高朝子、服部信孝.
パーキンソン病・アルツハイマー型認知症、
コエンザイム Q10 の基礎と応用、編者：日本コエンザイム Q 協会、発行所：丸善プラネット㈱、発売所：丸善出版（株）、pp 97-104, 2015, 東京

33. 下泰司、服部信孝
2-①基底核の変性疾患 Pakinson 病、B 変性疾患、
神経内科 研修ノート（シリーズ監修 永井良三）、 pp 277-280、診断と治療社、2015 年 1 月 5 日、東京

34. 島田和典
運動と心血管疾患（1）.健康長寿のためのスポートロジー
NHK 出版. 東京. 93-109; 2015.

35. 島田和典
運動と心血管疾患（2）.健康長寿のためのスポートロジー
NHK 出版. 東京. 110-123; 2015.

36. 内藤久士 (田城孝雄他 9 名と分担執筆)
運動と骨格筋, 子どもの体力・運動能力の現状とその課題
健康長寿のためのスポートロジー, 田城孝雄, 内藤久士 (編), NHK, 2015; pp.180-196, pp.243-258.

37. 石島旨章
運動と運動器疾患(1) -運動と骨粗鬆症-
健康長寿のためのスポートロジー, 124-147, 放送大学教材, 放送大学教育振興会(発行), 2015 年 3 月(発刊)

38. 石島旨章
運動と運動器疾患(2) -運動と変形性膝関節症-

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

健康長寿のためのスポートロジー, 148-179, 放送大学教材, 放送大学教育振興会(発行), 2015 年 3 月(発刊)

【和文著書 2016 年】

1. 三井田孝
脂質検査の採血は空腹時それとも非空腹時？—何を測りどう解釈する？—.
そうだったんだ！脂質異常症—メカニズムがわかれば治療が変わる—. 伊藤 浩（編）, 東京; 文光堂, 2016; 118-123

2. 平山哲, 三井田孝
酸化 LDL の計測と問題点.
そうだったんだ！脂質異常症—メカニズムがわかれば治療が変わる—. 伊藤 浩（編）, 東京; 文光堂, 2016; 84-86

3. 平山哲, 三井田孝
small dense LDL, レムナントの存在を血液検査からどう推定する？
そうだったんだ！脂質異常症—メカニズムがわかれば治療が変わる—. 伊藤 浩（編）, 東京; 文光堂, 2016; 124-125

4. 平山哲
第 110 回医師国家試験問題解説書
第 110 回医師国家試験問題解説書 第1版. 医師国家試験問題解説書編集委員会編, 東京; 医学評論社, 2016; 96, 337, 346, 348, 349

5. 木下真由子, 石島旨章
Q&A デノスマブ中止後も骨粗鬆症治療は継続する必要はあるのでしょうか
ファーマナビゲーターシリーズ 抗 RANKL 抗体編, 第 1 版, 408-411, 2016

6. 藤谷与士夫, 綿田裕孝 （編集）寺内康夫, 伊藤裕, 石橋俊
膵島アミロイドと膵 β 細胞
Annual Review2016 糖尿病・代謝・内分泌, 2016; 5-12, 2016.1

7. 田村好史（監修）山口徹, 北原光夫（総編集）福井次矢, 高木誠, 小室一成
糖尿病の運動療法
今日の治療指針, 2016; 746-747, 2016.1.1

8. 加賀英義, 田村好史（編集）羽田勝計, 門脇孝, 荒木栄一
運動療法の効果と実際、注意点
糖尿病最新の治療 2016-2018, 2016; 101-109, 2016.2.10

9. 登坂祐佳, 綿田裕孝（編集）伊藤浩, 綿田裕孝
Q45. α-グルコシダーゼ阻害薬の作用機序と心血管事故予防の臨床エビデンスに関して教えてください。
心血管事故を予防するための糖尿病治療戦略 実践のための Q&A, 2016; 176-178, 2016.3.1

10. 田村好史（編集）細井雅之
1. 運動療法をまずはやってみよう！
魔法の糖尿病患者説明シート, 2016; 168-171, 2016.3.5

11. 鈴木路可, 宮塚健, 綿田裕孝 （編集）寺内康夫, 田島一樹, 近藤義宣
Q41.TZD 薬の作用機序を教えてください
糖尿病治療薬クリニカルクエスチョン 120 ー多様な薬剤をうまく使いこなすためにー, 診断と治療社, 2016; 87, 2016.5.25

12. 佐藤淳子, 三田智也, 綿田裕孝
血糖降下薬による治療（インスリンを除く）
糖尿病診療ガイドライン 2016, 日本糖尿病学会, 2016; 83-122, 2016.6

13. 江島弘晃, 田村好史（編集）熊谷秋三, 田中茂穂, 藤井宣晴

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

7-3.脂肪組織および異所性脂肪
身体活動・座位行動の科学～疫学・分子生物学から探る健康～, 2016; 178-184, 2016.9.20

14. 田村好史（編集）石黒友康, 田村好史
Q12.脂肪筋・脂肪肝とインスリン抵抗性について教えてください
理学療法士のためのわかったつもり?!の糖尿病知識 Q&A, 医歯薬出版株式会社, 2016; 第 1 版: 24-25, 2016.10.25

15. 田村好史（編集）石黒友康, 田村好史
Q11.内臓脂肪の増加によりインスリン抵抗性が生じるのはなぜか教えてください
理学療法士のためのわかったつもり?!の糖尿病知識 Q&A, 医歯薬出版株式会社, 2016; 第 1 版: 22-23, 2016.10.25

16. 田村好史（編集）石黒友康, 田村好史
Q14.「糖のながれ」とは何ですか？
理学療法士のためのわかったつもり?!の糖尿病知識 Q&A, 医歯薬出版株式会社, 2016; 第 1 版:28-29, 2016.10.25

17. 田村好史（編集）石黒友康, 田村好史
Q15.糖質代謝における肝臓の役割について教えてください
理学療法士のためのわかったつもり?!の糖尿病知識 Q&A, 医歯薬出版株式会社, 2016; 第 1 版:30-31, 2016.10.25

18. 田村好史（編集）石黒友康, 田村好史
Q17.運動による糖取り込み亢進の分子メカニズムを簡単に教えてください
理学療法士のためのわかったつもり?!の糖尿病知識 Q&A, 医歯薬出版株式会社, 2016; 第 1 版:34-35, 2016.10.25

19. 田村好史（編集）石黒友康, 田村好史
Q20.血糖コントロール目標値はどのように定められたのですか？
理学療法士のためのわかったつもり?!の糖尿病知識 Q&A, 医歯薬出版株式会社, 2016; 第 1 版:42-43, 2016.10.25

20. 田村好史 （編集）石黒友康, 田村好史
Q34.ポリオール代謝異常について教えてください
理学療法士のためのわかったつもり?!の糖尿病知識 Q&A, 医歯薬出版株式会社, 2016; 第 1 版:72-73, 2016.10.25

21. 加賀英義, 田村好史, 河盛隆造（編集）柴輝男, 安原洋
第 3 章 運動療法
新体系看護学全書別巻 治療法概説, メヂカルフレンド社, 2016; 別巻: 77-96, 2016.12

22. 奈良橋俊子, 金澤昭雄, 鈴木瑠璃子, 福村由紀, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
血糖コントロール増悪から診断まで約 2 年を要した糖尿病合併自己免疫性膵炎
糖尿病, 2016; 59(12): 798-804, 日本糖尿病学会, 2016.12.30

23. 宮塚健, 綿田裕孝（編集）羽田勝計, 門脇孝, 荒木栄一
膵/膵島再生の最前線
糖尿病最新の治療 2016-2018, 2016; 7-11, 2016.2.10

24. 島田和典.
リハビリテーションのエビデンス構築に必要な点.
心不全患者に寄り添う包括的心臓リハビリテーションを極める, 文光堂, 東京, 28-31; 2016.

25. 平野景子, 代田浩之
医療倫理と研究倫理
永井良三（責任編集）, 循環器研修ノート改訂第 2 版. 診断と治療社, 2016; 71-72

26. 服部信孝

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

7. 大脳変性疾患、II 錐体外路系疾患、1～9、監修；平山惠造、編集；廣瀬源二郎、田代邦雄、葛原茂樹
臨床神経内科学、第 6 版 1 刷、pp409-441、ページ数 36 /ページ総数 968, 南山堂, 東京, 2016.02.15

27. 佐藤 猛, 服部信孝, 村田美穂
パーキンソン病・パーキンソン症候群の在宅ケア -合併症・認知症の対応
看護ケア-, 中央法規出版株式会社, 東京, 2016.05.30

【和文著書 2017 年】

1. 荻原健, 綿田裕孝 （監修）檜垣實男（編集）綿田裕孝, 大石充
糖尿病と循環器病 一歩進んだ糖尿病循環器学
医薬ジャーナル社, 2017; 348-354, 2017.3.16

2. 綿田裕孝（編集）河盛隆造, 綿田裕孝
インフォームドコンセントのための図説シリーズ 糖尿病 改訂版
医薬ジャーナル社, 2017; 2017.2.20

3. 大内翔平, 宮﨑哲朗, 代田浩之
"8 章 糖尿病治療薬の循環器疾患関連エビデンス
3. チアゾリジン薬"
糖尿病と循環器病 一歩進んだ糖尿病循環器学 －Diabetic Cardiology－, 2017.03 発行, 311-317

4. 伊藤宣, 石島旨章, 岡崎賢
変形性関節症
シリーズ・骨の話④ 変形性関節症, ミネルヴァ書房, 2017.01.20 初版

5. 医歯薬出版株式会社・監訳者 金子和夫
X 線読影サバイバルガイド（原著第3版）
2017.02.20；第1版第1刷発行

6. 桜井隆, 服部信孝
【放送大学教材・テレビ】「疾病の回復を促進する薬」, 服部信孝：末梢神経に作用する薬, 中枢神経系に作用する薬(1),(2),
放映 2017 年 4 月～5 月, 再放送 7 月～8 月. p35-79(総ページ数 263), 2017.03.20
第 1 刷, 編集者：桜井隆, 服部信孝, 発行所：一般在団法人放送大学教育振興会, 東京

7. 佐藤栄人, 服部信孝
ATP13A2
脳内環境辞典, pp104-105 （総ページ数 156）, 編集；高橋良輔, 山中宏二, 樋口真人, 漆原真, 発行所：メディカル ドゥ, 大阪.2017.3.31 発売

8. 服部信孝
抗パーキンソン病薬

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

治療薬ハンドブック 2017, 監修:高久史麿, 編集:堀正二, 菅野健太郎, 門脇孝, 乾賢一, 林昌洋, 発行所:株式会社 じほう, pp79-100 (総ページ数 1543)、2017.01.15

9. 金子和夫
第 38 章 骨折・脱臼
標準整形外科;2017: 第 13 版:759-830,医学書院

10. 綿田裕孝 （編集）綿田裕孝
糖尿病研究の進歩と残された課題
糖尿病～研究の“いま”と治療の“これから”～, 羊土社, 2017; 35(2): 10-14, 2017.2.1

11. 綿田裕孝（編集）綿田裕孝
膵 β 細胞容積調節機構とその破綻－細胞増殖、細胞死、脱分化
糖尿病～研究の“いま”と治療の“これから”, 羊土社, 2017; 35(2): 29-34, 2017.2.1

12. マイケル S. オークン 著, 大山彦光・服部信孝 訳
パーキンソン病とともに生きる-幸福のための 10 の鍵-（日本語版）
アルタ出版, 2017.01.10, 第 1 版第1刷

13. 今居 譲, 柴佳保里, 服部信孝.
遺伝子から探るパーキンソン病病態へのミトコンドリアの関与、
ミトコンドリア研究 UPDATE, 医学のあゆみ, 260: 85-91, 2017

14. 登坂祐佳, 綿田裕孝（編集）稲垣暢也
高齢者における糖尿病治療薬の使い方
フジメディカル出版, 2017.6.1; 62-67

15. 古川康彦, 田村好史 （編集）中條大輔, 山田和彦
人工膵臓取り扱いマニュアル
診断と治療社, 第 1 版, 2017.5.15;37-42,

16. 三井田孝（寺本民生, 木庭新治, 本田佳子, 朝倉比都美編）
HDL コレステロール値と冠動脈疾患発症率に相関関係があるのはなぜですか？（『脂質異常症の最新食事療法のなぜに答える 基礎編』）
医歯薬出版, 2017.12; 61-65.

17. 平山哲
第 111 回医師国家試験問題解説書 第1版
医師国家試験問題解説書編集委員会編, 医学評論社, 東京, 2017.04; 158, 159, 244, 245, 487, 543, 544

18. 島田和典
異物による窒息の場合に遭遇した時は・・
スポーツ救命講習会テキスト, 公益財団法人日本サッカー協会編, 金原出版, 東京, 2017.5.20; 34-35

19. 木下真由子, 石島旨章, 長尾雅史, 金子晴香, 金子和夫

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

骨粗鬆症の薬剤プリファレンス -治療選択のコツ
効果につなげる薬物療法アドヒアランスの改善，初版,医薬ジャーナル社, 2017.08; 133-45

20. 金子晴香，石島旨章，金子和夫
第 3 章 骨の構造と疲労骨折の病理
疲労骨折，石橋恭之編，金芳社，第 1 版　2017 年 11 月刊行

21. 金子晴香，石島旨章，金子和夫
第 4 章 疲労骨折と骨代謝
疲労骨折，石橋恭之編，金芳社，第 1 版　2017 年 11 月刊行

22. 島田和典，和田英樹
喫煙．動脈・静脈の疾患（上）—最新の診断・治療動向—
日本臨牀第 75 巻増刊号 4，日本臨牀社，東京, 2017.05; 74-78

23. 金子和夫
整形外科 SURCICAL TECHNIQUE
メディカル出版, 2017; 7(5)

24. 小林洋平，齋田良知，池田浩，金子和夫
【アスリートの肉離れ-今、何が問題なのか-】肉離れに対する最新の治療法　肉離れに対する PRP 療法
臨床スポーツ医学 (0289-3339), 2017.08; 34(8) 825-829

25. 齋田良知，池田浩，小林洋平，金子和夫
【アスリートの肉離れ-今、何が問題なのか-】肉離れの臨床　サッカーにおける肉離れ
臨床スポーツ医学 (0289-3339), 2017.08; 34(8): 758-764

26. 今居譲，柴佳保里，服部信孝
遺伝子から探るパーキンソン病病態へのミトコンドリアの関与、ミトコンドリア研究 UPDATE
医学のあゆみ, 2017.08; 260: 85-91

27. 服部信孝，今居譲，柴佳保里
2．劣性遺伝性若年性パーキンソン病(AR-JP)の臨床、病理、分子遺伝学、第 1 章 脳神経病理変化
実験医学（増刊）認知症 発症前治療のために解明すべき分子病態とはなにか?，羊土社，2017.08; 35(12): 21-26,

28. 大垣光太郎，西岡健弥，服部信孝
【最新遺伝医学研究と遺伝カウンセリング シリーズ 2 最新精神・神経遺伝医学研究と遺伝カウンセリング】(第 2 章)精神・神経疾患の遺伝医学研究・診療各論 パーキンソン病の遺伝子研究
遺伝子医学 MOOK 別冊，最新精神・神経遺伝医学研究と遺伝カウンセリング，2017.04; 125-131,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

【和文著書 2018 年】

1. 服部信孝
   抗パーキンソン病薬
   治療薬ハンドブック 2018,監修:高久史麿,編集:堀正二,菅野健太郎,門脇孝,乾賢一,林昌洋,発行所:株式会社 じほう (総ページ数 1538), 2018.1.15; 79-99

2. 上野 隆
   オートファジー研究の歴史;プレ ATG 時代
   オートファジー:分子メカニズムの理解から病態の解明まで,大隅良典監修, 吉森保,水島昇,中戸川仁編集,南山堂, 2018.1 The frontiers in life sciences

3. 綿田裕孝
   ステロイド糖尿病 (編集)稲垣暢也, 石原寿光, 矢部大介, 綿田裕孝
   DxM アルタ出版, 2018.02.10; 19

11. 三井田孝
    TG の測定法と標準化
    高 TG 血症(最新医学別冊 診断と治療の ABC 138), 倉林正彦(企画)), 最新医学社, 2018.09; 94-100

12. 三井田孝
    6. 脂質異常症の診断基準と手順. 6-2. 鑑別診断手順
    脂質異常症診療ガイド 2018 年版, 日本動脈硬化学会編, 日本動脈硬化学会, 2018; 26-28

13. 三井田孝
    22. Q&A. Q5 LDL-C 測定法に計算式と直接法がありますがどう使い分ければよいですか？違いと使い方を教えてください
    脂質異常症診療ガイド 2018 年版, 日本動脈硬化学会編, 日本動脈硬化学会, 2018; 142

14. 三井田孝
    22. Q&A. Q6 LDL-C 直接法は不正確だと聞きましたが本当ですか？
    脂質異常症診療ガイド 2018 年版, 日本動脈硬化学会編, 日本動脈硬化学会, 2018; 142

15. 三井田孝,
    中性脂肪
    50 人の専門医が教える検査と検査値の話,日本衛生検査所協会編, 日本衛生検査所協会, 2018.12.14; 86-87

16. 三井田孝
    食事時間と検査値
    50 人の専門医が教える検査と検査値の話, 日本衛生検査所協会編, 日本衛生検査所協会, 2018.12.14; 128-129,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

17. 平山哲
医師国家試験問題解説書編集委員会編
第 112 回医師国家試験問題解説書，医学評論社 (東京), 2018; 第1版: 214, 407, 471

18. 内田豊義，綿田裕孝
2. 各種薬剤との併用の実際と,可能性-配合剤の位置づけも含めて-（編集）稲垣暢也 SGLT2 阻害薬のすべて 第 2 版 先端医学社, 2018.05.30; 129-138

19. 綿田裕孝
糖尿病・内分泌、代謝の異常による病気
家庭の医学 — すぐわかる よくわかる 主婦の友社, 2018.01.19; 512-533

20. 田村好史
序（編著）田村好史 今度こそできる！糖尿病運動療法
サイエンス＆プラクティス 医歯薬出版株式会社, 2018.05.25; IV-V

21. 田村好史
4 糖尿病患者における運動による血糖降下メカニズム（編著）田村好史 今度こそできる！糖尿病運動療法
サイエンス＆プラクティス 医歯薬出版株式会社, 2018.05.25; 27-35

22. 鈴木大地，河盛隆造，田村好史
糖尿病医療とスポーツ行政の接点を探る（編著）田村好史 今度こそできる！糖尿病運動療法
サイエンス＆プラクティス 医歯薬出版株式会社, 2018.05.25; ViiI-XV

23. 及川達也，長尾宗彦，木野孝一，綿田裕孝
2 型糖尿病患者におけるレパグリニドとビグアナイド系またはチアゾリジン系薬剤との長期併用時の安全性および有効性の検討
新薬と臨牀 医薬情報研究所, 2018.04.10; 67(4): 3-42

24. 田村好史
メタボリック症候群の主役はインスリン抵抗性である (編集)坂井建雄，石崎泰樹
人体の細胞生物学 日本医事新報社, 2018.11.09; 244-245,

25. 綿田裕孝
インスリン分泌低下とインスリン抵抗性により糖尿病が起こる (編集)坂井建雄，石崎泰樹
人体の細胞生物学 日本医事新報社, 2018.11.09; 246-247

26. 綿田裕孝
3 血糖コントロールに影響を及ぼす主な薬剤（編集）寺内康夫，荒木厚
糖尿病×〇〇〇の診かた考えかた 南江堂, 2018.05.05

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

27. 綿田裕孝
糖代謝-総論（編集）日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医研修ガイドブック
診断と治療社, 2018.05.18; 588-592

28. 服部信孝, 藤本健一
監修、【脳の病気】パーキンソン病 脳の異常によってからだの運動機能に障害が表れる病気
差がつく 70 歳からの病気 サインと最新治療、人生 100 年時代に備える, 朝日新聞出版, 2018.05.21;14-20

29. 服部信孝
パーキンソン病診療ガイドライン 2018
監修 日本神経学会, 編集「パーキンソン病診療ガイドライン」作成委員会,総ページ数 288,医学書院, 2018.05, パーキンソン病診療ガイドライン委員長

【和文著書 2019 年】

1. 田村好史
運動とメタボリックシンドローム
田城孝雄, 内藤久士 改訂版 健康長寿のためのスポートロジー 一般財団法人 放送大学教育振興会, 2019.3.20; 68-78

2. 田村好史
運動と糖尿病
田城孝雄, 内藤久士 改訂版 健康長寿のためのスポートロジー 一般財団法人 放送大学教育振興会, 2019.3.20; 79-93

3. 門脇孝, 荒木栄一, 綿田裕孝
糖尿病最新の治療 2019-2021
南江堂, 2019.2.16; 104-106

4. 島田和典
Q12 タバコの煙より車の排気ガスを吸うほうが有害では？
タバコ Q&A 改訂第 2 版 喫煙・受動喫煙も最新知識～新型タバコの問題点～ 東京都医師会, 2019.03;17

5. 島田和典
Q21 なぜ飲食店の店内を禁煙にする必要があるのか？
タバコ Q&A 改訂第 2 版 喫煙・受動喫煙も最新知識～新型タバコの問題点～ 東京都医師会, 2019.03;28

6. 島田和典
Q22 分煙ではだめなのか？
タバコ Q&A 改訂第 2 版 喫煙・受動喫煙も最新知識～新型タバコの問題点～ 東京都医師会, 2019.03;29

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

7. 島田和典
改訂版　運動と心血管疾患（1）
健康長寿のためのスポートロジー，NHK 出版，東京, 2019.03;94-110

8. 島田和典
改訂版　運動と心血管疾患（2）
健康長寿のためのスポートロジー，NHK 出版，東京, 2019.03;111-124

9. 福島理文，島田和典
サッカー選手のメディカルチェック　内科領域
コーチとプレーヤーのためのサッカー医学テキスト第 2 版，公益財団法人日本サッカー協会医学委員会編　金原出版，東京, 2019.02;57-66

10. 福島理文，島田和典
サッカー選手の内科的疾患　消化器
コーチとプレーヤーのためのサッカー医学テキスト第 2 版，公益財団法人日本サッカー協会医学委員会編　金原出版，東京, 2019.02;265-270

11. 林英守，島田和典
サッカー選手の内科的疾患　循環器
コーチとプレーヤーのためのサッカー医学テキスト第 2 版，公益財団法人日本サッカー協会医学委員会編　金原出版，東京, 2019.02;275-283

12. 福島理文，島田和典
サッカー選手の内科的疾患　代謝・内分泌
コーチとプレーヤーのためのサッカー医学テキスト第 2 版，公益財団法人日本サッカー協会医学委員会編　金原出版，東京, 2019.02;284-287

13. 石島旨章
運動と運動器疾患 (1) -ロコモティブシンドローム-
改訂版　健康長寿のためのスポートロジー，第 1 刷, 2019.03.20; 125-152

14. 石島旨章
運動と運動器疾患 (2) -骨粗鬆症と変形性膝関節症-
改訂版　健康長寿のためのスポートロジー，第 1 刷, 2019.03.20; 153-182

＜学会発表＞

【学会発表（国際）2014 年】

1. Kakehi S, Tamura Y, Ikeda S, Kawamori R, Watada H
Physical inactivity and high fat diet synergistically enhance the accumulation of intramyocell
50th EASD Annual Meeting, Vienna(Austria), ポスター, 2014.09.15-19, 2014

2. Fujitani Y, Watada H
Role of autophagy in pancreatic βcells

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

2014 Northeastern Asian Symposium on Autophagy, Busan(Korea), ポスター, 2014.12.19-21, 2014

3. Iida H, Ogihara T, Fujitani Y,Watada H
JAK2/STAT5 pathway regulates the expression of tryptophan hydroxylase 1 (TPH1) during pregnancy in Mouse Islets
American Diabetes Association 74th Scientific Sessions, Sanfrancisco(America), ポスター, 2014.06.13-17, 2014

4. Miura M, Miyatsuka T, Matsuoka T, Fujitani Y, German M, Watada H
Parturition events terminate endocrine neogenesis
American Diabetes Association 74th Scientific Sessions, Sanfrancisco(America), ポスター, 2014.06.13-17, 2014

5. Sanke H, Mita T, Tamura Y, Ishida K, Komiya K, Hara K, Yokota A, Inagaki N, Yamashiro K, Yoshii H, Onuma T, Watada H
The relationship between olfactory dysfunction and cognitive impairment in elderly patients with type 2 diabetes mellitus
American Diabetes Association 74th Scientific Sessions, Sanfrancisco(America), ポスター, 2014.06.13-17, 2014

6. Sasaki S, Miyatsuka T, Takahara M, Kubo F, Miyashita K, Yamamoto Y, Yasuda T, Kawaguchi Y, Akiyama H, Kaneto H, Matsuoka T, Watada H, Shimomura I
Activation of GLP-1 and gastrin signaling induces β-cell neogenesis
American Diabetes Association 74th Scientific Sessions, Sanfrancisco(America), 口演, 2014.06.13-17, 2014

7. Sato J, Kanazawa A, Ikeda F, Shigihara N, Kawaguchi M, Komiya K, Uchida T, Ogihara T, Shimizu T, Fujitani Y, Watada H
Investigation of usefulness of continuous glucose monitoring system (CGM) in outpatient care of Japanese patients with type 2 diabetes
American Diabetes Association 74th Scientific Sessions, Sanfrancisco(America), ポスター, 2014.06.13-17, 2014

8. Schnell O, Weng J, Sheu WH, Watada H, Kalra S, Soegondo S, Yamamoto N, Grzeszczak W
Acarbose reduces body weight irrespective of glycemic control in patients with type 2 diabetes: results from a large pooled database of post-marketing observational and non-interventional studies
American Diabetes Association 74th Scientific Sessions, Sanfrancisco(America), ポスター, 2014.06.13-17, 2014

9. Sato J, Kanazawa A, Ikeda F, Yoshihara T, Goto H, Abe H, Komiya K, Kawaguchi M, Shimizu T, Ogihara T, Tamura Y, Sakurai Y, Yamamoto R, Fukuda H, Nomoto K, Takahashi T, Asahara T, Yamashiro Y, Watada H
Detection of "Live Gut Bacteria" in blood of patients with type 2 diabetes
Gut Microbiota, Probiotics and Their Impact Through the Lifespan, Boston(America), ポスター, 2014.09.22, 2014

10. Jimura K, Hirose S, Wada H, Yoshizawa Y, Imai M, Akahane M, Machida T, Shirouzu I, Koike Y, Miyashita Y, Konishi S.
Fronto-temporal mechanisms involved in rapid formation of pair-association memory.
Soc Neurosci abstr, 2014

11. Hirose S, Jimura K, Kunimatsu A, Abe O, Ohtomo K, Konishi S.
Cerebro-cerebellar network associated with learning of response inhibition as revealed by functional connectivity analysis.
Soc Neurosci abstr, 2014

12. Osada T, Jimura K, Hirose S, Kunimatsu A, Ohtomo K, Koike Y, Konishi S.
Temporal changes in brain-behavior correlation during response inhibition.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Soc Neurosci abstr, 2014

13. Yoko Tabe, Masako Harada, Yuka Miyamae, Hiromichi Matsushita, Kensuke Kojima, Tsutomu Fujimura, Saiko Kazuno, Takashi Ueno, Takashi Miida, Marina Konopleva, Michael Andreeff
The mTOR kinase inhibitor AZD-2014 effectively reverses XPO1/CRM1 antagonist KPT-185–induced glycolysis/gluconeogenesis, enhancing antitumor effects in mantle cell lymphoma
57th ASH Annual Meeting & Exposition, Orlando, FL, USA.(12/5-12/8) Blood Vol. 124 No. 21: 925, 2014

14. Yoko Tabe, Masako Harada, Yuka Miyamae, Kaoru Mogushi, Saiko Kazuno, Tsutomu Fujimura, Hiromichi Matsushita, Takashi Ueno, Takehiko Yokomizo, Takashi Miida, Ismael Samudio, Michael Andreeff, Marina Konopleva
Bone marrow adipocyte-derived free fatty acids induce gene signature linking transcription with metabolic changes that contribute to survival of acute monocytic leukemia cells
57th ASH Annual Meeting & Exposition, Orlando, FL, USA.(12/5-12/8) Blood Vol. 124 No. 21: 1013, 2014

15. Yoko Tabe, Masako Harada, Yuka Miyamae, Tsutomu Fujimura, Saiko Kazuno, Takashi Ueno, Takashi Miida, Michael Andreeff, Marina Konopleva
Selective inhibitor of nuclear export selinexor (KPT-330) and BCL2 inhibitor ABT-199 enhance the anti-lymphoma effect of BTK inhibitor ibrutinib in mantle cell lymphoma
57th ASH Annual Meeting & Exposition, Orlando, FL, USA.(12/5-12/8) Blood Vol. 124 No. 21: 2254, 2014

16. Yoko Tabe, Yasuhito Hatanaka, Peter P. Ruvolo, Takashi Miida, Steven M. Kornblau, Michael Andreeff, Marina Konopleva
Pro-survival effects of TGF-β1 are associated with molecular signaling changes of ERK, FLI-1, and CD44 in AML cells
57th ASH Annual Meeting & Exposition, Orlando, FL, USA.(12/5-12/8) Blood Vol. 124 No. 21: 2337, 2014

17. H Kaneko, L Liu, H Kurosawa, R Sadatsuki, S Hada, M Kinoshita, A Yusup, Y Shimura, M Tsuchiya, I Futami, K Kaneko, M Ishijima
Urine crosslinked telopeptide of type II collagen predicted osteoarthritis progression
2014 Osteoarthritis Research Society International (OARSI), Paris, France, April 24-27, 2014

18. A Yusup, H Kaneko L Liu, R Sadatsuki, S Hada, M Kinoshita, I Futami, H Kurosawa, Y Shimura, Y Saita, Y Takazawa, H Ikeda, K Kaneko, M Ishijima,
Synovitis Is Associated With Bone Marrow Abnormality In Patient With End-Stage Knee Osteoarthritis
2014 Osteoarthritis Research Society International (OARSI), Paris, France, April 24-27, 2014

19. S Hada, H Kaneko, R Sadatsuki, L Liu, A Yusup, M Kinoshita, I Futami, Y Shimura, M Tsuchiya, Y Saita, Y Takazawa, H Ikeda, K Kaneko, M Ishijima,
Degeneration and destruction for femoral articular cartilage is preceded than those for confronting tibial and patellar articular cartilage in early stage of knee osteoarthritis: a cross-sectional study
2014 Osteoarthritis Research Society International (OARSI), Paris, France, April 24-27, 2014

20. M Kinoshita, H Kaneko, L Liu, R Sadatsuki, S Hata, K Shimura, A Yusup, I Futami, Y Tamura, H Watada, Y Maruyama, K Kaneko,
Association between the lower serum PIICP level and the joint space narrowing on the asymptomatic knee osteoarthritis in men in early forties
2014 Osteoarthritis Research Society International (OARSI), Paris, France, April 24-27, 2014

21. Y Shimura, H Kurosawa, M Tsuchiya, H Kaneko, L Liu, R Sadatsuki, A Yusup, S Hada, M Kinoshita, Y Makino, M Sawa, Y Iwase, K Kaneko,
Association between synovitis and depression in patients with knee osteoarthritis: A cross-sectional study

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

2014 Osteoarthritis Research Society International (OARSI), Paris, France, April 24-27, 2014

22. M. Tsuchiya, H. Kurosawa, Y. Shimura, H. Kaneko, L. Liu, R. Sadatsuki, Y. Anwarjan, S. Hada, M. Kinoshita, Y. Makino, M. Sawa, Y. Iwase, K. Kaneko, ,
Depression ccomplicated with knee osteoarthrtisis
2014 Osteoarthritis Research Society International (OARSI), Paris, France, April 24-27, 2014

23. R. Sadatsuki, H. Kaneko, I. Futami, S. Hada, K. L. Culley, M. Otero, C. Dragomir, M. Kinoshita, M.B. Goldring, Y. Yamada, E. Arikawa-Hirasawa, K. Kaneko,
Role of perlecan in chondrogenic, osteogenic and adipogenic differentiation of synovial mesenchymal calls
2014 Osteoarthritis Research Society International (OARSI), Paris, France, April 24-27, 2014

24. L Liu, H Kaneko, R Sadatsuki, S Hada, A Yusup, M Kinoshita, I Futami, Y Shimura, M Tsuchiya, H Kurosawa, Y Saita, Y Takazawa, H Ikeda, K Kaneko
MRI-detected osteophyte is a predictor for receiving total knee arthroplasty in patients with end-stage knee osteoarthritis
2014 Osteoarthritis Research Society International (OARSI), Paris, France, April 24-27, 2014

25. Kinoshita M, Ishijima M, Sakamoto Y, Nojiri H, Kaneko H, Liu L, Sadatsuki R, Hada S, Kaneko K
Risk factor for the non-responder of bisphosphonates and active vitamin D analog for the treatment of osteoporosis
36th Annual Meeting of the ASBMR, Houston, Texas, USA, September 12-15, 2014

26. Yoshihara T, Kakigi R, Tsuzuki T, Takamine Y, Ichinoseki-Sekine N, Naito H.
Changes in HDAC expressions in response to acute heat stress in rat skeletal muscle.
13th Biennial Advances in Skeletal Muscle Biology in Health & Disease Conference, Gainesville, Florida, USA, 2014 年 3 月

27. Takamine Y, Tsuzuki T, Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, Naito H.
The effects of voluntary running during the growing period on bone tissue in Type 2 diabetic rats.
13th Biennial Advances in Skeletal Muscle Biology in Health & Disease Conference, Gainesville, Florida, USA, 2014 年 3 月

28. Tsuzuki T, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Kobayashi H, Machida S, Naito H.
Changes in stress protein expression in skeletal muscle before the onset of metabolic abnormalities in type 2 diabetic rats.
The 21th International Congress on Sport Science for Students, Budapest, 2014 年 4 月

29. Ichinoseki-Sekine N, Takamine Y, Tsuzuki T, Yoshihara T, Naito H.
Temporary Termination During Long-term Voluntary Exercise Increases Exercise Volume After Exercise Resumed In Mice.
The American College of Sports Medicine 61th Annual Meeting, Florida, USA, 2014 年 5 月. Med Sci Sports Exerc. 46: 5 supplement, 356, 2014.

30. Yoshihara T, Kurosaka M, Kakigi R, Takamine Y, Machida S, Sugiura T, Naito H.
Alterations in HDACs expressions in response to endurance training in rat plantaris muscle.
The American College of Sports Medicine 61th Annual Meeting, Florida, USA, 2014 年 5 月. Med Sci Sports Exerc. 46: 5 supplement, 308-9, 2014.

31. Sakamoto A, Naito H, Chow CM.
Effects of short vs. long hyperventilation on repeated sprint performance and muscle activation.
2014 Australian Conference of Science and Medicine in Sport (ACSMS), Canberra, Australia, 2014 年 10 月

32. Nakamura T, Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Kobayashi H, Sakuma K, Naito H.
The level of ACTN3 protein expression does not influence knee extensor strength.
The 19th Annual Congress of the European College of Sport Science, Amsterdam, Netherlands, 2014 年 7 月

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

33. Hatano T, Okuzumi A, Shimo Y, Ueno SI, Kandori A, Sano Y, Hattori N.
Quantitative measurement of finger-tapping movements in patients with parkinsonism
4th AOPMC, Pattaya, Thailand, Nov. 28-30, 2014

34. Nakayama S, Motoi Y, Matsumoto SE, Takanashi M, Mori H, Hattori N.
Brain perfusion SPECT and neuropathology of two patients with autopsy-verified Corticobasal Syndrome-Alzheimer's Disease
4th AOPMC, Pattaya, Thailand, Nov. 28-30, 2014

35. Nakajima A, Shimo Y, Uka T, Hattori N.
The effect of electrical stimulation of the subthalamic nucleus (STN) or internal part of the globus pallidus (GPi) to primate striatal interneurons
4th AOPMC, Pattaya, Thailand, Nov. 28-30, 2014

36. Moriya S, Hayata T, Suzuki T, Yamada T, Shirakawa J, Kaneko K, Yamamoto T, Ezura Y, Noda M
Administration of PTH and Tob deficiency in mice synergistically enhances the levels of both cancellous and cortical bone mass
ASBMR, Huston,2014 Oct

37. Mukaihara K, Kubota D, Suehara Y, Akaike K, Ishii M, Takagi T, Kohsaka S, Kaneko K, Saito T
Functional analysis of F-actin-capping protein subunit beta in epithelioid sarcomas
CTOS Annual Meeting, Berlin, October 15-18, 2014

38. Mukaihara K, Kubota D, Suehara Y, Akaike K, Ishii M, Takagi T, Kohsaka S, Kaneko K, Saito T
Protein expression profiling of giant cell tumors of bone treated with denosumab
CTOS Annual Meeting, Berlin, October 15-18, 2014

39. Naito K, Zemirline A, Sugiyama Y, Igeta Y, Obata H, Obayashi O, Kaneko K, Liverneaux P.
Distal radius fracture fixation through a mini-invasive volar approach.
16 ème Réunion de la Societe Franco-Japonaise d' Orthopedie Fukuoka Sep

40. Obata H, Naito K, Sugiyama Y,Igeta Y, Obayashi O, Kaneko K.
Irreducible dislocation of the thumb interphalangeal joint due to displaced flexor pollicis longus tendon: case report and new reduction technique.
16 ème Réunion de la Societe Franco-Japonaise d' Orthopedie Fukuoka Sep

41. Ochi H, Kobayashi H, Baba T, Homma Y, Matsumoto M, Yuasa T, Ogawa S, Kaneko K
The examination about component position of THA after changing from posterior approach to anterior approach
2014 年 9 月 6 日,16 ème Réunion de la Societe Franco-Japonaise d' Orthopedie, Fukuoka, Sep

42. Onda S, Kanayama M, Hashimoto T, Shigenobu K, Oha F, Iwata A, Tanaka M, Kaneko K
Perioperative complications of lumbar spine surgery in patients over 85 years.
41th ISSLS, Seoul, Korea, June 3-7,2014

43. Sadatsuki R, Kaneko H, Futami I, Hada S, K. L. Culley, M. Otero, C. Dragomir, Kinoshita M, Liu Litz, Yusp A, Mary B. Goldring, Yamada Y, Arikawa-Hirasawa E, Kaneko K, Ishijima M
Role of perlecan in chondogenic, osteogenic and adipoginic differentiation of synovial mesenchymal cells
OARSI, Paris, France, April, 24-27 2014

44. Saita Y, Kurata K, Sato T, Fukasaku S, Kaneko K, Nemoto M
Bone turnover markers (BMTs) in the synovial fluid in the patients with severe osteoarthritis correlates witih the serum level of BTMs though some patients with osteoporosis exhibit mismatched increase of bone resorption activity in synovial fluid
OARSI, Paris, France, April, 24-27 2014

45. Suehara Y, Kohsaka S, Mukaihara K, Kubota D, Akaike K, Ishii M, Kazuno S, Mineki R, Fujimura

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

T, Kaneko K, Ladanyi M, Saito T
Proteomic approaches for defining the protein profiles of EWS/FLi1 in patients with Ewing's sarcoma.
Connective Tissue Oncology Society, 2014 Annual Meeting, October 15-18, 2014, Berlin, Germany SEP

46. Sugiyama Y, Naito K, Igeta Y, Obata H, Obayashi O, Kaneko K.
Treatment strategy for distal radius fractures of arteriovenous shunt forearm in maintenance hemodialysis patients.
16 ème Réunion de la Societe Franco-Japonaise d' Orthopedie Fukuoka Sep

47. Tsuchiya M, Kurosawa H, Shimura Y, Kaneko H, Liu L, Sadatsuki R, Yusup A, Hada S, Kinoshita M, Makino Y, Sawa M, Iwase Y, Kaneko K, Ishijima M
Depression complicated with knee osteoarthritis
OARSI（Osteoarthritis Research Society International）Paris, France April 24-27、2014

48. Yuasa T, Makino Y, Suehara Y, Kaneko K
PRDX2 as a possible pathologic mediator of hip osteoarthritis revealed by proteomics
ESCEO2014 Seville, Spain April 2-5

49. 本間康弘, 越智宏徳, 馬場智規, 小林英生, 松本幹生, 湯浅崇仁, 金子和夫
Prevention for the dislocation using Dual Mobility Cup and Anterior Approach: Pitfall and its solution.
16 ème Réunion de la Societe Franco-Japonaise d' Orthopedie, Fukuoka, Sep、2014 年 9 月

【学会発表（国際）2015 年】

1. Y. Furukawa, Y. Tamura, K. Takeno, T. Funayama, R. Suzuki, H. Kaga, T. Watanabe, Y. Fujitani, R. Kawamori, H. Watada.
Potential usefulness of intrahepatic lipid accumulation and liver function tests to identify insulin resistance phenotype in non-obese type 2 diabetes.
The 2nd Congress, International Academy of Sportlogy, 東京都, 2015.09.12, ポスター

2. T. Funayama, Y. Tamura, K. Takeno, M. Kawaguchi, T. Watanabe, H. Kaga, Y. Furukawa, R. Suzuki, R. Yamamoto, S. Kakehi, Y. Fujitani, R. Kawamori, H. Watada.
Role of exercise intensity on intramyocelluar lipid level after exercise in subjects with moderate insulin resistance.
The 2nd Congress, International Academy of Sportlogy, 東京都, 2015.09.12, ポスター

3. S. Ikeda, Y. Tamura, S. Kakehi, R. Kawamori, H. Watada.
Exercise-induced transient increase in IL-stimulates GLUT4 expression and enhances insulin sensitivity in mouse skeletal muscle.
The 2nd Congress, International Academy of Sportlogy, 東京都, 2015.09.12, ポスター

4. S. Kakehi, Y. Tamura, K. Takeno, Y. Sakurai, M. Kawaguchi, T. Watanabe, T. Funayama, F. Sato, S. Ikeda, A. Kanazawa, Y. Fujitani, R. Kawamori, H. Watada.
Intramyocellular lipid accumulation after high-fat diet is associated with the gene expression involved in lipid metabolism in skeletal muscle of non-obese men.
The 2nd Congress, International Academy of Sportlogy, 東京都, 2015.09.12, ポスター

5. K. Shimoji, Y. Tamura, T. Uka, M. Hori, K. Kamagata, H. Watada, R. Kawamori, S. Aoki
What we learned from brain MR study from the Sportlogy project.
The 2nd Congress, International Academy of Sportlogy, 東京都, 2015.09.12, ポスター

6. H. Watada.
Etiology of insulin resistance in non-obese subjects -Juntendo Sportology Center core study-.
The 2nd Congress, International Academy of Sportlogy, 東京都, 2015.09.12, 口演

7. T. Mita, N. Katakami, I. Simomura, H. Watada.
The Study of Preventive Effects of Alogliptin on Diabetic Atherosclerosis (SPEAD-A).

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

American Diabetes Association 75th scientific sessions(ADA), Boston(USA), 2015.6.5-9(2015.6.8), **ポスター**

8. A.Hara, Y. Fujitani, T. Ogihara, T. Miyatsuka, H. Watada.
Human IAPP impairs the success of islet transplantation.
51st EASD Annual Meeting, Stockholm（Sweden）, 2015.9.14-18(2015.9.15), **ポスター**

9. K Kamagata, M Hori, A Nishikori, K Tsuruta, A Okuzumi, T Hatano, K Kamiya, N Hattori, S Aoki
High-resolution Neurite Orientation Dispersion and Density Imaging in the substantia nigra of de novo Parkinson disease
ISMRM 23rd Annual Meeting & Exhibition: 30 May - 05 June 2015: Toronto, Canada.

10. Akifumi Hagiwara, Christina Andica, Masaaki Hori, Saori Shiota, Mariko Yoshida, Kanako Sato, Yuko Adachi, Kanako Kumamaru, Michimasa Suzuki, Atsushi Nakanishi, Misaki Nakazawa, Kouhei Tsuruta, Shigeki Aoki
Contrast-enhanced Synthetic MRI for the Detection of Brain Metastases
10th AOCNR：5-7 Nov, 2015：Fukuoka, Japan

11. Masaaki Hori, Ryuji Nojiri, Katsutoshi Murata, Yuichi Suzuki, Koji Kamagata, Mariko Yoshida, Kouhei Tsuruta, Keiichi Ishigame, Shigeki Aoki
Optimization of Spinal Cord NODDI Protocol with Multi-band EPI for Clinical Use
ISMRM 21nd annual meeting: 30 May-5 Jun 2015: Toronto, Ontario, Canada.

12. K.Tsuruta, R.Irie, M.Hori, I.Fukunaga, Y.Masutani, K.Kamiya, A.Nishikori, M.Yoshida, M.Suzuki, M.Miyajima, M.Namajima, K.Kamagata, H.Arai, A.Nakanishi, S.Aoki, A.Seno
Neurite Orientation Dispersion and Density Imaging could show the microstractual changes of Cortico-Spinal Tract in patients with Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus
ISMRM 23rd annual meeting: 30 May-5 June 2015: Tronto, Ontario, Canada.

13. Kouhei Kamiya, Yuichi Suzuki, Shiori Amemiya, Naoto Kunii, Kensuke Kawai, Harushi Mori, Akira Kunimatsu, Nobuhito Saito, Shigeki Aoki, Kuni Ohtomo
Machine learning approach for lateralization of temporal lobe epilepsy utilizing DTI structural connectome
ISMRM 23rd annual meeting: 30 May-5 June 2015: Tronto, Ontario, Canada.

14. Kouhei Kamiya, Yuichi Suzuki, Shota Tanaka, Akitake Mukasa, Masaaki Hori, Harushi Mori, Akira Kunimatsu, Nobuhito Saito, Shigeki Aoki, Kuni Ohtomo
Discrimination between tumor-infiltration and vasogenic edema using non-gaussian diffusion MRI techniques: preliminary experience
ISMRM 23rd annual meeting: 30 May-5 June 2015: Tronto, Ontario, Canada.

15. Kanako Sato, Koji Kamagata, Ryuji Sakakibara, Hitoshi Terada, Shigeki Aoki
Neurite orientation dispersion and density imaging in patients with spinocerebellar ataxia type 6
21st Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping: 14-18 June 2015: Honolulu, Hawaii.

16. Christina Andica、Akifumi Hagiwara, Masaaki Hori, Saori Shiota, Mariko Yoshida, Kanako Sato, Yuko Takahashi, Kanako Kumamaru, Michimasa Suzuki, Atsushi Nakanishi, Misaki Nakazawa, Kouhei Tsuruta, Shigeki Aoki
Synthetic MRI: an old concept becomes practical
10th AOCNR：5-7 Nov, 2015：Fukuoka, Japan

17. A Nishikori, K Tsuruta, K Kamagata, T Hatano, A Okuzumi, M Hori, M Suzuki, S Aoki, A Seno
Detection of Microstructural Changes of Nigra-Striatum Dopaminergic Neurons in Parkinson's Disease using High Resolution DWI
ISMRM 23rd Annual Meeting & Exhibition: 30 May - 05 June 2015: Toronto, Canada.

18. Masaki Katsura, Yuichi Suzuki, Akihiro Kasahara, Harushi Mori, Akira Kunimatsu, Yoshitaka Masutani, Masaaki Hori, Shigeki Aoki, and Kuni Ohtomo

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Non-Gaussian diffusion weighted imaging for assessing degenerative changes in intervertebral disc composition
ISMRM 21nd annual meeting: 30 May-5 Jun 2015: Toronto, Ontario, Canada.

19. Hattori N, Funayama M.
Clinicogenetic study of CHCHD2 in patients with autosomal dominant familial Parkinson's disease
Poster, XXII World Congress of Neurology, Casa Piedra, Centro de Eventos, Congresos y Exhibiciones, World Congress of Neurology 2015- Nov. 1, 2015, Santiago, Chili

20. Funayama M, Hattori N.
Symposium "At the Bench": CHCHD2 is novel gene for autosomal dominant Parkinson's disease, -Neurodegenerative disorders in cells to animals-,
10th Annual Genetic Epidemiology of Parkinson's Disease Consortium (GEO-PD), Roppongi Academyhills 49, Oct. 2, 2015, Tokyo

21. Sato S, Hattori N.
Symposium "At the Bench": Pathological perspective on autophagy lysosome pathway in Parkinson's disease, -Neurodegenerative disorders in cells to animals-,
10th Annual Genetic Epidemiology of Parkinson's Disease Consortium (GEO-PD), Roppongi Academyhills 49, Oct. 2, 2015, Tokyo

22. Takanashi M, Hattori N.
Hot Topic: Neuropathology of PINK1 homozygous mutation: Lewy-independent nigral degeneration resembling parkin mutation,
10th Annual Genetic Epidemiology of Parkinson's Disease Consortium (GEO-PD), Roppongi Academyhills 49, Oct. 2, 2015, Tokyo

23. Yoritaka A, Hattori N,
The Hydrogen Water Parkinson Study Group. Poster Session 2, Randomized double-blind, placebo-controlled multi-center trial for determining effi cacy of molecular hydrogen water for Parkinson’s disease, baseline characteristics,
XXI World Congress on Parkinson’s Disease and Related Disorders, Dec 8, 2015, Milan, Italy

24. Miyamoto N, Tanaka R, Ueno Y, Watanabe M, Tanaka Y, Shimada Y, Kuroki T, Yamashiro K, Hattori N, Urabe T.
Analysis for usefulness of WORSEN score; the predicting score for the deterioration of acute ischemic stroke.
International Stroke conference, 2015. Feb.10-13, 2015, Nashville, Texas, USA

25. Hatano T, Saiki S, Okuzumi A, Hattori N.
Identification of novel biomarkers for Parkinson’s disease by metabolomics technologies,
19th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, June 14-18, 2015, San Diego, CA, USA

26. Jo T, Oyama G, Yoshimi K, Sato S, Danjo T, Uemura A, Shimo Y, Hattori N.
Optical neuromodulation of nigrostriatal pathway,
19th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, June 14-18, 2015, San Diego, CA, USA

27. Fukae J, Yanamoto S, Fujioka S, Hatano T, Mori A, Nomi T, Fukuhara K, Hattori N, Tsuboi Y.
Relationship between serum uric acid concentration and disease progression in multiple system atrophy,
19th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, June 14-18, 2015, San Diego, CA, USA

28. Satake W, Ando Y, Suzuki M, Tomiyama H, Nagai Y, Kashihara K, Murayama S, Mochizuki H, Nakashima K, Hasegawa K, Takeda A, Wada K, Tsuji S, Yamamoto M, Murata M, Hattori N, Toda T.
Exome association study and 2nd SNP-GWAS of Japanese Parkinson’s disease

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

19th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, June 14-18, 2015, San Diego, CA, USA

29. Sai E, Shimada K, Yokoyama T, Sato S, Nishizaki Y, Miyazaki T, Hiki M, Tamura Y, Aoki S, Watada H, Kawamori R, Daida H.
Myocardial Triglyceride Content in Patients with Left Ventricular Hypertrophy: Comparison between Hypertensive Heart and Hypertrophic Cardiomyopathy.
SCMR/Euro CMR Meetings 2015, Nice France, 2015.2.5.

30. Shiozawa T, Shimada K, Sekita G, Hayashi H, Tabuchi H, Yamagami S, Suwa S, Sumiyoshi M, Nakazato Y, Daida H.
Is Watching National Team Matches in World Cup Soccer 2014 on TV associated with Increasing Ventricular Arrhythmia?
EuroPREVENT 2015.5.15. Lisbon. Portogal.

31. Tadaki S, Sakata Y, Miyata S, Asakura M, Shimada K, Yamamoto T, Kadokami T, Yasuda S, Miura T, Ando S, Yano M, Kitakaze M, Daida H, Shimokawa H.
Prognostic Impacts of Metabolic Syndrome in Patients with Chronic Heart Failure -A Multicenter Prospective Cohort Study.
American Heart Association Scientific Session 2015. 9 Nov, 2015. Orlando.

32. Takahashi S, Shimada K, Miyauchi K, Sai E, Miyazaki T, Shiozawa T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Low and Exacerbated Levels Of 1,5-anhydroglucitol are Associated with Cardiovascular Events in Patients After First-time Elective Percutaneous Coronary Intervention.
American Heart Association Scientific Session 2015. 9 Nov, 2015. Orlando.

33. Akita K, Isoda K, Sato-Okabayashi Y, Ishii Y, Shimada K, Daida H.
Increased Atherosclerosis in the Lack of IkBNS in LDL Receptor-deficient Mice is Associated with Increased Interleukin-6 Production by Macrophages.
American Heart Association Scientific Session 2015. 8 Nov, 2015. Orlando.

34. Tsuzuki T, Nakamoto H, Kobayashi H, Goto S, Ichinoseki-Sekine N, Naito H.
Elevated oxidative stress in type 2 diabetic OLETF rat liver.
Experimental Biology 2015, Boston, MA. March 28-April 1, 2015

35. Yoshihara T, Machida S, Kurosaka Y, Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Tsuzuki T, Takamine Y, Sugiura T, Naito H.
Immobilization-induced rat skeletal muscle atrophy enhances histone modification through HDAC4.
Experimental Biology 2015, Boston, MA. March 28-April 1, 2015

36. Takamine Y, Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, Tsuzuki T, Machida S, Naito H.
Effect of long-term voluntary running on bone tissue in mice.
Experimental Biology 2015, Boston, MA. March 28-April 1, 2015

37. Ichinoseki-Sekine N, Tsuzuki T, Yoshihara T, Takamine Y, Kobayashi H, Naito H.
Effects of long-termvoluntary exercise on the respiratory muscles in young type 2 diabetic rats.
Experimental Biology 2015, Boston, MA. March 28-April 1, 2015

38. Ozaki H, Natsume T, Abe T, Machida S, Naito H.
Effect of neuromuscular electrical stimulation with blood flow restriction on muscle size and strength.
The American College of Sports Medicine 62th Annual Meeting, San Diego, USA, May 26-30, 2015

39. Kawanishi N, Naito H, Shuichi Machida S.
Role Of Toll-like Receptor 4 In Cast Immobilization-induced Muscle Atrophy.
The American College of Sports Medicine 62th Annual Meeting, San Diego, USA, May 26-30,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

2015

40. Kitada T, Kawai S, Nakamura A, Sakuma K, Machida S, Naito H.
Lower Limb and Respiratory Muscle Oxygenation During 800-m Running.
The American College of Sports Medicine 62th Annual Meeting, San Diego, USA, May 26-30, 2015

41. Pengyu D, Naito H.
Longitudinal change in physical activity of children in Hunan, China.
The 20th Annual Congress of European College of Sports Science, Malmo, Sweden, June 24-27, 2015

42. Ishihara Y, Naito H, Sakamoto A, Ozaki H, Yoshimura M.
Relationship between aerobic fitness and match activity profiles of Japanese young soccer referees.
The 20th Annual Congress of European College of Sports Science, Malmo, Sweden, June 24-27, 2015

43. Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Machida S, Naito H.
The effect of the combination of increased physical activity with walking with blood flow restriction on leg muscle thickness and walking performance in older adults.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015

44. Nakagata T, Ozaki H, Machida S, Ishibashi M, Naito H.
The effects of exercise training combined increase physical activity with walking with blood flow re-striction on locomotive syndrome risk test parameters in the elderly adults.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015

45. Kitada T, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Machida S, Naito H.
Effect of exercise intervention on locomotive syndrome in Japanese elderly.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015

46. Ishihara Y, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Machida S, Naito H.
Relationship between locomotive syndrome risk test parameters and physical activities in elderly people.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015

47. Yoshihara T, Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Machida S, Naito H.
Assessment of a University-Based Exercise Program for Locomotive and Metabolic Syndrome in the elder-ly people.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015

48. Natsume T, Ozaki H, Nakagata T, Machida S, Naito H.
Acute changes in blood lactate concentration, muscle thickness and strength after walking with blood flow restriction in older adults.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015

49. Pengyu D, Ishihara Y, Naito H.
Physical activity of children and adolescents in medium city in China.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015

50. Kakigi R, Watanabe M, Naito H, Iesaki T, Okada T.
A bout of acute exercise attenuates cardiac dysfunction after ischemia/ reperfusion in isolated rat heart.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015

Suzuki K, Naito H, Govindasamy BALASEKARAN, Jong Kook SONG, Yiing Mei LIOU, Dajiang LU, Bee Koon POH, Kallaya KIJBOONCHOO, Stanley Sai-chuen HUI.
Japanese adolescents are the most physically fit and active in East and Southeast Asia.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

51. Naito H, Fuku N, Zenpo H, Miyamoto-Mikami E, Kikuchi N, Murakami H, Miyachi M.
Polymorphism in the CNTF receptor gene is associated with elite Japanese endurance athlete status: a case-control study.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015

52. Tsuzuki T, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Takamine Y, Kakigi R, Kobayashi H, Naito H.
Effects of exercise before development of type 2 diabetes on glucose and lipid metabolism remain partly following exercise cessation in OLETF rats.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015

53. Sakamoto A, Naito H, Chow CM.
Hyperventilation-induced respiratory alkalosis increases the number of repetitions able to be performed during resistance training.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015

54. Takamine Y, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Naito H.
Effects of treadmill running on bone density and strength in young mice.
The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, September 12, 2015

55. Ozaki H, Kitada T, Machida S, Naito H, Katamoto S.
Cycling inhibits age-related decreases in muscle thickness of the lower extremities and maximum oxygen uptake.
2015 ASICS Sports Medicine Australia Conference, Gold Coast, Australia, October 21-24, 2015

56. Suzuki K, Naito H, Stanley Sai-chuen Hui, Govindasamy Balasekaran, Jong Kook Song, Yiing Mei Liou, Dajiang Lu, Bee Koon Poh, Kallaya Kijboonchoo.
School Sports Club Promotion Reduces Physically Unfit and Inactive Adolescents: The Asia-fit Study.
2015ASICS Sports Medicine Australia Conference, Gold Coast, Australia, October 21-24, 2015

57. Sakamoto A, Naito H, Chow CM.
Hyperventilation-induced respiratory alkalosis increases the number of repetitions to be able to per-form during resistance training.
2015ASICS Sports Medicine Australia Conference, Gold Coast, Australia, October 21-24, 2015

58. Kitada T, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Ishihara Y, Yoshihara T, Natsume T, Machida S, Naito H.
Effects of 6-month exercise intervention program on locomotive syndrome risk test scores in Japanese el-derly.
The 20th Shizuoka Forum on Health and Longevity, Shizuoka, Japan, October 30-31, 2015 (Poster Presentation Award)

59. Ozaki H, Ozaki M, Machida S, Naito H.
The changes of muscle and subcutaneous fat thicknesses in an infant for a year after birth.
The 20th Shizuoka Forum on Health and Longevity, Shizuoka, Japan, October 30-31, 2015 (Poster Presentation Award)

60. 張碩文, 吉原利典, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久士.
不同時間點實施運動對於肌肉萎縮後恢復期的自體吞噬(Autophagy)的影響
2015 年體育運動學術團體聯合年會暨學術研討會, 台湾, December 5-6, 2015

61. Yumiko Motoi, MD, PhD,1,2 Yuko Hara, PhD,1 Keigo Hikishima, PhD,3,4 Hiroshi Mizuma, PhD,5 Hirotaka Onoe, PhD,5 Shin-Ei Matsumoto, PhD,1 Montasir Elahi, PhDHideyuki Okano, MD, PhD,3, 6 Shigeki Aoki, MD, PhD,7 Nobutaka Hattori, MD, PhD1,2
Selective involvement of the Septo-hippocampal fiber tract and upregulation of acetylcholinesterase in tauopathy model mice.
Society for Neuroscience October 17-21 Chicago

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

62. Takahashi S, Shimada K, Miyauchi K, Sai T, Miyazaki T, Shiozawa T, Tamura S, Okazaki S, Isoda K, Daida H
Impact of low serum levels of 1,5-anhydroglucitol on cardiovascular events in patients after first-time elective percutaneous coronary intervention.
ESC congress 2015, London, 2015.8. 29-31

63. Ryo Naitoh, Katsumi Miyauchi, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Gender difference in 5-year clinical outcomes following percutaneous coronary intervention.
ESC congress 2015, London,

64. Koji Akita, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Interleukin-1receptor antagonist contributes to the suppression of both angiotensin II-induced hypertention and organ damage.
ESC congress 2015, London, 2015.8. 29-31

65. Ryo Naitoh, Katsumi Miyauchi, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Temporal trends in clinical features and outcomes in the elderly following percutaneous coronary intervention.
ESC congress 2015, London, 2015.8. 29-31

66. Koji Akita, Kikuo Isoda, Yayoi Sato-Okabayashi, Yuko Ishii, Kazunori Shimada, Hiroyuki Daida
Increased atherosclerosis in the lack of IkBNS in LDL receptor-deficient mice is asociated with increased interleukin-6 production by macrophages
AHA Scientific Session 2015, Orlando, USA, 2015.11.07-11

67. Shuhei Takahashi, Kazunori Shimada, Katsumi Miyauchi, Eiryu Sai, Tetsuro Miyazaki, Tomoyuki Shiozawa, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Low and exacerbated levels of 1,5-anhydroglucitol are associated with cardiovascular events in patients after first-time elective percutaneous coronary intervention
AHA Scientific Session 2015, Orlando, USA, 2015.11.07-11

68. Shoichiro Yatsu, Takatoshi Kasai, Shoko Suda, Azusa Murata, Takao Kato, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida
Association between periodic leg movements during sleep and clinical outcomes in hospitalized patients with systolic heart failure following acute decompensation
American College of Cardiology Scientific Session 2015, San Diego, USA;2015.03.14-16

69. Shoko Suda, Takatoshi Kasai, Azusa Murata, Shoichiro Yatsu, Takao Kato, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida
Influences of sleep-disordered breathing and its treatment by positive airway pressure on mortality and rehospitalization in patients with systolic heart failure following acute decompensation
American Thoracic Society 2015 Inernational Conference, Denver, USA;2015.05.16-20

70. Takao Kato, Takatoshi Kasai, Shoko Suda, Masaru Hiki, Azusa Murata, Shoichiro Yatsu, Hiroyuki Daida
Association between periodic leg movements during sleep and clinical outcomes in hospitalized patients with systolic heart failure following acute decompensation
American Thoracic Society 2015 Inernational Conference, Denver, USA; 2015.05.16-20

71. Shoko Suda, Takatoshi Kasai, Hiroki Matsumoto, Azusa Murata, Shoichiro Yatsu, Takao Kato, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida
Impact of sleep-disordered breathing and its treatment on post-discharge outcomes in hospitalized patients with left ventricular systolic dysfunction following acute decompensated heart failure
Eurpoean Society of CardiologyC 2015, London, UK;2015.08.29-09.02

72. Ryo Naito, Takatoshi Kasai, Shoko Suda, Hiroki Matsumoto, Azusa Murata, Shoichiro Yatsu, Takao Kato, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Influence of sleep-disordered breathing and its treatment on post-discharge outcomes in hospitalized patients following acute decompensated heart failure
14th International Symposium on Sleep and Breathing, Recife, Brazil;2015.10.25-28

73. Takamura: K, Fujimoto S, Kondo T, Kumamaru K, Kawaguchi Y, Suda S, Matsumori R., Kato E, Hiki M, Takase S, Rybicki FJ, Daida H.
Prognostic Value of Coronary CT Angiography and Coronary Artery Calcium Score Performed Before Revascularization.
第 85 回 AHA orland USA 2015.11

74. Takamura: K, Fujimoto S, Kondo T, Kumamaru K, Kawaguchi Y, Suda S, Matsumori R., Kato E, Hiki M, Takase S, Rybicki FJ, Daida H.
Prognostic Value of Coronary CT Angiography and Coronary Artery Calcium Score Performed Before Revascularization.
American Heart Association, 88th Scientific Session, Orland, USA 2015.11

75. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Gender difference in long-term clinical outcomes
following percutaneous coronary intervention during 1984 - 2008
American College of Cardiology, San Diego, 2015.03.14-16

76. Naito R, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H
Gender differences in 5-year clinical outcomes following percutaneous coronary intervention
ESC Congress 2015 London, 2015.08.29-09.02

77. Ryo Naito, Takatoshi Kasai, Azusa Murata, Shoichiro Yatsu, Takao Kato, ,Shoko Suda, Masaru Hiki, Tetsuro Miyazaki, Hiroyuki Daida
Impact of sleep-disordered breathing and its treatment on post-discharge outcomes in hospitalized patients with left ventricular systolic dysfunction following acute decompensated heart failure
14th International Symposium on Sleep and Breathing, Brazil, 2015.10.25-28

78. Naito R, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H
Combined effect of BMI and Renal function on Long-term Clinical Outcomes in the Elderly following Percutaneous Coronary Intervention
AHA 2015 Orland, 2015.11.07-11

79. Le Jiang; Hakuoh Konishi; Hiroyuki Daida
LR11 PLAYS A PIVOTAL ROLE IN PULMONARY A ARTERIAL HYPERTENSION
American College of Cardiology 2015.March

80. H. Watada.
Effect of Islet-derived Zinc on Hepatic Insulin Extraction.
American Diabetes Association 75th scientific sessions(ADA), Boston (USA), 2015.06.05-09, 2015.06.05, **口演**

81. M. Kamitani, T. Miyatsuka, M. Miura, T. Ogihara, Y. Fujitani, H. Watada.
Heterogeneity Of Autophagy Status In Pancreatic β Cells Under Metabolic Stress.
75th Scientific Sessions American Diabetes Association (ADA), Boston(USA), 2015.6.5-9, 2015.6.8, **ポスター**

82. Akaike K, Kurisaki-Arakawa A, Hara K, Suehara Y, Takagi T, Kaneko K, Yao T, Saito T.
Distinct Clinicopathologic Features Of Nab2-stat6 Fusion Gene Variants In Solitary Fibrous Tumor With Emphasis On The Acquisition Of Highly Malignant Potential
ORS 2015 Annual Meeting, USA, March 28, 2015

83. Akaike K, Suehara Y, Mukaihara K, Kurisaki-Arakawa A, Kubota D, Okubo T,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Ishii M, Mitomi H, Takahashi M, Takagi T, Kaneko K, Yao T, Saito T.
KCTD12 MAY BE NEGATIVELY REGULATED BY KIT IN GASTROINTESTINAL STROMAL CELL TUMORS
2015 CTOS Annual Meeting, USA, November 4, 2015

84. Yohei Kobayashi, Yoshitomo Saita, Masashi Nagao, Hiroshi Ikeda, Kazuo Kaneko
Platelet-rich plasma (PRP) accelerates murine patellar tendon healing through enhancement of angiogenesis and collagen synthesis.
ORS 2015 Annual Meeting, Las Vegas, USA, March 28-31, 2015

85. Yohei Kobayashi, Yoshitomo Saita, Masashi Nagao, Hiroshi Ikeda, Kazuo Kaneko
Platelet-rich plasma (PRP) accelerates murine patellar tendon healing through enhancement of angiogenesis and collagen synthesis
ISAKOS 2015 Congress in Lyon, France, June 7-11, 2015

86. Midori Ishii, Yoshiyuki Suehara, Keisuke Akaike, Kenta Mukaihara, Daisuke Kubota, Taketo Okubo, Tatsuya Takagi, Takashi Yao, Kazuo Kaneko, Tsuyoshi Saito
Clinicopathological impacts of protein phosphatase 2, regulatory subunit A, alpha mutations in gastrointestinal stromal tumors
ASCO, Chicago, USA, May 29-June 2, 2015

87. Midori Ishii, Yoshiyuki Suehara, Keisuke Akaike, Kenta Mukaihara, Daisuke Kubota, Taketo Okubo, Tatsuya Takagi, Takashi Yao, Kazuo Kaneko, Tsuyoshi Saito
CLINICOPATHOLOGICAL IMPACT OF PROTEIN PHOSPHATASE 2, REGULATORY SUBUNIT A, ALPHA MUTATIONS IN GASTROINTESTINAL STROMAL TUMORS
CTOS, Salt Lake City, USA, November 4-7, 2015

88. Midori Ishii, Yoshiyuki Suehara, Keisuke Akaike, Kenta Mukaihara, Daisuke Kubota, Taketo Okubo, Tatsuya Takagi, Takashi Yao, Kazuo Kaneko, Tsuyoshi Saito
Clinicopathological and functional analyses of protein phosphatase 2, regulatory subunit A, alpha mutations in gastrointestinal stromal tumors
ESMO-ASIA, Singapore, December 18-21, 2015

89. M Kinoshita, H Kaneko, L Liu, R Sadatsuki, S Hada, K Shimura, A Yusup, I Futami, Y Tamura, H Watada, K Kaneko, M Ishijima
THE LOWER CARTILAGE SYNTHESIS, BUT NOT HIGHER CARTILAGE DESTRUCTION, IS ASSOCIATED WITH THE KNEE JOINT SPACE WIDTH IN MEN IN EARLY FORTIES WITHOUT KNEE PAIN
第 25 回 OARSI 2015、Seattle USA、2015 年 5 月 2 日

90. M Kinoshita, M Ishijima, Y Sakamoto, H Nojiri, H Kaneko, L Liu, R Sadatsuki, S Hada, K Kaneko
The serum levels of calcium required for the increase in bone mineral density by the combination therapy of bisphosphonate and active vitamin D3 analog for the treatment of osteoporosis
第 37 回 ASBMR 2015、Seattle USA、2015 年 10 月 11 日

91. Hiromitsu Takano, Ikuho Yonezawa, Takatoshi Okuda, Yukitoshi Shimamura, Kei Yoshikawa, Tatsuya Sato, Kazuo Kaneko
The spontaneous improvement of the cervical kyphosis in eosinophilic granuloma. A case report with long-term follow-up
31st Annual Meeting of the Cervical Spine Research Society, London, May26-28, 2015

92. Kubota D., Kobayashi K., Tanzawa Y., Mukaihara K., Suehara Y., Kaneko K., Kawai A
Functional outcome of total femoral endoprosthetic replacement following excision of bone and soft tissue sarcomas
ISOLS2015, Orland, 2015 Oct 6-10

93. Kubota D., Mukaihara K., Takagi T., Suehara Y., Kaneko K.
DISCOVERY OF TARGETABLE TYROSINE KINASES AND ANTI-TUMOR ACTIVITY OF TYROSINE KINASE INHIBITORS IN ALVEOLAR SOFT PART SARCOMA

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

CTOS2015, Salt lake city, Utah, 2015 Nov 4-7

94. Kubota D., Suehara Y., Kobayashi K., Kanko K., Kawai A., Kondo T.
Chemo-responsiveness predictive biomarker discovery for osteosarcoma using microRNA-microarray, ESMO ASIA 2015, Singapore, 2015 Dec.
ESMO ASIA 2015, Singapore, 2015 Dec 18-21

95. Shimura Y, Kurosawa H, Tsuchiya M, Kaneko H, Liu L, Sadatsuki R, Hada S, Kinoshita M, Yusup A, Kaneko K, Ishijima M
The exercise therapy decreases the serum interleukin-6 levels in patients with knee OA
OARSI2015, Seattle, USA, 2015.0430-05.03

96. Tsuchiya M, Kurosawa H, Shimura Y, Kaneko H, Liz L, Sadatsuki R, Yusup A, Hada S, Kinoshita M, Makino Y, Sawa M, Iwase Y, Kaneko K, Ishijima M
The influential factors for the depressive state in patients with knee osteoarthritis
OARSI2015, Seattle, USA, 2015.0430-05.03

97. Kameda S, Tanaka Y, Kumai T, Taniguchi A, Kurokawa H, Ohara K, Tomiwa K, Nozawa M, Kaneko K, Takakura Y
Radiographic features of atraumatic osteochondral lesion of the talus
International congress on cartilage repair of the ankle, Seoul, Korea, April 28-29, 2015

98. Kanazawa H, Maruyama Y, Osawa A, Satou K, Shitoto K, Kaneko K:
Increased risk of Osteoarthritis after Anterior Cruciate Ligament Reconstruction with hamstrings autograft - Long term follow up.
12th Congres of Association France Japan Orthopadie, San malo, France, June 6, 2015

99. Osawa A, Urayasu, Yuichiro Maruyama, Kazuo Kaneko
AN EXAMINATION OF GROWTH FACTOR LEVELS IN PLATELET-RICH PLASMA AND CORRELATIONS WITH AGE, GENDER, PLATELET COUNT, AND DHEAS
2015 World Congress on Osteoarthritis, being held April 30 - May 3, 2015 at the Washington State Convention Center

100. Osawa A, Urayasu, Yuichiro Maruyama, Kazuo Kaneko
An Examination of Growth Factor Levels in Platelet-rich Plasma and Correlations with Age, Gender, Platelet Count, and DHEAS
10th Biennial ISAKOS Congress • Lyon, France • June 7-11, 2015

101. Yuasa T, Yamakawa J, Maezawa K, Kaneko K
Prospective study on antimicrobial prophylaxis in total hip arthroplasty.
16th EFFORT Prague, Czech. May 27-29.

102. Yuji Takazawa, Hiroshi Ikeda, Yoshitomo Saita, Muneaki Ishijima, Haruka Kaneko, Shinnosuke Hada, Yohei Kobayashi, Ryo Sadatsuki, Kazuo Kaneko
Clinical Results After Revision ACL Reconstruction With Patellar Tendon Autograft
10th ISAKOS Congress, June 7-11, 2015, Lyon, France

103. Yasuhiro Homma, Tomonori Baba, Hideo Kobayashi, Hironori Ochi, Mikio Matsumoto, Takahito Yuasa, Kazuo Kaneko
Benefit And Risk In The Prevention For Dislocation With Dual Mobility Cup Combined With Anterior Approach For Primary Total Hip Arthroplaty
16th EFFORT Congress, Prague, 2015.5.27

104. Yasuhiro Homma, Tomonori Baba, Hideo Kobayashi, Hironori Ochi, Mikio Matsumoto, Takahito Yuasa, Kazuo Kaneko
The Importance Of Soft Tissue Stabilizer Of The Hip: Learning From 3 Catastrophic Failures Of Rapid Osteoarthritis Development After Hip Arthroscopy.
16th EFFORT Congress, Prague, 2015.5.29

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

105. Yasuhiro Homma, Tomonori Baba, Hideo Kobayashi, Hironori Ochi, Mikio Matsumoto, Takahito Yuasa, Kazuo KANEKO
Benefit And Risk In The Prevention For Dislocation With Dual Mobility Cup Combined With Anterior Approach For Primary Total Hip Arthroplaty
13th AFJO, France, Saint malo. 2015.6.5

106. Yasuhiro Homma, Tomonori Baba, Hideo Kobayashi, Hironori Ochi, Mikio Matsumoto, Takahito Yuasa, Kazuo Kaneko
The Importance Of Soft Tissue Stabilizer Of The Hip: Learning From 4 Catastrophic Failures Of Rapid Osteoarthritis Development After Hip Arthroscopy.
13th AFJO, France, Saint malo, 2015.6.5

107. Kaneko H, Ishijima M, Ishibashi M, Sadatsuki R, Hada S, Kinoshita M, Liu L, Yusup A, Kobayashi Y, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K
Development of a novel miniaturized motion capture technology to assess gait of outpatients with knee osteoarthritis in the clinical setting
OARSI2015, Seattle, USA, 2015.0430-05.03

108. Kinoshita M, Kaneko H, Liu L, Sadatsuki R, Hada S, Shimura Y, Tsuchiya M, Yusup A, Futami I, Tamura Y, Watada H, R Kawamori, Kaneko K, Ishijima M
The lower cartilage synthesis, but not higher cartilage destruction, is associated with the knee joint space width in men in earkly forties without knee pain
OARSI2015, Seattle, USA, 2015.0430-05.03

109. Hada S, Kaneko H, Sadatsuki R, Liu L, Yusup A, Kinoshita M, Futami I, Shimura Y, Tsuchiya T, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K, Ishijima M
The site-specific associations between the meniscus changes and the osteophyte formations in early-stage knee osteoarthritis
OARSI2015, Seattle, USA, 2015.0430-05.03

110. Yusup A, Kaneko H, Liu L, Ning L, Sadatsuki R, Hada S, Kinoshita M, Futami I, Shimura Y, Tsuchiya T, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K, Ishijima M
Bone marrow lesions are associated with local histological synovitis in patients with end-stage knee osteoarthritis: A cross-sectional study
OARSI2015, Seattle, USA, 2015.0430-05.03

111. R Sadatsuki, H Kaneko, S Hada, M Kinoshita, L Liu, A Yusup, Y Kobayashi, Y Sait, Y Takazawa, H Ikeda, K Kaneko, M Ishijima
4. Medial cartilage lesions detected by 3.0-Tesla MRI are the risk factor for the progression of early-stage medial knee osteoarthritis
OARSI2015, Siattle, 2015.0430-05.03

112. Liu L, Kaneko H, Kurosawa H, Sadatsuki R, Hada S, Kinoshita M, Yusup A, Shimura Y, Tsuchiya T, Futami I, Kobayashi Y, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K, Ishijima M
Postoperative mechanical alignment of the lower limb corresponding to the successful clinical outcome after total knee arthroplasty (TKA)
OARSI2015, Seattle, USA, 2015.0430-05.03

113. Kinoshita K, Ishijima M, Kaneko H, Lui L, Sadatsuki R, Hada S, Yusup A, Nojiri H, Sakamoto Y, Kaneko K
Serum calcium levels required for the increase in bone mineral density by the combination therapy of bisphosphonate and active vitamin D3 analog for the treatment of osteoporosis
OARSI2015, Seattle, USA, 2015.0430-05.03

114. Hironori Ochi, Tomonori Baba, Yasuhiro Homma, Mikio Matsumoto, Kentaro Futamura, Atsuhiko Mogami, Akio Kanda, Itaru Morohashi, Kazuo Kaneko
New Classification Focusing On Implant Designs Useful For Setting Therapeutic Strategy For Periprosthetic Femoral Fractures
16th EFORT Congress, Prague,May,2015

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

115. Yoshikawa K, Yonezawa I, Okuda T, Shimamura Y,Takano H, Satho T, Kaneko K
Analysis Of The Optimum Fixed Angle In Occipitocervical Fusion
31 th CSRS-ES, London England, May 26-28, 2015

116. Suehara Y, Ishii M, Akaike K, Mukaihara K, Kubota D, Okubo T, Takagi T, Yao T, Kaneko K, Saito T.
Clinicopathological and functional analyses of protein phosphatase 2, regulatory subunit A, alpha mutations in gastrointestinal stromal cell tumors.
European Society For Medical Oncology - ASAIA, December 18 – 21, 2015, Singapore.

117. Kim Y, Takagi T, Katagiri H, Suehara Y, Kubota D, Akaike D, Ishii M, Mukaihara K, Okubo T, Yazawa Y, Murata H, Takahashi M, Kaneko K, Saito T
Skeletal metastasis of unknown primary origin at the initial visit: A retrospective analysis of 286 cases.
18th, International Symposium on Limb Salvage; October 6 - 10, 2015, Orlando, Florida, US

118. Mukaihara K, Suehara Y, Kubota D, Okubo T, Kohsaka S, Ishii M, Akaike K, Takagi T, Kaneko K, Yazawa Y, Saito T.
Protein Expression Profiling Of Giant Cell Tumors Of Bone Treated With Denosumab.
18th, International Symposium on Limb Salvage; October 6 - 10, 2015, Orlando, Florida, US

119. Tanabe Y, Suehara Y, Kim Y, Ishii M, Kawasaki T, Matsuoka J, Akaike K, Mukaihara K, Okubo T, Kubota D, Saito T, Takagi T, Kaneko K
An outpatient-based survey about the recognition of locomotive syndrome in Tokyo: a survey for 3 years.
2nd Annual Meeting International Academy of Sportology September 12, 2015, Tokyo, Japan

120. Suehara Y, Kohsaka S, Mukaihara K, Akaike K, Ishii M, Kubota D, Kazuno S, Mineki R, Fujimura T, Kaneko K, Ladanyi M, Saito T.
Proteomic approaches for defining the protein profiles of EWS/FLi1 in Ewing's sarcomas.
the 61th Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society March 28-31 2015, Las vegans USA

【学会発表（国際）2016 年】

1. Takashi Miida, Toshiyuki Watanabe, Terumichi Nakagawa, Mamoru Yokomura, Masaomi Kohno, Taiki Sato, Satoshi Hirayama
Interindividual differences in free glycerol are dependent on adiposity and fasting status: the necessity of glycerol elimination in triglyceride measurement.
The 5th International Symposium on Chylomicrons and Disease, Boston, USA, November 9, 2016

2. Kaneko H, Ishibashi M, Arita H, Liu L, Sadatsuki R, Hada S, Kinoshita M, Yusup A, Shiozawa S, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K, Ishijima M
The variations for the recovery processes of the several parameters those monitor the walking ability in patients with end-stage knee osteoarthritis using a novel motion capture devices
OARSI 2016, 2016.03.31 -04.03, Amsterdam, Netherland

3. Hada S, Ishijima M, Kaneko H, Sadatsuki R, Liz L, Kinoshita M, Arita H, Shiozawa J, Yusup Y, Y. Takazawa, H. Ikeda, K. Kaneko
Association between the degeneration and medial radial displacement of the medial meniscus on T2 mapping at 3T MRI in patients with early-stage knee osteoarthritis
OARSI 2016, 2016.03.31 -04.03, Amsterdam, Netherland

4. Kinoshita M, Kaneko H, Sadatsuki, aR. Futami I, Hada S, Arita H, Shiozawa J, Hirasawa-Arikawa E, Yamada Y, Kaneko K, Ishijima M
Perlecan regulates chondrogenic differentiation from synovial mesenchymal cells via smad and MAPK signaling pathways
OARSI 2016, 2016.03.31 -04.03, Amsterdam, Netherland

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

5. Liu L, Kaneko H, Sadatsuki R, Hada S, Yusup A, Kinoshita M, Arita H, Shiozawa J, Y Saita, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K, Ishijima M
   Higher bone turnover detected by serum levels of tartrate-resistant acid phosphatase 5b (TRACP-5b) is a risk for the radiographic medial knee joint space narrowing in men in early forties without knee pain –the three years prospective observational study
   OARSI 2016, 2016.03.31 -04.03, Amsterdam, Netherland

6. Yusup A, Kaneko H, Liu L Hada S, Kinoshita M, Arita H, Shiozawa J, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K, Ishijima M
   Association between the histological synovitis, subchondral pathologies and synovial TGF-β/Smad signaling in patient with end-stage knee osteoarthritis
   OARSI 2016, 2016.03.31 -04.03, Amsterdam, Netherland

7. Shiozawa J, Miyazaki T, Nagayama M, Kaneko H, Hiki M, Hada S, Kinoshita M, Liu L, Arita H, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Daida H, Kaneko K, Ishijima M
   Serum polyunsaturated fatty acid (PUFAs) levels as a risk factor for the post-operative development of venous thromboembolism (VTE) in patients with end-stage knee osteoarthritis who receiving total knee arthroplasty (TKA)
   OARSI 2016, 2016.03.31 -04.03, Amsterdam, Netherland

8. Shiozawa J, Miyazaki T, Nagayama M, Kaneko H, Hiki M, Hada S, Kinoshita M, Liu L, Arita H, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Daida H, Kaneko K, Ishijima M
   Patient-oriented outcome measure for knee osteoarthritis is associated with gait analysis data obtained from the novel downsized motion capture technology in patients with the end-stage knee osteoarthritis
   OARSI 2016, 2016.03.31 -04.03, Amsterdam, Netherland

9. Arita H, Kaneko H, Ishibashi M, Sadatsuki R, Liu L, Hada S, Kinoshita M, Shiozawa J, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K, Ishijima M
   Pain and symptoms of patients with the medial type of knee OA are exacerbated by the development of varus knee deformation
   OARSI 2016, 2016.03.31 -04.03, Amsterdam, Netherland

10. Hada S, Ishijima M, Kaneko H, Liu L, Kinoshita M, Arita H, Shiozawa J, Anwarjan Y, Takazawa Y, Ikeda H, Okada Y, Kaneko K
    Medial meniscal extrusion is associated with medial tibial osteophyte development and the degeneration of medial meniscus in earlly-stage of knee osteoartheitis
    2016IWOAI, 2016.06.15-18, Oulu, Finland

11. Takeno K, Tamura Y, Kakehi S, Funayama T, Furukawa Y, Kaga H, Suzuki R, Someya Y, Kawamori R, Watada H.
    Association between Decreased Insulin Clearance and Initial Changes Predisposing toward Obesity in Apparently Healthy Men.
    The American Diabetes Association's 76th Scientific Sessions, New Orleans(USA), 2016.6.10-14, **ポスター**

12. Miura M, Miyatsuka T, Matsuoka T, Sasaki S, Fujitani Y, Watada H.
    Inhibition of Stat3 Signal Promotes Acinar-to-Beta Reprogramming.
    The American Diabetes Association's 76th Scientific Sessions, New Orleans(USA), 2016.6.10-14, **ポスター**

13. Sato J, AKanazawa A, Makita S, Hatae C, Komiya K, Shimizu T, Ikeda F, Tamura Y, Ogihara T, Mita T, Goto H, Uchida T, Miyatsuka T, Takeno K, Shimada S, Ohmura C, Watanabe T, Kobayashi K, Miura Y, Iwaoka M, Hirashima N,Fujitani Y., Watada H.
    The Efficacy and Safety of 130g/day Low-Carbohydrate Diet in Japanese Type 2 Diabetes Patients with Poor Glycemic Control.
    The American Diabetes Association's 76th Scientific Sessions, New Orleans(USA), 2016.6.10-14(2016.6.11), **ポスター**

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

14. Shitara J, Ogita M, Miyauchi K, Wada H, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H
Association between sustained increase of c-reactive protein (CRP) and long –term mortality in patients with coronary artery disease treated with percutaneous coronary intervention
European Society of Cardiology2016・ローマ・2016.08.30

15. Shiozawa T, Shimada K, Sekita G, Miura S, Tabuchi T, Hayashi H, Al Shahi H, Kadoguchi T, Sugita Y, Ouchi S, Aikawa T, Takahashi S, Miyazaki T, Fujimoto S, Sumiyoshi M, Nakazato Y, Daida H
Atrial Fibrillation Recurrence After Catheter Ablation is Associated With Left Atrial Appendage Volume and Plasma Docosahexaenoic Acid Levels.
Circulation. 2016;134:A13231

16. Koji Akita, Kikuo Isoda, Yayoi Okabayashi, Yuko Ishii, Kazunori Shimada, Hiroyuki Daida
An IL-6 receptor antibody suppresses IkBNS deficiency induced atherosclerosis in LDL receptor-deficient mice
ESC congress 2016・Roma・2016.8.27-31

17. Shiozawa T, Shimada K, Sekita G, Miura S, Komatsu S, Tabuchi H, Hayashi H, Kawaguchi Y, Takamura K, Fujimoto S, Kadoguchi T, Takahashi S, Sumiyoshi M, Nakazato Y, Daida H
Are low DHA levels associated with left atrial appendage volume and atrial fibrillation recurrence after catheter ablation?
European Heart Journal 2016, 37 (Abstract Supplement), 1078-1079

18. Shiozawa T, Shimada K, Sekita G, Miura S, Tabuchi H, Hayashi H, Shahi HA, Kadoguchi T, Sugita Y, Ouchi S, Aikawa T, Takahashi S, Miyazaki T, Fujimoto S, Sumiyoshi M, Nakazato Y, Daida H.
Atrial fibrillation recurrence after catheter ablation is associated with left appendage volune and plasma docosahexaenoic qacid levels.
American Heart Association, 89th Scientific Session, New Orleans, USA 2016.11

19. Watanabe N, Sawada SS, Lee IM, Gando Y, Shimada K, Kawakami R, Miyachi M, Momma H, Hagi Y, Kinugawa C, Okamoto T, Blair SN
Blair SN. Cardiorespiratory fitness and high levels of non-HDL-cholesterol: Cohort study of Japanese men
Med Sci Sports Exerc. 2016 May;48(5 Suppl 1):225.

20. Ouchi S, Miyazaki T, Shimada K, Sugita Y, Shimizu M, Murata A, Kato T, Aikawa T, Suda S, Shiozawa T, Hiki M, Takahashi S, Kasai T, Miyauchi K, Daida H.
Decreased Circulating Omega-6 Fatty Acid Levels Are Associated With Total Mortality in Patients Admitted to Cardiac Intensive Care Unit.
Circulation. 2016;134:A13995

21. Ouchi S, Miyazaki T, Shimada K, Sugita Y, Shimizu M, Aikawa T, Kato T, Suda S, Hiki M, Takahashi S, Kasai T, Miyauchi K, Daida H
Decreased circulating omega-6 fatty acids levels, but not omega-3 fatty acids levels, are associated with total mortality in patients admitted to cardiac intensive care unit
European Heart Journal 2016, 37 (Abstract Supplement), 110

22. Yuko Kawaguchi, Shinichirou Fujimoto, Kanako Kumamaru, Tomotaka Dohi, Keiken Ri, Kazuhisa Takamura, Etsuro Kato, Yoshiteru Kato, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda and Hiroyuki Daida
Diagnostic Performance of Novel CT-Fractional Flow Reserve Based on Structural and Fluid Analysis Using 4D-CT Image
AHA Scientific Sessions 2016・Roma・2016.11.12-16

23. Kawaguchi Y, Fujimoto S, Kumamaru KK, Dohi T, Ri K, Takamura K, Kato Y, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Kato E, Daida H
Diagnostic Performance of Novel CT-Fractional Flow Reserve Based on Structural and Fluid

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Analysis using 4D-CT image.
American Heart Association, 89th Scientific Session, New Orleans, USA 2016.11

24. Kunimoto M, Shimada K, Yokoyama M, Hoshino Y, Takahashi S, Shiozawa T, Yamamoto T, Amano A, Daida H
Effects of First Session of Phase II Cardiac Rehabilitation on Novel Markers of Arterial Stiffness in Patients with Cardiovascular Diseases.
EuroPREVENT 2016.

25. H. Wada, K. Miyauchi, M. Ogita, H. Endo, S. Doi, H. Konishi, R. Naito, S. Tsuboi, T. Dohi, T. Kasai, H. Tamura, S. Okazaki, K. Isoda, S. Suwa, H. Daida
Impact of high-density lipoprotein cholesterol increase on long-term clinical outcomes in patients following percutaneous coronary intervention
European Society of Cardiology2016・ローマ・2016.08.29

26. Jun Shitara, Shuta Tsuboi, Katsumi Miyauchi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Tomotaka Dohi, Hirokazu Konishi, Ryo Naito, Shinichirou Doi, Hideki Wada, Hirohisa Endo, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa and Hiroyuki Daida
Impact of Red Cell Distribution Width on Long-term Mortality in Patients Treated With Statin After Percutaneous Coronary Intervention
AHA Scientific Sessions 2016・Roma・2016.11.12-16

27. Kazuhisa Takamura, Shinichiro Fujimoto, Takeshi Kondo, Makoto Hiki, Yuko Kawaguchi, Etsuro Kato, Shoko Suda, Shinichi Takase, Hiroyuki Daida.
Incremental Prognostic Value of CCTA High Risk Plaque Characteristics in Asymptomatic Patients.
American College of Cardiology（ACC）2016：65th Annual Scientific Session & Expo

28. Takamura K, Fujimoto S, Kondo T, Hiki M, Matsumori R, Kawaguchi Y, Suda S, Kato E, Kumamaru K, Takase S, Daida H
Incremental prognostic value of coronary computed tomographic angiography high risk plaque characteristics in asymptomatic patients.
The American College of Cardiology 65nd Annual Scientific Session, Chicago, USA 2016.4

29. Tomoyasu Kadoguchi, Kazunori Shimada, Tomoyuki Shiozawa, Shuuhei Takahashi, Hamad Al Shahi, Koji Akita, Tetsuro Miyazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Inhibition of NAD(P)H Oxidase 4 Ameliorates Angiotensin II-Induced Protein Degradation via improving Mitochondrial Dysfunction in Skeletal Myocytes
AHA Scientific Sessions 2016・Roma・2016.11.12-16

30. Hiroki Nishiyama, Hiroshi Iwata, Shinya Okazaki, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida
Low apolipoprotein A1 predicts 10year mortality in patients after PCI, a residual therapeutic target in the statin era
AHA scientific session 2016, New Orleans, 2016.11.13

31. Shinichiro Doi, Hiroshi Iwata, Shinya Okazaki, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida
Low serum triglyceride level (TG) and low body mass index (BMI) associate increased risk of long-term cardiovascular mortality in patients undergoing percutaneous coronary intervention (PCI), 20 years follow-up
AHA scientific session 2016, New Orleans, 2016.11.13

32. Shinichiro Doi, Hiroshi Iwata, Ryo Naito, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Yoshiteru Kato, Iwao Okai, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida
Low Serum Triglyceride Level and Low Body Mass Index Associate Increased Risk of Long-term Cardiovascular Mortality in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention, 20 Years Follow-up
American Heart Association's Scientific Sessions 2016,ニューオリンズ,2016.11.13

33. Azusa Murata, Takatoshi Kasai, Shoichiro Yatsu, Hiroki Matsumoto, Takao Kato, Shoko Suda,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Masaru Hiki, Hiroyuki Daida
Relationship between overnight rostral fluid shift and severity of central sleep apnea in hospitalized heart failure patients following acute decompensation
Cardiosleep, Prague, 2016.5.2

34. R. Naito, K. Miyauchi, J. Shitara, H. Endo, H. Wada, S. Doi, H. Konishi, S. Tsuboi, M. Ogita, T. Dohi, T. Kasai1, H. Tamura, S. Okazaki, K. Isoda, H. Daida
Synergistic Effect of BMI and eGFR on All-cause Mortality in the Elderly following Percutaneous Coronary Intervention
European Society of Cardiology2016, Rome, 2016.8.29

35. Ryo Naito, Katsumi Miyauchi, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Shinichiro Doi, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Synergistic effect of BMI and eGFR on all-cause motality in the elderly following percutaneous coronary intervention
European Society of Cardiology2016, Rome, 2016.8.29

36. Azusa Murata, Takatoshi Kasai, Takao Kato, Shoko Suda, Hiroki Matsumoto, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida
Relationship between Blood Urea Nitrogen-to-Creatinine ratio at Hospital Admission and Long-term Post-discharge Mortality in Patients with Acute Decompensated Heart Failure
European Society of Cardiology2016, Rome, 2016.8.29

37. Sato K, Kerever A, Kamagata K, Sakakibara R, Terada H, Aoki S.
Understanding microstructure of the brain with advanced diffusion tensor imaging and comparing with pathological findings.
European Congress of Radiology 2016, Vienna, Austria, Mar 2-6, 2016.

38. Sato K, Kerever A, Kamagata K, Aoki S
Advanced diffusion MR imaging (NODDI): comparison with a transparent mouse brain.
The 22nd Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping, Geneva, Switzerland, June 26-30, 2016

39. Hori M, Nojiri R, Tsurushima Y, Murata K, Kamagata K, Tsuruta K, Kumamaru KK, Ishigame K, Aoki S
Diffusion MR imaging using Multi-band EPI in Brain: Basics and its Clinical Application
European Congress of Radiology 2016, Vienna, Austria, Mar 2-6, 2016.

40. Hori M, Nojiri R, Tsurushima Y, Murata K, Tsuruta K, Kumamaru KK, Ishigame K, Aoki S
High-resolution Diffusional Kurtosis Fractional Anisotropy Mapping for Discrimination between Vasogenic Edema and Tumor-Infiltration
European Congress of Radiology 2016, Vienna, Austria, Mar 2-6, 2016.

41. Kamiya K, Irie R, Kamagata K, Hori M, Suzuki Y, Mori H, Kunimatsu A, Aoki S, Ohtomo K.
Impact of axon undulation on the estimation of dMRI metrics: Monte-Carlo simulation study on conventional diffusion tensor ellipsoids and NODDI
European Congress of Radiology 2016, Vienna, Austria, Mar 2-6, 2016.

42. Takano N, Suzuki M, Irie R, Yamamoto M, Kumamaru KK, Hori M, Oishi H, Aoki S, Arai H
Usefulness of Non-Contrast Enhanced Magnetic Resonance Angiography Using Silent Scan for Follow-Up after Y Stent-Assisted Coil Embolization for Basilar Tip Aneurysms
European Congress of Radiology 2016, Vienna, Austria, Mar 2-6, 2016.

43. Hori M, Nojiri R, Tsurushima Y, Murata K, Ishigame K, Kamiya K, Suzuki Y, Kamagata K, Aoki S.
Diffusional Kurtosis Tractography of Cervical Spinal Cord White Matter with Multi-band EPI Technique.
ISMRM 24th Annual Meeting & Exhibition, Suntec City, Singapore, May 7-13, 2016

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

44. Hori M, Stikov N, Nojiri R, Tsurushima Y, Murata K, Ishigame K, Kamiya K, Suzuki Y, Kamagata K, Aoki S.
Magnetic Resonance Myelin G-Ratio Mapping for the Brain and Cervical Spinal Cord: 10 Minutes Protocol for Clinical Application.
ISMRM 24th Annual Meeting & Exhibition, Suntec City, Singapore, May 7-13, 2016

45. Kamagata K, Tsuruta K, Hatano T, Shimoji K, Hori M, Okuzumi A, Nakazawa M, Murata S, Ueda R, Aoki S.
Evaluation of Gray Matter Degeneration in Parkinson's Disease by Using Neurite-Orientation Dispersion and Density Imaging: Analysis by Gray Matter-Based Spatial Statistics.
ISMRM 24th Annual Meeting & Exhibition, Suntec City, Singapore, May 7-13, 2016

46. Nakazawa M, Hagiwara A, Hori M, Andica C, Kamagata K, Kawasaki H, Takano N, Sato S, Hamasaki N, Tsuruta K, Murata S, Ueda R, Aoki S, Senoo A.
Contrast-Enhanced Synthetic MRI for the Detection of Brain Metastases: Comparison Between Synthetic T1-Weighted Inversion-Recovery Image, Synthetic T1-Weighted Image, and Conventional T1-Weighted Inversion-Recovery Fast Spin-Echo Image.
ISMRM 24th Annual Meeting & Exhibition, Suntec City, Singapore, May 7-13, 2016

47. Andica C, Hagiwara A, Nakazawa M, Hori M, Shiota S, Yoshida M, Sato K, Takahashi Y, Kumamaru K, Suzuki M, Nakanishi A, Tsuruta K, Ueda R, Aoki S.
Synthetic MRI: An Old Concept Becomes Practical.
ISMRM 24th Annual Meeting & Exhibition, Suntec City, Singapore, May 7-13, 2016

48. Takamura T, Murata S, Kamagata K, Tsuruta K, Hori M, Suzuki M, Aoki S.
Extensive White Matter Damage in Neuromyelitis Optica Assessed by Neurite Orientation Dispersion and Density Imaging: A Tact-Based Spatial Statistics Study.
ISMRM 24th Annual Meeting & Exhibition, Suntec City, Singapore, May 7-13, 2016

49. Suzuki M, Irie R, Takano N, Hori M, Kamagata K, Kumamaru K, Yamamoto M, Ohishi H, Aoki S
Basics and Clinical Application of Ultrashort TE MRA Combined with Arterial Spin Labeling Algorithem - Silent MRA –
ASNR 54th Annual Meeting, Washington, D.C., USA, May 23-26, 2016

50. Hagiwara A, Andica C, Hori M, Yoshida M, Kamagata K, Kumamaru K, Suzuki M, Nakazawa M, Tsuruta K, Aoki S.
Synthetic MRI: Basic Principles and Clinical Applications
ASNR 54th Annual Meeting, Washington, D.C., USA, May 23-26, 2016

51. Hagiwara A, Hori M, Andica C, Kumamaru KK, Yoshida M, Suzuki M, Nakazawa M, Aoki S
Utility of multi-parametric quantitative MRI model that assesses myelin and edema for evaluating plaques, periplaque white matter, and normal-appearing white matter in patients with multiple sclerosis.
RSNA 102nd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 27-Dec 2, 2016

52. Hagiwara A, Hori M, Andica C, Yoshida M, Kamagata K, Suzuki M, Kumamaru KK, Nakazawa M, Aoki S
Multiple sclerosis plaques searched by synthetic MRI.
RSNA 102nd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 27-Dec 2, 2016

53. Andica C, Hagiwara A, Hori M, Kumamaru KK, Nakazawa M, Takano N, Kamagata K, Yoshida M, Aoki S
Overview of a Synthetic MRI: Basic, Clinical Applications, and Limitations.
RSNA 102nd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 27-Dec 2, 2016

54. Hori M, Nojiri R, Tsurushima Y, Hagiwara A, Kumamaru KK, Kamagata K, Irie R, Suzuki M, Aoki S
Quantitative MR Imaging in Spinal Cord: the Basics and Clinical Applications.
RSNA 102nd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 27-Dec 2, 2016

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

55. Hori M, Nojiri R, Tsurushima Y, Hagiwara A, Kumamaru KK, Kamagata K, Irie R, Suzuki M, Aoki S
Measurements of Axonal G-ratio in Vivo Using MR Imaging.
RSNA 102nd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 27-Dec 2, 2016

56. Kumamaru KK, Sano Y, Suzuki M, Hori M, Kamagata K, Nakanishi A, Irie R, Aoki S
Association between Repeat MR Imaging for Benign Lumbar/Cervical Conditions and Imaging Management Fee: An Analysis of Japanese Health Insurance Claims Database
RSNA 102nd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 27-Dec 2, 2016

57. Kumamaru KK, Ri K, Sano Y, Suzuki M, Hori M, Kamagata K, Nakanishi A, Hagiwara A, Irie R, Aoki S
Limited clinical value in closely monitoring suspected/definite infundibular dilatation of cerebral arteries: a review of 432 cases
RSNA 102nd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 27-Dec 2, 2016

58. Christina A, Hagiwara A, Hori M, Kumamaru KK, Nakazawa M, Takano N, Kamagata K, Yoshida M, Aoki S
Overview of Synthetic MRI: Basic, Clinical Applications, and Limitations (Certificate of Merit)
RSNA 102nd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 27-Dec 2, 2016

59. Hara S, Nariai T, Murata S, Tsuruta K, Tanaka Y, Hori M, Maehara T, Aoki S.
Neurite orientation dispersion and density imaging revealed the brain microstructural ischemic damage of moyamoya disease.
Neuroscience 2016, San Diego, U.S.A. Nov 15, 2016.

60. 服部信孝
シンポジスト、シンポジウム「神経変性疾患の最前線 2016」
第 46 回日本神経精神薬理学会年会、2016 年 7 月 2-3 日、ソウル、韓国

61. Zempo H, Fuku N, Nishida Y, Higaki Y, Naito H, Hara M, Tanaka K.
Relation between type 2 diabetes and m.1382 A>C polymorphism which occurs amino acid replacement (K14Q) of mitochondria-derived MOTS-c.
Experimental Biology 2016, San Diego, CA, USA. 2016 年 4 月 2-6 日

62. Kakigi R, Yoshihara T, Natsume T, Ichinoseki-Sekine N, Kobayashi H, Machida S, Naito H.
Dose-dependent effects of whey peptide intake on mTOR signaling in human skeletal muscle.
American College of Sports Medicine 63th Annual Meeting, Boston, MA, USA. 2016.05.31-06.04

63. Natsume T, Ozaki H, Watanabe K, Kubota A, Naito H.
Passive muscle movements combined with blood flow restriction can induce muscle hypertrophy.
American College of Sports Medicine 63th Annual Meeting, Boston, MA, USA. 2016.05.31-06.04

64. Tsuzuki T, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Kakigi R, Takamine Y, Kobayashi H, Naito, Ichinoseki-Sekine N, Naito H.
Increased body temperature during exercise enhances glucose metabolism-related signaling transduction in OLETF rat skeletal muscle.
American College of Sports Medicine 63th Annual Meeting, Boston, MA, USA. 2016.05.31-06.04

65. Yoshihara T, Kakigi R, Tsuzuki T, Shuo-wen C, Natsume T, Takamine Y, Ichinoseki-Sekine N, Machida S, Sugiura T, Naito H.
Physical inactivity-induced histone modification in rat soleus muscle.
American College of Sports Medicine 63th Annual Meeting, Boston, MA, USA. 2016.05.31-06.04

66. Sakamoto A, Sinclair PJ, Naito H.
Thrust back: a new strategy for reducing concentric deceleration during power training.
Sports Medicine Australia Conference, Melbourne, Australia. 2016.10.12-15

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

67. Ohno K, Naito H, Machida S.
Relationship between body composition and menstrual/premenstrual symptoms in Japanese young women.
2016 APS Intersociety Meeting: The Integrative Biology of Exercise VII, Arizona, USA. 2016.11.02-04

68. Ishihara Y, Ozaki H, Nakagata T, Yoshihara T, Natsume T, Kitada T, Ishibashi M, Kuwata H, Miyazaki Y, Ikuta N, Machida S, Naito H.
Effects of 5-month exercise intervention on the locomotive and cognitive function in elderly with locomotive syndrome.
2nd Asian conference for Frailty and Sarcopenia, Aichi, Japan. 2016.11.4-5

69. Natsume T, Ozaki H, Nakagata T, Yoshihara T, Kitada T, Ishihara Y, Ishibashi M, Machida S, Naito H.
The characteristics of lower body muscle size and functions in elderly people at the early stage of locomotive syndrome.
2nd Asian conference for Frailty and Sarcopenia, Aichi, Japan. 2016.11.4-5

70. Ozaki H, Nakagata T, Yoshihara T, Natsume T, Kitada T, Ishihara Y, Ishibashi M, Machida S, Naito H.
Lower body muscle size, strength, and quality in elderly Japanese men and women.
2nd Asian conference for Frailty and Sarcopenia, Aichi, Japan. 2016.11.4-5

71. Yoshihara T, Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Kitada T, Ishihara Y, Ishibashi M, Machida S, Naito H.
Differences between locomotive syndrome classifications by two functional tests and evaluation of the training effects of a progressive walking program in elderly people.
2nd Asian conference for Frailty and Sarcopenia, Aichi, Japan. 2016.11.4-5

72. Kitada T, Ozaki H, Nakagata T, Yoshihara T, Natsume T, Ishihara Y, Ishibashi M, Machida S, Naito H.
Effect of low-load resistance training on muscle and gait function in resistance-untrained elderly individuals.
10th International Conference on Strength Training, Kyoto, Japan. 2016.11.30-12.02

73. Natsume T, Ozaki H, Nakagata T, Yoshihara T, Kitada T, Ishihara Y, Ishibashi M, Machida S, Naito H.
Resistance exercise attenuates locomotive syndrome risk in older adults.
10th International Conference on Strength Training, Kyoto, Japan. 2016.11.30-12.02

74. Ozaki H, Nakagata T, Yoshihara T, Natsume T, Kitada T, Ishihara Y, Ishibashi M, Machida S, Naito H.
Comparison of the effects of moderate-intensity walking and body mass-based resistance training on lower body muscle size and function in elderly individuals.
10th International Conference on Strength Training, Kyoto, Japan. 2016.11.30-12.02

75. Yoshihara T, Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Kitada T, Ishihara Y, Ishibashi M, Machida S, Naito H.
Effects of long-term strength training on the prevention of locomotive syndrome in elderly people.
10th International Conference on Strength Training, Kyoto, Japan. 2016.11.30-12.02

76. 鄧鵬宇，陸大江，鈴木宏哉, Song Jong Kook, Stanley HUI，内藤久士.
東アジアにおける青少年の生活習慣と肥満との関連性.
中国全国運動体質及び健康増進学術会議，上海，中国. 2016 年 12 月

【学会発表（国際）2017 年】

1. Hideki Wada, Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Shinichiro Doi, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Isoda, Satoru Suwa, Hiroyuki Daida.
Prognostic Impact of Geriatric Nutritional Risk Index in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention
ACC Washington DC, USA, Mar 19, 2017

2. Takano N, Suzuki M, Irie R, Yamamoto M, Hoshito H, Kumamaru K, Hori M, Oishi H, Aoki S.
Usefulness of Non-Contrast Enhanced MRA Using Ultrashort Echo Time with Arterial Spin Labeling (Silent MRA) for Intracranial Aneurysms Treated with Flow-Diverter Stents
European Congress of Radiology 2017, Vienna, Austria, Mar 1-5, 2017

3. Takano N, Suzuki M, Irie R, Yamamoto M, Hoshito H, Kumamaru K, Hori M, Oishi H, Aoki S.
Visualization of Various Intracranial Stents by Non-Contrast Enhanced MRA Using Ultrashort Echo Time with Arterial Spin Labeling (Silent MRA) and 3D TOF-MRA
European Congress of Radiology 2017, Vienna, Austria, Mar 1-5, 2017

4. Kumamaru KK, Aoki S, Murakami S, Okada M, Maeda E, Kubo T, Machitori A, Watanabe Y, Honda H.
Appropriate Utilization of Imaging project in the Japan Safe Radiology
European Congress of Radiology 2017, Vienna, Austria, Mar 1-5, 2017

5. Misaki Nakazawa, Akifumi Hagiwara, Christina Andica, Masaaki Hori, Ryo Ueda, Nao Takano, Syo Murata, Asami Saito, Aki Hattori, Shuji Sato, Nozomi Hamasaki, Hideo Kawasaki, Haruyoshi Houshito, Shigeki Aoki.
Assessment of the accuracy and precision of the gadolinium concentration map using synthetic MRI
The 5th International Congress on Magnetic Resonance Imaging (ICMRI2017) & 22nd Annual Scientific Meeting of KSMRM, Seoul, Korea, Mar 23-25, 2017

6. Christina Andica, Akifumi Hagiwara, Misaki Nakazawa, Asami Saito, Ryo Ueda, Aki Hattori, Sho Murata, Nao Takano, Masaaki Hori, Shigeki Aoki.
Sy MRI in Visualizing the Subtle Changes of Myelination and Faint Contrast Enhancement in Pediatric Patients.
The 5th International Congress on Magnetic Resonance Imaging (ICMRI2017) & 22nd Annual Scientific Meeting of KSMRM, Seoul, Korea, Mar 23-25, 2017

7. Christina Andica, Akifumi Hagiwara, Misaki Nakazawa, Aki Hattori, Sho Murata, Nao Takano, Masaaki Hori, Shigeki Aoki.
The Advantages of Synthetic MRI in Pediatric Patients
The 5th International Congress on Magnetic Resonance Imaging (ICMRI2017) & 22nd Annual Scientific Meeting of KSMRM, Seoul, Korea, Mar 23-25, 2017

8. Ryo Ueda, Masaaki Hori, Koji Kamagata, Keigo Shimoji, Michimasa Suzuki, Ryusuke Irie, Misaki Nakazawa, Pradeepa Ruwan, Moeko Horita, Yuki Takenaka, Asami Saito, Christina Andica, Aki

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Hattori, Atsushi Senoo, Shigeki Aoki.
A comparative study of TBSS analysis of NODDI using single-shell and multi-shell DWI data
The 5th International Congress on Magnetic Resonance Imaging (ICMRI2017) & 22nd Annual Scientific Meeting of KSMRM, Seoul, Korea, Mar 23-25, 2017

9. Asami Saito, Koji Kamagata, Ryo Ueda, Misaki Nakazawa, Christina Andica, Sho Murata, Madoka Nakajima, Masakazu Miyajima, Kouhei Kamiya Masaaki Hori, Kanako K Kumamaru, Michimasa Suzuki, Hajime Arai, Shigeki Aoki.
Diffusion tensor imaging and ventricular volumetry in idiopathic normal pressure hydrocephalus: relationships between cognitive deterioration before and after a lumboperitoneal shunt.
The 5th International Congress on Magnetic Resonance Imaging (ICMRI2017) & 22nd Annual Scientific Meeting of KSMRM, Seoul, Korea, Mar 23-25, 2017

10. Hara S, Hori M, Ueda R, Tanaka Y, Maehara T, Ishii K, Nariai T, Aoki S.
Correlation of Intravoxel Incoherent Motion and 15O-gas PET in patients with Moyamoya disease**.**
The 5th International Congress on Magnetic Resonance Imaging (ICMRI2017) & 22nd Annual Scientific Meeting of KSMRM, Seoul, Korea, Mar 23-25, 2017

11. Aki Hattori, Shigeki Aoki, Masaaki Hori, Koji Kamagata, Asami Saito, Ryo Ueda, Misaki Nakazawa, Christina Andica, Sho Murata, Yutaka Ikenouchi.
NODDI Analysis in Cognitive Dysfunction of Parkinson’s Disease Patients.
The 5th International Congress on Magnetic Resonance Imaging (ICMRI2017) & 22nd Annual Scientific Meeting of KSMRM, Seoul, Korea, Mar 23-25, 2017

12. Itoigawa Y, Takazawa Y, Maruyama Y, Yoshida K, Sakai T, Kaneko K.
Feasibility Assessment of Shear Wave Elastography to Tendon of Semitendinosus Muscle for Anterior Cruciate Ligament Reconstruction.
63th Annual Meeting, ORS, San Diego, 3/19-22, 2017.

13. Yoshida K, Itoigawa Y, Maruyama Y, Nojiri H, Kaneko K.
Contribution of Oxidative Stress in Human Rotator Cuff Tear.
63th Annual Meeting, ORS, San Diego, 3/19-22, 2017.

14. Tanabe Y, Suehara Y, Kohsaka S, Mukaihara K, Kubota D, Akaike K, Ishii M, Kazuno S, Mineki R, Kaneko K, Ladanyi M, Saito T.
Proteomic approaches reveal that inhibition of the IRE1/XBP1 pathway reduces tumor growth in Ewing's sarcoma.
the 63th Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society March 19–22 2017, San Diego, USA

15. SueharaY, Mukaihara K, TanabeY, Kohsaka S, Kazuno S, Ishii M, Akaike K, Kubota D, Kaneko K, Saito T.
Proteomics analysis of characteristic histological changes with Denosumab treatment in giant cell tumors of bone.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

the 63th Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society March 19–22 2017, San Diego, USA

16. Hira K, Ueno Y, Kuroki T, Shimada Y, Yamashiro K, Urabe T, Hattori N.
Semaphorin3A may regulate axonal regeneration and guidance in ischemic rat brain
International Stroke Conference 2017, Houston, Feb 22-24, 2017

17. Suzuki R, Tamura Y, Takeno K, Kakehi S, Kaga H, Someya Y, Kawamori R, Watada H.
Three days low-carbohydrate/high-fat diet increases insulin clearance in non-obese healthy men.
The 3rd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo(Japan), 2017.10.14,

18. Suzuki R, Tamura Y, Kakehi S, Takeno K, Sakurai Y, Funayama T, Furukawa Y, Kaga H, Sugimoto D, Kadowaki S, Someya Y, Kanazawa A, Kawamori R, Watada H.
Three days low-carbohydrate/high-fat diet increases insulin clearance in non-obese healthy men.
53rd Annual meeting of the European Association for the Study of Diabetes, Lisbon(Portugal), 2017.9.11-15

19. Suzuki R, Tamura Y, Kakehi S, Takeno K, Sakurai Y, Funayama T, Furukawa Y, Kaga H, Sugimoto D, Kadowaki S, Someya Y, Kanazawa A, Kawamori R, Watada H.
Three Days Low-Carbohydrate/High-Fat Diet Increases Insulin Clearance in Nonobese Healthy Men.
77th American Diabetes Association Scientific Sessions, San Diego(USA), 2017.6.9-13,

20. Suzuki L, Miyatsuka T, Himuro M, Miura M, Nishio R, Goto H, Uchida T, Kanazawa A, Watada H.
Everolimus suppress insulin secretion independently of its anti-proliferative or cytotoxic effects revealed by clinical case and in vitro study.
53rd Annual meeting of the European Association for the Study of Diabetes, Lisbon(Portugal), 2017.9.11-15

21. Suzuki L, Miyatsuka T, Himuro M, Miura M, Fujitani Y, Nishida Y, Watada H.
Cumulative autophagy deficiency causes progressive β-cell failure.
The 8th International Symposium on Autophagy, Nara(Japan), 2017.5.29-6.1

22. Suzuki L, Miyatsuka T, Himuro M, Katahira T, Miura M, Fujitani Y, Nishida Y, Watada H.
Cumulative Autophagy Deficiency Causes Progressive β-Cell Failure.
77th American Diabetes Association Scientific Sessions, San Diego(USA), 2017.6.9-13

23. Someya Y, Tamura Y, Suzuki R, Kaga H, Sugimoto D, Kadowaki S, Takeno K, Kakehi S, Funayama T, Furukawa Y, Kawamori R, Watada H.
Characteristics of Glucose Metabolism in Japanese Nondiabetic Underweight Women.
77th American Diabetes Association Scientific Sessions, San Diego(USA), 2017.6.9-13,

24. Someya Y, Tamura Y, Kohmura Y, Fukao K, Aoki K, Kawai S, Daida H.
Slightly elevated BMI within normal limits at young age predict metabolic disorders in Japanese men

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

The 3rd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo(Japan), 2017.10.14, ポ

25. Satoh H, Ohira T, Moriya C, Inoue I, Kuribayashi S, Seino H, Hirai H, Hiyoshi T, Watada H. L-CGM STUDY GROUP.
Effects of Linagliptin on Daily Glucose Excursion in Continuous Glucose Monitoring of Japanese Type 2 Diabetic Patients (L-CGM Study).
77th American Diabetes Association Scientific Sessions, San Diego(USA), 2017.6.9-13,

26. Sato J, Kanazawa A, Azuma K, Ikeda F, Goto H, Komiya K, Kanno R, Tamura Y, Yamashiro Y, Watada H.
Probiotics Reduces Bacterial Translocation in Japanese Patients with Type 2 Diabetes Mellitus.
77th American Diabetes Association Scientific Sessions, San Diego(USA), 2017.6.9-6.13

27. Sasaki S, Miyatsuka T, Matsuoka T, Fujitani Y, Watada H, Shimomura I.
Novel Spatiotemporal Imaging Reveals Two Distinct Pathways of β-Cell Neogenesis.
77th American Diabetes Association Scientific Sessions, San Diego(USA), 2017.6.9-13

28. Osonoi Y, Mita T, Azuma K, Nakajima K, Masuyama A, Nishida Y, Miyatsuka T, Fujitani Y, Koike M, Mitsumata M, Watada H.
Defect of autophagy in vascular smooth muscle cells enhances cell death and atherosclerosis
The 8th International Symposium on Autophagy, Nara(Japan), 2017.5.29-6.1

29. Nicolucci A, Arya N, Charbonnel B, Ruzafa J. C, Fenici P, Gomes M. B, Hammar N, Kamal S, Khunti K, Kosiborod M, Shestakova M. V, Shimomura I, Tang F, Watada H, Pocock S.
Treatment Patterns and Associated Factors in 13,379 Patients with Type 2 Diabetes Initiating a Second-Line Therapy : The DISCOVER Study.
77th American Diabetes Association Scientific Sessions, San Diego(USA), 2017.6.9-13,

30. Moriya C, Satoh H, Watada H.
Febuxostat improves skeletal muscle insulin resistance viaupregulating skeletal muscle PGC-1α expression in high fat diet fedmale Wistar rats.
53rd Annual meeting of the European Association for the Study of Diabetes, Lisbon(Portugal), 2017.9.11-15

31. Moriya C, Satoh H, Watada H.
Febuxostat Improves Skeletal Muscle Insulin Resistance via Upregulating Skeletal Muscle PGC-1α Expression in High-Fat Diet-Fed Male Wistar Rats.
77th American Diabetes Association Scientific Sessions, San Diego(USA), 2017.6.9-13,

32. Miyatsuka T, Miura M, Sasaki S, Katahira T, Fujitani Y, Matsuoka T, Watada H.
Suppression of Stat3 signalling promotes acinar-to-beta reprogramming.
53rd Annual meeting of the European Association for the Study of Diabetes, Lisbon(Portugal), 2017.9.11-15

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

33. Kosiborod M, Arya N, Ruzafa J. C, Fenici P, Gomes M. B, Hammar N, Kamal S, Nicolucci A, Pocock S, Rathmann W, Shestakova M. V, Simomura I, Tang F, Watada H, Khunti K.
Global Prevalence of Type 2 Diabetes Complications in 14,391 Patients lnitiating Second-Line Therapy: The DISCOVER Study.
77th American Diabetes Association Scientific Sessions, San Diego(USA), 2017.6.9-13

34. Khunti K, Arya N, Ruzafa J. C, Fenici P, Gomes M. B, Hammar N, Ji L, Kamal S, Kosiborod M, Pocock S, Shestakova M. V, Simomura I, Tang F, Watada H, Nicolucci A.
Glycaemic Control in 14,005 Patients with Type 2 Diabetes Initiating Second-Line Therapy in 36 Countries: The DISCOVER Study.
77th American Diabetes Association Scientific Sessions, San Diego(USA), 2017.6.9-13,

35. Katahira T, Miyatsuka T, Miura M, Suzuki L, Himuro M, Watada H.
Endocrine Plasticity in the Pancreatic Islets of Diabetic Mouse Models.
77th American Diabetes Association Scientific Sessions, San Diego(USA), 2017.6.9-13

36. Kakehi S, Tamura Y, Funayama T, Takeno K, Kawamori R, Watada H.
Effects of exercise intensity on the insulin sensitivity and lipid composition in skeletal muscle under the same calorie consumption exercise.
The 3rd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo(Japan), 2017.10.14

37. Kaga H, Tamura Y, Kakehi S, Someya Y, Suzuki R, Takeno K, Funayama T, Furukawa Y, Watada H.
Significance of feedback inhibition of insulin secretion by insulin in healthy non-obese men.
The 3rd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo(Japan), 2017.10.14

38. Kaga H, Tamura Y, Kakehi S, Someya Y, Suzuki R, Sugimoto D, Kadowaki S, Takeno K, Funayama T, Furukawa Y, Kawamori R, Watada H.
Significance of Feedback Inhibition of Insulin Secretion by Insulin in Healthy Nonobese Men.
77th American Diabetes Association Scientific Sessions, San Diego(USA), 2017.6.9-13

39. Himuro M, Miyatsuka T, Suzuki L, Koike M, Shiota C, Gittes G. K, Fujitani Y, Watada H.
Exploring the autophagy mechanism in pancreatic a cell.
The 8th International Symposium on Autophagy, Nara(Japan), 2017.5.29-6.1

40. Himuro M, Miyatsuka T, Suzuki L, Koike M, Shiota C, Gittes G. K, Fujitani Y, Watada H.
Exploring the autophagy mechanism in pancreatic alpha cell.
53rd Annual meeting of the European Association for the Study of Diabetes, Lisbon(Portugal), 2017.9.11-15

41. Eshima H, Tamura Y, Kakehi S, Kawamori R, Watada H.
Muscle contractile force dysfunction concurrently with intracellular Ca2+dysregulation in skeletal

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

muscle in a mouse model of type 2 diabetes.
The 3rd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo(Japan), 2017.10.14

42. Watada H.
Cardiovascular benefit of glucose-lowering agents.
IDF Congress 2017, Abudhabi(UAE), 2017.12.4-8

43. Shitara J, Konishi H, Kasai T, Miyauchi K, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Tamura H, Okazaki S, Daida H.
Impact of lipoprotein(a) levels on long-term outcomes of patients with left ventricular systolic dysfunction after percutaneous coronary intervention.
AHA Scientific Sessions 2017, anaheim convention center, 2017.11.14

44. Kawaguchi Y, Fujimoto S, Kawasaki T, Kumamaru KK, Dohi T, Kato E, Aoshima C, Takamura K, Kato Y, Hiki M, Okazaki S, Rybicki FJ, Daida H.
The Predictive Factors Affecting Diagnostic Accuracy in On-Site Operated Novel CT-Fractional Flow Reserve Based on Fluid and Structural Interaction.
90th Scientific Session, Anaheim, USA, 2017.11

45. Kanako K. Kumamaru, Shinichiro Fujimoto, Yuko Kawaguchi, Etsuro Kato, Kazuhisa Takamura, Tomotaka Dohi, Hiroyuki Daida, Shigeki Aoki.
Adjustment of CT-Fractional Flow Reserve Underestimation to Minimize 1-year Cardiac Events.
The 103nd Scientific Assembly & Annual Meeting of the Radiological Society of North America, Chicago, USA, 2017.11

46. Kenichi Kitamura, Kikuo Isoda, Koji Akita, Yayoi Okabayashi, Kazunori Shimada, Hiroyuki Daida.
An anti-Interleukin-1beta antibody suppresses both angiotensin II-induced hypertension and aortic aneurysm.
ESC congress, Barcelona, 2017Aug26-30

47. Murata A, Kasai T, Yatsu S, Matsumoto H, Kato T, Suda S, Hiki M, Daida H.
Association Between Overnight Fluid Shift and Sleep Apnea Severity in Patients with Moderate-to-Severe Mitral Valve Regurgitation and Preserved Ejection Fraction.
American Thoracic Society, Washington DC, 2017.5.22

48. Hirohisa Endo, Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Jun Shitara, Hideki Wada, Shinichiro Doi, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Yoshiteru Kato, Iwao Okai, Miho Yokoyama, Hiroshi Iwata, Takatoshi Kasai, Takayuki Yokoyama, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Kazunori Shimada, Satoru Suwa, Hiroyuki Daida.
Clinical Significance of Non-culprit Plaque Regression Following Acute Coronary Syndrome: A Serial Intravascular Ultrasound Study.
AHA Scientific Sessions, Anaheim, Nov 11-15, 2017

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

49. Norihito Takahashi, Hideki Wada, Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Shinichiro Doi, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi Manabu, Ogita Takatoshi, Kasai Shinya, Okazak Kikuo, Isoda Satoru Suwa, Hiroyuki Daida.
    Combined Serum Albumin and C-reactive Protein Levels Predict Long-term Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease after a First Percutaneous Coronary Intervention.
    American College of Cardiology's 66th Annual Scientific Session.Washington, DC, USA March 17-19, 2017

50. Kadoguchi T, Shimada K, Kunimoto M, Miyazaki T, Daida H.
    Deficiency of NADPH Oxidase 4 Restores Muscle Atrophy via Redox Regulation in Angiotensin II-Infusion Mice.
    国際スポートロジー学会, 東京, 2017 年 10 月 14 日

51. Kawaguchi Y, Fujimoto S, Kawasaki T, Kumamaru KK, Dohi T, Kato E, Aoshima C, Takamura K, Kato Y, Hiki M, Okazaki S, Rybicki FJ, Daida H.
    Diagnostic Accuracy of On-Site Operated Novel CT-Fractional Flow Reserve Based on Fluid Structure Interactions: Comparison with Invasive Fractional Flow Reserve and Instantaneous Flow Reserve.
    90th Scientific Session Anaheim, USA, 2017.11

52. Shimizu M, Kasai T, Yatsu S, Murata A, Matsumoto H, Shitara J, Kato T, Suda S, Naito R, Shimada K, Daida H.
    Diurnal variation of serum uric acid levels and corresponding variations of oxidative stress makers in patients with hypertension and stable coronary artery disease.
    AHA Council on Hypertension American Society of Hypertension Joint Scientific Session 2017, Hyatt Regency San Francisco, 2017.9.15

53. Takeshi Kimura, Kyoto Univ Graduate Sch of Med, Kyoto, Japan; Teruo Inoue, Dokkyo Medical Univ, Mibu, Japan; Isao Taguchi, Dokkyo Medical Univ Koshigaya Hosp, Saitama, Japan; Hiroshi Iwata, Juntendo Univ, Tokyo, Japan; Satoshi Iimuro, Teikyo Univ, Tokyo, Japan; Takafumi Hiro, Nihon Univ Sch of Med, Kyoto, Japan; Yoshihisa Nakagawa, Tenri Hosp, Nara, Japan; Yukio Ozaki, Fujita Health Univ Hosp, Toyoake, Japan; Yasuo Ohashi, Chuo Univ, Tokyo, Japan; Hiroyuki Daida, Juntendo Univ Graduate Sch of Med, Tokyo, Japan; Hiroaki Shimokawa, Tohoku Univ Graduate Sch of Med, Sendai, Japan; Ryozo Nagai, Jichi Medical Univ, Tochigi, Japan; REAL-CAD investigators.
    Does High-Intensity Pitavastatin Therapy Further Improve Clinical Outcomes? The REAL-CAD Study in 13,054 Patients With Stable Coronary Artery Disease.
    AHA Anaheim, UAS, Nov 13, 2017

54. Murata A, Kasai T, Yatsu S, Matsumoto H, Kato T, Suda S, Hiki M, Daida H.
    Effect of Mitral Valve Surgery on Overnight Fluid Shift and Sleep Apnea in Patients with Moderate-to-Severe Mitral Valve Regurgitation and Preserved Ejection Fraction.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

CHEST American College of Chest Physician 2017, Canada Toronto, 2017,11,1

55. Hirokazu Konishi, Katsumi Miyauchi, Hideki Wada, Ryo Naito, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroyuki Daida.
Effect of pemafibrate (k-877), A Nobel selective peroxisome proliferator-activated receptorαmodulator (spparmα), in atherosclerosis model using low density lipoprotein receptor knock -out swine with balloon injury.
AHA Scientific Sessions 2017, Anaheim, USA, November 13,2017

56. Sato H, Fujimoto S, Kogure Y, Daida H.
Feasibility of Macrophage Plaque Imaging Using Ultrasmall Superparamagnetic iron Oxide in Dual Energy CT.
SCCT 2017 12th Annual Scientific meeting, Washinton DC, USA, 2017.7

57. Norihito Takahashi, Manabu Ogita, Katsumi Miyauchi, Hideki Wada, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa, H. Bujo, Hiroyuki Daida.
Impact of LR11 as residual risk on long term clinical outcomes in patients with coronary artery disease treated with statin after first percutaneous coronary intervention.
ESC congress 2017, Barcelona, Spain, Aug 29, 2017

58. Yatsu S, Naito R, Kasai T, Matsumoto H, Murata A, Kato T, Suda S, Hiki M, Miyauchi K, Daida H.
Impact of nocturnal pulse oximetry on long-term clinical outcomes in patients who underwent percutaneous coronary intervention.
CHEST American College of Chest Physician, Canada Toronto 2017,10,28-11,1

59. H Wada, T Dohi, K Miyauchi, S Doi, R Naito, H Konishi, S Tsuboi, M. Ogita, T Kasai, S. Okazaki, K. Isoda, S Suwa, H Daida.
Long-term clinical impact of serum albumin in coronary artery disease patients with preserved renal function following percutaneous coronary intervention.
ESC congress 2017, Barcelona, Spain, Aug 29, 2017

60. Asuka Takano, Hiroshi Iwata, Atsushi Kimura, Sayaka Kuroda, Hiroshi Mukaida, Shota Osawa, Iwao Okai, Hiroshi Tamura, Kikuo Isoda, Shinya Okazaki, Kenji Inoue, Yasumasa Fujiwara, Katsumi Miyauchi, Masataka Sumiyoshi, Atsushi Amano, Hiroyuki Daida.
Low Blood Pressure is An Independent Predictor of Thrombocytopenia Induced by Intra Aortic Ballon Pumping Counter Pulsation in The Cardiac Care Unit.
ATS Washington DC, USA, May 22, 2017

61. Ouchi S, Shimada K, Miyazaki T, Takahashi S, Sugita Y, Shimizu M, Kato T, Aikawa T, Suda S, Sai E, Hiki M, Iwata H, Kasai T, Miyauchi K, Daida H.
Low levels of 1,5-anhydroglucitol are associated with long-term cardiac mortality in acute coronary syndrome patients with HbA1c levels less than 7.0%.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

AHA, Anaheim USA, Circulation. 136:A17229, Nov 14, 2017

62. Ouchi S, Miyazaki T, Shimada K, Sugita Y, Shimizu M, Kato T, Aikawa T, Suda S, Hiki M, Takahashi S, Iwata H, Kasai T, Miyauchi K, Daida H.
Low polyunsaturated fatty acids levels predict long-term mortality in patients with acute decompensated heart failure independent of the geriatric nutritional risk index.
American Heart Association Scientific Session 2017, Anaheim, Nov14 ,2017

63. Shimizu M, Miyazaki T, Shiozawa J, Sugita Y, Aikawa T, Ouchi S, Hiki M, Kaneko H, Nagayama M, Ishijima M, Shimada K, Kaneko K, Daida H.
Low preoperative eicosapentaenoic acid levels predict a new onset of deep vein thrombosis after total knee arthroplasty.
American Heart Association Scientific Session 2017, Anaheim, Nov12, 2017

64. Shinichiro Doi, Hiroshi Iwata, Ryo Naito, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida.
Low serum triglyceride in combination with low total cholesterol levels associate increased risk of long-term all-cause mortality in patients undergoing percutaneous coronary intervention.
ESC congress 2017, Barcelona, Spain, Aug 27, 2017

65. Tomoyasu Kadoguchi, Kazunori Shimada, Tomoyuki Shiozawa, Shuhei Takahashi, Hamad Al Shahi, Tatsuro Aikawa, Shohei Ouchi, Kenichi Kitamura, Yurina Sugita, Tetsuro Miyazaki, Koji Akita, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida.
NADPH oxidase 4 induces muscle wasting via regulation of NF-E2-related factor 2 in angiotensin ii-infusion mice.
ESC congress 2017, Barcelona, Spain, Aug 26-30, 2017

66. Hirohisa Endo, Hiroshi Iwata, Ryo Naito, Hideki Wada, Shinichiro Doi, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida.
Persistent higher high sensitivity C-reactive protein after percutaneous coronary intervention (PCI) predicts higher mortality in patients undergoing PCI with stable coronary artery disease.
ESC congress 2017, Barcelona , Spain, Aug 26-30, 2017

67. Yatsu S, Kasai T, Murata A, Matsumoto H, Kato T, Suda S, Hiki M, Konish H, Daida H.
Prevalence and Clinical Significance of Restless Legs Syndrome in Patients with Heart Failure.
European Society of Cardiology（ESC）CONGRESS 2017, Spain, Barcelona, Aug 26-30, 2017

68. Hideki Wada, Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Shiniciro Doi, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa, Hiroyuki Daida.
Prognostic impact of nutritional status assessed by controlling nutritional status score in patients

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

with stable coronary artery disease undergoing percutaneous coronary intervention.
ESC congress 2017. Barcelona, Aug 26-30, 2017

69. Hideki Wada, Tomoaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Shinichiro Doi, Hirokazu Konishi, Ryo Naito, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa, Hiroyuki Daida.
Prognostic Impact of Objective Nutritional Indexes in Patients with Stable Coronary Artery Disease Undergoing Elective Percutaneous Coronary Intervention.
AHA Anaheim, UAS, Nov 13, 2017

70. Asuka Takano, Hiroshi Iwata, Kyoko Kubota, Atsushi Kimura, Shinya Okazaki, Satoru Suwa, Masataka Sumiyoshi, Atsushi Amano, Hiroyuki Daida.
Reduced Number of Platelets in Cardiac Critical Patients Requiring Mechanical Circulatory Support Associates Increased Risk of Cardiovascular Mortality After Device Removal.
AHA Anaheim, UAS, Nov 13, 2017

71. Yatsu S, Kasai T, Matsumoto H, Murata A, Kato T, Suda S, Hiki M, Takagi A, Daida H.
Relationship between hypoalbuminemia on admission and long-term mortality in hospitalized patients following acute decompensated heart failure.
European Society of Cardiology Heart Failure (ESC-HF) 2017, France Paris, Apr29-May2, 2017

72. Kunimoto M, Shimada K, Yokoyama M, Takahashi S, Shiozawa T, Aikawa T, Ouchi S, Amano A, Daida H.
Relationship between the Japanese national checklist as an index of frailty and plasma fatty acid levels in elderly patients receiving cardiac rehabilitation.
国際スポートロジー学会，東京, 2017 年 10 月 14 日

73. Hiki M, Kasai T, Matsumoto H, Murata A, Kato T, Suda S, Yatsu S, Daida H.
Serum levels of exocrine pancreatic enzyme in patients with heart failure.
European Society of Cardiology Heart Failure (ESC-HF) 2017, France Paris, 2017.5.1

74. Kawaguchi Y, Fujimoto S, Kumamaru K, Dohi T, Ri K, Yamada S, Takamura K, Kato E, Hiki M, Kato Y, Okazaki S, Daida H.
The Predictive Factors Affecting Diagnostic Performance on Novel CT-Fractional Flow Reserve Based on Fluid Structual Interaction.
SCCT 2017 12th Annual Scientific meeting, Washinton DC, USA 2017.7

75. Aikawa T, Yokoyama T, Hiki M, Sai E, Kawaguchi Y, Ouchi S, Takamura T, Fujimoto S, Miyazaki T, Shimada K, Daida H.
Usefulness of measuring infarct size for predicting post-infarct left ventricular remodeling using cardiac magnetic resonance.
EuroCMR 2017. Prague. 2017.5.25.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

76. Hirokazu Konishi, Juntendo Univ Shizuoka Hosp, Shizuoka, Japan; Katsumi Miyauchi, Hideki Wada, Ryo Naito, Juntendo Univ, Tokyo, Japan; Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Juntendo Univ Shizuoka Hosp, Shizuoka, Japan; Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroyuki Daida, Juntendo Univ, Tokyo, Japan.
Using Low Density Lipoprotein Receptor Knock-out Swine With Balloon Injury
AHA Anaheim, UAS, Nov 13, 2017

77. Kunimoto M, Shimada K, Yokoyama M, Hoshino Y, Takahashi T, Shiozawa T, Aikawa T, Ouchi S, Amano A, Daida H.
Validity of the Japan's national checklist as an index of frailty and plasma fatty acid levels in elderly patients receiving cardiac rehabilitation.
EuroPREVENT 2016. Malaga, Spain. 2017.4.6

78. Hori M, Fukunaga I, Ueda R, Kamiya K, Suzuki Y, Murata K, Takamura T, Hamasaki N, Irie R, Kumamaru K, Suzuki M, Aoki S.
Application of Quantitative Microstructural MR Imaging with Atlas-Based Analysis for Spinal Cord in Cervical Spondylotic Myelopathy.
ISMRM 25th Annual Meeting & Exhibition, Honolulu, USA, Apr 22-27, 2017

79. Hori M, Kamiya K, Suzuki Y, Nojiri R, Turushima Y, Ueda R, Fukunaga I, Nakazawa M, Hagiwara A, Andica C, Kamagata K, Ishigame K, Kumamaru K, Aoki S.
The Pitfalls of MR Fiber G-Ratio Mapping in Neurological Disease Patients.
ISMRM 25th Annual Meeting & Exhibition, Honolulu, USA, Apr 22-27, 2017

80. Kamiya K, Hori M, Irie R, Miyajima M, Nakajima M, Kamagata K, Tsuruta K, Suzuki Y, Saito A, Nakazawa M, Mori H, Kunimatsu A, Arai H, Aoki S, Abe O.
Diffusion Microstructural Imaging of Reversible and Irreversible Changes Within the Corticospinal Tract in Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus.
ISMRM 25th Annual Meeting & Exhibition, Honolulu, USA, Apr 22-27, 2017

81. Takano N, Suzuki M, Irie R, Yamamoto M, Hamasaki N, Hoshito H, Kumamaru K, Hori M, Oishi H, Aoki S.
Visualization of Intracranial Aneurysms Treated with Low-Profile Visualized Intraluminal Support (LVIS Jr. Stent) Using Ultrashort Echo Time Magnetic Resonance Angiography.
ISMRM 25th Annual Meeting & Exhibition, Honolulu, USA, Apr 22-27, 2017

82. Andica C, Hagiwara A, Nakazawa M, Hori M, Aoki S.
Automated Brain Tissue and Myelin Volumetry Based on Quantitative MR Imaging with Variable In-plane Resolutions.
ISMRM 25th Annual Meeting & Exhibition, Honolulu, USA, Apr 22-27, 2017

83. Andica C, Hagiwara A, Nakazawa M, Hori M, Aoki S.
Clinical Application of Synthetic MRI: Benefits and Pitfalls.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

ISMRM 25th Annual Meeting & Exhibition, Honolulu, USA, Apr 22-27, 2017

84. Irie R, Kamagata K, Kerever A, Yokosawa S, Otake Y, Ochi H, Tagawa K, Okazawa H, Ueda R, Takahashi K, Sato K, Hori M, Hirasawa E, Aoki S.
The Histological Validation Analysis of Diffusional Kurtosis Imaging with a Cleared Mouse Brain.
ISMRM 25th Annual Meeting & Exhibition, Honolulu, USA, Apr 22-27, 2017

85. Hara S, Hori M, Murata S, Ueda R, Nakazawa M, Tanaka Y, Maehara T, Aoki S, Nariai T.
NODDI Revealed the Brain Microstructural Damage in Patients with Moyamoya Disease.
ISMRM 25th Annual Meeting & Exhibition, Honolulu, USA, Apr 22-27, 2017

86. Takamura T, Ueda R, Hori M, Irie R, Kamagata K, Suzuki M, Aoki S.
The Utility of DTI and NODDI for Assessment of Disease Severity and in Predicting Postoperative Neuronal Recovery: An Atlas-Based Tract Specific Study.
ISMRM 25th Annual Meeting & Exhibition, Honolulu, USA, Apr 22-27, 2017

87. Suzuki Y, Kamiya K, Mitsuda M, Kunimatsu A, Hori M, Mori H, Maruyama K, Ino K, Watanabe Y, Sato J, Aoki S, Yano K, Abe O.
Multi-Modal Characterization of White Matter for Studying Language and Hand Motor Function.
ISMRM 25th Annual Meeting & Exhibition, Honolulu, USA, Apr 22-27, 2017

88. Hagiwara A, Hori M, Nakazawa M, Ueda R, Horita M, Andica C, Takahashi Y, Aoki S.
Analysis of White Matter Damage in Patients with Multiple Sclerosis by a Novel In Vivo MR Measurement Method of Axon and Myelin.
American Society of Neuroradiology 55th Annual Meeting and the Foundation of the ASNR Symposium 2017, California, USA, Apr 22–27, 2017

89. Hagiwara A, Hori M, Andica C, Nakazawa M, Takahashi Y, Aoki S.
Rapid Simultaneous Tissue Relaxometry and Synthetic MRI of the Brain.
American Society of Neuroradiology 55th Annual Meeting and the Foundation of the ASNR Symposium 2017, California, USA, Apr 22–27, 2017

90. Yuko Kawaguchi, Shinichiro Fujimoto, Kanako Kumamaru, Tomotaka Dohi, Keiken Ri, Sou Yamada, Kazuhisa Takamura, Etsuro Kato, Makoto Hiki, Yoshiteru Kato, Shinya Okazaki, Shigeki Aoki.
The Predictive Factors Affecting Diagnostic Performance on Novel CT-Fractional Flow Reserve Based on Fluid and Structural Analysis.
12th Annual Scientific Meeting of the Society of Cardiovascular Computed Tomography, Washington, USA, July 6-9, 2017

91. Hara S, Hori M, Inaji M, Maehara T, Ishii K, Aoki S. Nariai T.
Correlation between brain microstructure revealed by Neurite Orientation Dispersion and Density Imaging and cerebral hemodynamics and metabolism measured with positron emission tomography

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

in patients with moyamoya disease.
Neuroscience 2017, Washington D.C., USA, Nov 11-15, 2017

92. Shimizu K, Hara S, Tazawa T, Hori M, Tanaka Y, Maehara T, Aoki S, Nariai T.
Neurite orientation dispersion and density imaging (NODDI) study in patients with transient global amnesia (TGA).
Neuroscience 2017, Washington D.C., USA, Nov 11-15, 2017

93. Kanako Kumamaru, Yosuke Kogure, Mai Fujinawa, Michimasa Suzuki, Masaaki Hori, Ryusuke Irie, Tomohiro Takamura, Atsushi Nakanishi, Shigeki Aoki, Saori Koshino, Christina Andica.
Protocol Standardization on a CT Console to Show Age Definition as an Easy Way to Optimize Radiation Dose for Pediatric Head CT.
RSNA 103rd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 26-Dec 1, 2017

94. Christina Andica, Akifumi Hagiwara, Masaaki Hori, Kanako Kumamaru, Misaki Nakazawa, Nao Takano, Koji Kamagata, Mariko Yoshida, Shigeki Aoki.
Overview of a Synthetic MRI: Basic, Clinical Applications, and Limitations.
RSNA 103rd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 26-Dec 1, 2017

95. Saori Koshino, Akifumi Hagiwara, Christina Andica, Ryusuke Irie, Tomoko Maekawa, Misaki Nakazawa, Moeko Horita, Masaaki Hori, Shigeki Aoki.
Pitfalls of SyMRI.
RSNA 103rd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 26-Dec 1, 2017

96. Syo Murata, Masaaki Hori, Katsutoshi Murata, Christina Andica, Koji Kamagata, Michimasa Suzuki, Kanako Kumamaru, Shuji Sato, Nozomi Hamasaki, Hideo Kawasaki, Misaki Nakazawa, Issei Fukunaga, Kouhei Tsuruta, Haruyoshi Hoshito, Shigeki Aoki.
The influence of magnetization transfer effects on simultaneous multi-slice turbo spin-echo sequence.
RSNA 103rd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 26-Dec 1, 2017

97. Hada S, Ishijima M, Kaneko H, Kinoshita M, Liz L, Arita H, Shiozawa J, Yusup A, Takazawa Y, Ikeda H , Kusunose K , Okada Y, Kaneko K.
The degeneration of medial meniscus detected by T2 mapping MRI according to the severity of medial knee osteoarthritis.
OARSI 2017, Las Vegas, USA, Apr 27-30 ,2017

98. M Kinoshita, H Kaneko, M Ishijima, L Liu, R Sadatsuki, S Hada, A Yusup, H Arita, J Shiozawa, T Aoki, Y Tamura, R Kawamori, K Kaneko.
Vitamin D status and index representing the detrimental mechanical loading across the knee joint in end-stage knee osteoarthritis
OARSI 2017, Las Vegas, USA, Apr 27-30 ,2017

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

99. H Arita, H Kaneko, M Ishijima, M Ishibashi, L Liu, J Shiozawa, S Hada, M Kinoshita, A Yusup, T Aoki, M Nagao, Y Takazawa, H Ikeda, K Kaneko.
The medial meniscus extrusion is inversely associated with the gait speed of the patients with end-stage of medial knee osteoarthritis
OARSI 2017, Las Vegas, USA, Apr 27-30 ,2017

100. J Shiozawa, M Ishijima, H Kaneko, M Nagayama, T Miyazaki, M Shimizu, S Hada, M Kinoshita, H Arita, L Liu, M Nagao, Y Takazawa, H Ikeda, H Daida, K Kaneko.
Pre-operative prevalence and risk factor for the asymptomatic deep vein thrombosis (DVT) in patients with end-stage knee osteoarthritis.
OARSI 2017, Las Vegas, USA, Apr 27-30 ,2017

101. Shimura Y, Kurosawa H, Kaneko H, Nojiri H, Iwase Y, Kaneko K, Ishijima M.
The association between depressive state and inflammation-related substances in serum in patients with knee OA.
OARSI 2017, Las Vegas, USA, Apr 27-30 ,2017

102. Aoki T, Ishijima M, Hada S, Kaneko H, Liu L, Kinoshita M, Arita H, Shiozawa J, Tamura Y, Watada H, Kaneko K.
Texture analysis using T2-Kurtosis Image of medial meniscus associated with meniscal pathologies.
ISMRM Workshop on Osteoarthritis Imaging, Sydney, Australia, Jun 1-3 ,2017

103. Lizu Liu, Muneaki Ishijima, Mayuko Kinoshita, Masashi Nagao, Haruka Kaneko, Ryo Sadatsuki, Shinnosuke Hada, Anwarjan Yusup, Hitoshi Arita, Jun Shiozawa, Yoshinori Tamura, Hirotaka Watada, Kazuo Kaneko.
Serum Levels of Tartrate-Resistant Acid Phosphatase 5b (TRACP-5b) and the Risk for the Radiographic Medial Knee Joint Space Narrowing in Men in Early Forties without Knee Pain -A Three Years Prospective Observational Study.
39th Annual Meeting of the ASBMR, Denver, Colorado, USA, Sep 8-11, 2017

104. Aoki T, Ishijima M, Hada S, Kaneko H, Liu L, Kinoshita M, Arita H, Shiozawa J, Tamura Y, Watada H, Kaneko K.
Texture analysis of T2-Kurtosis Image (T2KI) for the degeneration of medial meniscus associated with the extruded medial meniscus in elderlies without knee pain.
103rd Scientific Assembly & Annual Meeing of Radiological Society of North America, Chicago, Illinoi, USA, Nov 26-Dec 1,2017

105. Mitsuaki Kubota, Ryuichi Ohno, Rei Momomura, Tokuo Narimiya, Daiju Yamada, Shin Fukusato, Taisei Kurihara, Kazuo Kaneko.
Will over 95 degree of MPTA after HTO make worse in the future?
4th JAPAN-KOREA Knee Osteotomy Symposium, Toyama, JPAN, April 21,2017

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

106. Ensue Kobayashi, Youngji Kim, Daisuke Kubota, Yoshiyuki Suehara, Kenta Mukaihara, Keisuke Akaike, Ayumu Ito, Kazuo Kaneko, Hirokazu Chuman, Akira Kawai, Shigehisa Kitano.
Reduced argininosuccinate synthetase expression in refractory sarcomas: impacts
AACR Annual Meeting 2017, Washington, D.C., USA, 2017. 4

107. Youngji Kim, Eisuke Kobayashi, Daisuke Kubota, Yoshiyuki Suehara, Ayumu Ito, Kazuo Kaneko, Akira Kawai, Hirokazu Chuman, Shigehisa Kitano.
Immune monitoring in patients with bone and soft tissue sarcoma.
CTOS (The Connective Tissue Oncology Society) Annual Meeting 2017, Maui Hawaii (USA), November 8 - 11, 2017

108. Akira Hara, Toshiya Kudo, Satoshi Ichihara, Hideaki Iwase, Koichi Kusunose, Yuichiro maruyama, Kazuo Kaneko.
Does the transcondylar screw of posterolateral plate contribute to the stabilization of orthogonal plating?
第 72 回アメリカ手外科学会・San Francisco, CA, Sep 7－9, 2017

109. Yuasa T, Maezawa K, Sato H, Maruyama Y, Kaneko K, Nozawa M.
Rotational Acetabular Osteoromy For Acetabular dysplasia and Osteoarthritis: A mean Follow-Up 20-Years.
18 th EFFORT Vienna, Austria, May31-June2, 2017

110. Yoshio Shimamura, Rei Momomura, Hiroyuki Furuya, Kazuo Kaneko.
Efficacy of indirect decompression of extreme lateral interbody fusion for adjacent-segment lumbar degenerative stenosis after laminectomy; A case report.
Asia-Pacific SOLAS meeting 1st, Nobotel Sydney Brighton Beach, Sydney, 2017.9.1

111. Suehara Y, Tanabe Y, Akaike K, Mogushi K, Hayashi T, Kurihara T, Kaneko K, Saito T.
Anti-tumor activity of tyrosine kinase inhibitors in alveolar soft part sarcoma.
European Society For Medical Oncology – ASIA, Singapore, Singapore, Nov 17-19, 2017

112. Kim Y, Suehara Y, Kaneko K.
Diagnostic strategy for skeletal metastasis of unknown primary origin at the initial visit/ Up-to-date treatment of skeletal metastasis.
27th Korean-Japanese Combined Orthopedic Symposium, Incheon, Korea, May 25-26 2017

113. Tanabe Y, Suehara Y, Terakado A, Okubo T, Kim Y, Ishii M, Uehara H, Maruyama Y, Saito T, Kaneko K.
Locomotive Syndrome in Lower Amputees: A Comparative Study with Orthopedic Patients.
19th, International Symposium on Limb Salvage, Kanazawa Japan, May 10-12th, 2017

114. Suehara Y, Kubota D, Kato S, Akaike K, Tanabe Y, Okubo T, Kim Y, Saito T, Kaneko K.
Large skin ulcer due to a subcutaneous orthopedic implant after bevacizumab therapy.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

19th, International Symposium on Limb Salvage, Kanazawa Japan, May 10-12th, 2017

115. Tatsuya Takagi, Daisuke Kubota, Keisuke Akaike, Yoshiyuki Suehara, Kazuo Kaneko.
Conservative Treatment for Metastatic Spinal Tumors.
Inrernational Society on Limb Salvage, Kanazawa, 2017.5

116. Sasaki F, Oyama G, Ito M, Sekimoto S, Nakamura R, Jo T, Simo Y, Umemura A, Hattori N.
Postoperative delirium after Deep Brain Stimulation surgery for Parkinson's disease, Poster 365.
International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders 2017, Vancouver, BC, Canada, June 4-8, 2017

117. Straniero L, Guella I, Rimoldi V, Parkkinen L, Young A, Asselta R, Follett J, Soldà G, Saba E, Sossi V, Stoessl J, Nishioka K, Hattori N, Rajput A, Cilia R, Goldwurm S, Farrer M, Pezzoli G, Rajput A, Duga S.
A member of the HSP40/DNAJ family is a novel gene for early-onset parkinsonism, Poster 1058.
International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, Vancouver, BC, Canada, June 4-8, 2017

118. Sekimoto S, Oyama G, Hatano T, Sasaki F, Nakamura R, Jo T, Shimo Y, Hattori N.
A prospective randomized cross-over study of telemedicine system in Parkinson's disease, Poster 1376.
International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, Vancouver, BC, Canada, June 4-8, 2017

【学会発表（国際）2018 年】

1. Masaru Hiki, Hiroshi Iwata, Kiyoshi Takasu, Go Ishikawa, Yuichi Chikata, Takatoshi Kasai, Tetsuro Miyazaki, Kenji Inoue, Yasumasa Fujiwara, Masataka Sumiyoshi, Hiroyuki Daida.
Low Heart Rate In Combination With Low Blood Pressure In Patient With Acute decompensated Heart Failure With Increased Risk Of Cardiovascular Mortality.
ACC 2018 67th Annual Scientific Session & Expo – Orlando, USA, Mar 12, 2018

2. Watada H
Autophagy in islet homeostasis and increase of beta cell mass in response to high-fat diet. 54th Annual Meeting of the European Association for the Study of Diabetes, Berlin(Germany), 2018.10.1-5

3. Himuro M, Miyatsuka T, Suzuki L, Miura M, Katahira T, Takahashi M, Nishida Y, Oshima S, Okamoto R, Watada H.
Novel Spatiotemporal Analysis for Exploring α-Cell Differentiation.
78th American Diabetes Association Scientific Sessions, Orlando(USA), 2018.8.22-26

4. Ikeda F, Kanazawa A, Iida M, Kaga H, Takayanagi N, Shimizu T, Shirakawa C, Watada H.
Efficacy of Average Daily Risk Range(ADRR) to Estimate Glycemic Kinetics during Nighttime in

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Japanese Patients with Type 1 Diabetes Mellitus.
78th American Diabetes Association Scientific Sessions Orlando(USA), 2018.6.22-26

5. Kaga H, Tamura Y, Takeno K, Kakehi S, Someya Y, Suzuki R, Kadowaki S, Sugimoto D, Furukawa Y, Funayama T, Kawamori R, Watada H.
The Shape of the Glucose Response Curve during an Oral Glucose Tolerance Test Was Associated with Muscle Insulin Sensitivity and Visceral Fat Accumulation in Nonobese Healthy Men.
78th American Diabetes Association Scientific Sessions Orlando(USA), 2018.6.22-26

6. Kosiborod M, Chen H, Ruzafa J.C, Fenici P, Gomes M. B, Khunti K, Pocock S, Rathmann W, Shestakova M. V, Shimomura I, Surmont F, Tang F, Watada H, Ji L, Hammar N.
Vascular Events in Patients with Type 2 Diabetes in the Year following Initiation of Second-Line Therapy-The DISCOVER Study.
78th American Diabetes Association Scientific Sessions, Orlando(USA), 2018.6.22-24

7. Miura M, Miyatsuka T, Sasaki S, Katahira T, Suzuki L, Himuro M, Nishida Y, Fujitani Y, Matsuoka T, Watada H.
Suppression of STAT3 Signaling Promotes Acinar-to-β Reprogramming Induced by Distinct Transcription Factors.
78th American Diabetes Association Scientific Sessions Orlando(USA), 2018.6.22-26

8. Moriya, C, Satoh, H, Watada H.
Febuxostat Improves Insulin Resistance in the Skeletal Muscle In Vitro and In Vivo .
78th American Diabetes Association Scientific Sessions, Orlando(USA), 2018.6.22-26

9. Satoh H, Sugaya Y, Moriya C, Miyatsuka T, Watada H.
Hepatic G0S2 Exacerbates Hepatic Insulin Resistance in Estrogen-Deficient Female Wistar Rats.
78th American Diabetes Association Scientific Sessions, Orlando(USA), 2018.6.22-26

10. Sugimoto D, Tamura Y, Takeno K, Kaga H, Someya Y, Suzuki R, Kadowaki S, Funayama T, Furukawa Y, Kawamori R, Watada H.
Clinical Significance of Insulin Sensitivity in Adipose Tissue in Apparently Healthy Nonobese Men.
78th American Diabetes Association Scientific Sessions Orlando(USA), 2018.6.22-26

11. Suzuki R, Tamura Y, Someya Y, Kaga H, Sugimoto D, Kadowaki S, Kakehi S, Takeno K, Funayama T, Furukawa Y, Sato J, Kawamori R, Watada H.
Cause of Hyperglycemia in Postmenopausal Underweight Women with Impaired Glucose Tolerance.
78th American Diabetes Association Scientific Sessions Orlando(USA), 2018.6.22-26

12. Waseda, N, Satoh, H, Yoshida, C, Ikeda, F, Kanazawa, A, Watada, H.
Effects of SGLT2 Lnhibitors on lnsulin Secretion and Insulin Resistance-Results from a

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Cross-Sectional Study.
78th American Diabetes Association Scientific Sessions Orlando(USA), 2018.6.22-26

13. Watada H, Shiramoto M, Ueda S, Tang W, Asano M, Thoren F. A, Kim H, Yajima T, Boulton D. W, Araki E.
Pharmacokinetics(PK) and Pharmacodynamics(PD) of Dapagliflozin(DAPA) in Combination with Insulin in Japanese Patients with T1D.
78th American Diabetes Association Scientific Sessions Orlando(USA), 2018.6.22-26

14. Takahashi M, Himuro M, Suzuki L, Miura M, Katahira T, Nishida Y, Itakura A, Takeda S, Watada H.
Pancreaticβ-Cell Mass ls Determined by β-Cell Size after Parturition in Mice.
78th American Diabetes Association Scientific Sessions Orlando(USA), 2018.6.22-26

15. Katahira T, Miura M, Suzuki L, Himuro M, Nishida Y, Fujitani Y, Watada H, Miyatsuka T.
Cellular Plasticity of lslet Cells in Alloxan-treated Diabetic Mice.
Asia Islet Biology & Incretin Symposium, Seoul(korea), 2018.8.2-4

16. Himuro M, Suzuki L, Miura M, Katahira T, Takahashi M, Nishida Y, Oshima S, Okamoto R, Watada H, Miyatsuka T.
Novel Spatiotemporal Analysis for Exploring α-cell Differentiation.
Asia Islet Biology & Incretin Symposium, Seoul(Korea), 2018.8.2-4

17. Suzuki L, Himuro M, Katahira T, Miura M, Fujitani Y, Nishida Y, Watada H, Miyatsuka T.
Cumulative Autophagy Causes Progressive β-cell Failure.
Asia Islet Biology & Incretin Symposium, Seoul(korea), 2018.8.2-4

18. Momoeda M, Kaneko H, Liu L, Hada S, Arita H, Aoki T, Kinoshita M, Negishi Y, Okada Y, Kaneko K, Ishijima M.
Vitamin D status is asociated with mineralization of osteophyte in patients with knee osteoarthritis.
Osteoarthritis Reaseach Society International (OARSI) 2018, Liverpool, UK, 2018.4.26-29

19. Kaneko H, Liu L, Arita H, Aoki T, Negishi Y, Momoeda M, Hada S, Okada Y, Kaneko K, Ishijima M.
Pain reduction after high tibial osteotomy was associated with reduction of histological synovitis in patients with knee osteoarthritis -a longitudinal study.
Osteoarthritis Reaseach Society International (OARSI) 2018, Liverpool, UK, 2018.4.26-29

20. Shiozawa J, Ishijima M, Kaneko H, Nagayama M, Shimizu M, Miyazaki T, Shimada K, Liu L, Takazawa Y, Ikeda H, Daida H, Kaneko K.
Prophalaxis of incidence of deep vein thrombosis (VTE) in lower limbs after total knee arthroplasty (TKA) in patients with knee osteoarthritis by eicosapentaenoic acid (EPA) administration -a

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

case-control study.
Osteoarthritis Reaseach Society International (OARSI) 2018, Liverpool, UK, 2018.4.26-29

21. Shimura Y, Kurosawa H, Kaneko H, Nojiri H, Iwase Y, Kaneko K, Ishijima M.
Serum hyaluronan levels are associated with disability for activity of daily living in patients with knee osteoarthritis regardless of the radiographic severity of the disease.
Osteoarthritis Reaseach Society International (OARSI) 2018, Liverpool, UK, 2018.4.26-29

22. Arita H, Kaneko H, Ishijima M, Ishibashi M, Hada S, Liu L, Negishi Y, Momoeda M, Aoki T, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K.
Gait speed is associated with medial meniscus extrusion in patients from early- to end-stage knee osteoarthritis.
Osteoarthritis Reaseach Society International (OARSI) 2018, Liverpool, UK, 2018.4.26-29

23. Aoki T, Ishijima M, Kaneko H, Hada S, Liu L, Arita H, Kinoshita M, Negishi Y, Momoeda M, Tamura Y, Watada H, Kawamori R, Kaneko K.
Comparison verification between texture analysis based on T2map MRI and histological analysis of the meniscal degeneration in patients with knee osteoarthritis.
Osteoarthritis Reaseach Society International (OARSI) 2018, Liverpool, UK, 2018.4.26-29

24. Hada S, Ishijima M, Kaneko H, Liu L, Kinoshita M, Arit H, Aoki T, Takazawa Y, Ikeda H, Tomita Y, Kusunose K, Okada Y, Kaneko K.
Association between the hypertrophy and the extrusion of medial meniscus using 3T MRI in patients with knee osteoarthritis.
Osteoarthritis Reaseach Society International (OARSI) 2018, Liverpool, UK, 2018.4.26-29

25. Sakamoto Y, Nakano S, Suzuki M, Tokita A, Kaneko A, Maeda-Murohara E, Nagao M, Shimizu T, Kaneko K, Nozawa M, Ishijima M.
Vitamin D level of toddlers with “physiologic” genu varum is lower than that of control toddlers: 1:2 case-control study.
40th Annual Meeting of the American Society for Bone and Mineral Research (ASBMR), Montreal, Canada, 2018.9.28-10.1

26. Shimonaka S, Matsumoto S, Motoi Y, Hattori N.
The Identification of the Tau C-terminal Sequences Involved in Aggregates Formation. Society of Neuroscience, San Diego, 3-7 Nov 2018

27. Elahi M, Motoi Y, Hattori N.
Tau pathology, Type 2 Diabetes, and Serum/glucocorticoid Regulation Kinase 1 (SGK1) in Tauopathy Model Mice.
Society of Neuroscience, San Diego 3-7 Nov 2018

28. Sugita Y, Miyazaki T, Shimizu M, Kunimoto M, Aikawa T, Ouchi S, T Kadoguchi T, Kawaguchi Y,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Shiozawa T, Takahashi S, Hiki M, Yokoyama M, Iwata H, Shimada K, Daida H.
Malnutrition and low omega 6 PUFA levels on admission were associated with the development of delirium in patients with acute cardiovascular disease admitted to coronary care unit.
European Heart Journal (2018) 39 (Supplement), 6275, 25 Aug 2018.

29. Kadoguchi T, Shimada K, Miyazaki T, Aikawa T, Ouchi S, Kitamura K, Kunimoto M, Sugita Y, Shiozawa T, Isoda K, Daida H.
Angiotensin II-dependent activation of NADPH oxidase 4 contributes to muscle wasting in mice via downregulation of NF-E2-related factor 2.
European Heart Journal (2018) 39 (Supplement), 643, 27 Aug 2018.

30. Shimada K.
Educational Session: Aggressive lipid management for cardiovascular risk reduction.
23rd Annual Meeting of the International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy (ISCP2018).
Kyoto, 2018.5.27.

31. Esra Kaya, Sakiko Miyazaki, Tatsuya Fukase, Kuniaki Hirose, Hiroki Nishiyama, Iwao Okai, Hiroshi Iwata and Hiroyuki Daida.
Spontaneous coronary artery dissection: Suspicion from Echocardiography.
Euro Echo-Imaging Milan, Italy 2018.12.7

32. Tatsuya Fukase, Sakiko Miyazaki, Shinichiro Doi, Kuniaki Hirose, Shinichiro Fujimoto, Shinya Okazaki, Hiroyuki Daida.
Comparison of baseline characteristics and outcomes after TAVI in women with and without history of breast cancer.
Euro Echo-Imaging Milan, Italy 2018.12.8.25-29

33. Kazuhisa Takamura, Shinichiro Fujimoto, Chihiro aoshima, Kato etsuro, Yuko Kawaguchi, Yuki Kamo, Makoto Hiki, Kanako K Kumamaru, Hiroyuki Daida.
The association between coronary artery disease and carotid intima-media thickness in asymptomatic diabetes mellitus patients.
American Heart Association, 91th Scientific Session, Chicago, USA 2018.11.10-12

34. Kato E, Fujimoto S, Kumamaru K, Otsuka Y, Kawaguchi Y, Tsujimoto S, Watanabe H, Takamura K, Aoshima C, Aoki S, Daida H.
A Initial Study on Three-Dimensional Convolution Neural Network Analyses using Coronary CT Angiography Image data.
SCCT 2018 12th Annual Scientific meeting, Texas, USA 2018.7.12-15

35. Kato E, Fujimoto S, Kawaguchi Y, Kumamaru K, Dohi T, Takamura K, Aoshima C, Hiki M, Kato Y, Okazaki S, Daida H.
Incremental Diagnostic Value of CT-Fractional Flow Reserve Using Subtraction coronary CT Angiography for Patients with Severe Calcification.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

ESC congress, Munich, Germany 2018. 8.25-29

36. Kawaguchi Y, Fujimoto S, Kumamaru KK, Otsuka Y, Kato E, Aoshima C, Takamura K, Hiki M, Aoki S, Daida H.
Fully Automated 3D Deep-Learning Analysis of Coronary CT Angiography: Prediction of Fractional Flow Reserve.
American Heart Association, 91th Scientific Session, Chicago, USA 2018.11.10-12

37. Shinichiro Doi, Hiroshi Iwata, Hideki Wada, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida.
A Novel Nutritional Index by Simply Multiplying Serum Levels of Triglycerides and Total Cholesterol, and Body Weight Serves as a Useful Indicator For All-Cause, Cardiovascular and Cancer Mortality in Patients Underwent Percutaneous Coronary Intervention.
ACC 18, Orland, 2018.3.10-12

38. Mitsuhiro Takeuchi, Hideki Wada, Tomotaka Dohi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida.
Relationship Between the Prognostic Nutritional Index and Long-Term Clinical Outcomes in Patients With Stable Coronary Artery Disease.
ACC 18, Orland, 2018.3.10-12

39. Hirohisa Endo, Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Takehiro Funamizu, Jun Shitara, Hideki Wada, Shinichiro Doi, Hiroshi Iwata, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida.
Long-term predictive value of high sensitivity c-reactive protein for cancer mortality in patients undergoing percutaneous coronary intervention.
ESC congress 2018, Munich, 2018.8.25-29

40. Jun Shitara, Takatoshi Kasai, Katsumi Miyauchi, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Shinichirou Doi, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida.
Differing efficacy of beta blockers on long-term clinical outcomes between ischemic heart failure patients with reduced and mid-range ejection fraction following percutaneous coronary intervention.
ESC congress 2018, Munich, 2018.8.25-29

41. Hideki Wada, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Shoichiro Yatsu, Ryo Naito, Yoshiteru Kato, Iwao Okai, Hiroshi Iwata, Kikuo Isoda, Shinya Okazaki, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida.
Culprit Plaque Characteristics in Patients With Sleep Disorder Breathing Undergoing Percutaneous Coronary Intervention: Anintravascular Ultrasound Study.
AHA Scientific Sessions 2018, Chicago, 2018.11.10-12

42. Hirohisa Endo, Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Takehiro Funamizu, Jun Shitara, Hideki Wada,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Shinichiro Doi, Yoshiteru Kato, Iwao Okai, Hiroshi Iwata, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida.
Mid-Term Clinical Outcomes of Complex Percutaneous Coronary Intervention in Patients With Coronary Artery Disease.
AHA Scientific Sessions 2018, Chicago, 2018.11.10-12

43. Shoichiro Yatsu, Takatoshi Kasai, Hiroki Matsumoto, Shoko Suda, Nanako Shiroshita, Mitsue Kato, Fusae Kawana, Jun Shitara, Azusa Murata, Megumi Shimizu, Takao Kato, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida.
Utility of Cyclic Variation of Heart Rate Index as a Screening Tool for Sleep Disordered Breathing.
American Thoracic Society international conference 2018, San Diego, United States, May 18-23, 2018

44. Shoichiro Yatsu, Ryo Naito, Takatoshi Kasai, Hiroki Matsumoto, Jun Shitara, Megumi Shimizu, Azusa Murata, Takao Kato, Shoko Suda, Masaru Hiki, Eiryu Sai, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida.
Influence of sleep-disordered breathing assessed by pulse oximetry on long-term clinical outcomes in patients who underwent percutaneous coronary intervention.
European Society of Cardiology 2018, Munich, Germany, Aug 25-29, 2018

45. Jun Shitara, Takatoshi Kasai, Shoichiro Yatsu, Azusa Kurita, Hiroki Matsumoto, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida.
Temporal changes of cardiac acoustic biomarkers are associated with disease status and cardiac functions in patients with acute decompensated heart failure (The ACTOR-HF Trial).
Scientific Sessions 2018 of the American Heart Association. Chicago, Illinois, Nov 11, 2018.

46. Masaru Hiki, Takatoshi Kasai, Shoichiro Yatsu, Jun Shitara, Hiroki Matsumoto, Azusa Murata, Megumi Shimizu, Takao Kato, Shoko Suda, Hiroyuki Daida.
Impact of serum levels of exocrine pancreatic enzymes in patients with acute decompensated heart failure.
ESC HF VIENNA. 26 May 2018

47. Sugita Y, Miyazaki T, Shimada K, Shimizu M, Kunimoto M, Aikawa T, Ouchi S, Kadoguchi T, Kawaguchi Y, Shiozawa T, Takasu K, Hiki M, Takahashi S, Yokoyama M, Iwata H, Daida H.
Malnutrition and Low Omega 6 Pufa Levels on Admission Affect the Development of Delirium in Patients With Acute Cardiovascular Disease Admitted to Coronary Care Unit. Circulation. 138, Suppl_1.
American Heart Association Scientific Session 2018. Chicago. 10 Nov 2018.

48. Kunimoto M, Shimada K, Yokoyama M, Aikawa T, Ouchi S, Shimizu M, Fukao K, Miyazaki T, Fujiwra K, Honzawa A, Yamada M, Shimada A, Yamamoto T, Amano A, Daida H.
Association between tissue accumulation of advanced glycation end products and exercise

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

tolerance in patients who have undergone cardiac rehabilitation.
European Heart Journal (2018) 39 (Supplement), 22, 25 Aug 2018.

49. Ishii K, Isoda K, Kitamura K, Sato-Okabayashi Y, Akita K, Kadoguchi T, Ohtomo F, Shimada K, Daida H.
Deficiency of interleukin-1 receptor antagonist continues angiotensin II induced aortic inflammation and promotes aneurysm formation after the cessation of its infusion.
European Heart Journal (2018) 39 (Supplement), 1843, 27 Aug 2018.

50. Aikawa T, Miyazaki T, Shimada K, Sugita Y, Kitamura K, Kunimoto M, Shimizu M, Ouchi S, Shiozawa T, Kadoguchi T, Hiki M, Takahashi S, Daida H.
Low serum vitamin D levels are associated with polyunsaturated fatty acids, inflammation and long-term mortality in patients with acute cardiovascular disease.
European Heart Journal (2018) 39 (Supplement), 5411, 28 Aug 2018.

51. Shimada K, Ouchi S, Miyazaki T, Kadoguchi T, Aikawa T, Sugita Y, Kunimoto M, Fujiwara K, Hayashiji N, Kitamura K, Isoda K, Daida H.
Methotrexate treatment induced inhibition of aortic aneurysm and macrophage infiltration in a mouse model.
23rd Annual Meeting of the International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy (ISCP2018). Kyoto, 2018.5.26.

52. Sugita Y, Miyazaki T, Shimizu M, Ouchi S, Aikawa T, Kadoguchi T, Kawaguchi Y, Shiozawa T, Takahashi S, Iwata H, Shimada K, Daida H.
Omega-6 polyunsaturated fatty acid levels and delirium in patients with acute cardiovascular disease.
23rd Annual Meeting of the International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy (ISCP2018). Kyoto, 2018.5.26.

53. Kunimoto M, Shimada K, Yokoyama M, Matsubara T, Aikawa T, Ouchi S, Shimizu M, Fukao K, Fujiwara K, Miyazaki T, Honzawa A, Shimada A, Yamamoto T, Amano A, Daida H.
Clinical usefulness of the Kihon checklist for frailty and exercise tolerance in patients undergoing cardiac rehabilitation.
EuroPREVENT 2018. Ljubljana, Slovenia. 2018.4.20.

54. Kurita N, Yamashiro K, Kuroki T, Tanaka R, Ueno Y, Urabe T, Yamashiro Y, Hattori N.
Modulation of gut microbiota improves outcomes after stroke by reducing lipopolysaccharide-induced inflammation in the ischemic brain in diabetic mice.
4th European Stroke Organization Conference, Gothenburg, 2018.5.16-18

55. Ueno Y, Hira K, Tanaka R, Miyamoto N, Yamashiro K, Inaba T, Urabe T, Okano H, Hattori N.
Astrocyte-derived exosomes enhance stroke recovery via prostaglandin D2 synthase expression.
4th European Stroke Organization Conference, Gothenburg, 2018.5.16-18

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

56. Hayashida A, Li Y, Yoshino H, Ikeda A, Funayama M, Nishioka K, Hattori N.
Mutation analysis of VPS13C in Japanese patients with Parkinson's disease.
13th International Meeting on Genetic Epidemiology of Parkinson's Disease (GEoPD) Paris, Dec 13-14, 2018

57. Yoshino H, Takanashi M, Funayama M, Matsuura E, Li Y, Tsuyama S, Takashima H, Nishioka K, Hattori N.
Parkinson's disease with LRRK2 p.R 1441H homozygous and heterozygous mutations: Neuropathological analysis of two families in Makurazaki region.
13th International Meeting on Genetic Epidemiology of Parkinson's Disease (GEoPD) Paris, Dec 13-14, 2018

58. Nishioka K, Ikeda A, Meng H, Takanashi M, Yoshino H, Li Y, Imai Y, Funayama M, Hattori N.
Brain pathology, functional analysis and fly models of CHCHD2 p.T 61I.
13th International Meeting on Genetic Epidemiology of Parkinson's Disease (GEoPD) Paris, Dec 13-14, 2018

59. Hagiwara A, Hori M, Horita M, Andica C, Koji K, Uchioke S, Aoki S.
Analysis of White Matter Damage in Patients with Multiple Sclerosis via a Novel In Vivo Magnetic Resonance Method for Measuring Myelin, Axons, and G-ratio.
XXI Symposium Neuroradiologicum, Taipei, Taiwan 2018.3.19-23

60. Horita M, Hagiwara A, Hori M, Nakazawa M, Andica C, Uchioke S, Kamagata K, Aoki S. Reliability of QRAPMASTER (SyMRI) on Three 3 T Scanners from different vendors. XXI Symposium Neuroradiologicum, Taipei, Taiwan 2018.3.19-23

61. Uchioke S, Andica C, Hagiwara A, Horita M, Nakazawa M, Hori M, Aoki S.
Assessment of Synthetic MRI Automated Brain Tissue and Myelin Volumetry in Three 3.0 T MR Scanners from Three Different Vendors.
XXI Symposium Neuroradiologicum, Taipei, Taiwan 2018.3.19-23

62. Maekawa T, Hori M, Fukunaga I, Murata K, Koshino S, Andica C, Irie R, Hagiwara A, Murata S, Hamasaki N, Horita M, Takenaka Y, Aoki S.
Diffusion-weighted MRI with Oscillating Gradient Spin Echo (OGSE) sequence: Changes of ADC due to differences in the viscosity of substrates.
The 6th international congress on magnetic resonance imaging & 23rd annual scientific meeting of KSMRM, Seoul, Korea, 2018.3.29-31

63. Hori M, Kamiya K, Murata K, Feiweier T, Fukunaga I, Hagiwara A, Irie R, Andica C, Maekawa T, Koshino S, Kamagata K, Kumamaru K, Suzuki M, Wada A, Aoki S.
Diffusion Time Dependence of NODDI in in vivo Human White Matter.
Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB 2018, Paris, France, 2018.6.16-21

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

64. Andica C, Kamagata K, Hatano T, Saito A, Takenaka Y, Hagiwara A, Hori M, Irie R, Wada A, Kumamaru K, Hattori N, Aoki S.
White Matter Alterations in Parkinson's Disease Analyzed with Combined Diffusion Magnetic Resonance Imaging and Magnetization Transfer Saturation Imaging: A Tract-Based Spatial Statistics Analysis.
Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB 2018, Paris, France, 2018.6.16-21

65. Maekawa T, Hagiwara A, Hori M, Kamagata K, Andica C, Haruyama T, Sato K, Koshino S, Irie R, Wada A, Aoki S.
Pitfall of synthetic MRI: Effect of gadolinium on the estimation of brain tissue volumes and myelin based on rapid simultaneous relaxometry.
Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB 2018, Paris, France, 2018.6.16-21

66. Koshino S, Sakakibara A, Choppin A, Andica C, Hagiwara A, Maekawa T, Takemori A, Arakawa A, Chougar L, Hori M, Aoki S.
Oscillating gradient spin echo (OGSE) diffusion weighted imaging of the epidermoid cysts: simulation application.
Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB 2018, Paris, France, 2018.6.16-21

67. Hagiwara A, Hori M, Kamagata K, Nakazawa M, Andica C, Maekawa T, Koshino S, Irie R, Chougar L, Abe O, Aoki S.
Rapid Myelin Measurement: Comparison Between SyMRI (Simultaneous Tissue Relaxometry), Magnetization Transfer Saturation Index, and T1w/T2w Ratio Methods.
Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB 2018, Paris, France, 2018.6.16-21

68. Nakazawa M, Hagiwara A, Andica C, Hori M, Horita M, Kamagata K, Houshito H, Aoki S.
Gadolinium concentration map based on synthetic MRI and its application to brain metastases.
Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB 2018, Paris, France, 2018.6.16-21

69. Hara S, Hori M, Tsurushima Y, Tanaka Y, Maehara T, Aoki S, Nariai T.
Myelin imaging may reveal ischemic microstructural damage correlated with neurocognitive dysfunction in patients with moyamoya disease.
Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB 2018, Paris, France, 2018.6.16-21

70. Kamiya K, Okada N, Sawada K, Watanabe Y, Irie R, Suzuki Y, Hanaoka S, Watadani T, Koike S, Mori H, Kunimatsu A, Hori M, Aoki S, Kasai K, Abe O.
Diffusion kurtosis imaging and white matter model analysis of the brains of patients with major depressive disorder.
Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB 2018, Paris, France, 2018.6.16-21

71. Andica C, Hagiwara A, Shimoji K, Kamagata K, Saito A, Takenaka Y, Maekawa T, Koshino S, Irie R, Wada A, Hori M, Kumamaru K, Sato K, Yokoyama K, Hattori N, Aoki S.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Gray Matter Myelin Alterations in Early and Late Relapsing-Remitting Multiple Sclerosis Evaluated with Quantitative Synthetic Magnetic Resonance Imaging: A Gray-Matter Based Spatial Statistics Analysis.
Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB 2018, Paris, France, 2018.6.16-21

72. Andica C, Hagiwara A, Horita M, Nakazawa M, Maekawa T, Koshino S, Hori M, Chougar L, Aoki S.
An Update on Synthetic MRI in Pediatric Brains; Including a Review of MR Quantification Method, Features of the SyMRI Software, and Clinical Applications.
Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB 2018, Paris, France, 2018.6.16-21

73. Shirato T, Goto M, Koshino S, Hori M, Aoki S, Gomi T.
Apparent diffusion coefficient of cerebrospinal fluid is influenced by diffusion time in diffusion tensor imaging.
The 18th TAMRT Annual Conference, November 2-3 Taichung Veterans General Hospital, Taiwan, 2018.11.3

74. Takasu K, Goto M, Gomi T, Hgiwara A, Fujita S, Aoki S.
The relationship between the contrasts of analyzed images and measured volumes with Statistic Parametric Mapping 12 in Synthetic MRI.
The 18th TAMRT Annual Conference, November 2-3 Taichung Veterans General Hospital, Taiwan, 2018.11.3

75. Irie R, Otsuka Y, Kamagata K, Suzuki M, Wada A, Hori M, Maekawa T, Fujita S, Andica C, Nakajima M, Miyajima M, Motoi Y, Aoki S.
Residual Extraction Approach in the Deep Learning With 3D Convolutional Ladder Network for Differential Diagnosis of Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus and Alzheimer's Disease.
Ragiological Society of North America 104th Scientific Assembly and Annual Meeting. McCormick Place, Chicago, IL, 2018.11.25-30

76. Fujita S, Hagiwara A, Andica C, Maekawa T, Hori M, Aoki S.
How to Read Contrast-Enhanced Synthetic MRI of the Brain. Ragiological Society of North America 104th Scientific Assembly and Annual Meeting.
McCormick Place, Chicago, IL, 2018.11.25-30

77. Koshino S, Takemori M, Andica C, Hori M, Kamagata K, Kumamaru KK, Wada A, Watadani T, Mori H, Abe O, Aoki S.
Radiologic-Pathologic Correlation for Differential Diagnosis Using Diffusion MRI with a Short Diffusion Time.
Ragiological Society of North America 104th Scientific Assembly and Annual Meeting. McCormick Place, Chicago, IL, 2018.11.25-30

78. Koshino S, Choppin A, Kunimatsu A, Hagiwara A, Toyonori S, Takemori M, Abe O, Aoki S.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Deep Learning based Computer-A lded Detectlon 01Unruptured Cerebral Aneurysms. Ragiological Society of North America 104th Scientific Assembly and Annual Meeting. McCormick Place, Chicago, IL, 2018.11.25-30

【学会発表（国際）2019 年】

1. Han S, Osada T, Ogawa A, Tanaka M, Kamagata K, Hori M, Aoki S, Shimizu T, Enomoto H, Hanajima R, Ugawa Y, Konishi S
   Functional connectivity changes after rTMS used to detect plasticity decline associated with obesity.
   9th Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societies Congress, Kobe, 2019 March; 28-31

2. Kurita N, Yamashiro K, Kuroki K, Tanaka R, Ueno Y, Urabe T, Yamashiro Y, Hattori N.
   Modulation of gut microbiota improves outcomes after ischemic stroke by reducing lipopolysaccharide-induced inflammation in the ischemic brain of diabetic mice. International Stroke Conference.
   Hawaii, USA, February 6, 2019

3. Ueno Y, Tateishi Y, Doijiri R, Kuriki A, Shimizu T, Kikuno K, Shimada Y, Takekawa H, Yamaguchi E, Koga M, Kamiya, Y Ihara M, Tsujino A, Hirata K, Toyoda K, Hasegawa Y, Hattori N, Urabe T: Large Aortic Arch Plaques Correlate with CHADS2 and CHA2DS2-VASc Scores in Cryptogenic Stroke.
   International Stroke Conference 2019, Oral presentation, Hawaii, USA, February 19-21, 2019

4. Hagiwara A, Hori M, Ozaki Y, Maekawa T, Andica C, Horita M, Fujita S, Aoki S.
   Brain volumetry and myelin estimation derived from synthetic MRI with various in-plane resolutions at 3 T.
   European Congress of Radiology 2019, Vienna, Austria, 2019.2.27-3.3

5. Maekawa T, Hori M, Murata K, Andica C, Hagiwara A, Kamiya K, Kamagata K, Wada A, Aoki S.
   Diffusion Time Dependence of Diffusion Tensor Parameters in Choroid Plexus Cysts.
   European Congress of Radiology 2019, Vienna, Austria, 2019.2.27-3.3

6. Hara S, Hori M, Aoki S, Nariai T.
   Microstructural correlates of personality in patients with Moyamoya disease measured by neurite orientation dispersion and density imaging.
   European Congress of Radiology 2019, Vienna, Austria, 2019.2.27-3.3

7. Hagiwara A, Kamagata K, Hori M, Andica C, Kuramochi M, Takemura YM, Abe O, Aoki S.
   White Matter Analysis of Multiple Sclerosis with Quantitative Synthetic MRI and Neurite Orientation Dispersion and Density Imaging (poster) (Best Poster Presentation Award)
   7th International Congress on Magnetic Resonance Imaging (ICMRI 2019) and 24th Scientific Meeting of KSMRM, Seoul, Korea, 2019.3.28-30

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

8. Kuramochi M, Kamagata K, Andica C, Tomita H, Uchida W, Takenaka Y, Hagiwara A, Fukuo M, Harada M, Waki H, Naito H, Aoki S.
The Brain Plasticity of Japanese Gymnasts: Gray Matter Volumes Comparison with Controls.
7th International Congress on Magnetic Resonance Imaging (ICMRI 2019) and 24th Scientific Meeting of KSMRM, Seoul, Korea, 2019.3.28-30

9. Kuramochi M, Kamagata K, Hori M, Tachibana Y, Andica C, Otsuka Y, Takenaka Y, Saito Y, Uchida W, Kusahara H, Shimizu S, Aoki S.
Influence of Noise Reduction Method Using Deep Learning Reconstruction on Diffusion-Weighted Imaging.
7th International Congress on Magnetic Resonance Imaging (ICMRI 2019) and 24th Scientific Meeting of KSMRM, Seoul, Korea, 2019.3.28-30

【学会発表（国内）2014 年】

1. 後藤広昌, 内田豊義, 小宮幸次, 阿部浩子, 竹野景海, 佐藤淳子, 鴫原奈弓, 本田彬, 福村由紀, 横山純吉,綿田裕孝
原発巣摘出後 28 年目に発症した甲状腺転移性腎癌の一例
第 23 回臨床内分泌代謝 Update, 愛知県(日本), ポスターセッション, 2014.01.24-25, 2014

2. 登坂祐佳, 後藤広昌, 吉原知明, 内田豊義, 金澤昭雄, 福村由紀, 横山純吉,綿田裕孝
診断と治療に難渋する原発性副甲状腺機能亢進症の１例
第 23 回臨床内分泌代謝 Update, 愛知県(日本), ポスターセッション, 2014.01.24-25, 2014

3. 綿田裕孝
【糖尿病の薬物治療の第一選択は何か】 インスリンの立場から
第 23 回臨床内分泌代謝 Update, 愛知県(日本), ディベートセッション, 2014.01.24-25, 2014

4. 福中彩子, 藤谷与士夫, 深田俊幸, 梶村真吾,綿田裕孝
エーラスダンロス症候群原因遺伝子 Zip13 による脂肪細胞褐色化制御機構の解明
第 26 回分子糖尿病学シンポジウム, 高知県(日本), セッション, 2014.12.06, 2014

5. 原朱美, 藤谷与士夫, 田蒔基行, 宮塚健, 福中彩子, 小宮幸次, 荻原健, 金澤昭雄,綿田裕孝
持続的高血糖は膵 β 細胞から PP 細胞への分化転換を誘導する
第 28 回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会, 宮崎県(日本), 口演, 2014.02.14-15, 2014

6. 三田智也, 綿田裕孝, 大村寛敏,代田浩之
2 型糖尿病患者におけるシタグリプチンの安全性と有効性—SPIRIS-J
第 29 回日本糖尿病合併症学会, 東京都(日本), ワークショップ, 2014.10.03-04, 2014

7. 遅野井雄介, 三田智也, 遅野井健, 斎藤三代子, 玉澤敦子, 中山志保, 染谷由希, 石田英則, 金澤昭雄, 五所正彦, 藤谷与士夫,綿田裕孝
夜型の生活スタイルは 2 型糖尿病患者の糖代謝に悪影響を与える
第 29 回日本糖尿病合併症学会, 東京都(日本), ワークショップ, 2014.10.03-04, 2014

8. 田村好史
糖尿病運動療法の現状
第 33 回日本臨床運動療法学会学術集会, 大阪府(日本), パネルディスカッション, 2014.09.06, 2014

9. 筧佐織, 田村好史, 竹野景海, 櫻井裕子, 川口美奈子, 渡邉隆宏, 船山崇, 佐藤文彦, 池田真一, 金澤昭雄, 藤谷与士夫, 河盛隆造,綿田裕孝
高脂肪食負荷による骨格筋細胞内脂質蓄積は骨格筋中の脂質代謝関連遺伝子発現と関連す

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

る
第 35 回日本肥満学会，宮崎県(日本)，口演, 2014.10.24-25, 2014

10. 綿田裕孝
膵 β 細胞の再生とその臨床応用
第 48 回糖尿病学の進歩，北海道(日本)，口演, 2014.03.07-08, 2014

11. 河野結衣，吉原知明，氷室美和，池田富貴，金澤昭雄，清水友章,綿田裕孝
著明な貧血を契機に APS3 型の診断に至った 1 型糖尿病の一例
第 51 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会，神奈川県(日本)，口演, 2014.01.18, 2014

12. 奈良橋俊子，鈴木瑠璃子，吉原知明，金澤昭雄,綿田裕孝
糖尿病コントロール増悪の約 1 年 10 ヶ月後に偶発的に発見された自己免疫性膵炎の一例
第 51 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会，神奈川県(日本)，口演, 2014.01.18, 2014

13. 門脇聡，遅野井雄介，中島健一，吉原知明，池田富貴，金澤昭雄,綿田裕孝
インフルエンザ感染を契機に MRSA 肺炎を呈した 1 型糖尿病の 1 例
第 51 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会，神奈川県(日本)，口演, 2014.01.18, 2014

14. 河野結衣，根本卓也，鵜澤博嗣，三浦正樹，富山めぐみ，鈴木瑠璃子，小宮幸次，草生真規雄，内田豊義，関谷文男，池田富貴，金澤昭雄，山路健,綿田裕孝
抗甲状腺剤で治療困難なバセドウ病に血漿交換療法が奏功した 2 症例
第 57 回日本甲状腺学会学術集会，大阪府(日本)，ポスター, 2014.11.13-15, 2014

15. 佐藤淳子，土井多香乃，内田豊義，後藤広昌，小宮幸次，竹野景海，本田彬，河野結衣，鈴木瑠璃子，氷室美和，藤谷与士夫,綿田裕孝
抗甲状腺剤誘発性無顆粒球症の顆粒球数回復期間に関わる因子の検討
第 57 回日本甲状腺学会学術集会，大阪府(日本)，ポスター, 2014.11.13-15, 2014

16. 氷室美和，土井多香乃，内田豊義，後藤広昌，小宮幸次，竹野景海，佐藤淳子，本田彬，河野結衣，鈴木瑠璃子，藤谷与士夫,綿田裕孝
穿刺吸引細胞診後に甲状腺超音波所見が変化した症例の検討
第 57 回日本甲状腺学会学術集会，大阪府(日本)，口演, 2014.11.13-15, 2014

17. 本田彬，土井多香乃，内田豊義，後藤広昌，小宮幸次，竹野景海，佐藤淳子，河野結衣，鈴木瑠璃子，氷室美和，藤谷与士夫,綿田裕孝
抗甲状腺剤の代替治療で用いる無機ヨードの治療効果と限界に関する検討
第 57 回日本甲状腺学会学術集会，大阪府(日本)，ポスター, 2014.11.13-15, 2014

18. 鈴木瑠璃子，土井多香乃，内田豊義，後藤広昌，小宮幸次，竹野景海，佐藤淳子，本田彬，河野結衣，氷室美和，藤谷与士夫,綿田裕孝
甲状腺中毒症の鑑別に用いる甲状腺 99mTcO4-摂取率閾値と非典型的画像の検討
第 57 回日本甲状腺学会学術集会，大阪府(日本)，ポスター, 2014.11.13-15, 2014

19. 井上直人，入江陽子，金藤秀明，下村伊一郎, Kim YS，河盛隆造,山崎義光
抗血小板薬が糖尿病患者の動脈壁組織性状に及ぼす影響の検討（アジア多施設前向き研究のサブ解析結果から）
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），口演, 2014.05.22-24, 2014

20. 宇都宮一典，加来浩平，寺内康夫，戸邉一之，谷澤幸生，荒木栄一，綿田裕孝，岩本安彦,菅波秀規,渡邊大丞
高選択的 SGLT2 阻害薬トホグリフロジンの腎機能別にみる有効性と安全性の検討—国内治験の併合データを用いた部分集団解析—
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），ポスター, 2014.05.22-24, 2014

21. 岩本安彦，加来浩平，宇都宮一典，寺内康夫，戸邉一之，谷澤幸生，荒木栄一，綿田裕孝,渡邊大丞,菅波秀規
高選択的 SGLT2 阻害薬トホグリフロジンの年齢別にみる有効性と安全性の検討—国内治験の併合データを用いた部分集団解析—

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），ポスター, 2014.05.22-24, 2014

22. 橘優子，戸島郁子，照沼則子，金澤昭雄,綿田裕孝
インスリン自己注射部位選択理由と自己注射指導内容の関連因子
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），口演, 2014.05.22-24, 2014

23. 原朱美，藤谷与士夫，荻原健，宮塚健,綿田裕孝
ヒト型 IAPP は膵島移植の成功率を低下させる
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），ポスター, 2014.05.22-24, 2014

24. 戸邉一之，加来浩平，谷澤幸生，荒木栄一，綿田裕孝，岩本安彦，宇都宮一典，寺内康夫，渡邊大丞,菅波秀規
高選択的 SGLT2 阻害薬トホグリフロジンの肥満度別にみる有効性と安全性の検討—国内治験の併合データを用いた部分集団解析—
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），ポスター, 2014.05.22-24, 2014

25. 佐々木周伍，宮塚健，高原充佳，久保典代，宮下和幸，山本裕一，安田哲行，川口義弥，秋山治彦，綿田裕孝，松岡孝昭，金藤秀明,下村伊一郎
GLP-1 およびガストリンシグナルの活性化は膵 β 細胞新生を誘導する
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），YIA 審査講演, 2014.05.22-24, 2014

26. 佐藤喜子,綿田裕孝
糖尿病と診断されながらも未治療、治療中ながらも HbA1c 高値者の生活改善に有用な指導項目の検討
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），ポスター, 2014.05.22-24, 2014

27. 佐藤淳子，金澤昭雄，池田富貴，鴫原奈弓，川口美奈子，小宮幸次，内田豊義，荻原健，清水友章，藤谷与士夫,綿田裕孝
持続血糖測定器（CGM）の外来での使用が 2 型糖尿病患者の治療に及ぼす影響
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），ポスター, 2014.05.22-24, 2014

28. 三家春菜，三田智也，田村好史，稲垣賀子，山城慶子，横田純子，石田香苗，染谷由希，小宮幸次，原香奈子，清水友章，吉井秀徳，金澤昭雄，藤谷与士夫，小沼富男，綿田裕孝
高齢 2 型糖尿病における嗅覚と認知機能の関連性
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），口演, 2014.05.22-24, 2014

29. 志原伸幸，寺内康夫，荒木栄一，稲垣暢也，大杉満，門脇孝，清野進，谷澤幸生，戸邉一之，難波光義，羽田勝計，矢部大介，山田祐一郎，綿田裕孝，清野裕
高齢者 2 型糖尿病におけるシタグリプチン/グリメピリド比較検討試験（START-J)中間解析報告
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），口演, 2014.05.22-24, 2014

30. 酒井健輔，今村美菜子，岩田実，広瀬寛，綿田裕孝，前川聡，戸辺一之，柏木厚典，加来浩平，河盛隆造，田中逸，前田士郎
欧米人集団ゲノムワイド関連解析で同定された 2 型糖尿病感受性遺伝子領域の日本人集団における検証
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），口演, 2014.05.22-24, 2014

31. 上里忠好，荻原健，飯田雅，藤谷与士夫，綿田裕孝
妊娠期の膵 β 細胞増殖における PBK の役割
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），口演, 2014.05.22-24, 2014

32. 船山崇，田村好史，竹野景海，渡邉隆宏，川口美奈子，山本理紗子，筧佐織，藤谷与士夫，河盛隆造，綿田裕孝
1 週間のアルコール制限は、肝臓特異的にインスリン抵抗性を改善し、空腹時血糖値を低下させる
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），YIA 審査講演, 2014.05.22-24, 2014

33. 前田肇，加来浩平，谷澤幸生，荒木栄一，綿田裕孝，岩本安彦，宇都宮一典，寺内康夫，戸邉一之，池田勧夫，菅波秀規，渡邊大丞

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

高選択的 SGLT2 阻害薬トホグリフロジンの臨床第III相4試験を用いた安全性の検討
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），ポスター, 2014.05.22-24, 2014

34. 谷澤幸生，加来浩平，荒木栄一，戸邉一之，寺内康夫，宇都宮一典，岩本安彦，綿田裕孝，大塚渉,渡邊大丞
高選択的 SGLT2 阻害薬トホグリフロジンの長期投与における安全性と有効性の検討—単独療法および併用療法 52 週間の国内治験成績—
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），口演, 2014.05.22-24, 2014

35. 中村二郎，稲垣暢也，植木浩二郎，谷澤幸生，綿田裕孝，山田祐一郎，下村伊一郎，西村理明，山崎力,門脇孝
大規模臨床研究 J-BRAND Registry : 中間報告
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），ポスター, 2014.05.22-24, 2014

36. 田蒔基行，藤谷与士夫，原朱美，宮塚健，松久宗英,綿田裕孝
肥満 2 型糖尿病モデルマウスの膵 β 細胞は、糖脂肪毒性による膵 β 細胞特異的転写因子の発現低下を介して、PP 細胞へ分化転換する
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本）, YIA 審査講演, 2014.05.22-24, 2014

37. 渡邊好胤，平沢良和，岩崎真宏，桑原匠司，山根俊介，田村好史，三浦順之助，佐藤祐造,清野裕
ブルーエクササイズ運動の糖代謝に及ぼす急性効果に関する検討（第 1 報）
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），口演, 2014.05.22-24, 2014

38. 飯田雅，荻原健，田蒔基行，藤谷与士夫,綿田裕孝
膵 β 細胞におけるセロトニン合成律速酵素 TPH1 のプロラクチン応答性発現機構の解明
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），口演, 2014.05.22-24, 2014

39. 本田彬，金澤昭雄，吉原知明，染谷由希，川口美奈子，東浩介，池田富貴，清水友章，藤谷与士夫，弘世貴久,綿田裕孝
シタグリプチン効果不十分症例に対するリラグルチドへの変更効果
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），ポスター, 2014.05.22-24, 2014

40. 筧佐織，田村好史，池田真一，竹野景海，船山崇，河盛隆造,綿田裕孝
24 時間の脚ギプス固定は，骨格筋細胞内のジアシルグリセロールを増加させ、インスリン抵抗性を惹起する
第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，大阪府（日本），口演, 2014.05.22-24, 2014

41. 河盛隆造
日本人の体質に合った 2 型糖尿病、高血圧、高脂血症治療のあり方に関する、基礎的、臨床的研究
第 64 回日本体質医学会総会，大阪府(日本)，学会賞受賞講演, 2014.09.06-07, 2014

42. 福中彩子，藤谷与士夫,綿田裕孝
エーラスダンロス症候群原因遺伝子 Zip13 の脂肪細胞褐色化における役割
第 64 回日本体質医学会総会，大阪府(日本)，若手研究奨励賞審査講演, 2014.09.06-07, 2014

43. 池田真一，田村好史，筧佐織，河盛隆造,綿田裕孝
一過性走運動後の筋 GLUT4 発現増加には IL-6 が関与する
第 69 回日本体力医学会大会，長崎県(日本)，ポスター, 2014.09.19-21, 2014

44. 加賀英義，後藤広昌，氷室美和，齊藤大祐，吉原知明，金澤昭雄，清水史孝，久末伸一，堀江重郎,綿田裕孝
123I-MIBG と 131I-MIBG シンチグラムの結果が乖離した悪性パラガングリオーマの 1 例
第 87 回日本内分泌学会学術総会，福岡県(日本)，ポスター, 2014.04.24-26, 2014

45. 中島健一，後藤広昌，鈴木瑠璃子，河野結衣，吉原知明，池田富貴，金澤昭雄，清水史孝，久末伸一，堀江重郎,綿田裕孝
PPNAD が疑われた若年性両側副腎性クッシング症候群の一例

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 87 回日本内分泌学会学術総会，福岡県(日本)，ポスター, 2014.04.24-26, 2014

46. 田蒔基行，藤谷与士夫，原朱美，松久宗英,綿田裕孝
肥満 2 型糖尿病モデルマウスの膵 β 細胞は、糖脂肪毒性による膵 β 細胞特異的転写因子の発現低下を介して、PP 細胞へ分化転換する
第 87 回日本内分泌学会学術総会，福岡県(日本)，口演, 2014.04.24-26, 2014

47. 田村好史
異所性脂肪の概念と臨床展開 骨格筋における異所性脂肪蓄積とインスリン抵抗性
第 87 回日本内分泌学会学術総会，福岡県(日本)，口演, 2014.04.24-26, 2014

48. 片平雄大，後藤広昌，増山敦，池田富貴，金澤昭雄,綿田裕孝
成人期に横紋筋融解症を伴う副腎不全を発症した下垂体茎断裂症候群の 1 例
第 87 回日本内分泌学会学術総会，福岡県(日本)，ポスター, 2014.04.24-26, 2014

49. 内田豊義，後藤広昌，小宮幸次，竹野景海，阿部浩子，中寺奈弓，佐藤淳子，本田彬，藤谷与士夫,綿田裕孝
未治療バセドウ病に対する無機ヨードの臨床的効果
第 111 回日本内科学会総会，東京都(日本)，ポスター, 2014.04.11-13, 2014

50. 内田豊義，後藤広昌，小宮幸次，竹野景海，阿部浩子，中寺奈弓，佐藤淳子，本田彬，藤谷与士夫,綿田裕孝
未治療バセドウ病に対する無機ヨードの臨床的効果
第 111 回日本内科学会総会，東京都(日本)，プレナリーセッション, 2014.04.11-13, 2014

51. 小林愛，本田彬，大村千恵,綿田裕孝
化膿性頸椎脊椎炎を合併した 2 型糖尿病患者の 1 例
第 604 回日本内科学会関東地方会，東京都(日本)，口演, 2014.03.08, 2014

52. 入江俊一郎，加賀英義，早稲田直子，後藤広昌，吉原知明，金澤昭雄，綿田裕孝,荒川将之
糖尿病ケトアシドーシスにリフィーディング症候群を合併した 1 例
第 610 回日本内科学会関東地方会，東京都(日本)，口演, 2014.11.08, 2014

53. Suda Y, Kumano H, Uka T
LIP neurons accumulate relevant information depending on task demand.
第 36 回日本神経科学大会, 2014 年 9 月 11-13 日，横浜.

54. 三井田孝
バイオマーカーの進歩．バイオマーカーとしての脂質・リポ蛋白関連検査
第 24 回日本臨床検査専門医会春季大会，札幌 (5/31)，第 24 回日本臨床検査専門医会春季大会抄録集: 5, 2014

55. 三井田孝
明日へのシンポジウム 2：脂質検査の現状及び将来展望．血清脂質・リポ蛋白検査の正確性について
第 46 回日本動脈硬化学会総会・学術集会，東京 (7/10-7/11)，第 46 回日本動脈硬化学会総会プログラム・抄録集: 122, 2014

56. 三井田孝
リポ蛋白検査専門委員会報告. CDC リファレンス法による HDL-C ホモジニアス法の正確性の検討結果
第 54 回日本臨床化学会年次学術集会，東京 (9/5-9/7)，臨床化学 Vol. 43 Suppl.1 148, 2014

57. 近藤成美, 中村文子, 三澤成毅, 笹野 央, 大坂顯通, 三井田孝
当院における抗緑膿菌薬の使用量の変化と薬剤感受性の推移
第 61 回日本臨床検査医学会学術集会，福岡市 (11/22-11/25)，臨床病理 Vol. 62 Suppl.1：310, 2014

58. 杉原匡美, 小田切史徳, 鈴木 剛, 村山 尚, 櫻井 隆, 代田浩之, 森本幸生, 呉林なごみ, 三井田

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

孝
自発的運動測定は拡張型心筋症モデルマウスのうっ血性心不全の判定に有用である
第 61 回日本臨床検査医学会学術集会，福岡市 (11/22-11/25)，臨床病理 Vol. 62 Suppl.1 : 254, 2014

59. 田部陽子，山田宏美，堀井 隆，木村晋也，三井田孝，大坂顯通
WHO 国際標準準拠 BCR-ABL 補正パネルを用いた施設固有 RQ-PCR 法の変換係数算出と検出感度評価
第 61 回日本臨床検査医学会学術集会，福岡市 (11/22-11/25)，臨床病理 Vol. 62 Suppl.1 : 236, 2014

60. 出居真由美，田部陽子，三宅一徳，濱田千江子，三井田孝
腹膜透析排液検査法の開発と腹膜劣化指標としての有用性の検討
第 61 回日本臨床検査医学会学術集会，福岡市 (11/22-11/25)，臨床病理 Vol. 62 Suppl.1 : 111, 2014

61. 脇田 満，山本美由紀，伊藤聡史，三澤成毅，久野 豊，堀井 隆，田部陽子，三宅一徳,三井田孝，大坂 顯通
直接ビリルビン測定における分析装置の比較検討
日本臨床検査自動化学会第 46 回大会，横浜市 (10/10-12)，日本臨床検査自動化学会会誌 Vol. 39 No. 4: 545, 2014

62. 平山哲，宗田聡，上野剛，糟谷優，杉原匡美，三井田孝
2型糖尿病患者の LPL 濃度に及ぼす肥満および関連因子の影響
第 61 回日本臨床検査医学会学術集会，福岡(11/22-11/25)，臨床病理 第 62 巻補, 302, 2014

63. 上野剛，平山哲，小野塚麻里，糟谷優，杉原匡美，安部勝美，三井田孝
妊娠時の血中および尿中カルニチン濃度の変動
第 61 回日本臨床検査医学会学術集会，福岡(11/22-11/25)，臨床病理 第 62 巻補, 211, 2014

64. 上野剛，平山哲，小野塚麻里，昆美香，杉原匡美，糟谷優，安部勝美，三井田孝
妊娠時の血中微量金属濃度の経時的変化と胎児発育の関連
第 54 回日本臨床化学会年次学術集会，東京 (9/5-9/7)，臨床化学 第 43 巻 Suppl 1: 260, 2014

65. 杉原匡美，三井田孝，平山哲，上野剛
non-HDL を使った脂質異常症のスクリーニングにおけるカットオフ値の有用性
第 54 回日本臨床化学会年次学術集会，東京 (9/5-9/7)，臨床化学 第 43 巻 Suppl 1: 229, 2014

66. 蔡榮龍，島田和典，宮内克己，小西宏和，内藤亮，荻田学，坪井秀太，田村浩，宮崎哲朗,岡崎真也，蔵田健，代田浩之.
冠動脈疾患患者における 1,5-anhydroglucitol 測定の臨床的意義.
第 62 回日本心臓病学会学術集会．平成 26 年 9 月 27 日 仙台 宮城.

67. 塩谷みき，島田和典，横山美帆，蔡栄龍，竹野景海，田村好史，綿田裕孝，河盛隆造，代田浩之，河合祥雄.
成人男性におけるメタボリックシンドローム関連因子と運動耐容能との関連.
第 62 回日本心臓病学会学術集会．平成 26 年 9 月 26 日 仙台 宮城.

68. 島田和典.
市民公開講座 超高齢社会における心臓病の重要性．これなら出来る！心筋梗塞・狭心症予防のコツ.
第 62 回日本心臓病学会学術集会．平成 26 年 9 月 28 日 仙台 宮城.

69. 塩谷みき，横山美帆，島田和典，正木克由規，久米淳美，深尾宏祐，蔡栄龍，吉原琢磨，佐藤裕之，河合祥雄，代田浩之.
入退院を繰り返していた慢性心不全患者に回復期心臓リハビリテーションの導入が有用であった一症例.
第 20 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会．平成 26 年 7 月 20 日 京都市 京都.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

70. 島田和典, 代田浩之, 横山美帆, 安達仁, 及川恵子, 長山雅俊, 齊藤正和, 大宮一人, 後藤葉一, 伊東春樹.
パネルディスカション 6 心臓リハビリテーションの標準化と患者登録システム:標準プログラムとレジストレーションの重要性. 日本心臓リハビリテーション学会レジストレーションシステム:初年度の結果報告と今後の展望.
第 20 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会. 平成 26 年 7 月 19 日 京都市 京都.

71. 横山美帆, 宮内克己, 島田和典, 蔡栄龍, 荻田学, 久米淳美, 深尾宏祐, 吉原琢磨, 岡崎真也, 塩谷みき, 代田浩之.
急性冠症候群患者の冠動脈プラーク退縮と体重変化との関連.
第 20 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会. 平成 26 年 7 月 19 日 京都市 京都.

72. 石島旨章, 中村利孝, 清水克時, 林邦彦, 大森豪, 菊池啓, 宗圓聰, 山下敏彦, 内尾祐司, 千葉純司, 金子和夫
軟骨代謝研究会, 変形性膝関節症に対する高分子ヒアルロン酸関節内注射とNSAID 内服の作用機序の差異:多施設無作為化比較試験
第 87 回日本整形外科学会学術総会, 2014年 5 月, 神戸

73. 羽田晋之介, 石島旨章, 金子晴香, 定月亮, 劉立足, Anwarujan Yusup, 小林洋平, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
初期変形性膝関節症における関節軟骨の変性及び構造的変化の空間的差異
第 87 回日本整形外科学会学術総会, 2014 年 5 月, 神戸

74. 清村幸雄, 黒澤尚, 石島旨章, 金子晴香, 定月亮, 劉立足, 土屋勝, 牧野祐司, 澤満美子, 岩瀬嘉志, 金子和夫
変形性膝関節症患者の疾患進行度による抑うつ状態の分析
第 87 回日本整形外科学会学術総会, 2014 年 5 月, 神戸

75. 齋田良知, 高澤祐治, 池田浩, 久保田光昭, 石島旨章, 金子晴香, 小林洋平, 定月亮, 羽田晋之介, 黒澤尚, 金子和夫
解剖学的一重束前十字靭帯再建術の中期成績
第 87 回日本整形外科学会学術総会, 2014 年 5 月 22-25 日, 神戸

76. 齋田良知, 石島旨章, 馬場智規, 湯浅崇仁, 前澤克彦, 谷口有, 若山貴則, 野尻英俊, 金子和夫,
ビスフォスフォネート関連非定型大腿骨骨折患者の骨折部における骨組織形態学的検討
第 87 回日本整形外科学会学術総会, 2014 年 5 月, 神戸

77. 高澤祐治, 池田浩, 斎田良知, 石島旨章, 久田 光昭, 金子 晴香, 小林 洋平, 定月 亮, 羽田晋之介, 黒澤尚, 金子和夫
膝前十字靭帯再断裂および再再建術後成績に影響を与える因子の検討
第 87 回日本整形外科学会学術総会, 2014 年 5 月 22-25 日, 神戸

78. 坂本優子, 野澤雅彦, 金勝乾, 石島旨章, 平澤恵理, 金子和夫
女性整形外科医のキャリアデザイン 夢の実現に向けて 夢の実現に対する障壁 自身の出産・復帰・継続体験をふまえて
第 87 回日本整形外科学会学術総会, 2014 年 5 月, 神戸

79. 石島旨章, 劉立足, 金子晴香, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子 , 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
MRI による骨棘スコアは変形性膝関節症の手術予測因子である
第6回 JOSKAS, 2014 年 7 月, 広島

80. 金子晴香, 石島旨章, 劉立足, 定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子 , 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
軟骨分解マーカー(CTX-II)による変形性膝関節症の予後予測
第6回 JOSKAS, 2014 年 7 月, 広島

81. 羽田晋之介, 石島旨章, 金子晴香, 定月亮, 劉立足, Anwarujan Yusup, 小林洋平, 斎田良知,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

高澤祐治，池田浩，金子和夫
初期変形性膝関節症の大腿骨側関節軟骨の質的変化は脛骨側及び膝蓋骨側よりも先行する
第6回 JOSKAS, 2014 年 7 月，広島

82. 高澤祐治，永山正隆，池田浩，石島旨章，斎田良知，金子晴香，羽田晋之介，川崎隆之，金勝乾，金子和夫
若年ラグビー選手に対するハムストリングを用いた膝前十字靱帯再建術の問題点　過去 10 年間の後ろ向き比較検討から
第6回 JOSKAS, 2014 年 7 月，広島

83. 木下真由子，石島旨章，金子晴香，劉立足，定月亮，羽田晋之介，アニワル・ユスプ，坂本優子，野尻英俊，金子和夫
原発性骨粗鬆症患者における SERM 製剤と Eldecalcitol との併用効果の検討：中間報告
第 16 回骨粗鬆症学会, 2014 年 10 月，東京

84. 劉立足，石島旨章，金子晴香，定月亮，アニワルジャン・ユスプ，羽田晋之介，木下真由子，斎田良知，高澤祐治，池田浩，金子和夫
末期変形性膝関節症に対する運動療法無効例を予測する関節内構造病変
第 42 回日本関節病学会, 2014 年 11 月，東京

85. アニワルジャン・ユスプ，石島旨章，金子晴香，劉立足，定月亮，羽田晋之介，木下真由子，斎田良知，高澤祐治，池田浩，金子和夫
末期変形性膝関節症の滑膜炎と関連する関節内構造変化因子
第 42 回日本関節病学会, 2014 年 11 月，東京

86. 金子和夫
股関節手術の歴史と今後の展望
第 41 回日本股関節学会 2014 年 11 月，東京

87. Hada S, Ishijima M, Kaneko H, Sadatsuki R, Kinoshita M, Lizu L, Yusup A, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda H, Kaneko K
Destruction of femoral articular cartilage is preceded than that of confronting tibial and patellar articular cartilage in early stage of knee osteoarthritis: a cross-sectional study
日本軟骨代謝学会、京都府医師会館、2 月

88. Honma Y, Kaneko K, Hernigou P
Supercharging allografts with mesenchymal stem cells in operating room during hip revision
第 87 回日本整形外科学会学術総会，神戸, 2014 年 5 月

89. Mukaihara K, Kubota D, Kobayashi E, Suehara Y, Kaneko K, Kawai A, TKondo
【シンポジウム】胞巣状軟部肉腫細胞株に対するチロシンキナーゼ阻害剤の抗腫瘍効果の検討
第 47 回 日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会、大阪、014 年 7 月

90. Mukaihara K, Kubota D, Kobayashi E, Suehara Y, Kaneko K, Kawai A, TKondo
胞巣状軟部肉腫細胞株に対するチロシンキナーゼ阻害剤の抗腫瘍効果の検討
第 29 回日本整形外科学会基礎学術集会、鹿児島、2014 年 10 月

91. Toda M, Suehara Y, Kim Y, Akaike K, Takagi T, Yao T, Kaneko K, Saito T
Comprehensive treatment strategy has led to a better course of giant-cell tumor of bone arising in the anterior rib: A case report 肋骨前方より発生し包括的な治療戦略により 良好な経過を得た骨巨細胞腫の一例
第 47 回 日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会、大阪、014 年 7 月

92. 赤池慶祐，末原義之，栗崎愛子，原貴恵子，大久保武人，鳥越知明，八尾隆史，金子和夫,髙木辰哉，齋藤 剛
Solitary fibrous tumor における NAB2-STAT6 融合遺伝子のタイプと臨床病理像の検討
第 29 回日本整形外科学会基礎学術集会，鹿児島, 2014 年 10 月

93. 赤池慶祐，末原義之，原貴恵子，大久保武人，鳥越知明，八尾隆史，金子和夫，髙木辰哉,齋

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

藤剛
Solitary fibrous tumor における NAB2-STAT6 融合遺伝子のタイプと臨床病理像の検討
第 47 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会，大阪, 2014 年 7 月

94. 赤池慶祐，末原義之，大久保武人，鳥越知明，八尾隆史，金子和夫，髙木辰哉，齋藤剛
Denosumab 治療に伴い軟部卵殻状石灰化病変を形成した難治性再発骨巨細胞腫の 1 例
第 47 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会，大阪, 2014 年 7 月

95. 赤池慶祐，末原義之，金栄智，片桐浩久，高橋満，齋藤剛，金子和夫，髙木辰哉
原発不明がん骨転移の 臨床学的検討
第 87 回日本整形外科学会学術総会，神戸, 2014 年 5 月

96. 有冨健太郎、内藤聖人、金子和夫.
関節リウマチと手とフランス.
第 7 回順天堂リウマチカンファレンス 東京 7 月

97. 池上 隆司，高橋 健剛，奥田 貴俊，金子 和夫
人工骨頭置換術における前側方と後側方からの進入法の比較検討
第 40 回日本骨折治療学会,熊本,2014 年 6 月

98. 井下田有芳、内藤聖人、杉山陽一、金子和夫、大林 治
近位手根列切除後に発生した橈骨遠位端骨折の 1 例.
第 40 回日本骨折治療学会，熊本，2014 年 6 月

99. 糸魚川 善昭，井樋 栄二，迫間巧将，山本宣幸，佐野博高，金子和夫
AIGHL 関節唇複合体の肩甲骨付着形態に関する解剖学的解析ー第 3 報ー.
第 41 回日本肩関節学会、佐賀、2014 年 10 月

100. 糸魚川 善昭，鈴木 治，佐野 博高，穴田 貴久，半田 拓人，八田 卓久，桑原 功行，高橋敦，江副 祐史，金子 和夫，井樋 栄二
棘下筋腱付着部再生における octacalcium phosphate(OCP)ゼラチン複合体の役割.
第 29 回日本整形外科学会基礎学術集会，鹿児島, 2014 年 10 月

101. 大久保武人 大久保菜穂子 鈴木美奈子 金子和夫 島内憲夫
若年者へのロコモティブシンドロームに関する調査と予防教育の効果
第 12 回ヘルスプロモーション学術集会，千葉，2014 年 11 月

102. 大久保武人 末原義之 川崎隆之 赤池慶祐 戸田翠 窪田大介 向井原健太 金栄智 齋藤剛 髙木辰哉 金子和夫
整形外来患者コホートにおけるロコモティブシンドローム認識度および罹患度調査
第 87 回日本整形外科学会学術総会、神戸、2014 年 5 月

103. 大久保武人 矢澤康男 今西淳悟 若山貴則 清水道生 末原義之 鳥越知明 髙木辰哉 金子和夫
当院における chronic expanding hematoma の 13 例
第 47 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、大阪、2014 年 7 月

104. 大久保武人 齋藤剛 髙木辰哉 鳥越知明 末原義之 赤池慶祐 八尾隆史 金子和夫
Desmoplastic fibroma の 2 例
第 47 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、大阪、2014 年 7 月

105. 大沢亜紀，金澤博明，吉田圭一，丸山祐一郎，金子和夫
人工膝関節置換術における関節周囲多剤の術後疼痛と理学療法に対する有効性：モルヒネとステロイドの比較
JOSKAS，広島,2014 年 7 月

106. 大沢亜紀，金澤博明，吉田圭一，丸山祐一郎，金子和夫
人工膝関節置換術における関節周囲多剤カクテル療法の術後疼痛と理学療法に対する有用性
日本人工関節学会,沖縄, 2014 年 2 月

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

107. 越智宏徳、馬場智規、本間康弘、松本幹生、小林英生、湯浅崇仁、金子和夫
転位型大腿骨頚部骨折に対して Dual Mobility Cup を用いた人工股関節全置換術
第 41 回 日本股関節学会学術集会、2014 年 10 月

108. 小畑宏介, 大林治, 最上敦彦, 神田章男, 金子和夫
小児両側大腿骨骨幹部骨折に対する治療経験 –Kirschner 鋼線を用いた髄内固定法を施行した 2 症例-
第 40 回日本骨折治療学会, 熊本, 2014 年 6 月

109. 小畑宏介、内藤聖人、杉山陽一、井下田有芳、金子和夫、大林 治.
徒手整復不能な母指 IP 関節脱臼:症例報告と新しい整復方法.
第 56 回静岡手外科・マイクロサージャリー研究会 静岡 7 月

110. 遠田慎吾 金山雅弘 橋本友幸 重信恵一 大羽文博 岩田 玲 田中 将 金子和夫
超高齢者（85 歳以上）の腰椎手術における周術期合併症の検討
第 43 回日本脊椎脊髄病学会、京都、2014 年 4 月

111. 金澤博明, 丸山祐一郎, 大沢亜紀, 吉田圭一, 金子和夫
慢性膝蓋大腿関節症（isolated PF-OA）に対する脛骨結節骨切り術（Crosse de hockey 法）の治療経験
JOSKAS, 広島, 2014 年 7 月

112. 金澤博明, 丸山祐一郎, 大沢亜紀, 吉田圭一, 金子和夫
NexGen LPS-Flex 人工膝関節全置換術後の中期成績—客観的＆患者立脚型評価での検討
日本人工関節学会,沖縄, 2014 年 2 月

113. 亀田 壮, 熊井 司, 田中康仁, 金子和夫
トップアスリートの難治性アキレス腱症に対し超音波ガイド下ヒアルロン酸注射にて加療した 1 例
第 6 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 広島, 2014 月 7 月

114. 亀田 壮, 熊井 司, 田中康仁, 金子和夫
トップアスリートの難治性アキレス腱症に対し超音波ガイド下ヒアルロン酸注射にて加療した 1 例
第 26 回日本整形外科超音波学会, 大阪, 2014 月 7 月

115. 亀田 壮, 田中康仁, 熊井 司, 谷口 晃, 松田剛典, 野口幸志, 富和清訓, Korakot Maliwankul, 金子和夫
非外傷性距骨滑車骨軟骨損傷の X 線学的形態的特徴の検討
第 87 回日本整形外科学会総会, 神戸, 2014 年 5 月

116. 川崎隆之, 田中洋, 村上憲治, 奥脇透, 金子和夫
モーションキャプチャ・システムを用いたラグビー選手のタックル動作解析.
第 41 回日本肩関節学会学術集会、佐賀,2014 年 10 月

117. 川崎隆之, 田中洋, 村上憲治, 奥脇透. 金子和夫
モーションキャプチャ・システムを用いたラグビー選手のタックル動作解析.
第 25 回日本臨床スポーツ医学会学術集会、 東京、2014 年 11 月

118. 木下 真由子,石島 旨章,金子 晴香,劉 立足,定月 亮,羽田晋之介,アニワル・ユスプ,坂本 優子,野尻 英俊,金子 和夫
若手研究者シンポジウム:原発性骨粗鬆症患者における SERM 製剤と Eldecalcitol との併用効果の検討:中間報告 ビタミン D が与える影響について
第 16 回日本骨粗鬆症学会、東京、2014 年 10 月

119. 木下 真由子,石島 旨章,金子 晴香,劉 立足,定月 亮,羽田晋之介,アニワル・ユスプ,坂本 優子,野尻 英俊,金子 和夫
日常臨床におけるビスホスホネート製剤の有用性と注意点
順整会神奈川県支部、新横浜、2014 年 11 月

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

120. 木下真由子, 鳥越知明, 金澤博明, 高木辰哉, 寺門厚彦, 末原義之, 大久保武人, 赤池慶祐, 金子和夫
関節症状を主訴に整形外科を受診した白血病症例の検討
第 47 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、大阪、2014 年7月

121. 木下真由子、金子晴香、劉立足、定月亮、羽田晋之介、アニワルジャン ユスプ、丸山 祐一郎、金子和夫、石島旨章
PIICP 低値と変形性膝関節症における関節裂隙狭小化の関係性
第 27 回日本軟骨代謝学会、京都、2014 年 2 月

122. 金 勝乾, 長尾雅史, 黒澤 尚, 池田 浩, 高澤祐治, 石島旨章, 斎田良知, 野沢雅彦, 金子和夫, 土肥徳秀
前十字靭帯損傷に対する患者立脚型評価法（ACL25 の開発）
第 87 回日本整形外科学会総会, 神戸, 2014 年 5 月

123. 窪田大介, 小林英介, 金子和夫, 川井章, 中馬広一
大腿悪性骨軟部腫瘍に対する大腿骨全置換術の治療成績
第47回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学区術集会, 大阪, 2014 年7月

124. 窪田大介、向井原健太、末原義之、金子和夫、川井 章、近藤格
プロテオーム解析を用いた骨肉腫の化学療法奏効性予測バイオマーカーの開発①
第87回日本整形外科学会学術総会, 神戸（兵庫）, 2014 年5月

125. 窪田大介、向井原健太、末原義之、金子和夫、川井 章、近藤格
プロテオーム解析を用いた骨肉腫の化学療法奏効性予測バイオマーカーの開発
第 29 回日本整形外科学会基礎学術集会, 鹿児島, 2014 年 10 月

126. 久保田光昭 大野隆一 羽生亮 酒井健介 菅原悠 越智宏徳 向笠文博 石島旨章 高澤祐治 池田浩 金子和夫
Open wedge HTO に対する臨床評価と画像評価の相関
第 6 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS), 広島, 2014 年 7 月

127. 倉田 憲一 齋田 良知 佐藤 泰介 深作 進 金子 和夫 根本 昌幸
経ポータル法で作成した膝前十字靭帯再建術における骨孔形状の解析
第 6 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、 広島、2014 年 7 月

128. 倉田憲一 齋田良知 定月亮 佐藤泰介 羽生亮 鎌野俊哉 深作進 金子和夫 根本昌幸
関節液中骨代謝マーカーは変形性膝関節症患者の MRI 軟骨病変と関連する
日本整形外科学会基礎学術集会、鹿児島、2014 年 10 月

129. 倉田憲一、斉田良和、佐藤泰介、深作進、金子和夫、根本昌幸
前十字靭帯 (ACL) 解剖学的中心付近へ経ポータル法で作成した一重束再建術における骨孔形状の解析
第 87 回日本整形外科学会学術総会、神戸 5 月

130. 小池 正人、野尻英俊、小澤裕介、渡辺憲史、村松佑太、金子晴香、森川大智、小林慶司、齋田良知、増田功、佐粧孝久、白澤卓二、横手幸太郎、金子和夫、清水孝彦
軟骨細胞のミトコンドリア障害は変形性関節症を助長する.
第 29 回日本整形外科基礎学術集会, 鹿児島, 2014 年 10 月

131. 小池正人、野尻英俊、金子和夫、清水孝彦
関節軟骨変性と酸化ストレス. シンポジウム「OA 発症メカニズム」
第 29 回日本整形外科基礎学術集会, 鹿児島, 2014 年 10 月

132. 小池正人、野尻英俊、小澤裕介、渡辺憲史、増田功、村松佑太、金子晴香、森川大智、小林慶司、斎田良知、佐粧孝久、金子和夫、清水孝彦
軟骨細胞における Sod2 欠損は加齢性変形性関節症を加速させる.
第 27 回日本軟骨代謝学会, 京都, 2014 年 2 月

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

133. 小池正人、野尻英俊、小澤裕介、渡辺憲史、増田功、村松佑太、金子晴香、森川大智、小林慶司、斎田良知、佐粧孝久、金子和夫、清水孝彦
関節軟骨における Sod2 欠損は加齢性軟骨変性を助長する.
第 32 回日本骨代謝学会学術集会, 大阪, 2014 年 7 月

134. 小池正人、野尻英俊、小澤裕介、渡辺憲史、村松佑太、金子晴香、森川大智、小林慶司、斎田良知、増田功、佐粧孝久、白澤卓二、横手幸太郎、金子和夫、清水孝彦
軟骨細胞における Sod2 欠損はメカニカルストレスおよび加齢に伴う変形性関節症を加速させる.
第 14 回抗加齢医学会総会, 大阪, 2014 年 6 月

135. 小林望、藤原三郎、千野孔三、岩瀬弘明、尾﨑友、鈴木雅生、金子和夫
診断から治療までに時間を要した下腿開放骨折後骨髄炎の 1 例
第 40 回日本骨折治療学会、熊本、2014 年 6 月

136. 齋田 良知, 高澤 祐治, 池田 浩, 久保田 光昭, 石島 旨章, 金子 晴香, 川崎 隆之, 黒澤尚, 金子 和夫
アスリートの解剖学的一重束前十字靱帯再建術後スポーツ復帰状況の検討
JOSKAS、広島、2014 年 6 月

137. 齋田 良知, 小林 洋平, 池田 浩, 高澤 祐治, 中島 啓樹, 長尾 雅史, 金子 和夫
多血小板血漿(PRP)中に含有される血小板数と成長因子の相関および個人差の検討
日本整形外科スポーツ医学会、東京、2014 年 9 月

138. 坂本一晃, 斎田良和, 馬場智規, 最上敦彦, 本間康弘, 金子和夫
非定型大腿骨骨折の骨癒合期間に薬物治療と歩行能力は影響するか？-術後 3 年以上経過例の検討-
第 40 回日本骨折治療学会, 熊本, 2014 年 6 月

139. 坂本優子, 野沢雅彦, 金 勝乾, 石島旨章, 平澤恵理, 金子和夫
夢の実現に対する障壁 －自身の出産・復帰・継続体験をふまえて－（パネルディスカッション）
第 87 回日本整形外科学会総会, 神戸, 2014 年 5 月

140. 定月 亮、石島 旨章、金子 晴香、二見 一平、劉 立足、アニワルジャン ユスプ、羽田 晋之介、木下 真由子、Mary B. Golding、Yoshihiko Yamada、金子 和夫
パールカンによる滑膜間葉系細胞の維持並びに分化誘導の制御
日本整形外科学会基礎学術集会、鹿児島、2014 年 10 月

141. 佐藤泰介 斉田良知 倉田憲一 羽生享 深作進 根本昌幸 金木和夫
抗血栓薬内服患者に対する人工膝関節全置換術（TKA)術後の追加抗凝固療法の有用性と安全性の検討について
第 87 回日本整形外科学会学術総会、神戸 5 月

142. 佐渡山泰永, 佐藤太一, 前田浩行, 岩瀬秀明, 金子和夫, 小林敦郎, 若尾房美, 前田睦浩
運動器不安定症患者の転倒予防を目的とした「またぎ動作」の解析
日本転倒予防学会第1回学術集会, 東京, 2014 年 10 月

143. 嶋村 之利, 米澤 郁穂, 奥田 貴俊, 中原 大志, 百村 励, 吉川 慶, 高野 弘充, 金子 和夫, 尾原 裕康, 原 毅, 清水 敬親.
キアリ 1 型奇型を伴う側彎変形に対する後頭下減圧術の効果の検討
第 43 回日本脊椎脊髄病学会 京都、2014 年4月

144. 嶋村 之利、米澤 郁穂、奥田 貴俊、武藤 治、百村 励、吉川 慶、高野 弘充、金子 和夫、峰松 和夫、寺田 信幸、秋元 俊成.
ハンプ定量測定システムの検者間信頼性の検討.
第 48 回日本側弯症学会, 盛岡, 2014 年 10 月

145. 嶋村之利, 米澤郁穂, 奥田貴俊, 百村励, 吉川慶, 高野弘充, 金子和夫, 尾原裕康, 原毅
"急速に進行した後弯変形に対して上位胸椎レベルで矯正骨切りを行ったキアリ一奇形を合併し

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

た側弯症の 1 例"
第 13 回日本乳幼児側弯症研究会, 盛岡, 2014 年 11 月

146. 陣内祐太、中原大志、小林慶司、高澤祐治、金子和夫
サルモネラ菌が起因となった 腸腰筋膿瘍の 1 例
関東整形災害外科学会月例会、東京、2014 年

147. 末原義之,高阪真路, Neerav Shukla,窪田大介,金子和夫, Marc Ladanyi,齋藤剛
Ewing's 肉腫における Nucleophosmin の遺伝子発現ベースの機能解析
第 47 回日本整形外科学会・骨軟部腫瘍学術集会、大阪、2014 年7月

148. 末原義之,高阪真路, Neerav Shukla,窪田大介,峯木礼子,藤村努,金子和夫, Marc Ladanyi,齋藤剛
Ewing's 肉腫における Nucleophosmin のプロテオミクスベースの機能解析
第 47 回日本整形外科学会・骨軟部腫瘍学術集会、大阪、2014 年7月

149. 末原義之,高阪真路, Neerav Shukla,窪田大介,峯木礼子,藤村努,金子和夫,齋藤剛, Marc Ladanyi
Ewing's 肉腫における Nucleophosmin のプロテオミクスベースの機能解析
第 87 回日本整形外科学会学術総会、 神戸、2014 年 5 月

150. 杉山陽一、内藤聖人、金子和夫、大林 治.
透析患者のシャント側に発症した橈骨遠位端骨折の治療経験.
第 57 回日本手外科学会学術集会、那覇、2014 年 4 月

151. 鈴木雅生、藤原三郎、千野孔三、岩瀬弘明、尾﨑友、小林望、金子和夫
大腿骨転子部骨折における血栓評価のプロトコールの検討
第 40 回日本骨折治療学会、熊本、2014 年 6 月

152. 高木辰哉, 末原義之, 赤池慶祐, 鳥越知明, 金子和夫
食道がん骨転移の臨床像
第 47 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 大坂、2014 年 7 月

153. 高木辰哉, 末原義之, 赤池慶祐, 鳥越知明, 矢澤康男, 金子和夫
転移性骨腫瘍に対する多職種介入によるマネージメント
第 47 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 大坂、2014 年 7 月

154. 高野弘充, 米澤郁穂, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 金子和夫
Posterior decompression with instrumented fusion of the operation techniques in OPLL of the thoracic spine
第 21 回日本脊椎脊髄神経手術手技学会, 宮崎, 2014 年 9 月

155. 高野弘充, 米澤郁穂, 奥田貴俊, 百村励, 嶋村之利, 吉川慶, 金子和夫
思春期特発性側弯症における矢状面アライメントのカーブタイプ別検討
第 23 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 浜松, 2014 年 8 月

156. 高野弘充, 米澤郁穂, 奥田貴俊, 百村励, 嶋村之利, 吉川慶, 金子和夫
頚椎後弯が自然に改善した calve 扁平椎の一例
第 48 回日本側弯症学会, 盛岡, 2014 年 10 月

157. 高野弘充, 米澤郁穂, 東藤貢, Muhammad Hazli Mazlan, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 金子和夫
有限要素法を用いた椎体圧迫骨折の力学的評価−続発性椎体圧迫骨折のメカニズムの検討−
第 41 回日本臨床バイオメカニクス学会, 奈良, 2014 年 11 月

158. 高野 弘充, 米澤 郁穂, 奥田 貴俊, 百村 励, 嶋村 之利, 吉川 慶, 金子 和夫
思春期特発性側彎症における矢状面アライメントの X 線学的検討
第 87 回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2014 年 5 月

159. 高野弘充, 米澤郁穂, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 金子和夫
脊椎手術後の問題症例

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 28 回脊椎研究会 東京, 2014 年 6 月

160. 高野弘充, 米澤郁穂, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 佐藤達哉, 金子和夫
背筋による圧迫で麻痺をきたした胸椎後縦靭帯骨化症の一例
第 3 回文京整形外科カンファレンス, 東京, 2014 年 7 月

161. 鳥越知明, 丸山祐一郎, 高木辰哉, 末原義之, 赤池慶祐, 金子和夫
ナビゲーションを用いて骨切りし液体窒素処理自家骨移植にて再建した大腿骨遠位傍骨性骨肉腫の 1 例
第 47 回日本整形外科学会・骨軟部腫瘍学術集会, 大阪, 2014 年 7 月

162. 内藤聖人, 杉山陽一, 最上敦彦, 金子和夫, 大林治
橈骨遠位端骨折に対する小皮切手術:プレート設置には何 mm の皮切が必要か
第 40 回日本骨折治療学会, 熊本, 2014 年 6 月

163. 内藤聖人、金子和夫、Liverneaux P.
Telemicrosurgery.
第 334 回順天堂医学会学術集会 東京 2014 年 9 月

164. 内藤聖人、杉山陽一、金子和夫、大林 治.
上肢動物咬創に対する積極的デブリードマンと一次創閉鎖.
第 57 回日本手外科学会 沖縄、2014 年 4 月

165. 内藤聖人、杉山陽一、金子和夫、大林 治.
健常遠位橈尺関節における橈骨と尺骨頭の位置関係− 前腕回旋による尺骨頭偏位について.
第 57 回日本手外科学会 沖縄 2014 年 4 月

166. 内藤聖人、有冨健太郎、金子和夫.
手外科手術に求められる手術記録.
第 15 回順天堂手肘研究会 東京 2014 年 9 月

167. 成嶋靖博・前澤克彦・一青勝雄・金子和夫
人工股関節全置換術後における成績不良因子の検討（JHEQ を基に）
第41回日本股関節学会、東京、H26年10月

168. 羽田晋之介, 高澤祐治, 定月亮, 小林洋平, 金子晴香, 齊田良知, 久保田光昭, 石島旨章, 池田浩, 金子和夫
opening wedge 高位脛骨骨切り術の術後スポーツ活動への復帰
日本関節病学会、東京虎ノ門ヒルズ,2014 年 11 月

169. 羽田晋之介, 石島旨章, 金子晴香, 定月亮, 劉立足, アニュワル・ユスプ, 小林洋平, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
初期変形性膝関節症における関節軟骨の変性及び構造的変化の空間的差異
御茶ノ水膝スポーツ懇話会、順天堂大学センチュリータワー、2014 年 6 月

170. 馬場 智規, 金子 和夫
骨盤・股関節に対する外科的治療の進歩 人工股関節置換術における前方進入法と後方進入法の比較
第 39 回日本外科系連合学会、東京 2014 年 6 月

171. 馬場 智規, 最上 敦彦, 二村 謙太郎, 諸橋 達, 神田 章男, 本間 康弘, 松本 幹生, 百村 励, 小林 英生, 金子 和夫
大腿骨ステム周囲骨折に対して治療戦略に有用な客観的分類の提案と検者間誤差の検討
第 40 回日本骨折治療学会,熊本,2014 年 6 月

172. 馬場 智規, 萩野 浩, 野々宮 廣章, 生田 拓也, 正田 悦朗, 最上 敦彦, 金子 和夫, 澤口毅
橈骨遠位端骨折後に骨粗鬆症治療は行われているのか? 全国多施設共同研究
第 40 回日本骨折治療学会,熊本,2014 年 6 月

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

173. 馬場 智規, 百村 励, 金子 和夫
大腿骨ステム周囲骨折の治療戦略に有用な客観的分類法の提案
第 54 回関東整形災害外科学会, 横浜, 2014 年 3 月

174. 馬場智規　越智宏徳　本間康弘　松本幹生　小林英生　湯浅崇仁　金子和夫
大腿骨頚部骨折に対して前方アプローチによる人工股関節全置換術と人工骨頭置換術の比較
第 41 回日本股関節学会学術集会、東京、2014 年 10 月

175. 馬場智規　本間康弘　松本幹生　小林英生　尹善弘　朝倉太郎　金子和夫
大腿骨頚部骨折に対して前方進入法による人工股関節全置換術は有効か？
第 40 回日本骨折治療学会,熊本,2014 年 6 月

176. 本間康弘　馬場智規　越智宏徳　松本幹生　小林英生　湯浅崇仁　金子和夫
Dual Mobility Cup と Anterior Approach による THA 脱臼予防　一術後 6ヶ月での臨床成績比較
―
第 41 回日本股関節学会学術集会、東京、2014 年 10 月

177. 本間康弘　馬場智規　小林英生　松本幹生　末原義之　湯浅崇仁　金子和夫
超高齢者の大腿骨頚部骨折に対する人工股関節全置換術脱臼予防は人工関節引き下がり防止がより重要である
第 44 回日本人工関節学会、宜野湾市　2 月

178. 本間康弘　馬場智規　小林英生　松本幹生　末原義之　湯浅崇仁　金子和夫
Dual Mobility Cup による THA 術後脱臼予防:適応と限界
第 87 回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2014 年 5 月

179. 前澤克彦、成嶋靖博、一青勝雄、野沢雅彦、金子和夫
人工股関節全置換術術後の満足度と股関節周囲筋力との関連性.
日本股関節学会, 東京, 2014 年 10 月

180. 前田浩行, 岩瀬秀明, 佐渡山泰永, 佐藤太一, 金子和夫
運動器不安定症患者に対する「またぎ動作」の動的動作解析
第 41 回日本臨床バイオメカニクス学会, 奈良, 2014 年 11 月

181. 前田浩行, 大林治, 金子和夫, 佐藤太一, 丸山仁史, 前田睦浩
運動器不安定症患者における動的動作「またぎ動作」の解析
第 51 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 名古屋, 2014 年 6 月

182. 間宮好美、鳥越知明、原章、前澤克彦、丸山祐一郎、高木辰哉、末原義之、金子和夫
乳癌多発骨転移のゾレドロン酸長期使用後に生じた大腿骨非定型骨折に対し腫瘍用人工骨頭置換術を行った 2 例
関東整形災害外科学会月例会 第674回整形外科集団会、東京、2014 年 9 月

183. 丸山祐一郎　大沢亜紀　金澤博明　金子和夫
"前十字靭帯二重束再建術での 3DCT による骨孔位置の検討 3 群間（trans-tibial 法、anteromedial-portal 法、outside-in 法）の比較"
第 87 回日本整形外科学会学術総会　神戸　2014 年 5 月

184. 丸山祐一郎　大沢亜紀　金澤博明　金子和夫
前十字靭帯二重束再建術での 3DCT による骨孔位置と臨床成績、3 群間（trans-tibial 法、antero-medial 法、outside-in 法）の比較
第 6 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、広島、2014 年 7 月

185. 室谷錬太郎、丸山祐一郎、金子和夫
"化膿性脊椎炎保存治療の工夫-PTH 剤併用 MINO 療法による治療期間短縮-"
日本脊椎脊髄病学会、京都、2014 年 4 月

186. 最上敦彦, 大林治, 岩瀬秀明, 金子和夫

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

髄内釘の適応拡大への挑戦
第 87 回日本整形外科学会学術集会，神戸, 2014 年 5 月

187. 最上敦彦，大林治，岩瀬秀明，金子和夫，二村謙太郎
遠位脛腓靭帯結合(syndesmosin)損傷に対する Tightrope fixation による脛腓間固定
第 40 回日本骨折治療学会，熊本, 2014 年 6 月

188. 最上敦彦，大林治，諸橋達，神田章男，岩瀬秀明，金子和夫
大腿骨頚部骨折に対する骨接合術-その適応と限界-
第 41 回日本股関節学会学術集会，東京, 2014 年 10 月

189. 百村 励，米澤 郁穂，奥田 貴俊，嶋村 之利，吉川 慶，高野 弘充，金子 和夫
頭部の角度と脊椎矢状面アライメントの関係
第 43 回日本脊椎脊髄病学会　京都、2014 年4月

190. 百村　励,、馬場智規、小酒井治、奥田貴俊、吉川慶、金子和夫
骨粗鬆症性椎体骨折に対する初期治療　－経済的負担に注目して－
第 40 回日本骨折治療学会、熊本、2014 年 6 月

191. 森川 大智，糸魚川 善昭，野尻 英俊，佐野 博高，井樋 栄二，西條 芳文，金子 和夫，野沢雅彦，清水 孝彦
腱板付着部変性と酸化ストレスの関連性について　抗酸化剤を用いた検討.
第 87 回日本整形外科学会学術総会，神戸, 2014 年 5 月

192. 森川 大智，糸魚川 善昭，野尻 英俊，佐野 博高，井樋 栄二，西條 芳文，金子 和夫，野沢雅彦，清水 孝彦
抗酸化酵素 Sod1 欠損マウスにおける棘上筋付着部変性の組織学的解析.
第 6 回日本関節鏡、膝、スポーツ整形外科学会　広島, 2014 年 7 月

193. 守屋秀一 ，早田匡芳，白川純平，納富拓也,江面陽一，山本雅，金子和夫，野田政樹
副甲状腺ホルモン(PTH)による骨量増加作用に対する新規内因性抑制分子 Tob の機能解析
日本整形外科学会基礎学術集会、鹿児島、2014 年 10 月

194. 守屋秀一 ，早田匡芳，平林恭子，羽生亮，納富拓也，江面陽一，金子和夫，野田政樹
骨芽細胞における PTH シグナルと β2-adrenergic receptor(β2AR)との相互作用機構の解析
日本整形外科学会基礎学術集会、鹿児島、2014 年 10 月

195. 諸橋達，岩瀬秀明，佐藤太一，神田章男，大林治，金子和夫
人工股関節全置換術におけるステム挿入時に発生する打ち込み音の解析
第 41 回日本臨床バイオメカニクス学会，奈良, 2014 年 11 月

196. 諸橋達，最上敦彦，神田章男，大林治，金子和夫
人工股関節再置換術後に生じた腸腰筋インピンジメントに対して腸腰筋切離を行った 1 例
第 41 回日本股関節学会学術集会，東京, 2014 年 10 月

197. 湯浅崇仁，山川潤，前澤克彦，金子和夫
人工股関節全置換術における予防的抗菌薬投与量の検討
第 54 回関東整形災害外科学会、横浜、3 月

198. 湯浅崇仁，前澤克彦，野沢雅彦，金子和夫
パーキンソン病に合併した大腿骨近位部骨折患者の手術成績
第 87 回日本整形外科学会学術総会、神戸、2014 年 5 月

199. 湯浅崇仁，前澤克彦，野沢雅彦，有冨健太郎，金子和夫
寛骨臼回転骨切り術後に行った人工股関節全置換術の治療成績
第 41 回日本股関節学会学術集会、東京、2014 年 10 月

200. 湯浅崇仁，前澤克彦，有冨健太郎，馬場智規，小林英生，松本幹生，本間康弘，野沢雅彦 金子和夫

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

80 歳以上の高齢者に対するセメントレス人工股関節全置換術の臨床成績
第 44 回日本人工関節学会、宜野湾市、2014 年 2 月

201. 湯浅崇仁，牧野祐司，末原義之，金子和夫
変形性股関節症の病期進行予測と病態解明を目的としたプロテオーム解析
日本股関節研究振興財団セミナー、東京、2014 年 11 月

202. 吉川慶，米澤郁穂，奥田貴俊，百村励，嶋村之利，高野弘充，糸井陽，金子和夫，井野正剛，清水敬親
後頭骨-頚椎後方固定術における至適固定角度の検討～術中 X 線画像で何を指標にするのか
第 43 日本脊椎脊髄病学会,京都,2014 年 4 月

203. 吉川慶，米澤郁穂，奥田貴俊，百村励，嶋村之利，高野弘充，糸井陽，金子和夫，井野正剛，清水敬親
後頭骨-頚椎後方固定術における至適固定角度の検討～術中 X 線画像で何を指標にするのか
第 23 脊椎インストゥルメンション学会、静岡、2014 年 8 月

204. 吉川慶、米郁穂、奥田貴俊、嶋村之利、高野弘充、佐藤達也、金子和夫、中原大志
成人期特発性側弯症における手術例の検討
第 48 回日本側弯症学会，盛岡，2014 年 10 月

205. 米澤郁穂，奥田貴俊，百村励，嶋村之利，高野弘充，糸井陽，金子和夫，井野正剛，清水敬親.
後頭骨-頸椎後方固定術における至適固定角度の検討　術中 X 線画像で何を指標にするのか.
第 43 回日本脊椎脊髄病学会　京都、2014 年4月

206. 米澤郁穂，峰松和夫，嶋村之利，吉川慶，奥田貴俊，金子和夫
関節リウマチに対する頸椎手術の進歩 RA 後頭骨-胸椎固定術の生命予後と合併症の解析（シンポジウム）
第 42 回日本関節病学会 東京、2014 年 11 月

207. 和田知樹，最上敦彦，小畑宏介，大林治，金子和夫
鎖骨骨幹部骨折に対する VariAx clavicle plate の使用経験
第 40 回日本骨折治療学会，熊本, 2014 年 6 月

【学会発表（国内）2015 年】

1. 杉原匡美，柿木 亮，村山 尚，平山 哲，森本 幸生，呉林 なごみ，三井田 孝
自発的運動は拡張型心筋症モデルマウスの心不全を遅延させる
第 62 回日本臨床検査医学会学術集会，岐阜(11/19-11/22)，臨床病理 63 巻補冊, p163, 2015

2. 平山哲，上野剛，笹本健太，長尾侑紀，田村昌大，平山安希子，小野塚麻里，杉原匡美，三井田孝
妊娠時の糖代謝指標に及ぼす貧血および甲状腺機能の影響
第 62 回日本臨床検査医学会学術集会，岐阜(11/19-11/22)，臨床病理 63 巻補冊, p183, 2015

3. 上野剛，平山哲，田村昌大，笹本健太，長尾侑紀，小野塚麻里，杉原匡美，西岡笑子,牧野真太郎，安部勝美，竹田省，三井田孝
妊娠時の血中 ALP アイソザイム（胎盤由来 ALP4型)活性の変動
第 62 回日本臨床検査医学会学術集会，岐阜(11/19-11/22)，臨床病理 63 巻補冊, p198, 2015

4. 杉田有里那，杉原匡美，平山哲，下泰司，伊藤誠悟，大村寛敏，河合祥雄，代田浩之，三井田孝
健康診断を契機に診断したマクロ CK 血症の一例
第 112 回日本内科学会総会・講演会，医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2015，京都（4/10-4/12），プログラム・抄録集, p123

5. 渡部俊之，横村 守，石田恵梨，佐藤耐喜，河野正臣，中川央充，根間敏郎，村野武義，武城英明，三井田 孝
トリグリセライド（TG）測定法の違いにおける脂肪組織の関与について.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 55 回日本臨床化学会年次学術集会， 吹田, 2015 年 9 月 6-8 日

6. 横村 守, 石田恵梨, 渡部俊之, 河野正臣, 佐藤耐喜, 中川央充, 三浦ひとみ, 三井田 孝, 佐藤麻子
絶食時と食後のグリセロール消去法・非消去法の TG 値の比較検討.
第 55 回日本臨床化学会年次学術集会， 吹田, 2015 年 9 月 6-8 日

7. 宮崎哲朗, 高橋秀平, 島田和典, 上野 剛, 加藤隆生, 須田翔子, 比企 優, 松森理枝, 葛西隆敏, 高木篤俊, 宮内克己, 三井田孝, 代田浩之
急性非代償性心不全患者における血中カルニチン濃度の臨床的意義.
第 63 回日本心臓病学会学術集会, 横浜, 2015 年 9 月 18-20 日

8. 鈴木路可, 後藤広昌, 内田豊義, 池田富貴, 金澤昭雄, 藤谷与士夫, 三井田孝, 藤原典子, 川崎誠治, 綿田裕孝
薬剤過敏症候群に合併しリポ蛋白 X 上昇を伴った脂質異常症の 1 例.
第 88 回日本内分泌学会学術総会, 東京, 2015 年 4 月 23-25 日

9. 田村昌大, 平山 哲, 上野 剛, 笹本健太, 長尾侑紀, 小野塚麻里, 杉原匡美, 川上智弘, 坂本大記, 廣瀬伸良, 三井田 孝
自発的運動は拡張型心筋症モデルマウスの心不全進行を遅延させる.
第 62 回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015 年 11 月 19-22 日

10. 杉原匡美, 柿木 亮, 村山 尚, 平山 哲, 森本幸生, 呉林なごみ, 三井田 孝
妊娠時の糖代謝指標に及ぼす貧血および甲状腺機能の影響.
第 62 回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015 年 11 月 19-22 日

11. 平山 哲, 上野 剛, 笹本健太, 長尾侑紀, 田村昌大, 平山安希子, 小野塚麻里, 杉原匡美, 西岡笑子, 牧野真太郎, 竹田 省, 三井田 孝
妊娠時の血中 ALP アイソザイム（胎盤由来 ALP4 型）活性の変動.
第 62 回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015 年 11 月 19-22 日

12. 上野 剛, 平山 哲, 田村昌大, 笹本健太, 長尾侑紀, 小野塚麻里, 杉原匡美, 西岡笑子, 牧野真太郎, 阿部勝美, 竹田 省, 三井田 孝
巨核球の増加と大型血小板を認めた Wiscott-Aldrich 症候群の 1 例.
第 62 回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015 年 11 月 19-22 日

13. 藍 智彦, 出居真由美, 堀内裕紀, 佐藤尚武, 藤村純也, 東海林宏道, 池野 充, 清水俊明, 笹原洋二, 森尾友宏, 田部陽子, 三井田 孝
血清クレアチニンが著明な偽高値を呈した IgM-MGUS の 1 例.
第 62 回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015 年 11 月 19-22 日

14. 出居真由美, 三宅一徳, 眞野 訓, 築根 豊, 脇田 満, 川上美由紀, 堀井 隆, 杉原匡美, 田部陽子, 富野康日己, 小松則夫, 大坂顯通, 三井田 孝
トリグリセライド（TG） 測定法の違いにおける検体保存安定性について.
第 62 回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015 年 11 月 19-22 日

15. 河野正臣, 佐藤耐喜, 渡部俊之, 横村 守, 石田恵梨, 中川央充, 石橋みどり, 三井田 孝
急性非代償性心不全患者における血中アシルカルニチン/遊離カルニチン比の臨床的意義.
第 62 回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015 年 11 月 19-22 日

16. 高橋秀平, 宮崎哲朗, 島田和典, 上野 剛, 松森理枝, 葛西隆敏, 高木篤俊, 宮内克己, 三井田孝, 代田浩之
健康診断を契機に診断したマクロ CK 血症の一例
第 112 回日本内科学会総会・講演会, 京都, 2015 年 4 月 10-12 日

17. 船山崇, 田村好史, 竹野景海, 加賀英義, 筧佐織, 河盛隆造,綿田裕孝
同一消費熱量運動実施下における運動強度差がインスリン抵抗性と異所性脂肪に及ぼす影響について
第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会, 山口県, 2015.5.21-24(2015.5.23), 口演

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

18. 古川康彦, 田村好史, 竹野景海, 船山崇, 鈴木瑠璃子, 加賀英義, 渡邉隆宏, 染谷由希, 藤谷与士夫, 河盛隆造, 綿田裕孝
非肥満 2 型糖尿病患者における肝内脂肪蓄積及び肝逸脱酵素と臓器特異的インスリン感受性の関連性
第 2 回肝臓と糖尿病・代謝研究会(第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会と共催), 山口県, 2015.05.23, ワークショップ

19. 筧佐織, 田村好史, 池田真一, 河盛隆造, 綿田裕孝
24 時間の脚ギプス固定は、骨格筋細胞内のジアシルグリセロールを増加させ、インスリン抵抗性を惹起する
第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山県, 2015.09.18-20(2015.09.19), 口演

20. 船山崇, 田村好史, 竹野景海, 加賀英義, 筧佐織, 河盛隆造, 綿田裕孝
同一消費熱量運動における運動強度差がインスリン抵抗性と異所性脂肪に及ぼす効果
第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山県, 2015.09.18-20(2015.09.20), 口演

21. 佐藤淳子, 金澤昭雄, 牧田寿美子, 小宮幸次, 清水友章,池田富貴, 田村好史, 荻原健, 三田智也, 後藤広昌, 内田豊義, 宮塚健, 竹野景海, 島田聡, 大村千恵, 山本理紗子, 渡邉威仁, 小林喜代惠, 三浦佳子, 岩岡愛美, 飯島香織, 平嶋奈緒, 波多江千恵, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
2型糖尿病患者における糖質制限食の有効性と安全性
第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会, 山口県, 2015.5.21-24(2015.5.22), 口演

22. 河野結衣, 池田富貴, 小宮幸次, 内田豊義, 田村好史, 清水友章, 金澤昭雄, 大村千恵, 藤谷与士夫,綿田裕孝
当院における 1 型糖尿病合併妊娠の臨床的検討
第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会, 山口県, 2015.05.21-24(2015.05.23),ポスター

23. 片平雄大, 氷室美和, 金井数明, 児玉悠紀, 内田豊義, 金澤昭雄, 服部信孝, 綿田裕孝
糖尿病性舞踏病を合併したケトン性高血糖症の 1 例
第 52 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会,神奈川県, 2015.01.24, 口演

24. 廣川侑香, 谷本眞澄, 内田豊義, 池田富貴, 金澤昭雄, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
高齢者の後期ダンピング症候群に対してジアゾキサイドが有効であった一例
第 52 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 神奈川県, 2015.01.24, 口演

25. 河野結衣, 内田豊義, 清水史孝, 朝比奈未紀, 西本紘嗣郎, 向井邦晃, 福村由紀, 辻村晃, 八尾隆史, 堀江重郎, 綿田裕孝
原発性アルドステロン症及びサブクリニカルクッシング症候群を呈する副腎皮質癌の1例
第 88 回日本内分泌学会学術総会, 東京都, 2015.4.23-25(2015.4.25), 口演

26. 氷室美和, 土井多香乃, 内田豊義, 後藤広昌, 小宮幸次, 竹野景海, 佐藤淳子, 本田彬, 河野結衣, 鈴木瑠璃子, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
穿刺吸引細胞診後に甲状腺超音波所見が変化した症例の検討
第 88 回日本内分泌学会学術総会, 東京都, 2015.4.23-25(2015.4.25), ポスター

27. 中寺奈弓, 金澤昭雄, 佐藤文彦, 齊藤大祐, 佐藤淳子, 内田豊義, 宮塚健, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
Basal supported Oral Therapy で血糖コントロール不十分な2型糖尿病患者に対する DPP-4阻害薬追加投与の効果と安全性の検討
第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会, 山口県, 2015.5.21-24,(2015.5.22), ポスター

28. 早稲田直子, 佐藤淳子, 児玉悠紀, 持田曜弘, 長澤肇, 木原実穂, 後藤広昌, 金澤昭雄, 綿田裕孝
乳癌の下垂体転移による汎下垂体機能低下症と考えられ、ホルモン補充療法を行った1例
第 618 回日本内科学会関東地方会, 東京都, 2015.10.10, 口演

29. 鈴木瑠璃子, 内田豊義, 小野瀬裕之, 石井新哉, 土井多香乃,後藤広昌, 小宮幸次, 竹野景海,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

山田恵美子，山田哲，綿田裕孝
甲状腺中毒症の鑑別診断に用いる甲状腺 99mTcO4-摂取率の閾値と摂取率を規定する因子の検討
第 88 回日本内分泌学会学術総会，東京都, 2015.04.23-25(2015.04.24)，口演

30. 常見亜佐子，金澤昭雄，羽田恵，綿田裕孝
Basal-Bolus 療法施行中の 2 型糖尿病におけるグラルギンからデグルデクへの切り替えの検討
第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会，山口県, 2015.05.21-24(2015.05.21)，ポスター

31. 原朱美，藤谷与士夫，荻原健，宮塚健，綿田裕孝
ヒト型 IAPP は膵島移植の成功率を低下させる
第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会，山口県, 2015.05.21-24(2015.05.22)，口演

32. 鵜澤博嗣，鈴木路可，後藤広昌，内田豊義，池田富貴，金澤昭雄，塩澤真司，野間康夫，藤谷与士夫，堀江重郎，綿田裕孝
抗アンドロゲン薬と Denosumab 併用後に生じた飢餓骨症候群の一例
第 25 回臨床内分泌代謝 Update，東京都, 2015.11.27-28(2015.11.28)，ポスター

33. 西尾理恵，綿田裕孝，金澤昭雄，内田豊義，伊藤千春，川崎誠治，今村宏，加藤俊介，八尾隆史，福村由紀
mTOR 阻害薬での治療を試みた膵原発インスリノーマ肝転移の一例
第 25 回臨床内分泌代謝 Update，東京都, 2015.11.27-28(2015.11.27)，ポスター

34. 廣川侑香，鈴木瑠璃子，谷本眞澄，伊藤千春，後藤広昌,内田豊義，池田富貴，金澤昭雄，藤谷与士夫，綿田裕孝
原発不明のレニン産生腫瘍と考えレニン阻害薬投与を試みた一例
第 25 回臨床内分泌代謝 Update，東京都, 2015.11.27-28(2015.11.28)，ポスター

35. 岩下紋子，小宮幸次，内田豊義，鈴木路可，佐藤元律，菅野玲,野澤和久，仲野総一郎，築根豊，小松則夫，高崎芳成，綿田裕孝
診断に苦慮した自己免疫性関節炎合併の高カルシウム血症の一例
第 25 回臨床内分泌代謝 Update，東京都, 2015.11.27-28(2015.11.28)，口演

36. 内田豊義，綿田裕孝
バセドウ病に対する無機ヨウ素治療
第 25 回臨床内分泌代謝 Update，　東京都, 2015.11.27-28(2015.11.27),口演

37. 本田彬，内田豊義，後藤広昌，小宮幸次，竹野景海，佐藤淳子,河野結衣，鈴木瑠璃子，氷室美和，藤谷与士夫，綿田裕孝
抗甲状腺剤の代替治療で用いる無機ヨード治療の効果と限界に関する検討
第 88 回 日本内分泌学会学術総会，東京都, 2015.4.23-25(2015.4.23)，ポスター

38. 鈴木路可，後藤広昌，内田豊義，池田富貴，金澤昭雄,藤谷与士夫，三井田孝，藤原典子，川崎誠治,綿田裕孝
薬剤過敏症候群に合併しリポ蛋白 X 上昇を伴った脂質異常症の1例
第 25 回臨床内分泌代謝，東京都, 2015.11-27-28(2015.11.28)，口演

39. 綿田裕孝
アジア人 2 型糖尿病患者に対するインスリン導入療法としてのインスリンリスプロ混合製剤 25 と 50 の比較
第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会，山口県, 2015.5.21-24(2015.5.23)，口演

40. 綿田裕孝
経口血糖降下薬の分類と適応
第 52 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会,神奈川県, 2015.01.24，シンポジウム

41. 綿田裕孝
臨床応用を見据えた膵 β 細胞再生研究アップ
第 49 回日本糖尿病学の進歩，岡山県, 2015.02.20-21(2015.02.20)，シンポジウム

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

42. 福中彩子, 藤谷与士夫, 深田俊幸, 梶村真吾, 綿田裕孝
エーラス・ダンロス症候群原因遺伝子 Zip13 を介した脂肪細胞の褐色化制御機構
第 29 回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会, 京都府, 2015.02.13-14(2015.02.14), シンポジウム

43. 原朱美, 藤谷与士夫, 荻原健, 宮塚健, 綿田裕孝
ヒト型 IAPP は膵島移植の成功率を低下させる
第 88 回日本内分泌学会学術集会, 東京都, 2015.4.23-25(2015.4.23), 若手研究奨励賞（YIA）審査講演

44. 綿田裕孝
糖尿病治療をめぐる最近の話題
第 25 回臨床内分泌代謝 Update, 東京都, 2015.11.27-28(2015.11.28), モーニングセミナー

45. 澤田亨, 丸藤祐子, 川上諒子, 田村好史, 津田瞳美, 齋藤光,宮地元彦
日本人女性における複合運動の実施頻度と糖尿病罹患：症例対照研究
第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山県, 2015.09.18-20(2015.09.20), 口演

46. 田村好史
健康寿命延伸とスポートロジー
第 13 回日本フットケア学会年次学術集会, 東京都, 2015.02.14-15(2015.02.14), 口演

47. 田村好史
糖尿病運動療法の指針
第 49 回日本糖尿病学の進歩, 岡山県, 2015.02.20-21(2015.02.20), レクチャー

48. 田村好史
非肥満者の代謝障害発生メカニズム～細胞内肥満から考える新規アプローチ～
第 163 回日本体力医学会関東地方会, 東京都, 2015.02.28, トピックス講演(講演+質疑)

49. 田村好史
チアゾリジン誘導体と異所性脂肪
第 36 回日本肥満学会, 愛知県, 2015.10.2-3(2015.10.2), シンポジウム

50. 田村好史, 筧佐織, 竹野景海, 船山崇
インスリン抵抗性に関わる生活習慣・退室と異所性脂肪
第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山県, 2015.09.18-20(2015.09.20), シンポジウム

51. 田村好史, 筧佐織, 竹野景海, 船山崇, 染谷由希
糖尿病における運動療法の強度の意義と臨床的適応
第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山県, 2015.09.18-20(2015.09.18), シンポジウム

52. 田村好史
内臓脂肪と異所性脂肪“脂肪筋”から考える運動の役割
第 17 回脂質栄養シンポジウム～内臓脂肪をためない生活習慣～, 東京都, 2015.02.21, シンポジウム

53. 田村好史
健康寿命延伸に対する運動と骨格筋代謝の役割
第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会, 山口県, 2015.5.21-24(2015.5.22), シンポジウム

54. 筧　佐織、田村　好史、池田　真一、加賀　直子、河盛　隆造、綿田　裕孝
高脂肪・不活動による骨格筋インスリン抵抗性惹起メカニズム
分子糖尿病学シンポジウム　平成 27 年 12 月 5 日　東京

55. 入江隆介、鶴田航平、堀正明、鈴木通真、鎌形康司、吉田茉莉子、中西淳、神谷昂平、中島円、宮嶋雅一、青木茂樹
Neurite orientation dispersion and density imaging を用いた特発性正常圧水頭症の皮質脊髄路

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

の評価
第 44 回日本神経放射線学会:2015 年 3 月 6 日～7 日:名古屋

56. 鎌形 康司、榊原 隆次、中塚 智也、堀 正明、鈴木 通真、岸 雅彦、露崎 洋平、舘野 冬樹、青木 茂樹、寺田 一志
磁化率強調像による Lewy 小体病におけるニグロソームの評価:ドパミントランスポーターSPECT との比較
第 44 回日本神経放射線学会:2015 年 3 月 6 日～7 日:名古屋

57. 鎌形 康司、ケレベール オーレリアン、横沢 俊、大竹 陽介、吉田 茉莉子、鈴木 通真、堀正明、越智 久晃、青木 茂樹、平澤 恵理
透明脳化技術と MRI による微細構造の対比:自閉症マウスと正常マウスにおける初期検討
第 44 回日本神経放射線学会:2015 年 3 月 6 日～7 日:名古屋

58. 鈴木通真、入江隆介、高野直、鎌形康司、堀正明、吉田茉利子、濱崎望、佐藤秀二、山本宗孝、大石英則、青木茂樹.
サイレント MRA の基礎的検討と臨床応用
第 44 回日本神経放射線学会:2015 年 3 月 6 日～7 日:名古屋

59. 堀正明、野尻龍二,村田勝俊,鎌形康司,石亀慶一, 吉田茉莉子、青木茂樹
頚髄の neurite orientation dispersion and density imaging:motion probing gradient 数に関する検討
第 44 回日本神経放射線学会:2015 年 3 月 6 日～7 日:名古屋

60. 吉田茉莉子, 横山和正 , 錦織瞭, 堀正明, 鎌形康司, 鈴木通真, 神谷昂平, 下地啓五, 京極伸介, 青木茂樹, 服部信孝
多発性硬化症における潜在性の脳微細構造の変化～NODDI を利用した全脳解析～
2015 年 3 月 6 日～7 日:名古屋

61. 神谷昂平、雨宮史織、鈴木雄一、國井尚人、川合謙介、森墾、國松聡、斉藤延人、青木茂樹、大友邦.
DTI-connectome のグラフ理論解析と機械学習の組み合わせによる、側頭葉てんかん焦点側の識別
第 44 回日本神経放射線学会:2015 年 3 月 6 日～7 日:名古屋

62. 鎌形康司、波田野琢、鶴田航平、奥住文美、堀正明、鈴木通真、下地啓五、濱崎望、佐藤秀二、上田亮、服部信孝、青木茂樹
拡散テンソル構造的ネットワーク解析を用いたパーキンソン病における脳内ネットワーク変容 の解明
第 43 回日本磁気共鳴医学会大会:2015 年 9 月 10 日～12 日:東京

63. 隈丸加奈子, Bedayat A, Bhivasankar R, Cai T, George E, Imanzadeh A, Hussain Z, Dunne R, Hunsaker AR, Rybicki FJ
肺塞栓 CT レポート内の診断の曖昧さと患者アウトカムの関連解析
第 74 回 日本医学放射線学会総会:2015 年 4 月 16 日～19 日:横浜

64. 隈丸加奈子, Cai T, Mitsouras D, Imanzadeh A, George E, Schultz K, Grant GT, Liacouras PC, Steigner M, Bueno E, Pomahac B, Rybicki FJ
顔面骨 CT の 3D プリンティングにおける被ばく低減と逐次近似法の検討
第 74 回 日本医学放射線学会総会:2015 年 4 月 16 日～19 日:横浜

65. 隈丸加奈子, Hiraku Kumamaru, Brian T. Bateman, Jun Liu, Laurence D. Higgins, Frank J. Rybicki, Elisabetta Patorn
米国大規模入院データベースを用いた股／膝関節置換術後の肺塞栓 CT 利用のばらつきの解析
第 74 回 日本医学放射線学会総会:2015 年 4 月 16 日～19 日:横浜

66. 隈丸加奈子, Saboo S, Cai T, Gonzalez-Quesada C, George E, Hussain Z, Dunne R, Bedayat A, Aghayev A, Wake N, Imanzadeh A, Bhivasankar R, Hunsaker AR, Rybicki FJ

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

包括的 CT 所見に基づいたスコアリングによる肺塞栓後の死亡予測
第 74 回 日本医学放射線学会総会:2015 年 4 月 16 日～19 日:横浜

67. 中西淳、玉本文彦、朝日公一、松波環、柘植大輔、桑鶴良平、青木茂樹
甲状腺・副甲状腺疾患の機能・形態画像診断
第 74 回日本医学放射線学会学術集会:2015 年 4 月 16 日～19 日:横浜

68. 川崎英生、熊谷文孝、濱崎望、佐藤秀二、堀正明、青木茂樹
Synthetic MRI 及び従来法での T1 値 , T2 値の比較検討
第 43 回日本磁気共鳴医学会大会:2015 年 9 月 10 日～12 日:東京.

69. 熊谷文孝、鎌形康司、奥住文美、波田野琢、佐藤秀二、濱崎望、川崎英生、鶴田航平、堀正明、服部信孝、青木茂樹
fMRI を用いたパーキンソン病患者における両側協調運動時の脳機能活動の変化
第 43 回日本磁気共鳴医学会大会:2015 年 9 月 10～12 日:東京

70. 佐藤秀二、高野直、川崎英生、濱崎望、熊谷文孝、鈴木通真、芳士戸治義、堀正明、青木茂樹
静音型 MR angiography における狭窄血管ファントムの描出検討
第 43 回日本磁気共鳴医学会大会:2015 年 9 月 10 日～12 日:東京

71. 髙野直、鈴木通真、佐藤秀二、濱崎望、川崎英生、芳士戸治義、山本宗孝、堀正明、大石英則、青木茂樹
Silent MRA における 2 種類の頭蓋内ステントの信号強度比の変化
Advanced CT・MR:2015 年 6 月 6～7 日:軽井沢

72. 髙野直、鈴木通真、佐藤秀二、濱崎望、川崎英生、芳士戸治義、山本宗孝、堀正明、大石英則、青木茂樹
Silent MRA における 2 種類の頭蓋内ステントの描出能の検討
第 43 回日本磁気共鳴医学会大会:2015 年 9 月 10～12 日:東京

73. 髙野直、鈴木通真、山本宗孝、堀正明、大石英則、青木茂樹
Silent MRA におけるセルデザインの異なる頭蓋内ステントの描出能の検討
第 31 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会:2015 年 11 月 19～21 日:岡山

74. 濱崎望、堀正明、佐藤秀二、川崎英生、高野直、鈴木由里子、芳士戸治義、青木茂樹
Reference scan が Multi band に及ぼす影響[SEP]
第 43 回日本磁気共鳴医学会大会:2015 年 9 月 10 日～12 日:東京

75. 福永一星、堀正明、増谷佳孝、濱崎望、佐藤秀二、熊谷文孝、鶴田航平、鎌形康司、鈴木由里子、伊藤憲之、小美野高志、堂領和彦、芳士戸治義、青木茂樹
拡散時間が Diffusional kurtosis imaging（DKI）の定量値に与える影響
日本磁気共鳴医学会大会:2015 年 9 月 10～12 日:東京

76. Ryusuke Irie, Michimasa Suzuki, Munetaka Yamamoto, Nao Takano, Yasuo Suga, Masaaki Hori, Koji Kamagata, Mariko Yoshida, Hidenori Oishi, Shigeki Aoki
Magnetic resonance angiography using silent scan after stent-assisted coil embolization for posterior circulation aneurysms
第 74 回日本医学放射線学会総会:2015 年 4 月 16 日～19 日:横浜.

77. 上田亮、鶴田航平、堀正明、錦織瞭、鎌形康司、神谷昂平、下地啓五、吉田茉莉子、萩原彰文、熊谷文孝、中澤美咲、村田渉、青木茂樹、妹尾淳史
パーキンソン病患者と健常者の拡散テンソルを用いた connectome の比較
Advanced CT・MR 2015:2015 年 6 月 6 日:軽井沢

78. 神谷昂平、鈴木雄一、田中将太 、武笠晃丈、堀正明、森墾、國松聡、青木茂樹、大友邦
腫瘍周囲の T2WI 高信号域における、DKI・NODDI 定量値の初期検討:腫瘍浸潤 vs 血管原性浮腫
第 74 回日本医学放射線学会総会:2015 年 4 月 16 日～19 日:横浜

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

79. 高橋(安達)木綿子、池野充、萩原彰文、青木茂樹
Sensenbrenner 症候群の 1 例
小児神経放射線研究会：2015 年 11 月 14 日：東京

80. 鶴田航平、鎌形康司、本井ゆみ子、堀正明、鈴木通真、下地啓五、上田亮、中澤美咲、村田渉、佐藤秀二、濱崎望、熊谷文孝、服部信孝、青木茂樹、妹尾淳史
グラフ理論を用いたネットワーク解析による Alzheimer's Disease と Dementia with Lewy Bodies の評価
第 43 回日本磁気共鳴医学会大会：2015 年 9 月 10～12 日：東京

81. 鶴田航平、立花泰彦、神谷昂平、入江隆介、鎌形康司、堀正明、鈴木通真、中西淳、佐藤秀二、濱崎望、服部信孝、青木茂樹、妹尾淳史
異方性を考慮した拡散尖度画像を推定する手法(eDKI)の臨床応用に関する検討
第 43 回日本磁気共鳴医学会大会：2015 年 9 月 10～12 日：東京

82. 中澤美咲、鶴田航平、堀正明、萩原彰文、高野直、熊谷文孝、濱崎望、佐藤秀二、川崎英生、鎌形康司、吉田茉莉子、村田渉、上田亮、青木茂樹、妹尾淳史
Synthetic MR の使用経験
Advanced CT・MR 2015：2015 年 6 月 6 日：軽井沢

83. 中澤美咲、萩原彰文、クリスティナアンディカ、堀正明、鶴田航平、高野直、熊谷文孝、濱崎望、佐藤秀二、川崎英生、鎌形康司、吉田茉莉子、村田渉、上田亮、青木茂樹、妹尾淳史
Synthetic MR の使用経験
日本磁気共鳴医学会大会：2015 年 9 月 10～12 日：東京

84. 村田渉、鎌形康司、波田野琢、奥住文美、堀正明、鈴木通真、下地啓五、 濱崎望、佐藤秀二、鶴田航平、中澤美咲、上田亮、服部信孝、青木茂樹、妹尾淳史
NODDI を用いたパーキンソン病における基底核変性の評価：ドパミントランスポーター SPECT との関連
第 43 回日本磁気共鳴医学会大会：2015 年 9 月 10～12 日：東京

85. 石川 景一、斉木 臣二、古屋 徳彦、山田 大介、今道 洋子、李 元哲、河尻 澄宏、小池 正人、坪井 義夫、服部 信孝.
p150glued-Associated Disorders Are Caused by Intrinsic Apoptotic Pathway、[Pe-039] ポスター(英語)運動ニューロン疾患病態 分子病態 C、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

86. 伊澤 奈々、羽鳥 浩三、服部 信孝、長岡 正範.
パーキンソン病の主要症候に対する MDS-UPDRS 評価と Barthel index の関連性の臨床的検討、[P-101] ポスター(日本語)パーキンソン病臨床 気分障害・リハビリテーション、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

87. 石黒 雄太、 金井 数明:、上野 真一、服部 信孝.
本邦の多系統萎縮症におけるパーキンソニズムと DAT スキャンの左右差について検討、変性疾患 [P-019] ポスター(日本語) 多系統萎縮症 パーキンソニズム、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

88. 井下 強、穂坂 有加、今居 譲、服部 信孝.
Parkinson's disease-associated proteins Vps35 regulate synaptic release、[Pe-057] ポスター(英語)パーキンソン病病態 トラフィッキング、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

89. 上野 真一、金井 数明、石黒 雄太、服部 信孝.
DAT スキャンと頭部 MRI による多系統萎縮症に対する臨床的検討、変性疾患 [P-020] ポスター(日本語)多系統萎縮症 画像、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

90. 江口 博人、今泉 美佳、舩山 学、波田野 琢、斉木 臣二、佐藤 栄人、久保 紳一郎、今居 譲、町田 裕、三輪 英人、永松 信哉、服部 信孝.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Functions of Parkin gene to maintain pancreatic beta cell 、[Pe-056] ポスター(英語)パーキンソン病病態 Parkin など、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

91. 王子 悠、波田野 琢、森 聡生、久保 紳一郎、服部 信孝.
Inhibition of glucocerebrosidase enzyme activity may affect dopamine release、[Pe-056] ポスター(英語) パーキンソン病病態 Parkin など、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

92. 大垣 光太郎、青木 直哉、古賀 俊輔、Lin, Wen-lang、鈴木 衣子、Ross, Owen、服部 信孝、Dickson, Dennis.
Adult-onset cerebello-brainstem dominant form of ALD; a case report and review、変性疾患 [Pe-004] ポスター(英語)小脳失調症 遺伝性、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

93. 小川 崇、西岡 健弥、須田 晃充、林 徹生、森 聡生、中根 俊成、樋口 理、松尾 秀徳、田中 亮太、横山 和正、卜部 貴夫、服部 信孝.
Clinical heterogeneity of autoimmune autonomic ganglionopathy、[P-181] ポスター(日本語) 末梢神経障害 感覚・自律神経、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

94. 奥住 文美、波田野 琢、斉木 臣二、舩山 学、服部 信孝.
Serum metabolomics revealed several metabolic markers of Parkinson's disease、[Pe-056] ポスター(英語)パーキンソン病病態 Parkin など、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

95. 金井 数明、李 元哲、中谷 光良、中里 朋子、坪井 智子、松島 隆史、三笠 道太、舩山 学、吉野 浩代、久保 紳一郎、西岡 健弥、服部 信孝.
家族性パーキンソン病における異染性白質ジストロフィー責任遺伝子の寄与の検討、[P-062] ポスター(日本語) パーキンソン病診断 生化学、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

96. 狩野充芳、高梨雅史、頼高朝子、森秀生、服部信孝.
Parkin mutation 症例の変性部位におけるアストロサイトの検討、
第 56 回日本神経病理学会、九州大学医学部百年講堂、2015 年 6 月 4 日、福岡市

97. 栗田 尚英、田中 亮太、山城 一雄、上野 祐司、島田 佳明、黒木 卓馬、平 健一郎、卜部 貴夫、服部 信孝.
発症前糖尿病治療と脳梗塞急性期の予後について、脳卒中 [P-004] ポスター(日本語)脳血管障害 マーカー2、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

98. 小林 愛美、波田野 琢、中島 明日香、城 崇之、奥住 文美、下 泰司、服部 信孝.
パーキンソン病の自然史、[P-161] ポスター(日本語)パーキンソン病臨床 疫学など、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

99. 島田 佳明、田中 亮太、志村 秀樹、山城 一雄、卜部 貴夫、服部 信孝.
Phosphorylated recombinant HSP27 protects brain of BBB disruptions animal models、脳卒中 [Pe-020] ポスター(英語)脳血管障害病態 B、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

100. 志村 秀樹、林 明人、相場 彩子、宮元 伸和、渡邉 雅男、服部 信孝、卜部 貴夫.
Effect of rotigotine on 32 patients with Parkinson's disease for 24 weeks、[O-01] 口演 Clinical practice issues relevant to Parkinson's disease and related disorders、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

101. 下 泰司、中島 明日香、城 崇之、大山 彦光、梅村 淳、服部 信孝.
DAT SPECT の SBR 値はパーキンソン病患者におけるレボドパ反応性の指標となり得る、パーキンソン病 [P-011] ポスター(日本語)パーキンソン病診断 DAT-SCAN1、

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

102. 城 崇之、大山 彦光、吉見 健二、佐藤 栄人、ドーソン テッド、中島 明日香、梅村 淳、下 泰司、服部 信孝.
Optogenetic dopaminergic stimulation in mice、[Pe-034] ポスター(英語) 神経科学 動物 B、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

103. 須田 晃充、中山 茶千子、佐々木 芙悠子、森 聡生、中島 明日香、田中 亮太、久保 紳一郎、本井 ゆみ子、服部 信孝.
アルツハイマー病患者におけるガランタミンの効果と, 有効症例の特徴の検討、認知症 [P-100] ポスター(日本語)アルツハイマー病 治療 2、第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

104. 谷口 大祐、高梨 雅史、森 秀生、服部 信孝.
MSA-P 剖検例における Glial cytoplasmic inclusions の検討、変性疾患 [P-019] ポスター(日本語)多系統萎縮症 パーキンソニズム、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

105. 中里 朋子、金井 数明、藤巻 基紀、大山 彦光、下 泰司、服部 信孝.
持続性 Na＋電流は筋萎縮性側索硬化症の予後に関与する:発症から診断までの期間の検討、[P-166] ポスター(日本語) ALS 電気生理、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

106. 中島 明日香、下 泰司:、宇賀 貴紀、服部 信孝.
Different effects of STN and GPi stimulation to primate striatal interneuron、神経生理 [AP-01] 2015 年ポスター部門トピックス 基礎部門、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

107. 中島 翔、田中 亮太、山城 一雄、栗田 尚英、島田 佳明、黒木 卓馬、上野 祐司:、服部 信孝.
心房細動合併脳梗塞/TIA 患者における NOAC 登場前後の発症前抗血栓薬の服用状況の推移、 [P-053] ポスター(日本語) 脳血管障害 抗凝固療法 2、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

108. 中村 亮太、中山 茶千子、本井 ゆみ子、服部 信孝.
ドパミントランスポーターシンチグラフィを用いた原発性進行性失語症の臨床解析、[P-153] ポスター(日本語)認知症 臨床 3 、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

109. 西岡 健弥、吉野 浩代、李 元哲、松島 隆史、舩山 学、服部 信孝.
The comprehensive study of genetics of Parkinson's disease、変性疾患、[O-13] 口演 神経遺伝学、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

110. 波田野 琢、鎌形 康司、奥住 文美、堀 正明、武田 篤、青木 茂樹、服部 信孝.
Hyposmia might be linked to inferior temporal thickness in Parkinson's disease、[O-43] 口演 Non-motor symptoms and biomarkers in patients with parkinsonism、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

111. 林田 有紗、中山 茶千子、高梨 雅史、本井 ゆみ子、服部 信孝.
アルツハイマー病理をもつ皮質基底核症候群と診断された 2 症例の脳血流分布と神経病理、[P-153] ポスター(日本語)認知症 臨床 3、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

112. 林田有紗、中山茶千子、高梨雅史、本井ゆみ子、服部信孝.
剖検によりアルツハイマー病理をもつ皮質基底核症候群と診断された 2 症例（ポスター）、
第 56 回日本神経病理学会、九州大学医学部百年講堂、2015 年 6 月 4 日、福岡市

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

113. 林 徹生、中山 茶千子、本井 ゆみ子、服部 信孝.
運動障害の目立たない Possible DLB のドパミントランスポーターシンチを用いた臨床解析、認知症 [P-010] ポスター(日本語)認知症診断 画像、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

114. 平澤 恵理:、寧 亮、古屋 徳彦、野中 里紗、服部 信孝.
Schwartz-Jampel 症候群の原因遺伝子, パールカンの筋オートファジーへの関与、[P-126] ポスター(日本語) 筋疾患 病態 2、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

115. 平 健一郎、上野 祐司、田中 亮太、黒木 卓馬、島田 佳明、山城 一雄、卜部 貴夫、服部 信孝.
The expression of axonal growth inhibitors in the peri-infarct area in rat brain、変性疾患 [Pe-017] ポスター(英語)神経遺伝学・再生・治療、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

116. 平野 一興、石川 景一、斉木 臣二、服部 信孝.
The autophagy-related chemical screening using a GFP-LC3 HeLa stable cell line、[Pe-060] ポスター(英語)パーキンソン病病態 その他 B、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

117. 深江 治郎、柳本 祥三郎、藤岡 伸助、波田野 琢、森 聡生、濃沼 崇博、福原 康介、服部 信孝、坪井 義夫.
多系統萎縮症の進行度と尿酸値の関連性の検討(続報) 、変性疾患 [P-018] ポスター(日本語) 多系統萎縮症 サロゲートマーカー、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

118. 福嶋 佳保里、荒野 拓、松本 弦、井下 強、吉田 繁、石濱 泰、貫名 信行、服部 信孝.
リン酸化 63K ポリユビキチン鎖は Parkin をミトコンドリアに局在化させる、[O-51] 口演 miscellanous 2、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

119. 藤巻 基紀、金井 数明、中里 朋子、横山 和正、服部 信孝.
多発性硬化症における神経伝導速度検査と軸索興奮特性検査による末梢神経病変の検討、自己免疫疾患 [P-075] ポスター(日本語)多発性硬化症 臨床、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

120. 舩山 学、服部 信孝.
Analysis of NDUFV2 on a mouse model for Parkinson's disease、[Pe-059] ポスター(英語)パーキンソン病病態 その他 A、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

121. 穂坂 有加、今居 譲、服部 信孝.
Circadian rhythm analysis in a Drosophila model of Parkinson's syndrome、[Pe-056] ポスター(英語) パーキンソン病病態 Parkin など、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

122. 星野 泰延、山城 一雄、田中 亮太、波田野 琢、西岡 健弥、服部 信孝.
Cerebral microbleeds in patients with Parkinson's disease、パーキンソン病 [O-33] 口演 Parkinsonism: pathophysiology、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

123. 本多 あん奴、石垣 泰則、森川 奈美、中島 明日香、王子 悠、黒木 卓馬、佐藤 栄人、狩野 允芳、服部 信孝.
在宅看取りをされた神経疾患患者の認知機能について、認知症 [P-100] ポスター(日本語)アルツハイマー病 治療 2、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

124. 松島 隆史、西岡 健弥、山城 一雄、李 元哲、島田 佳明、吉野 浩代、舩山 学、田中 亮太、

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

本井 ゆみ子、服部 信孝.
Cliniogenetic study of CADASIL pedigrees with notch3 mutation、 変性疾患 [Pe-018] ポスター(英語)神経遺伝学 臨床研究 B 白質脳症、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

125. 真鍋 彩、西岡 健弥、李 元哲、吉野 浩代、船山 学、松島 隆史、上野 真一、栗田 尚英、上野 祐司、本井 ゆみ子、服部 信孝.
The analyze of three pedigrees with MAPT N279K mutation accompanying DAT-scan、変性疾患 [AP-02] 2015 年ポスター部門トピックス 臨床部門、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

126. 三笠 道太、金井 数明:、李 元哲:、西岡 健弥、船山 学、富山 弘幸、服部 信孝.
家族性パーキンソン病における COQ2 変異解析、変性疾患 [P-019] ポスター(日本語)多系統萎縮症 パーキンソニズム、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

127. 宮元 伸和、眞木 崇州、早川 和秀、田中 亮太、服部信孝、ロー エング、荒井 健、卜部 貴夫.
Edaravone protects hypoperfused cerebral white matter through oligodendrogenesis、脳卒中 [Pe-020] ポスター(英語)脳血管障害病態 B、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

128. 三輪 英人、江口 博人、町田 裕、服部 信孝.
ドパミンアゴニスト離脱症候群（DAWS）の臨床的検討、[O-46] 口演パーキンソン病：臨床徴候、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

129. 本井 ゆみ子、エラヒ モンタシル、ハッサン ザフラル、松本 信英、服部 信孝.
Neuroinflammation Associated with the Regional Difference of Tau Phosphorylation、[Pe-028] ポスター(英語)認知症病態 FTLD-tau、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

130. 本井ゆみ子、エラヒ モンタシル、ハッサン ザフラル、松本英信、石黒幸一、服部信孝.
実験的糖尿病タウオパチーモデルにおける炎症性変化の脳部位別解析、
第 56 回日本神経病理学会、九州大学医学部百年講堂、2015 年 6 月 4 日、福岡市

131. 森 聡生、王子 悠、奥住 文美、波田野 琢、今居 譲、久保 紳一郎、服部 信孝.
Parkinson's disease-associated mutations of PLA2G6 alters the membrane dynamics、[Pe-057] ポスター(英語)パーキンソン病病態 トラフィッキング、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

132. 山城 一雄、田中 亮太、上野 祐司、卜部 貴夫、山城 雄一郎、野本 康二、高橋 琢也:、辻 浩和、朝原 崇、服部 信孝.
Gut microbiota in patients with ischemic stroke、[O-19] 口演 虚血性脳卒中の基礎と臨床、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

133. 山田 大介、斉木 臣二、古屋 徳彦、石川 景一、今道 洋子、神戸 大朋、藤村 務、上野 隆、小池 正人、服部 信孝.
The role of lysosomal Zinc transporter on Ethambutol-induced optic neuropathy、[Pe-075] ポスター(英語) 代謝性疾患 後天性、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

134. 吉野 浩代、西岡 健弥、大山 彦光、李 元哲、松島 隆史、竹内 千仙、望月 葉子、森 まどか、村田 美穂、山下 力、中村 憲道、小西 洋平、大井 和起、市川 桂二、寺田 達弘、小尾 智一、船山 学、斉木 臣二、服部 信孝.
Clinicogenetic study of beta-propeller protein-associated neurodegeneration、 変性疾患[O-13] 口演 神経遺伝学、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

135. 頼高 朝子、河尻 澄宏、安藤 真矢、中原 登志樹、山本 順寛、齋藤 由扶子、服部 信孝.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Randomized, controlled trial of reduced coenzyme Q10 for Parkinson's disease、[P-063] ポスター(日本語)パーキンソン病治療 イストラデフィリンなど、
第 56 回日本神経学会総会、朱鷺メッセ他、2015 年 5 月 20 日～23 日、新潟市

136. 佐藤栄人、服部信孝.
オートファジー欠損マウスにおける封入体形成機構の解明、ポスター、文科省科研費補助金「新学術領域研究」 脳内環境:恒常性維持機構とその破綻、
平成 27 年度夏のワークショップ、軽井沢プリンスホテルウエスト、2015 年 9 月 25 日、軽井沢

137. 代田 浩之, 横山 美帆, 島田 和典.
冠動脈疾患における心臓リハビリテーションの有用性.
日本医学会総会会誌 29 回学術講演要旨 Page92(2015.04)

138. Sai E, Shimada K, Yokoyama T, Hiki M, Miyazak T, Fujimoto S, Daida H.
Myocardial triglyceride content in patients with hypertensive heart disease and hypertrophic cardiomyopathy; assessed by 1H-Magnetic Resonance Spectroscopy.
79th Annual Meeting of JCS, Osaka, 2015.4.26.

139. Takahashi S, Miyazaki T, Shimada K, Yatsu S, Suda S, Shiozawa T, Hiki M, Matsumori R, Takasu H, Hiki M, Kasai T, Miyauchi K, Daida H.
The ratio of acylcarnitine to free carnitine correlates with acute decompensated heart failure in patients admitted to Coronary Care Unit.
79th Annual Meeting of JCS, Osaka, 2015.4.25.

140. Yatsu S, Miyazaki T, Kasai T, Suda S, Hiki M, Matsumori R, Takasu K, Hiki M, Takagi A, Shimada K, Miyauchi K, Daida H.
Low serum vitamin D levels correalte with acute decompensated heart failure in patients admitted to Coronary Care Unit.
79th Annual Meeting of JCS, Osaka, 2015.4.25.

141. Shimada K, Morinaga H, Kiyanagi T, Miyazaki T, Yokoyama M, Okai I, Tamura H, Konishi H, Kurata T, Miyauch K, Daida H.
Safety and efficacy of simultaneous pneumococcal and influenza vaccinations in patients with coronary artery disease: a randomized single-blind placebo-controlled study.
79th Annual Meeting of JCS, Osaka, 2015.4.25.

142. 島田和典, 塩澤知之, 門口智泰, Hamad Al Shahi, 宮崎哲朗, 代田浩之.
心血管疾患における慢性炎症とその制御—動脈硬化の発症や進展における免疫応答細胞サブセットの役割.
J-ISCP 2015. 2015.6.21. 京都

143. 高橋秀平, 宮﨑哲朗, 島田和典, 上野剛, 松森理枝, 葛西隆敏, 髙木篤俊, 宮内克己, 三井田孝, 代田浩之.
血中アシルカルニチン/遊離カルニチン比の急性非代償性心不全患者における臨床的有用性.
J-ISCP 2015. 2015.6.21. 京都

144. 吉原琢磨, 島田和典, 深尾宏祐, 蔡榮龍, 佐藤弥生, 松森理枝, 塩澤知之, Hamad Alshahi, 多田昇弘, 宮崎哲朗, 代田浩之.
オメガ 3 系多価不飽和脂肪酸はマクロファージに関連する炎症制御により大動脈瘤の発症を抑制する.
J-ISCP 2015. 2015.6.21. 京都

145. Shahi HA, Shimada K, Miyauchi K, Sai E, Yoshihara T, Shiozawa T, Sai E, Aikawa T, Ouchi S, Miyazaki T, Daida H.
Elevated circulating levels of inflammatory markers in patients with acute coronary syndrome.
The 47th Annual Scientiic Meeting of the Japan Atherosclerosis Society. Page89 (2015.07.09) Sendai Miyagi.

146. 本沢晶雄, 島田和典, 横山美帆, 松森理枝, 高橋秀平, 久米淳美, 正木克由規, 深尾宏祐, 塩

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

谷みき, 佐藤裕之, 代田浩之.
当院における外来心臓リハビリテ―ション継続因子の検討.
第 21 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会. 平成 27 年 7 月 19 日 福岡市 福岡.

147. 立石 智彦, 池田 浩, 福岡 重雄, 宮川 俊平, 森川 嗣夫, 島田 和典, 土肥 美智子, 加藤 晴康, 松本 秀男, 福林 徹, 公益財団法人日本サッカー協会医学委員会.
サッカー競技におけるスポーツ傷害 全国高等学校サッカー選手権大会でのメディカルチェック.
日本整形外科スポーツ医学会雑誌 (1340-8577)35 巻 4 号 Page365(2015.08)

148. 宮崎 哲朗, 高橋 秀平, 島田 和典, 上野 剛, 加藤 隆生, 須田 翔子, 比企 優, 松森 理枝, 葛西 隆敏, 高木 篤俊, 宮内 克己, 三井田 孝, 代田 浩之.
急性非代償性心不全患者における血中カルニチン濃度の臨床的意義.
日本心臓病学会学術集会抄録 63 回 Page617(2015.09).

149. 塩澤 知之, 島田 和典, 関田 学, 林 英守, 田淵 晴名, 小松 さやか, 宮内 克己, 設楽 準, 塩崎 正幸, 山上 伸一郎, 諏訪 哲, 藤原 康昌, 住吉 正孝, 中里 祐二, 代田 浩之.
ワールドカップサッカーのテレビ観戦と心室性不整脈との関連.
日本心臓病学会学術集会抄録 63 回 Page873(2015.09).

150. 島田 和典, 森永 弘章, 鬼柳 尚, 宮崎 哲朗, 横山 美帆, 岡井 巌, 田村 浩, 小西 博応, 蔵田 健, 宮内 克己, 代田 浩之.
冠動脈疾患患者における肺炎球菌ワクチンとインフルエンザワクチン同時接種の安全性と有用性.
日本心臓病学会学術集会抄録 63 回 Page1168(2015.09)

151. 駒野 悠太, 三浦 裕, 藤原 大介, 内藤 久士, 中潟 崇, 島田 和典, 代田 浩之.
ウイルス感染防御機能を制御するプラズマサイトイド樹状細胞に及ぼす運動の影響.
日本臨床スポーツ医学会誌 (1346-4159)23 巻 4 号 PageS167(2015.10)

152. 島田 和典, 塩澤 知之, 塩崎 正幸, 福島 理文, 深尾 宏祐, 代田 浩之.
サッカー・ワールドカップのテレビ観戦と心室性不整脈との関連.
日本臨床スポーツ医学会誌 (1346-4159)23 巻 4 号 PageS190(2015.10).

153. 深尾 宏祐, 島田 和典, 福島 理文, 塩澤 知之, 塩崎 正幸, 代田 浩之.
大学生アスリートにおける持久的運動と循環代謝マーカーの特徴.
日本臨床スポーツ医学会誌 (1346-4159)23 巻 4 号 PageS191(2015.10).

154. 立石 智彦, 池田 浩, 福岡 重雄, 宮川 俊平, 森川 嗣夫, 松本 秀男, 谷 諭, 島田 和典, 土肥 美智子, 加藤 晴康, 福林 徹, (公財)日本サッカー協会医学委員会.
全国高等学校サッカー選手権大会での外傷・障害調査報告.
日本臨床スポーツ医学会誌 (1346-4159)23 巻 4 号 PageS240(2015.10)

155. 中潟崇, 町田 修一, 濱田千江子, 石島旨章, 平澤恵理, 石橋雅義, 内藤久士.
日本人勤労者を対象としたロコモティブシンドロームの実態調査.
第 22 回日本健康体力栄養学会, 千葉, 2015 年 3 月 14, 15 日（優秀賞受賞）

156. 吉原利典, 柿木亮, 関根紀子, 都築孝允, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久士.
発育期の運動がラット骨格筋の HDAC 発現量に及ぼす影響.
第 22 回日本健康体力栄養学会, 千葉, 2015 年 3 月 14, 15 日（奨励賞受賞）

157. 尾崎隼朗, 亀岡舞, 町田修一, 内藤久士.
月経周期に伴う卵巣ホルモンの変動が筋厚および筋力に与える影響.
第 22 回日本健康体力栄養学会大会, 千葉, 2015 年 3 月 14, 15 日

158. 石原美彦, 内藤久士, 井口祐貴, 島嵜佑, 吉村雅文.
GPS を用いたサッカー教室中の身体活動量の測定に関する研究.
第 13 回日本発育発達学会大会, 東京, 2015 年 3 月 14, 15 日

159. 鄧鵬宇, 柳谷登志雄, 内藤久士.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

日本と中国の中規都市における児童の身体活動に関する研究.
第 13 回日本発育発達学会大会，東京, 2015 年 3 月 14, 15 日

160. 尾崎隼朗，棗寿喜，柿木亮，小林裕幸，町田修一，内藤久士.
サイクリング運動の強度の違いが細胞内シグナル伝達経路の活性化に及ぼす影響.
第 23 回日本運動生理学会大会，東京, 2015 年 7 月 25, 26 日

161. 柿木亮，吉原利典，尾崎隼朗，関根紀子，内藤久士.
筋収縮様式がヒト骨格筋のタンパク質合成関連シグナル伝達に及ぼす影響.
第 23 回日本運動生理学会大会，東京, 2015 年 7 月 25, 26 日

162. 張碩文，吉原利典，高嶺由梨，町田修一，内藤久士.
概日リズムによるラット骨格筋における細胞内シグナル伝達の変化.
第 23 回日本運動生理学会大会，東京, 2015 年 7 月 25, 26 日

163. 野﨑理沙，川西範明，吉原利典，内藤久士，町田修一.
繰り返し温熱負荷による骨格筋萎縮抑制効果には筋線維特異性が認められる.
第 23 回日本運動生理学会大会，東京, 2015 年 7 月 25, 26 日

164. 吉原利典，柿木亮，関根紀子，高嶺由梨，棗寿喜，張碩文，杉浦崇夫，町田修一，内藤久士.
若年期の運動経験はマウス腓腹筋におけるアセチル化ヒストン H3 発現を亢進させる.
第 23 回日本運動生理学会大会，東京, 2015 年 7 月 25, 26 日

165. 棗寿喜，尾崎隼朗，吉原利典，柿木亮，町田修一，内藤久士.
ヒト骨格筋に対する筋電気刺激が筋肥大に関わる細胞内シグナル伝達経路に及ぼす影響.
第 23 回日本運動生理学会大会，東京, 2015 年 7 月 25, 26 日

166. 亀岡舞，尾崎隼朗，　内藤久士，町田修一.
月経周期の違いがレジスタンス運動後のコルチゾール分泌応答に及ぼす影響.
第 23 回日本運動生理学会大会，東京, 2015 年 7 月 25, 26 日

167. 古市真也，北田友治，町田修一，内藤久士.
酸素摂取動態がスプリントエコノミーに及ぼす影響.
第 70 回日本体力医学会，和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

168. 野﨑理沙，高木香奈，内藤久士 ，町田修一.
生薬の黄耆が廃用性筋萎縮に及ぼす影響.
第 70 回日本体力医学会，和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

169. 川西範明，野﨑理沙，内藤久士 ，町田修一.
ギプス固定誘導性の筋萎縮における TLR4 の役割.
第 70 回日本体力医学会，和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

170. 中潟崇，町田修一，濱田千江子，石島旨章，平澤恵理，石橋雅義，内藤久士.
日本人勤労者のロコモ予備軍の実態調査 -新基準に基づいて.
第 70 回日本体力医学会，和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

171. 北田友治，町田修一，内藤久士.
筋線維組成が最大走運動中の筋酸素化に及ぼす影響.
第 70 回日本体力医学会，和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

172. トウホウウ，石原美彦，柳谷登志雄，内藤久士.
日本と中国の中規模都市における児童の身体活動実態に関する研究.
第 70 回日本体力医学会，和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

173. 石原美彦，トウホウウ，井口祐貴，島嵜佑，吉村雅文，内藤久士.
運動教室に参加する児童の身体活動量.
第 70 回日本体力医学会，和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

174. 坂本彰宏, 内藤久士.
ハイパーベンチレーションはレジスタンス運動の最大レップ数増加に有効.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

175. 石田真大, 内藤守, 内藤久士, 杉山康司.
アンチクッション付きポールがノルディックウォーキング時の運動強度に与える影響.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

176. 亀岡舞, 尾崎隼朗, 内藤久士, 町田修一.
月経周期および卵巣ホルモン濃度がレジスタンス運動後の骨格筋タンパク質分解に及ぼす影響.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

177. 尾崎隼朗, 棗喜寿, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久士.
サイクリング運動の強度の違いがレジスタンス運動後のシグナル伝達経路の活性化に及ぼす影響.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

178. 都築孝允, 吉原利典, 関根紀子, 柿木亮, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久士.
運動時の体温上昇の有無が 2 型糖尿病ラットの骨格筋における糖代謝シグナル伝達系に与える影響.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

179. 張碩文, 吉原利典, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久士.
筋萎縮からの回復期における運動実施のタイミングの違いが細胞内シグナル伝達に及ぼす影響.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

180. 大野佳南子, 尾崎隼朗, 亀岡舞, 今井由佳, 内藤久士, 町田修一.
月経周期の違いが膝伸展運動時の仕事量と筋持久力に及ぼす影響.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

181. 棗寿喜, 尾崎隼朗, 吉原利典, 柿木亮, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久士.
筋電気刺激がヒト骨格筋におけるオートファジーに及ぼす影響.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

182. 吉原利典, 柿木亮,都築孝允, 張碩文, 棗寿喜, 杉浦崇夫, 内藤久士.
若年期の運動習慣がラットヒラメ筋におけるヒストン修飾に及ぼす影響.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

183. 中村智洋, 柿木亮, 関根紀子, 小林裕幸, 佐久間和彦, 内藤久士.
男性短距離走者の骨格筋における ACTN3 タンパク質発現量.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

184. 高嶺由梨, 吉原利典, 都築孝允, 関根紀子, 内藤久士.
強制運動または高脂肪食摂取が成長期マウスの発育状態に及ぼす影響.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

185. 柿木亮, 吉原利典, 棗寿喜, 関根紀子, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久士.
タンパク質摂取がヒト骨格筋 mTOR シグナル伝達に及ぼす影響.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

186. 杉山康司, 白井友加里, 祝原豊, 朝倉徹, 富田寿人, 辻川比呂斗, 内藤久士.
スポーツ活動種目別にみた小、中学生の体力水準の現状と課題.
第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

187. 芝口翼, 杉浦崇夫, 吉原利典, 内藤久士, 後藤勝正, 大平充宣, 吉岡利忠.
筋損傷後の異なる温度刺激の組み合わせが再生過程における筋衛星細胞の動態に及ぼす影響.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 70 回日本体力医学会，和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

188. 杉浦崇夫，芝口翼，吉原利典，内藤久士，後藤勝正，吉岡利忠.
筋損傷後のアイシングと温熱刺激の組み合わせが回復過程におけるミオシン重鎖分子種に及ぼす影響.
第 70 回日本体力医学会，和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

189. 宇田宗弘，川崎広明，飯泉恭一，重永綾子，馬場猛，内藤久士，吉岡利忠，山倉文幸.
骨格筋で新たに見出された分子量の異なる α-アクチンの細胞内局在の検討.
第 70 回日本体力医学会，和歌山, 2015 年 9 月 18-20 日

190. 駒野悠太，三浦裕，藤原大介，内藤久士，中潟崇，島田和典，代田浩之.
ウイルス感染防御機能を制御するプラズマサイトイド樹状細胞に及ぼす運動の影響.
第 26 回日本臨床スポーツ医学会学術集会，神戸, 2015 年 11 月 7, 8 日

191. 膳法浩史，福典之，西田裕一郎，桧垣靖樹，内藤久士，原めぐみ，田中恵太郎.
ミトコンドリア由来ペプチド MOTS-cアミノ酸置換(K14Q)を生じさせる m.1382A>C 多型と 2 型糖尿病との関連.
第 15 回日本ミトコンドリア学会年会，福井, 2015 年 11 月 19,20 日

192. 尾崎隼朗，北田友治，棗寿喜，安部孝，内藤久士，形本靜夫.
サイクリング運動は加齢による筋サイズと最大酸素摂取量の低下を抑制する.
第 28 回日本トレーニング科学会大会，鹿児島, 2015 年 11 月 14, 15 日

193. 尾崎隼朗，亀岡舞，大野佳南子，今井由佳，町田修一，内藤久士.
若年女性におけるスクワットジャンプ中の動作スピード及びジャンプ高に月経周期のフェーズの違いが与える影響.
NSCA ジャパンカンファレンス 2015，東京, 2015 年 12 月 5, 6 日

194. 林徹生， 中山茶千子， 本井ゆみ子， 服部信孝
運動障害の目立たない Possible DLB のドパミントランスポーターシンチを用いた臨床解析
第 56 回日本神経学会学術大会 2015 年 5 月 20 日～23 日 新潟コンベンションセンター

195. 中村亮太， 中山茶千子， 本井ゆみ子， 服部信孝
ドパミントランスポーターシンチグラフィを用いた原発性進行性失語症の臨床解析
第 56 回日本神経学会学術大会 2015 年 5 月 20 日～23 日 新潟コンベンションセンター

196. 須田晃充， 中山茶千子， 佐々木芙悠子， 森聡生， 中島明日香， 田中亮太， 久保紳一郎，本井ゆみ子， 服部信孝
アルツハイマー病患者におけるガランタミンの効果と、有効症例の特徴の検討
第 56 回日本神経学会学術大会 2015 年 5 月 20 日～23 日 新潟コンベンションセンター

197. 林田有紗， 中山茶千子， 高梨雅史， 本井ゆみ子， 服部信孝
アルツハイマー病理をもつ皮質基底核症候群と診断された2症例の脳血流分布と神経病理
第 56 回日本神経学会学術大会 2015 年 5 月 20 日～23 日 新潟コンベンションセンター

198. 松島隆史， 西岡健弥， 山城一雄， 李元哲， 島田佳明， 吉野浩代， 舩山学， 田中亮太，本井ゆみ子， 服部信孝
Cliniogenetic study of CADASIL pedigrees with notch3 mutation
第 56 回日本神経学会学術大会 2015 年 5 月 20 日～23 日 新潟コンベンションセンター

199. 本井ゆみ子，エラヒモンタシル， ハッサンザフラル， 松本信英， 服部信孝
Neuroinflammation Associated with the Regional Difference of Tau Phosphorylation
第 56 回日本神経学会学術大会 2015 年 5 月 20 日～23 日 新潟コンベンションセンター

200. Aya Ikeda, Kenya Nishioka, Li Yuanzhe, Hiroyo Yoshino, Manabu Funayama, Shinichi Ueno, Naohide Kurita, Yuji Ueno, Yumiko Motoi, Nobutaka Hattori
The three pedigrees with MAPT N279K accompanying the analyze of DAT-scan
第 56 回日本神経学会学術大会 2015 年 5 月 20 日～23 日 新潟コンベンションセンター

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

201. 本井ゆみ子、Hassan Zafrul, Monastir Elahi, 松本信英, 石黒幸一, 服部信孝
実験的糖尿病タウオパチーモデルマウスにおける炎症性変化の脳部位別解析
第 56 回日本神経病理学会総会学術研究会 2015 年 6 月 3 日～5 日 九州大学医学部百年講堂

202. 林田有紗、中山茶千子、高梨雅史、本井ゆみ子、服部信孝
アルツハイマー病理をもつ皮質基底核症候群と診断された 2 症例の脳血流分布と神経病理
第 56 回日本神経病理学会総会学術研究会 2015 年 6 月 3 日～5 日 九州大学医学部百年講堂

203. 本井ゆみ子、須田晃充、林徹生、中山茶千子
アルツハイマー病におけるガランタミンの効果の解析
第 33 回 日本神経治療学会総会 名古屋国際会議場 2015 年 11 月 26 日～28 日

204. 谷もも、本井ゆみ子、服部信孝
長期療養型病院におけるメマンチン単独療法の使用状況の検討
第 34 回日本認知症学会 2015 年 10 月 2 日～4 日 リンクステーション青森

205. Montasir Elahi, Yumiko Motoi, Shin-Ei Matsumoto, Zafrul Hassan, Koichi Ishiguro, Nobutaka Hattori.
Short-term treadmill exercises increased tau insolubility in tauopathy model mice.
第 34 回日本認知症学会 2015 年 10 月 2 日～4 日 リンクステーション青森

206. Montasir Elahi, Yumiko Motoi, Shin-Ei Matsumoto, Zafrul Hassan, Koichi Ishiguro, Nobutaka Hattori.
Region-specific Vulnerability to Oxidative Stress, Neuroinflammation, and Tau hyperphosphorylation in experimental Diabetes Mellitis mice.
第 34 回日本認知症学会 2015 年 10 月 2 日～4 日 リンクステーション青森

207. 松本信英、本井ゆみ子、石黒幸一、田平武、亀谷冬樹、長谷川成人、服部信孝
タウオパチーモデルマウスの加齢に伴い増加する新規切断タウの伝播と機能解析
第 34 回日本認知症学会 2015 年 10 月 2 日～4 日 リンクステーション青森

208. 原 裕子、松本 信英、モンタシル・エラヒ、本井 ゆみ子、服部 信孝
タウ蛋白過剰がコリン作動性神経障害を引き起こす
第 34 回日本認知症学会 2015 年 10 月 2 日～4 日 リンクステーション青森

209. 林 徹生、本井 ゆみ子、松本信英、中村真一郎、服部信孝
アルツハイマー病と軽度認知機能障害患者における遂行機能と介護負担との関連について
第 34 回日本認知症学会 2015 年 10 月 2 日～4 日 リンクステーション青森

210. Koji Akita, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
The Role of Interleukin-1 Receptor Antagonist in the Suppresion of Aortic Inflammation and Aneurysm after Angiotensin II Infusion
The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 大阪, 24-26/4/2015

211. Hiroki Nishiyama, Katsumi Miyauchi, Yuji Nishizaki, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Hypertension and Elderis Associated with Cardiovascular and Bleeding Events in Patients Undergoing PCI with Oral Anticoagulation and Dual Antiplatelet Therapy
The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 大阪, 24-26/4/2015

212. Ryo Naito, Katsumi Miyauchi, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Temporal Trends in Long-term Clinical Outcomes following Percutaneous Coronary Intervention in Patients with Renal Insufficiency
The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 大阪, 24-26/4/2015

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

213. Ryo Naito, Katsumi Miyauchi, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Appropriate Value of Low-density Lipoprotein Cholesterol for Secondary Prevention of Coronary Artery Disease
The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 大阪, 24-26/4/2015

214. Hiroshi Tamura, Katsumi Miyauchi, Yuji Nishizaki, Hiroki Nishiyama, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Glycosylated Hemoglobin A1c was not Associated with Long-Term Clinical Outcomes of Diabetic Patients
The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 大阪, 24-26/4/2015

215. 秋田耕嗣、磯田菊生、代田浩之
インターロイキン 1 受容体アンタゴニストはアンジオテンシン II 投与によって誘導された動脈の炎症及び瘤形成を抑制する
第 47 回日本動脈硬化学会, 仙台, 9-10/7/2015

216. Taketo Sonoda, Katsumi Miyauchi, Yuji Nishizaki, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Etsuro Karoh, Hiroki Nishiyama, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Predicting Normal Coronary Arteries at Coronary Angiography in Patients Admitted in Diagnosis of Ischemic Heart Disease
CVIT 2015, 福岡, 30-31/7/2015

217. Shinichiro Doi, Katsumi Miyauchi, Hiroki Nishiyama, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Tomotaka Dohi, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Comparison of long-term outcomes between second-generation stents and first-generation stents in coronary long lesions.
CVIT 2015, 福岡, 30-31/7/2015

218. Shinichiro Doi, Katsumi Miyauchi, Hiroki Nishiyama, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Tomotaka Dohi, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Impact of a Burr Artery Diameter Ratio on Target Vessel Revascularization in Patients Performed Rotational Atherectomy.
CVIT 2015, 福岡, 30-31/7/2015

219. Hirokazu Konishi, Katsumi Miyauchi, Ryo Naitoh, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Lipoprotein(a) Predicts Cardiovascular Events in Diabetes Patients with Multi-vessel Disease after PCI
CVIT 2015, 福岡, 30-31/7/2015

220. Ryo Naitoh, Katsumi Miyauchi, Manabu Ogita, Shuta Tsuboi, Hirokazu Konishi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Glycosylated Hemoglobin A1c as a Predictor of Coronary Artery Disease
CVIT 2015, 福岡, 30-31/7/2015

221. 清水孝史、宮内克己、西崎祐史、園田健人、内藤亮、小西宏和、加藤悦郎、西山大樹、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之
女性の冠動脈疾患に対する危険因子としての高尿酸血症の重要性
第 63 回日本心臓病学会学術集会, 横浜, 18-20/9/2015

222. 内藤亮、宮内克己、設楽準、遠藤裕久、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、坪井秀太、荻田学、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、山本平、磯田菊生、天野篤、代田浩之
Comparison between CABG and PCI with Drug-eluting Stents in Mortality of Elderly with Diabetes and Multivessel Coronary Disease
第 63 回日本心臓病学会学術集会, 横浜, 18-20/9/2015

223. 遠藤裕久、坪井秀太、宮内克己、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、設楽準、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、内藤亮、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

The Association between high sensitive CRP and Coronary Artery Disease in non-Elderly Patients
第 63 回日本心臓病学会学術集会, 横浜, 18-20/9/2015

224. 土肥智貴、宮内克己、坪井秀太、荻田学、葛西隆敏、内藤亮、小西宏和、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之
Pre-procedural hs-CRP Predicts Long-term Outcomes in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention
第 63 回日本心臓病学会学術集会, 横浜, 18-20/9/2015

225. 設楽準、宮内克己、坪井秀太、荻田学、葛西隆敏、土肥智貴、内藤亮、小西宏和、土井信一郎、和田英樹、遠藤裕久、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之
待機的冠動脈造影時の患者背景、内服状況に関する検討:冠動脈疾患の有無による比較
第 63 回日本心臓病学会学術集会, 横浜, 18-20/9/2015

226. 土井信一郎、宮内克己、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、田村浩、磯田菊生、岡崎真也、代田浩之
糖尿病を有する第 2 世代薬剤溶出性ステント留置患者において慢性腎臓病は予後規定因子になり得るか
第 63 回日本心臓病学会学術集会, 横浜, 18-20/9/2015

227. 圓山雅己、加藤倫子、森本良子、宮崎彩記子、大門雅夫、大村寛敏、天野篤、代田浩之
大動脈弁狭窄症患者における弁置換・冠動脈バイパス術同時施行例における術後心房細動発症に関わる因子の検討
第 26 回日本心エコー図学会 北九州 2015 年 3 月 28 日

228. 須田翔子、葛西隆敏、小松さやか、田淵春名、林英盛、関田学、中里祐二、代田浩之
ApneaScan アルゴリズムによる睡眠呼吸障害の重症度と簡易睡眠検査および睡眠ポリグラフ検査による重症度と比較しえた一例
日本不整脈学会 第 7 回植え込みデバイス関連冬季大会,東京,2015/2/19-21

229. Sharma Kattel, Takatoshi Kasai, Shoichiro Yatsu, Azusa Murata, Takao Kato, Shoko Suda, Masaru Hiki, Kiyoshi Takasu, Tetsuro Miyazaki, Atsutoshi Takagi, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida
Relationship between long-term mortality and elevated blood glucose level on admission in patients with acute decompensated heart failure
第 79 回日本循環器学会学術集会,大阪,2015-4-24-26

230. Shoko Suda, Takatoshi Kasai, Shoichiro Yatsu, Azusa Murata, Takao Kato, Masaru Hiki, Tetsuro Miyazaki, Atsutoshi Takagi, Hiroyuki Daida
Relationship between overnight rostral fluid shift and severity of sleep disordered breathing.
第 79 回日本循環器学会学術集会,大阪,2015-4-24-26

231. Shoko Suda, Takatoshi Kasai, Azusa Murata, Shoichiro Yatsu, Takao Kato, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida
Relationship between sleep-disordered breathing and clinical outcomes in hospitalized patients with left ventricular systolic dysfunction following acute decompensated heart failure
第 79 回日本循環器学会学術集会,大阪,2015-4-24-26

232. 加藤隆生、葛西隆敏、谷津翔一朗、村田梓、須田翔子、比企優、宮崎哲朗、高木篤俊、代田浩之
夜間の下肢からの体液移動と睡眠呼吸障害の重症度の関係性
第 63 回日本心臓病学会学術集会,横浜,2015-9-17-19

233. 谷津翔一朗、葛西隆敏、内藤亮、須田翔子、村田梓、加藤隆生、比企優、小西博応、代田浩之
日本人の冠動脈疾患患者における レストレスレッグス症候群の臨床的意義
第 63 回日本心臓病学会学術集会,横浜,2015-9-17-19

234. 加藤隆生、葛西隆敏、村田梓、谷津翔一朗、須田翔子、比企優、宮崎哲朗、代田浩之
急性心不全で入院中の左室収縮機能不全患者における睡眠呼吸障害の合併と死亡・再入院との関係

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 63 回日本心臓病学会学術集会,横浜,2015-9-17-19

235. Shoichiro Yatsu, Takatoshi Kasai, Shoko Suda, Hiroki Matsumoto, Azusa Murata, Takao Kato, Masaru Hiki, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida
Impact of periodic leg movements during sleep on prognosis in hospitalized patients following acute decompensated heart failure
第 19 回日本心不全学会学術集会,大阪,2015-10/22-24

236. Hiroki Matsumoto, Takatoshi Kasai, Sharma Kattel, Shoichiro Yatsu, Azusa Murata, Takao Kato, Shoko Suda, Masaru Hiki, Kiyoshi Takasu, Tetsuro Miyazaki, Atsutoshi Takagi, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida
Long-term outcome of patients with acute decompensated heart failure and elevated blood glucose level on admission
第 19 回日本心不全学会学術集会,大阪,2015-10/22-24

237. 松森理枝、藤本進一郎、Rani Bhivasankar 、Kanako K.Kumamaru 、高村和久、比企誠、松永江律子、宮内克己、Frank J Rybicki 、Dimitrios Mitsouras 、代田浩之
冠血流予備量比 (Fractional flow reserve:FFR) で検出された冠動脈有意狭窄病変に対する 64 列冠動脈 CT を用いた Transluminal attenuation gradient (TAG)の有用性
第 25 回日本心血管画像動態学会，東京 2015.1

238. Takamura K, Fujimoto S, Kondo T, Hiki M, Matsumori R, Kawaguchi Y, Suda S, Sai E, Yoshihara T, Aikawa T, Yamagami S, Takase S, Daida H
Prognostic value of CCTA- verified high risk plaque in asymptomatic patients.
The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Osaka 2015.4

239. Sai E, Shimada K, Yokoyama T, Hiki M, Miyazaki T, Fujimoto S, Daida H
Myocardial Triglyceride Content in Patients with Hypertensive Heart Disease and Hypertrophic Cardiomyopathy; Assessed by 1H-Magnetic Resonance Spectroscopy.
The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Osaka 2015.4

240. Fujimoto S, Matsumori R, Takamura K, Hiki M, Matsunaga E, Miyauchi K, Daida H
Significance of Coronary CT Angiography for Strategies to Prevent Atherosclerosis
The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Osaka 2015.4

241. 加藤悦郎、藤本進一郎、松森理枝、Rani Bhivasankar 、Kanako K.Kumamaru 、川口裕子、高村和久、Frank J Rybicki 、Dimitrios Mitsouras 、宮内克己、代田浩之
Evaluation of 64-Multidetector Row CT Angiography Transluminal Attenuation Gradient for the Detection of Significant Coronary Artery Disease Determined by Fractional Flow Reserve
第 24 回日本心血管インターベンション学会，福岡 2015.7

242. 高村和久、藤本進一郎、比企 誠、松森 理枝、川口 裕子、須田 翔子、加藤 悦郎、代田 浩之
高度石灰化、冠動脈ステント留置症例における、低電圧 Subtraction Coronary CTA の初期検討
第 63 回日本心臓病学会，横浜 2015.9

243. 藤本進一郎、川口裕子、松森理枝、高村和久、比企誠、宮内克己、隈丸加奈子、近藤武、代田浩之
安定狭心症診断戦略における冠動脈 CT の新しい位置づけ
第 63 回日本心臓病学会，横浜 2015.9

244. Hirokazu Konishi, Katsumi Miyauchi, Ryo Naito, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Hiroyuki Daida
Impact of Lipoprotein (a) as Residual Risk on Long-term Outcomes in Patients with Diabetes after Percutaneous Coronary Intervention
第 79 回日本循環器学会学術集会 大阪,2015/4/24-26

245. Hirokazu Konishi, Katsumi Miyauchi, Ryo Naito, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Hiroyuki Daida

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Plasma Lipoprotein (a) Predicts Future Major Cardiovascular Events in Patients with Chronic Kidney Disease after Percutaneous Coronary Intervention
第 79 回日本循環器学会学術集会　大阪,2015/4/24-26

246. Hiroshi Tamura, Katsumi Miyauchi, Yuji Nishizaki, Hiroki Nishiyama, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Glycosylated Hemoglobin A1c was not associated with Long-Term Clinical Outcomes of Diabetic Patients
第 79 回日本循環器学会学術集会　大阪,2015/4/24-26

247. Hiroki Nishiyama, Katsumi Miyauchi, Yuji Nishizaki, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Hypertension and Elderis Associated with Cardiovascular and Bleeding Events in Patients Undergoing PCI with Oral Anticoagulation and Dual Antiplatelet Therapy
第 79 回日本循環器学会学術集会　大阪,2015/4/24-26

248. Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida
Morphologic Findings of Coronary Atherosclerotic Plaques in Diabetic Patients
第 79 回日本循環器学会学術集会　大阪,2015/4/24-26

249. Hideki Wada, Katsumi Miyauchi, Shuta Tsuboi, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Yoshiteru Katoh, Manabu Ogita, Iwao Okai, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Satoru Suwa1, Hiroyuki Daida
First Medical Contact Time and Mortality among Patients with ST Elevation Acute Myocardial Infarction Having Primary Percutaneous Coronary Intervention
第 79 回日本循環器学会学術集会　大阪,2015/4/24-26

250. Shoichiro Yatsu, Tetsuro Miyazaki, Takatoshi Kasai, Shoko Suda, Masaru Hiki, Rie Matsumori, Kiyoshi Takasu, Makoto Hiki, Atsutoshi Takagi, Kazunori Shimada, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida
Low Serum Vitamin D Levels Correalte with Acute Decompensated Heart Failure in Patients Admitted to Coronary Care Unit
第 79 回日本循環器学会学術集会　大阪,2015/4/24-26

251. Hirohisa Endo, Katsumi Miyauchi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Satoru Suwa, Hiroyuki Daida
Impact of Baseline Blood Pressure on Stroke after Percutaneous Coronary Intervention
第 79 回日本循環器学会学術集会　大阪,2015/4/24-26

252. Taketo Sonoda, Katsumi Miyauchi, Yuji Nishizaki, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Etsuro Katoh, Hiroki Nishiyama, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Predicting Normal Coronary Arteries at Coronary Angiography in Patients Admitted in Diagnosis of Ischemic Heart Disease
第 24 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会　福岡, 2015/7/31-8/1

253. Shinichiro Doi, Katsumi Miyauchi, Hiroki Nishiyama, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Tomotaka Dohi, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Comparison of long-term outcomes between second-generation stents and first-generation stents in Coronary Long lesions.
第 24 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会　福岡, 2015/7/31-8/1

254. Shinichiro Doi, Katsumi Miyauchi, Hiroki Nishiyama, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Tomotaka Dohi, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida"
Impact of a Burr Artery Diameter Ratio on Target Vessel Revascularization in Patients Performed Rotational Atherectomy.
第 24 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会　福岡, 2015/7/31-8/1

255. Etsuro Kato, Shinichiro Fujimoto, Rie Matsumori, Yuko Kawaguchi, Kazuhisa Takamura,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida, Bhivasankar Rani, Kanako Kumamaru, Rvibicki Frank J,Mitsouras Dimitrios
Evaluation of 64-Multidetector Row CTA Transluminal Attenuation Gradient for the Detection of CAD Determined by FFR
第 24 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会　福岡, 2015/7/31-8/1

256. Hirokazu Konishi, Katsumi Miyauchi, Ryo Naito, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Lipoprotein(a) Predicts Cardiovascular Events in Diabetes Patients With Multi-vessel Disease After PCI
第 24 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会　福岡, 2015/7/31-8/1

257. Hideki Wada, Shuta Tsuboi, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Yoshiteru Kato, Hirokazu Konishi, Ryo Naito,Hiroshi Tamura,Takatoshi Kasai,Satoru Suwa, Katsumi Miyauchi,Hiroyuki Daida
HbA1c levels and clinical outcomes in patients with ST elevation myocardial infarction undergoing primary PCI
第 24 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会　福岡, 2015/7/31-8/1

258. 遠藤裕久,宮内克己,田村浩,土肥智貴,内藤亮,小西宏和,岡崎真也,磯田菊生,代田浩之
ロタブレータ後のイベントは第 2 世代薬剤溶出ステントは第 1 世代と比較して低下しない
日本冠疾患学会　札幌, 2015/11/20-21

259. 谷津翔一朗,宮内克己,園田健人,西崎祐史,内藤亮,小西　宏和,田村浩,岡崎真也,礒田菊生,代田浩之
虚血性心疾患疑いで入院した患者における冠動脈造影上の有意狭窄病変の予測因子は何か
日本冠疾患学会　札幌, 2015/11/20-21

260. 岩田洋,内藤亮,宮内克己,代田浩之
冠動脈疾患における動脈硬化リスクコントロールと予後 −冠動脈治療は時代とともにどう変化したか−
日本冠疾患学会　札幌, 2015/11/20-21

261. Le Jiang; Hakuoh Konishi; Hiroyuki Daida
LR11 Gene Deficiency Prevents Hypoxia-induced Pulmonary Arterial Hypertension
第 79 回日本循環器学会　2015 年4月 4 日ー26 日　大阪

262. 二見一平, 石島旨章, 金子晴香, 眞鍋亘, 加藤塁, 雅楽十一
一般病院受診者における橈骨、腰椎、大腿骨の骨密度の検討
第 33 回日本骨代謝学会, 2015 年 7 月 23 日ー25 日, 東京

263. 田蒔基行, 藤谷与士夫, 原朱美, 福中彩子, 荻原健, 宮塚健,黒田暁生, 松本俊夫, 河盛隆造, 松久宗英, 綿田裕孝
糖尿病発症・進展にかかわる新規メカニズムの解明
第 88 回日本内分泌学会学術集会, 東京都, 2015.4.23-25, 2015.4.24, シンポジウム

264. 福中彩子, 藤谷与士夫, 深田俊幸, 梶村真吾, 綿田裕孝
エーラス・ダンロス症候群原因遺伝子 Zip13 による脂肪細胞褐色化制御機構の解明
第 16 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 千葉県, 2015.09.25-26, 2015.9.26, インストラクションコース

265. Fukunaka, Y. Fujitani, T. Fukada, S. Kajimura, H. Watada.
Zinc transporter ZIP13 regulates the adipocyte browning.
BMB2015（第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会　合同大会）, 兵庫県, 2015.12.1-4, 2015.12.1, ワークショップ

266. 森理枝、藤本進一郎、Rani Bhivasankar 、Kanako K.Kumamaru 、高村和久、比企誠、松永江律子、宮内克己、Frank J Rybicki 、Dimitrios Mitsouras 、代田浩之
冠血流予備量比 (Fractional flow reserve:FFR) で検出された冠動脈有意狭窄病変に対する 64 列冠動脈 CT を用いた Transluminal attenuation gradient (TAG)の有用性

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 25 回日本心血管画像動態学会 東京 2015.1.23－24

267. Takamura K, Fujimoto S, Kondo T, Hiki M, Matsumori R, Kawaguchi Y, Suda S, Sai E, Yoshihara T, Aikawa T, Yamagami S, Takase S, Daida H
Prognostic value of CCTA- verified high risk plaque in asymptomatic patients.
The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society osaka 2015.424－26

268. Fujimoto S, Matsumori R, Takamura K, Hiki M, Matsunaga E, Miyauchi K, Daida H
Significance of Coronary CT Angiography for Strategies to Prevent Atherosclerosis
The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society osaka 2015.424－26

269. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Temporal trends in Long-term Clinical Outcomes following Percutaneous Coronary Intervention in Patients with Renal Insufficiency
第 79 回日本循環器学会学術集会 大阪, 2015.04.24-26

270. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Appropriate value of LDL-C for secondary prevention of Coronary Artery Disease
第 79 回日本循環器学会学術集会 大阪, 2015.04.24-26

271. Naito R, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H
Glycated hemoglobin A1c as a Predictor of Coronary Artery Disease
第 24 回日本心血管インターベンション治療学会 学術集会, 福岡, 2015.7.31-.8.01

272. 内藤亮、土肥智貴、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、宮内克己、代田浩之
経皮的冠動脈形成術後患者の臨床成績の時代的変遷
六甲カルディアックセミナー 神戸, 2015.08.08

273. Naito R, Miyauchi K, Sonoda T, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H
Comparison of prognosis between PCI and CABG in Elderly patients with diabetes and multivessel coronary disease
日本心臓病学会総会 横浜, 2015.09.18-20

274. Yamanaka T, Tosaka A, Miyazaki H, Kurosawa M, Koike M, Uchiyama Y, Sankar MN, Misawa H, Hattori N, Nukina N.
Cell type-specific neuropathologies in NF-Y mutant mice, Oral Session,
第 38 回日本神経科学大会、神戸コンベンションセンター、2015 年 7 月 28 日～31 日、神戸

275. Inoshita T, Hosaka Y, Imai Y, Hattori N.
Parkinson's disease-associated proteins Vps35 and LRRK2 regulate synaptic vesicle dynamics, Oral Session,
第 38 回日本神経科学大会、神戸コンベンションセンター、2015 年 7 月 28 日～31 日、神戸

276. Miyazaki H, Oyama F, Inoue R, Kiyonari H, Kino Y, Kurosawa M, Ogiwara I, Yamakawa K, Shimogori T, Hattori N, Miura M, Nukina N.
Singlar localization of sodium channel β4 subunit in unmyelinated fibres in the striatum, Poster,
第 38 回日本神経科学大会、神戸コンベンションセンター、2015 年 7 月 28 日～31 日、神戸

277. Suda Y, Kuzumaki N, Iwasawa C, Narita M, Ikegami D, Suematsu M, Hattori N, Okano H, Narita M.
Analysis of cell vulnerability associated with changes of metabolites in neurons derived from Parkinson's disease specific-iPS cells,
第 38 回日本神経科学大会、神戸コンベンションセンター、2015 年 7 月 28 日～31 日、神戸

278. 木下 真由子, 石島 旨章, 坂本 優子, 山中 誠, 野尻 英俊, 金子 晴香, 定月 亮, 羽田 晋

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

之介, 金子 和夫
ビスフォスフォネートと活性型ビタミン D 製剤併用による効果不良因子
第 88 回日整会 神戸 2015･5･21

279. 羽田 晋之介, 高澤 祐治, 定月 亮, 小林 洋平, 金子 晴香, 斎田 良知, 久保田 光昭, 石島 旨章, 池田 浩, 金子 和夫
Opening wedge 高位脛骨骨切り術後における強度の高いスポーツ活動への復帰
第 7 回 JOSKAS 札幌 2015/6/18

280. 高澤 祐治, 池田 浩, 齋田 良知, 石島 旨章, 永山 正隆, 金子 晴香, 小林 洋平, 羽田 晋之介, 定月 亮, 金子 和夫
膝蓋腱を用いた膝前十字靱帯再再建術の検討
第 7 回 JOSKAS 札幌 2015/6/18

281. 羽田 晋之介, 石島 旨章, 金子 晴香, 劉 立足, 定月 亮, アニュワルジャン･ユスプ, 木下 真由子, 斎田 良知, 高澤 祐治, 池田 浩, 金子 和夫
初期変形性膝関節症の半月板逸脱と軟骨摩耗および骨棘形成の関連
第 7 回 JOSKAS 札幌 2015/6/19

282. 金子 晴香, 石島 旨章, 定月 亮, 劉 立足, 羽田 晋之介, 木下 真由子, 小林 洋平, 齋田 良知, 高澤 祐治, 池田 浩, 金子 和夫
末期変形性膝関節症の内側近位脛骨角とビタミン D 充足状態との関連
第 7 回 JOSKAS 札幌 2015/6/19

283. 金子 晴香, 石島 旨章, 石橋 雅義, 定月 亮, 羽田 晋之介, 劉 立足, 木下 真由子, Anwarjan Yusup, 高澤 祐治, 池田 浩, 金子 和夫
変形性膝関節症術前後の歩行解析を可能とした新規小型歩行解析装置の開発
第 88 回日整会 神戸 2015･5･24

284. 羽田 晋之介, 石島 旨章, 金子 晴香, 劉 立足, 定月 亮, 木下 真由子, Anwarjan Yusup, 高澤 祐治, 池田 浩, 金子 和夫
初期変形性膝関節症の内側半月板病変と骨棘形成は関連し病変により関連部位が異なる
第 88 回日整会 神戸 2015･5･21

285. 定月 亮, 石島 旨章, 金子 晴香, 劉 立足, 羽田 晋之介, 木下 真由子, Anwarjan Yusup, 齋田 良知, 高澤 祐治, 池田 浩, 金子 和夫
MRI による軟骨病変は初期膝 OA の進行関連因子である
第 88 回日整会 神戸 2015･5･24

286. 羽田 晋之介, 石島 旨章, 金子 晴香, 劉 立足, 定月 亮, 木下 真由子, Yusup Anwarjan, 高澤 祐治, 池田 浩, 金子 和夫
初期内側型変形性膝関節症の半月板逸脱と骨棘形成との関連
第 30 回日整会基礎 2015･10･22 富山

287. 木下 真由子, 石島 旨章, 金子 晴香, 劉 立足, 定月 亮, 羽田 晋之介, Yusup Anwarjan, 高澤 祐治, 池田 浩, 田村 好史, 綿田 裕孝, 河盛 隆三, 金子 和夫
壮年期の初期変形性膝関節症性変化と軟骨代謝状態の関連
第 30 回日整会基礎 2015･10･22 富山

288. 木下真由子, 石島旨章, 金子晴香, 劉立足, 定月亮, 羽田晋之介, アニワル･ユスプ, 山中誠, 坂本優子, 野尻英俊, 金子和夫
ビスフォスフォネートと活性型ビタミン D 製剤併用による効果不良因子
第 33 回日本骨代謝学会、東京、2015 年 7 月 23 日

289. 木下真由子, 石島旨章, 金子晴香, 劉立足, 定月亮, 羽田晋之介, アニワル･ユスプ, 山中誠, 坂本優子, 野尻英俊, 金子和夫
症例報告:大腿骨非定型骨折と顎骨壊死の双方を発症した骨粗鬆症の 1 例
第 17 回日本骨粗鬆症学会, 2015 年 9 月 17～19 日, 広島

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

290. 木下真由子, 石島旨章, 金子晴香, 劉立足, 定月亮, 羽田晋之介, アニワル・ユスプ, 山中誠, 坂本優子, 野尻英俊, 金子和夫
ビスフォスフォネートと活性型ビタミン D 製剤併用療法の骨密度上昇関連因子としての血清カルシウム値
第 17 回日本骨粗鬆症学会, 2015 年 9 月 17～19 日, 広島

291. 定月 亮, 石島 旨章, 金子 晴香, 羽田 晋之介, 木下 真由子, 金子 和夫, 平澤 恵理
パールカンは SOX9 遺伝子発現制御を介して滑膜間葉系細胞の軟骨分化誘導を制御する
第 47 回日本結合組織学会学術大会 2015 5/16 東京

292. 本間康弘、馬場智規、越智宏徳、松本幹生、小林英生、湯浅崇仁、金子和夫"
Direct Anterior Approach による Dual Mobility Cup を使用した THA の短期成績
第 45 回人工関節学会、福岡、2015 年 2 月 27 日

293. 本間康弘, Laura Coquelin, Angelique Lebouvier, Julie Leotot, 金子和夫, Philippe Hernigou, Helene Rouard, Nathalie Chevallier
培養骨髄細胞への新鮮濃縮骨髄液添加の影響
第 14 回再生医療学会、横浜、2015 年 3 月 19 日～21 日

294. 本間康弘、馬場智規、越智宏徳、松本幹生、小林英生、湯浅崇仁、金子和夫
Direct Anterior Approach による Dual Mobility Cup を使用した THA の短期成績
第 88 回日本整形外科学会、神戸、2015 年 5 月 21 日～24 日

295. 本間康弘、渡泰士、馬場智規、越智宏徳、松本幹生、小林英生、湯浅崇仁、金子和夫
土砂災害は高い致死率・重症胸部骨盤外傷を呈し、事前避難が極めて重要である:離島での大規模土砂災害の外傷患者分析より
第 88 回日本整形外科学会、神戸、2015 年 5 月 21 日～24 日

296. 本間康弘、馬場智規、越智宏徳、松本幹生、小林英生、湯浅崇仁、金子和夫"
The beginner of the anterior approach in total hip arthroplasty should pay attention to the shape of tip of greater trochanter.
第 88 回日本整形外科学会、神戸、2015 年 5 月 21 日～24 日

297. 本間康弘、馬場智規、越智宏徳、松本幹生、小林英生、湯浅崇仁、金子和夫
Direct Anterior Approach による Dual Mobility Cup を使用した THA の短期成績
第 42 回日本股関節学会、大阪、2015 年 10 月 30 日～31 日

298. 馬場 智規, 一青 勝雄, 越智 宏徳, 本間 康弘, 松本 幹生, 小林 英生, 湯浅 崇仁, 金子和夫
急速破壊型股関節症に対する人工股関節全置換術の臨床成績 KT plate と uncemented cup の比較
第 45 回日本人工関節学会(福岡) 2 月 27 日

299. 馬場 智規, 本間 康弘, 百村 励, 松本 幹生, 小林 英生, 二村 謙太郎, 神田 章男, 諸橋達, 最上 敦彦, 金子 和夫
大腿骨ステム周囲骨折に対して治療戦略に有用なインプラントデザインに注目した新分類
第 88 回日本整形外科学会、神戸、2015 年 5 月 21 日～24 日

300. 馬場智規、越智宏徳、本間康弘、松本幹生、金子和夫
大腿骨ステム周囲骨折の治療戦略に有用なインプラントデザインに注目した新分類－Vancouver 分類との比較－
第 41 回日本骨折治療学会(奈良) 6月26日～27日

301. 馬場智規 越智宏徳 尾﨑友 本間康弘 松本幹生 小林英生 有冨健太郎 湯浅崇仁 金子和夫
大腿骨ステム周囲骨折に対する condylar locking plate を反転させて使用した内固定は有効か？
第 42 回日本股関節学会、大阪、2015 年 10 月 30 日～31 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

302. 馬場智規　本間康弘　越智宏徳　尾﨑友　松本幹生　小林英生　金子和夫
前方アプローチによる人工股関節全置換術のピットホール
第 21 回日本最小侵襲整形外科学会(東京)11 月 13 日～14 日

303. 赤池慶祐, 末原義之, 向井原健太, 石井翠, 高阪真路, 峯木礼子, 藤村努, 數野彩子, 金子和夫, Marc Ladanyi, 齋藤剛
胞巣型横紋筋肉腫における PAX3-FOXO1 融合遺伝子発現のプロテオーム解析
第 88 回日本整形外科学会学術総会,神戸, 2015 年 5 月 21 日

304. 赤池慶祐, 末原義之, 戸島郁子, 岡本明美, 金子和夫, 髙木辰哉
当院におけるがん骨転移看護レベルの調査
第 48 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 香川, 2015 年 7 月 9 日

305. 赤池慶祐, 末原義之, 向井原健太, 石井翠, 高阪真路, 髙木辰哉, 金子和夫, Marc Ladanyi, 齋藤剛
PAX3-FOXO1 融合遺伝子が横紋筋肉腫に及ぼす影響とプロテオミクス解析
第 48 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 香川, 2015 年 7 月 9 日

306. 赤池慶祐, 末原義之, 石井翠, 栗崎-荒川愛子, 窪田大介, 大久保武人, 金子和夫, 八尾隆史, 齋藤剛
Gastrointestinal stromal tumor における KCTD12 発現調節機構の解明と KIT との相互作用に基づいた機能解析
第 74 回日本癌学会学術総会, 名古屋, 2015 年 10 月 8 日

307. 赤池慶祐, 末原義之, 石井翠, 向井原健太, 高橋路子, 三谷恵子, 髙木辰哉, 金子和夫, 八尾隆史, 齋藤剛
Gastrointestinal stromal tumor におけるテロメア異常
第 30 回日本整形外科学会基礎学術集会, 富山, 2015 年 10 月 22 日

308. 赤池慶祐, 末原義之, 石井翠, 向井原健太, 栗崎-荒川愛子, 窪田大介, 大久保武人, 三富博之, 高橋路子, 髙木辰, 金子和夫, 八尾隆史, 齋藤剛
Gastrointestinal stromal tumor における KCTD12 発現調節機構の解明
第 30 回日本整形外科学会基礎学術集会, 富山, 2015 年 10 月 22 日

309. 赤池慶祐, 末原義之, 石井翠, 高橋路子, 三谷恵子, 大久保武人, 髙木辰哉, 金子和夫, 八尾隆史, 齋藤剛
Gastrointestinal stromal tumor における Telomerase 活性の臨床病理学的検討
第 104 回日本病理学会総会, 名古屋, 2015 年 4 月 30 日

310. 杉山陽一、内藤聖人、木下真由子、有冨健太郎、金子和夫.
橈骨遠位端骨折術後に尺骨頭掌側脱臼を生じた 1 例.
第 16 回順天堂大学整形外科手肘外科研究会　東京　7 月 11 日　2015.

311. 杉山陽一、内藤聖人、有冨健太郎、木下真由子、金子和夫.
橈骨遠位端骨折に合併した豆状骨亜脱臼.
第 17 回順天堂大学整形外科手肘外科研究会　東京　11 月 28 日　2015.

312. 杉山陽一、木下真由子、内藤聖人、有冨健太郎、金子和夫.
小児橈骨遠位部骨折変形治癒後の治療.
第 52 回東京手・肘の外科研究会　東京　11 月 17 日　2015.

313. 杉山陽一、内藤聖人、有冨健太郎、金子和夫、大林　治.
橈骨遠位端骨折に対する手術治療の工夫–関節内掌側転位骨片の整復操作.
第 58 回日本手外科学会　東京　4 月 16 日～17 日　2015.

314. 内藤聖人、宮本英明、金子和夫、Liverneaux P.
腕神経叢損傷における手術用ロボットシステムを用いた神経移行術の経験.
第 26 回日本末梢神経学会　松本　9 月 18 日～19 日　2015.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

315. 内藤聖人、杉山陽一、小畑宏介、井下田有芳、最上敦彦、大林　治、金子和夫.
橈骨遠位端骨折に合併する尺骨遠位端骨折の治療経験：内固定の適応に対する考察.
第 41 回日本骨折治療学会(奈良)　6月26日～27日

316. 内藤聖人、杉山陽一、小畑宏介、有冨健太郎、井下田有芳、大林　治、金子和夫.
健常遠位橈尺関節における前腕回内位での尺骨頭背側偏位の評価.
第 88 回日本整形外科学術総会，神戸，2015 年 5 月 21-24 日

317. 井下田有芳、内藤聖人、金子和夫、梶原　一.
中手骨頚部・骨幹部骨折に対する治療成績と問題点.
第 58 回日本手外科学会　東京　4 月 16 日～17日　2015.

318. 有冨健太郎、岩瀬嘉志、内藤聖人、楠瀬浩一、金子和夫.
若年者における肘部管症候群の治療成績.
第 58 回日本手外科学会　東京　4 月 16 日～17日　2015.

319. 有冨健太郎、内藤聖人、岩瀬嘉志、富田善雅、楠瀬浩一、金子和夫.
狭窄性腱鞘炎治療中に生じた化膿性腱鞘炎−2 例報告.
第 29 回東日本手外科研究会　仙台　3 月 7 日　2015.

320. 小林洋平　齋田良知　長尾雅史　池田 浩　金子和夫
マウス膝蓋腱損傷モデルにおける多血小板血漿(Platelet-rich plasma ; PRP)による組織修復促進効果の検討
第 88 回日本整形外科学術総会，神戸，2015 年 5 月 21-24 日

321. 小林洋平　齋田良知　中島啓樹　長尾雅史　小林慶司　池田 浩　金子和夫
なでしこリーグ女子サッカー選手における 5 年間の外傷・障害発生状況調査
第 7 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会，札幌，2015 年 6 月 18-20 日

322. 小林洋平　齋田良知　長尾雅史　池田浩　金子和夫
多血小板血漿（Platelet-rich plasma：PRP）中の白血球濃度および分画の違いが成長因子濃度に及ぼす影響の検討
第 41 回日本整形外科スポーツ医学会学術集会，京都，2015 年 9 月 11-12 日

323. 小林洋平　齋田良知　長尾雅史　池田浩　金子和夫
多血小板血漿（Platelet-rich plasma：PRP）中の白血球濃度および分画の違いが成長因子濃度に及ぼす影響の検討
第 30 回日本整形外科学会基礎学術集会，富山，2015 年 10 月 22-23 日

324. 小林洋平　齋田良知　中島啓樹　長尾雅史　小林慶司　河瀬麻希　池田浩　金子和夫
サッカー選手の外傷後膝関節炎に対する ω3 脂肪酸摂取の効果
第 26 回　日本臨床スポーツ医学会学術集会，神戸，2015 年 11 月 7-8 日

325. 石井翠、末原義之、赤池慶祐、高橋路子、三谷恵子、大久保武人、高木辰哉、金子和夫、八尾隆史、齋藤剛
Gastrointestinal stromal tumor における protein phosphatase 2A の変異の臨床病理学的検討
日本病理学会総会、名古屋、4 月 30 日-5 月 2 日　2015

326. 石井翠、赤池慶祐、栗崎愛子、荒川敦、末原義之、高木辰哉、金子和夫、八尾隆史、齋藤剛
EGFR 変異と TP53 変異を伴う肉腫様に形態変化した肺腺癌による転移性骨腫瘍の一例
日本病理学会総会、名古屋、4 月 30 日-5 月 2 日　2015

327. 石井翠、末原義之、向井原健太、赤池慶祐、高阪真路、峯木礼子、藤村努、數野彩子、金子和夫、Marc Ladanyi、齋藤剛
滑膜肉腫細胞株、ヒト間葉系幹細胞株における SYT/SSX 融合遺伝子発現調節による網羅的タンパク質発現解析
日本整形外科学会学術総会、神戸、5 月 21 日-24 日　2015

328. 石井翠、末原義之、赤池慶祐、向井原健太、窪田大介、大久保武人、髙木辰哉、八尾隆史、金

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

子和夫、齋藤剛
Gastrointestinal stromal tumor における protein phosphatase 2, regulatory subunit A, alpha 変異の検討
日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、高松、7 月 9 日-10 日 2015

329. 石井翠、赤池慶祐、向井原健太、末原義之、高木辰哉、八尾隆史、金子和夫、齋藤剛
EGFR 変異と TP53 変異を伴う肉腫様に形態変化した肺腺癌による転移性骨腫瘍の一例
日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会、高松、7 月 9 日-10 日 2015

330. Midori Ishii, Yoshiyuki Suehara, Keisuke Akaike, Daisuke Kubota, Taketo Okubo, Takashi Yao, Kazuo Kaneko, Tsuyoshi Saito
Clinicopathological impact of protein phosphatase 2A mutations in gastrointestinal stromal tumors
日本癌学会学術総会、名古屋、10 月 8 日-10 日 2015

331. 石井翠、末原義之、向井原健太、赤池慶祐、高阪真路、峯木礼子、藤村努、數野彩子、金子和夫、Marc Ladanyi、齋藤剛
滑膜肉腫細胞株、ヒト間葉系幹細胞株における SYT/SSX 融合遺伝子発現調節による網羅的タンパク質発現解析
日本整形外科学会基礎学術集会、富山、10 月 22 日-23 日 2015

332. 木下真由子, 石島旨章, 金子晴香,劉立足,,定月亮, 羽田晋之介,アニワル・ユスプ、山中誠,坂本優子,野尻英俊,金子和夫
ビスフォスフォネートと活性型ビタミン D 製剤併用療法の骨密度上昇関連因子としての血清カルシウム値
第 17 回日本骨粗鬆症学会、広島、2015 年 9 月 19 日、優秀演題賞

333. 髙木辰哉, 金子和夫
転移性骨腫瘍に対するチーム医療とリハビリテーション
第 88 回日本整形外科学会術集総会 シンポジウム 13 転移性骨腫瘍に対する治療戦略 神戸 5 月 21 日～24 日, 2015.

334. 髙木辰哉, 末原義之, 鳥越知明, 矢澤康男, 金子和夫
転移性脊椎腫瘍に対する保存的治療 -多職種介入によるマネージメント-
第 48 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 高松 7 月 9 日～10 日, 2015.

335. 高野弘充, 青木茂樹, 米澤郁穂, 堀正明, 桂正樹, 増谷佳孝, 錦織瞭, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 佐藤達哉, 金子和夫
腰痛症における椎間板変性の Diffusional Kurotosis Imaging 解析
第 44 回日本脊椎脊髄病学会, 福岡, 2015 年 4 月 16 日

336. 高野弘充, 米澤郁穂, 東藤貢, Muhammad Hazli Mazlan, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 佐藤達哉, 金子和夫
有限要素法を用いた椎体圧迫骨折の力学的評価
第 44 回日本脊椎脊髄病学会, 福岡, 2015 年 4 月 16 日

337. 高野弘充, 青木茂樹, 米澤郁穂, 堀正明, 桂正樹, 増谷佳孝, 錦織瞭, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 佐藤達哉, 金子和夫
腰痛症における椎間板変性の Diffusional Kurotosis Imaging 解析
第 88 回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2015 年 5 月 23 日

338. 高野弘充, 米澤郁穂, 東藤貢, Muhammad Hazli Mazlan, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 佐藤達哉, 金子和夫
有限要素法を用いた椎体圧迫骨折の力学的評価
第 88 回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2015 年 5 月 23 日

339. 高野弘充, 青木茂樹, 米澤郁穂, 堀正明, 桂正樹, 増谷佳孝, 錦織瞭, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 佐藤達哉, 金子和夫
腰痛症における椎間板変性の Diffusional Kurotosis Imaging 解析
第 30 回日本整形外科学会基礎学術総会, 富山, 2015 年 10 月 22 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

340. 高野弘充, 米澤郁穂, 東藤貢, Muhammad Hazli Mazlan, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 佐藤達哉, 金子和夫
有限要素法を用いた経皮的椎体形成術の力学的評価
第 24 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 新潟, 2015 年 11 月 7 日

341. 高野弘充, 米澤郁穂, 東藤貢, Muhammad Hazli Mazlan, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 佐藤達哉, 金子和夫
有限要素法を用いた経皮的椎体形成術の力学的評価
第 42 回日本臨床バイオメカニクス学会, 東京, 2015 年 11 月 13 日

342. 高野弘充, 米澤郁穂, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 佐藤達哉, 金子和夫
関節リウマチと腰椎疾患
第 8 回順天堂リウマチカンファレンス, 東京, 2015 年 1 月 21 日

343. 高野弘充, 米澤郁穂, 東藤貢, Muhammad Hazli Mazlan, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 佐藤達哉, 金子和夫
有限要素法を用いた椎体圧迫骨折の力学的評価
第 10 回お茶の水脊椎セミナー, 東京, 2015 年 2 月 28 日

344. 高野弘充, 米澤郁穂, 東藤貢, Muhammad Hazli Mazlan, 奥田貴俊, 嶋村之利, 吉川慶, 佐藤達哉, 金子和夫
有限要素法を用いた経皮的椎体形成術の力学的評価
第 6 回 MECHANICAL FINDER ユーザー研究会, 東京, 2015 年 7 月 18 日

345. 吉川 慶, 米澤 郁穂, 奥田 貴俊,嶋村 之利, 高野 弘,佐藤 達哉, 金子和夫
成人期特発性側弯症における手術例の検討
第 44 回日本脊椎脊髄病学会, 福岡, 2015 年 4 月 16 日

346. 吉川 慶, 米澤 郁穂, 奥田 貴俊,嶋村 之利, 高野 弘,佐藤 達哉, 金子和夫
成人期特発性側弯症における手術例の検討
第 88 回日本整形外科学会, 神戸, 2015 年 5 月 23 日

347. 吉川 慶, 米澤 郁穂, 遠田 慎吾, 金子和夫
強直性脊椎炎に伴う椎体圧潰の治療経験～偽関節と矯正損失を生じた 1 例～
第 48 回脊椎外科同好会, 舞浜,2015 年 8 月 2 日

348. 窪田大介, 小林英介, 丹沢義一, 薛宇孝, 中谷文彦, 末原義之, 金子和夫, 川井章, 中馬広一
超高齢者に発生した骨軟部腫瘍の手術成績の検討,
第 88 回日本整形外科学術総会, 神戸, 2015 年 5 月 21-24 日

349. 窪田大介, 小林英介, 丹沢義一, 薛宇孝, 三浪友輔, 末原義之, 高木辰哉, 金子和夫, 川井章, 中馬広一
四肢末梢血管発生の平滑筋肉腫の 3 例
第 48 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 高松 7 月 9 日～10 日, 2015.

350. 窪田大介, 小林英介, 丹沢義一, 薛宇孝, 三浪友輔, 末原義之, 高木辰哉, 金子和夫, 川井章, 中馬広一
骨軟部肉腫における脳転移の発症と治療方針についての検討
第 48 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 高松 7 月 9 日～10 日, 2015.

351. 齋田 良知, 神田 章男, 牧野 祐司, 坂本 優子, 森川 大智, 野尻 英俊, 伊坂 陽, 金子 和夫
非定型大腿骨骨折不全骨折の予後規定因子の検討
第 33 回日本骨代謝学会学術集会 33 回、 東京、7 月 23 日～25 日

352. 齋田 良知, 池田 浩, 高澤 祐治, 雪下 岳彦, 中島 啓樹, 長尾 雅史, 小林 洋平, 小林 慶司, 金子 和夫
スポーツ選手における ω3 脂肪酸の摂取が脂質代謝に与える影響の検討

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 26 回日本臨床スポーツ医学会、神戸、11 月 7 日～8 日

353. 齋田 良知, 池田 浩, 中島 啓樹, 長尾 雅史, 小林 慶司, 小林 洋平, 金子 和夫
筋内腱損傷を伴うハムストリング肉離れに対する多血小板血漿(PRP)療法の経験
第 26 回日本臨床スポーツ医学会、神戸、11 月 7 日～8 日

354. 齋田 良知, 池田 浩, 中島 啓樹, 長尾 雅史, 小林 洋平, 小林 慶司, 西尾 啓史, 金子 和夫
サッカーにおける傷害の治療の進歩 J-リーグ 20 年の経験から 発生予防と再発予防戦略
第 26 回日本臨床スポーツ医学会、神戸、11 月 7 日～8 日

355. 齋田 良知, 馬場 智規, 神田 章男, 牧野 祐司, 松本 幹生, 有冨 健太郎, 坂本 優子, 森川 大智, 谷口 有, 伊坂 陽, 野尻 英俊, 金子 和夫
非定型大腿骨骨折不全骨折の予後規定因子の検討
第 125 回中部日本整形外科災害外科学会、名古屋、10 月 2 日～3 日

356. 齋田 良知, 高澤 祐治, 川崎 隆之, 久保田 光昭, 石島 旨章, 金子 晴香, 黒澤 尚, 金子 和夫
遺残靱帯温存解剖学的 1 束前十字靱帯再建術の臨床成績
第 85 回日本整形外科学会、神戸、5 月 17 日～20 日

357. 齋田 良知(順天堂大学 医学部整形外科学講座), 長尾 雅史, 川崎 隆之, 中島 啓樹, 小林 洋平, 小林 慶司, 金子 和夫, 池田 浩
男子プロサッカー選手における第 5 中足骨疲労骨折の新規リスク因子の発見
第 85 回日本整形外科学会、神戸、5 月 17 日～20 日

358. 齋田 良知, 池田 浩, 中島 啓樹, 長尾 雅史, 小林 洋平, 小林 慶司, 金子 和夫
プロサッカー選手における第 5 中足骨疲労骨折(Jones 骨折)の発生状況調査
第 7 回 JOSKAS、6 月 19 日、札幌

359. 齋田 良知, 小林 洋平, 池田 浩, 高澤 祐治, 金子 和夫
サッカー選手の膝関節外傷後関節炎に対する多血小板血漿(PRP)関節内投与の経験
第 7 回 JOSKAS、6 月 19 日、札幌

360. 齋田 良知, 馬場 智規, 神田 章男, 最上 敦彦, 松本 幹生, 野尻 英俊, 森川 大智, 谷口 有, 伊坂 陽, 金子 和夫
非定型大腿骨不完全骨折の治療 いつ、どんな患者に予防的髄内釘固定を行うべきか?
第 41 回日本骨折治療学会(奈良) 6月26日～27日

361. 前田浩行、岩瀬秀明、佐渡山泰永、佐藤太一、金子和夫:
運動器不安定症患者に対する「またぎ動作」の動的動作分析:
第 52 回日本ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学会学術集会,新潟,2015.3 月 28 日-30 日

362. 最上敦彦、金子和夫:
大腿骨遠位部骨折の基礎と臨床
第 41 回日本骨折治療学会,奈良,2015.6 月 26 日-27 日ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ抄録集:S13

363. 最上敦彦、大林治、、二村健太郎、岩瀬秀明、金子和夫:
不安定型骨盤輪骨折に対する仙骨･腸骨間ﾛｯﾄﾞ固定:対する仙骨･腸骨間ﾛｯﾄﾞ固定（SIRE:Sacro-Illiac Rod Fixation)
第 41 回日本骨折治療学会,奈良,2015.6 月 26 日-27 日ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ抄録集:S31

364. 小畑宏介、二村健太郎最上敦彦、大林治、金子和夫:
月状骨関節窩における掌尺側小骨片の整復固定に難渋した等橈骨遠位端骨折の 2 例
第 41 回日本骨折治療学会,奈良,2015.6 月 26 日-27 日ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ抄録集:S77

365. 神田章男、諸橋達、最上敦彦、、大林治、金子和夫:
寛骨臼骨折術後に対する人工股関節全置換術の治療成績−術後坐骨神経麻痺を生じた 1 例の検討−

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 41 回日本骨折治療学会,奈良,2015.6 月 26 日-27 日ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ抄録集 S82

366. 内藤聖人、杉山陽一、小畑宏介、井下田由芳、最上敦彦、大林治、金子和夫:
橈骨遠位端骨折の合併する尺骨遠位端骨折の治療経験−内固定の適応に対する考案−
第 41 回日本骨折治療学会、,奈良,2015.626 日-27 日ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ抄録集 S112

367. 斎田良知、馬場智規、神田章男、最上敦彦、松本幹生、野尻英俊、森川太智、谷口有、伊坂陽、金子和夫:
非定型大腿骨不完全骨折の治療−いつ、どんな患者に予防的髄内釘固定を行うべきか?−
第 41 回日本骨折治療学会,奈良,2015.6 月 26 日-27 日ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ抄録集 S127

368. 和田知樹、最上敦彦、大林治、金子和夫
上腕骨近位端骨折Neer分類 3-4Part に対する髄内釘治療の中期成績
第 41 回日本骨折治療学会、June、,奈良,2015.6 月 26 日-27 日ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ抄録集 S139

369. 三宅喬人、最上敦彦、二村謙太郎、大林治、金子和夫
肘頭骨折に対するマルチプルテンションバンド固定による治療経験
第 41 回日本骨折治療学会 26-27、2015、,奈良,ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ抄録集 S204

370. 二村謙太郎、最上敦彦、大林治、佐藤和生、松井祐希、上田泰久、倉田佳明、斎藤丈太、辻英樹、金子和夫
足関節果部骨折の合併する遠位脛腓骨靭帯結合損傷の整復位評価
第 41 回日本骨折治療学会,奈良,2015.6 月 26 日-27 日ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ抄録集 S251

371. 武田純、最上敦彦、和田知樹、大林治、金子和夫
SCORPIONR NEO を用いた鎖骨遠位端骨折に対する治療経験
第 41 回日本骨折治療学会,奈良,2015.6 月 26-27 日ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ抄録集 S260

372. 前田浩行、岩瀬秀明、金子和夫、前田睦浩、武井裕輔、柿沼裕貴、三井和幸
ターニケット駆血後の運動量から見た運動器合併症の検討
第 31 回ライフサポート学会大会,福岡,2015.9 月 7 日

373. 神田章男、大林治、最上敦彦、諸橋達、金子和夫
多発性骨軟骨腫症に対する人工股関節全置換術
第 42 回日本股関節学会学術集会,大阪,2015.10 月 30-31 日、プログラム・抄録集 448

374. 諸橋達、神田章男、最上敦彦、金子和夫
臀部痛に対する股関節注射による診断と治療
第 42 回日本股関節学会学術集会,大阪,2015.10 月 30 日-31 日、プログラム・抄録集 480

375. 諸橋達、神田章男、最上敦彦、金子和夫
ショートステム Opthimys の術中骨折症例から考える固定様式と応力集中部位の検討
第 42 回日本股関節学会学術集会,大阪,2015.10 月 30 日-31 日、プログラム・抄録集 524

376. 前田浩行、岩瀬秀明、金子和夫、前田睦浩、柿沼裕貴、武井裕輔、三井和幸
ターニケットによる駆血御の合併症の検討一運動量及び生化学的評価一
第 42 回日本臨床バイオメカニクス学会,東京,2015.11 月 13 日-14 日、プログラム・抄録集:160

377. 佐藤 達哉, 米澤 郁穂, 奥田 貴俊, 嶋村 之利, 吉川 慶, 高野 弘充, 金子 和夫
Dropped Head Syndrome における Isolated Neck Extensor Myopathy の病態と臨床的検討
第 44 回 日本脊椎脊髄病学会,2015 年 4 月 16 日,福岡

378. 佐藤 達哉, 米澤 郁穂, 奥田 貴俊, 嶋村 之利, 吉川 慶, 高野 弘充, 金子 和夫
FEM を用いた PLIF におけるインプラント設置位置の生体力学的検討
第 30 回日本整形外科学会基礎学術集会, 2015 年 10 月 22 日～25 日, 富山

379. 佐藤 達哉, 米澤 郁穂, 奥田 貴俊, 嶋村 之利, 吉川 慶, 高野 弘充, 金子 和夫
FEM を用いた PLIF におけるインプラント材質の生体力学的検討
日本インストゥルメンテーション学会,新潟 2015,11 月 6 日～7 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

380. 佐藤 達哉, 米澤 郁穂, 奥田 貴俊, 嶋村 之利, 吉川 慶, 高野 弘充, 金子 和夫
20 歳以下の側彎症手術合併症
日本側彎症学会,新潟 2015,11 月5日～6日

381. 金 勝乾, 長尾雅史, 黒澤 尚, 池田 浩, 高澤祐治, 石島旨章, 斎田良知, 野沢雅彦, 金子和夫, 土肥徳秀
前十字靭帯再建術後評価における力学的変量解析を用いた患者立脚型評価法（JACL-25）の有用性の検討
第 88 回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2015 年 5 月 21-24 日

382. 野沢雅彦, 前田公一, 坂本優子, 金子和夫
思春期の広範囲大腿骨頭壊死に対する寛骨臼回転骨切り術
第 42 回日本股関節学会学術集会, 大阪, 2015 年 10 月 30-31 日

383. 坂本優子, 野沢雅彦, 松田圭二, 前田公一, 金勝乾, 鎌田孝一, 馬場智規, 湯浅崇仁, 前澤克彦, 金子和夫
DDH の整復治療の既往が CE 角0度以下で施行した RAO に及ぼす影響
第 88 回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2015 年 5 月 21-24 日

384. 坂本優子, 石島旨章, 金勝乾, 鎌田孝一, 前田公一, 森川大智, 野沢雅彦, 金子和夫
生理的 O 脚とビタミン D 欠乏性くる病は単純レントゲン所見だけで鑑別できるか？
第33回日本骨代謝学会, 東京, 2015 年 7 月 25 日

385. 森川大智, 鎌田孝一, 桑原宏朋, 金子和夫, 野澤雅彦
MRI T2 マッピングを用いた腱板修復術後の腱の質的評価
第 88 回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2015 年 5 月 21-24 日

386. 森川大智, 糸魚川善昭, 野尻英俊, 佐野博高, 井樋栄二, 西條芳文, 金子和夫, 野沢雅彦
腱板骨付着部変性における酸化ストレスの寄与 （スマホ参加型パネルディスカッション）
第 88 回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2015 年 5 月 21-24 日

387. 森川大智, 鎌田孝一, 桑原宏朋, 金子和夫
MRIT2 マッピングを用いた修復術後腱板の質的評価
第 42 回日本肩関節学会, 仙台, 2015 年 10 月 9-10 日

388. 亀田 壮, 金 勝乾, 野沢雅彦, 池田 浩, 斎田良知, 小林洋平, 金子和夫
両側第 5 中足骨骨折に対する超音波ガイド下麻酔による手術療法の有用性
第 41 回日本整形外科スポーツ医学会, 京都, 2015 年 9 月 11-12 日

389. 亀田 壮, 坂本優子, 野沢雅彦, 金子和夫
幼児化膿性足関節および周囲骨髄炎に対して足関節鏡・骨髄鏡にて加療した 1 例
第 40 回日本足の外科学会・学術集会, 千葉, 2015 年 10 月 29-30 日

390. 清村 幸雄, 黒澤 尚, 石島 旨章, 土屋 勝, 金子 晴香, 定月 亮, 劉 立足, 牧野 祐司, 澤満美子,岩瀬 嘉志, 金子和夫
変形性膝関節症の抑うつ状態は滑膜炎と関連する:横断研究
日本整形外科学会学術総会　2015 年 5 月 21 日　兵庫県神戸市

391. 小池正人、野尻英俊、渡辺憲史、金子和夫、清水孝彦
機械的負荷はミトコンドリアスーパーオキシドを介して軟骨変性を誘導する
第 15 回抗加齢医学会総会、福岡、2015 年 5 月 29 日～31 日

392. 野尻英俊、金子和夫、清水孝彦
ロコモティブシンドロームと酸化ストレス 基礎的実験から臨床応用への展望.（シンポジウム）
日本整形外科学会合同シンポジウム ロコモティブシンドロームと運動療法. 福岡,5月29日, 2015

393. 前澤克彦、成嶋靖博、丸山祐一郎、一青勝雄、金子和夫

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

人工股関節全置換術術後の活動能力と股関節周囲筋力との関連性.
第 45回日本人工関節学会, 福岡, 2015 年 2 月 27 日

394. 前澤克彦、湯浅崇仁、酒井健介、野沢雅彦、金子和夫
人工股関節全置換術術後の“メンタル”と股関節周囲筋力.
第 42 回日本股関節学会学術集会, 大阪, 2015 年 10 月 30-31 日

395. 金澤博明, 丸山祐一郎, 大沢亜紀, 糸魚川善昭, 金子和夫
PFC-Sigma 人工膝関節全置換術の客観的,立脚的評価の検討 —CR, Fixed-PS, Mobile-PS 型での比較—
第 45 回日本人工関節学会, 福岡, 2015 年 2 月 27 日

396. 金澤博明, 丸山祐一郎, 大沢亜紀, 吉田圭一, 金子和夫
ACL 再建術後の変形性関節症変化—自覚, 他覚的評価を踏まえた長期臨床成績と X 線学的分析
JOSKAS,札幌, 2015 年 6 月 19 日

397. 丸山祐一郎, 大沢亜紀,金澤博明,吉田圭一, 金子和夫
人工膝関節置換術のナビゲーション使用と従来型《2 機種》の下肢アライメントの 3 群比較—重度内反変形症例の検討—
JOSKAS,札幌, 2015 年 6 月 19 日

398. 大沢亜紀,金澤博明,吉田圭一, 糸魚川義昭,丸山祐一郎,金子和夫
人工膝関節置換術における関節周囲多剤の薬剤による比較
JOSKAS,札幌, 2015 年 6 月 19 日

399. 湯浅崇仁 前澤克彦 馬場智規 松本幹生 本間康弘 野沢雅彦 金子和夫
大腿骨骨切り術後に行ったセメントレス THA の臨床成績
日本人工関節学会 福岡 2015 年 2 月 27,28 日

400. 湯浅崇仁 前澤克彦 馬場智規 松本幹生 本間康弘 金子和夫 野沢雅彦
臼蓋回転骨切り術後 15 年以上の長期臨床成績
日本股関節学会 大阪 2015 年 10 月 30-31 日

401. 室谷錬太郎、丸山祐一郎、金子和夫
化膿性脊椎炎待機的前後合併固定術の治療経験-骨欠損が及ぼす治療期間への影響-
第 55 回関東整形災害外科学会、ラフレ埼玉、浦和市、2015 年 3 月 28 日

402. 室谷錬太郎、丸山祐一郎、金子和夫
慢性期難治性化膿性脊椎炎に対する PTH 併用椎体骨置換手術の治療経験-ステロイド骨粗鬆症症例に対する周術期 PTH 併用の工夫
第 24 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会、新潟市民芸術文化会館、新潟市、2015 年 11 月 7 日

403. 室谷錬太郎、丸山祐一郎、金子和夫
閉経後骨粗鬆症に対する骨吸収抑制剤の効果判定の検討-活性型ビタミン D（エルデカルシトール）の薬剤効果-
第 23 回日本腰痛学会、JP タワーホール＆カンファレンス、千代田区、2015 年 11 月 14 日

404. 糸魚川善昭、Sperling John、Steinmann Scott、Chen Qingshan、Song Pengfei、Chen Shigao、井樋栄二、金子和夫、An Kai-Nan
腱板構成筋の弾性率(硬さ)に対する超音波エラストグラフィーでの評価方法
第 7 回日本関節鏡、膝、スポーツ整形外科学会 北海道, 6/18-20, 2015.

405. 糸魚川善昭、山本宣幸、金子和夫、井樋栄二
Latarjet 手術での intra articular bone graft は安定性を損なわずに外旋可動域を増加させる
第 42 回日本肩関節学会 仙台, 10/9-10, 2015.

406. 糸魚川善昭、井樋栄二、金子和夫

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

超音波剪断波エラストグラフィーを用いた腱板構成筋の弾性率の計測方法
第 42 回日本肩関節学会　仙台, 10/9-10, 2015.

407. 西嶋智子, 糸魚川善昭, 丸山祐一郎 金子和夫
Corona mortis の走行と骨盤との関係についての解剖学的検討
骨折治療学会、 奈良、2015 年 6 月 26-27 日

408. 青木浩平　工藤俊哉　丸山祐一郎　前澤克彦　金子和夫
足舟状骨体部粉砕骨折に対し一時架橋プレートにて治療した一例
第41回骨折治療学会　奈良　　2015年 6 月 26, 27 日

409. 吉田圭一, 糸魚川善昭, 丸山祐一郎, 齋田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
超音波エラストグラフィーを用いた腓腹筋内側頭筋腱移行部の弾性率（硬さ）の計測
第 7 回日本関節鏡、膝、スポーツ整形外科学会　北海道, 6/18-20, 2015.

410. 吉田圭一, 工藤俊哉, 武内紗矢佳, 五味基央, 青木浩平, 山本康弘, 西嶋智子, 金子和夫
大腿骨遠位部骨折の内顆剪断骨片に対して VariAx Elbow Plate を用いた治療経験
第41回骨折治療学会　奈良　　2015年 6 月 26, 27 日

411. 吉田圭一, 鳥越知明, 原章, 前澤克彦, 丸山祐一郎, 金子和夫
手掌に発生した superficial acral fibromyxoma の 1 例
第 48 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 高松, 2015 年 7 月 9 日～10 日

412. 市原理司、Liverneaux Philippe、三上容司、越智健介、原章、楠瀬浩一、金子和夫
手術支援ロボット・da Vinci を使用した絞扼性神経障害に対する神経外剥離術の課題と展望
第 26 回日本末梢神経学会学術総会,松本,2015 年 9 月 18-19 日）

413. 市原理司、原章、工藤俊哉、丸山祐一郎、楠瀬浩一、金子和夫、フィリップ　リベルノ、ギロウム　プルネリ、宮本英明
フランス・ストラスブールにおけるコンニャクを用いたマイクロサージャリーのトレーニング方法の紹介
第 42 回日本マイクロサージャリー学会学術集会 埼玉,2015 年 11 月 26-27 日

414. 大久保武人、栗原大聖、今西淳悟、若山貴則、矢澤康男、鈴木智成、西川亮、髙木辰哉、末原義之、鳥越知明、金子和夫
骨破壊像を呈し悪性腫瘍と鑑別になった脊髄神経鞘腫の 4 例
第 48 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 高松, 2015 年 7 月 9 日

415. 越智宏徳、馬場智規、本間康弘、松本幹生、小林英生、湯浅崇仁、金子和夫
Bikini incision を用いた前方アプローチによる人工股関節全置換術の検討
第 45 回日本人工関節学会, 福岡, 2015 年 2 月 27 日

416. 越智宏徳　馬場智規　尾崎友　本間康弘　松本幹生　小林英生　野尻英俊　湯浅崇仁　金子和夫
股関節疾患を有する患者において姿勢変化が骨盤傾斜変化に与える因子の検討
第 42 回日本股関節学会学術集会, 大阪, 2015 年 10 月 30-31 日

417. 越智 宏徳, 馬場 智規, 本間 康弘, 松本 幹生, 湯浅 崇仁, 野尻 英俊, 金子 和夫
人工股関節全置換術前患者における立位から坐位の骨盤傾斜変化に影響を与える脊椎骨盤因子の検討
第 30 回日本整形外科学会基礎学術集会, 富山, 10/22-23, 2015.

418. 金栄智, 小林英介, 窪田大介, 末原義之, 高木辰哉, 金子和夫, 川井章, 中馬広一, 北野滋久
メタボリックエラーを利用したドキソルビシン耐性肉腫に対する新規治療開発.
第 30 回　日本整形外科学会基礎学術集会

419. 金栄智, 小林英介, 窪田大介, 末原義之, 高木辰哉, 金子和夫, 川井章, 中馬広一, 北野滋久
メタボリックエラーを利用したドキソルビシン耐性肉腫に対する新規治療開発.
第 48 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 高松, 2015 年 7 月 9 日～10 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

420. 金 栄智, 末原 義之, 川崎 隆之, 石井 翠, 松岡 淨, 赤池 慶裕, 向原 健太, 大久保武人, 齋藤 剛, 高木 辰哉, 金子 和夫
IRT に基づくロコモティブシンドローム診断ツールの解析
第 88 回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2015 年 5 月 21-24 日

421. 有田均、中原大志、岩崎英二、小林慶司、高澤祐治、金子和夫
アキレス腱付着部断裂に対して人工靭帯を用いて再建した1例
第 64 回東日本整形災害外科学会, 福島, 2015 年 9 月 11 日

422. 金子晴香, 石島旨章, 定月亮, 劉立足, 羽田晋之介, 木下真由子, AnwarjanYusup, 小林洋平, 齋田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
末期変形性膝関節症の膝周囲骨変形とビタミン D 充足状態との関連
第 45 回日本人工関節学会, 福岡, 2015 年 2 月 27 日

423. 金子晴香, 石島旨章, 劉立足,定月亮, 羽田晋之介, 木下真由子, アニワルジャン ユスプ, 二見一平, 金子和夫
軟骨分解マーカー・CTX-II による変形性膝関節症の重症度別進行予測
第 45 回日本人工関節学会, 福岡, 2015 年 2 月 27 日

424. 石島旨章, 中潟崇, 町田修一, 内藤久士, 濱田千江子, 石橋雅義, 平澤恵理, 金子晴香, 金子和夫
ロコモ予備軍の日常生活活動度指標におけるリスク因子
第 88 回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2015 年 5 月 21-24 日

425. 清村幸雄, 黒澤尚, 石島旨章, 土屋勝, 金子晴香, 定月亮, 劉立足, 牧野祐司, 澤満美子, 岩瀬嘉志, 金子和夫
変形性膝関節症患者の抑うつは滑膜炎と関連する:横断研究
第 88 回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2015 年 5 月 21-24 日

426. 土屋勝, 黒澤尚, 石島旨章, 金子晴香, 定月亮, 清村幸雄, 牧野祐司, 澤満美子, 野尻英俊, 岩瀬嘉志, 金子和夫
変形性膝関節症患者における抑うつ状態の影響因子
第 88 回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2015 年 5 月 21-24 日

427. 斎田良知, 高澤祐治, 川崎隆之, 久保田光昭, 石島旨章, 金子晴香, 黒澤尚, 金子和夫, 池田浩
遺残靭帯温存解剖学的 1 束前十字靭帯再建術の臨床成績
第 88 回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2015 年 5 月 21-24 日

428. 金乾勝, 長尾雅史, 黒澤尚, 池田浩, 高澤祐治, 石島旨章, 斎田良知, 野沢雅彦, 金子和夫, 土肥徳秀
前十字靭帯再建術後評価における力学的変量解析を用いた患者立脚型質問票(JACL-25)の有用性の検討
第 88 回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2015 年 5 月 21-24 日

429. 池上隆司、高橋健剛、奥田貴俊、金子和夫
仰臥位前側方進入法による人工骨頭置換術の有用性
第41回骨折治療学会 奈良 2015 年 6 月 26, 27 日

430. 田代 薫、金山 雅弘、大羽 文博、岩田 玲、遠田 慎吾、渡辺 尭仁、橋本 友幸、金子 和夫
腰椎固定術後の遺残腰痛と脊椎骨盤アライメントの関連性
第 10 回 御茶ノ水脊椎セミナー,2015 年 2 月,東京

431. 田代 薫、金山 雅弘、大羽 文博、岩田 玲、遠田 慎吾、渡辺 尭仁、橋本 友幸、金子 和夫
腰椎固定術後の遺残腰痛と脊椎骨盤アライメントの関連性
第 44 回 日本脊椎脊髄病学会,2015 年 4 月 16 日,福岡

432. 田代 薫、金山 雅弘、大羽 文博、岩田 玲、遠田 慎吾、渡辺 尭仁、橋本 友幸、金子 和夫

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

腰椎固定術後の遺残腰痛と脊椎骨盤アライメントの関連性
第 68 回 道南医学会,2015 年 11 月 21 日,函館

433. 鈴木雅生、藤原三郎、千野孔三、岩瀬弘明、松尾智次、金子和夫
膝関節軽度屈曲位での関節外アプローチを用いた脛骨骨幹部骨折に対する髄内釘固定術の治療経験
第41回骨折治療学会 奈良 2015 年 6 月 26, 27 日

434. 高持 一矢, 末原 義之, 茂櫛 薫, 高阪 真路, 間野 博行, 竹内 賢吾, 齋藤 剛, 鈴木 健司, 高橋 和久, 高橋 史行
ライバー遺伝子変異検査法の現状と課題 肺腺癌における NanoString を用いたドライバー融合遺伝子の新規スクリーニング法の開発
第 56 回日本肺癌学会学術集会、 横浜、2015 年 11 月 26 日-28 日

435. 向井原 健太, 末原 義之, 窪田 大介, 石井 翠, 赤池 慶祐, 金子 和夫, 斎藤 剛
骨巨細胞腫におけるデノスマブ治療後の網羅的タンパク質発現解析
第 53 回日本癌治療学会学術集会 、京都、2015 年 10 月 29 日-31 日

436. 末原 義之, 高阪 真路, 向井原 健太, 赤池 慶祐, 石井 翠, 峯木 礼子, 藤村 努, 數野 彩子, 金子 和夫, Ladanyi Marc, 齋藤 剛
Ewing 肉腫 EWS/FLI1 融合遺伝子発現に関わる網羅的タンパク質発現解析
第 88 回日本整形外科学会学術総会、神戸、2015 年 5 月 21 - 24 日

437. 向井原 健太, 末原 義之, 高阪 真路, 窪田 大介, 赤池 慶祐, 石井 翠, 高木 辰哉, 金子和夫, 齋藤 剛
デノスマブ治療後の骨巨細胞腫における網羅的タンパク質発現解析
第 48 回日本整形外科学会・骨軟部腫瘍学術集会、高松、2015 年 7 月 9-10 日

438. 栗原 大聖, 大久保 武人, 今西 淳悟, 矢澤 康男, 藤野 節, 中村 勝, 瀬山 敦, 清水 道生, 鳥越 知明, 末原 義之, 高木 辰哉, 金子 和夫
Ollier 病に発生した二次性軟骨肉腫における染色体異常
第 48 回日本整形外科学会・骨軟部腫瘍学術集会、高松、2015 年 7 月 9-19 日

439. 末原 義之, 向井原 健太, 赤池 慶祐, 石井 翠, 高阪 真路, 藤村 努, 高木 辰哉, 金子 和夫, Ladanvi Marc, 齋藤 剛
Ewing 肉腫 EWS/FLI1 融合遺伝子発現のプロテオミクス解析
第 48 回日本整形外科学会・骨軟部腫瘍学術集会、高松、2015 年 7 月 9-22 日

【学会発表（国内）2016 年】

1. 大和進, 中川沙織, 不破史子, 木村晋也, 平山哲, 三井田孝
LC-MS/MS を用いた血漿中ファルネシルピロリン酸の高感度定量.
第 26 回生物試料分析科学会年次学術集会, 宜野湾, 2016 年 2 月 20-21 日

2. 出居真由美, 田部陽子, 阿部雅明, 濱田千江子, 三宅一徳, 樋野興夫, 三井田孝
腹膜透析患者における N-ERC/mesothelin および C-ERC/mesothelin の検討.
第 63 回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 2016 年 9 月 1-4 日

3. 藍智彦, 三井田孝, マッテオ・バッタ
QT 延長と心筋症を合併した症例で発見された Syntrophin と RBM20 の遺伝子異常.
第 63 回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 2016 年 9 月 1-4 日

4. 長尾侑紀, 平山哲, 笹本健太, 平山安希子, 一色美和, 宮崎修, 三井田孝
喫煙がコレステロール代謝における HDL 成熟に及ぼす影響.
第 63 回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 2016 年 9 月 1-4 日

5. 笹本健太, 平山哲, 上野剛, 長尾侑紀, 杉原匡美, 三井田孝
脂質異常血清における検体保存時の HDL-C 測定値とアポ E の関係.
第 63 回日本臨床検査医学会学術集会, 神戸, 2016 年 9 月 1-4 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

6. 平山哲，宗田聡，中川沙織，不破史子，上野剛，笹本健太，長尾侑紀，田村昌大，平山安希子，杉原匡美，大和進，三井田孝
2 型糖尿病における血清脂質とコレステロール合成および吸収の関連.
第 63 回日本臨床検査医学会学術集会，神戸, 2016 年 9 月 1-4 日

7. 中川沙織，不破史子，荒金尚子，佐藤明美，木村晋也，平山哲，三井田孝，大和進
LC-MS/MS を用いた血漿中ファルネシルピロリン酸の定量とガン患者検体への応用.
日本薬学会第 136 年会，横浜, 2016 年 3 月 26-29 日

8. Ogawa A., Osada T., Hirose S., Tanaka M., Wada H., Yoshizawa Y., Imai Y., Machida T., Akahane M., Shirouzu I., Konishi S.
Orbitofrontal-hypothalamic functional interaction revealed by high-resolution resting-state fMRI
日本神経科学学会、横浜、2016 年 7 月 20 日

9. 木下真由子，金子晴香，石島旨章，定月亮，二見一平，羽田晋之介，有田均，塩澤淳，平澤恵理，山田吉彦，金子和夫
滑膜間葉系細胞の軟骨分化におけるパールカンの作用機序
第 29 回日本軟骨代謝学会，広島, 2016 年 2 月 19-20 日

10. 塩澤淳，金子晴香，永山正隆，宮崎哲朗，比企優，石島旨章,羽田晋之介，木下真由子，劉立足,代田浩之,金子和夫
人工膝関節置換術後の深部静脈血栓症発生リスクとしての血清多価不飽和脂肪酸
第 46 回日本人工関節学会，大阪, 2016 年 2 月 26-27 日

11. 劉立足，石島旨章，金子晴香，羽田晋之介，木下真由子，アニワルジャン・ユスプ，塩澤淳，有田均，高澤祐治，池田浩，金子和夫
人工膝関節置換術後 1 年の臨床症状の関連因子としての術後下肢アライメント指標
第 46 回日本人工関節学会，大阪, 2016 年 2 月 26-27 日

12. 木下真由子，石島旨章，金子晴香，定月亮，羽田晋之介，有田均，塩澤淳，坂本優子，山中誠，野尻英俊，金子和夫
血清カルシウム基準範囲下位 3 分位ではビスフォスホネートと活性型ビタミン D 製剤併用療法による骨密度増加効果が不十分である
第 89 回日本整形外科学会学術総会，横浜, 2016 年 5 月 12-15 日

13. 坂本優子，石島旨章，鈴木光幸，金勝乾，鎌田孝一，前田公一，林健太郎，桑原宏朋，櫻本浩司，森川大智，時田章史，清水俊明，野沢雅彦
O 脚の幼児が血液検査上の診断基準を満たすビタミン D 欠乏性くる病か否かは単純 X 線と問診だけでは区別がつかない場合がある
第 89 回日本整形外科学会学術総会，横浜, 2016 年 5 月 12-15 日

14. 金子晴香 1，石島旨章 1,2，石橋雅義 3，有田均 1,2，劉立足 1,2，定月亮 1,2，羽田晋之介 1，木下真由子 1，高澤祐治 1，池田浩 1，金子和夫
小型歩行解析装置による変形性膝関節症に対する術前後の歩行解析
第 89 回日本整形外科学会学術総会，横浜, 2016 年 5 月 12-15 日

15. 羽田晋之介，石島旨章，金子晴香，劉立足，アニワルジャンユスプ，木下真由子，有田均，塩澤淳，高澤祐治，池田浩，金子和夫
初期内側型変形膝関節症における内側半月板側方偏位と内側半月板変性との関連
第 89 回日本整形外科学会学術総会，横浜, 2016 年 5 月 12-15 日

16. 清村幸雄，黒澤尚，石島旨章，劉立足，金子晴香，土屋勝，定月亮，羽田晋之介， 木下真由子，岩瀬嘉志，金子和夫
内側型変形性膝関節症の臨床症状は膝内反化にて増強する
第 89 回日本整形外科学会学術総会，横浜, 2016 年 5 月 12-15 日

17. 塩澤淳，金子晴香，永山正隆，宮崎哲朗，比企優，石島旨章,羽田晋之介，木下真由子，劉立足,代田浩之,金子和夫
TKA 術後深部静脈血栓症発生患者では血清アラキドン酸（AA）高値及び EPA/AA 比低値であ

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

る
第 89 回日本整形外科学会学術総会，横浜, 2016 年 5 月 12-15 日

18. 木下真由子，石島旨章，金子晴香，定月亮，二見一平，平澤恵理, Goldring MB, Yamada Y, 金子和夫
パールカンによる滑膜間葉系細胞からの軟骨分化制御
日本結合組織学会, 2016 年 6 月 24-25 日，長崎

19. 塩澤淳，高澤祐治，羽田晋之介，小林洋平，金子晴香，斎田良知，石島旨章，池田浩，金子和夫
Fabella 骨折・膝複合靭帯損傷に伴う腓骨神経麻痺に対して 1 次修復術を行った 1 例
第 8 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS), 2016 年 7 月 28 日～30 日，福岡

20. 有田均，金子晴香，塩澤淳， 羽田晋之介，石橋雅義，定月亮，石島旨章，高澤祐治，池田浩，金子和夫
患者立脚型機能評価は末期変形性膝関節症患者の歩行動態を反映する
第 8 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS), 2016 年 7 月 28 日～30 日，福岡

21. 劉立足，石島旨章，金子晴香，羽田晋之介，木下真由子，アニワルユスプ，塩澤淳，有田均，高澤祐治，池田浩，金子和夫
人工膝関節置換術後の疼痛及び臨床症状に影響を与える術後下肢アライメント指標のカットオフ値
第 34 回日本骨代謝学会，大阪, 2016 年 7 月 20 日～23 日

22. Yusup A, Ishijima M, Kaneko H, Liu L, Sadatsuki R, Hada S, Kinoshita S, Arita H, Shiozawa J, Futami I, Shimura Y, Kamagata K, Saita Y, Takazawa Y, Ikeda Y, Kaneko K
末期変形性膝関節症の滑膜炎と軟骨下骨病変は相関する
第 34 回日本骨代謝学会，大阪, 2016 年 7 月 20 日～23 日

23. 木下真由子，石島旨章，金子晴香，劉立足，定月亮， 羽田晋之介， アニワルユスプ，有田均，塩澤淳，山中誠，坂本優子，野尻英俊，金子和夫
ビスホスホネートと活性型ビタミン D 併用療法に対する骨密度増加効果の最適条件の部位的差異
第 34 回日本骨代謝学会，大阪, 2016 年 7 月 20 日～23 日

24. 木下真由子，石島旨章，金子晴香，定月亮，羽田晋之介，有田均，塩澤淳，坂本優子， 山中誠，野尻英俊，金子和夫
ビスフォスホネートと活性型ビタミン D 製剤併用療法による骨密度増加のための至適条件の検討
第 18 回日本骨粗鬆症学会，仙台, 2015 年 10 月 6 日～8 日

25. 有田均，石島旨章，金子晴香，石橋雅義，羽田晋之介，木下真由子，定月亮，劉立足，塩澤淳,アニワルジャン・ユスプ，高澤祐治，池田浩，金子和夫
末期変形性膝関節症患者の臨床症状と歩行動態は患側の歩行時中心足底圧と相関する
第 31 回日本整形外科学会基礎学術集会，福岡, 2015 年 10 月 13-14 日

26. 木下真由子，石島旨章，金子晴香，劉立足，定月亮，羽田晋之介，アニワルジャン ユスプ，塩澤淳，有田均，田村好史，綿田裕孝，河盛隆三，金子和夫
壮年期変形性膝関節症発症前膝関節裂隙狭小化と軟骨代謝動態との関連-3 年間の縦断研究
第 31 回日本整形外科学会基礎学術集会，福岡, 2015 年 10 月 13-14 日

27. 木下真由子，金子晴香，石島旨章，定月亮，二見一平， 羽田晋之介，有田均，塩澤淳，平澤恵理， 山田吉彦，金子和夫
パールカンによる滑膜間葉系細胞からの軟骨分化制御
第 31 回日本整形外科学会基礎学術集会，福岡, 2015 年 10 月 13-14 日

28. 羽田晋之介，石島旨章，金子晴香，劉立足，木下真由子，有田均，塩澤淳，Anwarjan Yusup，高澤祐治，池田浩，岡田保典，金子和夫
変形性膝関節症の初期変化としての骨棘は内軟骨性骨化に類似した過程を経て形成され

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

MRI･T2 マッピング法にて正確に評価可能となる
第 31 回日本整形外科学会基礎学術集会，福岡, 2015 年 10 月 13-14 日

29. 本井ゆみ子， 松本信英， 亀谷富由樹， 石黒幸一， 長谷川成人， 服部信孝
The twenty-four kDa C-terminal tau fragment associates with propagation and calpain digestion
第 57 回日本神経学会総会 2016 年 5 月 18 日～21 日

30. 竹重遥香、林徹生、中山 茶千子、西岡健弥、波田野琢、本井ゆみ子、服部信孝
ドパーミントランスポーターシンチグラフィにて顕著な結合低下を示した N279K タウ変異をもつ前頭側頭葉変性症の 5 症例
第 57 回日本神経学会総会 2016 年 5 月 18 日～21 日

31. 谷 もも、高野喜久雄、本井ゆみ子、服部信孝
超高齢進行期認知症症例の中核症状に対する認知症治療薬の反応についての検討
2016 年 12 月 1 日～3 日 第 35 回日本認知症学会学術集会 東京

32. 田中亮太、志村秀樹、島田佳明、寺本紳一郎、新井一、卜部貴夫、服部信孝
Small Heat Shock Protein HSP27 を用いた急性期脳梗塞の新たな治療戦略
第 41 回脳卒中学会総会、札幌、 2016 年 4 月 14 日

33. 栗田尚英、山城一雄、黒木卓馬、上野祐司、田中亮太、山城雄一郎、野本康二、高橋琢也、辻浩和、朝原崇、服部信孝
急性期脳梗塞における腸内細菌の関与
第 41 回脳卒中学会総会、札幌、 2016 年 4 月 16 日

34. 栗田尚英、山城一雄、黒木卓馬、上野祐司、田中亮太、山城雄一郎、野本康二、高橋琢也、辻浩和、朝原崇、服部信孝
糖尿病マウスを用いた急性期脳梗塞巣の組織障害における腸内細菌の関与
第 57 回日本神経学会学術大会、神戸、2016 年 5 月 20 日

35. 栗田尚英、山城一雄、黒木卓馬、上野祐司、田中亮太、山城雄一郎、野本康二、高橋琢也、辻浩和、朝原崇、卜部貴夫、服部信孝
急性期脳梗塞における腸内細菌の関与
第 59 回日本脳循環代謝学会学術大会、徳島、2016 年 11 月 12 日

36. 中島翔、平健一郎、田中亮太、栗田尚英、宮元伸和、上野祐司、山城一雄、服部信孝
2 型糖尿病マウスにおける発症前運動習慣と脳保護効果
第 59 回日本脳循環代謝学会学術大会、徳島、2016 年 11 月 11 日

37. 平健一郎、上野祐司、黒木卓馬、島田佳明、宮元伸和、山城一雄、田中亮太、卜部貴夫、服部信孝
脳虚血後の軸索再生と Semaphorin3A の発現に関する検討
第 59 回日本脳循環代謝学会学術大会、徳島、2016 年 11 月 11 日

38. 宮元伸和、眞木崇州、Ji Hae Seo, 田中亮太、Irwin H Gelman, Eng H. Lo, 荒井健、卜部貴夫、服部信孝
オリゴデンドロサイト新生に対する AKAP12 の重要性
第 59 回日本脳循環代謝学会学術大会、徳島、2016 年 11 月 11 日

39. 栗田実佳，若林侑香，飯村祐子，後藤広昌，内田豊義， 池田富貴，金澤昭雄，藤谷与士夫，綿田裕孝
ボリコナゾール投与直後にインスリン投与量が著減したステロイド糖尿病の 1 例
第 53 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会，神奈川県（日本），2016.1.23-24(2016.1.23)，口演

40. 若林侑香，佐藤淳子，後藤広昌，内田豊義，池田富貴，金澤昭雄，金井数明，藤谷与士夫，高梨雅史，服部信孝,綿田裕孝
糖尿病診断を契機に確定診断に至ったミトコンドリア病中年男性の一例

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 53 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会，神奈川県（日本），2016.1.23-24(2016.1.23)，口演

41. 佐藤淳子，金澤昭雄，牧田寿美子，波多江千恵,小宮幸次，清水友章，池田富貴，渡邉威仁，藤谷与士夫，綿田裕孝
2 型糖尿病患者における糖質制限食（130g/日）の有用性と安全性
第 113 回日本内科学会総会，東京都（日本），2016.4.15-17,ポスター

42. 福中彩子，藤谷与士夫，深田俊幸，梶村真吾，綿田裕孝
亜鉛トランスポーターZIP13 による脂肪細胞褐色化制御機構の解明
第 89 回日本内分泌学会学術総会，京都府（日本）
2016.4.21-23(2016.4.21)，若手研究奨励賞（YIA）審査講演

43. 古川康彦，田村好史，竹野景海，船山崇，鈴木瑠璃子，加賀英義，渡邉隆宏，染谷由希，藤谷与士夫，河盛隆造,綿田裕孝
日本人非肥満 2 型糖尿病患者における肝内脂肪蓄積及び肝逸脱酵素と臓器特異的インスリン感受性の関連性
第 89 回日本内分泌学会学術総会，京都府（日本）,2016.4.21-23(2016.4.22)，口演

44. 若杉理美，早稲田直子，児玉悠紀，佐藤淳子，伊藤千春，後藤広昌，内田豊義，池田富貴，金澤昭雄，加藤悦郎，宮崎哲朗，藤田修英，丹下祐一，石井尚登，藤谷与士夫，代田浩之，新井一，綿田裕孝
急性腎障害を合併し尿量管理に難渋した頭蓋咽頭腫術後中枢性尿崩症の 1 例
第 89 回日本内分泌学会学術総会，京都府（日本）,2016.4.21-23(2016.4.22)，ポスター

45. 木村菜摘，鈴木路可，増山敦，後藤広昌，内田豊義，　池田富貴，金澤昭雄，牧野真太郎，藤谷与士夫，板倉敦夫，竹田省，綿田裕孝
妊娠糖尿病の治療経過中に診断し得た褐色細胞腫合併妊婦の 1 例
第 89 回日本内分泌学会学術総会，京都府（日本）,2016.4.21-23(2016.4.22)，ポスター

46. 中島朋，若林侑香，飯村祐子，後藤広昌，内田豊義，池田富貴，金澤昭雄，藤谷与士夫，綿田裕孝
摂食障害の既往を持つ菜食主義者に生じたビタミン D 欠乏性骨軟化症の一例
第 89 回日本内分泌学会学術総会，京都府（日本）,2016.4.21-23(2016.4.23)，ポスター

47. 氷室美和，池田富貴，後藤広昌，小宮幸次，荻原健，金澤昭雄，大村千恵，藤谷与士夫，綿田裕孝
当院における妊娠糖尿病患者の出産後耐糖能の検討
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会，京都府（日本），2016.5.19-21(2016.5.19)，ポスター

48. 中島健一，池田富貴，早稲田直子，若林侑香，登坂祐佳，竹野景海，後藤広昌，清水友章，荻原健，綿田裕孝
インスリン頻回注射から Sensor Augmented Pump (SAP) 療法導入による有効性の検討
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会，京都府（日本），2016.5.19-21(2016.5.19)，ポスター

49. 佐々木周伍，宮塚健，松岡孝昭，藤谷与士夫，綿田裕孝，下村伊一郎
β 細胞新生には 2 つの異なる分化様式が存在する
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会，京都府（日本），2016.5.19-21(2016.5.19)，若手研究奨励賞(YIA)審査口演

50. 三浦正樹，宮塚健，松岡孝昭，佐々木周伍，藤谷与士夫，綿田裕孝
Stat3 シグナルの抑制は膵腺房細胞から β 細胞へのリプログラミングを亢進させる
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会，京都府（日本），2016.5.19-21(2016.5.19)，若手研究奨励賞(YIA)審査口演

51. 吉田千紗，池田富貴，堀綾，佐藤淳子，田村好史，宮塚健，清水友章，藤谷与士夫，綿田裕孝
従来の CSII から Sensor Augmented Pump (SAP) への切り替え症例の検討
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会，京都府（日本），2016.5.19-21(2016.5.19)，ポスター

52. 熊代尚記，古川康彦，船山崇，竹野景海，白神伸之,佐野泰清，田村好史，河盛隆造，綿田裕

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

孝, 弘世貴久
日本人 NAFLD 患者の肝インスリン感受性保持因子として、アディポネクチンとミトコンドリアクエン酸回路が関与する
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府（日本）, 2016.5.19-21(2016.5.20), ポスター

53. 片上直人, 二宮浩世, 高原充佳, 河盛段, 松岡孝昭, 遅野井健, 清水一紀, 大野敬三, 石橋不可止, 今村憲市, 川井紘一, 柏木厚典, 河盛隆造, 下村伊一郎, 山﨑義光
炎症に関連する遺伝子多型の集積は心血管疾患に関連する
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府（日本）, 2016.5.19-21(2016.5.20), 口演

54. 橋上聖, 三田智也, 片上直人, 綿田裕孝, 下村伊一郎
J-DISCOVER：日本の実臨床下における 2 型糖尿病患者の治療実態調査 ベースライン報告（前向きコホート研究）
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府（日本）, 2016.5.19-21(2016.5.20), ポスター

55. 中村二郎, 植木浩二郎, 谷澤幸生, 綿田裕孝, 山田祐一郎, 下村伊一郎, 西村理明, 山﨑力, 門脇孝
大規模臨床研究 J-BRAND Registry：第 3 回中間報告
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府（日本）, 2016.5.19-21(2016.5.20), ポスター

56. 藤谷与士夫, 藤本新平, 高橋清仁, 佐藤博亮, 弘世貴久, 日吉徹, 藍真澄, 岡田洋右, 五所正彦, 三田智也, 綿田裕孝
リナグリプチンの食後血糖に及ぼす効果の検討：Linagliptin Study of Effects on Postprandial blood glucose (L-STEP) 研究
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府（日本）, 2016.5.19-21(2016.5.20), 口演

57. 本田彬, 小宮幸次, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
p62 欠損が膵 β 細胞機能に与える影響
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府（日本）, 2016.5.19-21(2016.5.20), ポスター

58. 鈴木路可, 宮塚健, 西尾理恵, 内田豊義, 後藤広昌, 金澤昭雄, 藤谷与士夫, 綿田裕孝
Everolimus によるインスリン分泌抑制機序の検討－症例検討および in vitro 実験を通じて－
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府（日本）, 2016.5.19-21(2016.5.20), 口演

59. 古川康彦, 田村好史, 竹野景海, 船山崇, 鈴木瑠璃子, 加賀英義, 渡邉隆宏, 筧佐織, 藤谷与士夫, 河盛隆造, 綿田裕孝
日本人非肥満 2 型糖尿病患者における肝内脂肪蓄積及び肝逸脱酵素と臓器特異的インスリン感受性の関連性
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府（日本）, 2016.5.19-21(2016.5.21), 口演

60. 竹野景海, 田村好史, 筧佐織, 船山崇, 古川康彦, 加賀英義, 鈴木瑠璃子, 染谷由希, 河盛隆造, 綿田裕孝
インスリンクリアランスとインスリン抵抗性、空腹時インスリン値の生理学的関連性
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府（日本）, 2016.5.19-21(2016.5.21), 口演

61. 山本裕一, 宮塚健, 佐々木周伍, 久保典代, 宮下和幸, 安田哲行, 綿田裕孝, 金藤秀明, 松岡孝昭, 下村伊一郎
転写因子 Pdx1 は Akita マウスの β 細胞不全を改善する
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府（日本）, 2016.5.19-21(2016.5.21), 口演

62. 荒木栄一, 山下静也, 荒井秀典, 横手幸太郎, 佐藤譲, 井口登與志, 中村二郎, 前川聡, 吉岡成人, 谷澤幸生, 綿田裕孝, 菅波秀規, 石橋俊
選択的 PPARa モジュレーター（SPPARMa）・K-877 による脂質異常症合併 2 型糖尿病患者の糖脂質代謝への影響（国内二重盲検）
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都府（日本）, 2016.5.19-21(2016.5.21), 口演

63. 佐藤淳子, 金澤昭雄, 牧田寿美子, 波多江千恵,小宮幸次, 清水友章, 池田富貴, 田村好史, 荻原健,三田智也, 後藤広昌, 内田豊義, 宮塚健, 竹野景海, 島田聡, 大村千恵, 渡邉威仁,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

小林喜代恵，三浦佳子，岩岡愛美，飯島香織，平嶋奈緒，藤谷与士夫，綿田裕孝
2 型糖尿病患者における糖質制限食研究（130g /日）・終了後 1 年の経過報告
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会，京都府（日本），2016.5.19-21(2016.5.21)，口演

64. 飯田真由，金澤昭雄，西尾理恵，児玉悠紀，増山敦，中島健一，片平雄大，氷室美和，若林侑香，池田富貴,後藤広昌，内田豊義，藤谷与士夫，綿田裕孝
ステロイド使用中の 2 型糖尿病患者における超速効性インスリンと速効性インスリンの食後高血糖に対する効果の比較検討
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会，京都府（日本），2016.5.19-21(2016.5.21)，口演

65. 綿田裕孝
アジア人 2 型糖尿病患者に対するインスリン導入療法としてのインスリンリスプロ混合剤 25 と 50 の比較試験－日本人部分集団解析結果
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会，京都府（日本），2016.5.19-21(2016.5.21)，口演

66. 竹野景海，田村好史，筧佐織，船山崇，古川康彦,加賀英義，鈴木瑠璃子，染谷由希，河盛隆造，綿田裕孝
健常者におけるインスリンクリアランスと肥満との関連性
第 37 回日本肥満学会，東京都（日本），2016.10.7-8(2016.10.7)，ポスター

67. 江島弘晃、筧佐織、田村好史、河盛隆造、綿田裕孝.
長期間の高脂肪食摂取は筋線維タイプを変化させ発揮筋力の低下を引き起こす.
第 168 回日本体力医学会関東地方会、首都大学東京、荒川キャンパス、2016 年 12 月

68. 江島弘晃、筧佐織、田村好史、河盛隆造、綿田裕孝.
12 週間の高脂肪食摂取は骨格筋の疲労耐性を亢進させる. 第 71 回日本体力医学会大会、アイーナ、マリオス、岩手、2016 年 9 月

69. 江島弘晃、田村好史、中村京子、筧佐織、呉林なごみ、村山尚、柿木亮、河盛隆造、綿田裕孝.
2 型糖尿病は細胞内 Ca2+恒常性の障害に伴い筋機能の低下を惹起する.
第 2 回筋学会. 国立精神・神経研究医療研究センター、東京、2016 年 8 月

70. 筧佐織，田村好史，加賀直子，池田真一，河盛隆造，綿田裕孝
不活動・高脂肪食によるインスリン抵抗性惹起について
第 37 回日本肥満学会，東京都（日本），2016.10.7-8(2016.10.7)，ポスター

71. 齊藤実穂，平井千裕，竹田純，上里忠好，牧野真太郎，板倉敦夫，竹田省，池田富貴，綿田裕孝
当院における 50gGCT 導入前後の GDM 合併妊婦の検討（1 年間）
第 32 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会，岡山県（日本），2016.11.18-19(2016.11.18)，口演

72. 上里忠好，荻原健，板倉敦夫，竹田省，綿田裕孝
妊娠期の膵 β 細胞における PBK の役割
第 32 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会，岡山県（日本），2016.11.18-19(2016.11.19)，ポスター

73. 藤本進一郎、高村和久、川口裕子、加藤悦郎、比企誠、土肥智貴、隈丸加奈子、代田浩之
Development of comprehensive plaque evaluation by coronary CT angiography.
第 48 回日本動脈硬化学会学術集会，東京, 2016.7 (シンポジウム)

74. 加藤悦郎、藤本進一郎、高村和久、川口裕子、青島千紘、比企誠，隈丸加奈子、代田浩之:
320 列冠動脈 CT による 1 回転撮影像から解析した Transluminal attenuation gradiant (TAG)の意義.
第 64 回日本心臓病学会学術集会，東京，2016. 9

75. Shinichiro Doi, Shinya Okazaki, Katsumi Miyauchi, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Takashi Shimizu, Hiroki Nishiyama, Yoshiteru Kato, Iwao Okai, Tomotaka Dohi, Hiroshi Iwata,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
A Case of successful PCI in LAD-CTO with large severe calcified aneurysm in young adult with history of Kawasaki disease
Complex Cardiovascular Therapeutics 2016・神戸・2016/10/21

76. Toshihito Onda, Kenji Inoue, Satoru Suwa, Takatoshi Kasai, Yuichi Chikata, Masayuki Shiozaki, Tatsuro Aikawa, Yuki Kimura, Kentaro Fukuda, Iwao Okai, Akihisa Nishino, Yoshiyuki Masaki, Yasumasa Fujiwara, Masataka Sumiyoshi, Hiroyuki Daida
A Comparison of Biomarkers and Risk Scores on Risk Stratification for Patients with Acute Coronary Syndrome
第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19

77. Tomoyasu Kadoguchi, Kazunori Shimada, Tomoyuki Shiozawa, Shuuhei Takahashi, Hamad Al Shahi, Koji Akita, Tetsuro Miyazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Angiotensin II-induced NAD(P)H Oxidase 4 Activation is Involved in Protein Degradation in Skeletal Muscle Cells
The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18－20 日

78. Kazunori Shimada, Takuma Yoshihara, Miho Nishitani-Yokoyama, Tomoyasu Kadoguchi, Eiryu Sai, Tomoyuki Shiozawa, Koji Akita, Shuuhei Takahashi, Hamad Al Shahi, Tetsuro Miyazaki, Kikuo Isoda, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida
Anti-inflammatory Strategies for Preventing Cardiovascular Events
The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18－20 日

79. 設楽準、荻田学、宮内克己、和田英樹、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之
Association between Sustained Increase of C-reactive Protein (CRP) and Long-term Mortality in Patients with Coronary Artery Disease Treated with PCI
The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18－20 日

80. 土井信一郎、岡崎真也、圓山雅己、藤本進一郎、掛水真帆、土肥静之、桑木賢次、稲田英一、天野篤、代田浩之
BAV による Bridge therapy により TA ハイリスク症例を TF TAVI に移行できた CKD 患者の一例
第 7 回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会・大阪・2016/8/11

81. 田村浩、岡崎真也、遠藤裕久、和田英樹、清水孝史、西山大樹、内藤亮、華藤芳輝、土井智貴、岡井巌、磯田菊生、宮内克己、代田浩之
BMS にて冠動脈瘤を治療した5症例に対する検討
第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/8

82. 清水孝史、宮内克己、土肥智貴、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、華藤芳輝、荻田学、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之
Body Mass Index and Long-term Clinical Outcomes after Percutaneous Coronary Intervention: Results from the Juntendo PCI Registry
The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18－20 日

83. Ryo Naito, Katsumi Miyauchi, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Shinichiro Doi, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Clinical Features and Outcomes in the Elderky Following Percutaneous Coronary Intervention between 1985 and 2010
The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18－20 日

84. Shinichiro Doi, Katsumi Miyauchi, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Ryo Naito, Hirokazu Konishi,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Yoshiteru Kato, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Comparison of Benefits between Second-Generation Drug-Eluting Stents Versus Bare Metal Stents in Hemodialysis Patients
第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/8

85. Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Manabu Ogita, Shuta Tsuboi, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Takatoshi Kasai, Yoshiteru Katoh, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
FRS: Prognostic Utility of Lipid Parameters or hs-CRP on Long-term Outcomes in Patients Undergoing PCI Treated with/without Statin Therapy
第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19

86. 和田英樹、荻田 学、宮内克己、設楽 準、遠藤裕久、土井信一郎、内藤 亮、小西宏和、坪井秀太、土肥智貴、葛西隆敏、田村 浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪 哲、代田浩之
Gender difference in patients with statin therapy following percutaneous coronary intervention.
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23－25 日

87. 園田健人、荻田 学、宮内克己、小西宏和、坪井秀太、内藤 亮、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之
Gender difference of lipoprotein(a)and long-term clinical outcomes in patients with coronary artery disease after percutaneous coronary intervention
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/24

88. Hideki Wada,Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Shinichiro Doi, Hirokazu Konishi, Hiroshi Tamura, Satoru Suwa, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida
Gender Differences in Mid-term Outcomes among Patients with Acute Coronary Syndrome Treated by Percutaneous Coronary Intervention 第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19

89. 和田英樹、荻田学、宮内克己、設樂準、遠藤裕久、土井信一郎、小西宏和、内藤亮、坪井秀太、土肥智貴、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之
Gender Differences in Patients with Statin Therapy Following Percutaneous Coronary Intervention
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/25

90. 高野明日香、岩田洋、大澤翔太、田村浩、磯田菊生、岡崎真也、宮内克己、天野篤、代田浩之
Higher Heart Rate Increases the Risk of Thrombocytopenia in Patients with Intra-Aortic Balloon Pump (IABP) counterpulsation
The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18－20 日

91. 和田英樹、土肥智貴、宮内克己、代田浩之
Impact of Albumin on prognosis in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention
第 30 回日本冠疾患学会学術集会・東京・2016/12/11

92. 西山大樹、宮内克己、内藤亮、小西宏和、華藤芳輝、土肥智貴、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之
Impact of Glycemic Control on the Long-term Outcome in Patients after Percutaneous Coronary Intervention
The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18－20 日

93. 園田健人、荻田学、宮内克己、小西宏和、和田英樹、内藤亮、坪井秀太、土肥智貴、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪哲、代田浩之
Impact of Lipoprotein (a) as Residual Risk on Clinical Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease Treated with Statin after PCI
The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18－20 日

94. Shinichiro Doi, Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Yoshiteru Kato,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Takatoshi Kasai, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Impact of Seasonal Variation on Long-term Outcomes in Acute Coronary Syndrome who Underwent Percutaneous Coronary Intervention
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/23

95. 秋田耕嗣、磯田菊生、島田和典、代田浩之
IκBNS 欠損はLDL 受容体欠損マウスにおいてマクロファージの IL-6 産生増加を誘導し、動脈硬化を促進する
第 48 回日本動脈硬化学会・東京・平成 28 年 7 月 14－15 日

96. Hirokazu Konishi, Katsumi Miyauchi, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Hideki Wada, Shinichiro Doi, Ryo Naitoh, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Lipoprotein (a) Predicts Long-term Cardiovasculer Events in Patients after Percutaneous Coronary Intervention
第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/19

97. Hirohisa Endo, Yuji Nishizaki, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida
Prognostic Implication of Atrial Fibrillation in Acute Coronary Syndrome; Sub-analysis from PACIFIC Registry
第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/18

98. Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Manabu Ogita, Shuta Tsuboi, Ryo Naitoh, Hirokazu Konishi, Takatoshi Kasai, Yoshiteru Katoh, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida
Prognostic Utility of Lipid Parameters or hs-CRP on Long-term Outcomes in Patients Undergoing PCI Treated with/without Statin Therapy
The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18－20 日

99. Shinichiro Doi, Morimasa Takayama, Shinya Okazaki, Hiroyuki Daida
PTSMA により心室性不整脈の改善が得られた閉塞性肥大型心筋症の 1 例
東京 HOCM フォーラム 2016・東京・2016/10/29

100. Hideki Wada, Manabu Ogita, Shuta Tsuboi, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Hirokazu Konishi, Yoshiteru Katoh, Hiroshi Tamura, Satoru Suwa, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida
Relation between Oral Beta-Blocker Therapy and Outcome in Patients with Acute Coronary Syndrome Preserved Left Ventricular Ejection Fraction
第 80 回日本循環器学会学術集会・仙台・2016/3/18

101. Azusa Murata, Takatoshi Kasai, Takao Kato, Shoko Suda, Hiroki Matsumoto, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida
Relationship between Blood Urea Nitrogen-to-Creatinine ratio at Hospital Admission and Long-term Post-discharge Mortality in Patients with Acute Decompensated Heart Failure
日本心臓病学会、東京、2016.9.25

102. Etsuro kato, Shinichiro Fujimoto, Rie Matsumori, Rani Bhivasankar, Kanako Kumamaru, yuko Kawaguchi, Kazuhisa Takamura, Frank J Rybicki 、Dimitrios Mitsouras, katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida.
Retrospective Evaluation of CT angiography Transluminal Attenuation Gradient for the Detection of Compromised Fractional Flow Reserve
80Th JCS. Sendai. 2016. 03.

103. Yuko kawaguchi, Shinichiro fujimoto, Kazuhisa Takamura, Syoko Suda, Etsuro Kato, Rie Matsumori, Makoto Hiki, Kanako K. Kumamaru, Hiroyuki Daida.
Submillisievert Imaging Protocol Using Full Reconstruction and Advanced patient motion Correction in 320-row Area Detector CT angiography.
80Th JCS. Sendai. 2016. 03.

104. 内藤亮、宮内克己、設楽準、遠藤裕久、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、坪井秀太、荻田学、

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之
Synergistic effect of BMI and eGFR on all-cause motality in the elderly following percutaneous coronary intervention
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23－25 日

105. Koji Akita, Kikuo Isoda, Yayoi Okabayashi, Yuko Ishii, Kazunori Shimada, Hiroyuki Daida
The Lack of IkBNS Accelerates Atherosclerosis in LDL Receptor-deficient Mice via Increased Interleukin-6 Production by Macrophages
The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society・仙台・平成 28 年 3 月 18－20 日

106. 高村和久、藤本進一郎、川口裕子、比企　誠、須田翔子、加藤悦郎、石浦純子、隈丸加奈子、代田浩之.
The usefulness of low radiation dose subtraction coronary CT angiography for coronary segments with calcification and stent using 320-row Area Detector CT
80Th JCS. Sendai. 2016. 03.

107. Kazuhisa Takamura, Shinichiro Fujimoto, Makoto Hiki, Rie Matshmori, Yuuko Kawaguchi, Shoko Suda, Etsuro Kato, Kanako Kumamaru, Hiroyuki Daida:
The Usefulness of Low Radiation Dose Subtraction Coronary CT Angiography for Coronary Segments with Calcification and Stent.
The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Sendai, Japan 2016. 3

108. 高村和久、藤本進一郎、比企 誠、川口裕子、加藤悦郎、青島千紘、隈丸加奈子、代田浩之
The usefulness of low radiation dose subtraction coronary CT angiography for patients with calcification using 320　ADCT
第 64 回日本心臓病学会学術集会，東京，2016. 9

109. 門口智泰、島田和典、塩澤知之、高橋秀平、Hamad Al Shahi、大内翔平、相川達郎、秋田耕嗣、磯田菊生、宮崎哲朗、代田浩之
アンジオテンシン II に依存した酸化ストレスは骨格筋タンパク分解を引き起こす
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23－25 日

110. 和田英樹、荻田　学、宮内克己、設楽　準、遠藤裕久、土井信一郎、小西宏和、内藤　亮、坪井秀太、土肥智貴、葛西隆敏、田村　浩、岡崎真也、磯田菊生、諏訪　哲、代田浩之
インスリン抵抗性と PCI 後の脳血管イベントの関連についての検討
第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/9

111. 秋田耕嗣、磯田菊生、代田浩之
インターロイキン 1 受容体アンタゴニストはアンジオテンシン II 投与で喚起される動脈の炎症及び瘤形成を抑制する
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23－25 日

112. 高橋徳仁、磯田菊生、岩田　洋、秋田耕嗣、遠藤裕久、和田英樹、大内翔平、西山大樹、土井信一郎、華藤芳輝、土肥智貴、田村　浩、岡崎真也、諏訪　哲、宮内克己、代田浩之
ベアメタルステント留置 13 年後に生じた超遅発性ステント血栓症の 1 例
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23－25 日

113. Maruyama M, Katou T, Morimoto R, Miyazaki S, M, Daimon M, Ohmura H, Amano A, Daida H.
腰部神経線維腫で経過観察中に、左室心尖部腫瘍を　指摘された一例
日本心エコー図学会第 27 回学術集会　大阪　2016 年 4 月 22 日

114. 設楽　準、坪井秀太、宮内克己、荻田　学、葛西隆敏、土肥智貴、小西宏和、内藤　亮、岡崎真也、磯田菊生、諏訪　哲、代田浩之
冠動脈形成術後のスタチン内服患者における赤血球容積粒度分布幅(RDW)の有用性
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23－25 日

115. 西山大樹、土肥智貴、宮内克己、遠藤裕久、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、内藤亮、坪井秀太、荻田学、華藤芳輝、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田、菊生、代田浩之

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

冠動脈疾患患者の長期予後における hs-CRP 値の性差について
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/24

116. 遠藤裕久、土肥智貴、宮内克己、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、内藤亮、坪井秀太、荻田学、華藤芳輝、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田、菊生、代田浩之
急性冠症候群患者の長期予後における BMI と性差の関連
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/23

117. 土井信一郎、土肥智貴、宮内克己、遠藤裕久、和田英樹、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、荻田学、華藤芳輝、葛西隆敏、田村　浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之
急性冠症候群発症の季節性と長期予後について
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23－25 日

118. 心筋梗塞患者における来院時間と院内死亡率の検討～Japanese Registry of Acute Myocardial Infarction Diagnosed by Universal Definition（J-MINUET）
急性心筋梗塞患者における来院時間と院内死亡率の検討～Japanese Registry of Acute Myocardial Infarction Diagnosed by Universal Definition（J-MINUET）
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/23

119. 土井信一郎　、岡崎真也、遠藤裕久、川口裕子、圓山雅己、華藤芳輝、宮崎彩記子、藤本進一郎、掛水真帆、土肥静之、桑木賢次、稲田英一、宮内克己、天野　篤、代田浩之
急性心不全を発症した重症冠動脈病変、大動脈弁狭窄症、高度腎機能低下を伴う低左　心機能、超高齢患者の一例
第 30 回日本冠疾患学会学術集会・東京・2016/12/10

120. 高橋徳仁、磯田菊生、比企　優、藤本進一郎、田村　浩、岡崎真也、宮内克己、代田浩之
巨大深部静脈血栓を伴う妊婦に対し、一時的下大静脈フィルター留置　で良好な経過が得られた1例
第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/8

121. 喜多村健一、島田和典、高橋秀平、宮内克己、蔡　榮龍、宮崎哲朗、塩澤知之、大内翔平、相川達郎、ハマド　サーリム、門口智泰、田村　浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之
経皮的冠動脈形成術施行患者における血清 1,5-anhydroglucitol　低下と心血管イベントとの関連
第 48 回日本動脈硬化学会・東京・平成 28 年 7 月 14－15 日

122. 高橋秀平、島田和典、宮内克己、蔡　栄龍、宮崎哲朗、塩澤知之、大内翔平、相川達郎、Hamad Al Shahi、門口智泰、田村　浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之
経皮的冠動脈形成術施行患者における血清 1,5-anhydroglucitol 測定の意義
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23－25 日

123. 礒　隆史、小西宏和、宮内克己、設楽準、和田英樹、内藤亮、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、葛西隆敏、岡崎真也、磯田菊生、諏訪　哲、代田浩之
経皮的冠動脈形成術施行患者の予後と出血事象における ORBIT スコアの意義
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23－25 日

124. 和田英樹、荻田学、諏訪哲、代田浩之
劇症型肺炎球菌感染症に合併した劇症型心筋炎の一例
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・2016/9/24

125. 川口裕子、藤本進一郎、高村和久、比企　誠、須田翔子、加藤悦郎、石浦純子、隈丸加奈子、代田浩之
高度石灰化症例における低被ばく Subtraction Coronary CTA の有効性の検討
第 26 回日本心血管画像動態学会、東京、2016. 1

126. 川口裕子、藤本進一郎、高村和久、比企　誠、須田翔子、加藤悦郎、石浦純子、隈丸加奈子、代田浩之
高度石灰化症例における低被ばく subtraction CTA の有効性の検討.
第 26 回心血管画像動態学会. 2016.1.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

127. 門口智泰、島田和典、塩澤知之、高橋秀平、Hamad Al Shahi、大内翔平、相川達郎、秋田耕嗣、宮崎哲朗、磯田菊生、代田浩之
骨格筋タンパク合成および分解調節における NAD（P）H oxidase 4 の役割の検討
第 48 回日本動脈硬化学会・東京・平成 28 年 7 月 14－15 日

128. 和田英樹、荻田 学、宮内克己、坪井秀太、小西宏和、設楽 準、國本充洋、園田健人、礒 隆史、海老名秀城、青木絵里子、喜多村健一、田村 浩、諏訪 哲、代田浩之
左主幹動脈に対して PCI を施行した ASC 患者の背景比較と入院中死亡の因子についての検討
第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/9

129. 内藤 亮、宮内克己、代田浩之
心血管イベント高危険群における経皮的冠動脈形成術後臨床成績の時代的変遷について
第 30 回日本冠疾患学会学術集会・東京・2016/12/11

130. Maruyama M, Katou T, Morimoto R, Miyazaki S, M, Daimon M, Ohmura H, Amano A, Daida H.
大動脈弁狭窄症患者における弁置換術施行例における術後心房細動発症に関わる因子の検討
第 64 回日本心臓病学会学術集会 東京 2016 年 9 月 23 日

131. 高橋徳仁、加藤倫子、三浦誠司、土肥智貴、田村 浩、磯田菊生、岡崎真也、宮内克己、天野代田浩之
当院での心臓移植後の移植心冠動脈病変(CAV)を含めた遠隔期管理について
第 64 回日本心臓病学会学術集会・東京・平成 28 年 9 月 23－25 日

132. 土井信一郎、宮内克己、遠藤裕久、和田英樹、西山大樹、内藤亮、小西宏和、坪井秀太、荻田学、華藤芳輝、土肥智貴、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、代田浩之
透析患者における第2世代薬剤溶出性ステントとベアメタルステントの出血イベントを含めた予後の比較
CVIT2016・東京・平成 28 年 7 月 7－9 日

133. 遠藤裕久、宮内 克己、和田 英樹、土井 信一郎、小西 宏和、内藤 亮、坪井 秀太、荻田 学、土肥 智貴、梶本 完、葛西 隆敏、田村 浩、岡崎 真也、磯田 菊生、天野 篤、代田 浩之
慢性腎臓病を有する糖尿病患者における第一世代の薬剤溶出性ステントと冠動脈バイパス手術の予後比較
第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/8

134. 遠藤裕久、宮内克巳、和田英樹、土井信一郎、小西宏和、内藤亮、坪井秀太、荻田学、土肥智貴、梶本完、葛西隆敏、田村浩、岡崎真也、磯田菊生、天野篤、代田浩之
慢性腎臓病を有する糖尿病患者における第一世代の薬剤溶出性ステントと冠動脈バイパス手術の予後比較
CVIT2016・東京・平成 28 年 7 月 7－9 日

135. 李慶賢、藤本進一郎、隈丸加奈子、山田想 、川口裕子、土肥智貴 、高村和久、加藤悦郎、木暮陽介、青木茂樹、代田浩之
流体構造連成解析を用いた冠動脈 CT-FFR 算出ソフトウェアの再現性の検討
第 10 回 SCCT 研究会、2016 年 9 月、東京（口頭発表）

136. 中西淳、 玉本文彦、 金井数明、 鈴木通真、 鎌形康司、 堀正明、 青木茂樹
MSA-P における 123I-FP-CIT SPECT と MR 所見
第 75 回日本医学放射線学会総会, 神奈川, 2016 年 4 月 15～17 日

137. 萩原彰文、堀正明、中澤美咲、アンディカクリスティナ、吉田茉莉子、鎌形康司、鈴木通真、高野直、川崎英生、濱崎望、佐藤秀二、青木茂樹
Synthetic MRI による MS プラークの検出能の評価
SAMI 2016, 東京, 2016 年 7 月 30・31 日

138. 李慶賢、 隈丸加奈子、 藤本進一郎、 高村和久、 川口裕子、 木暮陽介、 代田浩之、 青木茂樹
流体構造連成解析を用いた冠動脈 CT-FFR 算出ソフトウェアの再現性の検討

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

SAMI 2016, 東京, 2016 年 7 月 30･31 日

139. 李慶賢、 藤本進一郎、 隈丸加奈子、 山田想、 川口裕子、 土肥智貴、 高村和久、 加藤悦郎、 木暮陽介、 代田浩之、 青木茂樹
流体構造連成解析を用いた冠動脈 CT-FFR 算出ソフトウェアの再現性の検討
第 10 回 SCCT 研究会, 東京, 2016 年 9 月 3 日

140. 斎藤麻美、 鎌形康司、 上田亮、 中澤美咲、 アンディカクリスティナ、 村田渉、 中島円、 宮嶋雅一、 神谷昴平、 堀正明、 隈丸加奈子、 鈴木通真、 新井一、 青木茂樹
LP シャント術前後の iNPH の脳室体積測定と拡散テンソルトラクトグラフィ解析
第 44 回日本磁気共鳴医学会大会, 大宮, 2016 年 9 月 9～11 日

141. 萩原彰文、 堀正明、 中澤美咲、 アンディカクリスティナ、 吉田茉莉子、 鈴木通真、 高野直、 濱崎望、 佐藤秀二、 青木茂樹
髄鞘と浮腫の状態を評価するマルチパラメトリック定量 MRI による多発性硬化症患者における白質障害の評価
第 44 回日本磁気共鳴医学会大会, 大宮, 2016 年 9 月 9～11 日

142. アンディカクリスティナ、 萩原彰文、 中澤美咲、 服部亜紀、 村田渉、 高野直、 堀正明、 青木茂樹
The Advantages of Synthetic MRI in Pediatric Patients
第 44 回日本磁気共鳴医学会大会, 大宮, 2016 年 9 月 9～11 日

143. 入江隆介、 鎌形康司、 Aurelien Kerever、 横沢俊、 大竹陽介、 越智久晃、 田川一彦、 岡澤均、 高橋康介、 佐藤香菜子、 堀正明、 平澤恵理、 青木茂樹
透明脳マウスにおける次世代拡散 MRI(DKI)と共焦点顕微鏡による神経線維密度の関係
第 44 回日本磁気共鳴医学会大会, 大宮, 2016 年 9 月 9～11 日

144. 高野直、 鈴木通真、 入江隆介、 山本宗孝、 佐藤秀二、 濱崎望、 室井僚哉、 濱川詩織、 芳士戸治義、 大石英則、 青木茂樹
Usefulness of silent MRA for follow-up of intracranial aneurysms treated with pipeline embolization device
第 44 回日本磁気共鳴医学会大会, 大宮, 2016 年 9 月 9～11 日

145. 福永一星、 堀正明、 濱崎望、 佐藤秀二、 上田亮、 川崎英生、 高野直、 村田渉、 鶴田航平、 芳士戸治義、 村田勝俊、 青木茂樹
Simultaneous Multi-Slice RESOLVE DWI: comparison of single shot technique by diffusion tensor and kurtosis tractography
第 44 回日本磁気共鳴医学会大会, 大宮, 2016 年 9 月 9～11 日

146. 中澤美咲、 アンディカクリスティナ、 鎌形康司、 上田亮、 波田野琢、 奥住文美、 阿部修、 鈴木通真、 堀正明、 隈丸加奈子、 服部信孝、 青木茂樹
パーキンソン病の黒質線条体神経線維の神経突起イメージングによる評価
第 44 回日本磁気共鳴医学会大会, 大宮, 2016 年 9 月 9～11 日

147. 中澤美咲, 萩原彰文, アンディカクリスティナ, 堀正明, 上田亮, 高野直, 村田渉, 佐藤秀二, 濱崎望, 川崎英生, 芳士戸治義, 青木茂樹, 妹尾淳史
Synthetic MRI を用いたガドリニウム濃度マップの確度と精度についての評価
第 44 回日本磁気共鳴医学会大会, 大宮, 2016 年 9 月 9～11 日

148. 村田渉, 鎌形康司, 村田勝俊, 中澤美咲, 堀正明, 隈丸加奈子, 鈴木通真, 福永一星, 齋藤麻美, アンディカクリスティナ, 佐藤秀二, 濱崎望, 上田亮, 鶴田航平, 芳士戸治義, 青木茂樹
Simultaneous Multi-Slice Turbo Spin Echo を利用した Neuromelanin Imaging の撮像パラメータの検討
第 44 回日本磁気共鳴医学会大会, 大宮, 2016 年 9 月 9～11 日

149. 佐野由起子, 隈丸加奈子, 鈴木通真, 堀正明, 入江隆介, 中西淳, 青木茂樹
若年･壮年患者の良性腰椎疾患に対する「早期」MRI 検査頻度と病院因子：大規模レセプトデータベース解析

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 44 回日本磁気共鳴医学会大会，大宮, 2016 年 9 月 9～11 日

150. 髙野直，鈴木通真，山本宗孝，堀正明，大石英則，青木茂樹，新井一
Y stent assisted coil embolization 後のフォローアップにおける Silent MRA の有用性
第 39 回日本脳神経 CI 学会総会，東京, 2016 年 1 月 29･30 日

151. 鶴田航平，鎌形康司，本井ゆみ子，下地啓五，神谷昂平，堀正明，鈴木通真，村田渉，青木茂樹，妹尾淳史
脳白質の拡散テンソル構造的ネットワーク解析による Alzheimer's Disease と Dementia with Lewy Bodies の評価
第 39 回日本脳神経 CI 学会総会，東京, 2016 年 1 月 29･30 日

152. 中澤美咲，川崎英生，佐藤秀二，濱崎望，高野直，熊谷文孝，萩原彰文，堀正明，青木茂樹，妹尾敦史
Synthetic MRI による定量血の基礎的検討と転移性脳腫瘍への応用
第 39 回日本脳神経 CI 学会総会，東京, 2016 年 1 月 29･30 日

153. 村田渉，鎌形康司，波田野琢，奥住文美，堀正明，鈴木通真，鶴田航平，服部信孝，青木茂樹，妹尾淳史
パーキンソン病における神経変性の評価：NODDI 定量値と DAT-SPECT との関連
第 39 回日本脳神経 CI 学会総会，東京, 2016 年 1 月 29･30 日

154. Hagiwara A, Yusup A, Kamagata K, Ishijima M, Kaneko H, Liu L, Ning L, Sadatsuki R, Hada S, Kinoshita M, Futami I, Kaneko K, Aoki S
Bone marrow lesions, subchondral bone cysts and subchondral bone attrition are associated with histological synovitis in patients with end-stage knee osteoarthritis: a cross-sectional study
第 27 回日本骨軟部放射線研究会，東京, 2016 年 1 月 29･30 日

155. 鎌形康司，波田野琢，奥住文美，阿部修，下地啓五，鈴木通真，堀正明，隈丸加奈子，鶴田航平，服部信孝，青木茂樹
神経突起イメージングを用いたパーキンソン病における灰白質変性の検討
第 45 回日本神経放射線学会，山形, 2016 年 2 月 18 日～20 日

156. 鈴木通真，高野直，入江隆介，堀正明，隈丸加奈子，鎌形康司，山本宗孝，大石英則，青木茂樹
Ystent
第 45 回日本神経放射線学会，山形, 2016 年 2 月 18 日～20 日

157. 萩原彰文，堀正明，中澤美咲，クリスティナ アンディカ，鶴田航平，高野直，川崎英生，濱崎望，佐藤秀二，青木茂樹
造影後 Synthetic MRI による転移性脳腫瘍の検出能の評価
第 45 回日本神経放射線学会，山形, 2016 年 2 月 18 日～20 日

158. 堀正明，神谷昴平，鈴木雄一，野尻龍二，鶴島康晃，村田勝俊，鎌形康司，石亀慶一，青木茂樹
MRI を用いた生体内における脳脊髄 g-ratio の測定
第 45 回日本神経放射線学会，山形, 2016 年 2 月 18 日～20 日

159. 神谷昂平，鈴木雄一，堀正明，森墾，國松聡，青木茂樹，大友邦.
Kurtosis Tractography の初期経験：前頭葉の交差線維の描出への影響
第 45 回日本神経放射線学会，山形, 2016 年 2 月 18 日～20 日

160. 原祥子，田中洋二，稲次基希，石井賢二，前原健寿，堀正明，青木茂樹，成相直
pCASL と NODDI を用いた もやもや病の脳血流および微細構造の評価
第 45 回日本神経放射線学会，山形, 2016 年 2 月 18 日～20 日

161. 高村朋宏，村田渉，鎌形康司，鶴田航平，堀正明，鈴木通真，青木茂樹
Neurite orientation dispersion and density imaging in evaluation of brain damage and disease severity

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 45 回日本神経放射線学会，山形, 2016 年 2 月 18 日～20 日

162. 鎌形康司, Aurelien Kerever, 横沢俊, 堀正明, 鶴田航平, 田川一彦, 岡澤均, 平澤恵理, 青木茂樹
Quantitative Histological Validation of Diffusion Tensor MRI by Two-Photon Microscopy of Cleared Mouse Brain
第 18 回日本ヒト脳機能マッピング学会，京都, 2016 年 3 月 7･8 日

163. 萩原彰文，中澤美咲，堀正明，アンディカクリスティナ，鶴田航平，高野直，川崎英生,濱崎望，佐藤秀二，吉田茉利子，隈丸加奈子，青木茂樹
多発性硬化症における Synthetic MRI を用いた myelin map
日本分子イメージング学会（第 11 回総会･学術集会），兵庫, 5 月 28･29 日

164. 隈丸加奈子，佐野由起子，李慶賢，鈴木通真，堀正明，入江隆介，中西淳，青木茂樹
米国 ACR Appropriateness Criteria の最新動向と，日本への適用可能性について（ポスター）
第 52 回日本医学放射線学会秋季臨床大会，東京, 2016 年 9 月 16～18 日

165. 奥住 文美，波田野 琢，鎌形 康司，堀 正明，青木 茂樹，服部 信孝
Neuromelanin MRI を用いたパーキンソン病の運動症状の予測因子の検討と 123I-FP-CIT-SPECT との関連性
第 10 回パーキンソン病･運動障害疾患コングレス，京都：2016 年 10 月 6 日～10 日

166. 波田野 琢，鎌形 康司，奥住 文美，代田 健祐，谷口 大祐，堀 正明，吉野 浩代，青木 茂樹，服部 信孝
Neuromelanin-imaging を用いたパーキンソン病と PARK2 の解析
第 10 回パーキンソン病･運動障害疾患コングレス，京都：2016 年 10 月 6 日～11 日

167. 安達木絹子，入江隆介，鈴木通真，堀正明，青木茂樹
画像から遺伝性小血管病を疑い COL4A1 遺伝子変異を認めた 1 例
第 11 回小児神経放射線研究会，大阪, 2016 年 10 月 29 日

168. Christina Andica，萩原彰文，堀正明，安達木綿子，青木茂樹
The Utility of Synthetic MRI in Pediatric Patients
第 11 回小児神経放射線研究会，大阪, 2016 年 10 月 29 日

169. 波田野 琢，鎌形 康司，奥住 文美，吉野 浩代，堀 正明，青木 茂樹，服部 信孝
ニューロメラニンイメージングを用いた孤発性パーキンソン病および PARK2 の臨床症状に関する解析
第 34 回日本神経治療学会，米子：2016 年 11 月 3 日～5 日

170. 中西淳，玉本文彦，本井ゆみ子，鈴木通真，鎌形康司，堀正明，青木茂樹
非典型パーキンソン症候群における 123I-FP-CIT SPECT の検討
第 56 回日本核医学総会，名古屋, 2016 年 11 月 3～5 日

171. 髙野直，鈴木通真，山本宗孝，堀正明，大石英則，青木茂樹，新井一
Y stent assisted coil embolization 後のフォローアップにおける Silent MRA の有用性(ポスター賞)
第 39 回日本脳神経 CI 学会総会，東京, 2016 年 1 月 29･30 日

172. 鎌形康司, Aurelien Kerever, 横沢俊, 堀正明, 鶴田航平, 田川一彦, 岡澤均, 平澤恵理, 青木茂樹
Quantitative Histological Validation of Diffusion Tensor MRI by Two-Photon Microscopy of Cleared Mouse Brain (若手奨励賞)
第 18 回日本ヒト脳機能マッピング学会，京都, 2016 年 3 月 7･8 日

173. 鈴木健一，川谷響，尾崎隼朗，内藤久士，町田修一.
大学男子ハンドボール選手における無酸素パワーと間欠的運動能力の競技レベル別の検討.
日本ハンドボール学会第 4 回大会，東京, 2016 年 2 月 27-28 日

174. 尾崎隼朗，尾崎美那貴，町田修一，内藤久士.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

出生後 1 年間における全身各部位の筋厚及び皮脂厚の縦断的変化.
第 14 回日本発育発達学会大会, 兵庫, 2016 年 3 月 14-15 日

175. 尾崎隼朗, 中潟崇, 吉原利典, 棗寿喜, 北田友治, 石原美彦, 石橋雅義, 町田修一, 内藤久士.
漸進的なウォーキングプログラムは中高齢者の下肢筋厚及び筋力を増加させる.
第 23 回日本健康体力栄養学会, 兵庫, 2016 年 3 月 5 日

176. 吉原利典, 尾崎隼朗, 中潟崇, 棗寿喜, 北田友治, 石原美彦, 石橋雅義, 町田修一, 内藤久士.
ウォーキングプロラムがロコモティブ・シンドロームの改善に及ぼす効果.
第 23 回日本健康体力栄養学会, 兵庫, 2016 年 3 月 5 日

177. 北田友治, 尾崎隼朗, 中潟崇, 吉原利典, 棗寿喜, 石原美彦, 石橋雅義, 町田修一, 内藤久士.
脈拍計装着の有無が高齢者におけるウォーキング中の脈拍数管理に及ぼす影響.
第 23 回日本健康体力栄養学会, 兵庫, 2016 年 3 月 5 日

178. 吉原利典, 都築孝允,柿木亮, 町田修一, 内藤久士.
サルコペニアに関わるヒストン修飾の加齢変化.
第 39 回日本基礎老化学会, 神奈川, 2016 年 5 月 27-28 日

179. 都築孝允, 吉原利典, 後藤佐多良, 内藤久士.
一過性の持久的運動は 2 型糖尿病ラットの骨格筋における核内の Nrf2 量を増加させる.
第 39 回日本基礎老化学会, 神奈川, 2016 年 5 月 27-28 日

180. 中村智洋, 内藤久士.
高校生自転車競技選手の 1kmTT を推定する体力テストの検討.
第 67 回日本体育学会大会, 大阪, 2016 年 8 月 24-26 日

181. 尾崎隼朗, 北田友治, 棗寿喜, 町田修一, 内藤久士, 形本静夫.
中高齢サイクリストの最大酸素摂取量と大腿部前面筋厚はトレーニング頻度に依存する.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

182. 神庭睦実, 坂本彰宏, 内藤久士, 形本静夫.
自転車競技におけるクリティカルパワーと 4km 個人追い抜きのパフォーマンスとの関係.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

183. 坂本彰宏, 内藤久士.
スラストバックによるパワートレーニング効果の増大化.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

184. 野崎理沙, 中野大輝, 高木香奈, 川西範明, 内藤久士, 町田修一.
生薬の黄耆がギプス固定による筋萎縮に及ぼす影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

185. 鄧鵬宇, 周亮福, 伍文権, 陸大江, 鈴木宏哉, 町田修一, 内藤久士.
中国の大都市および中都市における青少年の生活習慣と肥満との関連性.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

186. 大野佳南子, 町田修一, 内藤久士.
月経周期のフェーズが快適自己ペース走に及ぼす影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

187. 千葉汐里, 大野佳南子, 中野大輝, 尾崎隼朗, 内藤久士, 町田修一.
大学生アスリートの月経周期と瞬発力との関係.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

188. 駒野悠太, 三浦裕, 藤井敏雄, 藤原大介, 内藤久士, 中潟崇, 深尾宏祐, 島田和典, 代田浩之.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

樹状細胞の活性に対する高負荷運動の影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

189. 棗寿喜, 尾崎隼朗, 柿木亮, 小林裕幸, 内藤久士.
筋電気刺激のトレーニング強度の違いが筋肥大および筋力増加に及ぼす影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

190. 中潟崇, 内藤久士, 形本静夫.
ニコチンパッチが運動時の呼吸循環応答に及ぼす影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

191. 柿木亮, 関根紀子, 吉原利典, 棗寿喜, 北田友治, 町田修一, 小林裕幸, 内藤久士.
レジスタンス運動後のホエイペプチド摂取によるヒト骨格筋 mTOR シグナルに及ぼす性差の影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

192. 張碩文, 吉原利典, 高嶺由梨, 内藤久士.
一過性の伸張性運動を行うタイミングの違いが mTOR シグナル伝達に及ぼす影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

193. 吉原利典, 都築孝允, 張碩文, 柿木亮, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久士.
若年期の運動不足はラットヒラメ筋における廃用性筋萎縮の進行を加速させる.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

194. 吉原育実, 吉原利典, 内藤久士, 町田修一.
廃用性筋萎縮前の一過性の運動がラットヒラメ筋における細胞内シグナル伝達系の経時的変化に及ぼす影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

195. 都築孝允, 篠崎昇平, 吉原利典, 後藤佐多良, 金木正夫, 小林裕幸, 内藤久士.
運動および運動中止が 2 型糖尿病ラットの骨格筋における S-ニトロソ化 Akt に与える影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

196. 高嶺由梨, 吉原利典, 都築孝允, 張碩文, 関根紀子, 町田修一, 内藤久士.
高脂肪食およびトレッドミル走が発育期マウスの骨組織に与える影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

197. 石原美彦, 石崎聡之, 石崎順子, 浜野学, 根岸輝彦, 町田修一, 内藤久士.
6 ヶ月間の運動教室が高齢者の身体機能に及ぼす影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

198. 北田友治, 河合祥雄, 佐久間和彦, 越川一紀, 仲村明, 内藤久士.
呼吸筋トレーニングが高強度自転車運動中の筋酸素動態に及ぼす影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

199. 中村智洋, 柿木亮, 関根紀子, 小林裕幸, 佐久間和彦, 内藤久士.
ACTN3 タンパク質発現量に及ぼす筋線維組成の影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

200. 鈴木悠太, 石原美彦, 辻川比呂斗, 内藤久士, 杉山康司.
携帯型心拍数記憶装置内蔵 GPS を用いたレジャースキーにおける滑走軌跡、速度変化および心拍数変動.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

201. 芝口翼, 池崎和海, 森廣壮馬, 吉原利典, 内藤久士, 後藤勝正, 吉岡利忠, 杉浦崇夫.
異なる温度刺激の併用が筋再生過程における線維化と筋衛星細胞の動態に及ぼす影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

202. 森廣壮馬, 杉浦崇夫, 宮田浩文, 池崎和海, 芝口翼, 内藤久士, 吉原利典, 後藤勝正, 吉岡利

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

忠.
ラット速筋損傷後の回復過程における筋成長因子に及ぼす異なる温度刺激の影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

203. 杉浦崇夫, 森廣壮馬, 池崎和海, 芝口翼, 吉原利典, 内藤久士, 後藤勝正, 吉岡利忠.
筋損傷後の回復過程における筋タンパク質分解系の変化.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

204. 池崎和海, 森廣壮馬, 芝口翼, 杉浦崇夫, 内藤久士, 後藤勝正, 吉原利典, 吉岡利忠, 宮田浩文.
ラット速筋損傷後の回復過程における筋線維組成に及ぼす異なる温度刺激の影響.
第 71 回日本体力医学会大会, 岩手, 2016 年 9 月 23-25 日

205. 尾崎隼朗, 中潟崇, 吉原利典, 棗寿喜, 北田友治, 石原美彦, 石橋雅義, 町田修一, 内藤久士.
膝伸展筋群の筋サイズ及び筋力の加齢変化とロコモ度別評価.
第 3 回サルコペニア・フレイル研究会研究発表会, 愛知, 2016 年 11 月 6 日

【学会発表（国内）2017 年】

1. 鈴木路可, 宮塚健, 氷室美和, 神谷麻衣, 三浦正樹, 藤谷与士夫, 西田友哉, 綿田裕孝
膵 β 細胞における時間特異的 Atg7 欠損マウスの作製と機能解析
第 31 回日本糖尿病・肥満動物学会, 神奈川県, 2017 年 2 月 10 日-11 日

2. 綿田裕孝
糖尿病の病態とチーム医療の重要性
第 81 回日本循環器学会学術集会, 石川県, 2017 年 3 月 17 日-19 日

3. 氷室美和, 宮塚健, 鈴木路可, 小池正人, Gittes G. K., 藤谷与士夫, 綿田裕孝
膵 α 細胞のオートファジー不全は膵島の形態異常をきたす
第 31 回日本糖尿病・肥満動物学会, 神奈川県, 2017 年 2 月 10 日-11 日

4. 飯田真由, 後藤広昌, 鵜澤博嗣, 早稲田直子, 岩下紋子, 金澤昭雄, 綿田裕孝
混合性酸塩基平衡障害の為アルカレミアを呈した糖尿病性ケトアシドーシスの 1 例
第 54 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 神奈川県, 2017 年 1 月 21 日-22 日

5. 田村好史
運動と脂肪筋・インスリン抵抗性
第 54 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 神奈川県, 2017 年 1 月 21 日-22 日

6. 田村好史
糖尿病における骨格筋の代謝変化と栄養療法
第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都府, 2017 年 1 月 13 日-15 日

7. 田村好史
高齢者における体力・筋力低下と運動
第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都府, 2017 年 1 月 13 日-15 日

8. 持田曜弘, 遅野井雄介, 篠原舞, 玉城晶子, 後藤広昌, 金澤昭雄, 綿田裕孝

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

潰瘍性大腸炎でステロイド使用中に発症した劇症 1 型糖尿病の 1 例
第 54 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会，神奈川県, 2017 年 1 月 21 日-22 日

9. 加藤晴香，廣居伸蔵，宇田晃仁，土屋志織，寺島玄，田村好史
2 型糖尿病患者におけるメトホルミンと DPP-4 阻害薬の使用実態
第 54 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会，神奈川県, 2017 年 1 月 21 日-22 日

10. 三浦正樹，宮塚健，佐々木周伍，松岡孝昭，藤谷与士夫，綿田裕孝
Stat3 シグナルの抑制は膵腺房細胞からβ細胞へのリプログラミングを亢進させる
第 2 回生活習慣病とがんの代謝栄養メカニズム研究会，東京都, 2017 年 2 月 11 日

11. 鈴木瑠璃子，田村好史，内藤久士，綿田裕孝
スポーツ栄養・エネルギー
ジャパン・スポーツ・サイバーフィジカルシステム　平成 28 年度成果報告会，大阪府，2017 年 2 月 24 日

12. 田村好史
運動療法支援における心身ケア
第 51 回糖尿病学の進歩，京都府, 2017 年 2 月 17 日-18 日

13. 田村好史
運動指導に必要な知識
第 51 回糖尿病学の進歩，京都府, 2017 年 2 月 17 日-18 日

14. Wada Hideki, Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Norihito Takahashi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa, Hiroyuki Daida.
Combined Serum Albumin and C-Rective Protein Levels Predict Long-term Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease after Percutaneous Coronary Intervention
第 81 回日本循環器学会学術集会，金沢, 2017 年 03 月 18 日

15. Yuko Kawaguchi, Shinichirou Fujimoto, Kanako Kumamaru, Tomotaka Dohi, Keiken Ri, Sou Yamada, Kazuhisa Takamura, Etsuro Kato, Yoshiteru Kato, Makoto Hiki, Hiroshi Tamura, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Hiroyuki Daida.
Diagnostic Accuracy of On-Site Operated Novel CT-Fractional Flow Reserve Based on Structural and Fluid Analysis
第 81 回日本循環器学会学術集会，金沢, 2017 年 03 月 18 日

16. Takahashi S, Shimada K, Miyauchi K, SaiE, Miyazaki T, Shiozawa T, Ouchi S, Aikawa T, Al Shahi H, Kadoguchi T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H.
Exacerbated levels of 1,5-anhydroglucitol are associated with cardiovascular events in non-diabetic patients after first-time elective percutaneous coronary intervention
81th Annual Meeting of JCS, Kanazawa, 2017 年 3 月 17 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

17. Al Shahi Hamad, Kazunori Shimada, Tomoyasu Kadoguchi, Koji Akita, Tomoyuki Shiozawa, Shuuhei Takahashi, Tatsuro Aikawa, Shohei Ouchi, Yayoi Sato, Satoshi Matsushita, Kikuo Isoda, Tetsuro Miyazaki, Hiroyuki Daida.
Exercise training ameliorates cardiac inflammation and improves left ventricular function after myocardial infarction in a mouse model
The 81th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 金沢, 2017 年 3 月 17 日-19 日

18. 遠藤裕久, 和田英樹, 荻田学, 宮内克己, 設樂準, 土井信一郎, 内藤亮, 小西宏和, 坪井秀太, 土肥智貴, 葛西隆敏, 諏訪哲, 代田浩之
Gender Difference in Association with Insulin Resistance and Long-term Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease after Percutaneous Coronary Intervention
第 81 回日本循環器学会学術集会, 金沢, 2017 年 03 月 18 日

19. 礒隆史, 小西宏和, 設楽準, 和田英樹, 内藤亮, 坪井秀太, 荻田学, 土肥智貴, 葛西隆敏, 岡崎真也, 磯田菊生, 諏訪哲, 代田浩之
Impact of Body Mass Index on Long-Term Cardiac Outcomes in Patients after Percutaneous Coronary Intervention
第 81 回日本循環器学会学術集会, 金沢, 2017 年 03 月 18 日

20. 土井信一郎, 宮内克己, 遠藤裕久, 和田英樹, 内藤 亮, 小西宏和, 坪井秀太, 荻田 学, 華藤芳輝, 岡井 巌, 土肥智貴, 葛西隆敏, 岡崎真也, 磯田菊生, 代田浩之
Persistent anemia associates long-term higher mortality in patients after percutaneous coronary intervention
The 81th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 金沢, 2017 年 03 月 17 日-19 日

21. Yatsu S, Kasai T, Matsumoto H, Murata A, Kato K, Suda S, Hiki M, Takagi A, Daida H.
Relationship between hypoalbuminemia on admission and long-term mortality in Japanese patients with acute decompensated heart failure
第 81 回日本循環器学会, 金沢, 2017 年 3 月 17 日-19 日

22. Yokoyama M, Shimada K, Hoshino Y, Takahashi S, Shiozawa T, Aikawa T, Ouchi S, Fukao K, Iwata H, Miyazaki T, Shimada A, Yamamoto T, Amano A, Daida H.
The Validity of the "Kihon Check-list" as an Index of frailty and fatty Acids in Elderly Patients Participating Cardiac Rehabilitation
81th Annual Meeting of JCS, Kanazawa, 2017 年 03 月 18 日

23. Takamura K, Fujimoto S, Katou E, Kawaguchi Y, Hiki M, Kumamaru K, Daida H
Usefulness of Novel Plaque Characteristics Analysis Software Employing the Labeling Method in Autopsy Cases
The 81th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Kanazawa, Japan 2017 年

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

3 月

24. 横山美帆, 島田和典, 星野祐里子, 髙橋秀平, 塩澤知之, 相川達郎, 大内翔平, 深尾宏祐, 岩田洋, 宮崎哲朗, 山本平, 天野篤, 代田浩之
Validity of the “Kihon Checklist” as an index of frailty and fatty acid levels in elderly patients receiving cardiac rehabilitation
第 81 回日本循環器学会学術集会 金沢 PJ-267, 2017 年 3 月

25. Al Shahi H, Shimada K, Kadoguchi T, Akita K, Takahashi S, Shiozawa T, Aikawa T, Ouchi S, Matsushita S, Isoda K, Miyazaki T, Daida H.
Voluntary exercise ameliorates cardiac inflammation and improves left ventricular function after myocardial infarction in a mouse model.
81th Annual Meeting of JCS, Kanazawa, 2017 年 3 月 17 日

26. 高村和久, 藤本進一郎, 比企誠, 川口裕子, 加藤悦郎, 隈丸加奈子, 代田浩之
剖検例における Labeling method による新しいプラーク性状解析ソフトの有用性に関する検討
第 27 回日本心血管画像動態学会, 津, 2017 年 1 月

27. 川口裕子, 藤本進一郎, 隈丸加奈子, 李慶賢, 山田想, 土肥智貴, 高村和久, 加藤悦郎,代田浩之
"流体構造連成解析を用いた CT-FFR オンサイト解析ソフトウェアにおける再現性の
検討."
第 27 回日本心血管画像動態学会, 津, 2017 年 1 月

28. Ouchi S, Miyazaki T, Shimada K, Sugita Y, Shimizu M, Murata A, Kato T, Aikawa T, Suda S, Shiozawa T, Hiki M, Takahashi S, Kasai T, Miyauchi K, Daida H.
Decreased circulating DGLA levels and DGLA/AA are associated with total mortality in patients with acute decompensated heart failure.
81th Annual Meeting of JCS, Kanazawa, 2017.03.17.

29. Shiozawa T, Shimada K, Sekita G, Hayashi H, Tabuchi H, Miura S, Kawaguchi Y, Fujimoto S, Aikawa T, Ouchi S, Takahashi S, Kitamura K, Sugita Y, Kadoguchi T, Miyazaki T, Sumiyoshi M, Nakazato Y, Daida H.
Are Left Atrial Appendage Volume and Plasma Docosahexaenoic Acid Levels Associated with Atrial Fibrillation Recurrence after Catheter Ablation?
81th Annual Meeting of JCS, Kanazawa, 2017 年 3 月 17 日

30. Shimizu M, Miyazaki T, Sugita Y, Aikawa T, Ouchi S, Hiki M, Shimada K, Daida H
Polyunsaturated Fatty Acids Levels were Associated with the Occurrence of Asymptomatic Venous Thromboembolism in Patients with Locomotive Syndrome.
81th Annual Meeting of JCS, Kanazawa, 2017 年 3 月 17 日

31. 萩原彰文, 堀正明, 越野沙織, 中澤美咲, 堀田萌子, 上田亮, クリスティナアンディカ, 武中祐

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

樹，高野直，濱崎望，青木茂樹
軸索量とミエリン量を in vivo に評価する新しい MRI 手法による多発性硬化症患者の白質障害の評価
第 46 回日本神経放射線学会，東京, 2017 年 3 月 17 日-19 日

32. 入江隆介，上田亮，神谷昂平，齊藤麻美，堀正明，鎌形康司，中島円，宮嶋雅一，新井一，青木茂樹
Per-axon diffusion coefficient を用いた特発性正常圧水頭症の脳微細構造の評価；TBSS による検討
第 46 回日本神経放射線学会，東京, 2017 年 3 月 17 日-19 日

33. 齊藤麻美，鎌形康司，上田亮，アンディカ クリスティナ，入江隆介，神谷昂平，鈴木通真，隈丸加奈子，堀正明，青木茂樹
特発性正常圧水頭症における錐体路の tract profile
第 46 回日本神経放射線学会，東京, 2017 年 3 月 17 日-19 日

34. 神谷昂平，入江隆介，堀正明，宮嶋雅一，中島円，森墾，國松聡，新井一，青木茂樹，阿部修
特発性正常圧水頭症における錐体路微細構造のシャント術前後での変化
第 46 回日本神経放射線学会，東京, 2017 年 3 月 17 日-19 日

35. 原祥子，成相直，堀正明，村田渉，上田亮，中澤美咲，田中洋次，前原健寿，青木茂樹
新規拡散 MRI・NODDI 法によるもやもや病の脳微細構造の検討
第 46 回日本神経放射線学会，東京, 2017 年 3 月 17 日-19 日

36. 高野直，鈴木通真，入江隆介，山本宗孝，越野沙織，隈丸加奈子，堀正明，大石英則，青木茂樹
LVIS Jr. stent による Y-configuratoin stent-assisted coiling のフォローアップにおける Silent MRA の有用性
第 46 回日本神経放射線学会，東京, 2017 年 3 月 17 日-19 日

37. 高野直，鈴木通真，入江隆介，山本宗孝，越野沙織，隈丸加奈子，堀正明，大石英則，青木茂樹
Silent MRA によるフローダイバーターステント留置後のフォローアップの可能性
第 46 回日本神経放射線学会，東京, 2017 年 3 月 17 日-19 日

38. 越野沙織, Andica Christina，萩原彰文，中澤美咲，堀正明，青木茂樹
Automated Brain Segmentation Based on Tissue Relaxometry with Lower In-plane Resolutions
ISMRM JPC 第1回学術集会，大阪, 2017 年 2 月 23 日-24 日

39. 原祥子，成相直，堀正明，村田渉，上田亮，中澤美咲，田中洋次，前原健寿，青木茂樹
新規拡散 MRI・NODDI 法によるもやもや病の脳微細構造の検討
第 40 回日本脳神経 CI 学会総会，鹿児島, 2017 年 3 月 3 日-4 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

40. 原祥子, 成相直, 堀正明, 村田渉, 上田亮, 中澤美咲, 田中洋次, 前原健寿, 青木茂樹
新規拡散 MRI・NODDI 法によるもやもや病の脳微細構造の検討
第 42 回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017 年 3 月 16 日

41. 有田均, 金子晴香, 石島旨章, 石橋雅義, 劉立足, 羽田晋之介, 木下真由子, 塩澤淳, 長尾雅史, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
装着型小型歩行解析装置を用いた人工関節置換術を必要とする末期変形性関節症患者の階段下降時の歩行動態
第 47 回日本人工関節学会, 沖縄, 2017 年月 2 月 25 日

42. 金子晴香, 石島旨章, 木下真由子 有田均, 塩澤淳, 長尾雅史, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
末期変形性膝関節症のビタミン D 充足状態と下肢アライメント
第 57 回関東整形災害外科学会, 東京, 2017 年 3 月 18 日

43. 市原理司, 原章, 丸山祐一郎, 工藤俊哉, 鈴木雅生, 楠瀬浩一, 金子和夫
重度軟部組織損傷を合併した Essex-Lopresti 損傷の 1 例
第 29 回日本肘関節学会,東京, 2017 年 2 月 3 日

44. 加藤英, 野沢雅彦, 前田公一, 淺亮輔, 並木康治, 金子和夫
人工股関節全置換術後の抗凝固薬投与を終了したのちに新規 VTE を認めた 4 例
第 47 回日本人工関節学会, 沖縄, 2017 年 2 月

45. 木下真由子, 杉山陽一, 後藤賢司, 渡泰士, 岩瀬嘉志, 内藤聖人, 金子和夫
超音波における長母指屈筋腱と方形回内筋遠位付着部・Watershedline との位置関係
第 57 回関東整形災害外科学会, 東京, 2017 年 3 月 17 日

46. 小林望, 嶋村佳雄, 百村励, 古谷洋之, 浅野健一郎, 多田弥生, 金子和夫
首下がりとなって受診した高齢者陳旧性頚椎脱臼骨折の手術治療
第 18 回圧迫脊髄症研究会　AP 東京八重洲通り 11 階, 2017 年 1 月 21 日

47. 坂本優子, 石島旨章, 野沢雅彦, 金子和夫
幼児生理的 O 脚と病的 O 脚の見分け方
第27回関東小児整形外科研究会, 東京, 2017 年 2 月

48. 佐々恵太, 渡泰士, 杉山陽一, 木下真由子, 後藤賢司, 岩瀬嘉志, 内藤聖人, 金子和夫
尺骨茎状突起骨折は橈骨遠位端骨折術後の Volar tilt 矯正損失に関与する
第 57 回関東整形災害外科学会, 東京, 2017 年 3 月 17 日

49. 杉山陽一, 木下真由子, 後藤賢司, 岩瀬嘉志, 内藤聖人, 金子和夫
橈骨遠位端骨折術後に尺骨頭掌側脱臼を生じた一例
第 57 回関東整形災害外科学会, 東京, 2017 年 3 月 17 日

50. 内藤聖人, 杉山陽一, 木下真由子, 後藤賢司, 岩瀬嘉志, 金子和夫

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

前腕皮膚トラブルを伴う橈骨遠位端骨折の治療
4th Juntendo Orthopedic Trauma Conference -Executive & Young Surgeons-, 東京, 2017 年 3 月 18 日

51. 中村泰大, 後藤賢司, 杉山陽一, 木下真由子, 岩瀬嘉志, 内藤聖人, 金子和夫
背側仮骨充填を行った橈骨遠位端矯正骨切り術の一例
第 57 回関東整形災害外科学会, 東京, 2017 年 3 月 17 日.

52. 馬場智規, 越智宏徳, 尾崎友, 渡泰士, 本間康弘, 松本幹生, 小林英生, 金子和夫
前方アプローチによる KT プレートを使用した人工股関節全置換術
第 47 回日本人工関節学会,沖縄, 2017 年 2 月 24 日

53. 前田衣里, 杉山陽一, 後藤賢司, 木下真由子, 渡泰士, 岩瀬嘉志, 内藤聖人, 金子和夫
豆状骨脱臼を伴った橈骨遠位端骨折の一例
第 57 回関東整形災害外科学会, 東京, 2017 年 3 月 17 日

54. 前澤克彦, 湯浅崇仁, 佐藤博伸, 丸山祐一郎, 野沢雅彦, 金子和夫
ロコモ 25 と筋力により評価した人工股関節全置換術の早期臨床成績
第 46 回日本人工関節学会, 沖縄, 2017 年 2 月 24 日 -25 日

55. 松本幹生, 馬場智規, 越智宏徳, 尾崎友, 渡泰士, 本間康弘, 金子和夫
人工関節全置換術後早期における患者立脚型評価と医療関係者による患者評価の点数の推移
関東整形災害外科学会,東京, 2017 年 3 月

56. Murata A, Kasai T, Yatsu S, Matsumoto H, Kato T, Suda S, Hiki M, Daida H.
Relationship Between Overnight Fluid Shift and Severity of Sleep Apnea in Patients with Moderate-to-Severe Mitral Regurgitation and Preserved Ejection Fraction
第 81 回日本循環器学会, 金沢, 2017 年 3 月 17 日

57. 湯浅崇仁, 前澤克彦, 佐藤博伸, 丸山祐一郎, 金子和夫
LIMA modulus stem を使用した初回人工股関節全置換術治療成績
第 47 回日本人工関節学会, 宜野湾市, 2017 年 2 月 24 日 -25 日

58. 栗田尚英, 山城一雄, 黒木卓馬, 上野祐司, 田中亮太, 山城雄一郎, 野本康二, 高橋琢也, 辻浩和, 朝原崇, 服部信孝
糖尿病マウスにおける腸内細菌叢の異常と急性期脳梗塞巣の組織障害
第 42 回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017.03 月 16 日, 大阪

59. 中島翔, 平健一郎, 田中亮太, 栗田尚英, 宮元伸和, 上野祐司, 山城一雄, 服部信孝
2 型糖尿病マウスにおける発症前運動習慣と脳保護効果
第 42 回日本脳卒中学会学術集会, 大阪, 2017 年 3 月 16 日

60. 平健一郎, 上野祐司, 黒木卓馬, 島田佳明, 宮元伸和, 山城一雄, 田中亮太, 卜部貴夫, 服部信孝
脳虚血後の軸索再生と Semaphorin3A の発現に関する検討

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 42 回日本脳卒中学会学術集会，大阪, 2017 年 3 月 16 日

61. 宮元伸和，眞木崇州, Ji Hae Seo，田中亮太, Irwin H Gelman, Eng H. Lo，荒井健，卜部貴夫，服部信孝
オリゴデンドロサイト新生に対する AKAP12 の重要性
第 42 回日本脳卒中学会学術集会，大阪, 2017 年 3 月 16 日

62. 服部信孝
オートファジー促進によるミトコンドリアクリアランス上昇薬理作用とする新たなパーキンソン病治療薬開発（ 岡野拠点）
AMED 疾患特異的 iPS 細胞を活用した難病研究事業の成果報告会，TKP 東京駅大手町カンファレンスセンター，東京, 2017 年 2 月 24 日

63. 堀正明，青木茂樹
Diffusion MR imaging: basics to clinical application in neuroimaging.
ISMRM JPC 第1回学術集会，大阪, 2017 年 2 月 23 日-24 日

64. 大澤拓也，尾崎隼朗，中潟崇，吉原利典，棗寿喜，石原美彦，北田友治，邓鹏宇，町田修一，内藤久士.
BMI および体脂肪率で分類された中高齢男女におけるロコモ度・体力的特性.
日本体育測定評価学会第 16 回大会，大分, 2017 年 3 月 5 日

65. 中潟崇，尾崎隼朗，吉原利典，大澤拓也，棗寿喜，石原美彦，北田友治，町田修一，内藤久士.
自体重レジスタンス運動と郵送型支援システムを用いた運動プログラムが中高齢者のロコモ度に及ぼす影響.
健康支援学会，東京, 2017 年 3 月 9 日-10 日

66. 尾崎隼朗，中潟崇,吉原利典，北田友治，棗寿喜，石原美彦，石橋雅義，町田修一，内藤久士.
ウォーキングおよび階段昇降運動が下肢の筋厚・筋力と身体機能に与える影響.
健康支援学会，東京, 2017 年 3 月 9 日-10 日

67. 大澤拓也，尾崎隼朗，中潟崇，吉原利典，棗寿喜，石原美彦，北田友治，鄧鹏宇，町田修一，内藤久士.
ロコモティブシンドロームの予防・改善を 目的とした 18 か月間の運動教室の介入効果.
健康支援学会，東京, 2017 年 3 月 9 日-10 日

68. 中潟崇，尾崎隼朗，吉原利典，大澤拓也，棗寿喜，石原美彦，北田友治，町田修一，内藤久士.
ウォーキングまたは自体重レジスタンス運動が中高齢者の身体組成および血液マーカーに及ぼす影響.
第 24 回日本健康体力栄養学会，東京, 2017 年 3 月 11 日

69. 尾崎隼朗，中潟崇，吉原利典，棗寿喜，石原美彦，北田友治，鄧鹏宇，大澤拓也，町田修一，内藤久士.
中高齢者の全身各部位の筋厚及び最大筋力の加齢変化とその部位差.
第 24 回日本健康体力栄養学会，東京, 2017 年 3 月 11 日

70. 石原美彦，尾崎隼朗，中潟崇，吉原利典，棗寿喜，北田友治，大澤拓也，鄧鵬宇，石橋雅義，町田修一，内藤久士.
中高齢者における日常身体活動とロコモティブシンドロームの関連性.
第 24 回日本健康体力栄養学会，東京, 2017 年 3 月 11 日

71. 棗寿喜，尾崎隼朗，中潟崇，吉原利典，大澤拓，石原美彦，北田友治，邓鵬宇，町田修一，内藤久士.
自体重レジスタンス運動と郵送支支援形システムを用いた運動プログラムは中高高齢者の筋厚と身体機能を改善する.
第 24 回日本健康体力栄養学会，東京, 2017 年 3 月 11 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

72. 大澤拓也, 尾崎隼朗, 中潟崇, 吉原利典, 棗寿喜, 石原美彦, 北田友治, 邓鹏宇, 町田修一, 内藤久士.
ロコモ度により自体重レジスタンス運動の効果は異なる.
第 24 回日本健康体力栄養学会, 東京, 2017 年 3 月 11 日

73. 北田友治, 尾崎隼朗, 中潟崇, 吉原利典, 棗寿喜, 石原美彦, 大澤拓也, 鄧鵬宇, 石橋雅義, 町田修一, 内藤久士.
体重支持指数と身体機能テストの関係.
第 24 回日本健康体力栄養学会, 東京, 2017 年 3 月 11 日

74. 鈴木路可, 宮塚健, 氷室美和, 神谷麻衣, 三浦正樹, 小宮幸次, 藤谷与士夫, 西田友哉, 綿田裕孝
膵 β 細胞における時間特異的 Atg7 欠損マウスの作製と機能解析
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会, 愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

75. 鈴木路可, 宮塚健, 氷室美和, 神谷麻衣, 三浦正樹, 三田智也, 小宮幸次, 藤谷与士夫, 西田友哉, 綿田裕孝
膵 β 細胞における時期特異的オートファジー不全モデルマウスの作製とその機能解析
第 90 回日本内分泌学会学術総会, 京都府, 2017 年 4 月 20 日-22 日

76. 鈴木瑠璃子, 田村好史, 竹野景海, 筧佐織, 船山崇, 古川康彦, 加賀英義, 杉本大介, 門脇聡, 染谷由希, 河盛隆造, 綿田裕孝
3 日間の高脂肪低炭水化物食は非肥満健常男性においてインスリンクリアランスを増加させる
第 23 回日本糖尿病眼学会総会・第 32 回日本糖尿病合併症学会, 東京都, 2017 年 10 月 27 日-29 日

77. 鈴木瑠璃子, 田村好史, 竹野景海, 船山崇, 古川康彦, 加賀英義, 杉本大介, 門脇聡, 染谷由希, 河盛隆造, 綿田裕孝
やせた若年女性における代謝的特徴の検討
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会, 愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

78. 綿田裕孝
高齢者糖尿病患者の低血糖とインスリン治療
第 30 回日本老年学会総会・第 59 回日本老年医学会学術集会, 愛知県, 2017 年 6 月 14 日-16 日

79. 綿田裕孝
インクレチン関連薬と動脈硬化
第 2 回日本血管不全学会学術集会, 東京都, 2017 年 4 月 16 日

80. 綿田裕孝
日本人 2 型糖尿病のインスリン抵抗性の特徴と治療
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会, 愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

81. 綿田裕孝

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

高齢者糖尿病に対するインスリン治療
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会，愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

82. 綿田裕孝
糖尿病とタンパク分解
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会，愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

83. 片平雄大，宮塚健，三浦正樹，鈴木路可，氷室美和，原朱美，荻原健，綿田裕孝
Alloxan 誘導糖尿病モデルマウスにおける beta-to-alphaconversion
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会，愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

84. 片上直人，三田智也，五所正彦，高原充佳，入江陽子，安田哲行，遅野井健，綿田裕孝，下村伊一郎
頚動脈エコー検査による脳心血管疾患ハイリスク群の抽出：糖尿病患者における検討
第 49 回日本動脈硬化学会総会・学術集会，広島県, 2017 年 7 月 6 日-7 日

85. 片上直人，三田智也，橋上聖，高原充佳，綿田裕孝，下村伊一郎
J-DISCOVER：日本の実臨床下における2型糖尿病患者の治療実態調査（前向きコホート研究）第2報
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会，愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

86. 福田麻実，早稲田直子，西尾理恵，加賀英義，登坂祐佳，池田富貴，金澤昭雄，綿田裕孝
ミトタンによる CYP3A4 誘導作用を考慮し高圧管理した副腎癌の 1 例
第 637 回日本内科学会関東地方会，東京都, 2017 年 11 月 11 日

87. 氷室美和，宮塚健，鈴木路可，神谷麻衣，三浦正樹，片平雄大，小池正人, Shiota C., Gittes G. K.，藤谷与士夫，綿田裕孝
膵 α 細胞特異的オートファジー不全モデルマウスの作成とその機能解析
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会，愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

88. 田村好史，竹野景海，加賀英義，染谷由希，筧佐織
運動と脂肪筋・インスリン抵抗性
第 35 回日本肥満症治療学会学術集会，岩手県, 2017 年 6 月 23 日-24 日

89. 田村好史
骨格筋インスリン抵抗性と糖尿病患者における筋力低下のメカニズムについて
第 23 回日本糖尿病眼学会総会・第 32 回日本糖尿病合併症学会，東京都, 2017 年 10 月 27 日-29 日

90. 田村好史
非肥満者のインスリン抵抗性研究から見えてきた新たな病態生理
第 35 回日本肥満症治療学会学術集会，岩手県, 2017 年 6 月 23 日-24 日

91. 田村好史

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

糖尿病治療における運動療法の効果に関するトピックス
第 36 回日本臨床運動療法学会学術集会，大阪府, 2017 年 9 月 2 日-3 日

92. 田村好史
糖尿病・メタボリックシンドロームにおける脂肪筋・インスリン抵抗性の役割と運動の効果
第 36 回日本臨床運動療法学会学術集会，大阪府, 2017 年 9 月 2 日-3 日

93. 田村好史
運動指導の理論と実践
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会，愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

94. 田村好史
非肥満者における潜在的インスリン抵抗性とその意識
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会，愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

95. 遅野井雄介，三田智也，遅野井健，齊藤三代子，玉澤敦子，中山志保，染谷由希，石田英則，五所正彦，金澤昭雄，綿田裕孝
睡眠の質の低下と夜型の生活スタイルは血糖コントロールを悪化させる：前向きコホート研究
第 32 回日本糖尿病合併症学会，東京都, 2017 年 10 月 27 日-29 日

96. 池田富貴，大村千恵，堀綾，本田彬，田村好史，荻原健，清水友章，金澤昭雄，綿田裕孝
1型糖尿病治療における職場環境の調査
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会，愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

97. 大村寛敏，三田智也，綿田裕孝，代田浩之
日本人 2 型糖尿病患者に対する DPP-IV 阻害薬による血糖管理と心血管イベント発症率に関する長期追跡調査：SPIRITS-J（最終報告）
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会，愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

98. 染谷由希，田村好史，鈴木瑠璃子，加賀英義，杉本大介，門脇聡，竹野景海，船山崇，古川康彦，河盛隆造，綿田裕孝
閉経後のやせた女性における代謝的特徴と身体的特徴
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会，愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

99. 染谷由希，田村好史，鈴木瑠璃子，加賀英義，杉本大介，門脇聡，竹野景海，河盛隆造，綿田裕孝
やせた女性の代謝的特徴と身体的特徴の探索的研究
第 36 回日本臨床運動療法学会学術集会，大阪府, 2017 年 9 月 2 日-3 日

100. 松橋瑛子，小澁真実，中島朋，持田曜弘，伊藤南，山﨑望，若杉理美，遅野井雄介，本田彬，登坂祐佳，伊藤千春，荻原健，菅野玲，金澤昭雄，牧野真太郎，野崎大司，知名俊幸，板倉敦夫，堀江重郎，綿田裕孝
妊娠中に副腎摘出術を施行した Cushing 症候群合併妊娠糖尿病の一例

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 90 回日本内分泌学会学術総会，京都府, 2017 年 4 月 20 日-22 日

101. 若杉理美，早稲田直子，中島朋，鵜澤博嗣，飯田真由，佐藤淳子，伊藤千春，後藤広昌，金澤昭雄，井下尚子，山田正三，綿田裕孝
初回術後 24 年後に内分泌学上顕在化した Silent corticotrogh adenoma の 1 例
第 90 回日本内分泌学会学術総会，京都府, 2017 年 4 月 20 日-22 日

102. 鴫山文華，熊代尚記，住野泰清，田村好史，綿田裕孝，弘世貴久
非アルコール性脂肪肝における肝インスリン感受性保持因子の網羅的解析
第 90 回日本内分泌学会学術総会，京都府, 2017 年 4 月 20 日-22 日

103. 山田祐一郎，中村二郎，植木浩二郎，谷澤幸生，綿田裕孝，下村伊一郎，西村理明，山崎力，門脇孝
大規模臨床研究 J-BRAND Registry：第 4 回中間報告
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会，愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

104. 三田智也，綿田裕孝
糖尿病大血管障害と糖尿病治療（DPP-4 阻害薬）
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会，愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

105. 三浦正樹，宮塚健，松岡孝昭，佐々木周伍，藤谷与士夫，綿田裕孝
Stat3 シグナルの抑制は膵腺房細胞からβ細胞へのリプログラミングを亢進させる
第 31 回日本糖尿病・肥満動物学会，神奈川県, 2017 年 2 月 10 日-11 日

106. 佐藤博亮，大平哲也，森谷千尋，井上郁夫，栗林伸一，清野弘明，平井裕之，日吉徹，綿田裕孝
2 型糖尿病患者におけるリナグリプチンの血糖日内変動に及ぼす影響の検討(L-CGM study)
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会，愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

107. 佐藤淳子，金澤昭雄，東浩介，池田富貴，後藤広昌，小宮幸次，田村好史，菅野玲，朝原崇，高橋琢也，野本康二，山城雄一郎，綿田裕孝
2 型糖尿病患者の腸内細菌叢に対するプロバイオティクスの効果
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会，愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

108. 河盛隆造
動脈硬化進展阻止をめざすスポートロジー
第 49 回日本動脈硬化学会総会・学術集会，広島県, 2017 年 7 月 6 日-7 日

109. 河盛隆造
インスリン療法をどう改革すべきか？
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会，愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

110. 加来浩平，山田祐一郎，綿田裕孝，安孫子亜津子，西田朋由, Zacho J，清末有宏
日本人 2 型糖尿病患者を対象とした週 1 回セマグルチド単独又は経口薬との併用療法の安全

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

性・有効性の討論-経口薬追加との比較
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会，愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

111. 加賀英義，田村好史，筧佐織，染谷由希，鈴木瑠璃子，門脇聡，杉本大介，古川康彦，船山崇，竹野景海，河盛隆造，綿田裕孝
健常者における feedback inhibition of insulin secretion の臨床的・生理的意義
第 38 回日本肥満学会，大阪府, 2017 年 10 月 7 日-8 日

112. 加賀英義，田村好史，竹野景海，筧佐織，船山崇，古川康彦，鈴木瑠璃子，杉本大介，門脇聡，染谷由希，河盛隆造，綿田裕孝
健常者における feedback inhibition of insulin secretion の臨床的・生理的意義
第 90 回日本内分泌学会学術総会，京都府, 2017 年 4 月 20 日-22 日

113. 加賀英義，田村好史，竹野景海，筧佐織，船山崇，古川康彦，鈴木瑠璃子，杉本大介，門脇聡，染谷由希，河盛隆造，綿田裕孝
健常者における feedback inhibition of insulin secretion の臨床的・生理的意義
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会，愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

114. 鵜澤博嗣，金澤昭雄，鈴木路可，遅野井雄介，増山敦，東浩介，竹野景海，高柳尚子，佐藤淳子,小宮幸次，後藤広昌，三田智也，池田富貴，荻原健，清水友章，大村千恵，斎藤三代子，遅野井健，綿田裕孝
日本人2型糖尿病患者に対する，DPP4 阻害薬と高用量メトホルミン併用療法の検討
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会，愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

115. 伊藤直顕，常見亜佐子，田島翼，内藤仁嗣，小澁真実，池田富貴，金澤昭雄，綿田裕孝
糖尿病と齲歯をリスク因子に持った放線菌感染症の 1 例
第 637 回日本内科学会関東地方会，東京都, 2017 年 11 月 11 日

116. Nakagata T, Yamada Y, Machida S, Tamura Y, Naito H.
Energy expenditure of low-load body mass- based resistance exercise with slow movement in male
第 72 回日本体力医学会大会，愛媛県, 2017 年 9 月 16 日-18 日

117. Miyatsuka T, Watada H.
Two distinct pathways of β-cell neogenesis revealed by novel spatiotemporal imaging
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会，愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

118. Fujitani Y, Watada H.
Beta-to-PP cell fate conversion in diabetic mice induced by a high fat diet and streptozotocin
第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会，愛知県, 2017 年 5 月 18 日-20 日

119. 保田都，木屋舞，若杉理美，西尾理恵，登坂祐佳，菅野玲，後藤広昌，金澤昭雄，綿田裕孝
服薬指導後 DDAVP 大幅減量が可能だった中枢性尿崩症の 1 例
第 27 回臨床内分泌代謝 update，兵庫県, 2017 年 11 月 24 日-25 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

120. 氷室美和, 宮塚健, 鈴木路可, 三浦正樹, 片平雄大, 高橋雅也, 大島茂, 岡本隆一, 綿田裕孝
糖尿病の病態解明に向けた膵 α 細胞新生・成熟機構の解明
第 29 回分子糖尿病学シンポジウム, 大阪府, 2017 年 12 月 2 日

121. 田村好史
糖尿病における運動療法の理論と実際
第 29 回日本糖尿病性腎症研究会, 東京都, 2017 年 12 月 2 日-3 日

122. 遅野井雄介, 三田智也, 東浩介, 中島健一, 増山敦, 後藤広昌, 西田友哉, 宮塚健, 藤谷与士夫, 小池正人, 三俣昌子, 綿田裕孝
血管平滑筋細胞のオートファジー不全は動脈硬化を促進させる
Advans 研究会, 東京都, 2017 年 12 月 16 日-17 日

123. 早稲田直子, 田島翼, 伊藤直顕, 小澁真実, 常見亜佐子, 中島健一, 所雅子, 登坂祐佳,後藤広昌, 矢富謙治, 寺西功輔, 山本宗孝, 金澤昭雄, 大石英則, 綿田裕孝
鞍内脳動脈瘤治療後に下垂体前葉機能低下症の回復を認めた 1 例
第 27 回臨床内分泌代謝 update, 兵庫県, 2017 年 11 月 24 日-25 日

124. 篠原舞, 古川康彦, 中島健一, 福田麻実, 佐藤元律, 玉城晶子, 後藤広昌, 白石昭彦, 前川博, 吉池高志, 佐藤淳子, 綿田裕孝
ジアゾキシドで重症麻疹が疑われたインスリノーマの一例
第 27 回臨床内分泌代謝 update, 兵庫県, 2017 年 11 月 24 日-25 日

125. Kouji Yano, Kenta Sasamoto, Tomohiko Ai, Takahiro Shiga, Hideyuki Okano, Wado Akamatsu, Satoshi Hirayama, Takashi Miida.
Loading of Ca2+ indicator in the human iPSC-derived neurons with PSN1/2 mutations.
第 49 回日本動脈硬化学会総会学術集会, 広島市, 2017 年 7 月 6 日-7 日

126. 中川沙織, 不破史子, 太田(清水)美穂, 平山哲, 三井田孝, 大和進
柑橘類に含まれるフラバノンによるコレステロール合成経路に対する新規抑制作用
第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌市, 2017 年 10 月 6 日-10 月 8 日

127. 一色美和, 平山哲, 上野剛, 伊藤正行, 矢野康次,古田絢女, 出居真由美, 三井田孝
栄養状態の指標としての脂肪酸代謝関連マーカーおよび微量金属の意義
第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌市, 2017 年 10 月 6 日-10 月 8 日

128. 上野剛, 平山哲, 古田絢女, 山谷琴子, 一色美和, 平山安希子, 矢野康次, 三井田孝
アルブミン測定法がネフローゼ症候群のアルブミン測定値に及ぼす影響
第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌市, 2017 年 10 月 6 日-10 月 8 日

129. 田村昌大, 平山哲, 上野剛, 廣瀬伸良, 三井田孝
柔道の練習環境における血液成分の変化について

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 26 回日本柔道整復接骨医学会学術大会，大阪市, 2017 年 11 月 3 日-11 月 4 日

130. 一色美和，平山哲，上野剛，古田絢女，矢野康次，山谷琴子，杉原匡美，出居真由美，三井田孝
炎症に影響を受けにくい栄養マーカーの検索
第 64 回日本臨床検査医学会学術集会，京都市, 2017 年 11 月 16 日-11 月 19 日

131. 平山哲，長坂博範，矢野康次，上野剛，多久和麻由子，中長摩利子，古田絢女，平山安希子，田村昌大，杉原匡美，依藤亨，近藤宏樹，三井田孝
成長ホルモン(GH)欠乏症におけるGH補充の血清脂質への影響はアポEフェノタイプにより異なる
第 64 回日本臨床検査医学会学術集会，京都市, 2017 年 11 月 16 日-11 月 19 日

132. 杉原匡美，柿木亮，村山尚，平山哲，森本幸生，呉林なごみ，三井田孝
拡張型心筋症モデルマウスにおける自発運動と強制運動
第 64 回日本臨床検査医学会学術集会，京都市, 2017 年 11 月 16 日-11 月 19 日

133. 藍智彦，三井田孝，堀江稔
A SCN5A variant associated with drug induced Brugada type ECG.
第 64 回日本臨床検査医学会学術集会，京都市, 2017 年 11 月 16 日-11 月 19 日

134. 田部陽子，土屋浩二，臼井健悟，大川貴裕，由利麻衣子，三澤成毅，堀井隆，三井田孝，山中康成，大坂顯通
BCR-ABL p210 陽性例での低値 BCR-ABL p190 同時検出における Eprobe 定量 PCR の有用性
第 64 回日本臨床検査医学会学術集会，京都市, 2017 年 11 月 16 日-11 月 19 日

135. Ueno T, Kazuno S, Hiraoka Y, Hiraoka, Miura Y.
Comprehensive analyses to idetify specific marker(s) forautophagic degradation.
3rd Congress, International Academy of Sportology，東京, 2017 年 10 月 14 日

136. 大内翔平，宮﨑哲朗，島田和典，高橋秀平，杉田有里那，清水めぐみ，加藤隆生，相川達郎，須田翔子，蔡榮龍，比企優，葛西隆敏，岩田洋，宮内克己，代田浩之
HbA1c7.0%未満の急性冠症候群患者における予後予測に関連する血糖コントロール指標
第 49 回日本動脈硬化学会，広島, 2017 年 7 月 6 日

137. 駒野悠太，藤井敏雄，内藤久士，石原美彦，深尾宏祐，島田和典，代田浩之
Lactococcus lactis JCM 5805（JCM5805）摂取が高負荷運動後の樹状細胞（DC）活性に及ぼす影響
第 72 回 日本体力医学会大会，松山市, 2017 年 9 月 18 日

138. 加藤悦郎，藤本進一郎，高村和久，川口裕子，青島千紘，比企誠，隈丸加奈子，代田浩之
320 列冠動脈 CT による 1 回転撮像から解析した Transluminal attenuation gradient (TAG)の機能的狭窄診断における臨床的意義

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 65 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2017 年 9 月

139. Kato T, Kasai T, Yatsu S, Matsumoto H, Murata A, Suda S, Hiki M, Daida H.
Acute effects of positive airway pressure on functional mitral regurgitation in systolic heart failure patients.
第 21 回日本心不全学会学術集会，秋田，秋田キャッスルホテル, 2017 年 10 月 13 日

140. Murata A, Kasai T, Yatsu S, Matsumoto H, Kato T, Suda S, Hiki M, Daida H.
Association Between Overnight Fluid Shift and Sleep Apnea Severity in Patients with Moderate-to-Severe Mitral Valve Regurgitation and Preserved Ejection Fraction.
第 65 回日本心臓病学会学術集会，大阪，大阪府国際会議場, 2017 年 9 月 30 日

141. 和田英樹，土肥智貴，宮内克己，土井信一郎， 内藤亮，小西宏和，坪井秀太，荻田学，葛西隆敏，岡崎真也，磯田菊生，諏訪哲，代田浩之
CONUT スコアによる栄養指標と冠動脈疾患を有する患者の 予後についての検討
第 26 回 日本心血管インターベンション治療学会，京都, 2017 年 7 月 6 日-8 日

142. Kato T, Kasai T, Yatsu S, Matsumoto H, Murata A, Suda S, Hiki M, Daida H.
Effects of 3-month astaxanthin supplementation on sleepiness, physical activity and health related quality-of-life in heart failure patients with sleep-disordered breathing.
第 21 回日本心不全学会学術集会，秋田，秋田キャッスルホテル, 2017 年 10 月 13 日

143. 土井信一郎，岡崎真也，船水岳大，宮崎彩記子，藤本進一郎，土肥静之，桑木賢次，天野篤，代田浩之
Evolut R の後拡張で balloon stuck を生じた 1 例
ストラクチャークラブ・ジャパン 2017，福岡, 2017 年 11 月 5 日

144. 大内翔平，宮崎哲朗，島田和典，高橋秀平，杉田有里那，清水めぐみ，加藤隆生，相川達郎，須田翔子，蔡榮龍，比企優，葛西隆敏，宮内克己，代田浩之
HbA1c7.0%未満の急性冠症候群患者における予後予測に関連する血糖コントロール指標
日本動脈硬化学会総会，広島, 2017 年 6 月，プログラム抄録集 49:219

145. 高野明日香，岩田洋，久保田京子，木村敦志，岡崎真也， 諏訪哲，住吉正孝，宮内克己，天野篤，代田浩之
IABP 使用中の血小板減少は、抜去後の心血管死亡と関係する
第 31 回冠疾患学会学術集会，大阪, 2017 年 12 月 15 日

146. Shitara J, Konishi H, Kasai T, Miyauchi K, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Tamura H, Okazaki S, Daida H.
Impact of lipoprotein (a) levels on long-term outcomes of patients with left ventricular systolic dysfunction after percutaneous coronary intervention.
第 21 回日本心不全学会学術集会，秋田，秋田にぎわい交流館 au, 2017 年 10 月 12 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

147. Kato T, Kasai T, Yatsu S, Murata A, Shitara J, Shimizu M, Matsumoto H, Suda S, Hiki M, Takagi A, Daida H.
Influence of low admission levels of arterial carbon dioxide on clinical outcomes in patients with acute decompensated heart failure.
第 21 回日本心不全学会学術集会，秋田，秋田キャッスルホテル, 2017 年 10 月 13 日

148. 清水めぐみ，宮崎哲朗，塩澤淳，杉田有里那，相川達郎，大内翔平，比企優，金子晴香，永山正隆，石島旨章，島田和典，金子和夫，代田浩之
Locomotive 症候群患者において多価不飽和脂肪酸は無症候性深部静脈血栓症の発症に関連する
日本動脈硬化学会総会，広島, 2017 年 6 月，プログラム抄録集 49:210

149. Hiki M, Iwata H, Kasai T, Daida H.
Low heart rate in combination with low systolic blood pressure at initial presentation predicts high mortality in patients with acute decompensated heart failure.
第 21 回日本心不全学会学術集会，秋田，秋田キャッスルホテル, 2017 年 10 月 13 日

150. 岡崎真也、土井信一郎、西山大樹、宮崎彩記子、藤本進一郎、土肥静之、桑木賢次、天野篤、代田浩之
MVR 術後 AS 症例に対して TAVI を施行した 1 例
ストラクチャークラブ・ジャパン 2017，福岡, 2017 年 11 月 4 日

151. 土井信一郎，岩田洋，宮内克己，和田英樹，内藤亮，小西宏和，坪井秀太，荻田学，華藤芳輝，岡井巌，土肥智貴，葛西隆敏，岡崎真也，磯田菊生，代田浩之
PCI 施行患者における血清低総コレステロールと低中性脂肪は生命予後増悪因子であった
第 65 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2017 年 9 月 29 日-10 月 1 日

152. 西尾亮太，土井信一郎，岡崎真也，船水岳大，宮崎彩記子，代田浩之
PFO+small ASD に治療した一例
ストラクチャークラブ・ジャパン 2017，福岡, 2017 年 11 月 5 日

153. Hiki M, Kasai T, Matsumoto H, Murata A, Kato T, Suda S, Yatsu S, Daida H.
Serum sodium level within the low-normal range is associated with long-term clinical outcomes in patients with acute decompensated heart failure.
第 21 回日本心不全学会学術集会，秋田，秋田キャッスルホテル, 2017 年 10 月 12 日

154. 相川達郎，宮崎哲朗，杉田有里那，國本充洋，清水めぐみ，大内翔平，門口智泰，塩澤知之，比企優，高橋秀平，島田和典，代田浩之
Vitamin D 低値は omega-3 脂肪酸および炎症と関連し急性心疾患患者の長期予後に影響する
第 65 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2017 年 9 月，抄録 65:DP-24

155. 藤本進一郎，隈丸加奈子，川口裕子，土肥智貴，高村和久，加藤悦郎，華藤芳輝，比企 誠，岡崎真也，代田浩之

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

オンサイト解析ソフトウェアによる流体構造連成.解析を用いた CT-FFR の現況
第 65 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2017 年 9 月 (シンポジウム)

156. 土井信一郎，土肥智貴，宮内克己，遠藤裕久，和田英樹，内藤亮，小西宏和，坪井秀太，荻田学，華藤芳輝，岡井 巌，葛西隆敏，岡崎真也，磯田菊生，代田浩之
急性冠症候群発症の季節性と長期予後について
第 26 回 日本心血管インターベンション治療学会，京都, 2017 年 7 月 6 日-8 日

157. 本沢晶雄，横山美帆，島田和典，山田みき，渡邉英孝，諏訪太一，山崎優太，菊地佑太，吉野このか，高橋秀平，塩澤知之，相川達郎，松原友美，星野祐里子，土井信一郎，岡崎真也，桑木賢次，藤原俊之，天野篤，代田浩之
経カテーテル大動脈弁植え込み術施行例における Failty score の変化
第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術大会，岐阜, 2017 年 7 月 16 日

158. 喜多村健一，磯田菊生，岡崎真也，華藤芳輝，青木映莉子，岩田 洋，西山大樹，遠藤裕久，清水孝史，土井信一郎，和田英樹，土肥智貴，小西宏和，坪井秀太，荻田学，諏訪 哲，代田浩之
大動脈内に突出した右冠動脈ステントを gooseneck snare とロータブレータの併用で良好に処理した 1 例
第 26 回 日本心血管インターベンション治療学会，京都, 2017 年 7 月 8 日

159. 岡井巌，土肥智貴，岡崎真也，重城健太郎，中島真，大槻尚男，田中一樹，川嶋秀幸，奈良有悟，興野寛幸，山口淳一，宮内克己，代田浩之，上妻謙，萩原誠久
ロータブレーター施行症例の長期予後に関する検討：J2T レジストリーより
第 26 回 日本心血管インターベンション治療学会，京都, 2017 年 7 月 6 日

160. 遠藤裕久，土肥智貴，宮内克己，和田英樹，土井信一郎，内藤 亮，小西宏和，坪井秀太,荻田学，岡井巌，岩田洋，葛西隆敏，岡崎真也，磯田菊生，代田浩之
安定冠動脈疾患患者の長期予後における高感度 CRP と性差の関連
第 65 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2017 年 9 月 29 日-10 月 1 日

161. 和田英樹，土肥智貴，宮内克己，設楽 準，遠藤裕久，井信一郎，坪井秀太，荻田学，葛西隆敏，岡崎真也，磯田菊生，諏訪哲，代田浩之
安定狭心症患者における待機的経皮的冠動脈インターベンション後の長期予後と好中球・リンパ球数比についての検討
第 65 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2017 年 9 月 29 日-10 月 1 日

162. 西尾亮太，磯田菊生，岡崎真也，華藤芳輝，岡井巌，西山大樹，喜多村健一，土肥智貴，岩田洋，代田浩之
右冠動脈入口部より突出したステントに対し、ロータブレターとスネアの併用で処置した 1 例
第 1 回日本集中治療学会関東甲信越支部学術集会,大宮, 2017 年 7 月 29 日

163. 遠藤裕久，土肥智貴，宮内克己，和田英樹，土井信一郎，岩田洋，葛西隆敏，岡崎真也，磯田

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

菊生，代田浩之
冠動脈形成術後における肥満度の予後に与える影響
第 31 回冠疾患学会学術集会，大阪, 2017 年 12 月 15 日

164. 遠藤裕久，土肥智貴，宮内克己，和田英樹，土井信一郎，内藤亮，小西宏和，坪井秀太，荻田学，華藤芳輝，岩田洋，葛西隆敏，岡崎真也，磯田菊生，代田浩之
冠動脈形成術後の男性患者における年齢と肥満度の予後に与える影響
第 65 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2017 年 9 月 29 日

165. 清水めぐみ，葛西隆敏，島田和典，代田浩之
冠動脈疾患患者における尿酸の日内変動および酸化ストレスとの関連
第 65 回日本心臓病学会学術集会，大阪，大阪府国際会議場, 2017 年 10 月 1 日

166. 清水めぐみ，宮崎哲朗，杉田有里那，大内翔平，相川達郎，比企優，島田和典，代田浩之
急性期心血管疾患患者において血清コエンザイム Q10 値は長期予後と相関する
第 65 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2017 年 9 月，抄録 65:P-144

167. 大内翔平，宮崎哲朗，島田和典，杉田有里那，清水めぐみ，加藤隆生，相川達郎，須田翔子，塩澤知之，比企優，高橋秀平，葛西隆敏，岩田洋，宮内克己，代田浩之
急性心不全患者の長期予後に対する GNRI と多価不飽和脂肪酸の臨床的意義の検討
第 65 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2017 年 9 月，抄録 65:P-221

168. 比企優，岩田洋，谷津翔一朗，村田梓，加藤隆生，須田翔子，高須清，葛西隆敏，宮崎哲朗，代田浩之
急性非代償性心不全(ADHF)患者における日内変動の発症と予後との関連
第 65 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2017 年 9 月，抄録 65:O-153

169. 比企 優，葛西隆敏，代田浩之
急性非代償性心不全患者における 膵外分泌機能に関する検討
第 21 回日本心不全学会学術集会，秋田，秋田キャッスルホテル, 2017 年 10 月 13 日

170. 比企優，磯田菊生，高橋徳仁，岩田洋，藤本進一郎，岡崎真也，代田浩之
巨大血栓を補足した一時的下大静脈フィルター回収に、血栓溶解療法と吸引が有効だった 1 例
第 1 回日本集中治療学会関東甲信越支部学術集会，大宮, 2017 年 7 月 29 日

171. 設楽準，土肥智貴，宮内克己，遠藤裕久，和田英樹，土井信一郎，内藤亮，小西宏和，坪井秀太，荻田学，岩田洋，葛西隆敏，岡崎真也，磯田菊生，代田浩之
経皮的冠動脈形成術後遠隔期の高感度 CRP 値と BMI が長期予後に与える影響
第 65 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2017 年 9 月 29 日-10 月 1 日

172. 船水岳大，岩田洋，土井信一郎，遠藤裕久，和田英樹， 内藤亮，小西宏和，坪井秀太，荻田学，土肥智貴，葛西隆敏，岡崎真也，磯田菊生，宮内克己，代田浩之
経皮的冠動脈形成術症例における持続的なヘモグロビン低値は、死亡率上昇のリス クである

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 31 回冠疾患学会学術集会，大阪, 2017 年 12 月 15 日

173. 和田英樹，土肥智貴，宮内克己，設楽準，遠藤裕久，土井信一郎，坪井秀太，荻田学，葛西隆敏，岡崎真也，磯田菊生，代田浩之
好中球リンパ球数比と待機的に経皮的冠動脈インターベンションを施行した患者の 長期予後についての検討
第 31 回冠疾患学会学術集会，大阪, 2017 年 12 月 15 日

174. 岩田洋，内藤亮，宮内克己，代田浩之
抗炎症，ApoA1 上昇を標的とした抗動脈硬化治療-新たな PPARα アゴニスト，ペマフィブラートの可能性
第 65 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2017 年 10 月 1 日

175. 清水めぐみ，葛西隆敏，島田和典，代田浩之
高血圧を合併した冠動脈疾患患者における尿酸の日内変動および酸化ストレスとの関連
第 40 回日本高血圧学会総会，ひめぎんホール, 2017 年 10 月 20 日

176. 國本充洋，島田和典，横山美帆，本沢晶雄，山田みき，松原友美，相川達郎，大内翔平，清水めぐみ，深尾宏祐，宮崎哲朗，嶋田晶江，山本平，天野篤，代田浩之
高齢心臓リハビリテーション患者における「基本チェックリスト」を用いたフレイル判定と血中脂肪酸との関係
第 65 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2017 年 9 月，抄録 65:P-181

177. 本沢晶雄，横山美帆，島田和典，山田みき，松原友美，相川達郎，大内翔平，清水めぐみ,國本充洋，深尾宏祐，岩田洋，宮崎哲朗，嶋田晶江，山本平，天野篤，代田浩之
高齢心臓リハビリテーション施行患者における基本チェックリストスコアと不安レベルとの関連
第 65 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2017 年 9 月 29 日

178. 加藤隆生，土井信一郎，平野景子，葛西隆敏，岡崎真也，代田浩之
心室中部閉塞性肥大型心筋症を合併した家族性心 Fabry 病の 1 例
第 3 回心筋症研究会，岐阜，長良川国際会議場, 2017 年 4 月 22 日

179. Yatsu S, Kasai T, Murata A, Matsumoto H, Kato T, Suda S, Hiki M, Konish H, Daida H.
心不全患者におけるレストレスレッグス症候群の臨床的意義
第 42 回日本睡眠学会学術集会，神奈川，パシフィコ横浜, 2017 年 6 月 29 日

180. 加藤隆生，葛西隆敏，谷津翔一朗，松本紘毅，村田梓，須田翔子，比企優，代田浩之
睡眠呼吸障害を有する心不全患者におけるアスタキサンチン服用効果の主観的眠気への効果
第 42 回日本睡眠学会学術集会，神奈川，パシフィコ横浜, 2017 年 6 月 30 日

181. 清水めぐみ，宮崎哲朗，塩澤淳，杉田有里那，相川達郎，大内翔平，比企優，金子晴香，永山正隆，石島旨章，島田和典，金子和夫，代田浩之
静脈血栓症と多価不飽和脂肪酸との関連－ω3 脂肪酸は静脈血栓症の予防ターゲットとなり得

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

るかー
第 3 回 J-ISCP 学術集会，東京, 2017 年 6 月 17 日

182. 谷津翔一朗，葛西隆敏，村田梓，松本紘毅，加藤隆生，須田翔子，比企優，宮崎彩記子， 代田浩之
大動脈弁狭窄症患者における気道陽圧による血行動態への影響
第 65 回日本心臓病学会学術集会，大阪，大阪府国際会議場, 2017 年 9 月 29 日-10 月 1 日

183. 横山美帆，島田和典，葛西隆敏，加藤隆生，比企優，國本充洋，山田みき，本沢晶雄，渡邉英孝，代田浩之
当院における心不全退院前カンファレンスの立ち上げと心不全チーム医療の実際
第 21 回心不全学会 2017 年 10 月 14 日　秋田

184. 塩澤知之，林英守，松本紘毅，川口裕子，田淵晴名，関田学，諏訪哲，住吉正孝，中里　祐二，代田浩之
特発性心室頻拍に対する右室流出路アブレーション後に Dressler’s syndrome を合併した一例
カテーテルアブレーション関連大会 2017，札幌, 2017 年 7 月 7 日

185. 相川達郎，宮﨑哲朗，島田和典，吉原琢磨，杉田有里那，喜多村健一，國本充洋，清水めぐみ，大内翔平，門口智泰，塩澤知之，横山康孝，比企優，高橋秀平，土肥静之，天野篤，代田浩之
腹部大動脈瘤の発症と進展における ω3 脂肪酸の役割
第 64 回六甲カルディアックセミナー，神戸, 2017 年 8 月 5 日

186. 守屋壮志，遠藤裕久，岩田洋，藤原圭，川口裕子，高須清，比企優，土肥智貴，代田浩之
保存的加療で軽快した縦隔炎に合併した A 群 β 溶連菌による急性化膿性心膜炎の一例
第 65 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2017 年 9 月 29 日

187. 桑原瑛里，横山美帆，深山直実，盛光昭子，武藤香，山田みき，本沢晶雄，松原友美，深尾宏祐，相川達郎，大内翔平，清水めぐみ，國本充洋，島田和典，代田浩之
慢性心不全患者における心不全手帳の有用性
日本心臓リハビリテーション学会第 2 回関東甲信越支部地方会，松本市, 2017 年 9 月 16 日

188. 川口裕子，藤本進一郎，隈丸加奈子，土肥智貴，加藤悦郎，青島千紘，高村和久，比企　誠，華藤芳輝，岡崎真也，代田浩之
流体構造連成.解析を用いた CT-FFR の診断能に影響を与える因子の検討
第 65 回日本心臓病学会学術集会，大阪，2017 年 9 月

189. Tatsuro Aikawa, Hiroshi Iwata, Kan Kajimoto, Kiyoshi Takasu, Masaru Hiki, Tomotaka Dohi, Atsushi Amano, Hiroyuki Daida.
A case of high-output heart failure caused by arteriovenous fistula due to iliac aneurysm rupturing inferior vena cava.
第 21 回心不全学会，秋田, 2017 年 10 月 12 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

190. 清水めぐみ, 宮崎哲朗, 塩澤淳, 杉田有里那, 相川達郎, 大内翔平, 比企優, 金子晴香, 永山正隆, 石島旨章, 島田和典, 金子和夫, 代田浩之
Locomotive 症候群において多価不飽和脂肪酸は無症候性深部静脈血栓症に関連する
第 49 回日本動脈硬化学会総会プログラム, 広島, 2017 年 7 月 6 日-7 日

191. 島田和典
心血管イベント高リスク患者における新たな脂質低下療法の選択肢
第 3 回 J-ISCP 学術集会, 東京, 2017 年 6 月 18 日

192. Kumamaru KK, Fujimoto S, Kawaguchi Y, Dohi T, Ri K, Yamada S, Takamura K, Daida H, Aoki S.
Diagnostic Performance of CT-derived Fractional Flow Reserve Based on Structural and Fluid Analysis: Comparison with Invasive Fractional Flow Reserve.
第 76 回日本医学放射線学会総会, 神奈川, 2017 年 4 月 13 日-16 日

193. Nakanishi A, Tamamoto F, Motoi Y, Suzuki M, Kamagata K, Murakami K, Hori M, Aoki S.
MRI and nuclear medicine imaging patterns of atypical Parkinsonian syndrome.
第 76 回日本医学放射線学会総会, 神奈川, 2017 年 4 月 13 日-16 日

194. 岩﨑敬, 福永一星, 濱崎望, 佐藤秀二, 芳士戸治義, 堀正明, 青木茂樹
Multi-band Echo Planar Imaging による Leakage-Block の基礎的検討
第 73 回日本放射線技術学会総会学術大会, 神奈川, 2017 年 4 月 13 日-16 日

195. Christina Andica, Akifumi Hagiwara, Misaki Nakazawa, Asami Saito, Ryo Ueda, Aki Hattori, Sho Murata, Nao Takano, Masaaki Hori, Shigeki Aoki.
SyMRI Automated Brain Tissue and Myelin Volumetry with Various In-plane Resolutions.
第 40 回日本神経科学大会, 千葉, 2017 年 7 月 20 日-23 日

196. Hagiwara A, Warntjes M, Hori M, Andica C, Nakazawa M, Kumamaru KK, Abe O, Aoki S.
SyMRI of the Brain: Rapid Quantification of Relaxation Rates and Proton Density, With Synthetic MRI, Automatic Brain Segmentation, and Myelin Measurement.
Society of Advanced Medical Imaging (SAMI) 2017, 大阪, 2017 年 7 月 22 日-23 日

197. アンディカ クリスティナ, 萩原彰文, 堀正明, 横山和正, 竹村茉利子, 隈丸加奈子, 中澤美咲, 高野直, 川崎英生, 佐藤秀二, 濱崎望, 國松聡, 青木茂樹
日本発の論文紹介「髄鞘と浮腫の状態を評価するマルチパラメトリック定量 MRI による多発性硬化症患者における白質障害の評価」
Society of Advanced Medical Imaging (SAMI) 2017, 大阪, 2017 年 7 月 22 日-23 日

198. Andica C, Kamagata K, Hatano K, Okuzumi A, Saito A, Nakazawa M, Ueda R, Motoi Y, Kamiya K, Suzuki M, Hori M, Kumamaru KK, Hattori N, Aoki S.
Retrograde degeneration of the nigrostriatal pathway in Parkinson Disease Evaluated with Neurite Orientation Dispersion and Density Imaging and Tract-Profile Analysis.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第1回ヒト脳イメージング研究会，東京, 2017 年 9 月 1 日-2 日

199. 高村朋宏，中西淳，栗崎愛子，福村由紀，前川朋子，入江隆介，隈丸加奈子，鈴木通真，堀正明，青木茂樹
耳下腺原発 sialolipoma の 1 例
第 30 回頭頸部放射線研究会，松山, 2017 年 9 月 9 日

200. Tomoko Maekawa, Masaaki Hori, Issei Fukunaga, Katsutoshi Murata, Saori Koshino, Andica Christina, Ryusuke Irie, Akifumi Hagiwara, Syo Murata, Nozomi Hamasaki, Moeko Horita, Yuki Takenaka, Shigeki Aoki.
Oscillating gradient spin echo（OGSE）法の拡散強調像の基礎的検討：基質の粘稠度の違いによる ADC 値の変化
第 45 回日本磁気共鳴医学会大会，宇都宮, 2017 年 9 月 14 日-16 日

201. Yutaka Ikenouchi, Koji Kamagata, Yuki Takenaka, Masaaki Hori, Asami Saito, Aki Hattori, Christina Andica, Ryusuke Irie, Kanako K Kumamaru, Michimasa Suzuki, Taku Hatano, Shinji Saiki, Yumiko Motoi, Nobutaka Hattori, Shigeki Aoki.
Microscopic fractional anisotropy を用いたパーキンソン病における大脳白質の微細構造評価
第 45 回日本磁気共鳴医学会大会，宇都宮, 2017 年 9 月 14 日-16 日

202. Saori Koshino, Christina Andica, Masaaki Hori, Michimasa Suzuki, Akifumi Hagiwara, Kouhei Kamiya, Tomoko Maekawa, Ryusuke Irie, Issei Fukunaga, Syo Murata, Moeko Horita, Yuki Takenaka, Shigeki Aoki.
Oscillating Gradient Spin Echo（OGSE）法を用いた拡散時間の短い拡散強調像による急性期脳梗塞の病態分析
第 45 回日本磁気共鳴医学会大会，宇都宮, 2017 年 9 月 14 日-16 日

203. Masaaki Hori, Kouhei Tsuruta, Kouhei Kamiya, Ryusuke Irie, Christina Andica, Michimasa Suzuki, Tomoko Maekawa, Saori Koshino, Issei Fukunaga, Syo Murata, Yasuhiko Tachibana, Katsutoshi Murata, Shigeki Aoki.
NODDI における intracellular volume fraction の拡散時間依存性
第 45 回日本磁気共鳴医学会大会，宇都宮, 2017 年 9 月 14 日-16 日

204. Kouhei Kamiya, Masaaki Hori, Kouhei Tsuruta, Ryusuke Irie, Saori Koshino, Osamu Abe, Shigeki Aoki.
DKI 定量値の拡散時間依存性に関する初期検討
第 45 回日本磁気共鳴医学会大会，宇都宮, 2017 年 9 月 14 日-16 日

205. Ryusuke Irie, Kouhei Kamiya, Masaaki Hori, Michimasa Suzuki, Akifumi Hagiwara, Tomoko Maekawa, Saori Koshino, Issei Fukunaga, Syo Murata, Takashi Iwasaki, Yuki Takenaka, Moeko Horita, Madoka Nakajima, Masakazu Miyajima, Shigeki Aoki.
MTsat 法を用いた特発性正常圧水頭症患者の白質ミエリン量の推定
第 45 回日本磁気共鳴医学会大会，宇都宮, 2017 年 9 月 14 日-16 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

206. Akifumi Hagiwara, Masaaki Hori, Daisuke Matsuyoshi, Ryusuke Irie, Kouhei Kamiya, Koji Kamagata, Tomoko Maekawa, Christina Andica, Saori Koshino, Misaki Nakazawa, Ryo Ueda, Moeko Horita, Yuki Takenaka, Osamu Abe, Shigeki Aoki.
MRI にて異なる撮像法で得られるミエリンマップの比較検討
第 45 回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮, 2017 年 9 月 14 日-16 日

207. Moeko Horita, Akifumi Hagiwara, Masaaki Hori, Christina Andica, Saori Koshino, Tomoko Maekawa, Ryusuke Irie, Koji Kamagata, Misaki Nakazawa, Ryo Ueda, Erina Takemura, Takuya Haruyama, Yukiho Maruyama, Yuki Takenaka, Nozomi Hamasaki, Osamu Abe, Takako Shirakawa, Shigeki Aoki, Akira Furukawa.
QRAPMSTER（SyMRI）で得られる定量値の MRI 装置間・装置内での信頼性に関する検討
第 45 回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮, 2017 年 9 月 14～16 日

208. Nao Takano, Michimasa Suzuki, Ryusuke Irie, Masaaki Hori, Shigeki Aoki.
頸動脈ステントは Ultrashort TE MRA における ASL のラベリング効率を低下させる
第 45 回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮, 2017 年 9 月 14 日-16 日

209. Takashi Iwasaki, Issei Fukunaga, Syo Murata, Kohei Tsuruta, Nozomi Hamasaki, Hideo Kawasaki, Nao Takano, Shuji Sato, Haruyoshi Hoshito, Saori Koshino, Ryusuke Irie, Michimasa Suzuki, Katsutoshi Murata, Masaaki Hori, Shigeki Aoki.
GRAPPA を併用した Multiband EPI による Leakage-Block の画像的影響の評価
第 45 回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮, 2017 年 9 月 14 日-16 日

210. Christina Andica, Masaaki Hori, Saori Koshino, Akifumi Hagiwara, Issei Fukunaga, Syo Murata, Nozomi Hamasaki, Michimasa Suzuki, Katsutoshi Murata, Atsushi Arakawa, Shigeki Aoki.
Diffusion Coefficient of Intracranial Epidermoid Cysts Analyzed by DWI with Shorter Diffusion Time: Is It Spatial or Viscous Restriction?
第 45 回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮, 2017 年 9 月 14 日-16 日

211. Aki Hattori, Koji Kamagata, Moeko Horita, Yuki Takenaka, Christina Andica, Yuzuru Ikenouchi, Asami Saito, Masaaki Hori, Shigeki Aoki.
パーキンソン病の認知機能障害における DKI,NODDI 解析と Volumetry
第 45 回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮, 2017 年 9 月 14 日-16 日

212. Jun Haneda, Ryusuke Irie, Koji Kamagata, Masaaki Hori, Yuki Takenaka, Aurelien Kerever, Junichi Hata, Hideyuki Okano, Taku Hatano, Takahiro Koinuma, Shigeto Sato, Akio Mori, Nobutaka Hattori, Eri Hirasawa, Shigeki Aoki.
9.4T MRI における拡散イメージング手法を用いたパーキンソン病モデルマウスの微細構造の測定
第 45 回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮, 2017 年 9 月 14 日-16 日

213. Syo Murata, Katsutoshi Murata, Yasuhiko Tachibana, Masaaki Hori, Koji Kamagata, Michimasa

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Suzuki, Kanako Kumamaru, Ryusuke Irie, Shuji Sato, Nozomi Hamasaki, Issei Fukunaga, Kohei Tsuruta, Saori Uchioke, Haruyoshi Hoshito, Shigeki Aoki.
SMS-TSE sequence と Conventional TSE sequence の MT 効果の比較・検討
第 45 回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮, 2017 年 9 月 14 日-16 日

214. Asami Saito, Koji Kamagata, Moeko Horita, Yuki Takenaka, Pradeepa Ruwan, Yutaka Ikenouchi, Aki Hattori, Christina Andica, Taku Hatano, Msaaki Hori, Nobutaka Hattori, Shigeki Aoki.
パーキンソン病における黒質線条体の DKI, NODDI と dopamine transporter SPECT との関連
第 45 回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮, 2017 年 9 月 14 日-16 日

215. 清村 幸雄, 黒澤尚, 石島旨章, 土屋勝, 金子晴香, 澤満美子, 岩瀬嘉志, 金子和夫
変形性膝関節症に対する運動療法は血清インターロイキン 6 濃度を低下させる
第 90 回日本整形外科学会学術総会, 仙台 2017 年 5 月 18 日-21 日

216. 有田均, 金子晴香, 石島旨章, 石橋雅義, 塩澤淳, 劉立足, 羽田晋之介, 木下真由子, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
末期内側型変形性膝関節症患者の歩行速度と内側半月板逸脱との関連
第 90 回日本整形外科学会学術総会, 仙台 2017 年 5 月 18 日-21 日

217. 土屋勝, 黒澤尚, 石島旨章, 清村幸雄, 金子晴香,澤満美子, 野尻英俊, 岩瀬嘉志, 金子和夫
変形性膝関節症患者の血清 IL-1Ra 濃度は関節液中 IL-1Ra 濃度を反映する
第 90 回日本整形外科学会学術総会, 仙台, 2017 年 5 月 18 日-21 日

218. アニワルジャン ユスプ, 石島旨章, 金子晴香, 劉立足, 羽田晋之介, 木下真由子, 塩澤淳, 有田均, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
末期変形性膝関節症における軟骨下骨の構造変化と滑膜の TGF-β シグナル活性化との関連
第 90 回日本整形外科学会学術総会, 仙台, 2017 年 5 月 18 日-21 日

219. 金子晴香, 石島旨章, 有田均, 石橋雅義, 劉立足, 羽田晋之介, 木下真由子, 塩澤淳, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
装着型小型歩行解析装置を用いた変形性膝関節症に対する術式別の歩行動態の検討
第 90 回日本整形外科学会学術総会, 仙台, 2017 年 5 月 18 日-21 日

220. 木下真由子, 石島旨章, 坂本優子, 金子晴香, 定月亮, 羽田晋之介, 有田均, 塩澤淳, 山中誠, 野尻英俊, 金子和夫
骨吸収抑制剤に対する反応不良の機序:ビスホスホネート製剤からデノスマブへの切替後の反応の解析
第 90 回日本整形外科学会学術総会,仙台, 2017 年 5 月 18 日-21 日

221. 劉立足, 石島旨章,金子晴香, 羽田晋之介, 木下真由子, アニワルジャン・ユスプ, 塩澤淳, 有田均, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
人工膝関節置換術後の疼痛及び臨床症状に影響を与える術後下肢アライメント指標のカットオフ値

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 90 回日本整形外科学会学術総会，仙台, 2017 年 5 月 18 日-21 日

222. 羽田晋之介，石島旨章，金子晴香，劉立足， Anwarjan Yusup，木下真由子，有田均，塩澤淳，青木孝子，高澤祐治，池田浩，楠瀬浩一，岡田保典，金子和夫
初期変形性膝関節症の内側半月板逸脱は脛骨内側の骨棘距離と相関する
第 90 回日本整形外科学会学術総会，仙台, 2017 年 5 月 18 日-21 日

223. 塩澤淳，石島旨章，永山正隆，金子晴香，宮崎哲朗，清水めぐみ，劉立足，高澤祐治，池田浩，代田浩之，金子和夫
末期変形性膝関節症における無症候性深部静脈血栓症の保有率とリスク因子
第 90 回日本整形外科学会学術総会，仙台, 2017 年 5 月 18 日-21 日

224. 有田均，金子晴香，石島旨章，羽田晋之介，木下真由子，定月亮，二見一平，塩澤淳，平澤恵理，金子和夫
パールカンが関連する膝滑膜間葉系細胞の遺伝子発現プロファイルの網羅的解析
第 49 回日本結合組織学会学術大会．三重, 2017 年 6 月 16-17 日

225. 有田均，金子晴香，石島旨章，石橋雅義，定月亮，羽田晋之介，木下真由子，塩澤淳， 高澤祐治，池田浩，金子和夫
初期変形性膝関節症患者の歩行速度と患者立脚型機能評価は相関する
第9回 JOSKAS．札幌, 2017 年 6 月 22 日-24 日

226. 劉立足，石島旨章,金子晴香，木下真由子，塩澤淳，有田均，青木孝子，田村好史，綿田裕孝，高澤祐治，池田浩，金子和夫
壮年期男性の関節裂隙狭小化のリスク因子としての血清 TRACP-5b -3 年間の縦断研究
第 35 回日本骨代謝学会学術集会，福岡, 2017 年 7 月 28 日

227. 金子晴香，石島旨章，羽田晋之介，有田均，劉立足，木下真由子，塩澤淳，青木孝子，長尾雅史，齋田良知，高澤祐治，池田浩，金子和夫
ビタミン D 充足状態と変形性膝関節症の骨棘の石灰化との関連
第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会，沖縄, 2017 年 10 月 26 日-27 日

228. 金子晴香，石島旨章，アニワルジャン・ユスプ，劉立足,有田均，塩澤淳，木下真由子，羽田晋之介，長尾雅史，斎田良知，高澤祐治，池田浩，金子和夫
変形性膝関節症の慢性疼痛と関連する滑膜炎と軟骨下骨病変そして滑膜の TGF-β シグナル活性化の関連（シンポジウム）
第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会，沖縄, 2017 年 10 月 26 日-27 日

229. 有田均，金子晴香，石島旨章，羽田晋之介，木下真由子，定月亮，二見一平，塩澤淳，平澤恵理， Yoshihiko Yamada，金子和夫
パールカンにより制御される滑膜間葉系細胞の遺伝子の網羅的解析
第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会，沖縄, 2017 年 10 月 26 日-27 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

230. 有田均, 金子晴香, 石島旨章, 石橋雅義, 劉立足, 羽田晋之介, 木下真由子, 塩澤淳, 長尾雅史, 斎田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
装着型小型歩行解析装置を用いた末期変形性関節症患者における人工関節置換術前後の階段昇降時の歩行動態の解析
第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会, 沖縄, 2017 年 10 月 26 日-27 日

231. 羽田晋之介,石島旨章, 金子晴香, 木下真由子, 有田均, 塩澤淳, 高澤祐治, 池田浩, 楠瀬浩一, 岡田保典, 金子和夫
初期変形性膝関節症において内側半月板逸脱は内側脛骨側骨棘と関連する
第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会, 沖縄, 2017 年 10 月 26 日-27 日

232. 金子晴香, 木下真由子, 石島旨章, 北出真理, 櫻庭景植, 金子和夫
女性アスリートのビタミン D 充足状況
日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2017 年 11 月 18 日

233. Dilokhuttakarn T, 内藤聖人, 杉山陽一, 木下真由子, 金子和夫
手根管症候群患者における母指球萎縮の意義− MRI を用いた母指球筋の評価.
第 60 回日本手外科学会, 名古屋, 2017 年 4 月 27 日

234. 市原理司, リベルノ・フィリップ, 原章, 楠瀬浩一, 金子和夫
橈骨遠位端骨折に対する hemiarthroplasty の有用性と課題
第 60 回日本手外科学会,名古屋,2017 年 4 月 27 日

235. 糸魚川善昭, 高澤祐治, 丸山祐一郎, 吉田圭一, 坂井建雄, 金子和夫
膝前十字靭帯再建術に用いる移植腱の評価　～超音波剪断波エラストグラフィーの有用性～
第 90 回日本整形外科学会学術集会, 仙台, 2017 年 5 月 18 日-21 日

236. 糸魚川善昭, 高澤祐治, 丸山祐一郎, 吉田圭一, 金澤博明, 大沢亜紀, 金子和夫
超音波剪断波エラストグラフィーを用いた膝前十字靭帯再建術での移植腱の評価法
第 9 回日本関節鏡、膝、スポーツ整形外科学会, 札幌, 2017 年 6 月 22 日-24 日

237. 糸魚川善昭, 吉田圭一, 和田知樹, 川崎隆之, 長谷川圭紀, 祖父江省吾, 金子和夫
Effect of Shear wave elastography to pre-operative evaluation for rotator cuff repair compared to MRI.
第 44 回日本肩関節学会,東京,2017 年 10 月 6 日-8 日

238. 糸魚川善昭, 井樋栄二, 金子和夫
Should SLAP lesion be repaired for combined Bankart and SLAP lesions?
第 44 回日本肩関節学会,東京,2017 年 10 月 6 日-8 日

239. 糸魚川善昭, 和田知樹, 吉田圭一, 金澤博明, 丸山祐一郎, 金子和夫
超音波剪断波エラストグラフィーは MRI より腱板修復術中の腱板の硬さを予測できる
第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会, 沖縄, 2017 年 10 月 26 日-27 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

240. 小畑宏介，内藤聖人，杉山陽一，大林治，金子和夫
超音波ガイド下腕神経叢ブロックによる橈骨遠位端骨折治療の現状
第 60 回日本手外科学会，名古屋, 2017 年 4 月 27 日

241. 加藤英，野沢雅彦，桑原宏朋，坂本優子，淺亮輔，金子和夫
人工股関節全置換術後に発生した無症候性 PE についての検討
第 44 回日本股関節学会，東京, 2017 年 10 月

242. 金子彩夏，内藤聖人，杉山陽一，後藤賢司，岩瀬嘉志，大林治，金子和夫
関節リウマチ肘における尺骨神経変性断裂の一例
第 44 回日本マイクロサージャリー学会，宮崎, 2017 年 12 月 8 日

243. 亀田壮，齋田良知，池田浩，金勝乾，瀬戸宏明，長尾雅史，小林洋平，小林慶司，定月 亮，野沢雅彦，金子和夫
当教室における第 5 中足骨疲労骨折(Jones 骨折)に対する手術治療成績
第 9 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS)，札幌, 2017 年 6 月 22 日

244. 川崎隆之，長谷川圭紀，塩田有規，懸田健史，権田芳範，祖父江省吾，糸魚川善昭，金子和夫
コリジョンアスリート肩関節脱臼に対する Bristow-Latarjet 法の治療成績
日本整形外科学会総会，仙台, 2017 年 5 月 19 日，パネルディスカッション

245. 川崎隆之，真木伸一，祖父江省吾，田邊泰雅，長谷川圭紀，塩田有規，太田千尋，米田健,大野智貴，金子和夫，奥脇透
ラグビー選手の肩関節脱臼 予防への取り組み
日本整形外科スポーツ，宮崎, 2017 年 8 月 9 日，パネルディスカッション

246. 川崎隆之，長谷川圭紀，塩田有規，懸田健史，権田芳範，祖父江省吾，糸魚川善昭，金子和夫
ラグビー選手への Bristow-Latarjet 法の治療成績
第 44 回日本肩関節学会,東京,2017 年 10 月 6 日-8 日

247. 川崎隆之，長谷川圭紀，塩田有規，懸田健史，権田芳範，祖父江省吾，金子和夫
ラグビー選手の肩関節脱臼に対する Bristow-Latarjet 法の治療成績
第 44 回日本肩関節学会，東京, 2017 年 10 月 7 日

248. 木下真由子，内藤聖人，杉山陽一，後藤賢司，金子和夫
橈骨遠位端骨折患者はロコモティブシンドロームの予備軍である
第 60 回日本手外科学会，名古屋, 2017 年 4 月 27 日

249. 久保田光昭，大野隆一，百村励，成宮徳朗，山田大樹，福里晋，栗原大聖，金子和夫
HTO 後 MPTA95 度以上は膝関節機能を悪化させるか？

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 9 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS), 札幌, 2017 年 6 月 22 日-24 日

250. 後藤賢司, 内藤聖人, 杉山陽一, 木下真由子, 金子和夫
CT を用いた有鉤骨鉤の屈筋腱滑車機能についての考察
第 60 回日本手外科学会, 名古屋, 2017 年 4 月 27 日

251. 後藤賢司, 原 章, 山本康弘, 森本宏一, 梶原一, 金子和夫
外傷後 20 年以上経過ぎた小指深指屈筋腱皮下断裂の 1 例
第 66 回東日本整形災害外科学会,東京,2017 年 9 月 16 日

252. 後藤賢司, 内藤聖人, 杉山陽一, 木下真由子, 金子和夫
有鉤骨鉤の屈筋腱滑車機能についての考察
第 6 回 JJ 会合同カンファレンス, 東京, 2017 年 11 月 20 日

253. 小林洋平, 齋田良知, 西尾啓史, 定月亮, 羽田晋之介, 長尾史, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
膝関節内への多血小板血漿(PRP)注射療法の効果に影響を及ぼす因子の検討
日本整形外科スポーツ医学会,宮崎,2017 年 9 月 9 日

254. 小林洋平, 齋田良知, 西尾啓史, 小林慶司, 長尾雅史, 池田浩, 金子和夫
プロサッカー選手のハムストリング肉離れに対する多血小板血漿(PRP)療法 20 例の治療経験
第 9 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS), 札幌, 2017 年 6 月 22 日

255. 権田芳範, 川崎隆之, 懸田健史, 塩田有規, 祖父江省吾, 長谷川圭紀, 金子和夫
MRI 腋窩嚢関節包幅は肩回旋肢位により変化する
第 44 回日本肩関節学会,東京（高輪プリンスホテル）,2017 年 10 月

256. 齋田良知, 池田浩, 長尾雅史, 小林洋平, 小林慶司, 金子和夫
7 年間の Jones 骨折予防介入の結果報告
日本臨床スポーツ医学会, 東京, 2017 年 11 月 18 日

257. 齋田良知, 小林洋平, 西尾啓史, 池田浩, 金子和夫
当院における多血小板血漿(PRP)療法外来の現状
日本整形外科スポーツ医学会, 宮崎, 2017 年 9 月 9 日

258. 齋田良知, 村上憲治, 西尾啓史, 小林洋平, 金子和夫, 池田浩
有限要素法を用いた第 5 中足骨「不全」疲労骨折の骨破断強度測定の試み
第 9 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (JOSKAS), 札幌, 2017 年 6 月 22 日

259. 坂本優子, 石島旨章, 野沢雅彦, 金子和夫
ビタミン D 充足状態は寛骨臼形成に影響を与えるか？
第 56 回小児股関節研究会, 大阪, 2017 年 6 月

260. 佐々恵太, 内藤聖人, 杉山陽一, 金子和夫

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

ヒンジ付き創外固定を使用したパーキンソン病患者の肘関節脱臼の一例
第 5 回京大外傷研究会，大阪, 2017 年 6 月 3 日

261. 佐藤達哉，米澤郁穂，井上久，多田久里守，奥田貴俊，遠田慎吾，吉川慶，高野弘充，金子和夫
強直性脊椎炎の spinopelvic alignment の特性 と臨床成績評価法との関係 —腰椎変性後側弯症との比較から—
日本脊椎脊髄病学会，札幌, 2017 年 4 月 13 日

262. 佐藤達哉，米澤郁穂，嶋村之利，秋元俊成，寺田信幸，武藤治，百村励，奥田貴俊，遠田 慎吾，吉川慶，高野弘充，鈴木哲平，宇野耕吉，山崎健，金子和夫
側弯症の早期発見を可能とする 新しいスクリーニングシステムの開発と実用化 —3D カメラ内臓 hump 計測システム「デジタルモアレ」を用いて−
日本整形外科学会学術総会，仙台, 2017 年 5 月 18 日

263. 佐藤達哉，米澤郁穂，嶋村之利，秋元俊成，寺田信幸，武藤治，百村励，奥田貴俊，遠田慎吾，吉川慶，高野弘充，鈴木哲平，宇野耕吉，山崎健，金子和夫
側弯症の早期発見を可能とする新しいスクリーニングシステムの精度と信頼性 ー3D カメラ内臓 hump 計測システムを用いてー
日本側弯症学会，札幌, 2017 年 8 月 24 日

264. 佐藤達哉，米澤郁穂，東藤貢，高野弘充，金子和夫
Posterior Lumber Interbody Fusion (PLIF) におけるインプラント材質 (PEEK vs Titanium)の生体力学的検討
日本整形外科学会基礎学術総会，沖縄, 2017 年 10 月 26 日

265. 末原義之，高阪真路，赤池慶祐，林大久生，田邊 雄，大久保武人，窪田大介，高木辰哉，金子和夫，間野博行，齋藤 剛
低悪性軟部肉腫に新規融合遺伝子(LMNA-NTRK1)を有した1例
第 50 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会,京王プラザホテル，新宿，東京，2017 年 7 月 13 日-14 日

266. 末原義之，高阪真路，赤池慶祐，加藤俊介，林大久生，山口茂夫，田邊雄，窪田大介，高木辰哉，金子和夫，間野博行，齋藤剛
軟部肉腫 Pazopanib 著効例 “super-responder”に基づいた分子病理学的探索
第 50 回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会,京王プラザホテル 新宿 東京,2017 年 7 月 13 日-14 日

267. 杉山陽一，後藤賢司，木下真由子，内藤聖人，金子和夫
慢性腎不全患者のシャント側に発症した橈骨遠位端骨折の治療方針
第 60 回日本手外科学会，名古屋, 2017 年 4 月 27 日

268. 杉山陽一，後藤賢司，木下真由子，名倉奈々，内藤聖人，金子和夫

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

手関節形成術（Sauvé-Kapandji 法）後の橈骨 Scalloping についての検討
第 12 回順天堂リウマチカンファレンス，東京, 2017 年 7 月 5 日

269. 杉山陽一，宮本英明，木下真由子，内藤聖人，最上敦彦，大林治，金子和夫
超音波エラストグラフィーを用いた掌側ロッキングプレート固定後の正中神経弾性変化の調査
第 43 回日本骨折治療学会，郡山, 2017 年 7 月 8 日

270. 杉山陽一，後藤賢司，木下真由子，岩瀬嘉志，五十嵐庸，長岡功，内藤聖人，金子和夫
マウス屈筋腱における腱特異的遺伝子発現に対する加齢の影響
第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会，沖縄, 2017 年 10 月 26 日

271. 杉山陽一，後藤賢司，金子彩夏，名倉奈々，岩瀬嘉志，内藤聖人，金子和夫
月状骨に発生した類骨骨腫の一例
第 21 回順天堂大学整形外科手肘外科研究会，東京, 2017 年 12 月 2 日

272. 祖父江省吾，川崎隆之，佐志隆士，守屋秀一，長谷川圭紀，塩田有規，懸田健史，権田芳範，糸魚川善昭，金子和夫
ラグビー選手における脱臼、亜脱臼の自覚のない疼痛肩の特徴
第 44 回日本肩関節学会，東京, 2017 年 10 月 6 日-8 日

273. 高澤祐治，池田浩，斎田良知，石島旨章，金子晴香，長尾雅史，金子和夫
若年アスリートにおけるハムストリング腱による膝前十字靭帯再建術の問題点
第 90 回日本整形外科学会学術総会，仙台, 2017 年 5 月 18 日

274. 田邊雄，末原義之，林大久生，高阪真路，數野彩子，峰木礼子，向井原健太，赤池慶祐，石井翠，窪田大介，金子和夫，　Marc Ladanyi，齋藤剛
ユーイング肉腫における小胞体ストレス応答解析とその阻害剤による抗腫瘍効果検討
第 90 回日本整形外科学会学術総会,仙台国際センター，仙台市，宮城県, 2017 年 5 月 18-21 日

275. 内藤聖人，杉山陽一，木下真由子，岩瀬嘉志，金子和夫
橈骨遠位端骨折受傷時における長母指伸筋腱損傷の調査
第 60 回日本手外科学会，名古屋, 2017 年 4 月 27 日

276. 内藤聖人，杉山陽一，木下真由子，後藤賢司，金子和夫
橈骨遠位端骨折に対する小皮切手術
第 60 回日本手外科学会，名古屋, 2017 年 4 月 28 日

277. 内藤聖人，杉山陽一，木下真由子，岩瀬嘉志，金子和夫
パネルディスカッション：Marginal rim fracture に対する遠位設置プレートを用いた手術治療
第 60 回日本手外科学会，名古屋, 2017 年 4 月 28 日

278. 内藤聖人，杉山陽一，木下真由子，後藤賢司，岩瀬嘉志, Philippe LIVERNEAUX，金子和夫
手 Marginal rim fracture に対する遠位設置プレートを用いた手術治療すべきか？

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 90 回日本整形外科学会学術集会，仙台, 2017 年 5 月 18 日

279. 内藤聖人，杉山陽一，木下真由子，後藤賢司，岩瀬嘉志，最上敦彦，大林治，金子和夫
橈骨遠位端骨折受傷時における長母指伸筋腱損傷の調査
第 43 回日本骨折治療学会，郡山, 2017 年 7 月 7 日

280. 内藤聖人，杉山陽一，後藤賢司，岩瀬嘉志，高木辰哉，末原義之，窪田大介，水野博司，金子和夫
隆起性皮膚線維肉腫の治療経験
第 44 回日本マイクロサージャリー学会，宮崎, 2017 年 12 月 8 日

281. 中原大志，小林洋平，武光眞志，金子和夫
骨粗鬆症性椎体骨折に対する後方固定を併用した経皮的椎体形成
脊椎脊髄病学会，札幌, 2017 年4月

282. 中原大志，小林洋平，武光眞志，金子和夫
BKP 術後続発性骨折に関する検討
日本整形外科学会，仙台, 2017 年 5 月

283. 西尾啓史，齋田良知，小林洋平，高澤祐治，池田浩，金子和夫
難治性膝蓋腱炎に対する多血小板血漿(PRP)療法の効果に影響を及ぼす因子の検討
第 9 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 JOSKAS, 2017 年 6 月，札幌

284. 西尾啓史，齋田良知，村上憲治，小林洋平，長尾雅史，池田浩，金子和夫
第 5 中足骨疲労骨折(Jones 骨折)に対する髄内固定が骨破断強度・応力分散へ与える影響の検討
日本臨床スポーツ医学会，東京, 2017 年 11 月 18 日

285. 西尾啓史，齋田良知，小林洋平，高久智生，金子和夫
多血小板血漿(PRP)はマクロファージの遊走を介して腱の組織修復を促進する
日本整形外科学会，仙台, 2017 年 5 月 20 日

286. 野沢雅彦，前田公一，坂本優子，馬場智規，金子和夫
（シンポジウム）人工股関節とスポーツ
第 72 回日本体力医学会大会，松山, 2017 年 9 月

287. 羽田晋之介，石島旨章，金子晴香，木下真由子，有田均，塩澤淳，高澤祐治，池田浩， 岡田保典，金子和夫，楠瀬浩一
T2 mapping 法を用いた内側半月板変性と内側型変形膝関節症の単純 X 線重症度との関連
第 90 回日本整形外科学会学術総会，仙台, 2017 年 5 月 18 日-21 日

288. 羽田晋之介，川口慶，金成道，諸橋達，岩崎英二，中山健児，金子和夫，富田善雅，楠瀬浩一，諫山和男

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

ワールドクラスの総合格闘技大会における外傷発生率の性差
第 28 回日本臨床スポーツ医学会学術集会，東京, 2017 年 11 月 18 日-19 日

289. 羽田晋之介，瀬戸宏明，菅原亘，宮崎智之，島嵜寛之，皆川彰，浅沼雄太，懸田健史，永山正隆，川崎隆之，高澤祐治，金子和夫，富田善雅，楠瀬浩一
トップレベルラグビー選手における顔面骨折後の早期復帰
第 28 回日本臨床スポーツ医学会学術集会，東京, 2017 年 11 月 18 日-19 日

290. 羽田晋之介，石島旨章，金子晴香，有田均，塩澤淳，劉立足 青木孝子，永山正隆，斎田良知，高澤祐治，池田浩，富田善雅，楠瀬浩一，岡田保典，金子和夫
前十字靭帯再建術後における早期変形性関節症変化
第 45 回日本関節病学会，東京, 2017 年 11 月 16 日-17 日

291. 田晋之介，石島旨章，金子晴香，木下真由子，有田均，塩澤淳，高澤祐治，池田浩，楠瀬浩一，岡田保典，金子和夫
内側型変形性膝関節症における内側半月板逸脱と半月板形態の関連
第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会，沖縄, 2017 年 10 月 26 日-27 日

292. 田晋之介，石島旨章，金子晴香，木下真由子，有田均，塩澤淳，高澤祐治，池田浩，楠瀬浩一，岡田保典，金子和夫
初期変形性膝関節症の内側半月板逸脱は脛骨内側の骨棘距離と相関する
第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会，沖縄, 2017 年 10 月 26 日-27 日

293. 羽田晋之介，石島旨章，金子晴香，木下真由子，有田均，塩澤淳，高澤祐治，池田浩，金子和夫，岡田保典，楠瀬浩一
内側型変形膝関節症における X 線重症度と内側半月板変性との関連
第 90 回日本整形外科学会学術総会，仙台, 2017 年 5 月 18 日-21 日

294. 羽田晋之介，川口慶，金成道，諸橋達，岩崎英二，柳瀬守利，柳瀬はるか，中山健児，楠瀬浩一，金子和夫，諫山和男
トップレベルの総合格闘技大会における外傷の特徴と傾向
第 9 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 JOSKAS，札幌, 2017 年 6 月 22 日-24 日

295. 羽田晋之介，石島旨章，金子晴香，木下真由子， 有田均， 塩澤淳， 高澤祐治，池田浩，岡田保典， 金子和夫，楠瀬浩一
T2 mapping 法を用いた内側半月板変性と内側型変形膝関節症の単純 X 線重症度との関連
第 9 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 JOSKAS，札幌, 2017 年 6 月 22 日-24 日

296. 馬場智規，越智宏徳，鈴木雅生，尾崎友，本間康弘，渡泰士，松本幹生，金子和夫
大腿骨ステム周囲骨折における再置換術の検討
第 43 回日本骨折治療学会，福島郡山, 2017 年 7 月 7 日

297. 馬場智規，越智宏徳，尾崎友，本間康弘，松本幹生，渡泰士，小林英生，朝倉太郎，尹善弘，

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

金子和夫
大腿骨頸部骨折に対して特殊牽引台と透視を用いた direct anterior approach の人工股関節全置換術
第 43 回日本骨折治療学会，福島郡山, 2017 年 7 月 7 日

298. 馬場智規，越智宏徳，尾崎友，渡泰士，本間康弘，松本幹生，金子和夫
大腿骨ステム周囲骨折の治療に有効な新しい分類法
第 66 回東日本整形災害外科，新宿, 2017 年 9 月 16 日

299. 馬場智規，野沢雅彦，越智宏徳，尾崎友，渡泰士，本間康弘，松本幹生，金子和夫
大腿骨頭壊死症に対する寛骨臼回転骨切り術の長期成績
第 44 回日本股関節学会学術集会,新宿,2017 年 10 月 21 日

300. 馬場智規，越智宏徳，尾崎友，渡泰士，本間康弘，松本幹生，金子和夫
大腿骨頚部骨折に対して前方アプローチによる dual mobility cup を用いた人工股関節全地下術は脱臼予防に有効か？
第 44 回日本股関節学会学術集会，新宿, 2017 年 10 月 21 日

301. 林孝儒，羽田晋之介，長谷川圭紀，井下田有芳，浅沼雄太，松尾亮平，菅原悠，石橋勝彦,山中誠，楠瀬浩一，金子和夫
変形性関節症患者における膝蓋大腿関節の X 線所見と MRI 所見の関連
第 9 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 JOSKAS，札幌, 2017 年 6 月 22 日-24 日

302. 前田衣里，杉山陽一，後藤賢司，木下真由子，岩瀬嘉志，内藤聖人，最上敦彦，大林治，金子和夫
肘頭逆斜骨折に対する骨接合術の工夫
第 685 回関東整形災害外科学会月例会，東京, 2017 年 6 月 24 日

303. 前田公一，野沢雅彦，松田圭二，桑原宏朋，坂本優子，櫻本浩司，淺亮輔，並木康治，加藤英，金子和夫
Modulus stem の適応と選択
第 44 回日本股関節学会学術集会，東京, 2017 年 11 月

304. 前澤克彦，湯浅崇仁，佐藤博伸，丸山祐一郎，野沢雅彦，金子和夫
股関節周囲筋力の変化と JHEQ スコアとの関連性
第 90 回日本整形外科学会学術集会，仙台, 2017 年 5 月 18-21 日

305. 前澤克彦，湯浅崇仁，佐藤博伸，丸山祐一郎，野沢雅彦，金子和夫
人工股関節全置換術術後1年間の JHEQ と股関節周囲筋力の推移
第 90 回日本整形外科学会学術集会，仙台, 2017 年 5 月 18-21 日

306. 前澤克彦，湯浅崇仁，佐藤博伸，野沢雅彦，金子和夫
JHEQ とロコモ 25 による人工股関節全置換術術後評価の比較

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

日本股関節学会学術集会，東京, 2017 年 10 月 20-21 日

307. 松本幹生，馬場智規，越智宏徳，尾崎友，渡泰士，本間康弘，小林英生，金子和夫
対側の股関節の状態は人工股関節全置換術術後の患者立脚型評価に影響を及ぼすか
日本整形外科学会，仙台, 2017 年 5 月

308. 松本幹生，馬場智規，越智宏徳，尾崎友，渡泰士，本間康弘，金子和夫，湯浅崇仁
人工関節全置換術後早期における患者立脚型評価と医療関係者による患者評価の点数の推移
日本整形外科学会，仙台, 2017 年 5 月

309. 松本幹生，馬場智規，越智宏徳，尾崎友，渡泰士，本間康弘，小林英生，高橋健剛，池上隆司，金子和夫
大腿骨転子部骨折術後の salvage 手術として行った前方アプローチによる人口股関節全置換術の検討
日本骨折治療学会，福島, 2017 年 7 月

310. 百枝雅裕，内藤聖人，杉山陽一，木下真由子，金子和夫
掌側転位型橈骨遠位端骨折に対する手術治療
第 60 回日本手外科学会，名古屋, 2017 年 4 月 27 日

311. 湯浅崇仁，前澤克彦，佐藤博伸，金子和夫
前方アプローチと後方アプローチによる人工股関節全置換術インプラント設置位置の検討
第 44 回日本股関節学会，東京, 2017 年 10 月 20 日-21 日

312. 吉田圭一，糸魚川善昭，丸山祐一郎，野尻英俊，金子和夫
ヒト肩腱板断裂における酸化ストレスの寄与
第 90 回日本整形外科学会学術集会，仙台, 2017 年 5 月 18 日-21 日

313. 吉田圭一，糸魚川善昭，丸山祐一郎，金子和夫
剪断波エラストグラフィーを用いた腓腹筋肉離れの運動復帰時期の予測
第 32 回日本整形外科学会基礎学術集会，沖縄, 2017 年 10 月 26 日-27 日

314. 吉田圭一，糸魚川善昭，和田知樹，丸山祐一郎，川崎隆之，長谷川圭紀，祖父江省吾，金子和夫
肩腱板断裂の程度による酸化ストレス発現の差異
第 44 回日本肩関節学会，東京, 2017 年 10 月 6 日-8 日

315. 和田知樹，糸魚川善昭，吉田圭一，川崎隆之，長谷川圭紀，祖父江省吾 金子和夫
Evaluation for fatty infiltration in rotator cuff muscle on MRI
第 44 回日本肩関節学会，東京, 2017 年 10 月 6 日-8 日

316. 渡泰士，内藤聖人，杉山陽一，木下真由子，金子和夫

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

橈骨遠位端骨折術後の矯正損失に対する尺骨茎状突起骨折の影響
第 60 回日本手外科学会，名古屋, 2017 年 4 月 27 日

317. 田中亮太，山城一雄，大山彦光，梅村淳，下泰司，服部信孝
パーキンソン病における cerebral microbleeds(CMBs)と認知症の関係について
第 60 回日本脳循環代謝学会，千里ライフセンター，大阪, 2017 年 11 月 3 日-4 日

318. 宮元伸和, Pham Loc-Duyen D，眞木崇州，田中亮太，卜部貴夫, Lo Eng H，荒井健，服部信孝
マウス慢性脳虚血モデル初期の BBB 破綻に対する酸化ストレス抑制効果の検討
第 60 回日本脳循環代謝学会，千里ライフセンター，大阪, 2017 年 11 月 3 日-4 日

319. 栗田尚英，山城一雄，黒木卓馬，田中亮太，上野祐司，卜部貴夫，山城雄一郎，野本康二，松本敬，高橋琢也，辻浩和，朝原崇，服部信孝
腸内細菌叢の異常に伴う高 LPS 血症は急性期脳梗塞の組織障害進展に関与する
第 60 回日本脳循環代謝学会，千里ライフセンター，大阪, 2017 年 11 月 3 日-4 日

320. 金井数明，中里朋子，下泰司，大山彦光，服部信孝
抗 MAG 抗体陽性ニューロパチーの運動神経軸索特性
第 47 回日本臨床神経生理学会学術大会、パシフィコ横浜，横浜, 2017 年 11 月 29 日-12 月 1 日

321. 中里朋子，金井数明，西岡健弥，大山彦光，下泰司，服部信孝
抗 GAD 抗体は運動神経軸索の Barrett-Barrett conductance を増大させる
第 47 回日本臨床神経生理学会学術大会，パシフィコ横浜，横浜，2017 年 11 月 29 日-12 月 1 日

322. 岩室宏一，下泰司，梅村淳，中島明日香，大山彦光，城崇之，関本智子，中村亮太，佐々木芙悠子，新井一，服部信孝
パーキンソン病における筋強剛と大脳基底核の β オシレーションとの関係
第 47 回日本臨床神経生理学会学術大会，パシフィコ横浜，横浜，2017 年 11 月 29 日-12 月 1 日

323. 伊澤奈々，岩室宏一，谷真美，羽鳥浩三，服部信孝，藤原俊之
パーキンソン病患者での足圧測定機能付きトレッドミルを用いた立位・歩行時の足圧分析
第 47 回日本臨床神経生理学会学術大会，パシフィコ横浜，横浜，2017 年 11 月 29 日-12 月 1 日

324. 岩室宏一，伊澤奈々，原毅，中城博子，大山彦光，梅村淳，下泰司，新井一，藤原俊之，服部信孝
腰部脊柱管狭窄症に対する除圧術後に DBS 刺激依存性有痛性筋痙攣を呈したパーキンソン病の一例
第 11 回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス，品川プリンスホテル，東京，
2017 年 10 月 26 日-28 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

325. 服部 孝
PD 治療はどこをめざすのか lysosomal enzyme 欠損とパーキンソン病
第 11 回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス，品川プリンスホテル，東京，
2017 年 10 月 26 日-28 日

326. 波田野琢，服部信孝
パーキンソン病ガイドライン
第 11 回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス，品川プリンスホテル，東京，
2017 年 10 月 26 日-28 日

327. 奥住文美，波田野琢，黒澤大，山中智行，宮崎晴子，古川良明，服部信孝，貫名信行
マウス脳における脳梁離断を用いた線維状 αsynuclein の伝播経路の検討
第 11 回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス，品川プリンスホテル，東京，
2017 年 10 月 26 日-28 日

328. 上野真一，波田野琢，王子悠，斉木臣二，奥住文美，池田均，服部信孝
パーキンソン病における早期診断マーカーとしての酸化型・還元型アルブミン測定
第 11 回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス，品川プリンスホテル，東京，
2017 年 10 月 26 日-28 日

329. 飯嶋睦，吉井文均，鈴木圭輔，野川茂，長田高志，平田幸一，北川一夫，服部信孝，大熊 泰之
パーキンソン病の諸症状とレム睡眠行動障害および嗅覚障害との関連性の検討
第 11 回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス，品川プリンスホテル，東京，
2017 年 10 月 26 日-28 日

330. 頼高朝子，大塚千久美，前田哲也，平山正昭，渡辺宏久，阿部隆志，斉木英資，大山彦光，下泰司，波多野琢，深江治郎，大熊泰之，川尻澄宏，服部信孝
Parkinson 病に対する水素水の多施設共同二重盲検並行群間試験
第 11 回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス，品川プリンスホテル，東京，
2017 年 10 月 26 日-28 日

331. 関本智子，大山彦光，尾藤宏達，土屋勝，佐々木芙悠子，中村亮太，城崇之，下泰司，服部信孝
三次元動作解析装置を用いたパーキンソン病の歩容解析
第 11 回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス，品川プリンスホテル，東京，
2017 年 10 月 26 日-28 日

332. 森聡生，濃沼崇博，井下強，山下力，波田野琢，今居譲，服部信孝
PLA2G6 変異により脳脂質構成異常を起こし、α-シヌクレイン凝集を加速させる
第 11 回パーキンソン病・運動障害疾患コングレス，品川プリンスホテル，東京，
2017 年 10 月 26 日-28 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

333. Hattori N, Saiki S, Hatano T, Fujimaki M, Ishikawa KI, Oji Y, Mori A, Okuzumi A, Koinuma T, Ueno SI.
Novel metabolic biomarkers for Parkinson's disease, AMED-CREST 疾患代謝シンポジウム、疾患メタボロームへの挑戦 -
第 11 回メタボロームシンポジウム, ホテル阪急エキスポパーク, 大阪府吹田市,
2017 年 11 月 13 日

334. Hosaka Y, Inoshita T, Cui C, Arano T, Shiba K, Imai Y, Hattori H.
Reduced TDP-43 expression improves axonal transport and synaptic activity in a Drosophila model of Perry syndrome.
World Congress of Neurology, Kyoto, Sept 20, 2017

335. Tsunemi T, Wado A, Hattori N, Klainc.
ATP13A2/PARK9 regulates intracellular A Synuclein levels through exocytotic pathways.
XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, Sept 16-21, 2017

336. Atsuta N, Yokoi D, Nakamura R, Watanabe H, Hayashi N, Ito M, Watanabe H, Katsuno M, Izumi Y, Morita M, Taniguchi A, Oda M, Abe K, Mizoguchi K, Kano O, Kuwabara S, Aoki M, Hattori N, Kaji R, Sobue G.
Prognosis of Japanese patients with amyotrophic lateral sclerosis according to motor phenotype.
XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, Sept 16-21, 2017

337. Ikeda A, Funayama M, Yoshida M, Sonedera S, Li Y, Nishioka K, Aiba I, Saito Y, Atsuta N, Nakamura R, Tohnai G, Sone J, Izumi Y, Kaji R, Morita M, Taniguchi A, Sobue G, Hattori N.
The suppresive reguration of CHCHD2 in amyotrophic lateral sclerosis.
XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, Sept 16-21, 2017

338. Nishioka K, Hirano M, Stoessl AJ, Yoshino Y, Imamichi Y, Ikeda A, Li Y, Funayama M, Yamada I, Yusaku N, Sossi V, Farrer M, Hattori N.
Homozygous alpha-synuclein A53V in familial Parkinson's disease.
XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, Sept 16-21, 2017

339. Yoshino H, Nishioka K, Li Y, Ikeda A, Shibagaki Y, Hosaka Y, Iwanaga H, Fujitake J, Ohi T, Miyazaki D, Sekijima Y, Oki M, Kusaka H, Ugawa Y, Funayama M, Hattori N.
Clinical heterogeneity of GCH1 mutations in Parkinsonism with or without dystonia.
XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, Sept 16-21, 2017

340. Hayashida A, Li Y, Yoshino H, Nakahara T, Yoritaka A, Nagara Y, Sakiyama Y, Kusaka H, Takiyama Y, Morimoto N, Uchino A, Fujimoto T, Sekijima Y, Tomimoto H, Tsuruta K, Hattori Y, Kashihara K, Funayama M, Nishioka K, Hattori N.
PINK1 heterozygous mutations in familial Parkinson's disease.
XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, Sept 16-21, 2017

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

341. Suzuki K, Okuma Y, Uchiyama T, Miyamoto M, Sakakibara R, Shimo Y, Hattori N, Kuwabara S, Yamamoto T, Kaji Y, Hirano S, Kadowaki T, Hirata K.
The effect of sleep-related symptoms on clinical motor subtype and disease-related disability in Parkinson's disease; A Multicenter, Cross-sectional study
XXIII World Congress of Neurology, Kyoto, Sept 16-21, 2017

342. Osada T, Ogawa A, Tanaka M, Hori M, Aoki S, and Konishi S.
Connectivity-based parcellation of human hypothalamus revealed by high-resolution resting-state fMRI.
日本神経科学学会，幕張, 2017.07.21

343. Osada T, Suzuki R, Ogawa A, Tanaka M, Hori M, Aoki S, Tamura Y, Watada H, Kawamori R, and Konishi S.
Areal parc Functional subdivisions of the hypothalamus using areal parcellation and their signal changes related to glucose metabolism ellation and nucleus-level analysis of human hypothalamus using high-resolution fMRI.
3rd Congress, International Academy of Sportology, 東京, 2017.10.14

【学会発表（国内）2018 年】

1. 佐藤元律，吉田千紗，三浦正樹，後藤広昌，金澤昭雄，近藤聡英，丹下祐一，石井尚登，新井一，綿田裕孝
中枢性尿崩症を呈し鑑別に苦慮した頭蓋内膜腫の 1 例
第 28 回日本間脳下垂体腫瘍学会，静岡県, 2018 年 2 月 9 月-10 日

2. 氷室美和，宮塚健，鈴木路可，三浦正樹，片平雄大，高橋雅也，大島茂，岡本隆一，綿田裕孝
糖尿病の病態解明に向けた膵 α 細胞新生・成熟機構の解明
第 32 回日本糖尿病学会・肥満動物学会，愛知県, 2018 年 2 月 23 月-24 日

3. 綿田裕孝
高齢者糖尿病患者におけるインスリンを除く薬物治療
第 52 回糖尿病学の進歩，福岡県, 2018 年 3 月 2 日-3 日

4. 田村好史
ライフステージを考慮した運動療法のあり方
第 52 回日本成人病(生活習慣病)学会，東京都, 2018 年 1 月 13 日-14 日

5. 田村好史
糖尿病 運動療法トピックス
第 55 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会，新潟県, 2018 年 1 月 20 日-21 日

6. 田島翼，常見亜佐子，内藤仁嗣，伊藤直顕，小澁真実，池田富貴，金澤昭雄，綿田裕孝
インスリン製剤、GLP-1 製剤を腹部の硬結に注射し皮下血腫をきたした 1 例
第 55 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会，新潟県, 2018 年 1 月 20 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

7. 金子晴香, 有田均, 高澤祐治, 石島旨章, 永山正隆, 長尾雅史, 齋田良知, 池田浩, 金子和夫
   当院におけるローテーション・ヒンジ型人工膝関節置換術の短・中期成績
   第 48 回日本人工関節学会, 東京, 2018 年 2 月 24 日

8. 金子晴香, 有田均, 劉立足, 石島旨章, 高澤祐治 池田浩 金子和夫
   人工膝単顆置換術と人工膝関節全置換術施行患者の術前 MRI 所見の比較
   第 48 回日本人工関節学会, 東京, 2018 年 2 月 24 日

9. 佐々恵太, 金子晴香, 石島旨章, 金子和夫
   人工膝関節全置換術(TKA)周術期に認めた静脈血栓塞栓症(VTE)の予後調査
   第 58 回関東整形災害外科学会, 東京, 2018 年 3 月 16 日

10. 塩澤淳, 金子晴香, 金子和夫, 石島旨章
    血清多価不飽和脂肪酸と人工膝関節全置換術後の深部静脈血栓症発生との関連
    第 58 回関東整形災害外科学会, 東京, 2018 年 3 月 17 日

11. 福島理文, 大村寛敏, 代田浩之
    早発性急性冠症候群の男性患者における臨床的特徴 家族性高コレステロール血症と比較
    日本成人病（生活習慣病）学会 東京.2018 年 1 月 13 日

12. Kazuhisa Takamura, Shinichiro Fujimoto, Etsuro Kato1 Yuko Kawaguchi, Chihiro Aoshima, Makoto Hiki, tomotaka Dohi, Kanako K Kumamaru, Hiroyuki Daida.
    Usefulness of a novel plaque analysis software using a labeling method in low-tube voltage protocol.
    The 82th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Osaka, Japan 2018 年 3 月 23 日-25 日

13. Kato E, Fujimoto S, Kawaguchi Y, Kumamaru KK, Dohi T, Takamura K, Aoshima C, Hiki M, Kato Y, Okazaki S, Daida H.
    The Predictive Factors Affecting False Positive in On-Site Operated CT-Fractional Flow Reserve Based on Fluid and Structural Interaction.
    The 82th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Osaka, Japan 2018 年 3 月 23 日-25 日

14. 加藤悦郎, 藤本進一郎, 高村和久, 川口裕子, 青島千紘, 比企誠, 隈丸加奈子, 代田浩之
    高度石灰化症例に対する CT-FFR の解析に subtraction CCTA が有用であった一例 第 28 回日本心血管画像動態学会, 東京, 2018 年 1 月 12 日-13 日

15. 大塚裕次朗, 隈丸加奈子, 藤本進一郎, 川口裕子, 加藤悦郎, 高村和久, 辻本峰二, 渡邉英恵, 代田浩之, 青木茂樹
    心臓CT画像データ解析における畳み込みニューラルネットワークの適用方法の検討第 28 回日本心血管画像動態学会, 東京, 2018 年 1 月 12 日-13 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

16. 川口裕子, 藤本進一郎, 隈丸加奈子, 大塚裕次朗, 加藤悦郎, 辻本峰二, 渡邉英恵, 高村和久, 青島千紘, 青木茂樹, 代田浩之
畳み込みニューラルネットワークを用いた冠動脈 CT 解析の初期検討:年齢性別判定
第 28 回日本心血管画像動態学会, 東京, 2018 年 1 月 12 日-13 日

17. Yokoyama M, Miyauchi K, Shimada K, Yokoyama T, Kunimoto M, Honzawa A, Aikawa T, Ouchi S, Daida H.
Changes in Coronary Plaque Volume and Components in Patients with Acute Coronary Syndrome after Early Phase II Comprehensive Cardiac Rehabilitation.
第 82 回日本循環器学会学術集会 横浜 2018 年 3 月 23 日-25 日

18. Kawaguchi Y, Fujimoto S, Kawasaki T, Kumamaru KK, Dohi T, Okonogi T, Kato E, Aoshima C, Takamura K, Kato Y, Hiki M, Okazaki S, Daida H.
Diagnostic Performance of Locally Computed CT-Fractional Flow Reserve Based on Fluid Structure Interactions.
The 82th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Osaka, Japan 2018 年 3 月 23 日-25 日

19. Hideki Wada, Tomoaka Dohi, Jun Shitara, Hirohisa Endo, Shinichiro Doi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa, Hiroyuki Daida.
Relationship between the Prognostic Nutritional Index and Long-term Clinical Outcomes in Patients with Stable Coronary Artery Disease.
The 81th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 大阪, 2018 年 3 月 23 日-25 日

20. Hirohisa Endo, Tomotaka Dohi, Shizuyuki Dohi, Hideki Wada, Shinichiro Doi, Yoshiteru Katoh, Iwao Okai, Hiroshi Iwata, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Taira Yamamoto, Katsumi Miyauchi, Atsushi Amano, Hiroyuki Daida.
Cigarette Smoking is Associated with Coronary Arterial Dilation in Patients with Aortic Aneurysm.
The 81th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 大阪,
2018 年 3 月 23 日-25 日

21. 清水孝史, 土肥智貴, 宮内克己, 和田英樹, 坪井秀太, 華藤芳輝, 荻田学, 岡井巌, 岩田洋, 葛西隆敏, 岡崎真也, 磯田菊生, 代田浩之
Clinical Significance of High-sensitivity C-reactive Protein in Patients with Preserved Renal Function Following Percutaneous Coronary Intervention
The 81th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 大阪, 2018 年 3 月 23 日-25 日

22. 設楽準, 葛西隆敏, 宮内克己, 遠藤裕久, 和田英樹, 土井信一郎, 内藤亮, 小西宏和, 坪井秀太, 荻田学, 土肥智貴, 岡崎真也, 磯田菊生, 代田浩之
Differing Effects of Beta-Blockers on Long-term Clinical Outcomes Following Percutaneous

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Coronary Intervention between Patients with Mid-range and Reduced Ejection Fraction.
The 81th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 大阪, 2018 年 3 月 23 日 -25 日

23. Masaru Hiki, Hiroshi Iwata, Kiyoshi Takasu, Junko Ishiura, Yuichi Chikata, Go Ishikawa, Takatoshi Kasai, Tetsuro Miyazaki, Kenji Inoue, Yasumasa Fujiwara, Masataka Sumiyoshi, Hiroyuki Daida.
High blood pressure in acute decompensated heart failure patients associates with reduced cardiovascular mortality, but not with heart failure rehospitalization.
第 82 回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2018 年 3 月 23 日

24. Endo H, Dohi T, Miyauchi K, Kuramitsu S, Katoh Y, Okai I, Yokoyama M, Yokoyama T, Ando K, Okazaki S, Shimada K, Suwa S, Daida H.
Clinical significance of non-culprit plaque regression following acute coronary syndrome: a serial intravascular ultrasound study.
82th Annual Meeting of JCS, Osaka, 2018 年 3 月 23 日

25. Sugita Y, Miyazaki T, Shimizu M, Ouchi S, Aikawa T, Kadoguchi T, Kawaguchi Y, Shiozawa T, Takahashi S, Iwata H, Shimada K, Daida H.
Association of low omega-6 polyunsaturated fatty acid levels on admission with delirium in Coronary Care Unit.
82th Annual Meeting of JCS, Osaka, 2018 年 3 月 24 日

26. Aikawa T, Shimada K, Miyauchi K, Miyazaki T, Tsai R, Ouchi S, Kadoguchi T, Kunimoto M, Joki Y, Dohi T, Okazaki S, Isoda K, Ohhashi K, Shibata R, Murohara T, Ouchi N, Daida H.
Circulating levels of follistatin-like 1 are associated with cardiovascular events in patients undergoing elective percutaneous coronary intervention with drug-eluting stents.
82th Annual Meeting of JCS, Osaka, 2018 年 3 月 24 日

27. Kunimoto M, Shimada K, Yokoyama M, Matsubara T, Aikawa T, Ouchi S, Shimizu M, Fukao K, Miyazaki T, Honzawa A, Shimada A, Yamamoto T, Amano A, Daida H.
Relationship between the Kihon Checklist as an index of frailty and exercise tolerance in patients undergoing cardiac rehabilitation.
82th Annual Meeting of JCS, Osaka, 2018 年 3 月 25 日

28. 門口智泰, 島田和典, 宮崎哲朗, 塩澤知之, 高橋秀平, 相川達郎, 大内翔平, 喜多村健一, 杉田有里那, 國本充洋, 佐藤弥生, 磯田菊生, 代田浩之
Angiotensin II-induced muscle wasting is regulated by NADPH oxidase 4-derived oxidative stress via NF-E2 related factor 2.
82th Annual Meeting of JCS, Osaka, 2018 年 3 月 25 日

29. 横山美帆, 宮内克己, 島田和典, 横山貴之, 國本充洋, 大内翔平, 相川達郎, 清水めぐみ, 本沢晶雄, 深尾宏祐, 岡崎真也, 代田浩之
Impact of physical activity on coronary plaque volume and components in acute coronary

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

syndrome patients after early-Phase II cardiac rehabilitation.
82th Annual Meeting of JCS, Osaka, 2018 年 3 月 25 日

30. 喜多村健一, 磯田菊生, 秋田耕嗣, 岡林弥生, 島田和典, 代田浩之
Suppression of IL-1 inhibited both angiotensin II-induced hypertension and aortic aneurysm.
82th Annual Meeting of JCS, Osaka, 2018 年 3 月 23 日

31. 大内翔平, 宮﨑哲朗, 島田和典, 杉田有里那, 門口智泰, 清水めぐみ, 相川達郎, 塩澤知之, 比企優, 髙橋秀平, 代田浩之
Short-term methotrexate treatment prevents aortic aneurysm progression and macrophage infiltration in mouse models of abdominal aortic aneurysms.
82th Annual Meeting of JCS, Osaka, 2018 年 3 月 24 日

32. 本沢晶雄, 横山美帆, 島田和典, 國本充洋, 相川達郎, 大内翔平, 清水めぐみ, 深尾宏祐, 山本平, 天野篤, 代田浩之
高齢心臓リハビリテーション施行患者におけるプレフレイルと不安レベルとの関連
82th Annual Meeting of JCS, Osaka, 2018 年 3 月 23 日

33. 大内翔平, 島田和典, 宮崎哲朗, 高橋秀平, 杉田有里那, 清水めぐみ, 相川達郎, 蔡榮龍, 門口智泰, 比企優, 岩田洋, 葛西隆敏, 宮内克己, 代田浩之
HbA1c7.0%未満の急性冠症候群患者における予後予測に関連する血糖コントロール指標
第 52 回日本成人病(生活習慣病)学会, 東京, 2018 年 1 月 13 日
日本成人病(生活習慣病)学会会誌 44 巻 Page65

34. 國本充洋, 島田和典, 横山美帆, 松原友美, 相川達郎, 大内翔平, 清水めぐみ, 深尾宏祐, 宮崎哲朗, 本沢晶雄, 山田みき, 嶋田晶江, 山本平, 天野篤, 代田浩之
高齢心臓リハビリテーション施行患者におけるフレイル判定と血中脂肪酸との関係
第 52 回日本成人病(生活習慣病)学会, 東京, 2018 年 1 月 13 日
日本成人病(生活習慣病)学会会誌 44 巻 Page65

35. 宮元伸和, 田中亮太, 上野祐司, 渡邉雅夫, 栗田尚英, 平健一郎, 島田佳明, 黒木卓馬, 山城一雄, 卜部貴夫, 服部信孝
脳梗塞初期増悪因子評価としての WORSEN スコアの有用性の検討
第 43 回日本脳卒中学会集会, 福岡, 2018 年 3 月 15 日-18 日

36. 眞上俊亮, 宮元伸和, 大石英則, 服部信孝, 新井一
慢性脳虚血による脳白質障害と Brain Derived Neurotrophic Factor (BDNF)の白質保護作用について
第 43 回日本脳卒中学会集会, 福岡, 2018 年 3 月 15 日-18 日

37. 栗田尚英, 山城一雄, 黒木卓馬, 田中亮太, 上野祐司, 山城雄一郎, 野本康二, 松本敏, 高橋琢也, 辻浩和, 朝原崇, 卜部貴夫, 服部信孝
腸内細菌叢の異常に伴う高 LPS 血症と急性期脳梗塞における組織障害の進展

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 43 回日本脳卒中学会集会，福岡, 2018 年 3 月 15 日-18 日

38. 入江隆介，神谷昂平，堀正明，鈴木通真，鎌形康司，萩原彰文，武中祐樹，齊藤麻美，中島円，宮嶋雅一，青木茂樹
特発性正常圧水頭症患者の白質線維における g-ratio の推定
第 47 回日本神経放射線学会，筑波, 2018 年 2 月 16 日-17 日

39. 原祥子，堀正明，鶴島康晃，田中洋次，前原健寿，青木茂樹，成相直
もやもや病のミエリンイメージング
第 47 回日本神経放射線学会，筑波, 2018 年 2 月 16 日-17 日

40. 堀正明，大塚裕次朗，福永一星，萩原彰文，入江隆介，神谷昂平，鎌形康司，隈丸加奈子，鈴木通真，和田昭彦，青木茂樹
軽度頚椎症患者の障害側を各種 MRI 定量値の値をもとに U-net で推測する
第 47 回日本神経放射線学会，筑波, 2018 年 2 月 16 日-17 日

41. アンディカ クリスティナ，萩原彰文，下地啓五，鎌形康司，齊藤麻美，武中祐樹，前川朋子，堀正明，横山和正，服部信孝，青木茂樹
再発寛解型多発性硬化症における syntheticMRI による灰白質の評価：GBSSAnalysis
第 47 回日本神経放射線学会，筑波, 2018 年 2 月 16 日-17 日

42. 前川朋子，萩原彰，堀正明，鎌形康司，アンディカ クリスティナ，春山拓也，越野沙織，入江隆介，和田昭彦，青木茂樹
Rapid simultaneous relaxometry 法による脳組織容量とミエリン量の測定に 対するガドリニウム造影剤の影響
第 47 回日本神経放射線学会，筑波, 2018 年 2 月 16 日-17 日

43. 鈴木通真，高野直，入江隆介，高村朋宏，寺西孝輔，矢富健治，鎌形康司，堀正明，山本宗孝，大石英則，青木茂樹
SilentMRA の有用性
第 47 回日本神経放射線学会，筑波, 2018 年 2 月 16 日-17 日

44. アンディカ クリスティナ，鎌形康司，波田野琢，齊藤麻美，武中祐，萩原彰文，堀正明，入江隆介，和田昭彦，服部信孝，青木茂樹
パーキンソン病における白質微細構造変化：拡散 MRI と MagnetizationTransferImaging による統合的評価
第 47 回日本神経放射線学会，筑波, 2018 年 2 月 16 日-17 日

45. 和田昭彦，菊田潤子，渡邊祐亮，南紘子，森田昭彦，鎌形康司，堀正明，下地啓五，阿部修，青木茂樹
孤発性パーキンソン病の遂行機能障害と前頭前野の構造的・機能的コネクティビティ
第 47 回日本神経放射線学会，筑波, 2018 年 2 月 16 日-17 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

46. 中澤美咲, 萩原彰文, Christina Andica, 堀正明, 堀田萌子, 芳士戸治義, 青木茂樹, 中島雅一, 新井一
T1 値・T2 値を用いたガドリニウム濃度マップの正確度と精度の評価
第 41 回日本脳神経 CI 学会総会, 新潟, 2018 年 3 月 2 日

47. Andica C, Kamagata K, Hatano T, Saito A, Takenaka Y, Hori M, Hattori N, Aoki S.
A combined Diffusion MRI techniques and Magnetization Transfer Imaging Provide New Insight on White Matter Microstructural Changes in Parkinson's Disease.
第 20 回日本ヒト脳機能マッピング学会, 横浜, 2018 年 3 月 2 日-3 日

48. 岩﨑敬, 福永一星, 濱崎望, 佐藤秀二, 芳士戸治義, 村田勝俊, 堀正明, 青木茂樹
拡散強調像における GRAPPA を併用した Multiband EPI による Leakage-Block の画像的影響の評価
第 20 回日本ヒト脳機能マッピング学会, 横浜, 2018 年 3 月 2 日-3 日

49. 大内翔平, 宮﨑哲朗, 島田和典, 杉田有里那, 門口智泰, 清水めぐみ, 相川達郎, 塩澤知之, 高橋秀平, 代田浩之
大動脈瘤モデルマウスにおける短期間メトトレキサート投与効果の検討
日本内科学会雑誌 107 巻 Suppl. Page158, 2018 年 2 月

50. 杉田有里那, 宮崎哲朗, 清水めぐみ, 大内翔平, 相川達郎, 比企優, 岩田洋, 島田和典, 代田浩之
急性心血管疾患における栄養指標とせん妄との関連
日本内科学会雑誌 107 巻 Suppl. Page157, 2018 年 2 月

51. 田村昌大, 三井田孝, 平山哲, 上野剛, 金持拓身, 廣瀬伸良
大学柔道選手における練習前後の血液成分の変化について
第 27 回日本柔道整復接骨医学会学術大会, 名古屋市, 2018 年 11 月 17 日-18 日
日本柔道整復接骨医学会学術大会プログラム・抄録集 27 回, 67,

52. 大野賀世, 室田直紀, 藤村純也, 石橋武士, 田部陽子, 三井田孝
若年性特発性関節炎の診断・治療中に芽球様細胞が出現した前駆 B リンパ芽球性白血病の 1 症例
第 65 回日本臨床検査医学会学術集会, 東京, 2018 年 11 月 15 日-18 日
臨床病理 Vol. 66 Suppl.1. 243,

53. 山谷琴子, 齋藤香里, 梁夏恩, 一色美和, 三井田孝, 田部陽子
急性骨髄性白血病細胞のチロシンキナーゼ阻害薬耐性獲得機構の解明
第 65 回日本臨床検査医学会学術集会, 東京, 2018 年 11 月 15 日-18 日
臨床病理 Vol. 66 Suppl.1. 172

54. 平山哲, 宗田聡, 中川沙織, 上野剛, 杉原匡美, 古田絢女, 西家里奈, 矢野康次, 一色美和, 平山安希子, 金持拓身, 田村昌大, 大和進, 三井田孝

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

2 型糖尿病における頸動脈硬化症とオキシステロール濃度の関連
第 65 回日本臨床検査医学会学術集会，東京, 2018 年 11 月 15 日-18 日
臨床病理 Vol. 66 Suppl.1. 181

55. 出居真由美，阿部雅明，濱田千江子，一色美和，三宅一徳，田部陽子，樋野興夫，三井田孝
腹膜透析排液中の ERC/mesothelin の腹膜劣化指標としての有用性の検討
第 65 回日本臨床検査医学会学術集会，東京, 2018 年 11 月 15 日-18 日
臨床病理 Vol. 66 Suppl.1. 163

56. 杉原匡美，柿木亮，村山尚，平山哲，森本幸生，呉林なごみ，三井田孝
拡張型心筋症モデルマウスにおける自発運動の頻度と心不全進行との関係
第 65 回日本臨床検査医学会学術集会，東京, 2018 年 11 月 15 日-18 日
臨床病理 Vol. 66 Suppl.1. 147

57. 清水美穂[太田]，不破史子，中川沙織，大和進，三井田孝
培養細胞系を用いたコレステロール異化代謝経路に対するゲニピンの作用評価
第 58 回日本臨床化学会年次学術集会，名古屋市, 2018 年 2018 年 8 月 24 日-26 日
臨床化学 Vol. 47 Suppl.1. 232

58. 矢野康次，平山哲，上野剛，海老沼宏幸，武城英明，三井田孝
可溶性 LR11 は髄液中高比重リポタンパクに結合しアミロイドβ蛋白のクリアランスを阻害する
第 58 回日本臨床化学会年次学術集会，名古屋市, 2018 年 2018 年 8 月 24 日-26 日
臨床化学 Vol. 47 Suppl.1. 374

59. 西家里奈，平山哲，田村昌大，金持拓身，矢野康次，上野剛，廣瀬伸良，三井田孝
柔道部員における日常練習後の血清鉄濃度変動の検討
第 58 回日本臨床化学会年次学術集会，名古屋市, 2018 年 2018 年 8 月 24 日-26 日
臨床化学 Vol. 47 Suppl.1. 350

60. 大野賀世，平山哲，上野剛，西岡笑子，牧野真太郎，矢野康次，三井田孝
正常妊婦における血清カルニチン値の変動の検討
第 58 回日本臨床化学会年次学術集会，名古屋市, 2018 年 2018 年 8 月 24 日-26 日
臨床化学 Vol. 47 Suppl.1. 375

61. 中川沙織，不破史子，清水美穂[太田]，大和進，三井田孝
茶カテキン類の機能を臨床応用に資する基礎研究
第 58 回日本臨床化学会年次学術集会，名古屋市, 2018 年 2018 年 8 月 24 日-26 日
臨床化学 Vol. 47 Suppl.1. 348

62. Kouji Yano, Tomohiko Ai, Takahiro Shiga, Wado Akamatsu, Satoshi Hirayama, Takashi Miida
Establishment of neuroelectrophysiological model for Alzheimer disease derived from human iPSCs
第 50 回日本動脈硬化学会総会学術集会，大阪, 2018 年 7 月 12 日-14 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

抄録集, 308

63. 村上優子[渡並], 清成信一, 田部陽子, 門松健治, 三井田孝, 関戸好孝
悪性中皮腫における BAP1 遺伝子変異に対する合成致死遺伝子の網羅的探索(Women scientists in cancer research (WSCR symposia) Analysis of the genes which showed synthetic lethal phenotype with BAP1 mutations in malignant mesothelioma cells)
第 77 回日本癌学会学術総会, 大阪, 2018 年 9 月 27 日-29 日
日本癌学会総会記事 77 回, 1188, 2018

64. 田村好史
運動療法の活かし方
第 18 回世田谷医師会医学会, 東京都, 2018 年 12 月 1 日

65. 綿田裕孝
GLP-1 受容体作動薬はどのように糖尿病治療の進歩に貢献するか？
第 18 回日本内分泌学会四国支部学術集会, 徳島県, 2018 年9月 1 日

66. 門脇聡, 田村好史, 染谷由希, 竹野景海, 船山崇, 古川康彦, 筧佐織, 加賀英義, 鈴木瑠璃子, 杉本大介, 河盛隆造, 綿田裕孝
日本人非肥満男性における内蔵脂肪蓄積、脂肪肝とインスリン感受性の関連
第 23 回アディポサイエンス・シンポジウム, 大阪府, 2018 年 8 月 18 日

67. 染谷由希, 田村好史, 竹野景海, 船山崇, 古川康彦, 加賀英義, 鈴木瑠璃子, 杉本大介, 門脇聡, 河盛隆造, 綿田裕孝
非肥満男性における下肢筋力とインスリン感受性との関連
第 37 回日本臨床運動療法学会学術集会, 東京都, 2018 年9月1日-2日

68. 田村好史
運動効果のメカニズム
第 37 回日本臨床運動療法学会学術集会, 東京都, 2018 年9月1日-2日

69. 杉本大介, 田村好史, 加賀英義, 竹野景海, 船山崇, 古川康彦, 染谷由希, 筧佐織, 鈴木瑠璃子, 門脇聡, 河盛隆造, 綿田裕孝
非肥満健常男性の脂肪組織におけるインスリン感受性の臨床的意義
第 39 回日本肥満学会, 兵庫県, 2018 年 10 月 7 日-8 日

70. 田村好史
骨格筋の量と質の代謝
第 39 回日本肥満学会, 兵庫県, 2018 年 10 月 7 日-8 日

71. 門脇聡, 田村好史, 染谷由希, 竹野景海, 船山崇, 古川康彦, 筧佐織, 加賀英義, 鈴木瑠璃子, 杉本大介, 河盛隆造, 綿田裕孝
日本人非肥満男性における内臓脂肪蓄積、脂肪肝とインスリン抵抗性の関連

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 39 回日本肥満学会，兵庫県, 2018 年 10 月 7 日-8 日

72. 上里忠好，荻原健，板倉敦夫，竹田省，綿田裕孝
妊娠期の膵 β 細胞増殖における PBK の役割
第 42 回日本産婦人科栄養･代謝研究会，千葉県, 2018 年 8 月 30 日-31 日

73. 加賀英義，田村好史，竹野景海，筧佐織，染谷由希，船山崇，古川康彦，鈴木瑠璃子，杉本大介，門脇聡，河盛隆造，綿田裕孝
非肥満健常者にあける 75g経口血糖糖負荷試験中の血糖推移形状の意義
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都, 2018 年 5 月 24 日-26 日

74. 河盛隆造，羽田勝計，須崎恵子, Cheng G, 志岐甲介，宮本悠希, Solimando F, Lee C, George J
Empagliflozin as add-on to linagliptin in japanese pa-tients with type 2 diabetes: A 52-week randomized con-trolled trial.
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都, 2018 年 5 月 24 日-26 日

75. 宮塚健，松岡孝昭和，綿田裕孝
Stat3 activity regulates cellular repro-gramming into insulin-producing cells in- duced by defined transcription factors.
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都, 2018 年 5 月 24 日-26 日

76. 高橋雅也，宮塚健，氷室美和，鈴木路可，三浦正樹，片平雄大，板倉敦夫，竹田省，綿田裕孝
週産期における膵 β 細胞容量の定量化および β 細胞系譜の追跡
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都, 2018 年 5 月 24 日-26 日

77. 篠原舞，金澤昭雄，片平雄大，小澁真実，加賀英義，登坂祐佳，小宮幸次，三田智也，宮塚健，池田富貴，東浩介，高柳尚子，大村千恵，宮地淳，三重野園理，山下聡子，綿田裕孝
2 型糖尿病患者における液体クロマトグラフィー/高分解能質量分析法(LC-HRMS)とサンドイッチ ELISA 法での食後グルカゴン動態の分析
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都, 2018 年 5 月 24 日-26 日

78. 森谷千尋，佐藤博亮，綿田裕孝
フェブキソスタットがインスリン抵抗性に及ぼす影響についての検討
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都, 2018 年 5 月 25 日

79. 杉本大介，田村好史，加賀英義，竹野景海，船山崇，古川康彦，染谷由希，筧佐織，鈴木瑠璃子，門脇聡，河盛隆造，綿田裕孝
非肥満健常男性における脂肪組織におけるインスリン感受性の臨床的意義
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都, 2018 年 5 月 24 日-26 日

80. 染谷由希，田村好史，竹野景海，船山崇，古川康彦，筧佐織，加賀英義，鈴木瑠璃子，杉本大介，門脇聡，河盛隆造，綿田裕孝
非肥満健常男性における下肢筋力とインスリン感受性との関連

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都, 2018 年 5 月 24 日-26 日

81. 船山崇，川角正彦，深井達夫，綿田裕孝
アナグリプチンによる類天疱瘡を発症した高齢者 2 型糖尿病の一例
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都, 2018 年 5 月 24 日-26 日

82. 早稲田直子，佐藤博亮，岩本達也，吉田千紗，飯田真由，谷本眞澄，池田富貴，金澤昭雄，綿田裕孝
SGLT2 阻害薬のインスリン分泌能，抵抗性に及ぼす異郷についての検討
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都, 2018 年 5 月 24 日-26 日

83. 中川祐子，原朱美，中尾啓子，田蒔基行，松久宗英，水上浩哉，綿田裕孝，藤谷与士夫
PP 特異的抗 PP モノクローナル抗体の作製
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都, 2018 年 5 月 24 日-26 日

84. 田村好史
栄養素・身体活動とインスリン抵抗性
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都, 2018 年 5 月 24 日-26 日 シンポジウム

85. 内潟安子，朝長修，藤井仁美，大橋博，岡部正，浅野道子, Thoren, F, 金孝成, Langkild A. M, 矢島利高，綿田裕孝，荒木栄一
日本人 1 型糖尿病患者におけるダパグリフロジン 52 週間長期投与の安全性および有効性
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都, 2018 年 5 月 24 日-26 日

86. 飯田真由，金澤昭雄，池田富貴，加賀英義，高柳尚子，清水友章，大村千恵，綿田裕孝
Average Daily Risk Range (ADRR)は 1 型糖尿病の夜間血糖変動の推測に有用である 第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都, 2018 年 5 月 24 日-26 日

87. 氷室美和，宮塚健，鈴木路可，三浦正樹，片平雄大，高橋雅也，西田友哉，大島茂，岡本隆一，綿田裕孝
新規レポーターマウスを用いた膵 α 細胞分化の系統的解析
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都, 2018 年 5 月 24 日-26 日

88. 福中彩子，深田俊幸，梶村真吾，綿田裕孝，藤谷与士夫
亜鉛トランスポーターZIP13 の制御に基づくベージュ化決定機構の解明
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都, 2018 年 5 月 24 日-26 日

89. 福中彩子，深田俊幸，綿田裕孝，藤谷与士夫
亜鉛トランスポーターの制御による肥満糖尿病治療法開発に向けての分子基盤の解明
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都, 2018 年 5 月 24 日-26 日

90. 片上直人，三田智也，五所正彦，高原充佳，入江陽子，安田哲行，松岡孝昭，遅野井健，綿田裕孝，下村伊一郎

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

頚動脈エコー検査による脳心血管疾患ハイリスク群のスクリーニング
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都, 2018 年 5 月 24 日-26 日

91. 門脇聡，田村好史，染谷由希，竹野景海，船山崇，古川康彦，筧佐織，加賀英義，鈴木瑠璃子，杉本大介，河盛隆造，綿田裕孝
非肥満日本人男性における内臓脂肪型肥満，脂肪肝とインスリン抵抗性の関連
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都, 2018 年 5 月 24 日-26 日

92. 鈴木瑠璃子，田村好史，染谷由希，加賀英義，竹野景海，杉本大介，門脇聡，船山崇，古川康彦，筧佐織，河盛隆造，綿田裕孝
痩せた閉経後女性に IGT の病態解析
第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都, 2018 年 5 月 24 日-26 日

93. 加賀英義，田村好史，竹野景海，鈴木瑠璃子，門脇聡，杉本大介，染谷由希，河盛隆造，綿田裕孝
健常者における feedback inhibition of insulin secretion の臨床的・生理的意義
第 68 回日本体質医学会総会，山口県, 2018 年9月1日-2日

94. 後藤広昌，竹内靖博，綿田裕孝
治療中断を繰り返した非古典型 21-hydroxylase deficiency(21OHD)の 1 例
第 91 回日本内分泌学会学術総会，宮崎県, 2018 年 4 月 26 日-28 日

95. 常見亜佐子，内田豊義，黒田恵司，池本裕子，山下聡子，落合阿沙子，後藤広昌，綿田裕孝
タイミング法、人工受精を施行した不妊女性の甲状腺機能・自己抗体・補充療法別の不妊治療成績と産科的予後に関する検討
第 91 回日本内分泌学会学術総会，宮崎県, 2018 年 4 月 26 日-28 日

96. 西尾理恵，内田豊義，大峡慎一，藤巻充寿，福村由紀，小宮幸次，鈴木瑠璃子，本田彬，後藤広昌，綿田裕孝
当院における甲状腺原発悪性リンパ腫の診断アルゴリズムの使用経験
第 91 回日本内分泌学会学術総会，宮崎県, 2018 年 4 月 26 日-28 日

97. 田村好史
日本人における糖・脂質代謝異常のメカニズムに関する研究
第 91 回日本内分泌学会学術総会，宮崎県, 2018 年 4 月 26 日-28 日

98. 内田豊義，増山敦，登坂祐佳，鈴木瑠璃子，鈴木路可，氷室美和，常見亜佐子，西尾理恵，小澁真実，佐藤淳子，後藤広昌，綿田裕孝
Share wave elastography を用いた甲状腺実質の硬化度測定
第 91 回日本内分泌学会学術総会，宮崎県, 2018 年 4 月 26 日-28 日

99. 尾崎敦子，三浦正樹，岩本達也，篠原舞，後藤広昌，綿田裕孝
血中 Ca 及び PTH 値の周期性変動を認めた原発性副甲状腺機能亢進症の 1 例

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 91 回日本内分泌学会学術総会，宮崎県, 2018 年 4 月 26 日-28 日

100. 綿田裕孝
膵島細胞におけるオートファジーによるタンパク分解機構
第 91 回日本内分泌学会学術総会，宮崎県, 2018 年 4 月 26 日-28 日

101. 鈴木路可，宮塚健，氷室美和，三浦正樹，片平雄大，西尾理恵，後藤広昌，内田豊義，金澤昭雄，綿田裕孝
Everolimus によるインスリン分泌抑制機序の検討
第 91 回日本内分泌学会学術総会，宮崎県, 2018 年 4 月 26 日-28 日

102. 加賀英義，田村好史，竹野景海，綿田裕孝
健常者における feedback inhibition of insulin secretion の臨床的意義
第 115 回日本内科学会総会講演会，広島県, 2018 年 4 月 13 日-15 日

103. 伊藤直顕，田村太一，李明峰，松橋瑛子，持田曜弘，三浦正樹，後藤広昌，金澤昭雄，綿田裕孝
消化管穿孔により死亡した MEN1 型症例の検討
第 644 回関東地方会，東京都, 2018 年9月 8 日

104. 荻原健，後藤広昌，丹下祐一，石井尚登，荒川敦，綿田裕孝
クッシング病の診断および治療を契機に糖尿病が顕著に改善した 1 例
第 646 回関東地方会，東京都, 2018 年 11 月 10 日

105. Cilek ZM, Miyamae Y, Ito M, Mochizuki S, de Vega S, Shiozawa J, Ishijima M, Okada Y. Expression and regulation of ADAMTS4 (a disintegrin and metalloproteinase with thrombospondin motif 4) in synovial fibroblasts from osteoarthritic patients.
第 23 回日本病態プロテアーゼ学会学術集会，甲府, 2018 年 8 月 3 日-4 日

106. 金子晴香，石島旨章，青木孝子，劉立足，羽田晋之介，有田均，根岸義文，百枝雅裕，田村好史，綿田孝裕，岡田保典，金子和夫
初期変形性膝関節症の骨棘幅には性差がある –スポートロジーコアースタディー
第 91 回日本整形外科学会学術総会，神戸, 2018 年 5 月 24 日

107. 根岸義文，石島旨章，青木孝子，劉立足，金子晴香，羽田晋之介，有田均，百枝雅裕，田村好史，岡田保典，金子和夫
初期変形性膝関節症の骨棘の骨成分と軟骨成分の割合 -スポートロジーコアースタディー
第 91 回日本整形外科学会学術総会，神戸, 2018 年 5 月 24 日

108. 石島旨章，青木孝子，劉立足，金子晴香，羽田晋之介，有田均，根岸義文，百枝雅裕，田村好史，綿田孝裕，岡田保典，金子和夫
高齢者の無症候性初期変形性膝関節症でも内側半月板逸脱は骨棘幅と相関する –スポートロジーコアースタディー

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 91 回日本整形外科学会学術総会，神戸, 2018 年 5 月 24 日

109. 吉村祐輔，石島旨章，石橋雅義，平澤恵理，町田修一，内藤久士，金子和夫，木南英紀
ロコモ横断研究アプリケーション「ロコモニター」を用いた日本全国の青壮年期のロコモ有病率
第 91 回日本整形外科学会学術総会，神戸, 2018 年 5 月 24 日

110. 有田均，金子晴香，石島旨章，石橋雅義，羽田晋之介，塩澤淳，劉立足，根岸義文，百枝雅裕，池田浩，金子和夫
初期内側型変形性膝関節症における内側半月板逸脱と歩行動態並びに臨床症状の関連第 91 回日本整形外科学会学術総会，神戸, 2018 年 5 月 26 日

111. 清村幸雄，黒澤尚，土屋勝，金子晴香，岩瀬嘉志，金子和夫，石島旨章
変形性膝関節症患者の血清ヒアルロン酸濃度は日常生活障害程度と関連す
第 91 回日本整形外科学会学術総会，神戸, 2018 年 5 月 27 日

112. 塩澤淳，石島旨章，永山正隆，金子晴香，宮崎哲朗，清水めぐみ，劉立足，高澤祐治，池田浩，代田浩之，金子和夫
イコサペント酸エチル(EPA)投与による変形性膝関節症に対する人工膝関節全置換術術後静脈血栓症発生予防効果を検討した症例対照研究
第 91 回日本整形外科学会学術総会，神戸, 2018 年 5 月 27 日

113. 金子晴香，石島旨章，劉立足，有田均，羽田晋之介，長尾雅史，斎田良知，高澤祐治，池田浩，金子和夫
変形性膝関節症に対する高位脛骨骨切り術による疼痛改善と滑膜炎改善との関連を検討した縦断研究
第 10 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS)，福岡, 2018 年 6 月 14 日

114. 有田均，金子晴香，石島旨章，石橋雅義，劉立足，百枝雅裕，根岸義文，高澤祐治，池田浩，金子和夫
初期変形性膝関節症患者の階段昇降時の歩行動態と関連する形態学的変化
第 10 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS)，福岡, 2018 年 6 月 14 日

115. 根岸義文，石島旨章，金子晴香，青木孝子，劉立足，有田均，百枝雅裕，高澤祐治，池田浩，金子和夫
高齢者住民コホートにおける半月板逸脱と臨床症状の関連
第 10 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS)，福岡, 2018 年 6 月 15 日

116. 石島旨章，羽田晋之介，金子晴香，劉立足 有田均，長尾雅史，斎田良知，高澤祐治，池田浩，金子和夫
内側半月板逸脱に対する新規治療法・鏡視下骨棘切除術の開発と短期成績 –初報
第 10 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS)，福岡, 2018 年 6 月 16 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

117. 羽田晋之介, 石島旨章, 金子晴香, 有田均, 永山正隆, 齋田良知, 高澤祐治, 池田浩, 富田善雅, 岡田保典, 金子和夫
内側半月板逸脱は脛骨内側骨棘形成とともに進行する -前十字靭帯再建術例の縦断研究
第 10 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS), 福岡, 2018 年 6 月 15 日

118. 塩澤淳, 石島旨章, 金子晴香, 永山正隆, 清水めぐみ, 宮崎哲朗, 高澤祐治, 池田浩, 代田浩之, 金子和夫
人工膝関節置換術後深部静脈血栓症新規発生と血清多価不飽和脂肪酸の関連
第 10 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS), 福岡, 2018 年 6 月 14 日

119. 塩澤淳, Susana de Vega, Mechmet Z. Cilek, 中村朋美, 笠松慎也, 吉田浩之, 金子晴香, 石島旨章, 金子和夫, 岡田保典
ヒアルロン酸(HA)分解に関わる分子 HYBID(KIAA1199)の変形性膝関節症(OA)滑膜組織での発現と HA 代謝解析
第 33 回日本整形外科学会基礎学術集会, 奈良, 2018 年 10 月 11 日

120. 有田均, 金子晴香, 石島旨章, 石橋雅義, 羽田晋之介, 木下真由子, 塩澤淳, 劉立足, 根岸義文, 百枝雅裕, 長尾雅史, 齋田良知, 高澤祐治, 池田浩, 金子和夫
初期変形性膝関節症患者の臨床症状と階段1歩行周期時間との関係
第 46 回日本関節病学会, 岡山, 2018 年 11 月 10 日

121. 横田 淳一, 霜田 里絵, 本井 ゆみ子
Transitory alternating saccades を認めた進行性核上性麻痺(FTD 型)3症例
第 59 回日本神経学会総会, 札幌, 2018 年 5 月 23 日-26 日

122. 久保田学, 島田斉, 高畑圭輔, 互健二, 関千江, 佐野康徳, 山本保天, 高堂裕平, 篠遠仁, 本井ゆみ子, 鈴木寿臣, 女屋光基, 河村和紀, 張明栄, 須原哲也, 樋口真人
前頭側頭葉変性症における脳内タウ蓄積および代謝型グルタミン酸受容体5型の変化に関する PET 研究
第 48 回日本神経精神薬理学会, 札幌, 2018 年 11 月 14 日-16 日

123. 下中翔太郎, 松本信英, 本井ゆみ子, 服部信孝
Tau の C 末端領域における凝集責任配列の同定とその性質の解析
第 37 回日本認知症学会学術集会, 札幌, 2018 年 11 月 14 日-16 日

124. 林 徹生, 下中翔太郎, モンタシル・エラヒ, 本井ゆみ子, 服部信孝
タウ蛋白伝播モデルマウスにおける行動および組織学的解析
第 37 回日本認知症学会学術集会, 札幌, 2018 年 11 月 14 日-16 日

125. 島田和典
TGCV 国際レジストリー, 中性脂肪蓄積心筋血管症(TGCV)研究 10 年の歩みと展望
中性脂肪学会第 2 回学術集会, 奈良市, 2018 年 11 月 17 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

126. 古家信介，福島理文，大橋洋輝，島田和典，武田聡，松田繁，岡本健，谷諭，田中裕，池田浩
日本サッカー協会からの「スポーツ救命ライセンス講習会」「JFA+PUSH コース」の拡がり-スポーツの枠を越えて-
第 29 回日本臨床スポーツ医学学術集会，札幌, 2018 年 11 月 2 日
日本臨床スポーツ医学会誌 26 巻 4 号 Page S186

127. 中禮宏，田邊元，佐藤健吾，山内宏志，大塚一寛，加藤晴康，島田和典，立石智彦，土肥美智子，宮川俊平，森川嗣夫，池田浩，上野俊明
暑熱環境下におけるサッカー審判員の熱中症
第 29 回日本臨床スポーツ医学学術集会，札幌, 2018 年 11 月 3 日
日本臨床スポーツ医学会誌 26 巻 4 号 Page S212

128. 大塚篤也，深尾宏佑，坂本賢広，島田和典
局所的振動刺激器を用いたストレッチが女子バスケットボール選手の身体機能に及ぼす影響
第 29 回日本臨床スポーツ医学学術集会，札幌, 2018 年 11 月 3 日
日本臨床スポーツ医学会誌 26 巻 4 号 Page S213

129. 嶋田奈緒子，瀬山邦明，兼広裕美子，石渡俊次，守尾嘉晃，島田和典，岩神真一郎，高橋和久
禁煙に伴う肌の状態変化について
第 58 回日本呼吸器学会学術講演会，大阪, 2018 年 4 月 29 日
日本呼吸器学会誌 (2186-5876)7 巻増刊 Page338

130. 立石智彦，池田浩，大塚一寛，加藤晴康，島田和典，谷諭，土肥美智子，前田浩，宮川俊平
スポーツにおけるメディカルチェックの重要性と課題 サッカーにおけるメディカルチェックの重要性と課題
第 91 回日本整形外科学会学術総会，神戸, 2018 年 5 月 25 日
日本整形外科学会雑誌 92 巻 2 号 Page S464

131. 廣瀬丞，宮﨑 彩記子，松本紘毅，村田梓，谷津翔一朗，加藤隆，比企優，葛西隆敏，代田浩之
非代償性心不全入院患者のアウトカムに対する入院時栄養状態の影響に関する研究：HFpEF と HFrEF での比較
日本心臓病学会，大阪国際会議場, 2018 年 9 月 7 日

132. 野崎侑衣，吉岡直紀，藤本進一郎，隈丸加奈子，高村和久，川口裕子，加藤悦郎，青島千紘，青木茂樹，代田浩之
ディープランニングを用いた胸腹部単純 CT における大動脈径自動計測システム開発の試み
第 66 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2018 年 9 月 7 日-9 日

133. 加藤悦郎，藤本進一郎，隈丸加奈子，大塚裕次朗，川口裕子，高村和久，青島千紘，青木茂樹，代田浩之
冠動脈 CT を用いた 3 次元畳み込みニューラルネットワークの適用方法の初期検討

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 66 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2018 年 9 月 7 日-9 日

134. 横山美帆，島田和典，國本充洋，本沢晶雄，山田みき，松原友美，相川達郎，大内翔平，清水めぐみ，杉田有里那，深尾宏祐，藤原圭，嶋田晶江，山本平，天野篤，代田浩之
心臓リハビリテーション施行患者における基本チェックリストを用いたフレイル評価の性差比較
第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会，横浜, 2018 年 7 月 14 日-15 日

135. 川口裕子，藤本進一郎，加藤悦郎，隈丸加奈子，土肥智貴，青島千紘，高村和久，華藤芳輝，岡崎真也，青木茂樹，代田浩之
流体構造連成.解析を用いた CT-FFR 値と FFR, iFR の関連について
第 66 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2018 年 9 月 9 日

136. 遠藤裕久，土肥智貴，宮内克己，和田英樹，土井信一郎，内藤亮，小西宏和，坪井秀太，荻田学，岡井巌，岩田洋，葛西隆敏，岡崎真也，磯田菊生，代田浩之
第 2 世代 DES 留置前の lesion preparation の有用性の検討（AngioSculpt と NSE の比較）
CVIT 2018，神戸, 2018 年 8 月 2 日-4 日

137. 遠藤裕久，土肥智貴，宮内克己，和田英樹，土井信一郎，内藤亮，小西宏和，坪井秀太，荻田学，岡井巌，岩田洋，葛西隆敏，岡崎真也，磯田菊生，代田浩之
320 列冠動脈 CT を用いた新しいプラーク解析を NIRS と OCT で比較した検討
CVIT 2018，神戸, 2018 年 8 月 2 日-4 日

138. 遠藤裕久，土肥智貴，宮内克己，船水岳大，設楽準，和田英樹，土井信一郎，小西宏和，内藤亮，坪井秀太，荻田学，岩田洋，葛西隆敏，岡崎真也，磯田菊生，代田浩之
冠動脈疾患における糖尿病性腎臓病の長期予後に与える影響
第 66 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2018 年 9 月 7 日-9 日

139. 遠藤裕久，土肥智貴，宮内克己，船水岳大，設楽準，和田英樹，土井信一郎，小西宏和，内藤亮，坪井秀太，荻田学，岩田洋，葛西隆敏，岡崎真也，磯田菊生，代田浩之
冠動脈疾患患者における HDL-C/Apo-A1 の長期予後に与える影響
第 66 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2018 年 9 月 7 日-9 日

140. 和田英樹，土肥智貴，葛西隆敏，谷津翔一郎，内藤亮，華藤芳輝，荻田学，岡井巌，岩田洋，磯田菊生，岡崎真也，諏訪哲，宮内克己，代田浩之
睡眠呼吸障害を有する患者の冠動脈プラークの特徴
第 66 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2018 年 9 月 7 日-9 日

141. Shoichiro Yatsu, Takatoshi Kasai, Hiroki Matsumoto, Shoko Suda, Nanako Shiroshita, Mitsue Kato, Fusae Kawana, Jun Shitara, Azusa Murata, Megumi Shimizu, Takao Kato, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida
睡眠時無呼吸スクリーニングにおける Cyclic Variation of Heart Rate (CVHR) の有用性
第 43 回日本睡眠学会，札幌, 2018 年 7 月 11 日-13 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

142. Shoichiro Yatsu, Takatoshi Kasai, Hiroki Matsumoto, Shoko Suda, Nanako Shiroshita, Mitsue Kato, Fusae Kawana, Jun Shitara, Azusa Murata, Megumi Shimizu, Takao Kato, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida
睡眠呼吸障害スクリーニングとしての Cyclic Variation of Heart Rate (CVHR)の一般化
第 66 回日本心臓病学会，大阪, 2018 年 9 月 7 日-9 日

143. 谷津翔一朗，内藤亮，葛西隆敏，松本紘毅，設楽準，清水めぐみ，村田梓，加藤隆生 須田翔子，比企優，蔡栄龍，宮内克己，代田浩之
パルスオキシメーターで評価した睡眠呼吸障害と冠動脈疾患患者の長期予後との関連
第 66 回日本心臓病学会，大阪, 2018 年 9 月 7 日-9 日

144. 谷津翔一朗，葛西隆敏，松本紘毅，設楽準，清水めぐみ，村田梓，加藤隆生 須田翔子，比企優，高木篤俊，代田浩之
急性非代償性心不全で入院した患者における低アルブミン血症と予後との関連
第 66 回日本心臓病学会，大阪, 2018 年 9 月 7 日-9 日

145. 谷津翔一朗，葛西隆敏，松本紘毅，設楽準，清水めぐみ，村田梓，加藤隆生 須田翔子，比企優，代田浩之
心不全患者における 夜間の動脈スティフネスの変化
第 22 回日本心不全学会，東京, 2018 年 10 月 11 日-13 日

146. Jun Shitara, Takatoshi Kasai, Shoichiro Yatsu, Hiroki Matsumoto, Azusa Murata, Takao Kato, Masaru Hiki, Hiroyuki Daida
ADHF 患者の治療過程における CAB の経時変化とそのエコーとの相関関係
第 22 回日本心不全学会，東京, 2018 年 10 月 11 日-13 日

147. 比企 優，葛西 隆敏，松本 紘毅，須田 翔子，田淵 晴名，林 英守，関田 学，代田 浩之
ペースメーカー植込み術施行患者の主観的睡眠の質とその変化に関する検討
日本睡眠学会第 43 回定期学術集会，札幌, 2018 年 7 月 12 日

148. 石綿清樹，葛西隆敏，加藤隆生，谷津翔一朗，松本紘毅，設楽準，清水めぐみ，村田梓，須田翔子，土井信一郎，比企優，代田浩之
健診で心電図異常を指摘され，心室中部閉塞を伴う Fabry 病と診断された 1 例
第 66 回日本心臓病学会学術集会，大阪, 2018 年 9 月 9 日

149. 相川達郎，島田和典，蔡榮龍，青島千紘，川口裕子，高村和久，比企誠，横山貴之，宮崎哲朗，藤本進一郎，代田浩之
1H-MRS 法により心筋内中性脂肪含有量高値を確認した中性脂肪蓄積心筋血管症の 4 例
日本循環器学会第 250 回関東甲信越地方会，東京, 2018 年 12 月 8 日

150. 高橋哲也，杉江正光，奈良毬奈，原田和昌，藤原俊之，横山美帆，島田和典，代田浩之
教育セミナー“認知機能に対する運動療法の効果”
日本心臓リハビリテーション学会第 3 回関東甲信越支部地方会 演者:高橋哲也先生(順天堂大

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

学保健医療学部開設準備室), 東京, 2018 年 11 月 23 日

151. 山田みき, 横山美帆, 島田和典, 國本充洋, 松原友美, 杉田有里那, 本澤晶雄, 高橋哲也, 代田浩之
当院における集団心臓リハビリテーションの取り組み一今後の展望と課題一
日本心臓リハビリテーション学会第 3 回関東甲信越地方会, 東京, 2018 年 11 月 23 日

152. 相川達郎, 島田和典, 蔡榮龍, 青島千紘, 川口裕子, 高村和久, 比企誠, 横山貴之, 宮崎哲朗, 藤本進一郎, 代田浩之
1H-MRS 法により心筋内中性脂肪含有量高値を確認した中性脂肪蓄積心筋血管症の 6 例
中性脂肪学会第 2 回学術集会, 奈良市, 2018 年 11 月 17 日

153. 駒野悠太, 藤井敏雄, 小久保健, 内藤久士, 石原美彦, 深尾宏佑, 島田和典, 代田浩之
Lactococcus lactis strain Plasma（プラズマ乳酸菌）摂取が高負荷運動後の疲労指標に及ぼす影響
日本臨床スポーツ医学会誌 26 巻 4 号 Page S179, 2018 年 11 月 2 日

154. 高橋哲也, 藤原俊之, 横山美帆, 島田和典, 代田浩之
呼吸リハと心臓リハのコラボレーション(お互いの長短所から学ぶ) 心臓リハビリテーションと呼吸リハビリテーションの類似点と相違点
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 (1881-7319)28 巻 Suppl, Page97s, 2018 年 11 月 9 日

155. 國本充洋, 島田和典, 横山美帆, 本沢晶雄, 松原友美, 相川達郎, 大内翔平, 杉田有里那, 深尾宏祐, 藤原圭, 宮崎哲朗, 嶋田晶江, 山本平, 天野篤, 代田浩之
非サルコペニア男性患者における抑うつ症状の運動耐容能への影響
日本心臓病学会学術集会抄録 66 回 Page P-009, 2018 年 9 月 8 日

156. 大内翔平, 宮崎哲朗, 島田和典, 杉田有里那, 門口智泰, 清水めぐみ, 相川達郎, 塩澤知之, 高橋秀平, 代田浩之
大動脈瘤モデルマウスに対するメトトレキサートの早期治療効果の検討
日本心臓病学会学術集会抄録 66 回 Page EP-280, 2018 年 9 月 9 日

157. 横山美帆, 島田和典, 國本充洋, 本沢晶雄, 相川達郎, 大内翔平, 杉田有里那, 藤原圭, 深尾宏祐, 代田浩之
急性冠症候群における前期回復期心臓リハビリテーション後の身体活動と健康関連 QOL の検討
日本心臓病学会学術集会抄録 66 回 Page EP-176, 2018 年 9 月 8 日

158. 高橋哲也, 藤原俊之, 横山美帆, 島田和典, 代田浩之
循環器医療チームにおける質の高い医療者, 理学療法士をどのように育てるか
日本心臓病学会学術集会抄録 66 回 Page CS4-1, 2018 年 9 月 8 日

159. 杉田有里那, 宮崎哲朗, 島田和典, 清水めぐみ, 國本充洋, 大内翔平, 相川達郎, 川口裕子,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

塩澤知之, 高須清, 比企優, 高橋秀平, 横山美帆, 岩田洋, 代田浩之
急性心血管疾患患者のせん妄発症における栄養指標の重要性
日本心臓病学会学術集会抄録 66 回 Page EP-118, 2018 年 9 月 9 日

160. 清水めぐみ, 葛西隆敏, 谷津翔一朗, 村田梓, 松本紘毅, 設楽準, 加藤隆生, 須田翔子, 比企優, 島田和典, 住吉正孝, 代田浩之
冠動脈疾患患者において尿酸は早朝に高値を示し, XOR 活性や酸化ストレスマーカーは夜間の低酸素血症と関連する
日本心臓病学会学術集会抄録 66 回 Page O-037, 2018 年 9 月 7 日

161. 杉田有里那, 宮崎哲朗, 島田和典, 代田浩之
急性心血管疾患患者のせん妄発症における入院時栄養評価の有用性
New Diet Therapy (0910-7258)34 巻 2 号 Page164, 2018 年 10 月 6 日

162. 大内翔平, 宮崎哲朗, 島田和典, 杉田有里那, 門口智泰, 清水めぐみ, 相川達郎, 塩澤知之, 高橋秀平, 代田浩之
大動脈瘤発症早期におけるメトトレキサートの効果 大動脈瘤モデルマウスによる検討
日本動脈硬化学会総会プログラム抄録集 (1347-7099)50 回 Page320, 2018 年 7 月 13 日

163. 平健一郎, 上野祐司, 田中亮太, 宮元伸和, 山城一雄, 卜部貴夫, 岡野栄之, 服部信孝
Inhibition of Semaphorin 3A enhances axonal outgrowth and improves functional recovery after stroke.
第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018 年 5 月 23 日-26 日

164. 中島翔, 田中亮太, 山城一雄, 千葉麻子, 能登大介, 志村秀樹, 栗田尚英, 平健一郎, 宮元伸和, 上野祐司, 卜部貴夫, 三宅幸子, 服部信孝
脳梗塞急性期における MAIT 細胞制御と脳保護効果
第 61 回日本脳循環代謝学会学術集会, 盛岡, 2018 年 10 月 19 日-20 日

165. Irie R, Kamagata K, Hori M, Takenaka U, Tagawa K, Okazawa H, Hata J, Okano H, Kerever A, Arikawa HE, Aoki S
Abnomal detection of early Alzheimer's disease model mouse by diffusion MRI.
第 41 回日本神経科学大会, 神戸, 2018 年 7 月 26 日-29 日

166. Fujita S, Hagiwara A, Hori M, Fukunaga I, Andica C, Maekawa T, Irie R, Kamagata K, Aoki S
3D synthetic MR imaging for volumetry and cortical thickness in vivo human brain: feasibility study of repeatability and comparison with conventional metrics.
第 41 回日本神経科学大会, 神戸, 2018 年 7 月 26 日-29 日

167. Andica C, Hagiwara A, Shimoji K, Kamagata K, Saito A, Takenaka Y, Hori M, Yokoyama K, Hattori N, Aoki S
Quantitative Synthetic MRI Assessment of Gray Matter Damage in Early and Late Relapsing-Remitting Multiple Sclerosis Using Gray-Matter Based Spatial Statistics Analysis.

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

第 41 回日本神経科学大会，神戸, 2018 年 7 月 26 日-29 日

168. Wada A, Irie R, Kamagata K, Tsuruta K, Maekawa T, Fujita S, Hori M, Aoki S
ディープラーニングを使った構造的ネットワークでのアルツハイマー病，レビー小体型認知症の鑑別
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会，金沢, 2018 年 9 月 8 日

169. Kamagata K, Okuhata S, Hatano T, Ida K, Ogawa T, Takashige H, Oyama G, Shimo Y, Andica C, Hori M, Kobayashi T, Hattori N, Aoki S.
FOD clustering と NODDI profile 解析を用いたパーキンソン病における帯状束変性の評価
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会，金沢, 2018 年 9 月 8 日

170. Kamagata K, Zalesky A, Yokoyama K, Hagiwara A, Takenaka Y, Andica C, Saito A, Irie R, Hori M, Wada A, Hattori N, Aoki S
多発性硬化症における MRg-Ratio Based Connectome 解析
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会，金沢, 2018 年 9 月 8 日

171. Maekawa T, Hori M, Andica C, Hagiwara A, Horita M, Haruyama T, Fujita S, Irie R, Kamagata K, Kamiya K, Murata K, Wada A, Aoki S
脈絡叢嚢胞に対する Oscillating gradient spin echo(OGSE)法の拡散強調像の検討
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会，金沢, 2018 年 9 月 8 日

172. Hagiwara A, Otsuka Y, Hori M, Fujita S, Kamagata K, Irie R, Maekawa T, Andica C, Wada A, Horita M, Haruyama T, Abe O, Aoki S
Conditional Generative Adversarial Network（cGAN）を使用した深層学習による Synthetic FLAIR の画質向上
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会，金沢, 2018 年 9 月 8 日

173. Suzuki Y, Kamiya K, Tanaka S, Hori M, Mori H, Ino K, Sato J, Aoki S, Saito N, Shiraki T, Abe O
Magnetization Transfer 効果を用いた高分子化合物画像と拡散尖度画像を組み合わせた脳腫瘍鑑 別の改善
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会，金沢, 2018 年 9 月 8 日

174. Fujita S, Hagiwara A, Hori M, Fukunaga I, Haruyama T, Horita M, Andica C, Maekawa T, Irie R, Kamagata K, Kumamaru K, Wada A, Hamasaki N, Aoki S
3D Synthetic MRI における皮質厚および大脳皮質下構造容積測定の信頼性評価
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会，金沢, 2018 年 9 月 8 日

175. Andica C, Hori M, Maekawa T, Shirato T, Fukunaga I, Koshino S, Hagiwara A, Wada A, Kamagata K, Aoki S
Diffusion Time Dependence of Diffusion Tensor Parameters in Epidermoid Cysts.
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会，金沢, 2018 年 9 月 7 日

176. Andica C, Kamagata K, Hatano T, Saito A, Takenaka Y, Hagiwara A, Ogawa T, Oyama G, Shimo Y,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Hori M, Hattori N, Aoki S
神経認知精神障害を有するパーキンソン病患者における白質微細構造変性の評価
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018 年 9 月 7 日

177. Ikenouchi Y, Irie R, Kamagata K, Hori M, Takenaka Y, Tagawa K, Okazawa H, Hata J, Haga Y, Aurelien K, Arikawa HE, Aoki S
拡散 MRI による Alzheimer 病モデルマウスにおける Aβ 沈着関連, 海馬微細構造変化の観察
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018 年 9 月 7 日

178. Hattori A, Kamagata K, Kirino E, Takenaka Y, Kuramochi M, Andica C, Hori M, Aoki S
自閉症スペクトラム障害の Diffusional Kurtosis Imaging による予備的研究
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018 年 9 月 7 日

179. Fukunaga I, Hori M, Murata K, Maekawa T, Hamasaki N, Kamiya K, Koshino S, Tsuruta K, Murata S, Takano N, Kawasaki H, Sato S, Hoshito H, Suzuki M, Aoki S
Oscillating Gradient Spin Echo 法による拡散時間の影響:アスパラガスファントムを用いた検討
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018 年 9 月 8 日

180. Uchida W, Kamagata K, Andica C, Tomita H, Waki H, Kuramochi M, Takenaka Y, Hagiwara A, Fukuo M, Harada M, Aoki S, Naito H
Multi-shell DWI を用いた世界的な体操競技選手のコネクトーム解析の検討
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018 年 9 月 8 日

181. Tsuruta K, Hori M, Fukunaga I, Hamasaki N, Wada A, Irie R, Fujita S, Murata S, Takano N, Kawasaki H, Satou S, Hoshito H, Aoki S
Computed DWI(cDWI)は制限拡散を考慮していない:前立腺による検討
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018 年 9 月 8 日

182. Ueda R, Hori M, Shimoj I K, Aoki S, Senoo A
AMICO NODDI と Original NODDI の比較研究:multi-shell dMRI を用いた検討
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018 年 9 月 7 日

183. Shirato T, Goto M, Arunit B, Hagiwara A, Hori M, Fukunaga I, Andica C, Maekawa T, Aoki S, Gomi T
短い拡散時間により急性期脳梗塞の信号が低下した 3 例:OGSE による拡散テンソル解析
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018 年 9 月 7 日

184. Takasu K, Goto M, Murata S, Hori M, Kamagata K, Aoki S, Gomi T.
Detectability and accuracy in atlas-based volumetry using smoothed data
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018 年 9 月 7 日

185. Fujita S, Hagiwara A, Hori M, Shimoji K, Takasu K, Goto M, Andica C, Maekawa T, Irie R, Kamagata K, Wada A, Aoki S

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

3D Synthetic MRI-based Volumetry の初期検討：再現性および従来法との比較
第 2 回ヒト脳イメージング研究会，金沢, 2018 年 9 月 7 日

186. Kuramochi M, Kamagata K, Andica C, Tomita H, Waki H, Uchida W, Takenaka Y, Hagiwara A, Fukuo M, Harada M, Goto M, Aoki S, Naito H
世界トップレベルの体操競技選手の長期間のトレーニングによる脳灰白質体積：正常対照群との比較
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会，金沢, 2018 年 9 月 8 日

187. Tachibana Y, Hagiwara A, Hori M, Nakazawa M, Omatsu T, Kishimoto R, Aoki S, Higashi T, Obata T
Synthetic MRI を利用したミエリンマップ推定における畳み込みニューラルネットワークの有用性
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会，金沢, 2018 年 9 月 8 日

188. Horita M, Andica C, Hagiwara A, Hori M, Kamagata K, Irie R, Wada A, Maekawa T, Fujita S, Hamasaki N, Kumamaru K, Haruyama T, Shirakawa T, Furukawa A, Aoki S
Synthetic MRI による脳容積測定とミエリン測定の異なる面内分解能における測定値の 3T での比較
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会，金沢, 2018 年 9 月 8 日

189. Haruyama T, Fujita S, Hagiwara A, Hori M, Andica C, Kamagata K, Furukawa A, Shirakawa T, Aoki S
ISMRM/NIST ファントムを用いた 3D synthetic MRI の信頼性の評価
第 46 回日本磁気共鳴医学会大会，金沢, 2018 年 9 月 8 日

190. Hara S, Tanaka Y, Hori M, Inaji M, Maehara T, Aoki S, Ishii K, Nariai T
ベイズ推定法を用いた脳灌流 MRI による慢性期脳血管障害患者の脳血流比較
第 77 回学術総会日本脳神経外科学会，仙台, 2018 年 10 月 10 日-13 日

191. 前川朋子，堀正明，Christina Andica，萩原彰文，堀田萌子，春山拓也，越野沙織，池之内穣，入江隆介，神谷昂平，村田勝俊，和田昭彦，青木茂樹
脳腫瘍における Oscillating gradient spin ehco(OGSE)法を用いた拡散時間依存性の検討：Atypical teratoid /rhabdoid tumor での経験
第 13 回小児神経放射線研究会，京都, 2018 年 10 月 13 日

192. Kamiya K, Okada N, Sawada K, Morita K, Morita S, Kawakami S, Suzuki Y, Amemiya S, Mori H, Kunimatsu A, Kamagata K, Hori M, Aoki S, Kasai K, and Abe O
Studying disease-related brain alterations in bipolar disorder with combined analysis of DKI and VBM
第 3 回 Japanese Chapter of ISMRM，名古屋, 2018 年 12 月 22 日-23 日

193. 熊谷仁，飛奈卓郎，関根紀子，柿木亮，都築孝允，塩瀬圭佑，小林裕幸，清水明，田中宏暁，内藤久士，福典之

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

性ホルモン関連遺伝子多型と骨格筋ミオシン重鎖アイソフォームとの関連
第 73 回日本体力医学会大会，福井, 2018 年 9 月 7 日

【学会発表（国内）2019 年】

1. Yuki Kamo, Shinichiro Fujimoto, Etsuro Kato, Kanako Kumamaru, Yuko Kawaguchi, Tomotaka Dohi, Kazuhisa Takamura, Chihiro Aoshima, Makoto Hiki, Yoshiteru Kato, Iwao Okai, Shinya Okazaki, Hiroyuki Daida
   Optimal Cut Off Value of CT-Fractional Flow Reserve Based on Fluid Structure Interaction for Minimize 1-year Cardiac Events.
   第 83 回日本循環器学会学術集会，神奈川，横浜, 2019 年 3 月 29 日

2. Yuko Kawaguchi, Shinichiro Fujimoto, Kanako K Kumamaru, Yujiro Otsuka, Etsuro Kato, Chihiro Aoshima, Kazuhisa Takamura, Yuki Kamo, Makoto Hiki, Shigeki Aoki, Hiroyuki Daida
   Building-block-based Full Automated 3D Deep Learning Analysis: Prediction of Fractional Flow Reserve from Coronary CT Angiography.
   第 83 回日本循環器学会学術集会，神奈川，横浜, 2019 年 3 月 31 日

3. 栗田尚英，山城一雄，黒帰卓馬，田中亮太，上野祐司，宮元伸和，卜部貴夫，山城雄一郎，服部信孝
   腸内細菌叢の異常と脳虚血急性期における LPS を介した炎症
   第 44 回日本脳卒中学会学術集会，横浜, 2019 年 3 月 21 日

4. 眞上俊亮，宮元伸和，上野祐司，山城一雄，服部信孝，大石英則，新井一
   慢性脳虚血に対し白質保護作用を有する Brain derived neurotrophic factor と成熟アストロサイトとの関係
   第 44 回日本脳卒中学会学術集会，横浜, 2019 年 3 月 21 日

5. 栗城綾子，上野祐司，立石洋平，土井尻遼介，清水高弘，菊野宗明，島田佳明，竹川英宏，古賀政利，神谷雄己，辻野彰，平田幸一，猪原匡史，豊田一則，長谷川泰弘，服部信孝，卜部貴夫
   ESUS における心房中隔瘤の臨床的意義:CHALLENGE ESUS/CS レジストリー
   第 44 回日本脳卒中学会総会，横浜, 2019 年 3 月 21-23 日

6. 菊野宗明，上野祐司，清水高弘，栗城綾子，立石洋平，土井尻遼介，島田佳明，竹川英宏，古賀政利，神谷雄己，猪原匡史，辻野彰，平田幸一，豊田一則，長谷川泰弘，相澤仁志，服部信孝，卜部貴夫
   ESUS における脳内微小出血による病態鑑別の検討: CHALLENGE-ESUS/CS レジストリー
   第 44 回日本脳卒中学会総会，横浜, 2019 年 3 月 21-23 日

7. 西岡健弥，李元哲，田中亮太，吉野浩代，山城一雄，服部信孝
   NOTCH3 変異をもつ CADASIL 患者の臨床遺伝学的解析
   第 44 回日本脳卒中学会学術集会，横浜, 2019 年 3 月 21 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

8. 竹重遥香, 上野祐司, 山城一雄, 田中亮太, 斉木臣二, 宮元伸和, 服部信孝
脳梗塞を併発したパーキンソン病患者の臨床的特徴に関する検討
第 44 回日本脳卒中学会総会, 横浜, 2019 年 3 月 21-23 日

9. Watada, H
Proteolysis and Type 2 Diabetes Mellitus
第 33 回日本糖尿病肥満動物学会年次学術集会, 福岡県, 2019 年 3 月 15 日-16 日

10. 保田都, 若杉理美, 常見亜佐子, 土井多香乃, 後藤広昌, 金澤昭雄, 綿田裕孝
SGLT2 阻害薬投与を試みたインスリン受容体異常症 B 型の 1 例
第 56 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 神奈川県, 2019 年 1 月 26 日

11. 綿田裕孝
SGLT2 阻害薬の新知見
第 56 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 神奈川県, 2019 年 1 月 26 日

12. 原祥子, 田中洋次, 堀正明, 林志保里, 稲次基希, 前原健寿, 青木茂樹, 石井賢二, 成相直
ベイズ法を用いた脳還流 MRI によるもやもや病患者の脳血液量評価：15Ogas PET および SVD 法との比較
第 48 回日本神経放射線学会, 久留米, 2019 年 2 月 14 日-16 日

13. 前川朋子, 堀正明, 村田勝俊, アンディカ クリスティーナ, 池之内穣, 入江隆介, 萩原彰文, 鎌形康司, 和田昭彦, 青木茂樹
Subtype ごとの髄膜種における拡散テンソルを用いた拡散時間依存性の初期検討
第 48 回日本神経放射線学会, 久留米, 2019 年 2 月 14 日-16 日

14. 藤田翔平, 萩原彰文, 堀正明, Andica Christina, 福永一星, 前川朋子, 入江隆介, 鎌形康司, 鈴木通真, 和田昭彦, 青木茂樹
3D Synthetic MRI における多発性硬化症のプラーク病変の検出能に関する初期検討
第 48 回日本神経放射線学会, 久留米, 2019 年 2 月 14 日-16 日

15. 萩原彰文, 鎌形康司, 堀正明, 横山和正, アンディカクリスティナ, 竹村茉莉子, 前川朋子, 藤田翔平, 和田昭彦, 阿部修, 青木茂樹
多発性硬化症患者の Synthetic MRI と NODDI による白質障害の評価：TBSS 解析
第 48 回日本神経放射線学会, 久留米, 2019 年 2 月 14 日-16 日

16. 入江隆介, 神谷昂平, 堀正明, 鈴木通真, 鎌形康司, 福永一星, 武中祐樹, 村田勝俊, 中島円, 宮嶋雅一, 青木茂樹
Oscillating gradient spin-echo (OGSE)法を用いた正常圧水頭症患者の皮質脊髄路の評価
第 48 回日本神経放射線学会, 久留米, 2019 年 2 月 14 日-16 日

17. 和田昭彦, 齋藤勇哉, 入江隆介, 藤田翔平, 鎌形康司, 前川朋子, 佐藤香菜子, 鈴木通真, 堀正明, 青木茂樹

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

ディープラーニングによる乳幼児脳 MRI における髄鞘化程度推定の試み
第 48 回日本神経放射線学会，久留米, 2019 年 2 月 14 日-16 日

18. 鎌形康司，吉岡直紀，波田野琢，内田航，アンディカクリスティナ，大山彦光，下泰司，梅村淳，堀正明，服部信孝，青木茂樹
深層学習を用いた脳幹構造による進行性核上性麻痺とパーキンソン病の鑑別
第 48 回日本神経放射線学会，久留米, 2019 年 2 月 14 日-16 日

19. 鎌形康司，大塚裕次郎，波田野琢，倉持麻奈，アンディカクリスティナ，大山彦光，下泰司，梅村淳，堀正明，服部信孝，青木茂樹
Convolutional network による深層学習を用いた神経メラニン MRI における黒質のセ グメンテーション
第 48 回日本神経放射線学会，久留米, 2019 年 2 月 14 日-16 日

20. 白戸貴志，後藤政実，堀正明，越野沙織，前川朋子，福永一星，青木茂樹，五味勉
OGSE での拡散時間計測における流れの影響
第 42 回日本脳神経 CI 学会総会，東京, 2019 年 3 月 1 日-2 日

21. 池之内穣，前川朋子，堀正明，村田勝俊，Christina Andica，入江隆介，萩原彰文，鎌形康司，和田昭彦，青木茂樹
脳梗塞および Waller 変性に対する拡散テンソルを用いた拡散時間依存性の検討
第 42 回日本脳神経 CI 学会総会，東京, 2019 年 3 月 1 日-2 日

22. 春山拓也，藤田翔平，萩原彰文，堀正明，堀田萌子，前川朋子，鎌形康司，古川顕，白川崇子，青木茂樹
3D Synthetic MRI/MRA の初期検討
第 42 回日本脳神経 CI 学会総会，東京, 2019 年 3 月 1 日-2 日

＜研究成果の公開状況＞（上記以外）

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等
＜既に実施しているもの＞
第2回国際スポートロジー学会学術集会
日時: 2015 年 9 月 12 日（土）
会場: 順天堂大学本郷キャンパス 有山登記念館講堂
会長: 河盛隆造
ウェブサイト: http://www.international-academy-of-sportology.jp/japanease_html/general_ja.html

Lecture 1 “Does the sports gene affect lifestyle-related diseases?”
Chair: Shiro Maeda（Prof. Dept of Advanced Genomic and Laboratory Medicine, Graduate School of Medicine, University of the Ryukyus, & Visiting Prof. Sportology Center, Juntendo Univ. Graduate Sch of Medicine）
Lecturer: Noriyuki Fuku（Assoc Prof. Juntendo Univ. Graduate Sch of Health and Sports Science）
Lecture 2 “Current state and future directions of cardiac rehabilitation in Japan”
Chair: Takashi Miida（Prof. Dept of Clinical Laboratory Medicine, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine）

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

Lecturer: Hiroyuki Daida（Prof. Dept of Cardiovascular Medicine, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine）
Lecture 3“Etiology of insulin resistance in non-obese subjects.
-Juntendo Sportology Center core study- ”
Chair: Minoru Kubota（ Director, Health care center & clinic, & Prof. Sch of Sociology, Kwansei Gakuin, Univ）
Lecturer: Hirotaka Watada（Prof. Dept of Metabolism & Endocrinology, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine）
Lecture 4“Sportology to prevent locomotive syndrome ”
Chair: Hisashi Naito（Prof. Dep. of Exercise Physiology, Juntendo Univ Graduate Sch of Health and Sports Science）
Lecturer: Muneaki Ishijima （Assoc Prof. Dept of Medicine for Orthopaedics and Motor Organ, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine）
Lecture 5 Mechanical Regulation and Maintenance of Homeostasis
–Scientific Basis for the Health Promotion by Physical Motility and Exercise.
Chair: Kazuo Kaneko (Prof. Dept of Medicine for Orthopaedics and Motor Organ, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine）
Lecturer: Yasuhiro Sawada（Director, Dept of Rehabilitation for the Movement Functions, Research Institute, National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities）

Lecture 6“Development of a small-molecule AdipoR agonist AdipoRon as exercise mimetics.”
Chair: Hirotaka Watada（Prof. Dept of Metabolism & Endocrinology, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine）
Lecturer: Toshimasa Yamauchi（Assoc.Prof, Dept.of Diabetes and Metabolic Diseases, Graduate Sch of Medicine, The University of Tokyo. &Visiting Prof, Sportology Center, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine）
Lecture 7 “Autophagy in central nervous system neurons. -The LC3 conjugation system is involved in lipid droplet formation- ”
Chair: Takashi Ueno（Affiliate Prof, Research Support Center, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine）
Lecturer: Yasuo Uchiyama（Prof. Dept of Cellular and Molecular Neuropathology, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine）
Lecture 8 “Human brain mapping of autonomic functions. ”
Chair: Takeshi Iwatsubo（ Dept of Neuropathology Graduate School of Medicine University of Tokyo）
Lecturer: Seiki Konishi（ Prof. Dept of Neurophysiology, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine）
Lecture 9 “Physical exercise and dementia. ”
Chair: Chair:Takeshi Iwatsubo（Dept of Neuropathology Graduate School of Medicine University of Tokyo）
Lecturer: Yumiko Motoi（ Assoc Prof. Dept of Diagnosis, Prevention & Treatment of Dementia, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine）
Lecture 10 “MR imaging for sportology; non-invasive visualization of the brain and muscles. ”
Chair: Takeshi Iwatsubo（ Dept of Neuropathology Graduate School of Medicine University of Tokyo）
Lecturer: Shigeki Aoki（ Prof, Dept of Radiology, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine）
Special Lecture １ “.Cutting edge of brain science nasd sportology.”
Chair: Eiki Kominami、(President, Juntendo Univ）
Lecturer: Yasushi Miyashita, Prof. Juntendo Univ & The Univ of Tokyo:
Special Lecture 2 “ Advances in Pediatric Sports Medicine Practice in USA.”
Chair: Yuichiro Yamashiro（Prof. Probiotics Research Laboratory, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine）
Lecturer: Dilip R Patel（ Western Michigan University Homer Stryker MD School of Medicine）
Special Lecture 3 “ Expectation for Sportology to the success of Tokyo Olympic and Paralympics 2020”
Chair: Ryuzo Kawamori（Director & Prof. Sportology Center, Juntendo Univ Graduate Sch of Medicine）
Lecturer: Masato Mizuno（Expert member, IOC Sport and Environment Commission, Honorary member of Japanese Olympic Committee）

スポートロジー・カンファレンス
日 時: 2016 年 12 月 26 日（月） 18:30～20::00

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

場 所: 順天堂大学 D棟 8 階会議室
座長 :順天堂大学大学院 代謝内分泌内科学 准教授 田村 好史
“Therapeutic impact of the gut-brain axis.”
Dr. Tony K.T Lam
Professor & J.K.McIvor (1915-1942) Endowed Chair in Diabetes Research.

第 3 回国際スポートロジー学会学術集会
日時: 2017 年 10 月 14 日（土）
会場: 順天堂大学本郷キャンパス
会長: 代田 浩之
ウェブサイト:http://www.c-linkage.co.jp/3ias/index.html

Special Lectutre 1 “Sports Medical Science & Legacy in Para-Sports”
Chair: KANEKO Kazuo (Chair and Professor, Department of Orthopedics and Motor Organ, Juntendo University Graduate School of Medicine)
Lecturer: SUYAMA Tetsuo (Japan Wellfare Education College)
Special Lectutre 2 “The way to Rio”
Chair: SAWAE Yukinori (Associate Prof., Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba)
Lecturer: MURAKAMI Mitsuteru (Japan Boccia Assocciation)
Special Lectutre 3 “Para-Sports in Japan”
Chair: WATADA Hirotaka (Chair and Professor, Department of Metabolism and Endocrinology, Juntendo University Graduate School of Medicine)
Lecturer: TANAKA Toshiaki (Japan Sports Agency, Office to Para-Sports, Sports for Health Division)
Special Lectutre 4 (Young Investigator Lecture)
“Thermoregulatory issues for Paralympic athlete”
Chair: MAKITA Shigeru (Professor, Saitama Medical University)
Lecturer: GRIGGS Katy (Oxford Brookes University)
Special Lectutre 5 “The Development of Paralympic Sports in China” Chair: NAITO Hisashi (Dean, Professor, Juntendo University Graduate School of Health and Sports Science)
Lecturer: LU Yan (Research Center of Physical Education for Persons with Disabilities, Beijing Sport University)
Presidential Address
Chair: KAWAMORI Ryuzo (Director, Sportology Center, Juntendo University Graduate School of Medicine)
Lecturer: DAIDA Hiroyuki (Dean, Graduate School of Medicine
Dean, Faculty of Medicine, Chair and Professor, Department of Cardiovascular Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine)
＜スポートロジーセンター ウェブサイト＞
http://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/labo/sportology/

14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。 また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには＊を付してください。

【主要メディアでの放送】
1. 河盛隆造「今からできる血糖値を下げるルール」2014.3.3-8 AM5:20-AM5:25

2. 河盛隆造「長野祐也の医療界キーパーソンに聞く」ラジオ日本, 2014.5.5&5.12

3. 西村理明, 田村好史, 伊藤裕, 河盛隆造「血糖値スパイク”が危ない～糖尿病・心筋梗塞の新対策～」NHK スペシャル, NHK, 2016.10.8

4. 西村理明, 田村好史, 伊藤裕, 河盛隆造「血糖値スパイク”が危ない～糖尿病・心筋梗塞の新対策～」NHK, 2016; 2016.10.8

5. 代田浩之. テレビ東京 話題の医学（動脈硬化の薬物治療）2016 年 8 月 7 日

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

6. 代田浩之. ラジオ NIKKEI 第 1 循環器の立場からみた心腎連関 2016 年 8 月 22 日

7. 代田浩之. 読売新聞社 未来貢献プロジェクト スポーツ健康科学と医学・医療 ～スポートロジーを考える～ 2016 年 11 月 22 日

8. 島田和典. TBS ラジオ「明日も元気」脂質異常症 2016 年 7 月 4 日～7 月 8 日

9. 島田和典. NHK 出版 今日の健康 禁煙外来 2016 年 5 月

10. 島田和典. 放送大学 健康長寿のためのスポートロジー 運動と心血管疾患(1) 運動と心血管疾患(1) 2015 年度 2016 年度

11. 舩山学、服部信孝. プレスリリース、遺伝性パーキンソン病の原因遺伝子を新たに発見～ミトコンドリア発の新しいパーキンソン病発症メカニズムを提唱～、文部科学省、2015 年 1 月 28 日、東京

12. 今居譲、服部信孝. プレスリリース、晩発性パーキンソン病で神経変性がゆっくり進行するメカニズムを解明、～細胞内輸送における LRRK2 の役割～、順天堂大学、2015 年 9 月 11 日、東京

13. 服部信孝、岡野栄之、赤松和土. プレスリリース、NHK テレビニュース、順天堂大パーキンソン病治療で iPS 細胞バンク設立へ、午前 4 時 29 分、2016 年 2 月 19 日、NHK ニュース

14. 桜井隆、 服部信孝
「疾病の回復を促進する薬」末梢神経に作用する薬、中枢神経系に作用する薬(1),(2),
放送大学、 2017 年 4 月～5 月（再放送 7 月～8 月）

15. 服部信孝. オンラインニュース掲載、順天堂大 パーキンソン病治療で iPS 細胞バンク設立へ、NHK, 日経等、平成 28 年 2 月 19 日

16. 田村好史 あなたの知らない コワ～い“脂肪”__NHK あさイチ, 2018.5.7

17. 田村好史 高血圧・糖尿病のリスクを高める「脂肪筋」TBS ラジオ『教えてドクター！病気が逃げてく健康習慣』, 2018.1.24

18. 田村好史 新事実！痩せて筋肉のない女性は糖尿病の危険大！ _TBS ラジオ, 2018.11.21

19. 田村好史 楽しみながら続けよう！スポーツを通じた健康づくり_BS-TBS, 2018.9.30

20. 島田和典 運動と心血管疾患(1), 健康長寿のためのスポートロジー 平成 30 年度 放送大学

21. 島田和典 運動と心血管疾患(2), 健康長寿のためのスポートロジー 平成 30 年度 放送大学

22. 服部信孝 テレビ出演・講師, きょうの健康, サインを見逃すな！脳・神経の病気「パーキンソン病」, 2018 年 8 月 24 日（先行放送）10：40-10：55, 8 月 25 日（再放送）4：15-4：30, 27 日 20：30-20：45, 9 月 3 日（再放送）13：35-13：50, NHK 「きょうの健康」サインを見逃すな！脳・神経の病気 4 回シリーズの 1 回目

【新聞掲載】
23. 綿田裕孝「名医の診察室」2014 年 8 月 14 日号:17, 東京スポーツ新聞, 東京スポーツ新聞社, 2014.8.14

24. 綿田裕孝「【解説】若年肥満の糖尿病患者に適している可能性がある」MMJ, 2014; 10(3): 143,

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

2014.08.15, 毎日新聞社

25. 綿田裕孝「【解説】注目の SGLT2 阻害薬に関し現在示しうる最大限の情報」MMJ, 2014; 10(4): 191, 2014.10.15, 毎日新聞社

26. *田村好史「やせメタボ 筋肉に特徴」夕刊 読売新聞, 読売新聞社, 2016; 14, 2016.8.3

27. *田村好史「太っていなくても生活習慣病になる」科学新聞, 科学新聞社, 2016; 3595):4, 2016.8.12

28. *田村好史「(1 分で知る)運動 4: 効率的に糖を筋肉に」朝日新聞, 朝日新聞社, 2016; 2016 年 9 月 7 日号):33, 2016.9.7

29. *田村好史「隠れメタボ、インスリン効きカギ」朝日新聞, 朝日新聞社, 2016; 2016 年 9 月 16 日号(2016.9.16

30. *田村好史「隠れメタボ、糖の取り込み弱い」朝日新聞, 朝日新聞社, 2016; 2016 年 9 月 17 日号(2016.9.17

31. *田村好史「「隠れメタボ」、筋肉に血糖取り込む力が低かった」朝日新聞, 朝日新聞社, 2016; 2016 年 9 月 16 日号(2016.9.16

32. *田村好史「意外に多い「やせメタボ」」日本経済新聞, 2016; 7, 2016.10.13

33. *田村好史「糖尿病を防ぐ運動などを学ぶ」中日新聞, 中日新聞東海本社, 2016; 2016 年 11 月 13 日号(2016.11.13

34. *田村好史「隠れメタボ 原因は筋肉」山形新聞, 山形新聞社, 2016; 47143):19, 2016.10.5

35. *田村好史「筋肉に脂肪「隠れメタボ」に」信濃毎日新聞, 信濃毎日新聞社, 2016; 2016 年 10 月 31 日号):9, 2016.10.31

36. *田村好史「隠れメタボ 原因は筋肉」四国新聞, 四国新聞社, 2016; 2016 年 10 月 7 日号):15, 2016.10.7

37. *田村好史「「隠れメタボ」原因は筋肉」沖縄タイムス, 沖縄タイムス社, 2016; 2016 年 10 月 2 日号):19, 2016.10.2

38. *田村好史「隠れメタボ 筋肉の質低下原因」静岡新聞, 静岡新聞社, 2016; 2016 年 10 月 3 日号):23, 2016.10.3

39. *田村好史「隠れメタボ 筋肉に脂肪」河北新報, 河北新報社, 2016; 2016 年 9 月 24 日号):11, 2016.9.24

40. *田村好史「脂肪、筋肉に蓄積 隠れメタボ」岐阜新聞, 岐阜新聞社, 2016; 2016 年 10 月 6 日号):3, 2016.10.6

41. *田村好史「隠れメタボの原因は筋肉」中部経済新聞, 中部経済新聞社, 2016; 2016 年 10 月 25 日号):13, 2016.10.25

42. *田村好史「隠れメタボ 原因は筋肉」山陰中央新報, 山陰中央新報, 2016; 2016 年 9 月 27 日号):8, 2016.9.27

43. *田村好史「隠れメタボ 原因は筋肉」埼玉新聞, 埼玉新聞社, 2016; 2016 年 12 月 7 日号):19, 2016.12.7

44. *田村好史「隠れメタボ 原因は筋肉」大分合同新聞, 大分合同新聞社, 2016; 2016 年 10 月 10 日号):5, 2016.10.10

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

45. *田村好史「隠れメタボ　筋肉に脂肪」中国新聞, 中国新聞社, 2016; 2016 年 9 月 18 日号):11, 2016.9.18

46. 服部信孝. 新聞掲載、「パーキンソン病　水素水で抑制、活性酸素減らし細胞守る、順天堂大、人でも効果」日経産業新聞、 2015 年 1 月 16 日

47. 服部信孝. 新聞掲載、「遺伝性パーキンソン病、順大、原因遺伝子を発見」、日経産業新聞、2015 年 7 月 4 日

48. 服部信孝. 新聞掲載、認知症心臓の画像検査に注目、2 割占める「レビー小体型」、医療、生活、朝日新聞　2016 年 3 月 22 日朝刊　p35

49. 服部信孝. 新聞掲載、「認知機能　アロマで刺激、脳の病気リスクを減らす試み、匂いの信号は直接脳へ　多彩な香り・いつも身近に」日本経済新聞（夕刊）pp9. 「くらし」面、2016 年 6 月 30 日（木曜日） 夕刊

50. 服部信孝. 新聞掲載、「パーキンソン病の手術療法「前編」、薬物療法の限界で脳深部刺激療法に注目」、東京スポーツ、p17、2016 年 10 月 18 日

51. 服部信孝. 新聞掲載、パーキンソン病の手術療法「前編」、薬物療法の限界で脳深部刺激療法に注目、東京スポーツ、p17、2016 年 10 月 18 日

52. 服部信孝. 新聞掲載、パーキンソン病の手術療法「後編」、状態が大きく改善する脳深部刺激療法　適応する人は…、東京スポーツ、p17、2016 年 10 月 25 日

53. 服部信孝. 新聞掲載、パーキンソン病治療薬「デュオドーパ」、DBS よりも広く適応できウェアリングオフを減少、-治療薬最前線-、p8、The Doctor　秋季特集、2016 年 10 月 31 日

54. 服部信孝. 新聞掲載、パーキンソン病治療薬「デュオドーパ」、DBS よりも広く適応できウェアリングオフを減少、薬事ニュース、p4、2016 年 12 月 9 日

55. 順天堂大学. 臨床研究スマホが変える　日本経済新聞 2016 年 7 月 24 日朝刊

56. 田村好史. 新聞掲載、観戦スポーツもよし
朝日新聞、朝日新聞社、 2017 年 10 月 7 日

57. 田村好史. 新聞掲載、血糖値を下げる正しい運動法　今田俊　おいしい暮らしの相談室　糖尿病＆高血圧からだと食事の「きほん」と「コツ」
朝日新聞出版、2017 年 7 月 15 日

58. 服部信孝. 新聞掲載、iPS でパーキンソン病改善、ヒト細胞　サルの脳に移植
朝日新聞　東京版（日刊）1 面、2017 年 8 月 31 日

59. 服部信孝. 新聞掲載、パーキンソン病診断　血液中に役立つ物質
日本経済新聞 科学技術 p9、 2017 年 8 月 28 日

60. 綿田裕孝. 新聞掲載、もち麦ご飯で「食べるダイエット」3
夕刊フジ　特別版、 産業経済新聞社、 2017; 18、2017 年 7 月 11 日

61. 綿田裕孝. 新聞掲載、名医 50 人
夕刊フジ　特別版、産業経済新聞社、2017; 9、 2017 年 4 月 18 日

【企業との連携実績】
62. 循環器内科学　キリン株式会社との共同研究

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

63. 脳神経内科学寄付講座・パーキンソン病病態解明研究講座：大塚製薬㈱

64. 脳神経内科学寄付講座・運動障害疾患病態研究・治療講座：日本メドトロニック（株）、日本ベーリンガーインゲルハイム（株）、ボストンサイエンティフィック脳神経内科学寄付講座ジャパン（株）、キッセイ薬品工業㈱、協和発酵キリン（株）

65. 脳神経内科学寄付講座・神経再生医療講座（平成 28 年 9 月で終了）：（株）財宝

66. 脳神経内科学寄付講座・多発性硬化症および神経難病治療・研究講座：田辺三菱製薬(株)、水素健康医学ラボ（株）、(株)アビスト、メロディアン（株）、（株）健康家族、大和（株）、バイオジェン・アイデック・ジャパン（株）、バイエル薬品（株）、日本製薬（株）、旭化成メディカル（株）、一般社団法人　日本血液製剤機構、MiZ 株式会社、小野薬品工業（株）

67. 脳神経内科学寄付講座・神経変性疾患病態治療探索講座：大日本住友製薬㈱

68. 脳神経内科学寄付講座・認知症・予防・治療学講座：日本メジフィジックス㈱、エーザイ株式会社

【学会賞受賞】

69. 第 64 回日本体質医学会総会，大阪府(日本),2014 年 9 月 6 日
河盛隆造：日本人の体質に合った 2 型糖尿病、高血圧、高脂血症治療のあり方に関する、基礎的、臨床的研究（平成 26 年度日本体質医学会賞）

70. 第 39 回日本脳神経 CI 学会総会，東京, 2016 年 1 月 29･30 日
髙野直，鈴木通真，山本宗孝，堀正明，大石英則，青木茂樹，新井一：Y stent assisted coil embolization 後のフォローアップにおける Silent MRA の有用性 (ポスター賞)

71. 第 39 回日本脳神経 CI 学会総会，東京, 2016 年 1 月 29･30 日
中澤美咲，川崎英生，佐藤秀二，濱崎望，高野直，熊谷文孝，萩原彰文，堀正明，青木茂樹，妹尾敦史：Synthetic MRI による定量値の基礎的検討と転移性脳腫瘍への応用 (ポスター賞)

72. 第 18 回日本ヒト脳機能マッピング学会，京都, 2016 年 3 月 7･8 日
鎌形康司，Aurelien Kerever，横沢俊，堀正明，鶴田航平，田川一彦，岡澤均，平澤恵理，青木茂樹：Quantitative Histological Validation of Diffusion Tensor MRI by Two-Photon Microscopy of Cleared Mouse Brain (若手奨励賞)

73. Society of Advanced Medical Imaging 2016，東京, 2016 年 7 月 30･31 日
萩原彰文，堀正明，中澤美咲，アンディカクリスティナ，吉田茉莉子，鎌形康司，鈴木通真，高野直，川崎英生，濱崎望，佐藤秀二，青木茂樹：Synthetic MRI による MS プラークの検出能の評価 (ポスター優秀賞)

74. 第 44 回日本磁気共鳴医学会大会，大宮, 2016 年 9 月 9～11 日
アンディカクリスティナ，萩原彰文，中澤美咲，服部亜紀，村田渉，高野直，堀正明，青木茂樹：The Advantages of Synthetic MRI in Pediatric Patients (大会長賞優秀賞)

75. 第 44 回日本磁気共鳴医学会大会，大宮, 2016 年 9 月 9～11 日
入江隆介，鎌形康司，Aurelien Kerever，横沢俊，大竹陽介，越智久晃，田川一彦，岡澤均，高橋康介，佐藤香菜子，堀正明，平澤恵理，青木茂樹：透明脳マウスにおける次世代拡散 MRI(DKI)と共焦点顕微鏡による神経線維密度の関係 (大会長賞優秀賞)

76. RSNA 102nd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, USA, Nov 27-Dec 2, 2016
Christina A, Hagiwara A, Hori M, Kumamaru KK, Nakazawa M, Takano N, Kamagata K, Yoshida M, Aoki S：Overview of Synthetic MRI: Basic, Clinical Applications, and Limitations (Certificate of Merit)
Hagiwara A, Hori M, Andica C, Yoshida M, Kamagata K, Suzuki M, Kumamaru KK, Nakazawa M, Aoki S: Multiple sclerosis plaques searched by synthetic MRI. (Student Travel Award)

77. 第 46 回日本神経放射線学会，東京, 2017 年 2 月 17～19 日
神谷昂平，入江隆介，堀正明，宮嶋雅一，中島円，森墾，國松聡，新井一，青木茂樹，阿部

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

修：特発性正常圧水頭症における錐体路微細構造のシャント術前後での変化 (会長賞)

78. 第 46 回神経放射線学会，東京，2017 年 2 月 18 日
Hori M, Kamiya K, Nakanishi A, Fukunaga I, Miyajima M, Nakajima M, Suzuki M, Suzuki Y, Irie R, Kamagata K, Arai H, Aoki S: Prospective estimation of mean axon diameter and extra-axonal space of the posterior limb of the internal capsule in patients with idiopathic normal pressure hydrocephalus before and after a lumboperitoneal shunt by using q-space diffusion MRI. Eur Radiol.（2016 年度加藤賞）

79. 日本神経学会,2017 年 2 月 1 日
服部信孝：パーキンソン病の発症機序の解明（楢林賞受賞）

80. 第 24 回日本健康体力栄養学会，東京, 2017 年 3 月 11 日
吉原利典，尾崎隼朗，中潟崇，棗寿喜，北田友治，石原美彦，大澤拓也，町田修一，内藤久士：ロコモティブ・シンドロームに関連する血液パラメータの探索（最優秀賞受賞）

81. 第 47 回日本神経放射線学会,2018 年 2 月 16 日-17 日
アンディカ クリスティナ，鎌形康司，波田野琢，齊藤麻美，武中祐樹，萩原彰文，堀正明，入江隆介，和田昭彦，服部信孝，青木茂樹：パーキンソン病における白質微細構造変化：拡散 MRI と Magnetization Transfer Imaging による統合的評価（学会賞受賞）

82. 第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京都(日本), 2018.5.24-26
氷室美和，宮塚健，鈴木路可，三浦正樹，片平雄大，高橋雅也，西田友哉，大島茂，岡本隆一，綿田裕孝：新規レポーターマウスを用いた膵 α 細胞分化の系統的解析（若手研究奨励賞(YIA)受賞）

83. 第 91 回日本内分泌学会学術総会，宮崎県(日本), 2018.4.26-28
田村好史：日本人における糖・脂質代謝異常のメカニズムに関する研究 (研究奨励賞受賞講演)

84. 7th International Congress on Magnetic Resonance Imaging (ICMRI 2019) and 24th Scientific Meeting of KSMRM, Seoul, Korea, 2019.3.28-30
Hagiwara A, Kamagata K, Hori M, Andica C, Kuramochi M, Takemura YM, Abe O, Aoki S: White Matter Analysis of Multiple Sclerosis with Quantitative Synthetic MRI and Neurite Orientation Dispersion and Density Imaging (Best Poster Presentation Award)

【特許】
85. 出願番号 2016-017794；パーキンソン病診断指標；服部信孝、斉木臣二、波田野琢、山城一雄、石川景一、王子 悠、森 聡生、奥住文美、2016 年 2 月 2 日出願

86. 出願番号 2013-091903；化合物又はその塩、及びパーキンソン病治療薬又は予防薬；井本正哉、井岡秀二、服部信孝、斉木臣二、吉川（笹澤）有紀子、2016 年 7 月 30 日出願

87. 出願番号 2016-210465：パーキンソン病の重症度判定方法；服部信孝、斉木臣二、波田野琢、吉川（笹澤）有紀子、青木茂樹、鎌形康司、三浦芳樹、高ひかり、加賀直子、戸田達史、佐竹渉、2016 年 10 月 27 日出願

88. 出願番号 2014-228827：パーキンソン病診断法；2014 年 11 月 11 日出願

89. 出願番号 2017-226641：オートファジー誘導剤；服部信孝，斉木臣二，平野一興，石川 景一，赤松和土，吉川（笹澤）有紀子，藤巻基紀, 2017 年 11 月 27 日出願

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

90. 出願番号 2017-226641：オートファジー誘導剤；服部信孝，斉木臣二，平野一興，石川 景一，赤松和土，吉川（笹澤）有紀子，藤巻基紀, 2017 年 11 月 27 日出願

91. 出願番号 2018-027503：疲労回復用および／または疲労蓄積予防用組成物；島田和典,深尾宏祐, 2018 年 2 月 16 日出願

92. 出願番号 2018-032671：脳梗塞に関する治療薬；上野祐司，服部信孝，平健一郎，岸野晶祥，山口亮，岡野栄之, 2018 年 2 月 27 日出願

93. 出願番号 2018-159694：a-シヌクレイノパチーの診断；服部信孝，波田野琢，奥住文美,上野真一，2018 年 8 月 28 日出願

94. 出願番号 2018-200039：パーキンソン病診断薬及びモデル動物；服部信孝，王子悠，波田野琢，2018 年 10 月 24 日出願

【登録商標】

95. 商願 2018-054766：ロコモニター； 石島旨章, 2018 年 4 月 25 日出願

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

＜「選定時」に付された留意事項＞
該当しない。

＜「選定時」に付された留意事項への対応＞
該当しない。

＜「中間評価時」に付された留意事項＞
該当しない。

＜「中間評価時」に付された留意事項への対応＞
該当しない。

（様式1）

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況（実績概要） （千円）

年度・区分		支出額	内訳						
			法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他（　　）	備考
平成26年度	施設	0	0	0	0	0	0		
	装置	75,004	37,502	37,502	0	0	0		
	設備	77,263	31,963	45,300	0	0	0		
	研究費	51,762	26,990	24,772	0	0	0		うち一般補助3,403千円
平成27年度	施設	0	0	0	0	0	0		
	装置	89,640	44,820	44,820	0	0	0		
	設備	0	0	0	0	0	0		
	研究費	69,075	37,467	31,608	0	0	0		うち一般補助8,038千円
平成28年度	施設	0	0	0	0	0	0		
	装置	0	0	0	0	0	0		
	設備	0	0	0	0	0	0		
	研究費	73,651	42,620	31,031	0	0	0		うち一般補助6,609千円
平成29年度	施設	0	0	0	0	0	0		
	装置	0	0	0	0	0	0		
	設備	0	0	0	0	0	0		
	研究費	76,295	45,539	30,756	0	0	0		うち一般補助10,738千円
平成30年度	施設	0	0	0	0	0	0		
	装置	0	0	0	0	0	0		
	設備	0	0	0	0	0	0		
	研究費	70,935	40,743	30,192	0	0	0		うち一般補助7,992千円
総額	施設	0	0	0	0	0	0		
	装置	164,644	82,322	82,322	0	0	0		
	設備	77,263	31,963	45,300	0	0	0		
	研究費	341,718	193,359	148,359	0	0	0		
総計		583,625	307,644	275,981	0	0	0	0	

17 施設・装置・設備の整備状況 （私学助成を受けたものはすべて記載してください。）

《施　設》（私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。） （千円）

施設の名称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
順天堂大学湯島別館1階	H26	140.32	6室	23名			
順天堂大学湯島別館2階	H27	175.56	6室	17名			

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

順天堂大学9号館	S44	379.69	13室	105名			
順天堂大学B棟	H25	479.85	8室	18名			
順天堂大学1号館	H4	9.8	1室	20名			

※ 私学助成による補助事業として行った新増築により、整備前と比較して増加した面積

316 ㎡

《装置・設備》（私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。） （千円）

装置・設備の名称	整備年度	型　番	台　数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
（研究装置）							
四肢用MRIシステム	H26	AIRIS Vento	1	5840 h	75,999	37,502	
ヒューマンカロリーメーターチャンバーシステム	H27	FHC-20S	1	992 h	89,640	44,820	
				h			
				h			
				h			
（研究設備）							
経頭蓋磁気刺激装置	H26	アグスキム200スクエアー	1	775 h	26,389	16,282	
リアルタイムPCRシステム	H26	QuantStudio 7	1	672 h	11,963	7,380	
二重エネルギーX線吸収測定装置	H26	DiscoveryA型X線骨密度測定装置	1	3016 h	24,840	12,957	
多用途筋機能評価運動装置	H26	BDX-4	1	3580 h	14,070	8,681	
				h			
（情報処理関係設備）							
				h			
				h			
				h			

18 研究費の支出状況 （千円）

年　度	平成　26　年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	28,218	試薬・実験資材		Anti-Semaphorin 3A・C57BL/6N（IGS）マウス　オス10W
光熱水費	0			
通信運搬費	0			
印刷製本費	191	論文掲載費		論文印刷代・別刷り印刷代
旅費交通費	397	学会出張旅費		第61回日本臨床検査医学航空代・宿泊代11/24-25
報酬・委託料	3,305	委託検査料・英文校正		メタボローム解析料金・リポタンパク質解析受託サービス
（会議会合費　）	102	学会参加費		第61回日本臨床検査医学会参加費・第33回日本認知症学会学術集会
（用品費　）	58	研究機器		MD-MINI dry bath1.5ml用Miniブロック12wellウェル底
（修繕費）	92			ギルソンピペットマン　P-20修理検定・ギルソンピペットマンP-10修理検定
計	32,363			
アルバイト関係支出				
人件費支出（兼務職員）	0			
教育研究経費支出	0			
計	0			
設備関係支出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品	13,269	オートテンズプロリハビリユニットII一式等		オートテンズプロリハビリユニットII一式等
図　書	0			
計	13,269			
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	1,099			学内1人（7月～）
ポスト・ドクター	4,818			学内2人（7月～）
研究支援推進経費	213			学内1人（7月～）
計	6,130			学内4人

年　度	平成　27　年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	主な内容
教育研究経費支出				

（様式1）

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

消耗品費	32,601	試薬・実験器具他		70mmダブルBIコイル・エッペンドルフピペット2-20ul
光熱水費	0			
通信運搬費	322	運搬・郵送（被験者へ治験資料等）		被験者資料送付・被験者返信料金
印刷製本費	0			
旅費交通費	121	研究発表・調査旅費		第56回日本神経学会交通費・宿泊費5/20-22新潟他
報酬・委託料	7,511	被験者謝礼・検体検査委託		心理学実験の被験者・BDHQ栄養調査費用
（賃貸料 ）	280	検査機器使用料		f-MRI検査機器使用料（12/18,12/19）
（会議会合費 ）	21	学会参加費		第56回日本神経学会参加費・ミッドウィンターセミナー参加費
（修繕費 ）	475	機器修理		フローサイトメーター点検・修理他・日本フリーザー社 CLN-500修理
計	41,331			
アルバイト関係支出				
人件費支出（兼務職員）	0			
教育研究経費支出	0			
計	0			
設備関係支出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品	8,246	ツアイス 顕微鏡用電動ステージセット一式等		ツアイス 顕微鏡用電動ステージセット一式等
図書	0			
計	8,246			
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	0			
ポスト・ドクター	19,498			学内6人
研究支援推進経費	0			
計	19,498			学内6人

H27年度採用のポスト・ドクターの1名を、H28年4月1日より特任助教として採用

年度	平成 28 年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	24,269	試薬・実験器具他		尿中酸化ストレスマーカー測定カード・特注飼料
光熱水費	0			
通信運搬費	6	運搬・郵送（検体郵送等）		マウス血液送付宅急便代
印刷製本費	57	論文等印刷		「Bone Joint Nerve]別刷作成代100冊・ポスター印刷代
旅費交通費	101	研究発表・調査旅費		学会発表 旅費等
報酬・委託料	30,263	被験者謝礼・検体検査委託		DNAシークエンス解析・脂質網羅解析委託
（賃貸料 ）	259	機器レンタル		MRI読影端末レンタル料2016年度分
（会議会合費 ）	28	学会参加費		学会発表 学会参加費 ほか
（修繕費）	29	実験器具修理		ギルソンピペットマンP-200修理・マルチピペット
計	55,012			
アルバイト関係支出				
人件費支出（兼務職員）	0			
教育研究経費支出	0			
計	0			
設備関係支出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品	2,000	オリンパス生物顕微鏡一式等		オリンパス生物顕微鏡一式等
図書	0			
計	2,000			
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	0			
ポスト・ドクター	16,639			学内5人
研究支援推進経費	0			
計	16,639			学内5人

年度	平成 29 年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	主な内容

（様式1）

法人番号	131025
プロジェクト番号	S1411006

教育研究経費支出				
消耗品費	23,973	試薬・実験資材		マウス・試薬、実験用資材
光熱水費	0			
通信運搬費	42	検体送付代		検体送付代
印刷製本費	397	論文掲載費		論文掲載料、論文登録料
旅費交通費	2,165	学会出張旅費		学会出張交通費、研究打ち合わせ他
報酬・委託料	22,147	委託検査料・英文校正		保守点検、委託検査・謝礼、英文校正、研究補助員派遣料
（会議会合費）	423	学会参加費		学会参加費
（用品費）	0			
（修繕費）	98	研究用備品修理		研究用備品修理
計	49,245			
アルバイト関係支出				
人件費支出（兼務職員）	0			
教育研究経費支出	0			
計	0			
設備関係支出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品	153	ETTAS低温乾燥機		ETTAS低温乾燥機
図書	0			
計	153			
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	0			
ポスト・ドクター	26,261			学内8人
研究支援推進経費	636			学内1人
計	26,897			学内9人

年度	平成 30 年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な使途	金額	主な内容
教育研究経費支出				
消耗品費	21,650	試薬・実験器具他		試薬・実験器具他
光熱水費	0			
通信運搬費	0			
印刷製本費	289	論文投稿料 他		論文投稿料 他
旅費交通費	941	研究発表・調査旅費		研究発表・調査旅費
報酬・委託料	23,778			
（賃貸料）	0	検査機器使用料		検査機器使用料
（会議会合費）	182	学会参加費		学会参加費
（用品費）	195	電気泳動装置		電気泳動装置
（修繕費）	19	機器修理		機器修理
計	47,054			
アルバイト関係支出				
人件費支出（兼務職員）	0			
教育研究経費支出	0			
計	0			
設備関係支出（1個又は1組の価格が500万円未満のもの）				
教育研究用機器備品	3,338	貯蔵ケース 他		貯蔵ケース 他
図書	0			
計	3,338			
研究スタッフ関係支出				
リサーチ・アシスタント	1,385			学内1人
ポスト・ドクター	19,158			学内6人
研究支援推進経費	0			
計	20,543			学内7人

平成２６年度選定・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「骨格筋機能に着目した統合的な介護予防法開発プロジェクト」　外部評価表

評価委員名	東京大学大学院医学系研究科 放射線医学講座 阿部　修　先生

本プロジェクトの研究目的は骨格筋機能と要介護疾患との関連性を詳細に解析することであり、そのために未病者を対象にインスリン抵抗性や筋力を精密に評価した既存のデータベースを基準とし、さらにその 3 年後に追跡調査を行い、骨格筋機能の経時的変化を評価しながら、骨格筋機能と「メタボリックシンドローム」「ロコモティブシンドローム」「脳機能障害」との関連に関して検討してきた。その結果、筋力や骨格筋インスリン抵抗性で評価される骨格筋機能低下が血管・脳・関節不全による介護リスクを高める臓器障害ネットワークの中心であるという仮説を支持する結果を多数得られ、論文として公開してきた。さらに、これらの壮年期の骨格筋機能低下が高齢者における様々な要介護リスクになりえるかは明らかではなかったため、3 年目から文京区民を対象とした高齢者コホート研究（文京ヘルススタディー）を開始し、コアスタディーと同様に、筋力・筋量・骨格筋インスリン抵抗性を評価するとともに、脳及び膝関節 MRI、認知機能などの測定を行い、パラメーター間の関連性を調査した。その結果、高齢者コホートにおいても骨格筋機能低下が要介護疾患リスクの増加と関連することが明らかにした。これらの壮年期から高齢者までを合わせた研究結果から、「骨格筋機能の低下は血管・脳・関節不全による介護リスクを高める臓器障害ネットワークの中心である」、という仮説を裏付ける多数の基礎的なエビデンスが得られており、研究当初の目標通りの成果が得られているものと評価する。

氏名　　印

平成２６年度選定・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「骨格筋機能に着目した統合的な介護予防法開発プロジェクト」　外部評価表

評価委員名	大阪大学大学院 医学系研究科　健康スポーツ科学（スポーツ医学）　教授 中田　研　先生

本事業は、「骨格筋機能低下」が「運動器機能低下」「脳機能障害」「メタボリック症候群」へとつながり、自立した生活への障害、要介護となるという仮説から、骨格筋機能低下と運動器、脳機能、メタボリック症候群との関連を広く検証したという点で、その着目は従来の介護予防の観点から独創的であり、得られた成果は今後の介護予防法開発に大きく貢献し、本プロジェクトの成果とその意義は大変大きい。

特に、当該大学の特徴的組織であるスポートロジーセンターを中心に関連の医学系研究科、スポーツ健康科学研究科等の学内と学外共同研究機関の136名の研究者でプロジェクト管理して進められた本プロジェクトは、その目的である「骨格筋機能と要介護疾患との関連性」のエビデンスが得られ、その目的を達成している。

一方で、「メタボリックシンドローム予防」「ロコモーティブシンドローム予防」「脳機能障害予防」の各プロジェクトで得られた成果がどう連携して最終ゴールの「統合的な介護予防法開発」に至るかの具体的な方策は明らかなでない点があり、残された課題である。また、コアスタディーと、高齢者コホート（文京ヘルススタディー）が策定され今後、発展的成果があり得るが、今後のコホート研究の維持運営について具体的方策が不明で懸念される。

総合して、本事業の当初の目標は達成されており、その事業としての運営管理、成果は十分得られたと考える。

氏名　中田　研　

平成２６年度選定・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「骨格筋機能に着目した統合的な介護予防法開発プロジェクト」　外部評価表

評価委員名	首都大学東京　人間健康科学研究科　ヘルスプロモーションサイエンス学域 藤井　宣晴　先生

当該研究プロジェクトは、骨格筋機能を健全に維持することが、種々の疾患を原因とした要介護者を減少させる統合的な介護予防法となるとの仮説を有し、それを検証した。その結果、筋力および筋インスリン抵抗性で評価される骨格筋機能の低下が、血管・脳・関節不全による介護リスクを高めることを明らかにした。研究は、多くの研究者と研究グループが機能的に連関して進められ、研究期間内に目標とする研究成果を挙げることに成功している。それらの成果の確かさは、多くの論文発表、学会発表、国際シンポジウム開催、等によっても裏付けられる。戦略的研究基盤形成支援事業として成功を収めたと評価される。

骨格筋は身体を動かすための臓器、というのがこれまでの認識であった。しかし最近になって、骨格筋を健全に保つと多くの疾病に対する抵抗性が得られるかもしれないという傍証が集まり出していた。当該プロジェクトの結果は、それに科学的根拠を与えるとともに、介護予防法の具体的方策の提示にまで至っている。未病者を対象に「メタボリックシンドローム予防」「ロコモティヴシンドローム予防」「脳機能障害予防」の効果を突き止めたのに加えて、有病者を対象に血管・脳・関節不全の予防効果にまで言及できたのは著しい進捗である。課題となった点（縦断的・介入研究の必要性、高齢者のコホート研究）の分析と、それを受けての今後の展望も具体的になされており、支援事業は終了するも、さらに発展する研究プロジェクトであると高く評価できる。

氏名　藤井宣晴　印